

一般国道8号 津幡北バイパスに係る埋蔵文化財発掘調査報告書4

津幡町

加茂遺跡Ⅳ

2022

石川県教育委員会
(公財)石川県埋蔵文化財センター

か も
加 茂 遺 跡 IV

2 0 2 2

石 川 県 教 育 委 員 会
(公財)石川県埋蔵文化財センター



加茂谷を望む（西から）



A区第5面 平地建物 S1501 完掘状況（南西から）



F区出土 須恵器四耳壺



A区第1面 (7A1SK07) 出土 漆紙文書

例 言

- 1 本書は加茂遺跡第7次調査に係る発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は河北郡津幡町舟橋、加茂地内である。
- 3 調査原因は一般国道8号津幡北バイパスであり、同工事を所管する国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所(旧建設省金沢工事事務所)が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 現地調査は、石川県教育委員会からの委託を受けて、平成13(2001)年度に財団法人石川県埋蔵文化財センターが実施した。また、平成14(2002)年度に出土遺物の洗浄、同17(2005)年度に出土品整理、平成17(2005)年度に出土木製品の樹種同定、令和元～3(2019～21)年度に報告書作成、令和3年度に報告書刊行を、それぞれ石川県教育委員会から公益財団法人石川県埋蔵文化財センター(平成24年度まで財団法人石川県埋蔵文化財センター)が委託を受けて実施した。
- 5 調査に係る費用は、国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所が負担した。
- 6 現地調査の期間・面積・担当課・担当者は次のとおりである。

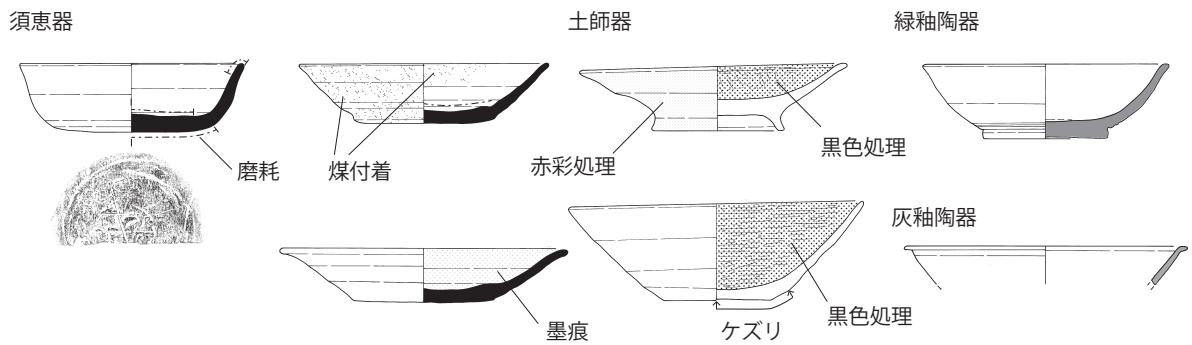
| | | | |
|-----|---|-----|--------|
| 期 間 | 平成13年5月15日～平成14年1月24日 | 面 積 | 8,000㎡ |
| 担 当 | 調査部調査第1課 | | |
| 担当者 | 本田秀生(調査専門員)、座主哲二(課主査)、林 大智(主事)、湯川善一(嘱託)、岡田有紀子(嘱託) | | |
- 7 出土品整理は、平成14・17年度に実施し、企画部整理課が担当した。
- 8 自然科学的分析として、平成17年度に株式会社パレオ・ラボ(株)に木製品の樹種同定を委託して実施した。本書では、成果の一部を遺物観察表に引用するにとどめ、分析結果は第6次調査報告書(『津幡町加茂遺跡Ⅲ』2021)でまとめて記している。
- 9 報告書の作成は令和元～3年度に、刊行は令和3年度に実施し、調査部国関係調査グループが担当した。執筆分担は次のとおりで、遺物の写真撮影は池田拓が行った。

| | |
|---------|-----------------------|
| 第1・5・7章 | 山内花緒(調査部特定事業調査グループ主事) |
| 第2・6章 | 和田龍介(調査部県関係調査グループ主幹) |
| 第3・4章 | 川畑 誠(調査部長) |
- 10 調査には下記の機関、個人の協力を得た(五十音順、敬称略)。

国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所、パレオ・ラボ(株)、平川 南、本田秀生、湯川善一
- 11 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 12 本書についての凡例は下記および次頁のとおりである。
 - (1) 遺構実測図等の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標Ⅶ系に準拠した。
 - (2) 水平水準は T.P(東京湾平均海面)の標高による。
 - (3) 遺構の名称は第3章第1節の略記号で表記、遺物番号は挿図、観察表、写真で対応する。
 - (4) 写真図版の遺構、遺物は、任意の縮尺である。

【挿図等凡例】

- 1 遺構図版は縮尺1/60、1/100を基本とし、規模や図版の性格により縮尺1/30、1/40等を適宜用いた。
- 2 土器等遺物図版は縮尺1/4を基本とし、縮尺が異なる個体は都度縮尺を付した。断面の塗りわけ・トーン等による表現は、須恵器が断面黒塗り、その他は白抜きとし、トーン等の表現は次のとおりである。



- 3 木製品実測図の木取り等を示すために木目を描き込んでいるが、木目の間隔は目の詰まり具合を表現する程度で、実際の木目間隔を記したものではない。
- 4 遺物観察表のうち、須恵器、土師器の胎土については、次の表のとおり分類を行った。

須恵器

| 胎土分類 | 特徴 | 推定産地 |
|------|---|---------------------------------|
| A類 | 素地に0.5mm以下の角～亜角の砂粒を並～多含む。砂粒の混和はない。 堅く焼き締まるものは一般に器表面に砂粒が現れ、ザラついた印象を与える。 砂粒の粒径・組成・黒色粒の吹き出し具合にバラエティーがあり、確実に細別が可能である。 | 南加賀窯跡群 (小松市) 能美窯跡群(北群) (能美市) |
| B類 | 素地は密で、しっとりとした質感がある。胎土に含まれる0.5mm未満の砂粒の量は非常に少ない。断面綿状になるものが多い。 | A類産地ないし能美窯跡群 |
| C類 | 素地は非常に緻密で、スリガラス状の質感がある。 濃い青灰色を呈する精良品。 | 金沢未窯跡群 (金沢市) |
| D類 | 素地は密で、0.5～2.0mmの角～亜角の石英・長石を含むことが多い。 まれに海綿骨針を含むことがある。 0.5～2.0mmの砂粒を多く含むものもある。 | 高松・押水窯跡群 (かほく市・宝達志水町) |
| E類 | 素地はシルト質な質感。 胎土に海綿骨針を含むものが多い。 | 羽咋窯跡群 (羽咋市) |
| F類 | 素地は密で、0.5～2.0mmの角～亜角の石英・長石を多く含むことが多い。 まれに海綿骨針を含むことがある。 石英・長石は丸くなっていることが多い。 | 鳥屋窯跡群 (中能登町) |
| G類 | | 非在地産 |
| H類 | 素地は緻密、0.5～2.0mmの石英・長石を非常に多く含む。 | |
| I類 | 素地は極めて硬質な質感。 胎土中の砂粒は極めて少ない。細かい花崗岩・赤色鉱物粒も混ざる。 | 観法寺窯跡群か |
| x類 | 不明 | 不明 |

土師器

| 海綿骨針 | 種別 | 特徴 |
|------|-----|---------------------------|
| あり | a-1 | 砂粒をほとんど含まない。 |
| | a-2 | 砂粒をほとんど含まない。 赤色酸化粒を含む。 |
| | a-3 | 石英・長石の砂粒含む。 |
| | a-4 | 石英・長石の砂粒含む。 赤色酸化粒を含む。 |
| | a-5 | 石英・長石以外の大粒の砂粒を含む。 |
| なし | b-1 | 砂粒をほとんど含まない。 |
| | b-2 | 砂粒をほとんど含まない。 赤色酸化粒を含む。 |
| | b-3 | 石英・長石の砂粒含む。 |
| | b-4 | 石英・長石の砂粒含む。 赤色酸化粒を含む。 |
| | b-5 | 石英・長石以外の大粒の砂粒を含む。 |

砂粒の大きさ

| L | 2.0mm～ |
|---|-----------|
| M | 0.5～2.0mm |
| S | ～0.5mm |

目 次

| | | |
|-----|--------------|-----|
| 第1章 | 調査の経緯と経過 | 1 |
| 第1節 | 調査の経緯 | 1 |
| 第2節 | 発掘作業の経過 | 2 |
| 第3節 | 整理等作業の経過 | 4 |
| 第2章 | 遺跡の位置と環境 | 6 |
| 第1節 | 地理的環境 | 6 |
| 第2節 | 歴史的環境 | 7 |
| 第3章 | 調査の方法と基本層序 | 11 |
| 第1節 | 調査の方法 | 11 |
| 第2節 | 基本層序 | 13 |
| 第4章 | A区の遺構と遺物 | 17 |
| 第1節 | 調査の概要 | 17 |
| 第2節 | 第1面の遺構と遺物 | 18 |
| 第3節 | 第2面の遺構と遺物 | 52 |
| 第4節 | 第3面の遺構と遺物 | 110 |
| 第5節 | 第4面の遺構と遺物 | 145 |
| 第6節 | 第5面の遺構と遺物 | 153 |
| 第5章 | C・D・K区の遺構と遺物 | 182 |
| 第1節 | 調査の概要 | 182 |
| 第2節 | 建物・柱穴列 | 182 |
| 第3節 | 土坑、ピット | 207 |
| 第4節 | 溝 | 213 |
| 第5節 | その他 | 215 |
| 第6章 | F区の遺構と遺物 | 230 |
| 第1節 | 調査の概要 | 230 |
| 第2節 | 遺構と遺物 | 230 |
| 第7章 | 総括 | 260 |

報告書抄録

写真図版

巻頭図版目次

巻頭図版1 上 加茂谷を望む(西から)
下 A区第5面 平地建物SI501完掘状
況(南西から)

巻頭図版2 上 F区出土 須恵器四耳壺
下 A区第1面(7A1SK07) 出土漆紙文書

挿 図 目 次

| | | | | | |
|------|--|----|------|--|----|
| 第1図 | 遺跡の範囲と第7次調査区の位置 (S = 1/4,000) …………… | 2 | 第25図 | A区第1面出土遺物実測図3(S = 1/4)…… | 41 |
| 第2図 | 遺跡の範囲と地区割り(S = 1/3,000) …… | 3 | 第26図 | A区第1面出土遺物実測図4 (S = 1/2・1/4) …………… | 42 |
| 第3図 | 遺跡の位置…………… | 6 | 第27図 | A区第1面出土遺物実測図5(S = 1/4)…… | 43 |
| 第4図 | 加茂遺跡と周辺の遺跡(S = 1/25,000) …… | 9 | 第28図 | A区第1面出土遺物実測図6(S = 1/4)…… | 44 |
| 第5図 | 加茂遺跡グリッド配置及び調査区区割り図 (S = 1/2,000)…………… | 12 | 第29図 | A区第2面主要遺構配置図(S = 1/300) …… | 53 |
| 第6図 | A・C・D・K区の土層層序1 (S = 1/1,000、1/60)…………… | 15 | 第30図 | A区第2面遺構平面図1(S = 1/100)…… | 54 |
| 第7図 | A・C・D・K区の土層層序2(S = 1/60) …… | 16 | 第31図 | A区第2面遺構平面図2(S = 1/100)…… | 55 |
| 第8図 | A区第1面主要遺構配置図(S = 1/300) …… | 19 | 第32図 | A区第2面遺構平面図3(S = 1/100)…… | 56 |
| 第9図 | A区第1面遺構平面図1、グリッド配置図 (S = 1/100・1/600) …………… | 20 | 第33図 | A区第2面遺構平面図4(S = 1/100)…… | 57 |
| 第10図 | A区第1面遺構平面図2(S = 1/100)…… | 21 | 第34図 | A区第2面遺構平面図5(S = 1/100)…… | 58 |
| 第11図 | A区第1面遺構平面図3(S = 1/100)…… | 22 | 第35図 | A区第2面遺構平面図6(S = 1/100)…… | 59 |
| 第12図 | A区第1面遺構平面図4(S = 1/100)…… | 23 | 第36図 | A区第2面遺構土層断面図1(S = 1/60) …… | 61 |
| 第13図 | A区第1面遺構平面図5(S = 1/100)…… | 24 | 第37図 | A区第2面遺構土層断面図2(S = 1/60) …… | 62 |
| 第14図 | A区第1面遺構平面図6(S = 1/100)…… | 25 | 第38図 | A区第2面SD202(新) 遺物集中箇所 取り上げ位置図(S = 1/200) …………… | 63 |
| 第15図 | A区第1面SB111平面図・土層断面図 (S = 1/60) …………… | 26 | 第39図 | A区第2面出土遺物実測図1(S = 1/4)…… | 64 |
| 第16図 | A区第1面SB112・113平面図・土層断面図 (S = 1/60) …………… | 27 | 第40図 | A区第2面出土遺物実測図2(S = 1/4)…… | 65 |
| 第17図 | A区第1面SB114、SA111・112平面図・土層 断面図(S = 1/60)…………… | 28 | 第41図 | A区第2面出土遺物実測図3(S = 1/4)…… | 66 |
| 第18図 | A区第1面ピット平面図・土層断面図1 (S = 1/40・1/60) …………… | 30 | 第42図 | A区第2面出土遺物実測図4(S = 1/4)…… | 67 |
| 第19図 | A区第1面ピット平面図・土層断面図2 (S = 1/60) …………… | 32 | 第43図 | A区第2面出土遺物実測図5(S = 1/4) …… | 68 |
| 第20図 | A区第1面土坑平面図・土層断面図 (S = 1/40) …………… | 33 | 第44図 | A区第2面出土遺物実測図6(S = 1/4)…… | 70 |
| 第21図 | A区第1面出土遺物実測図1(S = 1/4)…… | 34 | 第45図 | A区第2面出土遺物実測図7(S = 1/4)…… | 72 |
| 第22図 | A区第1面SK07出土漆紙文書実測図 (S = 1/3) …………… | 35 | 第46図 | A区第2面出土遺物実測図8(S = 1/4)…… | 73 |
| 第23図 | A区第1面溝土層断面図(S = 1/60) …… | 36 | 第47図 | A区第2面出土遺物実測図9 (S = 1/4・1/6) …………… | 74 |
| 第24図 | A区第1面出土遺物実測図2(S = 1/4)…… | 38 | 第48図 | A区第2面出土遺物実測図10 (S = 1/4・1/6・1/8) …………… | 75 |
| | | | 第49図 | A区第2面出土遺物実測図11(S = 1/4) …… | 76 |
| | | | 第50図 | A区第2面出土遺物実測図12(S = 1/4) …… | 78 |
| | | | 第51図 | A区第2面出土遺物実測図13(S = 1/4) …… | 79 |
| | | | 第52図 | A区第2面出土遺物実測図14(S = 1/4) …… | 80 |
| | | | 第53図 | A区第2面出土遺物実測図15(S = 1/4) …… | 82 |
| | | | 第54図 | A区第2面出土遺物実測図16(S = 1/4) …… | 83 |
| | | | 第55図 | A区第2面出土遺物実測図17(S = 1/4) …… | 84 |

| | | |
|------|---|--|
| 第56図 | A区第2面出土遺物実測図18(S = 1/4) …86 | 平面図・土層断面図(S = 1/60) …… 150 |
| 第57図 | A区第2面出土遺物実測図19 (S = 1/2・1/4) ……87 | 第87図 A区第4面出土遺物実測図 (S = 1/2・1/4) …… 151 |
| 第58図 | A区第2面出土遺物実測図20(S = 1/4) …88 | 第88図 A区第5面主要遺構配置図 (S = 1/300) …… 154 |
| 第59図 | A区第2面出土遺物実測図21 (S = 1/4・1/6・1/8) ……89 | 第89図 A区第5面遺構平面図1(S = 1/100) …… 155 |
| 第60図 | A区第2面出土遺物実測図22 (S = 1/4・1/6・1/8) ……90 | 第90図 A区第5面遺構平面図2(S = 1/100) …… 156 |
| 第61図 | A区第2面出土遺物実測図23(S = 1/4) …91 | 第91図 A区第5面遺構平面図3(S = 1/100) …… 157 |
| 第62図 | A区第3面主要遺構配置図 (S = 1/300) …… 111 | 第92図 A区第5面遺構平面図4(S = 1/100) …… 158 |
| 第63図 | A区第3面遺構平面図1(S = 1/100) …… 112 | 第93図 A区第5面遺構平面図5(S = 1/100) …… 159 |
| 第64図 | A区第3面遺構平面図2(S = 1/100) …… 113 | 第94図 A区第5面遺構平面図6(S = 1/100) …… 160 |
| 第65図 | A区第3面遺構平面図3(S = 1/100) …… 114 | 第95図 A区第5面東半遺構配置図 (S = 1/100) …… 161 |
| 第66図 | A区第3面遺構平面図4(S = 1/100) …… 115 | 第96図 A区第5面SI501平面図・断面図 (S = 1/100) …… 163 |
| 第67図 | A区第3面遺構平面図5(S = 1/100) …… 116 | 第97図 A区第5面SI501等平面図・土層断面図 (S = 1/60) …… 164 |
| 第68図 | A区第3面遺構平面図6(S = 1/100) …… 117 | 第98図 A区第5面平地建物復元案 (S = 1/200) …… 166 |
| 第69図 | A区第3面土坑平面図・土層断面図1 (S = 1/30・1/60) …… 122 | 第99図 A区第5面SI501出土遺物実測図1 (S = 1/4・1/8) …… 167 |
| 第70図 | A区第3面溝平面図・土層断面図1 (S = 1/60・1/80) …… 123 | 第100図 A区第5面SI501出土遺物実測図2 (S = 1/2・1/4・1/8) …… 168 |
| 第71図 | A区第3面溝平面図・土層断面図2 (S = 1/60) …… 124 | 第101図 A区第5面土坑平面図・土層断面図 (S = 1/60) …… 171 |
| 第72図 | A区第3面トレンチ1・2土層断面図1 (S = 1/60) …… 125 | 第102図 A区第5面土坑等平面図・土層断面図 (S = 1/60) …… 172 |
| 第73図 | A区第3面トレンチ1・2土層断面図2 … 126 | 第103図 A区第5面出土遺物実測図1 (S = 1/4) …… 175 |
| 第74図 | A区第3面出土遺物実測図1(S = 1/4) 127 | 第104図 A区第5面出土遺物実測図2 (S = 1/2・1/4) …… 176 |
| 第75図 | A区第3面出土遺物実測図2(S = 1/4) 128 | 第105図 A区第5面出土遺物実測図3 (S = 1/4・1/8) …… 177 |
| 第76図 | A区第3面出土遺物実測図3 (S = 1/2・1/4) …… 129 | 第106図 C・D・K区第1面グリッド配置図 (S = 1/300) …… 183 |
| 第77図 | A区第3面出土遺物実測図4(S = 1/4) … 130 | 第107図 C・D・K区第1面主要遺構配置図 (S = 1/300) …… 184 |
| 第78図 | A区第3面出土遺物実測図5(S = 1/4) … 131 | 第108図 C・D・K区第1面遺構平面図1 (S = 1/100) …… 185 |
| 第79図 | A区第3面出土遺物実測図6(S = 1/4) … 132 | 第109図 C・D・K区第1面遺構平面図2 (S = 1/100) …… 186 |
| 第80図 | A区第3面出土遺物実測図7(S = 1/4) … 133 | 第110図 C・D・K区第1面遺構平面図3 (S = 1/100) …… 187 |
| 第81図 | A区第3面出土遺物実測図8 (S = 1/2・1/4) …… 134 | 第111図 C・D・K区第1面遺構平面図4 (S = 1/100) …… 188 |
| 第82図 | A区第3面出土遺物実測図9 (S = 1/2・1/4・1/6) …… 135 | |
| 第83図 | A区第4面主要遺構配置図 (S = 1/300) …… 146 | |
| 第84図 | A区第4面Q-24区周辺平面図1 (S = 1/60) …… 147 | |
| 第85図 | A区第4面SD403平面図・断面図 (S = 1/60) …… 149 | |
| 第86図 | A区第4面SD404～406、SD408～413 | |

| | | | | | |
|-------|--|-----|-------|---|-----|
| 第112図 | C・D・K区第1面遺構平面図5 (S = 1/100) | 189 | 第134図 | C・D・K区第1面溝土層断面図 (S = 1/60) | 220 |
| 第113図 | C・D・K区第1面遺構平面図6 (S = 1/100) | 190 | 第135図 | C・D・K区第1面噴砂土層断面図 (S = 1/60) | 221 |
| 第114図 | C・D・K区第1面遺構平面図7 (S = 1/100) | 191 | 第136図 | C区第1面出土遺物実測図1 (S = 1/2・1/4) | 222 |
| 第115図 | C・D・K区第1面遺構平面図8 (S = 1/100) | 192 | 第137図 | C区第1面出土遺物実測図2 (S = 1/2・1/4) | 223 |
| 第116図 | C・D・K区第1面遺構平面図9 (S = 1/100) | 193 | 第138図 | C区第1面出土遺物実測図3 (S = 1/1・1/2・1/4) | 224 |
| 第117図 | C・D・K区第1面遺構平面図10 (S = 1/100) | 194 | 第139図 | C区第1面出土遺物実測図4 (S = 1/4・1/9・1/16) | 225 |
| 第118図 | C・D・K区第1面遺構平面図11 (S = 1/100) | 195 | 第140図 | F区第1面主要遺構配置図 (S = 1/300) .. | 231 |
| 第119図 | C区第1面SB01平面図・土層断面図 (S = 1/80・1/60) | 198 | 第141図 | F区平面図(1) (S = 1/100) | 232 |
| 第120図 | C区第1面SB02平面図・土層断面図 (S = 1/80・1/60) | 199 | 第142図 | F区平面図(2) (S = 1/100) | 233 |
| 第121図 | C区第1面SB02土層断面図 (S = 1/60) | 200 | 第143図 | F区平面図(3) (S = 1/100) | 234 |
| 第122図 | C区第1面SB03平面図・土層断面図 (S = 1/80) | 201 | 第144図 | F区平面図(4) (S = 1/100) | 235 |
| 第123図 | C区第1面SB03土層断面図 (S = 1/60) | 202 | 第145図 | F区平面図(5) (S = 1/100) | 236 |
| 第124図 | C区第1面SB04平面図・土層断面図 (S = 1/80・1/60) | 203 | 第146図 | F区平面図(6) (S = 1/100) | 237 |
| 第125図 | C区第1面SB04土層断面図 (S = 1/60) | 204 | 第147図 | F区平面図(7) (S = 1/100) | 238 |
| 第126図 | C区第1面SB05平面図・土層断面図 (S = 1/80) | 205 | 第148図 | F区平面図(8) (S = 1/100) | 239 |
| 第127図 | C区第1面SB06平面図・土層断面図 (S = 1/80・1/60) | 206 | 第149図 | 確認トレンチ1・2断面図 (S = 1/60) .. | 240 |
| 第128図 | C・D・K区第1面土坑・ピット平面図・ 土層断面図 (S = 1/60・1/20) | 208 | 第150図 | 確認トレンチ3断面図 (S = 1/60) | 241 |
| 第129図 | C・D・K区第1面ピット土層断面図1 (S = 1/60) | 209 | 第151図 | F区第1面確認トレンチ出土遺物実測図 (S = 1/4) | 242 |
| 第130図 | C・D・K区第1面ピット土層断面図 (S = 1/60) | 210 | 第152図 | F区水田区画 (S = 1/300) | 244 |
| 第131図 | C・D・K区第1面溝平面図・土層断面図1 (S = 1/60) | 217 | 第153図 | F区第1面水田・SK01出土遺物実測図 (S = 1/4) .. | 245 |
| 第132図 | C・D・K区第1面溝土層断面図2 (S = 1/60) | 218 | 第154図 | F区SK02・03平面・断面図 (S = 1/60) .. | 246 |
| 第133図 | C・D・K区第1面溝平面図・土層断面図3 (S = 1/60・1/20) | 219 | 第155図 | F区SK02・04平面・断面図 (S = 1/60) .. | 247 |
| | | | 第156図 | F区第1面SK02・03・04、その他の 遺構出土遺物実測図 (S = 1/4) | 249 |
| | | | 第157図 | F区第1面調査区出土遺物実測図(1) (S = 1/4) | 250 |
| | | | 第158図 | F区第1面調査区出土遺物実測図(2) (S = 1/4) | 251 |
| | | | 第159図 | F区第1面調査区出土遺物実測図(3) (S = 1/4) | 252 |
| | | | 第160図 | 工事立会(9区大溝)出土遺物実測図 (S = 1/4) | 253 |
| | | | 第161図 | 古代掘立柱建物分布図 (S = 1/2,000) .. | 262 |
| | | | 第162図 | 県内出土漆紙文書集成 (S = 1/4) | 262 |
| | | | 第163図 | 加茂遺跡古代遺構図 (S = 1/2,000) .. | 263 |

表 目 次

| | |
|-------------------------------|--|
| 第1表 第1～11次調査一覧表 …………… 1 | 第43表 A区第3面出土土器観察表2 …………… 138 |
| 第2表 調査・整理体制一覧表 …………… 5 | 第44表 A区第3面出土土器観察表3 …………… 139 |
| 第3表 周辺の遺跡一覧表 ……………10 | 第45表 A区第3面出土土器観察表4 …………… 140 |
| 第4表 第6～10次調査の調査区名対比表 ……………11 | 第46表 A区第3面出土土器観察表5 …………… 141 |
| 第5表 第7次調査の遺構番号一覧表…………13 | 第47表 A区第3面出土土器観察表6 …………… 142 |
| 第6表 各調査面のベース土一覧表 ……………14 | 第48表 A区第3面出土土器観察表7 …………… 143 |
| 第7表 加賀・能登の土器編年と暦年代対比表 …17 | 第49表 A区第3面出土石器・石製品観察表 … 144 |
| 第8表 A区第1面SB、SA 規模等一覧表 ……………26 | 第50表 A区第3面出土木器・木製品観察表 … 144 |
| 第9表 A区第1面ピット規模等一覧表1 ……………31 | 第51表 A区第4面遺構規模等一覧表 …………… 148 |
| 第10表 A区第1面ピット規模等一覧表2 ……………32 | 第52表 A区第4面出土土器観察表 …………… 152 |
| 第11表 A区第1面土坑規模等一覧表 ……………35 | 第53表 A区第4面出土石器・石製品観察表 … 152 |
| 第12表 A区第1面溝規模等一覧表 ……………37 | 第54表 A区第5面SI501規模等一覧表………… 165 |
| 第13表 A区第1面出土土器観察表1 ……………46 | 第55表 A区第5面土坑規模等一覧表 …………… 170 |
| 第14表 A区第1面出土土器観察表2 ……………47 | 第56表 A区第5面溝規模等一覧表 …………… 170 |
| 第15表 A区第1面出土土器観察表3 ……………48 | 第57表 A区第5面ピット規模等一覧表 …………… 173 |
| 第16表 A区第1面出土土器観察表4 ……………49 | 第58表 A区第5面出土土器観察表1 …………… 178 |
| 第17表 A区第1面出土土器観察表5 ……………50 | 第59表 A区第5面出土土器観察表2 …………… 179 |
| 第18表 A区第1面出土土器観察表6 ……………51 | 第60表 A区第5面出土土器観察表3 …………… 180 |
| 第19表 A区第1面出土石器・石製品観察表 ……52 | 第61表 A区第5面出土石器・石製品観察表 … 181 |
| 第20表 A区第1面出土金属製品観察表 ……………52 | 第62表 A区第5面出土木器・木製品観察表 … 181 |
| 第21表 A区第2面溝規模等一覧表 ……………61 | 第63表 C・D・K区第1面SB 規模等一覧表 …………… 196 |
| 第22表 A区第2面出土土器観察表1 ……………92 | 第64表 C・D・K区第1面柱穴列規模等一覧表… 204 |
| 第23表 A区第2面出土土器観察表2 ……………93 | 第65表 C・D・K区第1面土坑規模等一覧表 … 207 |
| 第24表 A区第2面出土土器観察表3 ……………94 | 第66表 C・D・K区第1面ピット規模等一覧表1 …………… 211 |
| 第25表 A区第2面出土土器観察表4 ……………95 | 第67表 C・D・K区第1面ピット規模等一覧表2 …………… 212 |
| 第26表 A区第2面出土土器観察表5 ……………96 | 第68表 C・D・K区第1面ピット規模等一覧表3 …………… 213 |
| 第27表 A区第2面出土土器観察表6 ……………97 | 第69表 C・D・K区第1面溝規模等一覧表1 … 214 |
| 第28表 A区第2面出土土器観察表7 ……………98 | 第70表 C・D・K区第1面溝規模等一覧表2 … 216 |
| 第29表 A区第2面出土土器観察表8 ……………99 | 第71表 C・D・K区第1面出土土器観察表1 … 226 |
| 第30表 A区第2面出土土器観察表9 …………… 100 | 第72表 C・D・K区第1面出土土器観察表2 … 227 |
| 第31表 A区第2面出土土器観察表10 …………… 101 | 第73表 C・D・K区第1面出土土器観察表3 … 228 |
| 第32表 A区第2面出土土器観察表11 …………… 102 | 第74表 C・D・K区第1面出土土器観察表4 … 229 |
| 第33表 A区第2面出土土器観察表12 …………… 103 | 第75表 C・D・K区第1面出土石器・石製品・ 金属製品観察表 …………… 229 |
| 第34表 A区第2面出土土器観察表13 …………… 104 | 第76表 C・D・K区第1面出土木器・木製品 観察表 …………… 229 |
| 第35表 A区第2面出土土器観察表14 …………… 105 | 第77表 F区第1面水田遺構規模等一覧………… 243 |
| 第36表 A区第2面出土土器観察表15 …………… 106 | 第78表 F区第1面土器観察表1 …………… 254 |
| 第37表 A区第2面出土土器観察表16 …………… 107 | 第79表 F区第1面土器観察表2 …………… 255 |
| 第38表 A区第2面出土土器観察表17 …………… 108 | |
| 第39表 A区第2面出土石器・石製品観察表 … 109 | |
| 第40表 A区第2面出土木器・木製品観察表 … 109 | |
| 第41表 A区第3面溝規模等一覧表 …………… 122 | |
| 第42表 A区第3面出土土器観察表1 …………… 137 | |

| | | | | | |
|------|-------------|-----|------|----------------|-----|
| 第80表 | F区第1面土器観察表3 | 256 | 第83表 | F区第1面木製品観察表 | 259 |
| 第81表 | F区第1面土器観察表4 | 257 | 第84表 | F区第1面石・金属製品観察表 | 259 |
| 第82表 | F区第1面土器観察表5 | 258 | | | |

図 版 目 次

| | | | |
|---------|---------------|---------|---------------------|
| 図版1～6 | A区第1面遺構1～6 | 図版47 | A区第4・5面出土遺物 |
| 図版7～10 | A区第1面出土遺物1～4 | 図版48 | A区第5面出土遺物 |
| 図版11～16 | A区第2面遺構1～6 | 図版49～57 | C区第1面遺構1～9 |
| 図版17～28 | A区第2面出土遺物1～12 | 図版58 | C区第1面遺構10、D・K区第1面遺構 |
| 図版29～32 | A区第3面遺構1～4 | 図版59～61 | C・D・K区第1面出土遺物1～3 |
| 図版33 | A区第3・4面遺構 | 図版62～64 | F区第1面遺構1～3 |
| 図版34～37 | A区第3面出土遺物1～4 | 図版65～66 | F区第1面出土遺物1～2 |
| 図版38 | A区第4面遺構 | 図版67 | F区第1面出土遺物3、工事立会出土遺物 |
| 図版39～46 | A区第5面遺構1～8 | | |

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯

一般国道8号津幡北バイパス改築工事は、国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所(旧建設省北陸地方建設局金沢工事事務所)が所管する事業である。国道8号線は、新潟県新潟市を起点とし、富山・石川・福井・滋賀各県を経て、京都府京都市に至る延長約590kmの幹線国道で、日本海に沿った北陸地方を結ぶ大動脈の役割を担っている。そのうち津幡北バイパスは、津幡町舟橋から同町刈安まで(延長約5.8km)の慢性的な交通渋滞の解消を目指して昭和59(1984)年度に事業化されたものであり、刈安地内で俱利伽羅バイパスに連結、富山県小矢部市の小矢部バイパスへと続く。

本遺跡の発掘調査は、昭和62(1987)年度の建設省北陸地方建設局金沢工事事務所(当時。以下、建設省)から石川県立埋蔵文化財センター(当時。以下、県埋文センター)への埋蔵文化財包蔵地の所在についての照会に始まる。このような開発事業に際し、周知の埋蔵文化財包蔵地が存在する場合、事業者は文化財保護法第94条の規定にもとづき、その保護措置を執ることが求められる。県教委では、埋蔵文化財の保護と開発事業との調整を図るため、各年度に国・県等の関係機関・部局の協力を得て、次年度以降の開発事業計画の早期把握や、分布調査等による埋蔵文化財の有無の確認により、工事着手前段階における埋蔵文化財の正確な把握に努め、保護措置に関して事業者との調整を行っている。

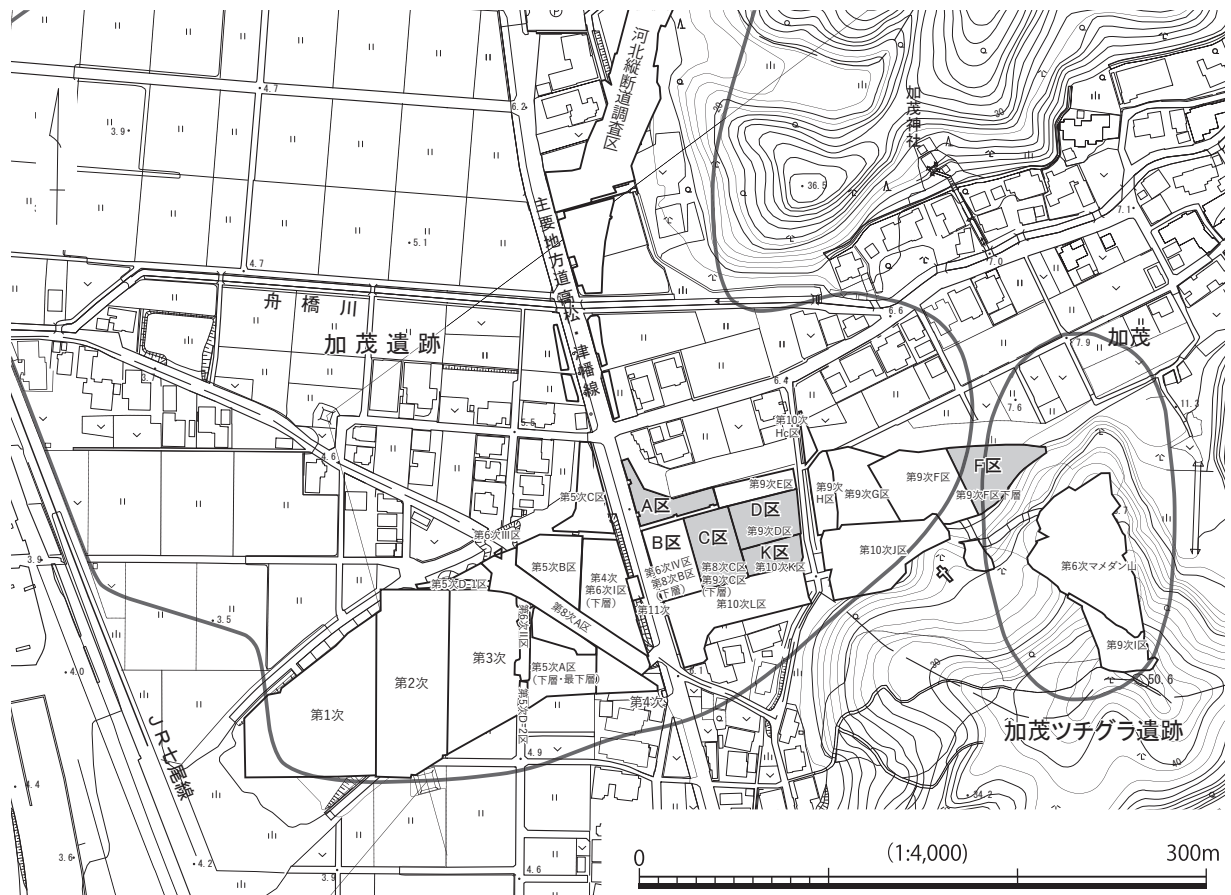
本遺跡については、昭和62(1987)年10月26日付で、建設省から県埋文センターに分布調査の依頼があり、同年11月27日に重機を用いた試掘調査を実施、舟橋地内において奈良・平安時代の良好な遺物包含層を確認した。その後、平成元(1989)年4月17日付けで2回目の分布調査の依頼があり、同年9月25・27日、10月26日、12月4日に現地踏査と重機・人力による試掘調査を実施、東西方向で約500mを測る本遺跡(県遺跡番号No.1303000)と、丘陵地の加茂ツチグラ遺跡(同No.1302000)を確認した。

その後、県埋文センターは建設省と協議を行い、埋蔵文化財への影響を軽減するための道路線形の変更が困難であることから、事業地内の埋蔵文化財について記録保存措置(発掘調査)を実施することとなった。現地調査は、路線予定地西側から順次実施することとなり、平成3~6(1991~1994)年度の第1~4次調査を社団法人石川県埋蔵文化財保存協会が担当した。また平成11~17(1999~2005)年度の第5~11次調査を財団法人石川県埋蔵文化財センター(当時。以下、(財)県埋文センター)が実施し、保護措置後の平成20(2008)年3月15日に津幡北バイパスは全面開通している。本書は、第1~4次調査および第6次調査の一部を報告した『津幡町 加茂遺跡Ⅰ』(2009(財)県埋文センター)、第5次調査を報告した『津幡町 加茂遺跡Ⅱ』(2021(公財)県埋文センター)、第6次調査を報告した『津幡町 加茂遺跡Ⅲ』(2021(公財)県埋文センター)に引き続き、第7次調査を報告するものである。

本書に報告する出土品については、遺失物法にもとづき(財)県埋文センターが津幡警察署に埋蔵物の発見届を提出し、同警察署から通知を受けた県教委により文化財認定が行われた。現

| 調査次 | 調査年度 | 調査主体 | 調査面積(m ²) |
|--------|------------|------------------|-----------------------|
| 第1次 | 平成3(1991) | 社団法人石川県埋蔵文化財保存協会 | 4,700 |
| 第2次 | 平成4(1992) | | 4,000 |
| 第3次 | 平成5(1993) | | 5,100 |
| 第4次 | 平成6(1994) | | 2,080 |
| 第5次 | 平成11(1999) | 財団法人石川県埋蔵文化財センター | 5,500 |
| 第6次 | 平成12(2000) | | 7,700 |
| 第7次 | 平成13(2001) | | 8,000 |
| 第8次 | 平成14(2002) | | 7,000 |
| 第9次 | 平成15(2003) | | 23,750 |
| 第10次 | 平成16(2004) | | 24,550 |
| 第11次 | 平成17(2005) | | 300 |
| 調査面積 計 | | | 92,680 |

第1表 第1~11次調査一覧表



第1図 遺跡の範囲と第7次調査区的位置(S=1/4,000)

在、出土品は石川県埋蔵文化財センターで収蔵・保管のうえ、公開・活用を図っている。

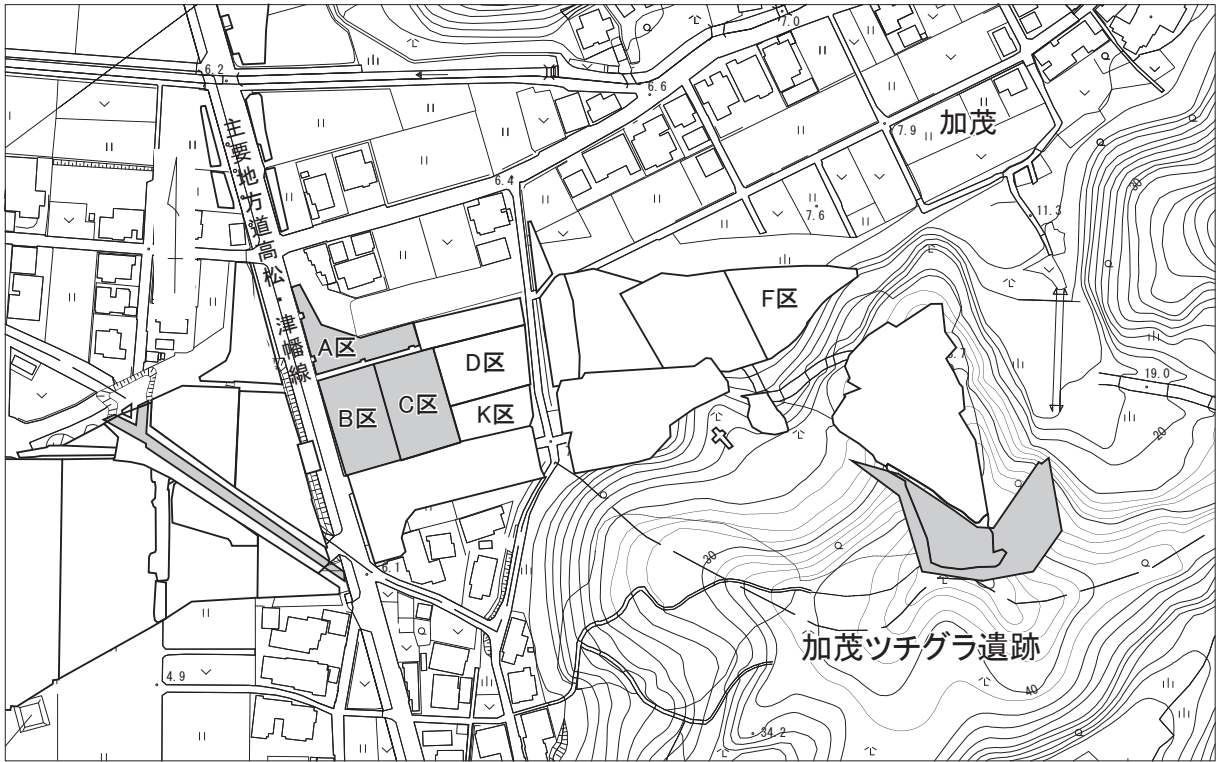
なお、第6次調査で出土した、平安時代前期の古代国家の農業奨励政策や命令伝達方法を具体的に知ることができる「加賀郡榜示札」は、平成22(2010)年6月29日に国の重要文化財に指定された。また、平成13(2001)年度から津幡町教育委員会が津幡北バイパス北側の水田部を主な対象に実施した範囲確認調査の成果をもとに、津幡北バイパス事業地を含む約4.6haが平成27(2015)年3月10日に国の史跡に指定された。津幡北バイパス事業地内の「加賀郡榜示札」出土地・古代北陸道能登支路周辺地は、バイパスの高架位置・構造の変更により現状保存され、現在「加茂遺跡広場」に整備のうえ公開・活用が図られている。

第2節 発掘作業の経過

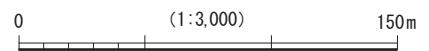
現地調査は、建設省から委託を受けた石川県との委託契約に基づき、(財)県埋文センターが平成13年5月15日～平成14年1月24日に実施した。調査面積は8,000㎡で、担当は調査部調査第1課の本田秀生、座主哲二、林大智、湯川善一、岡田有紀子である。以下、調査日誌抄を記す。

- 4月1日 県教育委員会(以下、県教委)から8,000㎡(面積合計)の調査依頼及び委託契約を受け、県教委へ文化財保護法に基づく発掘調査届出書を提出。調査準備に着手。
- 4月18日～5月9日 18日に現地で国交省、県教委文化財課と調査工程等の協議を行う。A区、B・C・D・K区上層、F区上層、町道の順に進めることで合意。13日に発掘調査届出書に対する通知あり。
- 5月10日～5月24日 10日にB・C区の重機による表土除去作業を開始。プレハブ設営作業等を進め、21日以降現場作業員による周辺整備作業に着手する。

当初計画 8,000 m²



実績 8,000 m²



第2図 調査の範囲と地区割り (S=1/3,000)

第2節 発掘作業の経過

- 5月25日～9月20日 B・C区上層について、現場作業員による包含層掘削、遺構検出、遺構掘り下げ作業、調査員による図面作成等の記録作業を進める。6月11日までに重機によるD・K区の表土除去作業を終え、12日にはA区の矢板打ち、建物基礎除去作業の後、上層の調査に着手する。18日から21日にA区の表土除去作業を行い、上層の調査を進める。9月17日にラジオコントロールヘリコプター(以下、ラジコン)による空中写真測量を実施する。
- 9月21日～10月31日 A区下層の調査に着手し、重機による間層土除去作業を行う。併せてF区の表土除去作業を実施。以降A区下層、F区上層の調査を並行して進める。10月31日に第2回ラジコンによる空中写真測量を実施し、A区第2面の調査を終える。
- 11月1日～11月28日 A区第3面の現場作業員による包含層掘削、遺構検出作業に着手する。15日にF区上層について第3回ラジコンによる空中写真測量を実施する。16日に県教委より委託業務内容変更の依頼があり、調査区の変更(面積は変わらず)を承引する(第2図)。18日に現地説明会を開催する。28日にA区第3面を対象とした第4回ラジコンによる空中写真測量を実施する。
- 11月29日～1月19日 A区第4・5面の調査に着手し、現場作業員による包含層掘削、遺構検出、遺構掘り下げ作業、調査員による図面作成等の記録作業を進める。1月19日に第5回ラジコンによる空中写真測量を実施し、A区下層の調査を完了する。
- 1月20日～1月24日 補測作業、遺物取り上げ作業と並行して、調査区の埋め戻し作業、プレハブ等撤収作業を経て、1月24日に現地作業を完了する。

第3節 整理等作業の経過

遺物は、弥生土器、土師器、須恵器等の土器、陶磁器、石器・石製品がコンテナ(60×38×14cm)で72箱、木製品はコンテナで約15箱が出土した。出土品の整理作業は、平成14(2002)、同17(2005)、令和元(2019)、同2(2020)、同3(2021)の各年度に(公財)石川県埋蔵文化財センター(平成24年度以前は(財)県埋文センター)が石川県教育委員会の委託として実施した。各年度の調査・整理体制は第2表のとおりである。

整理の内容については、平成14(2002)年度に遺物の洗浄作業、平成17年度に土器等の記名・分類・接合、実測・トレース、土器の復元、遺構図のトレースの諸作業を、他次調査を含めて継続実施している。また、平成17年度に出土木製品90点の樹種同定をパレオ・ラボ(株)に委託して実施した。令和元年度～令和3年度に報告書作成作業を行い、令和3年度に本書を編集・刊行した。なお、A区の土坑から出土した漆紙文書について、平成12年2月に平川 南氏(当時、国立歴史民俗博物館教授)の指導を得ている。

平成13年度(2001)〔第7次調査〕

| | |
|------|---|
| 調査期間 | 平成13年5月15日～平成14年1月24日 |
| 調査主体 | 財団法人石川県埋蔵文化財センター (理事長：山岸 勇) |
| 総括 | 武田寿夫(専務理事) |
| 事務 | 松柳 拓(事務局長) 和泉邦夫(総務課長) 繁田吉彦(経理課長) |
| 調査 | 谷内尾晋司(所長) 小嶋芳孝(調査部長) 中島俊一(調査第1課長) |
| 担当 | 本田秀生(調査第1課調査専門員) 座主哲二(調査第1課主査) 林 大智(調査第1課主事) 湯川善一(調査第1課嘱託) 岡田有紀子(調査第1課嘱託) |
| 作業内容 | 現地調査 8,000㎡ |

平成14年度(2002)

| | |
|------|--|
| 整理期間 | 平成14年4月1日～15年3月31日 |
| 調査主体 | 財団法人石川県埋蔵文化財センター (理事長：山岸 勇) |
| 総括 | 武田寿夫(専務理事) |
| 事務 | 松柳 拓(事務局長) 井田徳久(総務課長) 繁田吉彦(経理課長) |
| 整理 | 谷内尾晋司(所長) 湯尻修平(企画部長) 小嶋芳孝(調査部長) 澤田まさ子(整理課長) 中島俊一(調査第1課長) |
| 担当 | 川畑 誠(企画課調査専門員) |
| 作業内容 | 遺物洗浄 |

平成17年度(2005)

| | |
|------|--|
| 整理期間 | 平成17年4月1日～18年3月31日 |
| 調査主体 | 同左 (同左) |
| 総括 | 堀 日出夫(専務理事) |
| 事務 | 山下淳映(事務局長) 宅崎仁芳(総務課長) 熊谷省吾(経理課長) |
| 整理 | 谷内尾晋司(所長) 中島俊一(企画部長) 湯尻修平(調査部長) 垣内光次郎(整理課長) 三浦純夫(調査第1課長) |
| 担当 | 柿田祐司(調査第1課主査) |
| 作業内容 | 土器等の記名・分類・接合 遺構図のトレース 木製品の樹種同定委託 |

令和元年度(2019)

| | |
|------|--|
| 整理期間 | 平成31年4月1日～令和2年3月31日 |
| 調査主体 | 公益財団法人石川県埋蔵文化財センター (理事長：田中慎太郎) |
| 総括 | 紺野欽一(専務理事) |
| 事務 | 釜親利雄(事務局長) 伊藤 直(総務グループGL) |
| 整理 | 垣内光次郎(所長) 伊藤雅文(調査部長) 川畑 誠(国関係調査グループGL) |
| 担当 | 山内花緒(国関係調査グループ主事) |
| 作業 | 原稿作成 |

令和2年度(2020)

| | |
|------|---|
| 整理期間 | 令和2年4月1日～令和3年3月31日 |
| 調査主体 | 同左 (理事長：徳田 博) |
| 総括 | 田村彰英(専務理事) |
| 事務 | 北谷俊彦(事務局長) 伊藤 直(総務グループGL) |
| 整理 | 伊藤雅文(所長) 川畑 誠(調査部長) 松山和彦(国関係調査グループGL) |
| 担当 | 和田龍介(県関係調査グループ主幹) |
| 作業 | 原稿作成 |

令和3年度(2021)

| | |
|------|---|
| 整理期間 | 令和3年4月1日～令和4年3月31日 |
| 調査主体 | 同左 (理事長：徳田 博) |
| 総括 | 田村彰英(専務理事) |
| 事務 | 北谷俊彦(事務局長) 北谷祥子(総務グループGL) |
| 整理 | 伊藤雅文(所長) 川畑 誠(調査部長) 澤辺利明(国関係調査グループGL) |
| 担当 | 和田龍介(県関係調査グループ主幹) 山内花緒(特定事業調査グループ主事) |
| 作業 | 原稿作成 報告書刊行 |

第2表 調査・整理想体制一覧表

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境



第3図 遺跡の位置

加茂遺跡は、石川県河北郡津幡町字舟橋・加茂地内に所在する。遺跡の位置する津幡町は、北～西はかほく市、東は富山県境、南は金沢市に隣接し、西南部には河北潟が広がる。

津幡町の地形は、東側に宝達丘陵に連なる津幡・森本丘陵、西は海岸部に発達した内灘砂丘と砂丘によって形成された河北潟、その両者に挟まれた河北平野からなる。津幡・森本丘陵は標高100～200m前後の低山帯と、その西側の標高50m～100m程の丘陵地からなり、西側は河川の浸食などで低い独立丘陵や舌状丘陵が形成され、丘陵地の裾まで谷平野が樹枝状に入り込んだ地形となっている。町の西部には、金沢市粟崎からかほく市の大海川河口の海岸部に発達した内灘砂丘と、内灘砂丘の発達過程で形成された潟湖である河北潟が広がっている。

内灘砂丘は最高標高約61m、延長約20kmの砂丘列であり、手取川河口(現白山市)から供給された土砂が沿岸漂砂となって海浜を形成し、その海浜からの飛砂によって形成されたとされている。縄文時代中期前後に完成した「古砂丘」と、弥生時代以降にその内陸部に形成された「新砂丘」からなり、古砂丘上の黒色砂質土(旧地表面)上には該期の遺跡が分布している。

河北潟は日本海側有数の潟湖(lagoon)で、入江(河北入江)が内灘砂丘の発達過程で外湾から隔たれ始め、閉塞して潟湖となったものである。閉塞の時期は、内灘古砂丘が形成され終わる古墳時代前期と推定されている。現在見られる姿は干拓後のもので、干拓前は東西約4km・南北約8km、面積約2,300haの規模を測った。現在は約596haと往時の1/4ほどの規模となっている。もとは汽水湖で、フナやコイを始め、ウナギ、マダイ、イシダイ、キス、ボラ、マイワシなどの淡水魚～沿岸魚まで多様な魚類が生息しており、加茂遺跡第1号木簡に見える「献上人給雑魚十五隻」の情景を彷彿とさせる。河北潟の土地利用は、水運や潟内漁場としての役割が主要なものであったろうが、江戸時代に入ると埋め立てによる新田開発が行われていたことが記録に残されている。それらは主に潟縁の村々によるフゴの埋め立てによるものであったが、なかでも銭屋五兵衛によるもの(1851年)が有名である。17世紀前半～19世紀半ばの約150年間、埋め立てによる新開高はおよそ9000石(面積にして約6.7ha)にのぼった。終戦後の食糧不足事情を解消すべく、全国的に行われた潟湖の干拓事業は河北潟にも及んだ。一説には、内灘砂丘の米軍試射場接收の代案として提示されたとも言われている。とは言え、1963年～1986年に、24年の歳月と総工費302億円をかけて実施された国営河北潟干拓土地改良工事は河北潟干拓事業の最大のもので、実に2/3にあたる1,359haが陸地化した。現在は畑地や酪農地として利用されており、わずかに残された潟は調整池として残るのみで往事の景観は失われてしまっている。河北潟は海退・海進にともなって湖岸線が変化しており、海退期にあたる藩政期に描かれた絵図面には、葡萄の房状に形成された「フゴ・フコ(不湖)」と呼ばれた小潟が発達していた様子が残されている。加茂遺跡も「舟橋フゴ」と呼ばれた小潟に面しており、古代の河北潟東縁の遺跡はこのような

フゴに連なる景観が想定されていた(たとえば平川・ 県2001、津幡町2012)。しかし加茂遺跡の萌芽～形成期にあたる奈良・平安時代は逆に海進期にあたることから、汀線がフゴ状に残ることは考えにくく、汀線はフゴの東端かそれ以上に奥まで進んでいた景観であったことが出越茂和により指摘されている。第4図の地形図は、加茂遺跡の主要な時期である古代を念頭に置いた、湖岸線が最も内陸まで迫ったものとなっている。

調査地である加茂遺跡は、津幡町南部、旧河北潟北東岸部の標高約5～7m前後の低地を中心に立地する、縄文時代から中世に渡って営まれた複合遺跡である。弥生時代の集落は主に中期と後期後半にピークを持ち、緩斜面や低位段丘面上に立地し、古墳時代以降低地部分へと活動範囲を広げる。古墳時代終末期から古代以降は、河北潟の縁辺という立地を生かした陸上・水上交通の結節点として盛況を迎える。遺跡の中央を古代北陸道が縦断し、谷から河北潟へつながる人工的な大溝が2条、遺跡の南と北に流れ、その大溝を中心に該期の遺構が展開する様相を見せている。これらのことから、駅家の付属施設や郡の末端官衙、ないし郡雑人の拠点等の官衙関連的な性格が想定されている。遺跡名にもなっている「加茂」の地名は、遺跡から出土する墨書土器「鴨」「賀茂」(県2009、2018、町2012等)の存在から、少なくとも8世紀後半以降には存在していた可能性がある。そのルーツを京都賀茂神社の勧請に求める見解もあり、墨書土器と同名の賀茂神社(かほく市横山)の社史には、天平勝宝5年(753)に加茂の地に賀茂大明神が垂迹し、大同2年(807)に神託により現在の横山の地へ遷座するとあり、もともと加茂の地に賀茂神社が存在していたことを示唆している。また本遺跡の近くにも加茂神社が村社として残る。

第2節 歴史的環境

加茂遺跡周辺の遺跡の消長は、河北潟の湖岸線をどうとらえるかにかかっているとと言える。三浦純夫は、藩政期の絵図や近代の古地図、米軍撮影の航空写真(1945年前後)を駆使して古代の湖岸線を復元し、水田開発や干拓により消失した河北潟の汀線を鮮やかに描き出した(三浦1993)。これにより漠然ととらえられていた「遺跡から約2km西側にある河北潟」のイメージは覆され、加茂遺跡の大溝～河北潟および北陸道を用いた「内水面交通と陸上交通の結節点」という重要な性格を導く根拠にもなった。第4図は遺跡地図に三浦の復元汀線を重ねたもので、これによれば遺跡の西端から実に50～100mで河北潟に到達する。

河北潟周辺では旧石器時代の遺跡は確認されていないが、縄文時代に入ると集落が営まれた痕跡が数多く見つかっている。津幡丘陵上には、中期中葉の上山田式土器で知られる上山田貝塚、丘陵裾部には中世まで集落が営まれた指江B遺跡(4)、能瀬イシヤマ遺跡(19)、落とし穴と想定されるピットや中期中葉の遺物が見つかっている谷内石山遺跡(21)などが確認されている。このように、河北潟周辺地域の縄文中期頃までの遺跡の多くは丘陵上や丘陵裾部などに立地しているが、縄文時代後期以降は北中条遺跡(52)、南中条遺跡(54)のように丘陵地を降りて低地に立地する遺跡が現れる。加茂遺跡では、河北縦断道路調査F・G区の河道内から後期の酒見式の土器片が出土するが遺構は未確認である。

弥生時代はおおむね中期以降に活動が活発となり、後期以降には低地および丘陵裾地で遺跡が増加する。調査地周辺では、加茂A遺跡(3)、加茂ヒヤクハチジュウワリ遺跡(25)、指江B遺跡(4)、北中条遺跡(52)などが確認され、北中条遺跡では竪穴建物や方形周溝墓群などが検出されるなど拠点的な集落であったことをうかがわせる。加茂A遺跡では、弥生時代前期・中期(柴山出村式・小松式期)に水場遺構と平地建物が確認でき、前期に属する平地建物は、平地建物としては全国的に見ても古い部

類に属する。弥生時代後期になると、県内でもいわゆる「高地性集落」が形成され始め、かほく市～津幡町に連なる津幡・森本丘陵の標高20～50m前後の低丘陵上に特徴的に見ることができる。拠点的なものとしてかほく市鉢伏茶臼山遺跡があり、竪穴建物1～2基単位の衛星的な小集落と目される鉢伏カクチ遺跡、指江ジュウサンザカ遺跡(7)、能瀬南B遺跡(28)などがある。加茂ツチグラ遺跡(マメダン山地区・29)では、建て替えも含め50棟弱の竪穴建物や円筒土坑などを検出した。

古墳時代になると、河北潟東縁の谷部に多くの墳墓が造られるようになる。本遺跡を含めた北加賀地域では、金沢市の小坂・森本地域に有力在地首長層の基盤があったことが夙に指摘されている。本遺跡周辺では河川の谷開口部に小規模な古墳群が営まれ、北から宇ノ気川流域古墳群・能瀬川流域古墳群・津幡川流域古墳群が造営されるが、いずれも中小の在地首長層によるものと目され、盟主的存在たりえない。6世紀後半以降には、河北潟の北部の押水・黒川・中沼古墳群が新興勢力として勃興し、8世紀代以降、口能登～北加賀の広範な地域に須恵器を供給する後の高松・押水窯跡群の経営母体とみなされている。能瀬川流域古墳群では4世紀代の円墳からなる御門A古墳群(15)・方墳からなる御門B古墳群(16)、5世紀代の能瀬石山古墳(20)、谷内石山古墳群(22)、時期は明確でないが径12mの方形で単独墳である指江古墳(6)などの小規模な古墳群が低丘陵上に確認されている。古墳時代終末期には、谷内2号横穴(23)や多田西ヶ峰横穴(11)などの横穴墓群が谷平野に面した丘陵斜面に確認されている。集落では指江B遺跡(4)が古墳時代中～後期の拠点的なものと目され、能瀬南B遺跡(28)などが調査されている。また近年では、古墳時代後期～終末期の須恵器窯跡が確認される。加茂窯跡群(2)や多田ツルガタン窯跡(9)、金沢市観法寺窯跡群(～8世紀前半、瓦陶兼業窯に姿を変えるか)など、津幡～小坂丘陵の低丘陵斜面地にこれまで不明瞭であった7世紀代の須恵器窯が見つかり、短期操業の窯場の移動現象を見て取ることができる。

奈良・平安時代には、7世紀末～8世紀前半代(田嶋編年Ⅱ～Ⅲ期)に河北潟周辺の丘陵裾部から低地部へ進出する動きを見ることができる。古墳時代の拠点集落が古代遺跡へと移行するというよりは、律令政府とその地方支配の進展に伴い、古代北陸道沿いに官衙的性格の強い遺跡が点在する状況と理解できよう。このような、前時代の系譜を引かない開発拠点的な遺跡の勃興は金沢市の犀川以東に広がる金沢西部遺跡群にも見ることができ、金沢平野および河北潟周縁地域は古代律令制度の開発に伴い形成されてきた地域と言えよう。さて古代北陸道はかねてより津幡・森本丘陵の西裾を直線的に走ると想定されてきたが、金沢市観法寺遺跡で検出された直線道路によりほぼ駅路として確実なものとなった。さらに北陸道は深見駅付近で本道(→坂本駅)と能登国支路(→横山駅)へ分岐し、加茂遺跡で検出された直線道路は能登国支路と考えられる。深見駅推定地は、現津幡川の南岸にある加賀爪地内(43付近)と、その南側の北中条・浅田地内(52北東付近)の2説あるが、北中条遺跡から「深見駅」墨書土器が出ていることや、北中条・浅田付近が標高5m以上の安定的な微高地にあることから、現時点では後者の方が蓋然性が高いように思える。8世紀前半代の端初期は加茂遺跡(1)南半部や、太田シタンダ遺跡(57)、金沢市今町A遺跡などが上げられる。太田シタンダ遺跡は狭小な調査であったが、廂付掘立柱建物や総柱建物を含む13棟の建物が検出され、溝や柵によって区画される様相を呈している。墨書土器や鈔帯金具、円面硯などが出土し、官衙の様相を備える遺跡で、比較的短期間に廃絶するようである。8世紀中葉以降になると、かほく市森ガッコウ遺跡や多量の墨書土器や木簡が出土した指江B遺跡(4)、「深見駅」墨書土器を出土した北中条遺跡(52)などの遺跡が確認できる。中でも指江B遺跡は祭祀的色彩の強い遺構・遺物も確認されるなど多様な性格を持っている。これらの遺跡は9世紀代をピークに発展するが、10世紀以降に継続ないし新しく発生する遺跡はごくわずかである。これは加茂遺跡に見られる古代北陸道の廃絶(田嶋Ⅵ₃期、10世紀前葉)と無関係ではあるまい。加茂



遺跡でも南半部はほぼ島地化(畝溝状遺構の展開)し、北半部は掘立柱建物域が変化する。この変化は、加茂遺跡の担い手が郡雑人のような在地首長層から、名田を経営する富裕百姓・名主層(田堵)へと姿を変えていったことによるものであろうか。

中世になると、英田弘濟寺跡(5)等の寺院や津幡城(38)などの中世城郭が調査地周辺の地域で新たに造られる。しかし、集落の立地は、地形の変化や自然災害などにより多少の動きはあるものの、奈良・平安時代と大きくは変わっておらず、指江B遺跡(4)や領家指江ハシバ遺跡(17)、御門ジャモチ遺跡(13)、御門遺跡(14)などが営まれていたことが、これまでの発掘で確認されている。

| No. | 遺跡番号 | 遺跡名 | 種別 | 時代 | No. | 遺跡番号 | 遺跡名 | 種別 | 時代 |
|-----|---------|----------------|--------|----------------|-----|---------|-------------|--------|-------------|
| 1 | 1303000 | 加茂遺跡 | 集落,寺院跡 | 弥生,古墳,古代,中世 | 31 | 1303500 | 加茂奥宮遺跡 | 散布地 | 古墳 |
| 2 | 1310200 | 加茂窯跡群 | 窯跡 | 古墳 | 32 | 1303600 | 能瀬クサヤマB遺跡 | 散布地 | 縄文,古代,中世 |
| 3 | 1303300 | 加茂A遺跡 | 集落 | 弥生 | 33 | 1303600 | 能瀬クサヤマA遺跡 | 散布地 | 縄文 |
| 4 | 809500 | 指江B遺跡 | 集落 | 縄文,弥生,古墳,古代,中世 | 34 | 1306300 | 加茂池遺跡 | 散布地 | 古代 |
| 5 | 809000 | 英田弘濟寺跡 | 寺 | 中世 | 35 | 1302900 | 五月田遺跡 | 散布地 | 古代,中世 |
| 6 | 809100 | 指江古墳 | 古墳 | 古墳 | 36 | 1302800 | 庄住吉神社遺跡 | 散布地 | 弥生 |
| 7 | 809600 | 指江ジュウサンザカ遺跡 | 集落 | 弥生 | 37 | 1311300 | 清水遺跡 | 集落 | 弥生,中世 |
| 8 | 814900 | 多田ツルガタン遺跡 | 散布地,集落 | 古墳,中世 | 38 | 1302700 | 津幡城跡 | 城跡 | 中世,近世 |
| 9 | 815000 | 多田ツルガタン窯跡 | 窯跡 | 古墳 | 39 | 1302600 | 津幡スワヤマ遺跡 | 散布地 | 古墳 |
| 10 | 1304100 | 領家指江ハシバ遺跡 | 散布地 | 古代,中世 | 40 | 1302500 | 津幡遺跡 | 散布地 | 古墳 |
| 11 | 809300 | 多田西ヶ峰横穴 | 横穴墓 | 古墳 | 41 | 1302400 | 太白台古墳群 | 古墳 | 古墳 |
| 12 | 809400 | 多田城跡 | 城跡 | 安土桃山 | 42 | 1305300 | 倉見ドウノフキ遺跡 | 散布地 | 縄文,古墳,中世 |
| 13 | 1304800 | 御門ジャモチ遺跡 | 散布地 | 古代,中世 | 43 | 1300600 | 加賀爪遺跡 | 散布地 | 古墳 |
| 14 | 1304900 | 御門遺跡 | 散布地 | 古代,中世 | 44 | 1311200 | 杉瀬ニシウラ遺跡 | 集落 | 古代,中世 |
| 15 | 1305000 | 御門A古墳群 | 古墳 | 古墳 | 45 | 1311900 | 加賀爪B遺跡 | 集落 | 弥生,古代,中世 |
| 16 | 1305100 | 御門B古墳群 | 古墳 | 古墳 | 46 | 1311100 | 杉瀬八幡神社遺跡 | 散布地 | 弥生 |
| 18 | 1304000 | 領家遺跡 | 散布地 | 古代,中世 | 47 | 1302300 | 猪塚 | その他 | 近世 |
| 19 | 1304300 | 能瀬イシヤマ遺跡 | 散布地 | 縄文 | 48 | 1311600 | 杉瀬五月天窪の山遺跡 | 集落 | 弥生,古墳 |
| 20 | 1304400 | 能瀬石山古墳 | 古墳 | 古墳 | 49 | 1302200 | 東荒屋カンジャワラ遺跡 | 散布地 | 古代 |
| 21 | 1304600 | 谷内石山遺跡 | 集落 | 縄文,弥生,古代 | 50 | 1300500 | 浅田古墳群 | 古墳 | 古墳 |
| 22 | 1304500 | 谷内石山古墳群 | 古墳 | 古墳 | 51 | 1302100 | 旭山ポッコリ塚 | その他 | その他 |
| 23 | 1304702 | 谷内2号横穴 | 横穴墓 | 古墳 | 52 | 1304200 | 北中条遺跡 | 集落・その他 | 縄文,弥生,古墳,古代 |
| 24 | 1303900 | 能瀬遺跡 | 散布地 | 弥生,古墳,古代 | 53 | 1310500 | 北中条タカテラ遺跡 | 散布地 | 中世 |
| 25 | 1310300 | 加茂ヒヤクハチジュウワリ遺跡 | 集落 | 弥生 | 54 | 1300300 | 南中条遺跡 | 散布地 | 縄文,古墳 |
| 26 | 1303100 | 能瀬南遺跡 | 集落 | 古代,中世 | 55 | 1300400 | 南中条横穴 | 横穴墓 | 古墳 |
| 27 | 1303800 | 能瀬神社遺跡 | 散布地 | 中世 | 56 | 1300200 | 太田遺跡 | 散布地 | 古墳 |
| 28 | 1310400 | 能瀬南B遺跡 | その他の墓 | 弥生 | 57 | 1300100 | 太田シタンダ遺跡 | 集落 | 古代 |
| 29 | 1303200 | 加茂ツチグワラ遺跡 | 集落 | 弥生 | 58 | 1311800 | 庄ナカシマ遺跡 | 集落 | 中世 |
| 30 | 1303400 | 加茂明神遺跡 | 散布地 | 古墳 | 59 | 1311700 | 中橋遺跡 | 集落 | 弥生,古代 |

第3表 周辺の遺跡一覧表

〔参考文献〕

(財)石川県埋蔵文化財センター2009『津幡町 加茂遺跡Ⅰ』
 津幡町教育委員会2012『加茂遺跡 詳細分布調査(第1~21次調査区)発掘調査報告書』
 (公財)石川県埋蔵文化財センター2018『津幡町 加茂遺跡・加茂窯跡群』
 宇田高明他2002「石川海岸の地形学的変化と手取川河口デルタの変形」 土木学会『海洋開発論文集18』
 河北潟環境対策期成同盟会2007『河北潟とわたしたちの暮らし』
 津幡町史編纂委員会1974『津幡町史』
 藤 則雄1975「北陸の海岸砂丘」 『第四紀研究』第四紀研究会
 藤 則雄1999「日本海沿岸における後水期の環境変化と国際的対比」 金沢経済大学人間科学研究所『telos』vol.23
 三浦純夫1993「Ⅳ 河北潟と周辺の古代遺跡」 『加茂遺跡-第1次・第2次調査の概要-』社団法人石川県埋蔵文化財保存協会
 三浦純夫2015「北陸道深見駅について-河北潟東縁の調査成果から-」 松藤和人編『同志社大学考古学シリーズ XI
 森浩一先生に学ぶ 森浩一先生追悼論集』
 平川南監修・(財)石川県埋蔵文化財センター編2001『発見! 古代のお触れ書き 石川県加茂遺跡出土加賀群勝示札』

第3章 調査の方法と基本層序

第1節 調査の方法

調査区区割り・調査面 本遺跡の調査は、遺跡が損壊を受ける幅約80m、延長約480mにわたる区間を対象として、工事工程と調整しながら、おおむね西側から順次実施している。広大な調査区は、道路や農道、用排水路で分断されること等から、調査グリッドと各年度に付す調査区(地区名)を併用した区割りとし、調査グリッドについては第11次までを統一している。

| 第6次調査 | 第7次調査 | 第8～10次調査 | 本書の調査区名 |
|--------|----------|----------|---------|
| - | 第7次I区宅地横 | - | 第7次A区 |
| 第6次IV区 | - | 第8次C区 | (第8次C区) |
| - | 第7次I区西 | | 第7次C区 |
| - | 第7次I区東 | 第9次D区 | 第7次D区 |
| - | 第7次I区東 | 第10次K区 | 第7次K区 |
| - | 第7次II区 | 第9次F区 | 第7次F区 |

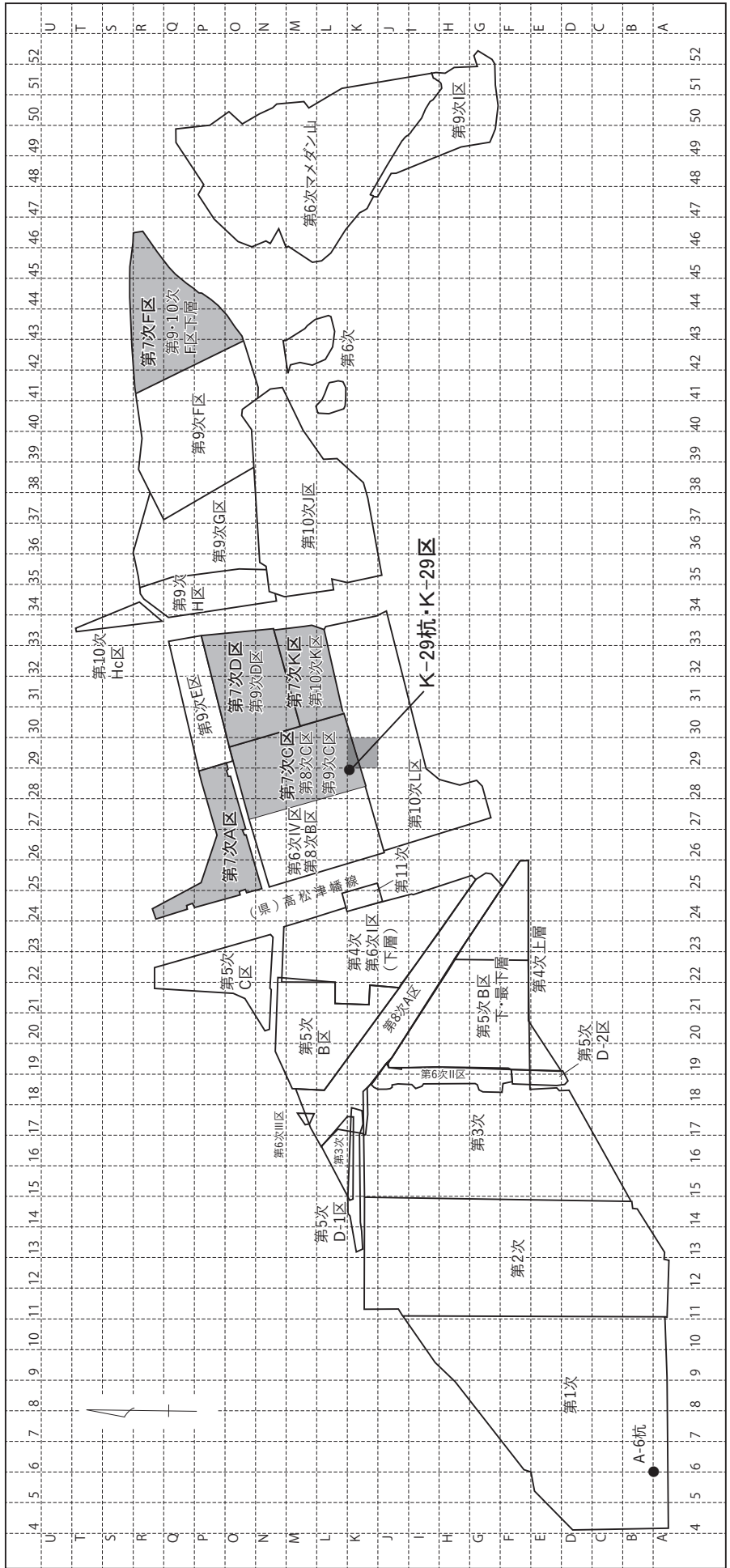
第4表 第6～10次調査の調査区名対比表

まず、調査グリッドは、平成3年度(第1次調査)着手段階に調査対象範囲の南西端を起点として、平面直角座標第Ⅶ系(日本測地系)を用いて全域を網羅する10m方眼単位の正方形グリッドを設定した。そして、グリッドを画する基準杭(交点)に、南方向から北方向に向けてA～Uまでのアルファベット番号を、また西方向から東方向に向けてアラビア数字1～52を付した。その交差杭および杭南東側の10m方眼グリッドの関係は、例えば「K-29杭」「K-29区」の関係として第5図に示した。国家座標上の位置は、A-6杭がX座標+77,750・Y座標-39,240、K-29杭がX座標+75,850・Y座標-39,010となる。調査区は、前述のとおり、調査時も機能を維持する必要があった既存の道路や農道等により区切られる範囲を単位に付与している。第7次調査については、大きく2ヶ所の範囲を対象に実施し、西側の調査区をI区、約80m東側の調査区をII区と呼称している。続く、第8次調査において、第7次調査I区を細分しながら下位の生活面の調査を実施する計画になったことから、県道高松津幡線以東の調査区(地区)に対して、新たにAから始まるアルファベット番号を付与している。本書では、混乱を避けるため、第8次調査以降に新たに採用した調査区名で報告を行う。第6～10次調査における調査区名の対比は、第4表のとおりであり、現地調査時のI区をA・C・D・K区として、またII区をF区として報告する。

調査面については、昭和62(1987)年度、平成元(1989)年度に建設省北陸地方局金沢工事事務所(当時)の依頼により、石川県立埋蔵文化財センター(当時)が実施した分布調査(主に重機による壺掘り)の結果(2面の調査面：奈良・平安時代、古墳時代)を受けて、現地調査に着手している。第7次調査においては、上層(奈良・平安時代)調査時に、下層を確認するトレンチ調査を実施したところ、その下位に複数の新たな生活面の存在が明らかとなり、途中で調査面の呼称を上層・下層からアラビア数字に切り替えている。上層は「第1面」となり、下位層まで調査を進めたA区(現地調査時のI区宅地横)は、第1面に加えて、上位面から順に第2～5面と各調査面を呼称している。結果として、遺構の記録及び出土遺物の取上げについては、調査次・地区名・調査面名・グリッド区名・遺構番号を組み合わせた呼称を基本としている。また、本書では、調査区名をI・II区からA・C・D・K・F区に変更したため、例えば、現地調査時の「7次I区上層O-26区SD124」は「7次A区第1面O-26区SD124」といった記述に統一している。

調査の方法 現地調査では、表土、盛土及び各調査面間に流入・堆積している無遺物層については、

第1節 調査の方法



A6グリッド
 X= 75,750 (日本測地系) 76,096.76 (世界測地系)
 Y= 39,240 (日本測地系) -39,508.51 (世界測地系)
 (測地系の変換は、国土地理院 web 版 TKY 2 JGD ver.1.3.80 による。小数点 3 桁以下四捨五入)

第5図 加茂遺跡グリッド配置及び調査区割り図 (S=1/2,000)

作業の効率化を図るため重機を用いて除去作業を実施した。その後、人力により遺物包含層の掘削作業と、遺構検出面の精査および遺構検出作業を行った。

遺構番号は、各調査区で現地調査時に推定した遺構の性格を反映した略記号SK(土坑)、SD(溝)、P(ピット)等と、主に遺物が出土した遺構を対象として、各調査面で検出順に1番から連続する通し番号を付与

している(第5表)。この遺構番号は、各遺構の固有番号として、出土遺物の取り上げ、土層等の記録、遺物整理作業、出土遺物の管理に使用している。なお、報告書作成に際して調査時及び整理時の所見を踏まえ、第5面で平地建物(SI)に復元した遺構群等については新たに3桁の番号を付した(各柱穴番号は現地調査時の遺構番号のまま記載)。

検出した各遺構は、各区・各面で遺構概略図(縮尺1/100)を作成し、位置や遺構番号、遺構覆土などに関する所見を記録しながら、その主軸を基準に半裁または土層観察用の畔を残して作業員による人力での掘り下げ作業を行った。その後、各遺構について土層を観察のうえ、必要に応じて土層断面図・立面図の作成と写真撮影(主に35mmカラーネガ、カラーリバーサル、白黒の各フィルム)で記録作業を実施した。遺構図面は縮尺1/20を基本とし、遺物の出土状況等の微細な表現が必要な場合は縮尺1/10の図化作業を行った。また、各調査面の遺構完掘後、遺構平面図(縮尺1/20)を効率的に作成するため、ラジオコントロールヘリコプターによる空中写真測量図化作業をセントラル航業(株)に委託して実施している。

本書の記載は、建物跡(SB・SI)、土坑(SK)については、基本的に平面図および断面図を組み合わせて説明するものとし、単独の小穴(P)、溝(SD)等の平面図は遺構全体の分割図(縮尺1/100)および必要に応じて断面図を用いて説明を加える。また、遺物が多出した遺構については出土状況図を示した。なお、出土遺物観察表については、他調査区との混同を防ぐため、調査次・区名・調査面名(例えば、7次A区第1面は「7A1」、A区第3面は「7A3」を遺構名の前に付している。

第2節 基本層序

津幡北バイパス事業地については、第1節のとおり、上下2つの調査面を前提とした発掘調査が計画された。しかしながら、調査が進捗するにつれ、舟橋川によって小谷(幅約150m)に形成された沖積地は複雑な土壌堆積を呈するとともに、縄文時代中期後半以降の生活面(第10次調査で最大6面)が存在することが次第に明らかとなっている。第7次調査についても、当初は間層を挟んだ上下2面を想定して着手したが、もっとも古い生活面まで調査を完了したA区で、弥生時代中期後半～古墳時代前期の調査面を4面(第2～5面)、奈良・平安時代を1面(第1面)という都合5回の調査面を設定することとなった。

第7次調査区の調査着手前は、大規模な盛土を伴う耕地整理による水田が整然と並ぶ景観であった。調査前の水田標高は、A区が6.35～6.40m、C・D・K区が5.95～6.10mと、両調査区を区切る農業排水路を挟んで高低差をもち、農業排水路および西側に向けて、緩やかに標高を減ずる。耕地整理前の旧耕作土は一部で残存し、第7図土層断面fで標高約5.00m、同図土層断面gで標高5.30～5.36mを、

| 調査面 | 主な時期 | 遺構番号1 (現地調査付与) | 遺構番号2 (整理段階付与) |
|-----|----------------------------|-------------------|-------------------|
| 第1面 | 古代以降 | 1～ | SB111～、SA111～ |
| 第2面 | 古墳前期 | 201～ | |
| 第3面 | 弥生後期～古墳初頭か | 301～ | |
| 第4面 | 弥生後期 | 401～ | |
| 第5面 | 弥生中期後半 | 501～、601～ | SI501 |
| 遺物 | 出土遺物遺物観察表に「7A1」、「7B1」等を付与。 | | |

第5表 第7次調査の遺構番号一覧表

それぞれ測る。第1面の遺構検出面の標高は、A区では最北端が5.20 m、南西端が5.08 m、北東端が5.49 m、南東端が5.39 mを、C・D・K区では北東端が5.54 m、南東端が5.46 m、北西端が5.25 m、南西端が5.21 mを、それぞれ測る。最も高いD区O-31区付近が5.65 m、最も低いA区O-25区付近が5.08 mを測り、北東方向から南西方向に向けて緩やかに標高を減ずる地勢が復元できる。

調査区の基本層序は、上位層から調査着手前の水田耕作土、耕地整理盛土、第1面遺物包含層、第1面ベース土と続き、以下、第5面ベース土まで谷部特有の複雑な土壌堆積を示す。A・C・D・K区の調査壁8ヶ所における堆積状況を、第6・7図、第6表で示した。調査着手前の水田面～第1面ベース土までは厚さ0.36～1.15 mと、耕地整理の切り盛りを反映して不均等である。一方、第1面ベース土～第5面ベース土までの厚さは0.42～0.66 mと比較的薄く、逐次流入・堆積した粘質土を基調とした土壌がほぼ水平に堆積する。

第1面 遺物包含層は褐灰・暗褐灰～黒褐色粘質土、ベース土は浅黄橙～浅橙色粘質土を基調とする。後世の耕作および耕地整理の削平で、遺物包含層が存在しない箇所(土層断面d～f)や、異なる土壌をベース面とする箇所(土層断面a・b・e)が存在する。

第2面 ベース土は浅黄灰色粘質土を基調とし、灰白色粘質土(土層断面a・c)、暗灰色粘質土(同e)となる箇所も存在する。ベース土の標高は、5.06～5.63mを測る。

第3面 ベース土は、土層断面a～c・hが褐灰色粘質土であるのに対して、土層断面dが浅黄色粘質土、同eが淡灰色粘質土、また、同f・gが存在しないように、土層断面d～gで不安定な様相を示す。ベース土の標高は、4.90～5.52 mを測る。なお、第3面ベース土の下位層に灰白～黄灰白色粘質土が広範に存在する。

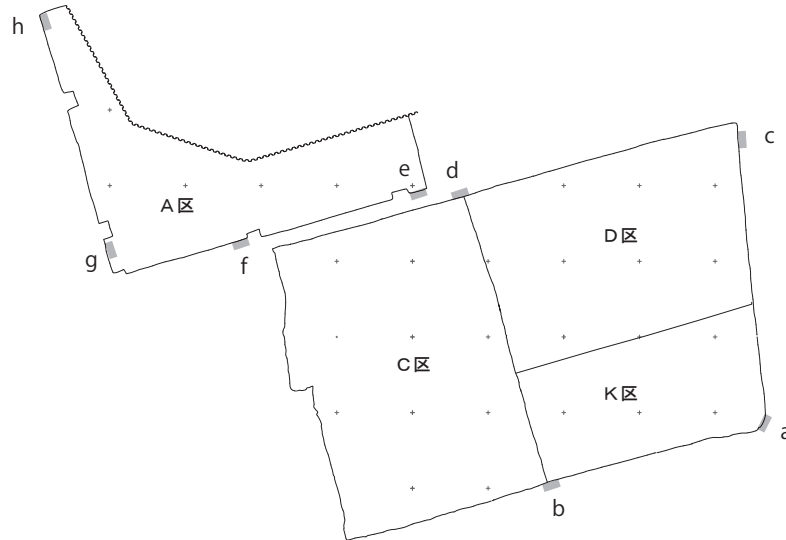
第4面 ベース土は、炭化物が多く混ざる黒褐～暗灰色粘質土で、ベース土の高さは4.60～5.34 mを測る。

第5面 ベース土は青灰～灰色粘質土で、標高4.52～5.12 mを測る。なお、第6表に第5次調査B区土層断面m-m'を示した。第5次調査B区では、第7次調査で確認できた第3面ベース土が欠落する他、第5面は集落域から外れていたと判断できる。

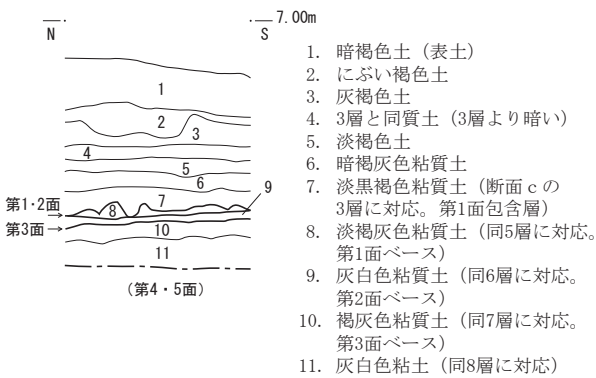
| | 調査前表土 | 第1面 | | | 第2面 | | 第3面 | | 間層 | 第4面 | | 第5面 | |
|-----------------|--------|--------------|---------------|--------|-----------------------|--------|-----------------------|--------|------------------|------------------------|--------|---------------|--------|
| | | 包含層 | ベース土 | 標高 | ベース土 | 標高 | ベース土 | 標高 | | ベース土 | 標高 | ベース土 | 標高 |
| 土層断面a | 6.60 m | 7層: 淡黒褐色粘質土 | 8層: 淡褐灰色粘質土 | 5.56 m | 9層: 灰白色粘質土 | 5.46 m | 10層: 褐灰色粘質土 | 5.40 m | 11層: 灰白色粘質土 | - | - | - | - |
| 土層断面b | 6.14 m | 4層: 黒褐色粘質土 | (第3面と同じ) | 5.36 m | (第3面と同じ) | 5.36 m | 5層: 褐灰色粘質土 | 5.36 m | 6・7層: 灰黄色～灰白色粘質土 | 9層: 淡黒褐色粘質土 | 4.90 m | 12層: 青灰色砂質土 | 4.82 m |
| 土層断面c | 6.14 m | 3層: 暗褐灰色粘質土 | 4・5層: 浅黄橙色粘質土 | 5.78 m | 6層: 灰白色粘質土 | 5.63 m | 7層: 褐灰色粘質土 | 5.52 m | 8層: 灰白色粘質土 | 10層: 淡黒褐色粘質土 | 5.34 m | 11層: 青灰色砂質土 | 5.18 m |
| 土層断面d | 6.08 m | (削平か) | 6層: 浅橙色粘質土 | 5.62 m | 7層: 黄橙色粘質土 | 5.46 m | 8層: 浅黄色粘質土 | 5.26 m | 9層: 灰白色粘質土 | 10層: 淡黒褐色粘質土 | 5.14 m | 11層: 青灰色砂質土 | 5.02 m |
| 土層断面e | 6.02 m | (削平か) | 9層: 黄白色粘質土 | 5.58 m | 10層: 暗灰色粘質土 | 5.50 m | 11層: 淡灰色粘質土 | 5.46 m | 12層: 黄白色粘質土 | 13層: 黒褐色粘質土 | 5.28 m | 14層: 灰白色粘質土 | 5.12 m |
| 土層断面f | 6.02 m | (削平か) | 6層: 浅黄橙色粘質土 | 5.36 m | 7層: 浅黄灰色粘質土 | 5.26 m | (9層: 黄白色粘質土) | 5.08 m | 9層: 黄白色粘質土 | 10層: 暗灰色粘質土 | 4.86 m | - | - |
| 土層断面g | 6.33 m | 5層: 褐灰色粘質土 | 6層: 浅黄橙色粘質土 | 5.18 m | 7層: 浅黄灰色粘質土 | 5.06 m | (8層: 黄白色粘質土) | 4.90 m | 8層: 黄白色粘質土 | 15層: 黒褐色粘質土 | 4.60 m | 16層: 灰白色粘質土 | 4.52 m |
| 土層断面h | 6.26 m | 3層: 褐灰色粘質土 | 4層: 黄橙色粘質土 | 5.38 m | 5層: 灰褐色粘質土 | 5.32 m | 13層: 灰褐色粘質土、20層: 灰黄褐色 | 5.20 m | 未確認 | (21・22層: 褐灰色粘質土か) | 5.14 m | (23層: 青灰色粘質土) | 4.96 m |
| 第5次調査B区南壁断面m-m' | - | 4層: 濁灰褐黄色粘質土 | 14層: 淡黄灰色粘質土 | - | (下層ベース土) 15層: 淡黄灰色粘質土 | - | - | - | 未確認 | [最下層ベース土] 16層: 黒灰色強粘質土 | - | 17層: 淡青灰色強粘質土 | - |

第6表 各調査面のベース土一覧表

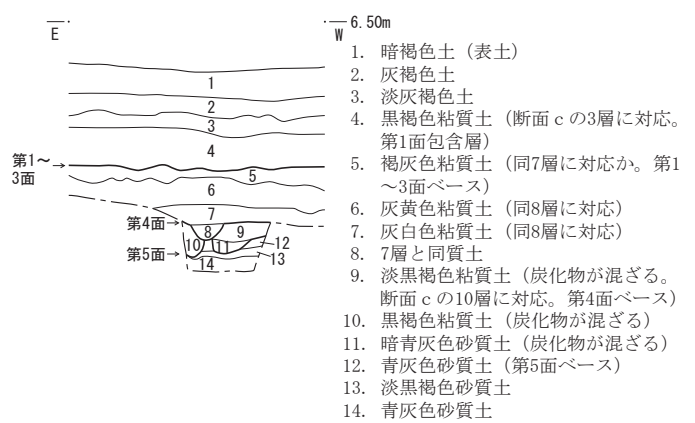
土層断面図の位置



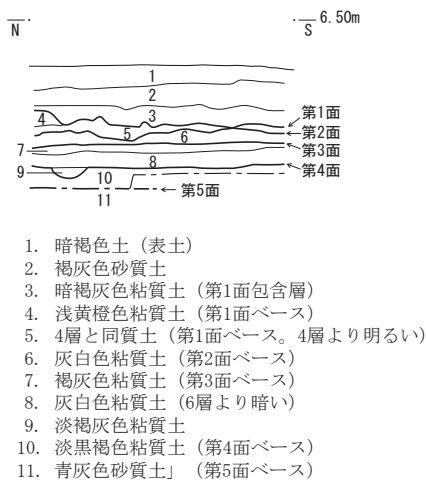
土層断面a



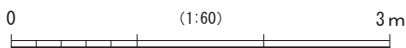
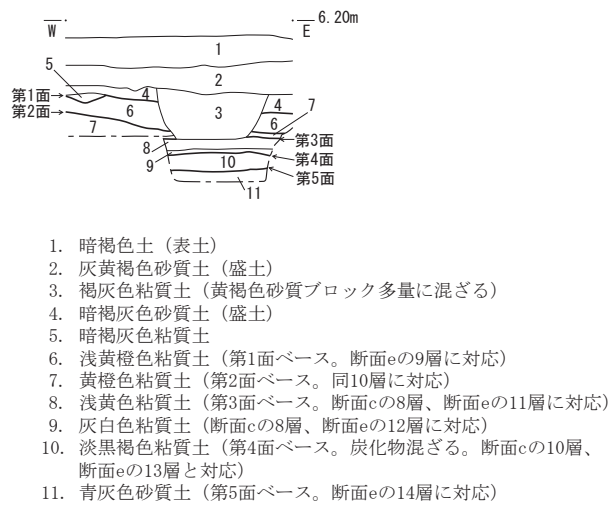
土層断面b



土層断面c

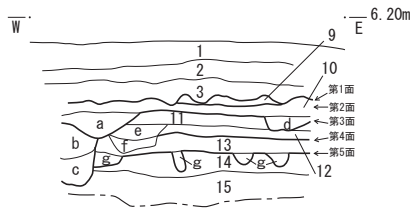


土層断面d



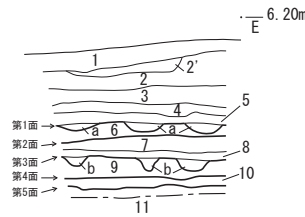
第6図 A・C・D・K区の土層層序1 (S=1/1,000、1/60)

土層断面e



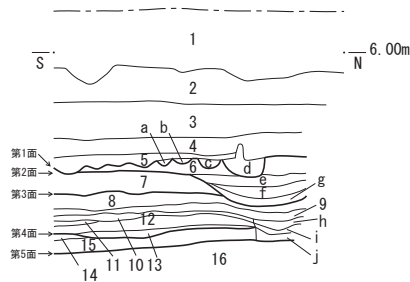
1. 暗褐色土 (表土)
2. 暗褐色灰砂質土 (盛土)
3. 灰黄色砂 (盛土)
9. 黄白色粘質土 (第1面ベース)
10. 暗灰色粘質土 (第2面ベース。炭化物が多く混ざる)
11. 淡灰色粘質土 (第3面ベース)
12. 黄白色粘質土
13. 黒褐色粘質土 (第4面ベース。炭化物が非常に多く混ざる)
14. 灰白色粘質土 (第5面ベース)
15. にぶい淡灰色粘質土
- a. にぶい灰黄色粘質土 (褐灰色粘質土粒、炭化物少量混ざる)
- b. 灰色粘質土 (暗褐色粘質土粒が混ざる)
- c. 褐灰色粘質土
- d. 黄灰色粘質土
- e. 黄灰色粘質土
- f. 浅黄色粘質土
- g. 13層と同質土

土層断面 f



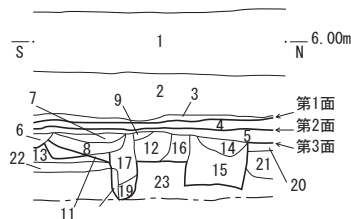
1. 暗褐色土 (表土)
- 2'. 暗褐色灰砂質土 (盛土、灰白色砂が混ざる)
2. 暗褐色灰砂質土 (盛土)
3. 灰黄色砂 (盛土)
4. にぶい灰褐色粘質土 (旧耕土)
5. 淡灰色粘質土 (床土か)
6. 浅黄褐色粘質土 (第1面ベース)
7. 浅黄灰色粘質土 (第2面ベース)
8. 淡灰黄色粘質土 (炭化物が少量混ざる)
9. 黄白色粘質土 (第3面ベース)
10. 暗灰色粘質土 (第4面ベース。炭化物が多く混ざる)
11. 淡灰色粘質土 (第5面ベースか)

土層断面 g



1. 明黄褐色土
2. 青黒色土
3. 暗褐色土
4. 淡灰褐色粘質土 (旧耕作土)
5. 褐灰色粘質土
6. 浅黄褐色粘質土 (第1面ベース)
7. 浅黄灰色粘質土 (第2面ベース)
8. 黄白色粘質土 (第3面ベース)
9. 暗灰色粘質土 (炭化物が非常に多く混ざる)
10. 黄白色粘質土
11. 暗灰色粘質土 (炭化物が非常に多く混ざる)
12. 灰色粘質土 (炭化物混ざる。)
13. 暗灰色粘質土 (炭化物が非常に多く混ざる)
14. 灰色粘質土 (第4面ベース)
15. 黒褐色粘質土 (第4面ベース。炭化物が非常に多く混ざる)
16. 灰白色粘質土 (第5面ベース)
- a. 褐灰色粘質土
- b. 褐灰色粘質土
- c. にぶい黄褐色粘質土
- d. にぶい橙色粘質土
- e. 明褐色粘質土 (炭化物少量混ざる)
- f. 褐灰色粘質土 (炭化物少量混ざる)
- g. 灰白色粘質土
- h. 灰白色粘質土
- i. 暗灰色粘質土 (炭化物が非常に多く混ざる)
- j. 灰色粘質土

土層断面 h



1. 明黄褐色土
2. 暗褐色土
3. 褐灰色粘質土
4. 黄褐色粘質土 (第1面ベース)
5. 灰褐色粘質土 (炭化物が混ざる。第2面ベース)
6. 灰褐色粘質土 (5層より暗い。炭化物が混ざる)
7. にぶい黄褐色粘質土
8. 暗褐色粘質土
9. 暗褐色粘質土
10. 淡黒褐色粘質土
11. 褐灰色粘質土
12. にぶい褐色粘質土 (炭化物が混ざる)
13. 灰褐色粘質土 (第3面ベース)
14. 淡黒褐色粘質土 (炭化物が混ざる)
15. 灰褐色粘質土 (炭化物が混ざる)
16. にぶい褐色粘質土
17. 淡黒褐色粘質土 (炭化物が混ざる)
18. 灰色粘質土
19. 青灰色粘質土 (炭化物が混ざる)
20. 灰黄褐色粘質土 (第3面ベース。炭化物が混ざる)
21. 褐灰色粘質土 (炭化物が混ざる)
22. 褐灰色粘質土
23. 青灰色粘質土 (第5面ベースか)



第7図 A・C・D・K区の土層層序2 (S=1/60)

第4章 A区の遺構と遺物

第1節 調査の概要

第7次調査A区は、第3章で記したとおり、現地調査時は「第I区宅地横」と称した調査区であり、東側は第9次調査E区に、また西側は主要地方道高松津幡線を挟んで第5次調査C区にそれぞれ接する。調査対象面積は約1,000㎡(第4面は500㎡)を測り、調査グリッドでいえばN-25区、O・P-24~29区、Q-24・25区、R-24区にあたる(第9図)。各遺構検出面の地勢は、北東方向から南西方向に向けて緩やかに標高を減ずる。

調査の結果、上面から順に、第1面(9世紀後葉~10世紀前葉)、第2面(古墳時代前期)、第3・4面(弥生時代後期~古墳時代前期初頭)、第5面(弥生時代中期後半)の都合5回の生活面を確認した。このうち、第2面~第5面は、第3章で記したとおり、谷部に逐次流入・堆積した粘質土をそれぞれ遺構検出面とする。

第1面は、第1~6次調査区と一体をなす平安時代前期の集落跡、耕作地である。調査区中央を蛇行する自然流路(7A1SD66・91)が埋没した後、2つのエリアで建物群が展開、北西側の建物群は近接または重複しながら建て替える。掘立柱建物4棟を復元した他、遺物量は第1~6次調査に比して比較的少ない。また、10世紀初頭に位置付けられる土坑(7A1SK07)から漆紙文書1点(第22図25)が出土、「公□万呂」「天長九年本□」「承和貳」「石一斗」の文字が判読できる。建物群が廃絶する10世紀前葉以降は、耕作地に転じ、耕作に伴う小溝群多数を検出している。

第2面は、第5次調査C区下層SD5501とつながる自然流路(7A2SD202)の他、並走する溝3条、少数のピットを検出した。蛇行しながら西側に流下する自然流路は、土層断面から大きく4回の流路を復元でき、周辺の集落域から流れ込んだ大量の弥生土器、土師器や木器・木製品、自然木、石製品が出土している。

(白山市教委 2013より作成)

| 時期区分 | 想定年代 | 備考 | 暦年代 | 田嶋 明人 (2012) | 出越 茂和 (1997a・b) | 望月 精司 (2008・10) |
|---------------------|-------------|---------------------|---------------------|---------------------|--------------------------------|------------------------------|
| I 期 | 6世紀末~7世紀中頃 | 飛鳥Ⅰ・Ⅱ | 750 | Ⅲ期 (新) | 上荒屋1期(Ⅳ ₁ 古期) | 4A期(Ⅲ期新~Ⅳ ₁ 期(古)) |
| Ⅱ ₁ 期 | 7世紀中葉後半 | 飛鳥Ⅲ | | Ⅳ ₁ 期 | | 4B期(Ⅳ ₂ 期(古)) |
| Ⅱ ₂ 期 | 7世紀末 | 飛鳥Ⅳ | 800 | Ⅳ ₂ 期(古) | 上荒屋2期(Ⅳ ₂ 期(古)) | 5A期(Ⅳ ₂ 期(新)) |
| Ⅱ ₃ 期 | 8世紀初頭 | 平城Ⅰ | | Ⅳ ₂ 期(新) | 上荒屋3期(Ⅳ ₂ 期(新)) | 5B期(V ₁ 期) |
| Ⅲ期 | 8世紀前葉 | 平城Ⅱ | 850 | V ₁ 期 | I-1期(V ₁ 期) | 5C期(V ₂ 期) |
| Ⅳ ₁ 期 | 8世紀中頃 | 長岡京 | | V ₂ 期 | I-2・3期(V ₂ 期) | 6A期(VI ₁ 期) |
| Ⅳ ₂ (古)期 | 8世紀後葉 | | Ⅳ ₂ (新)期 | Ⅵ ₁ 期 | I-3・4期(VI ₁ 期) | 6B期(VI ₂ 期) |
| Ⅳ ₂ (新)期 | 8世紀末~9世紀初頭 | V ₁ 期 | | Ⅵ ₂ 期 | Ⅱ-1期(VI ₂ 期) | 6C期(VI ₃ 期) |
| V ₁ 期 | 9世紀前葉 | | 900 | Ⅵ ₃ 期 | Ⅱ-2古期(VII ₁ 期) | |
| V ₂ 期 | 9世紀中頃 | 950 | | Ⅶ ₁ 期 | Ⅱ-2新・3期(VII ₂ 期(古)) | 7A期(VII ₁ 期) |
| Ⅵ ₁ 期 | 9世紀後葉 | | K-90 | 1000 | Ⅶ ₂ 期(古) | 7B期(VII ₂ 期(古)) |
| Ⅵ ₂ 期 | 9世紀末~10世紀初頭 | O-53 | Ⅶ ₂ 期(新) | | Ⅲ-1・2期(VII ₂ 期(新)) | 7C期(VII ₂ 期(新)) |
| Ⅵ ₃ 期 | 10世紀前葉 | | Ⅶ ₁ 期 | 1050 | 中世Ⅰ-1期 | 8A期(中世Ⅰ-1期) |
| Ⅶ ₁ 期 | 10世紀中葉 | 8B | | | | |
| Ⅶ ₂ (古)期 | 10世紀後葉 | Ⅶ ₂ (新)期 | | | | |
| Ⅶ ₂ (新)期 | 11世紀前葉 | | | | | |

第7表 加賀・能登の土器編年と暦年代対比表

第3面は、北東方向から南西方向に重複しながら流下する自然流路約10条の他、少数の土坑、ピットを検出し、自然流路を主体とした集落縁辺部の様相を呈する。自然流路から比較的多くの弥生土器、古墳時代前期初頭の土師器が出土している。

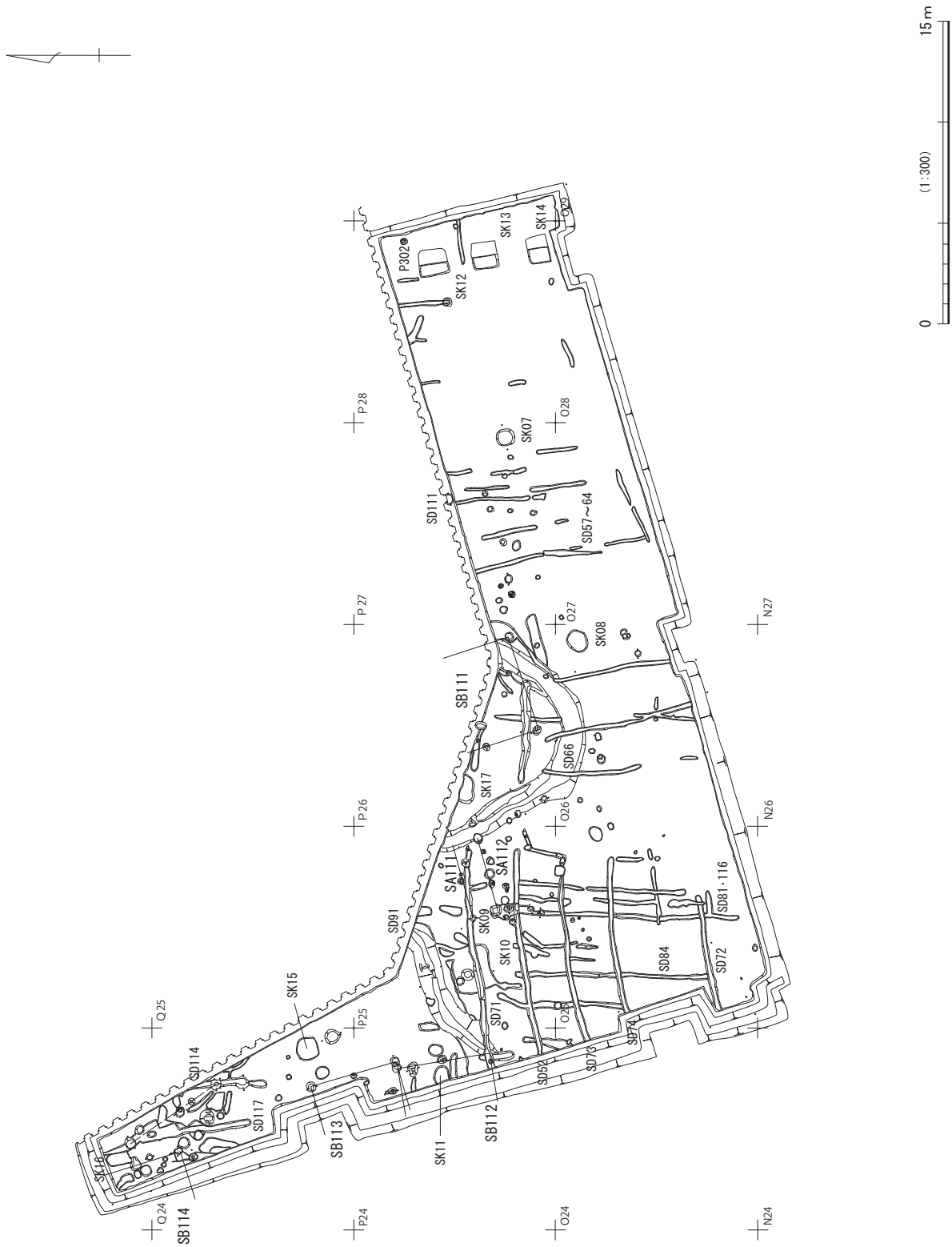
第4面は、土坑とした落ち込み5基、溝15条等を検出した。遺構密度は比較的low、集落縁辺部の様相を呈する。弥生時代中期後半の土器、石器が出土したが、その量は多くない。第5面は、一連の調査で初めて確認した弥生時代中期後半の集落域で、この集落域は第8・9次調査区に展開する。ほぼ同一地点で数次の建て替えを行う周溝を伴った平地建物1棟(7A5SI501)を復元した他、土坑22基、溝約20条、ピット約300基を検出した。遺物は比較的多く、弥生土器に加えて、平地建物の柱根・枕木を含む木製品、玉作りの剥片を含む石器・石製品が出土している。なお、本書の奈良・平安時代の時期表示は、田嶋明人氏による北陸地方の古代土器編年⁽¹⁾により記述しており、暦年代との対比に関しては第7表を参照されたい。

第2節 第1面の遺構と遺物

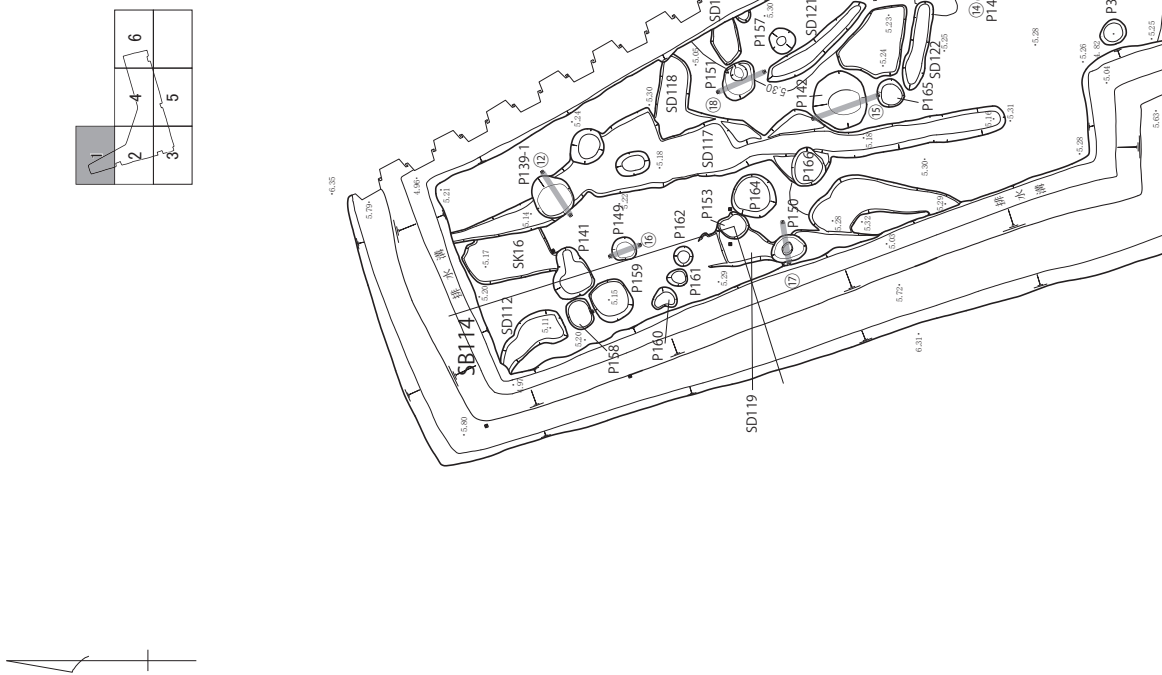
第1面は、第1～6次調査と一体をなす平安時代前期(9世紀後葉～10世紀前葉、VI₁～VI₃期)を中心とした集落跡、耕作地である。遺構検出面の標高は、最も高い調査区東北端(P-28区)が5.50mを、最も低い調査区西南端(O-25区)が5.08mを、調査区北端(R-24区)が5.20mをそれぞれ測り、北東方向から南西方向に向けて緩やかに標高を減ずる地勢となる。旧耕作土直下で一部残存した遺物包含層は暗褐灰色～黒褐色を呈する粘質土(第6図土層断面a第7層、同b第4層、同c第3層等)を、ベース土は淡褐灰色～浅黄橙色粘質土(第6図土層断面a第8層、同b第5層、同c第4・5層等)を、それぞれ基調とする。

調査の結果、掘立柱建物4棟(7A1SB111～114)、柵2列(7A1SA111・112)、土坑11基(7A1SK07～17)、柱穴を含むピット約100基、自然流路2条(7A1SD66・91)、溝68条を検出し、溝の多くは耕作に伴う小溝群となる(第8～14図)。遺構は、調査区西半に偏在する傾向を示しており、遺構の切り合い状況等から、①蛇行する自然流路(7A1SD66・91、第2面7A1SD202の最終埋没段階の可能性あり)、②北西側の建物・ピット群(Q・R-24区7A1SB114、周辺ピット群)、③小規模な建物2群(7A1SB111と7A1SB112・113)、④溝主軸方位が南北方向を指向する耕作地、⑤溝主軸方向が東西方向を指向する耕作地、⑥柵(7A1SA111・112)・7A1SK10の順に6小期の変遷が復元できる。このうち、②小期の建物・柱穴群は、調査区外北側に延びており、判然としないものの比較的多くの棟数を数える一つの建物域として、本遺跡の盛衰を考えるうえで重要と考えられる。建物群存続期の定点として、②小期の7A1SD114・③小期の7A1SB113からVI₂期の遺物が、また耕作地の存続期を考える資料として、VI₃期～VII₁期の土師器(SD84: 第24図33、遺物包含層: 第25図95)がある。

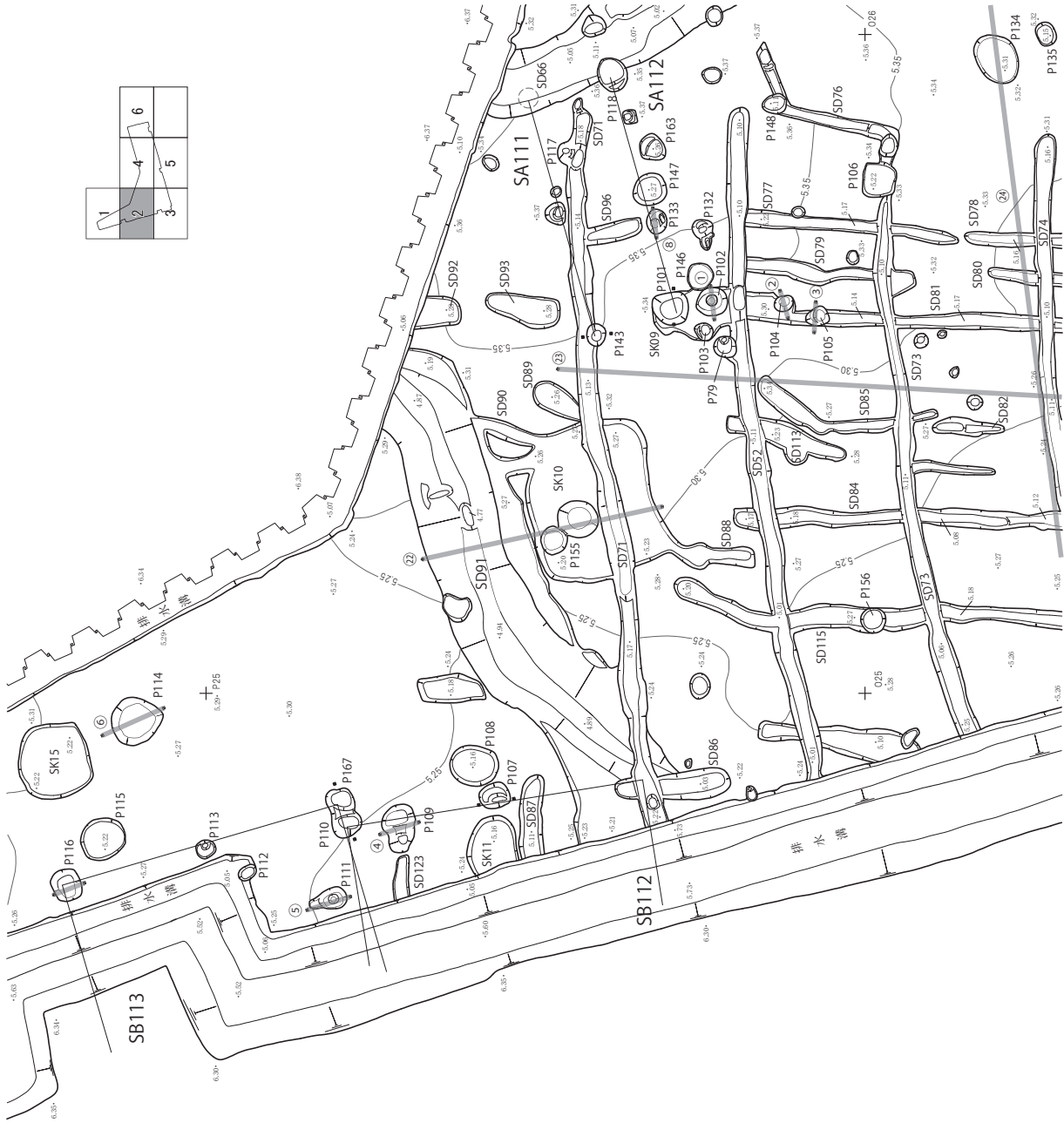
遺物は、「平」「福」等の墨書土器を含む、主に9世紀後葉～10世紀初頭(VI₁期～VI₂期)の須恵器、ロクロ土師器の他、本来第2～5面に属する遺物や鉄滓、中世陶磁器片が出土した。奈良・平安時代に属する遺物の数量は、主要地方道高松津幡線西側の調査区に比して少なく、時期的にも新しい。このうち、大型土坑(7A1SK07)から、9世紀末～10世紀初頭(VI₂期)に位置付けられる土器とともに漆紙文書1点が出土、第7章で詳述するが「公□万呂□」「天長九年本□」「承和貳」「石一斗」といった文字が判読できる。以下、主要な遺構について記すが、遺構番号冒頭に付した「7A1」は省略する。



第8図 A区第1面主要遺構配置図 (S=1/300)



第9図 A区第1面遺構平面図1、グリッド配置図(S=1/100・1/600)

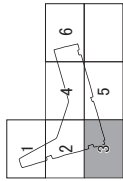
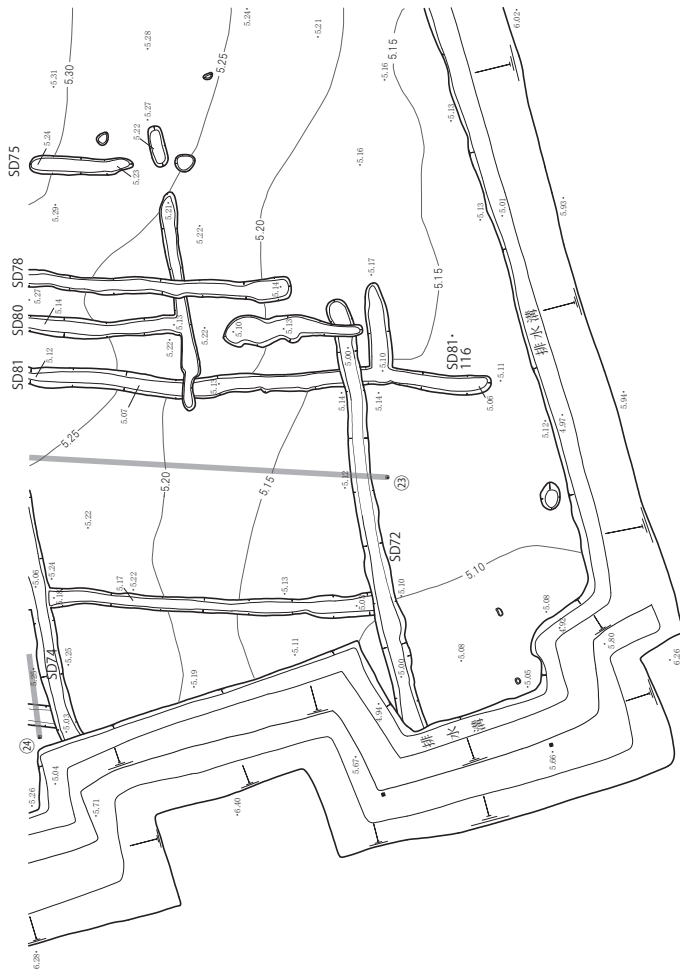


第10図 A区第1面遺構平面図2 (S=1/100)

0 (1:100) 5m

※ 丸囲い・数字は土層断面図の位置を示す。

第2節 第1面の遺構と遺物



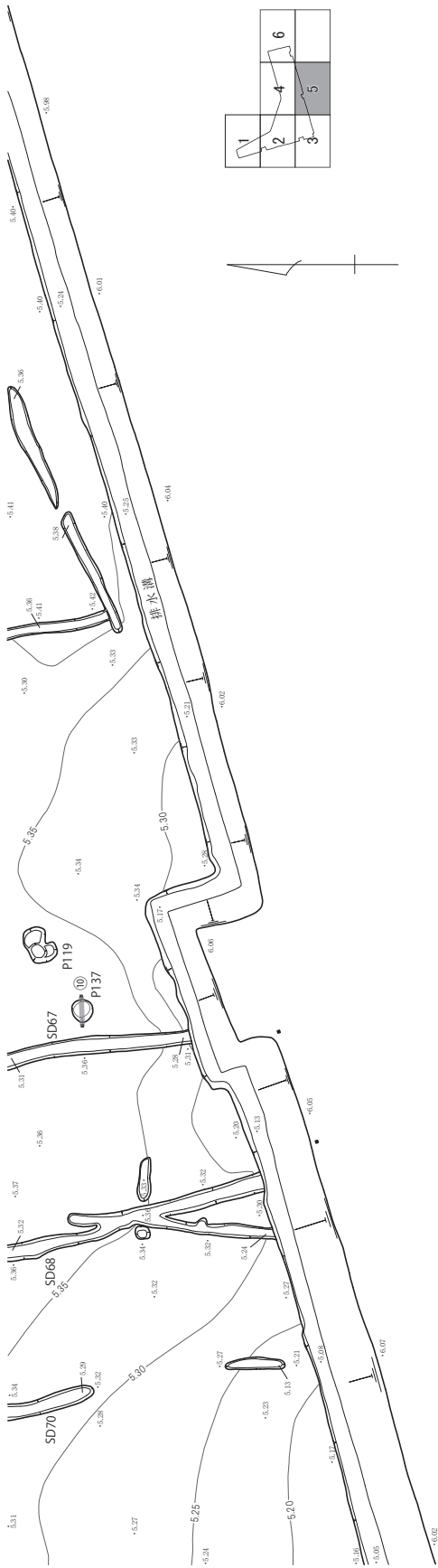
※ 丸囲い数字は土層断面図の位置を示す。

第11図 A区第1面遺構平面図3 (S=1/100)



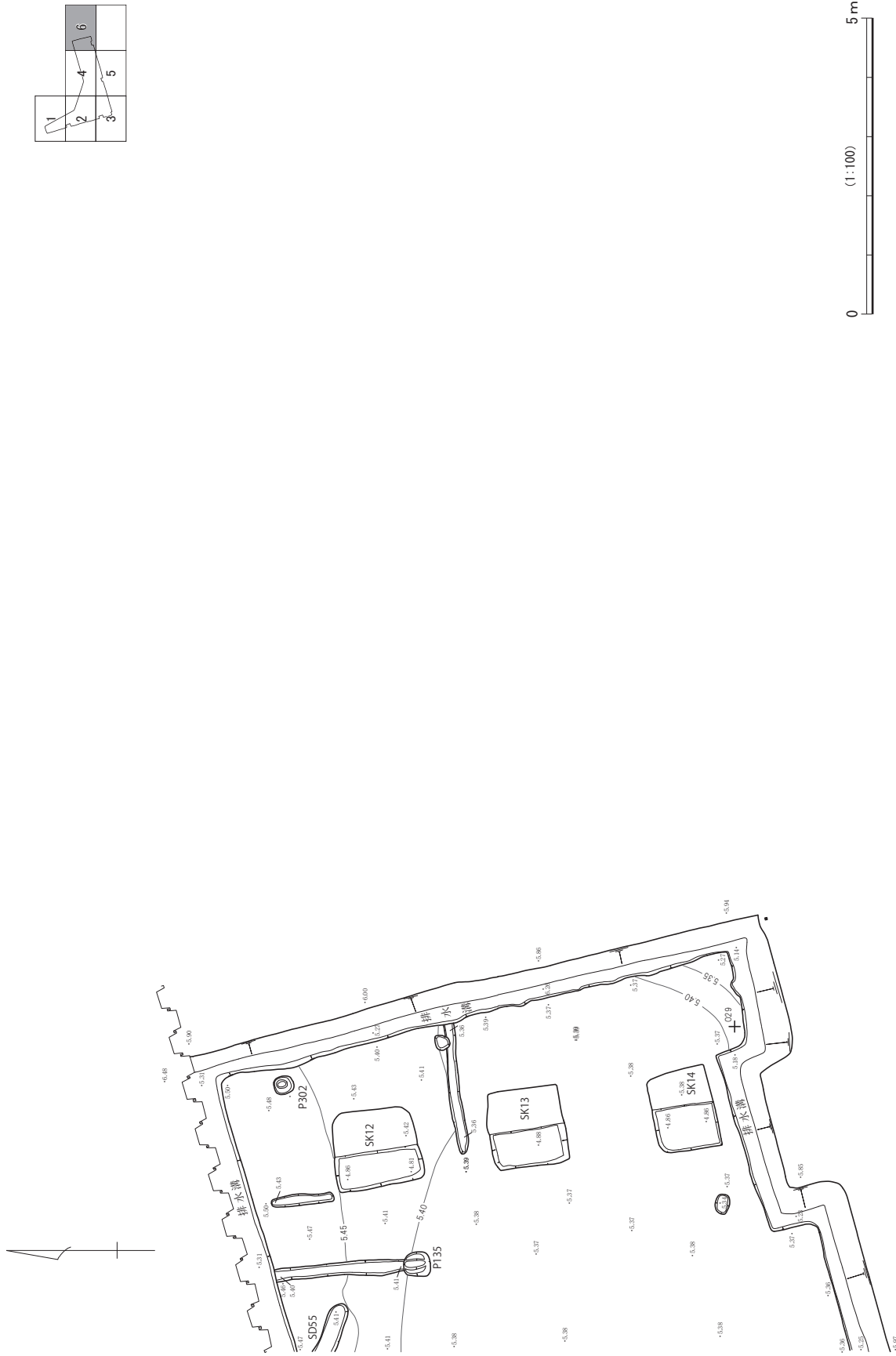
第12図 A区第1面遺構平面図4 (S=1/100)

第2節 第1面の遺構と遺物



第13図 A区第1面遺構平面図5 (S=1/100)

0 (1:100) 5 m
 ※ 丸囲い数字は土層断面図の位置を示す。



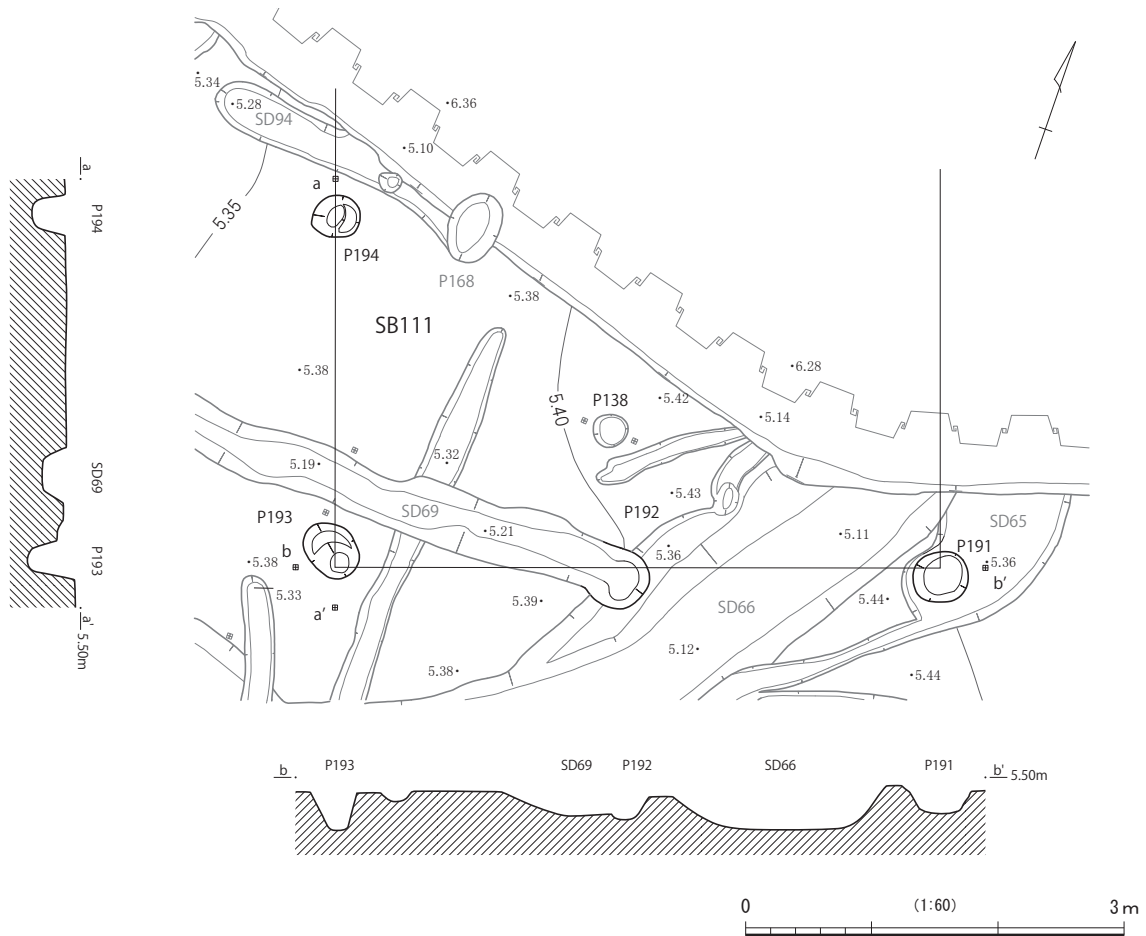
第14図 A区第1面遺構平面図6 (S=1/100)

第2節 第1面の遺構と遺物

※ 柱間寸法は北端から南端柱穴、または東端から西端柱穴の順に計測。

| 遺構名 | 図No | グリッド名 | 建物構造 | 柱配置(間) | 床面積(m ²) | 桁行長(m) | 桁行柱間寸法(m) | 梁行長(m) | 梁間柱間寸法(m) | 主軸方位 | 柱穴の平面形態 | 柱穴の規模(cm) | 柱根の有無 | 備考 |
|-----------|------|--------|------|--------|----------------------|--------|----------------|--------|----------------|----------------------|-------------|-----------|-------|--|
| 7A1 SB111 | 第15図 | P-26 | 側柱 | 1×2間 | - | 2.85~ | +2.85 | 4.80 | [南梁] 2.40+2.40 | N-19° W | 略円形 略楕円形 | 34~48 | なし | 北側にのびる。SD66より新。SD69より古。出土遺物なし |
| 7A1 SB112 | 第16図 | P-24 | 側柱か | 2×?間 | - | 4.60 | [東桁] 2.30+2.30 | - | - | N-9° W | 不整形 | 30~46 | なし | 柱根痕(径10~14cm)あり。SB113(P167)より新。SD71より古 |
| 7A1 SB113 | 第16図 | P-Q-24 | 側柱か | 2×?間 | - | 4.40 | [東桁] 2.20+2.20 | - | - | N-15° W | 不整形 略円形 | 26~48 | なし | 柱根痕あり(径約10cm)。SB112(P110)より古 |
| 7A1 SB114 | 第17図 | Q-R-24 | 側柱か | 2×?間 | - | 2.20~ | [東桁] +2.20 | - | - | N-19° W | 隅丸方形 不整形 | 36~66 | なし | 柱根痕(径約10cm)あり。SD119より古 |
| 7A1 SA111 | 第17図 | P-25 | - | 2間か | - | 3.70か | 1.80? +1.90 | - | - | N-76° E (N-14° W) | 略円形 不整形 | 28~34 | なし | SA112と並行。SD71より新 |
| 7A1 SA112 | 第17図 | P-25 | - | 2間 | - | 3.70 | 1.80+1.90 | - | - | N-76° E (N-14° W) | 略円形 不整形 | 44~54 | なし | SA111と並行。SD66より新 |

第8表 A区第1面SB、SA規模一覧表



第15図 A区第1面SB111平面図・土層断面図(S=1/60)

1 掘立柱建物・柵列(遺構：第15~17図、第8表、遺物：第21図、第13表)

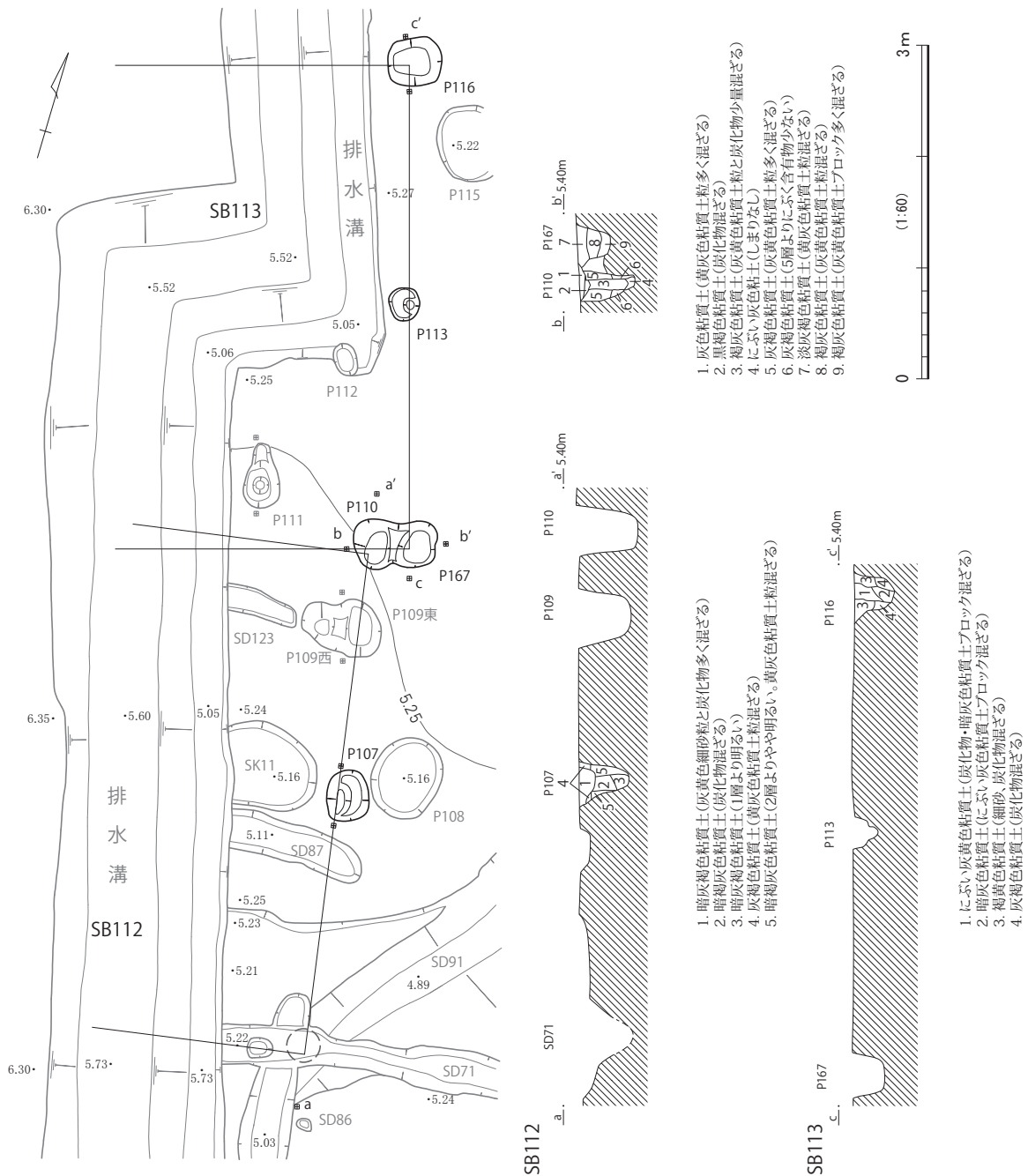
掘立柱建物4棟(SB111~114)、柵2列(SA111・112)を報告段階で復元したが、掘立柱建物はいずれも調査区外に延びるため建物プランを確定できない。分布状況からみれば、P-24区の建物群(SB112・113)、Q-R-24区の建物群(SB114)、P-26区の建物群(SB111)、P-25区の柵列(SA111・112)に分けられ、3つの建物群が耕作に伴う小溝群に前出する一方、柵列は耕作に伴う小溝群に後出する。また、Q-R-24区の建物群周辺に建物柱穴と考えられるピットが一定数点在することから、存在した掘立柱建物数はさらに多くなるものと推定する。なお、SB111~114、P191~194は、報告段階で新たに遺構番号を付与している。

SB111 (遺構：第15図)

P-26区で復元した側柱構造の掘立柱建物で、調査区外北側に延びる。建物主軸方位はN-19°Wを示し、桁行1間以上(2.85m)、梁間2間(4.80m)を測る。梁間の柱間寸法は2.40m等間であり、柱筋の通りはよい。柱穴の平面形態は、略円形を主体とし、P191が長径42cm、短径40cm、深さ20cmを、P193が長径48cm、短径38cm、深さ20cmを測るとおり、比較的小振りの柱穴となる。柱穴覆土は柱抜取埋土であり、灰褐～暗灰褐色粘質土を基本とする。柱根、柱根痕跡とも確認できず、遺構の切り合い関係からSD66より新しく、SD69より古く位置付けられる。遺物は出土していない。

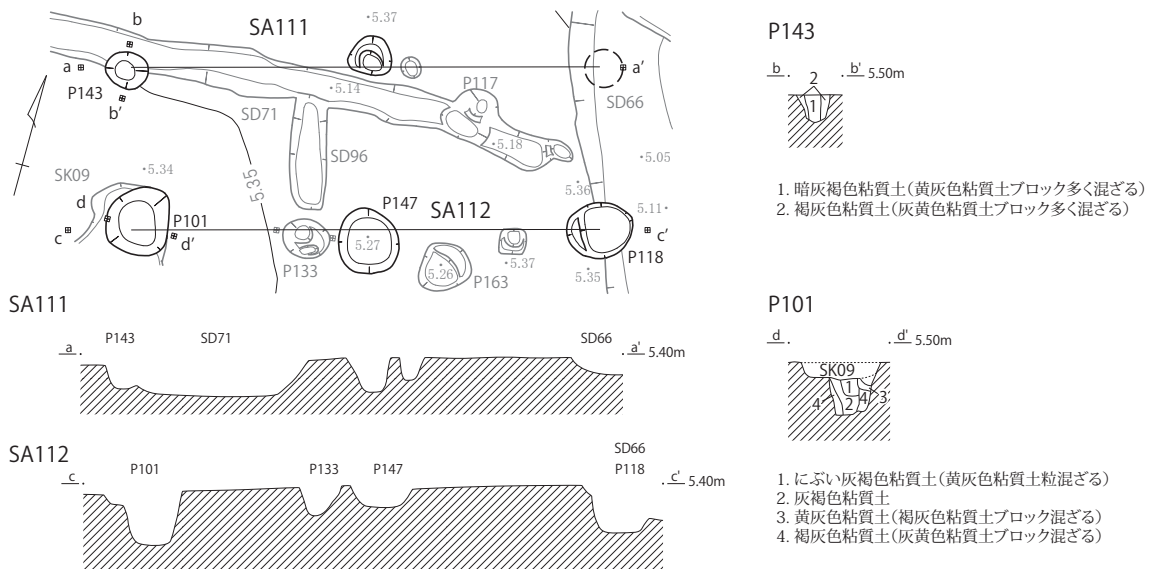
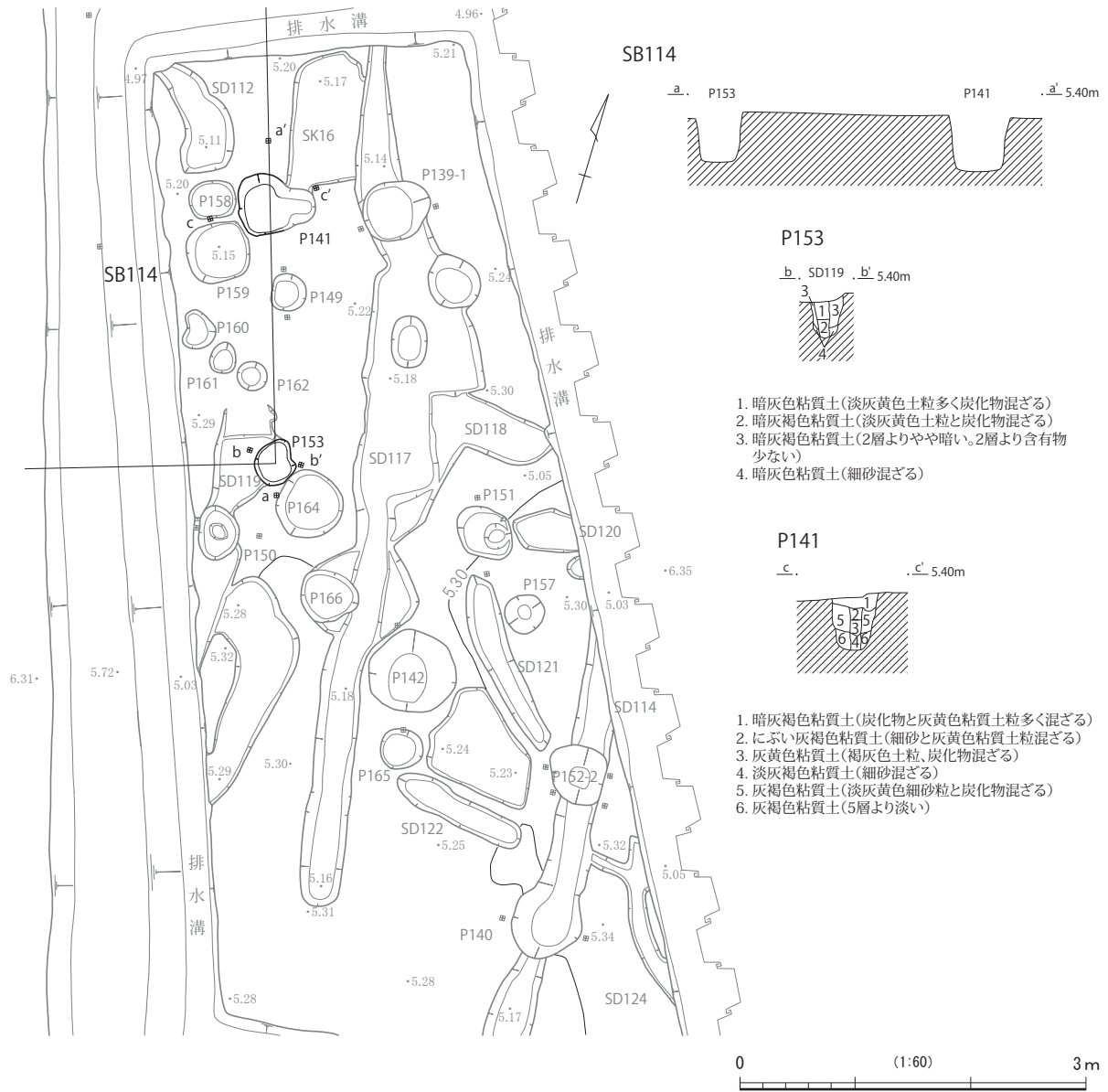
SB112 (遺構：第16図、遺物：第21図)

P-24区で復元した桁行2間(2.30m等間)の小規模な建物で、建物主軸方位はN-9°Wを示す。柱穴



第16図 A区第1面SB112・113平面図・土層断面図(S=1/60)

第2節 第1面の遺構と遺物



第17図 A区第1面SB114、SA111・112平面図・土層断面図(S=1/60)

の平面形態は不整円形を呈し、P107が長径46cm、短径38cm、深さ46cmを、P110が長径36cm、短径30cm、深さ50cmをそれぞれ測る。柱穴覆土は柱抜取埋土であり、炭化物が混ざる暗灰褐色粘質土を基調とする。柱根は遺存せず、径10～14cmの柱根痕跡が残る柱穴も存在する。建物敷地はSB113と一部重複し、P110・P167の切り合い関係からSB113より新しく位置付けられる。遺物は、P107から出土した第21図1～3を図示した。須恵器有台坏片1・2はVI₁期に位置付けられ、2は台部を内寄りに貼り付ける。3は摩滅したロクロ土師器塼である。また、P110から土器片が出土した。

SB113 (遺構：第16図、遺物：第21図)

P・Q-24区で復元した桁行2間(2.20m等間)の小規模建物で、建物主軸方位はN-15°Wを示す。柱穴の平面形態は不整方形を基調とし、小振りなP113が径約26cm、深さ20cmを、P116が長径48cm、短径44cm、深さ36cmをそれぞれ測る。柱穴覆土は柱抜取り後、灰黄～暗灰色粘質土で埋め戻す。柱根は遺存せず、P116に径12cmの柱根痕跡が残る。建物敷地はSB112と一部重複し、P110・P167の切り合い関係からSB112より古く位置付けられる。遺物は、第21図4・5の須恵器を図示した。P113出土の瓶4は口縁端部を上方にのぼし、正位で焼成される。P116出土の有台坏5はVI₂期に位置付けられる。他に須恵器片が出土した。

SB114 (遺構：第17図、遺物：第21図)

Q・R-24区で復元した建物で、調査区外に大部分が延びる。建物主軸方位はN-19°Wを示し、P141・153間の柱間寸法は2.20mを測る。柱穴の平面形態は隅丸方形または不整円形を呈し、P141が長径66cm、短径53cm、深さ50cmを、P153が長径42cm、短径36cm、深さ40cmをそれぞれ測る。柱穴覆土は柱抜取埋土であり、ベース土(淡灰黄色土)、炭化物が混ざる灰褐～暗灰褐色粘質土を基調とする。柱根は遺存せず、径約10cmの柱根痕跡が残る。遺構の切り合い関係から、SD119より古く位置付けられる。遺物は、P141出土の第21図6～9を図示した。須恵器有台坏6は口径11.8cm、器高4.7cmを測り、体部は内湾気味にたちあがる。内黒のロクロ土師器無台碗7は口径12.6cm、器高3.9cmを測り、体部外面下端～底面にケズリを加える。ともにVI₂期に位置付けられる。ロクロ土師器小甕8は摩滅が著しく、凝灰岩製の中砥石9は、3面を鎌等の研ぎに用いる。他にP153から須恵器片が出土した。

SA111・112 (遺構：第17図)

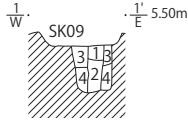
P-25区で復元した2間の柵列で、幅1.25mを隔てて並列する。柱間寸法は、東から1.80m、1.90mを測り、主軸方位はN-76°Eを示す。柱穴の平面形態は略円形または不整円形を呈し、SA111柱穴が径約30cm、深さ20cm強を測るのに対して、SA112柱穴は径約44～54cm、深さ28～42cmと一回り大きい。覆土は、ベース土が混ざる灰褐～褐灰色粘質土を基調とし、柱抜き取り痕が残る。遺構の切り合い関係は、SA111がSD71より新しい。また、SA112がSD66より新しく、SK09より古く位置付けられる。遺物は、P101、P118、P147、P142から須恵器・土師器小片が出土した。

2 ピット (遺構：第18・19図、第9・10表、遺物：第21図、第13表)

ピット(第3面P301・302含む)は約100基を検出し、第18・19図に土層断面図を、第9・10表に規模等をそれぞれ示した。分布状況からみれば、調査区北半(P～R区)に偏在しており、特に調査区北隅(Q・R-24)には土層断面図等から掘立柱建物または柵列の柱穴と推測できるピットが多い傾向を示す。P136に柱根が残存した他、柱穴と考えられるピットとして、P79、P102、P104、P109西、P111、P125、P133、P135、P137、P138、P139-2、P143、P149～152-2、P156、P157-2があげられる。以下、出土遺物を図示したピットについて記す。P109出土の第21図10は須恵器有台坏で、台部がしっかりと外展する。P142は平面略円形を呈し、径70～76cm、深さ32cmを測る。覆土第3層から柱抜き取

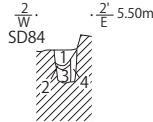
第2節 第1面の遺構と遺物

P-25区 P102



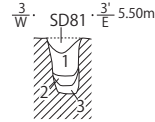
1. 褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロック多く混ざる)
2. 褐色粘質土(灰黄色粘質土ブロック混ざる)
3. 褐灰色粘質土(黄灰色粘質土ブロック多く混ざる)
4. 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロック混ざる)

P-25区 P104



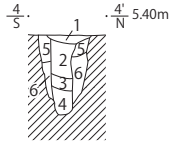
1. 褐灰色粘質土(灰黄色粘質土粒少量混ざる)
2. 灰褐色粘質土
3. 1層と同質土(やや暗い)
4. 暗灰黄色粘質土

P-25区 P105



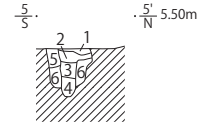
1. 褐灰色粘質土
2. 暗褐色粘質土(炭化物と黄灰色粘質土粒混ざる。3層との境に炭化物層入る)
3. 暗灰褐色粘質土(灰白色細砂混ざる)

P-24区 P109 西



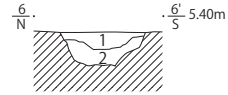
1. 暗褐灰色粘質土(黄灰色粘質土粒混ざる)
2. 灰褐色粘質土(灰黄色粘質土粒と炭化物混ざる)
3. 灰褐色粘質土(淡灰黄色細砂を層状に混ざる)
4. 暗灰色粘質土(淡灰色粘質土ブロック混ざる)
5. にぶい灰色粘質土(黄灰色粘質土ブロックと炭化物混ざる)
6. にぶい灰褐色粘質土(黄灰色粘質土粒と炭化物混ざる)

P-24区 P111



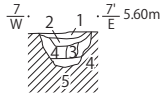
1. 暗褐色土
2. 灰黄色粘質土(黄灰色粘質土粒混ざる)
3. 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロック混ざる)
4. 淡灰褐色粘質土
5. 淡灰黄色粘質土(炭化物混ざる)
6. 淡灰褐色粘質土(1層より明るい。炭化物混ざる)

Q-24区 P114



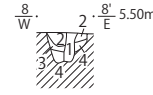
1. 灰褐色土(炭化物と褐色粘質土ブロック混ざる)
2. 暗褐灰色粘質土(灰黄色粘質土粒混ざる)

P-27区 P126



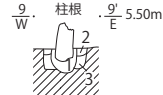
1. 淡黄灰色粘質土(炭化物混ざる)
2. 暗灰褐色土(炭化物混ざる)
3. 1層と同質土(2層がパッチ状に多く混ざる)
4. 暗灰褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロック混ざる)
5. 黄灰色粘質土(暗灰色粘質土粒混ざる)

P-25区 P133



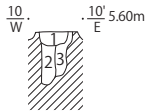
1. 灰褐色粘質土(灰黄色粘質土ブロック混ざる)
2. 暗灰色粘質土(黄灰色粘質土粒混ざる)
3. 黄灰色粘質土(ブロック層褐灰色粘質土混ざる)
4. 暗褐灰色粘質土(黄灰色粘質土ブロック混ざる)

P-27区 P136



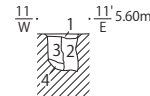
1. 灰色粘土(しまりなし)
2. 灰褐色粘質土
3. にぶい灰色粘質土(炭化物少量混ざる)

O-26区 P137



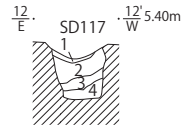
1. 暗褐灰色粘質土(黄灰色粘質土ブロック多い。炭化物混ざる)
2. にぶい褐灰色粘質土(黄灰色粘質土粒と炭化物混ざる)
3. 黄灰色粘質土

P-26区 P138



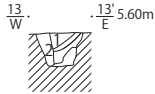
1. 淡黄灰色粘質土
2. 灰褐色粘質土(灰白色粘質土粒と炭化物少量混ざる)
3. 黄灰色粘質土(暗灰褐色粘質土ブロック混ざる)
4. 灰黄色粘質土

R-24区 P139-1



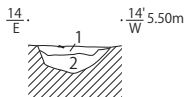
1. 暗褐灰色粘質土(炭化物、黄灰色粘質土粒、細砂混ざる)
2. 暗灰褐色粘質土(淡灰黄色粘質土ブロック多く混ざる)
3. 暗灰褐色粘質土(淡灰黄色粘質土ブロック少量混ざる)
4. にぶい灰色粘質土(2・3層がブロック状に混ざる)

P-26区 P139-2



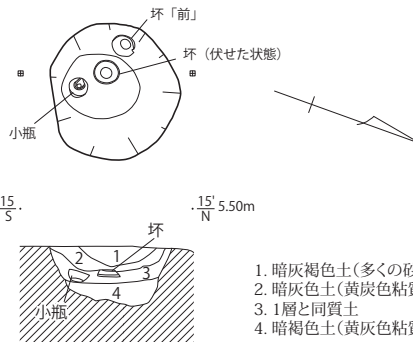
1. 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロックが層状に混ざる)
 2. 淡灰色粘質土(灰黄色粘質土がパッチ状に混ざる)
- 以下、記述なし

Q-24区 P140

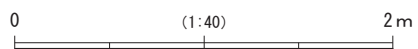
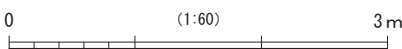


1. 褐色土(炭化物、土器、黄灰色粘質土ブロック混ざる)
2. にぶい灰色粘質土(黄灰色粘質土ブロック多く混ざる)

Q-24区 P142 遺物出土状況(S=1/40)



1. 暗灰褐色土(多くの砂と炭化物混ざる)
2. 暗灰色土(黄灰色粘質土がパッチ状に多く混ざる)
3. 1層と同質土
4. 暗褐色土(黄灰色粘質土がパッチ状に多く混ざる)



第18図 A区第1面ピット平面図・土層断面図1 (S=1/40・1/60)

Q・R-24区 P149

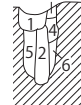
16. 16' 5.50m
S N



1. 灰黄色土(黄灰色土粒と炭化物混ざる)
2. 褐灰色粘質土
3. 褐灰色粘質土(灰白色細砂、黄灰色土粒混ざる)
4. 褐灰色粘質土(黄灰色土粒混ざる)
5. 灰褐色粘質土(灰黄色粘質土粒と炭化物混ざる)
6. にぶい灰褐色粘質土(灰黄色粘質土粒混ざる)
7. 灰褐色粘質土(5層より淡い、灰黄色粘質土粒混ざる)

Q-24区 P150

17. 17' 5.50m
W E



1. 暗灰色粘質土(灰白色細砂ブロック混ざる)
2. 褐灰色粘質土(土器片、炭化物、灰黄色粘質土ブロック混ざる)
3. 灰黄色粘質土(灰褐色粘質土粒混ざる)
4. 灰黄色粘質土(暗褐色粘質土がブロック状に混ざる)
5. 灰褐色粘質土(淡灰色粘質土粒と細砂混ざる)
6. 淡灰褐色粘質土(細砂混ざる)

Q-24区 P151

18. 18' 5.40m
W E



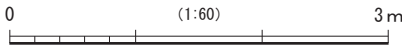
1. 灰褐色土(炭化物混ざる。黄灰色粘質土粒と細砂多く混ざる)
2. 暗灰色土(細砂多く混ざる)
3. 暗灰褐色粘質土(細砂と灰黄色粘質土ブロック混ざる)
4. 灰褐色土(1層より暗い、炭化物と灰黄色粘質土粒混ざる)

R-24区 P152-2

19. 19' 5.40m
E W



1. 黒灰色土(黄灰色粘質土粒と炭化物多く混ざる)
 2. 灰黄色土(黄灰色粘質土粒多く混ざる)
 3. 灰褐色土
 4. 暗灰色粘質土(灰黄色粘質土ブロックと炭化物多く混ざる)
 5. にぶい灰色粘質土(灰黄色粘質土ブロック少量混ざる)
 6. 灰黄色土(暗灰褐色土ブロック多く混ざる)
 7. 褐灰色粘質土(炭化物と灰黄色土粒混ざる)
 8. にぶい暗灰色粘質土(炭化物混ざる)
- 1～3層:SD114、4～8層:P152



第19図 A区第1面ピット平面図・土層断面図2 (S=1/60)

* 網掛けは、深さ30cm以上のピットを示す。

| 遺構名 | グリッド | 平面形 | 規模 (cm) | | | 土色 | 備考 |
|-----------------|-----------|-------|---------|-----|----|---------------------|-----------------------------|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | |
| 7A1SB101 (P191) | P-26 | 略円形 | 42 | 40 | 20 | 灰褐色粘質土 | 報告段階に付与 |
| 7A1SB101 (P192) | P-26 | 略円形か | 48 | 約40 | 22 | 灰褐色粘質土 | ◇。SD66より新。SD69より古 |
| 7A1SB101 (P193) | P-26 | 略楕円形 | 48 | 38 | 20 | 暗灰褐色粘質土 | ◇ |
| 7A1SB101 (P194) | P-26 | 不整円形 | 38 | 34 | 26 | 暗灰褐色粘質土 | ◇ |
| 7A1SB112 (P107) | P-24 | 不整円形 | 46 | 38 | 46 | 第16図 | 柱根痕(径14cm)あり |
| 7A1SB112 (P110) | P-24 | 不整円形 | 36 | 30 | 50 | 第16図 | 柱根痕(径10cm)あり。SB113(P167)より新 |
| 7A1SB113 (P113) | Q-24,P-24 | 略円形 | 28 | 26 | 20 | 灰褐色粘質土 | 柱根痕あり |
| 7A1SB113 (P116) | Q-24 | 不整形 | 48 | 44 | 36 | 第16図 | 柱根痕(径約12cm)あり |
| 7A1SB113 (P167) | P-24 | 不整形 | 44 | 32 | 30 | 第16図 | SB112(P110)より古 |
| 7A1SB114 (P141) | R-24 | 隅丸方形 | 66 | 53 | 50 | 第17図 | 柱根痕(径約10cm)あり |
| 7A1SB114 (P153) | Q-24 | 不整円形 | 42 | 36 | 40 | 第17図 | 柱根痕(径約10cm)あり。SD119より古 |
| 7A1SA111 (P143) | P-25 | 略円形 | 34 | 28 | 22 | 第17図 | 柱根痕(径約10cm)あり。SD71より新 |
| 7A1SA112 (P101) | P-25 | 不整円形 | 54 | 50 | 42 | 第17図 | 柱根抜き取り。SK09より古、SD66より新 |
| 7A1SA112 (P147) | P-25 | 略円形 | 52 | 46 | 8 | 灰褐色粘質土(黄色粘質土粒混ざる) | |
| 7A1SA112 (P118) | P-25 | 略円形 | 54 | 44 | 28 | 褐灰色粘質土 | SD66より新 |
| 7A1P79 | P-25 | 不整円形 | 34 | 30 | 48 | 褐灰色粘質土 | 柱根痕あり |
| 7A1P102 | P-25 | 略円形 | 48 | 42 | 48 | 第18図1 | 柱根痕(径10cm)あり。SK09より古 |
| 7A1P103 | P-25 | 不整円形 | 28 | 28 | 33 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P104 | P-25 | 不整円形 | 30 | 22 | 38 | 第18図2 | 柱根抜き取り。SD81より古 |
| 7A1P105 | P-25 | 不整円形 | 35 | 28 | 45 | 第18図3 | SD81より古 |
| 7A1P106 | O-25 | 不整形 | 52 | 50 | 11 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P108 | P-24 | 略楕円形 | 74 | 62 | 10 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P109西 | P-24 | 不整円形 | 38 | 28 | 63 | 第18図4 | 柱根痕(径15cm)あり |
| 7A1P109東 | P-24 | 不整楕円形 | 52 | 32 | 46 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P111 | P-24 | 不整円形 | 58 | 33 | 38 | 第18図5 | 柱根痕(径12cm)あり |
| 7A1P112 | P-24 | 略楕円形 | 28 | 20 | 14 | にぶい灰色粘質土(黄色粘質土粒混ざる) | |
| 7A1P114 | Q-24 | 不整円形 | 78 | 72 | 28 | 第18図6 | |
| 7A1P115 | Q-24 | 不整円形 | 68 | 60 | 5 | にぶい灰色粘質土(黄色粘質土粒混ざる) | |
| 7A1P117 | P-25 | 略円形 | 30 | 22 | 34 | 暗褐色粘質土(黄色粘質土粒混ざる) | |
| 7A1P119 | O-26 | 不整形 | 54 | 40 | 40 | 褐灰色粘質土 | 3つのピット重複 |
| 7A1P120 | O-27 | 不整形 | 24 | 20 | 21 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P121 | P-26 | 不整円形 | 28 | 24 | 20 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P122 | P-26 | 不整形 | 28 | 20 | 35 | 褐灰色粘質土 | SD66と重複 |

第9表 A区第1面ピット規模等一覧表1

第2節 第1面の遺構と遺物

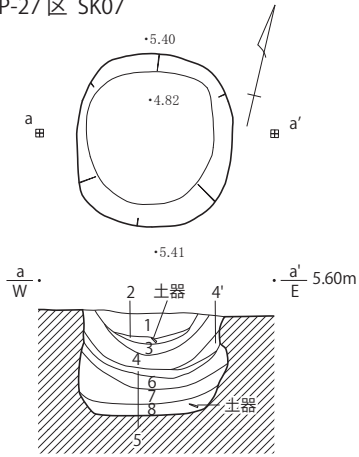
※ 網掛けは、深さ30cm以上のピットを示す。

| 遺構名 | グリッド | 平面形 | 規模 (cm) | | | 土色 | 備考 |
|-----------|------------|--------|---------|-----|----|-----------------------|----------------------------------|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | |
| 7A1P123 | P-27 | 不整円形 | 40 | 38 | 7 | 暗褐色粘質土 | |
| 7A1P124 | P-27 | 不整方形 | 33 | 28 | 16 | 暗褐色粘質土(淡灰黄色粘質土粒混ざる) | |
| 7A1P125 | P-27 | 略円形 | 26 | 23 | 24 | 褐灰色粘質土 | 柱根痕あり |
| 7A1P126 | P-27 | 不整円形 | 44 | 38 | 28 | 第18図7 | |
| 7A1P127 | P-27 | 不整円形 | 34 | 32 | 26 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P128 | P-27 | 不整円形 | 54 | 38 | 9 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P129 | P-27 | 不整円形 | 36 | 30 | 28 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P130 | P-27 | 不整方形 | 32 | 28 | 30 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P131 | P-27 | 不整円形 | 28 | 26 | 45 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P132 | P-25 | 不整円形 | 32 | 28 | 49 | 暗褐色粘質土(黄色粘質土粒混ざる) | |
| 7A1P133 | P-25 | 不整円形 | 38 | 30 | 23 | 第18図8 | 柱根痕(径8cm)あり |
| 7A1P134 | O-25 | 略楕円形 | 82 | 62 | 2 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P135 | O-25・26 | 不整円形 | 36 | 28 | 17 | 灰黄色粘質土 | |
| 7A1P135 | P-28 | 隅丸方形 | 44 | 42 | 18 | 褐灰色粘質土 | 板根痕あり |
| 7A1P136 | P-27 | 不整長方形か | 54 | 34~ | 18 | 第18図9 | 柱根(径14cm)痕あり |
| 7A1P137 | O-26 | 不整円形 | 34 | 30 | 42 | 第18図10 | 板根痕(径約10cm)あり |
| 7A1P138 | P-26 | 略円形 | 26 | 26 | 30 | 第18図11 | 板根痕(径約10cm)あり |
| 7A1P139-1 | R-24 | 隅丸方形 | 58 | 52 | 46 | 第18図12 | SD117より古。枝番報告段階に付与 |
| 7A1P139-2 | P-26 | 略円形 | 34 | 30 | 26 | 第18図13 | 柱抜き取り。SD66より新。枝番報告段階に付与 |
| 7A1P140 | Q-24 | 略円形 | 60 | 約60 | 22 | 第18図14 | |
| 7A1P142 | Q-24 | 略円形 | 76 | 70 | 32 | 第18図15 | 須恵器坏・小瓶埋納 |
| 7A1P144 | O-26 | 不整円形 | 48 | 42 | 26 | 褐灰色粘質土 | 柱根痕あり |
| 7A1P146 | P-25 | 不整円形 | 42 | 40 | 6 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P148 | P-25 | 不整楕円形 | 38 | 28 | 24 | 褐灰色粘質土(黄色粘質土粒混ざる) | SD76より新 |
| 7A1P149 | Q・R-24 | 不整円形 | 53 | 48 | 52 | 第19図16 | 柱根痕(径約10cm)あり |
| 7A1P150 | Q-24 | 不整楕円形 | 56 | 34 | 65 | 第19図17 | 柱根痕(径約12cm)あり。SD119より古 |
| 7A1P151 | Q-24 | 不整方形 | 46 | 44 | 36 | 第19図18 | 柱根痕あり |
| 7A1P152-2 | Q-24 | 不整円形 | 50 | 50 | 61 | 第19図19 | 柱根痕(径約12cm)あり。SD114より古。枝番報告段階に付与 |
| 7A1P154 | P-26 | 略円形か | 約30 | 約30 | 25 | 褐灰色粘質土 | SD66より新 |
| 7A1P155 | P-25 | 円形 | 60 | 56 | 28 | 褐灰色粘質土 | 7A1SK10の一部 |
| 7A1P156 | O・P-25 | 円形 | 28 | 28 | 47 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P157-2 | Q-24 | 略円形 | 34 | 32 | 50 | 褐灰色粘質土 | 枝番報告段階に付与 |
| 7A1P158 | R-24 | 隅丸長方形 | 40 | 32 | 5 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P159 | R-24, Q-24 | 隅丸方形 | 54 | 48 | 7 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P160 | Q-24 | 不整形 | 53 | 40 | 11 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P161 | Q-24 | 不整円形 | 26 | 22 | 4 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P162 | Q-24 | 略円形 | 26 | 24 | 21 | 暗褐色粘質土(炭化物、黄色粘質土粒混ざる) | |
| 7A1P163 | P-25 | 不整円形 | 44 | 38 | 9 | 褐灰色粘質土(黄色粘質土粒混ざる) | |
| 7A1P164 | Q-24 | 略円形 | 58 | 58 | 10 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P165 | Q-24 | 略円形 | 37 | 34 | 14 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P166 | Q-24 | 不整円形 | 50 | 44 | 20 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A1P168 | P-26 | 不整楕円形 | 56 | 40 | - | 暗褐色粘質土(黄色粘質土粒混ざる) | |
| 7A3P301 | P-26 | 不整楕円形 | 35~ | 32~ | 33 | 暗褐色粘質土(黄色粘質土粒混ざる) | 第3面で検出 |
| 7A3P302 | Q-24 | 不整円形 | 34~ | 28~ | 41 | 暗褐色粘質土(黄色粘質土粒混ざる) | ◇ |

第10表 A区第1面ピット規模等一覧表2

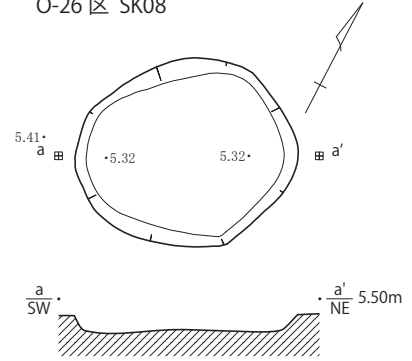
り後に埋納した須恵器が出土している(第18図)。第21図11はロクロひだが目立つ有台坏で、体部は大きく外傾する。12~14は完形に近い無台坏である。正位で出土した12は口縁端部が内側で肥厚する。底部外面に「前」と墨書する。能美窯跡群産と考えられる13は口径13.0cm、器高3.3cmを測り、底部外面に記された墨書は判読できない。倒位で出土した14は口径12.8cm、器高3.0cmを測り、底部は台状を呈する。ほぼ正位で出土した小型の瓶15は、口縁部を意図的に粗く割った可能性をもつ。11~14はⅤ₂期に位置付けられる。P136から板状の柱根が出土(第47図420)、スギ材を用いる。P149出土の

P-27区 SK07

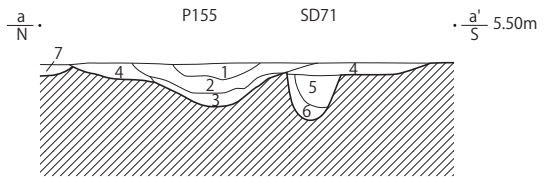


1. 黒褐色粘質土(下部に灰層、黄灰色砂質土を層状に混ざる)
2. 赤褐色砂質土(焼土層)
3. 黄灰色砂質土
4. 灰色粘質土(黄灰色砂質土がブロック状に混ざる。4'は色調明るく上下に炭層)
5. 黒色砂質土(炭層、4層類似層、4'層が層状に混ざる)
6. 灰色粘質土(炭化物混ざる)
7. 明灰色粘質土(灰白色粘土ブロック混ざる)
8. 明灰色粘質土

O-26区 SK08

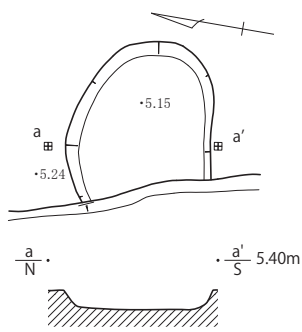


P-25区 SK10

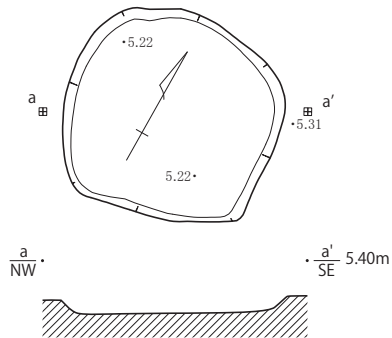


1. 褐灰色粘質土
2. 暗褐色粘質土(炭化物と淡灰黄色細砂混ざる)
3. 淡灰黄色細砂(暗褐色粘質土粒混ざる)
4. 灰褐色粘質土(炭化物少量混ざる)
5. 暗褐色粘質土(炭化物と灰黄色土ブロック混ざる)
6. 淡灰黄色細砂(5層がブロック状に混ざる)
7. 暗灰褐色粘質土(炭化物混ざる)

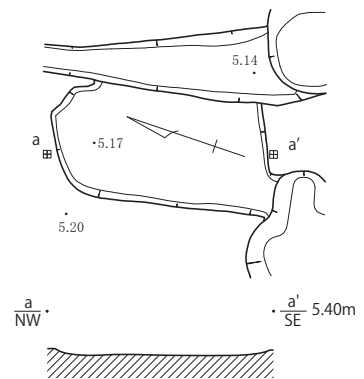
P-24区 SK11



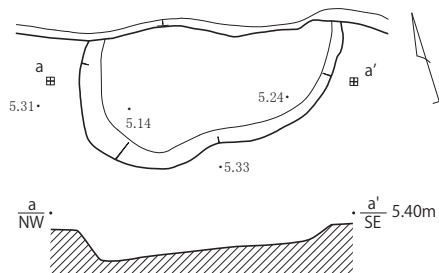
Q-24区 SK15



R-24区 SK16



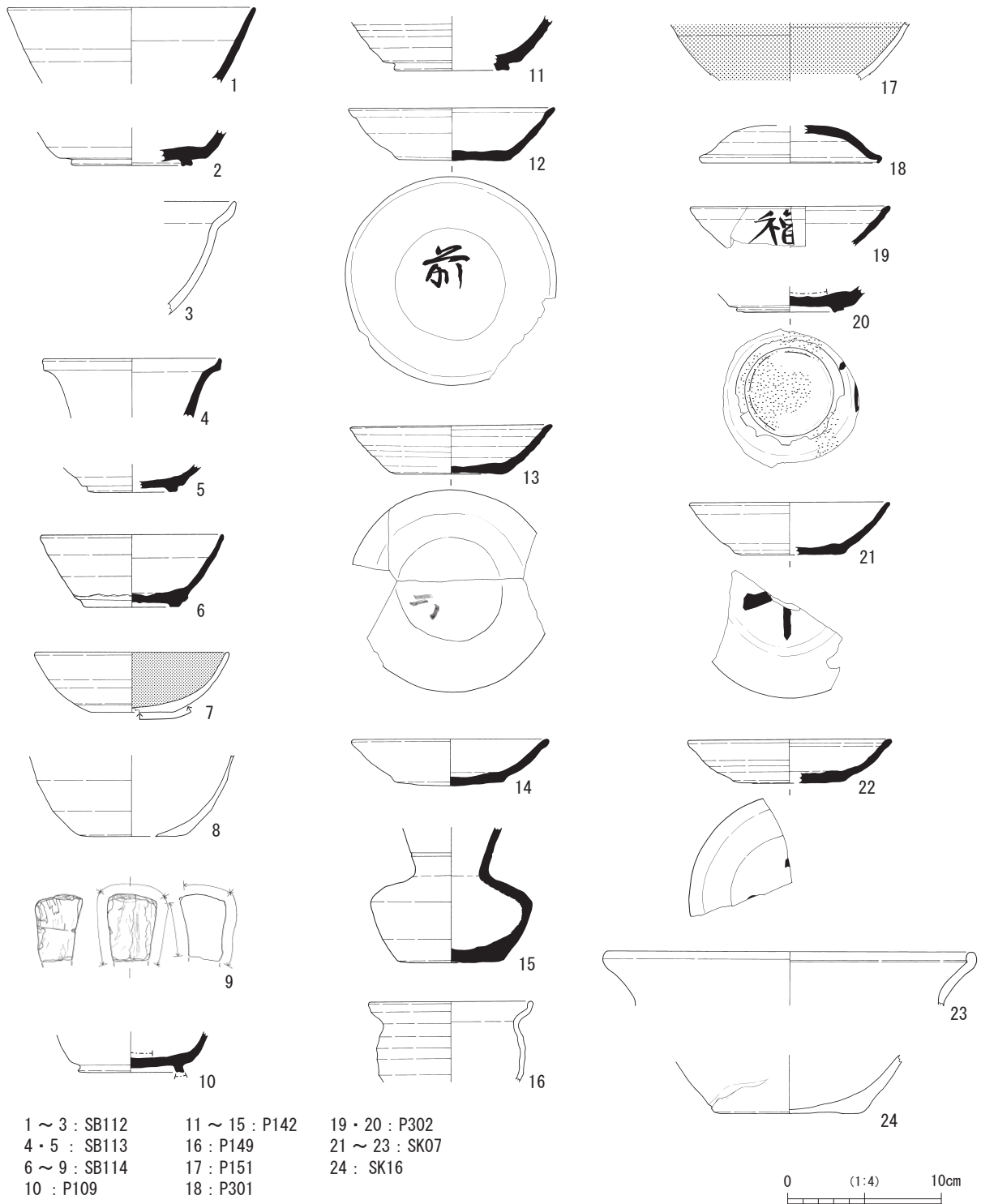
P-26区 SK17



0 (1:40) 2m

第20図 A区第1面土坑平面図・土層断面図(S=1/40)

第2節 第1面の遺構と遺物



- | | | |
|-------------|--------------|--------------|
| 1～3 : SB112 | 11～15 : P142 | 19・20 : P302 |
| 4・5 : SB113 | 16 : P149 | 21～23 : SK07 |
| 6～9 : SB114 | 17 : P151 | 24 : SK16 |
| 10 : P109 | 18 : P301 | |

第21図 A区第1面出土遺物実測図1 (S=1/4)

ロクロ土師器小甕16は口径10.6cmを測り、煮炊き痕を明瞭に残す。P151出土の17は、両面を黒色処理したロクロ土師器有台碗と考えられる。第3面で検出したP301出土の須恵器坏蓋18は口径11.6cmを測り、VI₁期と考えられる。須恵器19・20は、第3面P302から出土した。無台坏19は、体部外面に正位で「福」と墨書し、VI₂期に位置付けられる。有台坏20は、外面に煤が付着する。

3 土坑(遺構：第20図、第11表、遺物：第21・22図、第13表)

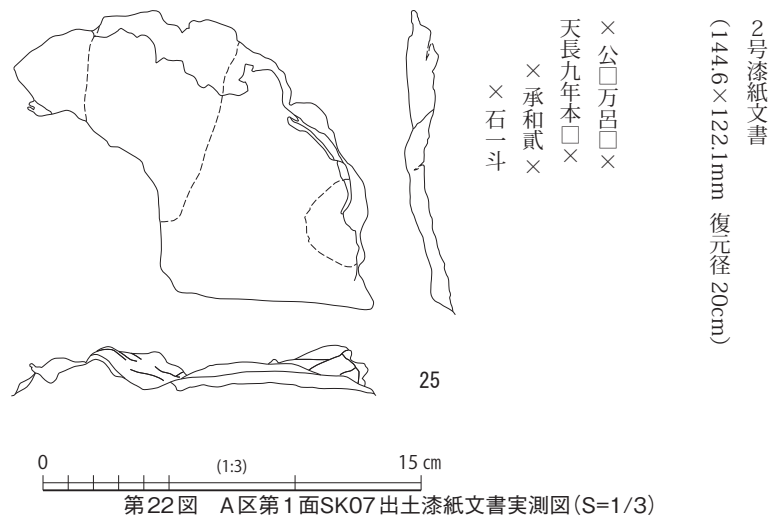
土坑は11基を検出した。平面隅丸方形を呈する深い土坑(SK07)、不整長方形を呈する大型土坑

| 遺構名 | グリッド | 平面形 | 規模 (cm) | | | 土色 | 備考 |
|---------|------|--------|---------|-------|-------|---------------------|----------------------|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | |
| 7A1SK07 | P-27 | 隅丸方形 | 92 | 82 | 58 | 第20図 | 漆紙文書出土 |
| 7A1SK08 | O-26 | 不整楕円形 | 118 | 100 | 9~10 | 灰褐色粘質土 | |
| 7A1SK09 | P-25 | 不整長方形 | 118~ | 60~80 | 7~12 | 灰褐色粘質土 | SD81の一部か。P101・102より新 |
| 7A1SK10 | P-25 | 不整長方形 | 242 | 188 | 10~23 | 第20図 | SD71・91より新 |
| 7A1SK11 | P-24 | 不整楕円形か | 75~ | 76 | 10 | 灰褐色粘質土 | |
| 7A1SK12 | P-28 | 方形 | 142 | 132 | 60 | 灰褐色粘質土 | 近代以降 |
| 7A1SK13 | P-28 | 方形 | 132 | 128 | 69 | 灰褐色粘質土 | 近代以降 |
| 7A1SK14 | P-28 | 方形 | 136 | 106 | 72 | 灰褐色粘質土 | 近代以降 |
| 7A1SK15 | Q-24 | 不整形 | 114 | 110 | 6~9 | にぶい灰色粘質土(黄色粘質土粒混ざる) | |
| 7A1SK16 | R-24 | 不整長方形 | 112 | 60~ | 2~4 | 灰褐色粘質土 | |
| 7A1SK17 | P-26 | 不整楕円形か | 138 | 75~ | 10~17 | 灰褐色粘質土 | |

第11表 A区第1面土坑規模等一覧表

(SK10)、近代以降と考えられる大型坑(SK12~14)以外は、総じて深さ10cm未満の浅い落ち込み様を呈する。第11表に規模、他遺構との切り合い関係等を示しており、以下では主な土坑について記す。

SK07 P-27区で検出した平面隅丸方形を呈する土坑で、一辺82~92cm、深さ58cmを測る。底面は平坦で、壁は地山の崩落に伴い胴張りとなる。覆土は、下位層から順に明灰色粘質土、灰層や炭化物が混ざる灰~黒色



第22図 A区第1面SK07出土漆紙文書実測図(S=1/3)

土、黄灰色砂質土、焼土層(赤褐色砂質土)、黒色灰層、黄灰色砂質土が層状に混ざる黒褐色粘質土となり、灰層、焼土層の存在から埋没中途での数次の焼成が復元できる。他遺構との切り合い関係はなく、出土遺物のうち第21図21~23・第22図25を図示した。須恵器無台坏片21がVI₁期、22がVI₂期にそれぞれ位置付けられ、ともに底部外面に墨書を記すが判読できない。21は口径12.8cm、器高3.5cmを測り、台状の底部から内湾気味に体部がたちあがる。22は口径13.2cm、器高2.9cmを測り、扁平な印象を受ける。23はロクロ土師器甕小片で、口縁端部を丸く仕上げる。第22図25は覆土4~6層出土の漆書文書であり、径約20cmに復元できる。「天長九年」(832年)、「承和貳」(835年)の文字が判読できる。第7章で詳述する。

SK10 P-25区で検出した平面不整長方形を呈する大型土坑である。長軸242cm、短軸188cm、深さ10~23cmを測り、底面は中央付近(P155)で緩やかに深くなる。覆土は、下位層から順に灰褐色粘質土、淡灰黄色細砂、暗褐色~褐灰色粘質土が自然堆積する。遺構の切り合い関係からSD71・91より新しく、須恵器小片が出土したにとどまる。

SK12~14 P-28区で主軸方位をそろえた平面方形の土坑で、近代以降に位置付けられる。

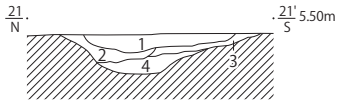
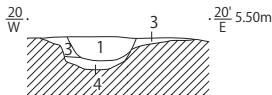
SK16 R-24区で検出した浅い落ち込み(深さ2~4cm)で、第21図24の摩滅した弥生土器壺底部片が出土した。24の外面には、深く刺さったヘラ状工具痕が残る。

4 溝(遺構：第23図、第12表、遺物：第24図、第13・14表)

A区全体で70条の溝(第2面SD208含む)を検出し、自然流路2条(SD66・91)、耕作に伴う小溝42条、その他不明の小規模な溝・溝状遺構16条に分かれる。自然流路2条は、位置的に重複する第2面SD202の最終埋没段階を別個の遺構と認識した可能性が高く、遺構の切り合い関係は他の遺構より明らかに前出する。溝の規模等は第12表に記載しており、以下、自然流路、耕作に伴う小溝について述べる。

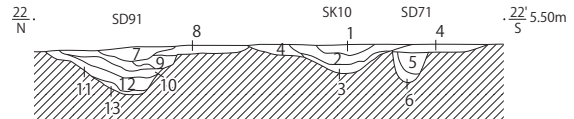
SD66 P-25・26区、O-26区で検出し、蛇行しながら東方向から西方向に流下する自然流路である。

SD66



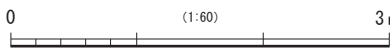
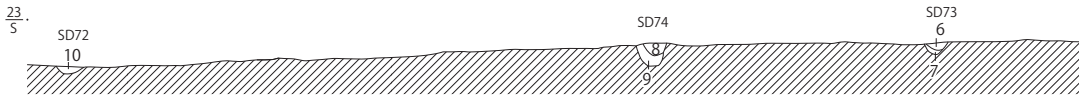
1. 暗褐色粘質土(炭化物混ざる)
2. 褐色粘質土(炭化物混ざる)
3. 暗褐色粘質土(暗褐色粘質土ブロック、細砂混ざる)
4. 淡灰褐色粘質土(細砂混ざる)

SD71・91



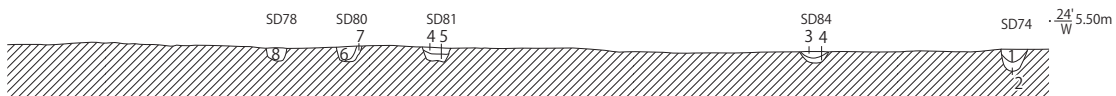
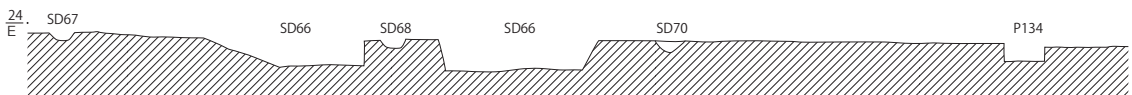
1. 褐灰色粘質土
2. 暗褐色粘質土(炭化物と淡灰黄色細砂粒混ざる)
3. 淡灰黄色細砂(暗褐色粘質土粒混ざる)
4. 灰褐色粘質土(炭化物が少量混ざる)
5. 暗褐色粘質土(炭化物と灰黄色土ブロック混ざる)
6. 淡灰黄色細砂(5層がブロック状に混ざる)
7. 暗褐色粘質土
8. 暗褐色粘質土(炭化物混ざる)
9. 暗褐色粘質土(8層よりやや暗い。黄灰色粘質土ブロック、炭化物混ざる)
10. 8層と同質土
11. 暗褐色粘質土(炭化物、灰黄色粘質土粒混ざる)
12. 淡灰褐色土(暗褐色粘質土ブロック混ざる)
13. 淡灰黄色粘質土(少量の暗褐色粘質土ブロックと細砂混ざる)

SD52・71～74・85



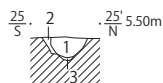
1. 暗褐色粘質土
2. 褐色粘質土(1層よりややにぶい。黄灰色土粒多く混ざる)
3. 暗褐色粘質土(1層より暗い。)
4. 2層と同質土
5. 暗褐色粘質土(黄灰色粘質土ブロック多く混ざる)
6. 灰褐色粘質土(炭化物混ざる)
7. 黄灰色粘質土(灰褐色粘質土ブロック混ざる)
8. 褐色粘質土(黄灰色粘質土粒混ざる)
9. 褐色粘質土(淡灰黄色細砂粒少量混ざる)
10. 8層と同質土(黄灰色粘質土粒混ざる)

SD66～68・70・74・78・80・81・84



1. 褐灰色粘質土(黄灰色粘質土粒混ざる)
2. 褐灰色粘質土(淡灰黄色細砂粒少量混ざる)
3. 灰黄色粘質土(褐灰色粘質土ブロック混ざる)
4. 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土粒混ざる)
5. 暗褐色粘質土(黄灰色粘質土粒混ざる)
6. 暗褐色粘質土(5層より明るい。黄灰色粘質土粒多く混ざる)
7. 暗褐色粘質土(5層より暗い)
8. 暗褐色粘質土(5層と同じ)

SD69

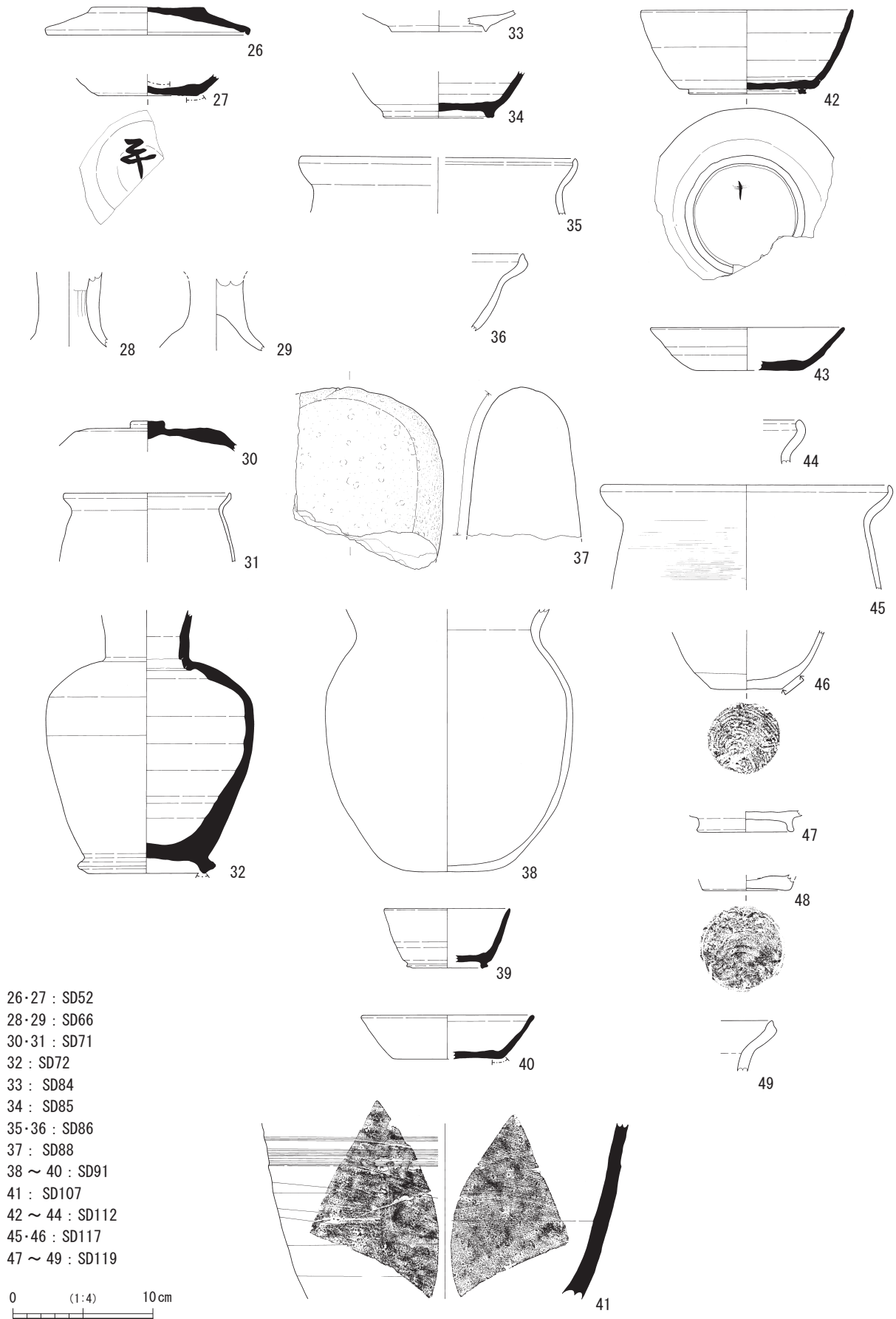


1. 灰褐色粘質土(灰白色細砂が層状に混ざる)
2. 褐灰色粘質土(黄灰色粘質土ブロック混ざる)
3. 1層と同質土(黄灰色粘質土ブロック混ざる)

第23図 A区第1面溝土層断面図(S=1/60)

| 遺構名 | グリッド | 規模 (cm) | | | 主軸方位 | 土色 | 性格 | 備考 |
|-------------|--------------|---------|---------|-------|----------------|--------------------|-------|---|
| | | 長さ | 幅 | 深さ | | | | |
| 7A1SD52 | P-24・25 | 1030~ | 24~36 | 16~24 | N-79~87° E | 第23図23 | 耕作小溝 | SD77・79・81・84・113・115より新 |
| 7A1SD55 | P-28 | 140~ | 32~48 | 4~8 | N-55° W | 暗褐色粘質土 | 不明 | 屈曲 |
| 7A1SD56 | P-28 | 90 | 20~22 | 4 | N-8° W | 褐色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7A1SD57 | O・P-27 | 204 | 16~22 | 2~4 | N-8° W | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7A1SD58 | P-27 | 178 | 18~26 | 2~4 | N-8° W | 褐色粘質土(黄灰色粘質土粒混ざる) | 耕作小溝 | |
| 7A1SD59 | O・P-27 | 284 | 18~30 | 4~9 | N-8° W | 褐色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7A1SD60 | P-27 | 66 | 24~32 | 4~6 | N-0° | 褐色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7A1SD61・111 | P-27 | 270~ | 16~20 | 2~6 | N-0°、N-14° W | 褐色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7A1SD62 | P-27 | 281 | 24~28 | 2~4 | N-13° W | 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土粒混ざる) | 耕作小溝 | |
| 7A1SD63 | P-27 | 348~ | 18~24 | 4~5 | N-16° W | 灰褐色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7A1SD64 | O・P-27 | 290 | 9~36 | 2~3 | N-0° | 灰褐色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7A1SD65 | P-26・27 | 350~ | 10~92 | 5~10 | N-約46° E | 暗褐色粘質土 | 自然流路か | SD66と重複 |
| 7A1SD66 | P-25・26、O-26 | 1450~ | 96~172 | 26~33 | - | 第23図20 | 自然流路 | 湾曲。西方向に流下。SB111、P118・139・2・154、SD67~70より古 |
| 7A1SD67 | O・P-26 | 586~ | 18~26 | 3~6 | N-10° W | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝 | SD66より新 |
| 7A1SD68 | O・P-26 | 748~ | 18~28 | 4~8 | N-13° W | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝 | SD66より新 |
| 7A1SD69 | P-26 | 511 | 26~48 | 11~20 | N-86° W | 第23図25 | 耕作小溝 | SD66より新 |
| 7A1SD70 | O・P-26 | 494 | 18~24 | 3~9 | N-8° W~7° E | 第23図24 | 耕作小溝 | SD66より新 |
| 7A1SD71 | P-24・25 | 1090~ | 24~36 | 7~30 | N-83° E | 第23図22・23 | 耕作小溝 | SK10、SD86・89より新 |
| 7A1SD72 | O-25 | 575~ | 24~38 | 7~9 | N-80° E | 第23図23 | 耕作小溝 | SD81・116、SD84より新 |
| 7A1SD73 | O-24・25 | 830~ | 20~36 | 12~18 | N-74~84° E | 第23図23 | 耕作小溝 | SD77・79~81・84・85・115より新 |
| 7A1SD74 | O-25 | 770~ | 22~32 | 14~22 | N-80~87° E | 第23図23・24 | 耕作小溝 | SD78・80・81・84・115より新 |
| 7A1SD75 | O-25 | 138 | 20~24 | 5~7 | N-0° | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7A1SD76 | O・P-25 | 約270 | 18~20 | 6~14 | N-13° E | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝 | 屈曲。P 148より古 |
| 7A1SD77 | O・P-25 | 324 | 18~28 | 9~20 | N-6° E | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝 | SD72より古 |
| 7A1SD78 | O-25 | 496 | 18~28 | 4~14 | N-1° E | 第23図24 | 耕作小溝 | SD74より古 |
| 7A1SD79 | O・P-25 | 256 | 16~30 | 6~10 | N-4° E | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝 | SD72より古 |
| 7A1SD80 | O-25 | 約320 | 18~26 | 9~13 | N-4° E | 第23図24 | 耕作小溝 | SD74より古 |
| 7A1SD81・116 | O・P-25 | 約1240 | 22~44 | 3~18 | N-1° E | 第23図24 | 耕作小溝 | P104、SD52・72~74より古 |
| 7A1SD82 | O-25 | 108 | 16~26 | 10~18 | N-1° W | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7A1SD83 | P-26・27 | 240~ | 50~57 | 3~6 | N-77° E | 淡灰褐色粘質土 | 不明 | SD65と重複 |
| 7A1SD84 | O・P-25 | 960 | 18~34 | 5~20 | N-0° | 第23図24 | 耕作小溝 | SD52・72~74・80より古 |
| 7A1SD85 | O・P-25 | 約310 | 12~32 | 7~9 | N-1° W、N-37° E | 第23図23 | 耕作小溝 | 屈曲 |
| 7A1SD86 | P-24 | 176 | 32~46 | 10~21 | N-7° W | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝か | SD91より新 |
| 7A1SD87 | P-24 | 124~ | 34~46 | 8~13 | N-2° E | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7A1SD88 | P-25 | 約125 | 24~40 | 11 | N-4° E | 暗褐色粘質土 | 不明 | 北側でSK10と接続 |
| 7A1SD89 | P-25 | 82~ | 26~42 | 4 | N-約24° E | 暗褐色粘質土 | 不明 | SD71より古 |
| 7A1SD90 | P-25 | 80~ | 20~28 | 8 | N-約20° E | 暗褐色粘質土 | 不明 | |
| 7A1SD91 | P-24・25 | 約750 | 132~165 | 29~40 | N-36~71° E | 第23図22 | 自然流路 | 屈曲。北東方向に流下。SK10、SD86より古 |
| 7A1SD92 | P-25 | 60~ | 40~48 | 9 | N-2° W | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝か | |
| 7A1SD93 | P-25 | 114 | 32~50 | 7 | N-約10° E | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝か | |
| 7A1SD94 | P-26 | 約220 | 40 | 6~8 | N-83° W | 暗灰褐色粘質土(黄色粘質土粒混ざる) | 耕作小溝 | |
| 7A1SD95 | O-28 | 152 | 20~22 | 3~5 | N-23° E | 褐色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7A1SD96 | P-25 | 約90 | 24~28 | 11~30 | N-13° W | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7A1SD112 | R-24 | 95~ | 26~48 | 9 | N-約40° W | 暗褐色粘質土 | 不明 | |
| 7A1SD113 | P-25 | 188 | 24~40 | 6~9 | N-13° E | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝か | |
| 7A1SD114 | Q-24 | 320 | 24~ | 3~22 | N-0° | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝 | P152より新 |
| 7A1SD115 | O・P-25 | 625 | 20~36 | 8~20 | N-0°、N-25° E | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝 | SD52・73・74より古 |
| 7A1SD117 | Q・R-24 | 730~ | 33~106 | 8~16 | N-8~11° W | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝 | P139-1より新 |
| 7A1SD118 | Q-24 | 110~ | 38~44 | 3~6 | N-86° W | 暗褐色粘質土 | 不明 | SD117に接続 |
| 7A1SD119 | Q-24 | 175~ | 34 | 3~8 | N-0° | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝か | P153より新 |
| 7A1SD120 | Q-24 | 54~ | 32~38 | 22~25 | - | 暗褐色粘質土 | 不明 | |
| 7A1SD121 | Q-24 | 164 | 18~30 | 2~6 | N-42° W | 暗褐色粘質土 | 不明 | |
| 7A1SD122 | Q-24 | 118 | 24~30 | 8~10 | N-80° W | 暗褐色粘質土 | 不明 | |
| 7A1SD123 | P-24 | 64~ | 18~24 | 5 | N-2° E | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7A1SD124 | Q-24 | 145~ | 15~18 | 4~6 | N-12~42° W | 暗褐色粘質土 | 不明 | 屈曲 |
| 7A2SD308 | O-25 | 275~ | 24~30 | 7~19 | N-85° E | 暗褐色粘質土 | 耕作小溝 | 第2面で検出 |

第12表 A区第1面溝規模等一覧表



第24図 A区第1面出土遺物実測図2 (S=1/4)

幅96～172cm、深さ26～33cmを測り、炭化物や細砂が混ざる淡灰褐～暗褐灰色粘質土が自然堆積する。遺構の切り合い関係は、SB111、P118、P139-2及び耕作に伴う小溝SD67～70より古く位置付けられる。また、流路東側に重複するSD65は、SD66の流れの一部とも考えられる。出土遺物のうち第24図28・29を図示した。弥生時代後期の器台28、古墳時代前期の土師器高坏29とも摩滅が著しい。

SD91 P-24・25区で検出した自然流路で、蛇行しながら西方向から東方向に流下する。幅132～165cm、深さ29～40cmを測り、下位層から順に細砂が混ざる淡灰黄色粘質土、淡灰褐色土、炭化物が混ざる暗灰～暗灰褐色粘質土が自然堆積する。遺構の切り合い関係は、SK10、耕作に伴う小溝SD86より古く位置付けられる。出土遺物のうち、第24図の土師器甕38、須恵器39・40を図化した。須恵器は混ざり込みと理解している。古墳時代後期の甕38は平底風を呈し、摩滅が著しい。有台坏39は口径8.9cm、器高4.3cmを測り、体部は直線的にのびる。薄手・軟質の無台坏40は口径12.2cm、器高3.1cmを測り、口縁端部が肥厚する。39がV₂期、40がVI₁期に位置付けられる。

耕作に伴う小溝群 分布状況、主軸方位等から、溝主軸方位が南北方向を指向する小溝群(以下、a群)、溝主軸方位が東西方向を指向する小溝群(同b群)、Q・R-24区の小溝群(同c群)に大別できる。遺構の切り合い関係では、重複するピットからc群、a群からb群、a・b群からSA111・112及びSK10という変遷が復元できる。a群は、地勢に応じて若干屈曲しながら直線的に掘られ、もっとも長いSD81・116が約124mを測る。分布状況から、O・P-24・25区に分布するSD77～81・84・85・115・116等(a-1群)、O・P-26区に分布するSD67・68・70等(a-2群)、O・P-27区に分布するSD57～64・111等(a-3群)、P-28区に分布する群(a-4群)に分かれ、各群間に4～6mの空闲域をもつ。また、各溝間隔は、a-1群、a-3群が約1.5m前後を基本とするのに対して、a-3群は1.7～2.5mと一定ではない。東西方向を指向するb群は、SD52・71～74、第3面SD308、SD69等が属し、もっとも長いSD71が11m以上を測る。単独的に立地するSD69以外は、一体的に経営された耕作地と判断でき、各溝間隔は約2.3mを基本とする。c群は、SD114・117・119等が属し、判然としないがb群よりも西偏する傾向を示す。

出土遺物のうち、第24図26・27、30～37、41～49を図示した。須恵器26・27は、SD52から出土した。無鈕の坏蓋26は口径14.4cm、器高1.9cmを測り、平坦な天井部は台状を呈する。無台坏27は、底部外面に「平」と墨書する。26がVI₂期、27がVI₁期に位置付けられる。30・31は、SD71から出土した。須恵器坏蓋30は扁平なボタン状の鈕を貼り付け、VI₁期に位置付けられる。ロクロ土師器小甕31は口径11.7cmを測り、煮炊き痕を明瞭に残す。須恵器長頸瓶32は風船技法で製作され、台部はしっかりと外展する。ロクロ土師器有台皿33は摩滅が著しい。小振りな断面三角形の台部からVI₁期に位置付けられる。SD85出土の須恵器有台坏34は、体部が直線的に外傾する。ロクロ土師器35・36はSD86から出土した。甕35は、口縁端部を内傾気味に仕上げる。摩滅した埴小片36は、口縁端部が直立する。SD88出土の台石37は、被熱のため変色する。SD107出土の須恵器瓶胴部片41は、外面を板状工具で整形する。42～44は、SD112から出土した。須恵器有台坏42は口径15.0cm、器高6.0cmを測り、体部は内湾しながら立ちあがる。底部外面に薄い墨痕を残すが判読できない。須恵器無台坏43は、煮炊き容器に転用したため、内面にヨゴレ、外面全体に煤が付着する。ともにVI₁期に位置付けられる。ロクロ土師器45・46は、SD117から出土した。甕45は口径20.4cmを測り、口縁端部は内湾する。小甕46は、底部外面に回転糸切り痕が残る。ロクロ土師器47～49は、SD119から出土した。内黒の有台坏47は摩滅が著しい。48は小坏と考えられる。底部外面は、回転糸切りで、外縁部に圏線状のヘラ痕が残る。49は、摩滅した埴口縁部小片である。

5 包含層等出土遺物(第25～28図、第14～20表)

包含層等から出土した奈良・平安時代の遺物は、主要地方道高松津幡線西側の調査区と異なり、出土量が少ない点に特徴をもつ。特にⅣ期以前の遺物は限られ、調査区周辺の土地利用を反映したものといえる。

第25図50～第26図124は、遺構検出時に出土した遺物である。50～52は弥生時代後期後半～終末の甕である。大型の50は口径約26cmを測り、摩滅が著しい。52は口径19.9cmを測り、口縁部が短く直立する。古墳時代前期の土師器甕53は口径15.4cmを測り、口縁部は短く外傾する。弥生時代終末の高坏54は、内面にわずかに赤彩痕を残すことから、両面に赤彩を施した可能性をもつ。55は古墳時代初頭の高坏脚部、56は土師器把手である。

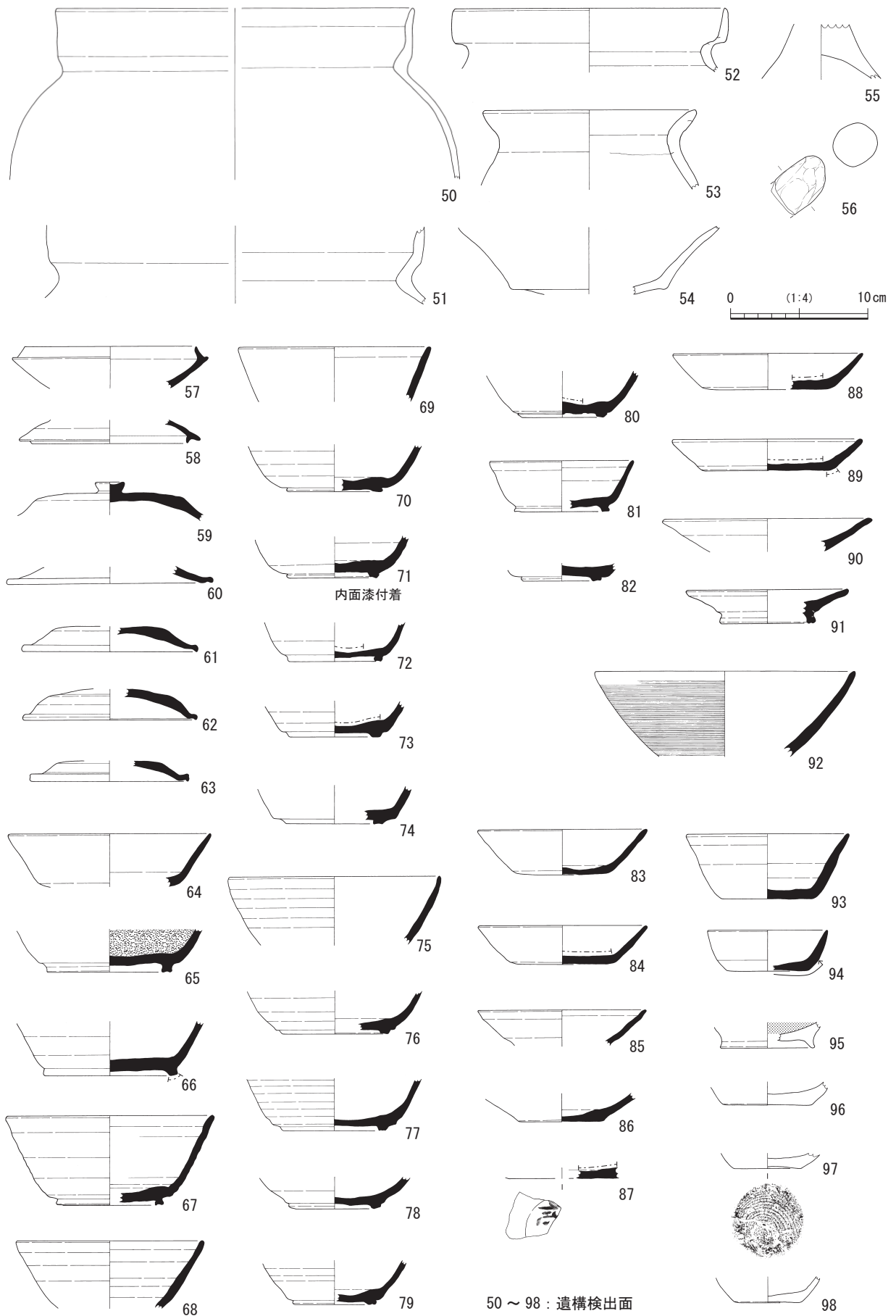
57～94は須恵器で、57、58、64～66以外はⅤ～Ⅵ₂期に位置付けられる。57はⅠ期の坏H身で、胎土は南加賀窯跡群産の特徴を示す。坏G蓋58の胎土は、高松・押水窯跡群産の特徴をもつ。59～63はⅥ₁期の坏蓋で、天井部外面のナデ調整や口縁端部を丸く仕上げる点で共通する。64～82は有台坏である。扁平な64は口径14.6cmを測り、Ⅳ_{1(古)}期に位置付けられる。65・66は、Ⅳ₂期に位置付けられる。65は底部内面が使用に伴い摩耗し、66は胎土の特徴から鳥屋窯跡群産と考えられる。67～73はⅥ₁期、74～80はⅥ₂期に位置付けられる。67は口径14.8cm、器高6.5cmを測り、ロクロひだが目立つ。産地は不明で、胎土中に微細な砂粒が多く混ざる。68・69は口径13.5cm強を測り、68は生焼けに近い。70は内外面とも煤が付着、71は内面全体に茶褐色の漆が付着した漆容器である。72・74は、内屈気味の台部を貼り付ける。75は口径15.4cmを測り、口縁端部は内傾気味となる。76～79は扁平な台部が外展する。Ⅴ₁期の81は口径10.4cm、器高3.7cmを測り、断面方形の台部がしっかりと外展する。82は底部外面を含めて自然釉が熔着する。

83～87はⅥ₁期の無台坏である。83・84は体部が大きく外傾する。83は口径12.2cm、器高3.3cmを測り、底部外面中央に漆状の茶色付着物が残る。84は、口径12.2cm、器高2.8cmを測る。86は皿形に近く、87の外面に記された墨書は判読できない。無台盤88・89は口径13.8cm、器高2.5cm前後を測り、外傾する体部が長くのびる。90・91は皿である。90は口径14.8cmを測り、生焼けに近い。有台皿91は口径11.6cm、器高2.4cmを測る。口径がかなり縮小しているが、Ⅵ₂期と考えたい。鉢92は口径18.9cmを測り、外面をカキメで加飾する。深身の小坏93は、口径11.8cm、器高4.7cmを測る。小坏94は口径8.6cm、器高3.0cmを測り、倒位で焼成される。95～98はロクロ成形の土師器である。内黒有台碗95は台部が先細り、耕作地に転じたⅥ₃期以降の遺物となる。96～98は摩滅した小甕底部で、97に回転糸切り痕が残る。

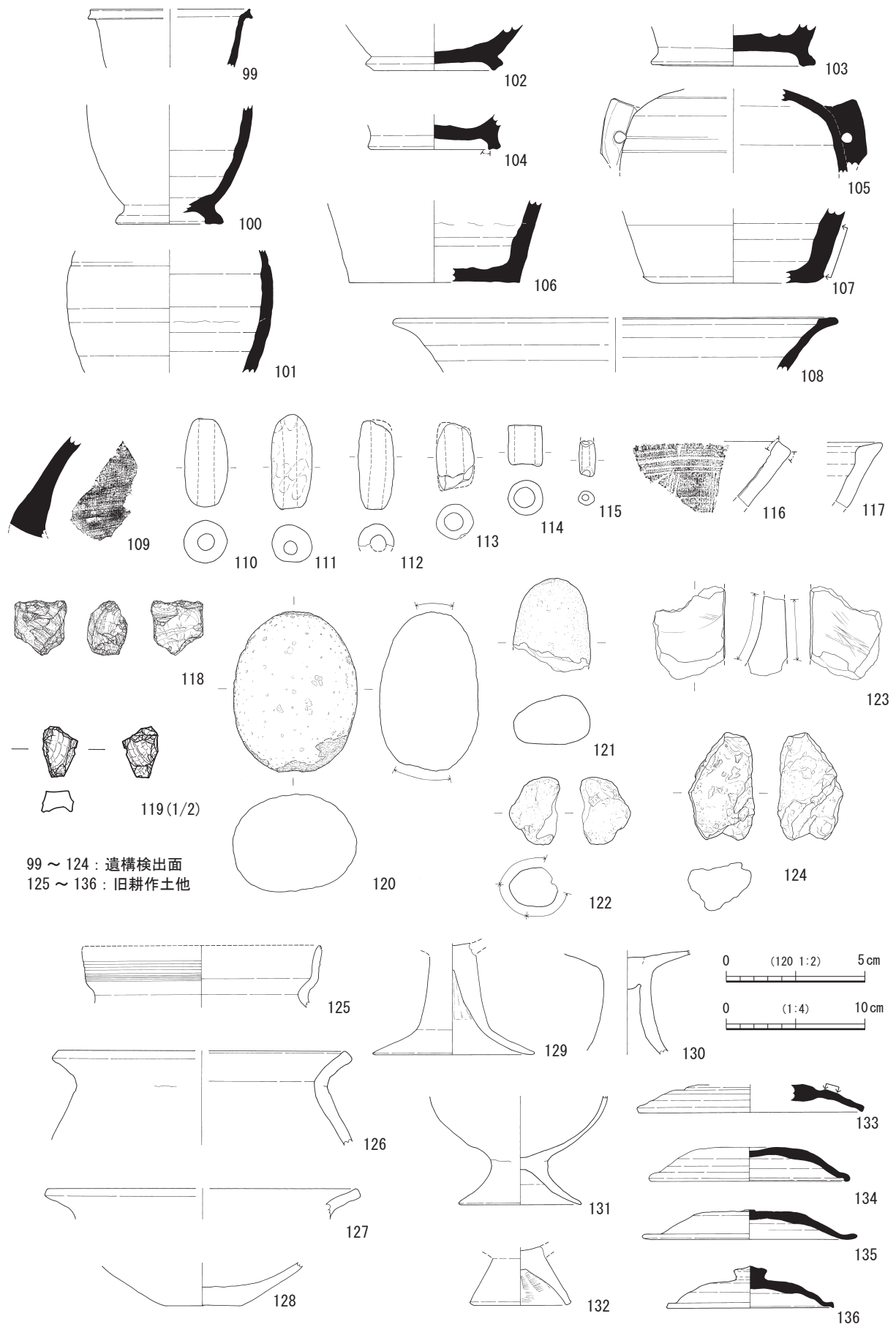
第26図99～107は須恵器壺・瓶類、108・109は甕である。瓶99は口径約11.5cmを測り、口縁端部を端正に仕上げる。細身の瓶100は厚手の台部が外展・接地し、内面は紫灰色を呈する。102～104は、断面方形の台部が外展する。102は、混和剤が少ない緻密・粘質な胎土を用いる。105は正位で焼成された双耳瓶で、肩部を沈線で加飾する。甕108は口径約32cmを測り、口縁端部が内側に肥厚する。109は、胴部との接合部で剥離する。110～115は土師器土錘で、110・111が残存重量50g前後、円柱形の114が11.9gをそれぞれ量る。小型の115は混和剤が多く混ざり、残存重量3gを量る。珠洲焼鉢片116・117は摩滅が目立つ。

石器・石製品の多くは、本来第4・5面に属する。石核118、剥片119の石質は鉄石英で、118は重さ48.3gを量る。安山岩製の敲石120は、重さ932.9gを量り、2ヶ所に顕著な敲打痕を残す。花崗岩と考えられる121は、敲石の可能性が高い。軽石凝灰岩製の砥石122は、ほぼ全面を研ぎに用いる。浅黄橙色を呈する凝灰岩製砥石123は、第1面に属する遺物である。鎌等の中砥石に使用、1側面に刃物痕を残す。鉄滓124は、重さ約177gを量る。

第26図125～第28図210は、旧耕作土、調査区排水溝、表土等から出土した遺物をまとめたものである。125～132は、本来第2面以下に属する遺物である。弥生時代後期後半の甕125は口径約17cmを測り、

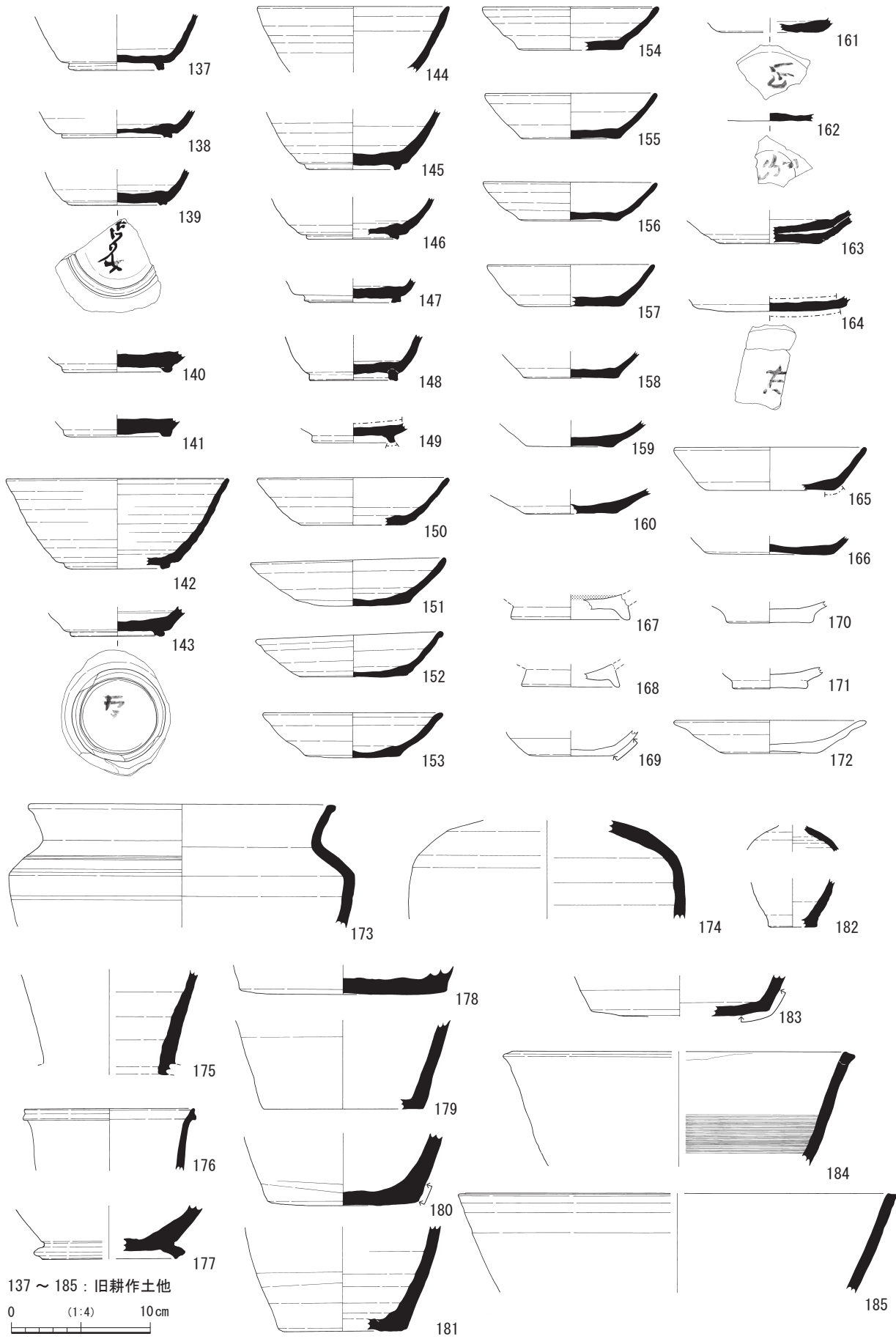


第25図 A区第1面出土遺物実測図3 (S=1/4)

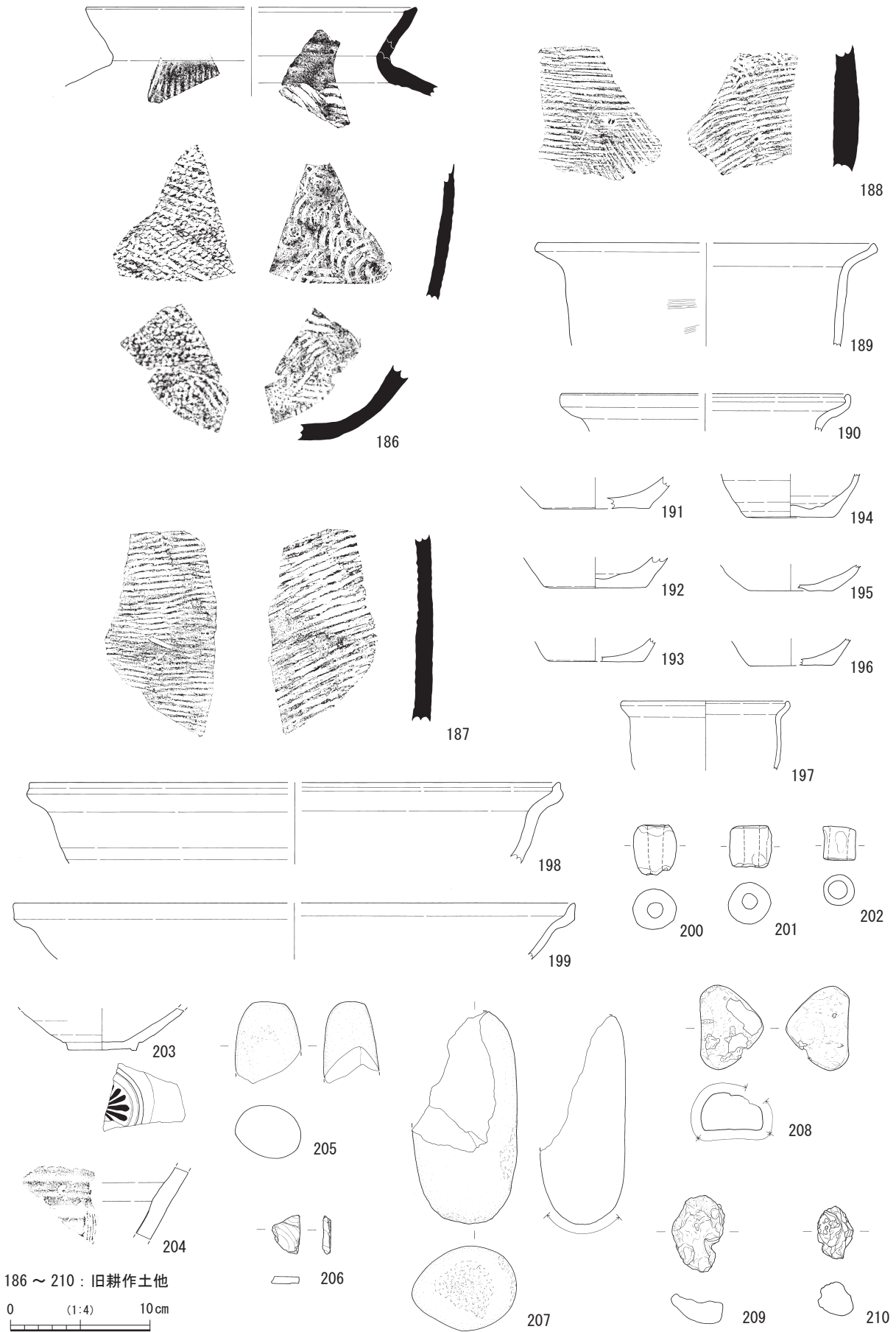


99 ~ 124 : 遺構検出面
125 ~ 136 : 旧耕作土他

第26図 A区第1面出土遺物実測図4 (S=1/2・1/4)



第27図 A区第1面出土遺物実測図5(S=1/4)



第28図 A区第1面出土遺物実測図6 (S=1/4)

摩滅が著しい。土師器甕126・127は、口縁端部を平坦に仕上げる。土師器壺底部128は摩滅が著しい。129・130は弥生時代終末の高坏で、129は脚裾部が大きく外展する。弥生時代終末の台付壺131は剥離が目立つ。132は、古墳時代初頭の東海系の製塩土器台部と考えられ、外面に煤が付着する。

第26図133～166は須恵器で、133～136が坏蓋となる。Ⅳ期の133は口径16.2cmを測り、天井部が肥厚する。無鈕の134・135はⅥ₂期に位置付けられ、134が口径14.1cm、器高2.4cmを、135が口径15.6cm、器高2.1cmを測る。134は口縁端部を折り曲げるのに対して、135は簡略に長くひきのばす他、135は重ね焼き痕から身とセットで焼成したと考えられる。136は内面に薄い墨痕が残り、転用硯の可能性をもつ。

第27図137～149は有台坏で、142・143、145～147、149がⅥ₂期に位置付けられる。137は製作時のドベ(ヌタ)が目立つ。139は、外寄りに扁平な台部を貼り付け、底部外面に記された墨書は「女」以外には判読できない。胎土は南加賀窯跡群の特徴を示し、Ⅵ₁期に位置付けられる。140は生焼けで、141は摩滅が著しい。142は口径16.0cm、器高6.5cmを測り、体部はロクロひだが目立つ。143は破片化後に被熱する。145の台部は、坏部と異なる粘土を用いる。147の胎土は鳥屋窯跡群産の特徴を示し、148は生焼けのため摩滅する。149は台部を内寄りに張り付け、使用に伴い摩耗する。

150～163は無台坏で、150～152がⅥ₁期、153～160がⅥ₂期に位置付けられる。150～152は生焼けに近い。151は口縁端部が内湾気味であるのに対して、152は口縁端部を丸く仕上げる。151が口径13.9cm、器高3.4cmを、152が口径13.3cm、器高3.3cmを測る。153・154は口径約12.8cm、器高3cm強を測り、153には混和剤として8mm大の石英が混ざる。155は口径12.3cm、器高3.3cmを測り、摩滅が著しい。156・157は、器高の低下に伴い扁平な印象を受ける。底部片158～160のうち、159・160は体部が大きく外傾するため、碗形に近い。161の底部外面の墨書は「正」の可能性が高く、本遺跡で多出する「正月」を記したと考えられる。162の墨書は、判読できない。163は無台杯2個体の溶着片である。甕等の置き台に転用した破片と考えられ、甕等に溶着したまま、本遺跡に持ち込まれた可能性が高い。164～166は、Ⅴ₂～Ⅵ₁期の無台盤である。164は内外面とも使用に伴い平滑で、底部外面に記された墨書は判読できない。165は口径13.8cm、器高3.1cmを測る。166は生焼けで、摩滅が著しい。

167～172はロクロ土師器である。内黒の有台碗167は、太い台部が外展する。有台碗168は、被熱のため変色する。無台碗169は体部下端にケズリ調整を加え、170・171は底部台状を呈する。無台皿172は口径13.8cm、器高2.4cmを測り、底部外面は摩滅が著しい。173～183は須恵器壺・瓶類である。短頸壺173は口径21.6cmを測り、肩部を沈線で加飾する。胎土は、双耳瓶174とともに金沢末窯跡群産の特徴を示す。瓶174・175は、自然釉が溶着する。瓶176は口径12.1cmを測り、小片のため傾きに不安を残す。古相の177は、断面方形の台部が大きく外展する。178は底部内面全体に自然釉が付着する。瓶179～181は、外面を板状工具で整形する。小型瓶182は底径3.6cmを測り、底部外面に糸切り痕を残す。183とともに胎土に砂粒がほとんど混ざらない。184・185は鉢で、184が口径約24cm、185が同約30cmを測る。

第28図186～188は須恵器甕で、186が口径約23cmを測る。胴部片187・188は、内外面とも平行タタキの原体を用いて整形する。189～199はロクロ成形の土師器で、189・190が甕、191～197が小甕となる。189の胴部は寸胴形を呈し、190の口縁端部は内湾する。小甕191～196は底径6～8cm弱を測り、底部を回転糸切りで切り離す。小甕197は口径11.8cmを測り、摩滅が目立つ。埴198・199は口径40cm前後を測り、口縁端部を上方にひきのばす。199は焼成がよく、硬質な質感をもつ。200～202は土師器土錘で、201・202は円柱形を呈する。完形の202は孔径が大きく、上下端を水平に切断する。15世紀代の瀬戸灰釉平碗203は、底部外面に放射状の墨書を行う。204は珠洲焼鉢片である。205は弥生時代の両刃石斧基部で、硬質の砂岩を用いる。剥片206は硬質の暗緑色凝灰岩、敲石207は火山礫凝灰岩を、それぞれ用いる。砥石208は軽石凝灰岩製で、1ヶ所に刃物痕が残る。鉄滓片209・210は、重さ約47g、約27gをそれぞれ量る。

※ () は残存法量を示す。

| 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 時期 | 発掘 番号 |
|----------|---------------------|------------|-------------|------------|------------|------------|-------|-------|--------------|----|---------------------|-------------------------|------------------|--------------------------|-----------------|----------|
| 21 | 7A1SB112 (P107) | 須恵器 | 有台坏 | 16.0 | - | (5.0) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | 口4/36 | 外面黒化 | VIか | D-347 |
| 21 | 7A1SB112 (P107) | 須恵器 | 有台坏 | - | 8.0 | (1.6) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | ロクロナデ | 回転へら切り 後回転ナデ | 底13/36 | 外面黒化 | VI | D-126 |
| 21 | 7A1SB112 (P107) | ロクロ 土師器 | 埴 | - | - | (7.4) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 S・M・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | 小片 | 全体磨減顯著 | - | D-096 |
| 21 | 7A1SB113 (P113) | 須恵器 | 瓶 | 11.6 | - | (3.8) | 灰 | 灰 | D-b | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ | 口3/36 | 内面降灰、外面黒化 | V・VI | D-124 |
| 21 | 7A1SB113 (P116) | 須恵器 | 有台坏 | - | 5.8 | (2.8) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | ロクロナデ | 回転へら切り 後ナデ | 底14/36 | 外面黒化 | VI ₂ | D-125 |
| 21 | 7A1SB114 (P141) | 須恵器 | 有台坏 | 11.8 | 6.2 | 4.7 | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | ロクロナデ | 回転へら切り 後ナデ | 底36/36 | 外面黒化 | VI ₂ | D-092 |
| 21 | 7A1SB114 (P141) | ロクロ 土師器 | 内面藍色 無台坏 | 12.6 | 5.4 | 3.9 | 黒 | にぶい黄橙 | b-1 S・M | 良 | ロクロナデ、ミガキ (外底含む) | ロクロナデ、 口クロケズリ | 底14/36 | 内面黒色処理、外面一部へら先接痕 | VI ₁ | D-093 |
| 21 | 7A1SB114 (P141) 採取痕 | ロクロ 土師器 | 小甕 | - | 7.0 | (5.3) | 淡橙 | にぶい橙 | b-4 S・M | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ | 底11/36 | 外面煤煤付着、磨減目立つ | VIか | D-091 |
| 21 | 7A1P109 検出面 | 須恵器 | 有台坏 | - | 7.0 | (2.6) | 灰 | 灰 | D-b | 良 | ロクロナデ | 回転へら切り 後ナデ | 底33/36 | 外面黒化 | Vか | D-123 |
| 21 | 7A1P142 | 須恵器 | 有台坏 | - | 7.6 | (3.5) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | 底7/36 | 外面黒化 | VI ₁ | D-204 |
| 21 | 7A1P142 取り上げ①前 | 須恵器 | 無台坏 | 13.2 | 7.0 | 3.5 | 灰白 | 灰白 | D-b | 選軟 | ロクロナデ、ナデ | ロクロナデ、 回転へら切り 後ナデ | 口30/36 底36/36 | 生焼けに近い、内外面磨減、外底磨書「□(前カ)」 | VI ₁ | 墨-008 |
| 21 | 7A1P142 | 須恵器 | 無台坏 | 13.0 | 6.8 | 3.3 | 灰白 | 灰白 | A-b | 選硬 | ロクロナデ、ナデ | ロクロナデ、 回転へら切り 後ナデ | 口24/36 底36/36 | 口縁部黒化、外底磨書「□」 | VI ₁ | 墨-007 |
| 21 | 7A1P142 取り上げ② | 須恵器 | 無台坏 | 12.8 | 7.0 | 3.0 | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | ロクロナデ、ナデ | ロクロナデ、 回転へら切り 後ナデ | 口33/36 底36/36 | ほぼ完形、口縁部黒化 | VI ₂ | D-089 |
| 21 | 7A1P142 取り上げ③ | 須恵器 | 小型瓶 | - | 6.9 | (8.8) | 灰 | 灰 | F-b | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、ナデ | 底36/36 | 頸部沈線1条、内外面降灰(正位無蓋焼成) | - | D-094 |
| 21 | 7A1P149 | ロクロ 土師器 | 小甕 | 10.6 | - | (5.2) | にぶい褐 | にぶい橙 | b-4 S・M・L | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ | 口4/36 | 内面ヨゴレ、外面煤付着 | V~ | D-095 |
| 21 | 7A1P151 採取痕 | ロクロ 土師器 | 面黒 有台坏カ | - | - | (3.7) | 黒 | 黒 | a-1 S | 良 | ミガキ | ロクロナデ | - | II B 磨重お焼き | VI | D-088 |
| 21 | 7A1P301 (第1面柱穴) | 須恵器 | 坏蓋 | 11.6 | - | (2.4) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | ロクロナデ、ナデ | ロクロナデ、 回転へら切り 後ナデ | 口10/36 | 外面自然釉、外側磨書「福」 | VI ₁ | D-225 |
| 21 | 7A1P302 | 須恵器 | 無台坏 | 12.8 | - | (2.6) | 灰白 | 灰白 | D-b | 選軟 | ロクロナデ | ロクロナデ | 口8/36 | 外面に煤付着、台部欠け連続 | VI ₂ | 墨-015 |
| 21 | 7A1P302 | 須恵器 | 有台坏 | - | 7.1 | (1.7) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | ロクロナデ、ナデ | ロクロナデ、 回転へら切り 後ナデ | 底36/36 | 外面に煤付着、台部欠け連続 | VI ₂ | D-050 |
| 21 | 7A1SK07 | 須恵器 | 無台坏 | 12.8 | 7.2 | 3.5 | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、 回転へら切り 後ナデ | 口7/36 底18/36 | 口縁部黒化、外底磨書「□」 | VI ₁ | 墨-006 |
| 21 | 7A1SK07 | 須恵器 | 無台坏 | 13.2 | 7.4 | 2.9 | 灰白 | 灰白 | D-b | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、 回転へら切り 後ナデ | 口9/36 底8/36 | 口縁部黒化、外底磨書、判読できず | VI ₂ | D-054 |
| 21 | 7A1SK07 | ロクロ 土師器 | 甕 | 23.8 | - | (3.4) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 S・M・L | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ | 口6/36 | 内面炭化物付着 | VI | D-104 |
| 22 | 7A1SK07 | 漆紙文書 | - | (14.46) | (12.21) | - | - | - | - | - | - | - | - | 復元径約20cm | - | - |
| 21 | 7A1SK16 | 弥生土器 | 壺カ | - | 9.6 | (3.8) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 M・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | 底18/36 | 赤色酸化粒多い、外面下端に深いへら痕、磨減顯著 | - | D-055 |
| 24 | 7A1SD52 | 須恵器 | 坏蓋 | 14.4 | - | 1.9 | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、 回転へら切り 後ナデ | 口2/36 | 無紐、天井部外面敷物圧痕、重ね焼き不明 | VI ₂ | D-044 |
| 24 | 7A1SD52 | 須恵器 | 無台坏 | - | 7.0 | (1.5) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、 回転へら切り 後ナデ | 底13/36 | 外底磨書「平」 | VI ₁ | 墨-030 |
| 24 | 7A1SD66 | 弥生土器 | 器台 | - | - | (5.2) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 S・M | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | - | 脚部内面に工具痕、磨減顯著 | 弥生後期 | C-020 |
| 24 | 7A1SD66 | 土師器 | 高坏カ | - | - | (5.1) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-6 S・M・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | - | 磨減顯著 | 古墳初顔 | C-019 |
| 24 | 7A1SD71 | 須恵器 | 坏蓋 | - | 2.5 | (2.2) | 暗灰 | 暗灰 | D-b | 選硬 | ロクロナデ、ナデ | ロクロナデ、 回転へら切り 後ナデ | - | 外面降灰(I類重ね焼き類)、焼きぶくれあり | VI ₁ | D-048 |
| 24 | 7A1SD71 | ロクロ 土師器 | 小甕 | 11.7 | - | (5.0) | 浅黄橙 | にぶい橙 | b-4 S・M | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ | 口2/36 | 口縁部内面コガ、外面煤付着 | VI | D-348 |
| 24 | 7A1SD72 | 須恵器 | 長頸瓶 | - | 8.6 | (18.8) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | ロクロナデ、ナデ | ロクロナデ、 板状ナデ、ナ テ | 底10/36 | 風船技法で口縁部接合、外面黒化・降灰 | VIか | D-049 |
| 24 | 7A1SD84 | ロクロ 土師器 | 有台皿 | - | 6.8 | (1.5) | 浅黄 | 淡黄 | b-2 M | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | 底7/36 | 磨減顯著 | VI ₁ | D-211 |
| 24 | 7A1SD85 | 須恵器 | 有台坏 | - | 7.8 | (3.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | D-b | 酸硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、 回転へら切り 後ナデ | 底13/36 | 還元弱い | VI ₁ | D-151 |

第13表 A区第1面出土土器観察表1

※ () は残存量を示す。

| 遺物番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 時期 | 実測番号 |
|------|-----------------|------------|-----|---------|---------|---------|-------|-------|--------------|----|----------|-----------------------|----------------|---------------------------|--------------------|-------|
| 24 | 35 7A1SD86 | 須恵器 土師器 | 甕 | 約19.6 | - | (40) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口4/36 | 全体磨滅顕著 | VIか | D-102 |
| 24 | 36 7A1SD86 | 須恵器 土師器 | 埴 | - | - | (5.5) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | - | 全体磨滅顕著 | IVか | D-103 |
| 24 | 38 7A1SD91、検出面 | 須恵器 土師器 | 甕 | - | 約9 | (18.8) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-1 M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 底36/36 | 磨滅顕著 | 7c | D-100 |
| 24 | 39 7A1SD91 | 須恵器 | 有台坏 | 8.9 | 5.8 | 4.3 | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り | 底7/36 | 外面黒化 | V ₂ | D-150 |
| 24 | 40 7A1SD91 | 須恵器 | 無台坏 | 12.2 | 7.8 | 3.1 | 灰白 | 灰黄 | D-b | 選軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り | 底17/36 | 還元弱い | VI | D-101 |
| 24 | 41 7A1SD107、表土 | 須恵器 | 瓶 | - | - | (12.6) | 青灰 | 暗灰 | D-b | 選硬 | カキメ、ナデ | 口クロナデ | - | 外面黒化 | V~ | D-208 |
| 24 | 42 7A1SD112 | 須恵器 | 有台坏 | 15.0 | 8.4 | 6.0 | 灰白 | 青灰 | D-bか | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り | 底28/36 | 外底黒化、判読できず | VI | 墓-024 |
| 24 | 43 7A1SD112、検出面 | 須恵器 | 無台坏 | 13.9 | 7.6 | 3.1 | 灰白 | 灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ、ナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り | 底15/36 | 口縁部内面褐色ヨコシ、外面煤付着(煮炊き容器転用) | VI | D-098 |
| 24 | 44 7A1SD112 | 須恵器 | 甕 | - | - | (3.1) | にぶい黄橙 | 橙 | b-4 S・M | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ | 小片 | 内面ヨコシ付着 | V~ | D-148 |
| 24 | 45 7A1SD117 | 須恵器 | 甕 | 20.4 | - | (8.6) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 S・M・L | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ、カキメ | 口5/36 | 外面煤付着、磨滅目立つ | VIか | D-149 |
| 24 | 46 7A1SD117 | 須恵器 | 小甕 | - | 5.0 | (4.2) | にぶい黄橙 | 褐灰 | b-4 S・M・L | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ケズリ、 回転糸切り | 底36/36 | 内面ヨコシ、外面煤付着 | VI | D-099 |
| 24 | 47 7A1SD119 | 須恵器 | 有台坏 | - | 7.0 | (1.5) | 褐灰 | にぶい黄橙 | b-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 底11/36 | 内面黒色処理、磨滅顕著 | VI ₂ | D-183 |
| 24 | 48 7A1SD119 | 須恵器 | 小坏か | - | 6.4 | (1.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 口クロナデ、回転糸切り | 底31/36 | 外底外縁に圓縁状痕、内面黒色処理の可能性あり | VI | D-090 |
| 24 | 49 7A1SD119 | 須恵器 | 埴 | - | - | (2.9) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 S・M・L | 良 | 口クロナデ、ハケ | 口クロナデ | 小片 | 磨滅顕著 | - | D-185 |
| 25 | 50 検出面 | 須恵器 | 甕 | 約26 | - | (12.3) | 橙 | 橙 | b-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口3/36 | 磨滅顕著 | 弥生終末 | C-021 |
| 25 | 51 検出面 | 須恵器 | 甕 | - | - | (5.7) | 橙 | 橙 | b-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | - | 磨滅顕著 | 弥生終末 | C-022 |
| 25 | 52 第1面精査 | 須恵器 | 甕 | 19.9 | - | (4.7) | 橙 | 橙 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | 口6/36 | 内面接合痕あり、磨滅顕著 | 弥生後期 | C-016 |
| 25 | 53 第1面精査 | 須恵器 | 甕 | 15.4 | - | (5.8) | 灰白 | にぶい黄橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデか | ヨコナデ、ナデか | 口7/36 | 磨滅目立つ | 古墳初頭 | C-017 |
| 25 | 54 検出面 | 須恵器 | 高坏 | - | - | (4.8) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | ミガキか | - | 赤彩か、剥離、磨滅顕著 | 弥生終末 | C-023 |
| 25 | 55 検出面 | 須恵器 | 高坏 | - | - | (4.0) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | - | 剥離、磨滅目立つ | 古墳初頭 | C-024 |
| 25 | 56 検出面 | 須恵器 | 把手 | 長さ(4.2) | 径2.9 | - | - | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | - | ナデ | - | 一部に黒斑、磨滅顕著 | - | D-136 |
| 25 | 57 検出面 | 須恵器 | 坏H身 | 12.6 | - | (3.0) | 灰白 | 灰白 | A-b | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口12/36 | 外面磨灰 | I ₁ | D-060 |
| 25 | 58 検出面 | 須恵器 | 坏G蓋 | 13.2 | - | (1.7) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口5/36 | 口縁部磨灰 | II ₂ | D-324 |
| 25 | 59 検出面 | 須恵器 | 坏蓋 | - | 紐径2.2 | (2.8) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切後 回転ナデ | - | 重ね焼き不明 | VI ₁ | D-135 |
| 25 | 60 検出面 | 須恵器 | 坏蓋 | 14.8 | - | (1.3) | 灰白 | 灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口6/36 | IIb類重ね焼き | VI ₁ | D-331 |
| 25 | 61 遺構検出面 | 須恵器 | 坏蓋 | 12.6 | - | (1.8) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切後 回転ナデ | 口4/36 | IIb類重ね焼き | VI ₁ | D-338 |
| 25 | 62 検出面 | 須恵器 | 坏蓋 | 12.6 | - | (2.2) | 灰白 | 灰白 | D-b | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り | 口8/36 | IIb類重ね焼き | VI ₁ | D-129 |
| 25 | 63 検出面 | 須恵器 | 坏蓋 | 11.4 | - | (2.0) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り | 口4/36 | IIb類重ね焼き | VI ₁ | D-335 |
| 25 | 64 検出面 | 須恵器 | 有台坏 | 14.6 | - | (3.8) | 灰白 | 灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口4/36 | 外面黒化 | IV _{1(外)} | D-342 |
| 25 | 65 検出面 | 須恵器 | 有台坏 | - | 9.0 | (3.1) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ、ナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り | 底12/36 | 内底丁字ナデ、使用で摩耗。外面黒化 | IV ₂ | D-189 |
| 25 | 66 検出面、旧耕作土 | 須恵器 | 有台坏 | - | 9.8 | (3.9) | 灰 | 暗灰 | F-b | 選硬 | 口クロナデ、ナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り | 底26/36 | 外面黒化、外底に墨痕、判読できず | IV ₂ | D-329 |
| 25 | 67 検出面、旧耕作土 | 須恵器 | 有台坏 | 14.8 | 7.8 | 6.5 | 灰 | 灰 | X-b | 選軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り | 口3/36 底8/36 | 胎土に微砂粒多く混ざる | VI ₁ | D-344 |
| 25 | 68 検出面 | 須恵器 | 有台坏 | 13.6 | - | (4.9) | 灰白 | 灰白 | D-b | 選軟 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口4/36 | 生焼け | VI ₁ か | D-341 |
| 25 | 69 検出面 | 須恵器 | 有台坏 | 13.8 | - | (3.9) | 灰 | 暗灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口4/36 | 外面黒化 | VI ₁ か | D-336 |

第14表 A区第1面出土土器観察表2

※ () は残存法量を示す。

| 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 時期 | 発掘 番号 |
|----------|------------|------------|------|------------|------------|------------|------|------|--------------|----|----------|------------------------|------------------|----------------------|-----------------|----------|
| 25 70 | 椀出面 | 須恵器 | 有台杯 | - | 6.8 | (3.4) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 底17/36 | 内外面に煤付層 | VI ₁ | D-056 |
| 25 71 | 椀出面・筒側壁 | 須恵器 | 有台杯 | - | 6.4 | (3.0) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 底21/36 | 外面黒化。内面全体に黒褐色漆付層(漆器) | VI ₁ | D-113 |
| 25 72 | 椀出面 | 須恵器 | 有台杯 | - | 6.6 | (3.7) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 底16/36 | 外面黒化 | VI ₁ | D-334 |
| 25 73 | 椀出面 | 須恵器 | 有台杯 | - | 6.6 | (2.5) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 底14/36 | 外面黒化。内底摩耗 | VI ₁ | D-326 |
| 25 74 | 椀出面 | 須恵器 | 有台杯 | - | 7.0 | (2.8) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 底9/36 | 台部の胎土異なる。外面黒化 | VI ₂ | D-337 |
| 25 75 | 椀出面 | 須恵器 | 有台杯 | 15.4 | - | (4.9) | 灰白 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口7/36 | | VI ₂ | D-197 |
| 25 76 | 椀出面 | 須恵器 | 有台杯 | - | 7.8 | (3.1) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 底14/36 | 外面黒化 | VI ₂ | D-327 |
| 25 77 | 遺構線出面 | 須恵器 | 有台杯 | - | 7.6 | (3.7) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 底19/36 | 外面黒化 | VI ₂ | D-196 |
| 25 78 | 椀出面 | 須恵器 | 有台杯 | - | 6.6 | (2.3) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 底16/36 | 外面黒化 | VI ₂ | D-325 |
| 25 79 | 椀出面 | 須恵器 | 有台杯 | - | 6.0 | (3.2) | 青灰 | 青灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 底15/36 | 外面降灰 | VI ₂ | D-328 |
| 25 80 | 椀出面 | 須恵器 | 有台杯 | - | 6.0 | (3.4) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 底19/36 | 外面黒化 | VI ₂ | D-199 |
| 25 81 | 椀出面 | 須恵器 | 有台杯 | 10.4 | 7.0 | 3.7 | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 口3/36 底8/36 | 外面降灰 | V ₁ | D-141 |
| 25 82 | 遺構線出面 | 須恵器 | 有台杯 | - | 5.6 | (1.3) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 底27/36 | 外底を含めて外面自然釉落着 | VI ₁ | D-195 |
| 25 83 | 椀出面 | 須恵器 | 無台杯 | 12.2 | 7.4 | 3.3 | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 口12/36 底20/36 | 口縁部黒化。外底に茶色付着物(漆か) | VI ₁ | D-053 |
| 25 84 | 椀出面 | 須恵器 | 無台杯 | 12.2 | 7.6 | 2.8 | 灰白 | 灰白 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 口2/36 底36/36 | 口縁部黒化 | VI ₁ | D-143 |
| 25 85 | 椀出面 | 須恵器 | 無台杯 | 12.0 | - | (3.6) | 灰白 | 灰白 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口6/36 | 口縁部黒化 | VI ₁ | D-330 |
| 25 86 | 椀出面 | 須恵器 | 無台杯 | - | 6.4 | (2.0) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 底36/36 | 体部内面黒化 | VI ₁ | D-190 |
| 25 87 | 椀出面 | 須恵器 | 無台杯 | - | - | (0.8) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 底小片 | 外底墨書。判読できず | VI ₁ | 墨-013 |
| 25 88 | 上面精査 | 須恵器 | 無台盤 | 13.8 | 9.0 | 2.3 | 灰白 | 灰白 | D-b | 還軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 口8/36 底10/36 | 還元弱い。内底摩耗 | V ₂ | D-110 |
| 25 89 | 椀出面 | 須恵器 | 無台盤 | 13.8 | 9.0 | 2.6 | 灰白 | 灰白 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 口4/36 底9/36 | 口縁部黒化 | VI ₁ | D-145 |
| 25 90 | 椀出面 | 須恵器 | 有台皿か | 14.8 | - | (3.3) | 灰白 | 灰白 | D-b | 還軟 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口6/36 | 生焼けに近い | VI ₂ | D-333 |
| 25 91 | 上面精査 | 須恵器 | 有台皿 | 11.6 | 7.0 | 2.4 | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口3/36 底6/36 | 内底重ね焼き痕あり。外面黒化 | VI ₂ | D-351 |
| 25 92 | 椀出面・旧耕作土 | 須恵器 | 鉢か | 18.9 | - | (6.2) | 灰白 | 灰白 | D-b | 還軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、カキメ | 口6/36 | 無窯焼成。金属器模倣 | V-VI | D-162 |
| 25 93 | 椀出面 | 須恵器 | 小坏 | 11.8 | 6.8 | 4.7 | 灰黄 | 灰黄 | D-b | 還軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後ナデ | 口14/36 底19/36 | 外底に敷物圧痕 | VI ₁ | D-078 |
| 25 94 | 椀出面 | 須恵器 | 小坏 | 8.6 | 6.0 | 3.0 | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り 後回転ケズリ | 口4/36 底11/36 | 外面黒化 | V | D-188 |
| 25 95 | 椀出面 | 口クロ 土師器 | 有台碗 | - | 7.0 | (1.9) | 黒 | 灰白 | a-4 S・M・L | 良 | ミガキ | 口クロナデ | 底10/36 | 内面黒色処理。磨減目立つ | VI ₃ | D-187 |
| 25 96 | 椀出面 | 口クロ 土師器 | 小甕 | - | 6.6 | (1.8) | 橙 | 橙 | b-4 S・M・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | 底36/36 | 磨減顕著 | - | D-128 |
| 25 97 | 椀出面 | 口クロ 土師器 | 小甕 | - | 5.0 | (1.4) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-3 S・M・L | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転糸切り | 底36/36 | 煮炊きで変色。破片化後に煤付層 | - | D-160 |
| 25 98 | 椀出面 | 口クロ 土師器 | 小甕 | - | 5.0 | (2.0) | にぶい橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転糸切りか | 底12/36 | 磨減目立つ | - | D-186 |
| 26 99 | 上面精査 | 須恵器 | 瓶 | 約11.5 | - | (4.2) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口3/36 | 内外面自然釉付層 | VI | D-155 |
| 26 100 | 椀出面・表土 | 須恵器 | 瓶 | - | 7.5 | (8.6) | 紫灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 板状工具ナデ、ナデ | 底10/36 | 外面降灰。黒化 | VI | D-108 |
| 26 101 | 椀出面・表土 | 須恵器 | 瓶 | - | - | (8.8) | 灰白 | 灰白 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ | - | 還元弱い | - | D-209 |
| 26 102 | 椀出面 | 須恵器 | 壺 | - | 10.0 | (3.3) | 灰 | 灰 | X-b | 還硬 | 口クロナデ、ナデ | 口クロナデ、ナデ | 底10/36 | | IV ₁ | D-144 |
| 26 103 | 第1面精査、旧耕作土 | 須恵器 | 壺・瓶 | - | 11.9 | (3.0) | 青灰 | 青灰 | F-b | 還硬 | 口クロナデ、ナデ | 口クロナデ、ナデ | 底29/36 | 内底降灰。外面黒化 | - | D-074 |

第15表 A区第1面出土土器観察表3

※ () は残存法量を示す。

| 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 時期 | 実測 番号 |
|----------|--------|-------------|-------------|------------|------------|-------|-------|--------------|------|----------|--------------------|--------|-------------------------|-------------------|----------|
| 26 104 | 検出面 | 須恵器 壺・瓶 | - | 9.6 | (2.5) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り | 底12/36 | 内面降灰 | - | D-147 |
| 26 105 | 検出面、表土 | 須恵器 双耳瓶 | - | - | (6.1) | 明青灰 | 灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、ナデ | - | 沈線3条、外面降灰(正位焼成) | VI | D-107 |
| 26 106 | 検出面 | 須恵器 瓶 | - | 12.4 | (5.9) | 青灰 | 青灰 | D-b | 選硬 | ヨコナデ、ナデ | 口クロナデ、ナデ | 底10/36 | 焼成堅緻。内面自然釉付着 | - | D-075 |
| 26 107 | 検出面 | 須恵器 瓶 | - | 13.2 | (5.4) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ、ナデ | ケズリ(板状工具ナデ)、ナ デ | 底6/36 | 外底敷物圧痕。内面自然釉付着、外面降灰 | - | D-142 |
| 26 108 | 検出面 | 須恵器 甕 | 約32 | - | (4.1) | 灰 | 灰白 | A-b | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口1/36 | - | VI | D-332 |
| 26 109 | 検出面 | 須恵器 甕 | - | - | (7.3) | オリブ灰 | 灰 | D-b | 選硬 | ヨコナデ | ヨコナデ | - | 波状文、胴部接合部で剥離 | ~IV | D-068 |
| 26 110 | 検出面 | 土師器 土鐘 | 長さ 6.4 | 径 3 | 孔径 2 | - | 褐灰 | b-4 S・M・L | 並 | - | ナデ | - | 黒斑。残存重量50.9g。磨滅顕著 | - | D-127 |
| 26 111 | 検出面 | 土師器 土鐘 | 長さ 6.8 | 径 2.9 | 孔径 0.9 | - | 褐灰 | b-4 S・M・L | 並 | - | ナデ | - | 胎土の練り不十分。残存重量49.4g。磨滅顕著 | - | D-071 |
| 26 112 | 検出面 | 土師器 土鐘 | 長さ (6.4) | 径 2.6 | 孔径 1.1 | - | 灰褐 | b-3 S・M | 並 | - | ナデ | - | 残存重量21.3g | - | D-057 |
| 26 113 | 検出面 | 土師器 土鐘 | 長さ (4.8) | 径 2.7 | 孔径 1.3 | - | 褐灰 | b-4 S・M | 並 | - | ナデ | - | 残存重量20.0g。一部黒斑 | - | D-059 |
| 26 114 | 検出面 | 土師器 土鐘 | 長さ 2.9 | 径 2.5 | 孔径 1.5 | - | 褐灰 | b-4 S・M・L | 良 | - | ナデ | - | 完形。赤色酸化粒多い。重さ11.9g | - | D-072 |
| 26 115 | 検出面 | 土師器 土鐘 | 長さ (2.6) | 径 1.2 | 孔径 0.4 | - | 褐灰 | b-4 S・M・L | 並 | - | ナデ | - | 一部黒斑。残存重量3.0g | - | D-068 |
| 26 116 | 検出面 | 珠洲焼 鉢 | - | - | (4.6) | 暗灰 | 暗灰 | - | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、おろし目 | 小片 | 石英、長石、海綿骨針混ざる | IV期か | D-069 |
| 26 117 | 検出面 | 珠洲焼 鉢 | - | - | (4.8) | 灰白 | 灰白 | - | やや不良 | 口クロナデ | 口クロナデ | 小片 | 石英、長石、黒砂、海綿骨針混ざる。磨滅顕著 | VI期か | D-070 |
| 26 125 | 調査区側溝 | 弥生土器 甕 | 約17 | - | (4.4) | 橙 | 橙 | b-4 S・M | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | 口6/36 | 縦凹線5条1単位か。磨滅、剥離顕著 | 弥生後期 | C-011 |
| 26 126 | 旧耕作土 | 土師器 甕 | 20.5 | - | (6.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデか | ヨコナデか | 口1/36 | 内面煤付着。磨滅顕著 | 古墳後期か | D-175 |
| 26 127 | 調査区側溝 | 土師器 甕 | 約22 | - | (2.2) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-3 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口4/36 | 磨滅顕著 | 古墳後期か | D-084 |
| 26 128 | 調査区側溝 | 土師器 壺 | - | 5.8 | (3.1) | 褐灰 | にぶい黄橙 | b-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 底21/36 | 磨滅、剥離顕著 | 古墳前期 | D-346 |
| 26 129 | 調査区側溝 | 弥生土器 高坏 | - | 11.7 | (8.0) | 黒褐 | 橙 | b-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 脚2/36 | 内面にしぼり痕。磨滅顕著 | 弥生終末 | C-013 |
| 26 130 | 表土 | 弥生土器 高坏 | - | - | (7.5) | 浅黄橙 | 淡橙 | b-4 S・M | 良 | ナデ | ミガキか | - | 磨滅顕著 | 弥生終末 | C-018 |
| 26 131 | 調査区側溝 | 弥生土器 合付壺 | - | 8.8 | (7.8) | 黄灰 | 浅黄橙 | b-4 S・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | 磨滅不明 | 底35/36 | 磨滅顕著 | 弥生終末 | C-015 |
| 26 132 | 調査区側溝 | 土師器 合付甕 | - | 7.3 | (4.2) | にぶい橙 | 灰褐 | b-4 S・M・L | 良 | ナデ、ハケ | ヨコナデ、ナデ | 底17/36 | 外面煤付着 | 古墳初頭 | C-014 |
| 26 133 | 旧耕作土 | 須恵器 坏蓋 | 16.2 | - | (2.0) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り | 口4/36 | I類重ね焼き類(外面降灰) | IV | D-163 |
| 26 134 | 調査区側溝 | 須恵器 坏蓋 | 14.1 | - | 2.4 | 褐灰 | 褐灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り | 口3/36 | 無紐。口縁部黒化(皿類重ね焼き) | VI ₂ | D-166 |
| 26 135 | 旧耕作土 | 須恵器 坏蓋 | 15.6 | - | 2.1 | 灰白 | 灰白 | D-b | 選軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り | 口5/36 | 無紐。重ね焼きIIb類 | VI ₂ | D-073 |
| 26 136 | 高側壁 | 須恵器 坏蓋 | 12.0 | 直径 2.3 | 3.0 | 明青灰 | 明青灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ、ナデ | 口クロナデ、回転へら切り | 口3/36 | IIb類重ね焼き類。内面に墨痕(転用現)か | V~VI ₁ | D-114 |
| 27 137 | 旧耕作土 | 須恵器 有台坏 | - | 6.8 | (4.0) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ、ナデ | 口クロナデ、回転へら切り | 底25/36 | 外面黒化 | V ₂ | D-343 |
| 27 138 | 旧耕作土 | 須恵器 有台坏 | - | 8.0 | (2.0) | 青灰 | 灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り | 底13/36 | 外底板目圧痕。外面一部自然湯付着 | VI ₁ | D-202 |
| 27 139 | 間層 | 須恵器 有台坏 | - | 7.2 | (2.7) | 灰 | 灰 | A-bか | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り | 底13/36 | 外面黒化。外底墨書「□□女」 | VI ₁ | 墨-014 |
| 27 140 | 旧耕作土 | 須恵器 有台坏 | - | 8.0 | (1.5) | 灰褐 | にぶい黄橙 | D-b | 選軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り | 底8/36 | 粘土の練り不十分。生焼け。磨滅目立つ | VI ₁ | D-173 |
| 27 141 | 旧耕作土 | 須恵器 有台坏 | - | 7.8 | 1.3 | 灰白 | 灰白 | D-b | 選軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り | 底36/36 | 磨滅顕著 | VI | D-179 |
| 27 142 | 旧耕作土 | 須恵器 有台坏 | 16.0 | - | 6.5 | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転へら切り | 口6/36 | 全体的に焼きゆがみ。焼成堅緻 | VI ₂ | D-105 |
| 27 143 | 表土 | 須恵器 有台坏 | - | 6.8 | (2.1) | 灰 | 灰 | X-b | 選硬 | 口クロナデ、ナデ | 口クロナデ、回転へら切り | 底33/36 | 破片化後に焼熱、煤付着。割れ口磨滅顕著 | VI ₂ | 墨-009 |
| 27 144 | 調査区側溝 | 須恵器 有台坏 | 13.6 | - | (4.7) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口7/36 | 外面黒化 | VI ₁ | D-345 |

第16表 A区第1面出土土器観察表4

第2節 第1面の遺構と遺物

※ () は残存法量を示す。

| 捕図 番号 | 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 時期 | 発掘 番号 |
|----------|----------|------------|------------|------|------------|------------|------------|-------|-------|--------------|----|----------|---------------------|------------------|---|---------------------------------|----------|
| 27 | 145 | 調査区側溝 | 須恵器 | 有台坏 | - | 6.2 | (4.3) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 底17/36 | 台部の胎土異なる。外面黒化 | VI ₂ | D-165 |
| 27 | 146 | 旧耕作土 | 須恵器 | 有台坏 | - | 6.6 | (3.0) | 灰白 | 灰白 | D-b | 還軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 底18/36 | | VI ₂ | D-200 |
| 27 | 147 | 旧耕作土 | 須恵器 | 有台坏 | - | 7.0 | (1.7) | 青灰 | 青灰 | F-b | 還硬 | 口クロナデ、ナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 底33/36 | 焼ききみあり。外面黒化 | IV ₂ | D-201 |
| 27 | 148 | 旧耕作土 | 須恵器 | 有台坏 | - | 6.4 | (3.2) | 灰白 | 灰 | D-b | 還軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 底36/36 | 生焼け。外面やや黒化。磨滅顕著 | V ₂ ~VI ₁ | D-203 |
| 27 | 149 | 旧耕作土 | 須恵器 | 有台坏 | - | 6.0 | (1.4) | 灰白 | 灰白 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 底34/36 | 使用に伴う摩耗目立つ。外面煤付着 | VI ₂ | D-178 |
| 27 | 150 | 調査区側壁 | 須恵器 | 無台坏 | 13.7 | 7.3 | 3.4 | 灰白 | 灰白 | D-b | 還軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 口9/36 底4/36 | 還元弱い | VI ₁ | D-111 |
| 27 | 151 | 調査区側溝 | 須恵器 | 無台坏 | 13.9 | 8.4 | 3.4 | 灰白 | 灰白 | D-b | 還軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 口31/36 底36/36 | 生焼け。内外面磨滅 | VI ₁ | D-085 |
| 27 | 152 | 調査区側溝 | 須恵器 | 無台坏 | 13.3 | 7.9 | 3.3 | 灰白 | 灰白 | D-b | 還軟 | 口クロナデ、ナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 口23/36 底36/36 | 生焼け | VI ₁ | D-086 |
| 27 | 153 | 調査区側溝 | 須恵器 | 無台坏 | 12.8 | 7.0 | 3.2 | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 口9/36 底21/36 | 口縁部黒化。最大8mm大の石英混ざる | VI ₂ | D-081 |
| 27 | 154 | 調査区側溝 | 須恵器 | 無台坏 | 12.6 | 7.6 | 3.1 | 灰白 | 灰白 | D-b | 還軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 口4/36 | 生焼けに近い | VI ₂ | D-168 |
| 27 | 155 | 調査区側溝 | 須恵器 | 無台坏 | 12.3 | 7.3 | 3.3 | 灰白 | 灰白 | D-b | 還軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 口6/36 底11/36 | 軟質で磨滅顕著 | VI ₂ | D-158 |
| 27 | 156 | 調査区側溝 | 須恵器 | 無台坏 | 12.4 | 7.3 | 2.8 | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 口14/36 底36/36 | 口縁部外面黒化 | VI ₂ | D-087 |
| 27 | 157 | 調査区側溝 | 須恵器 | 無台坏 | 12.0 | 7.8 | 3.0 | 灰白 | 灰白 | D-b | 還軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 口12/36 底17/36 | 一部生焼けに近い。口縁部黒化 | VI ₂ | D-080 |
| 27 | 158 | 旧耕作土 | 須恵器 | 無台坏 | - | 7.0 | (1.9) | 灰白 | 灰白 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 底36/36 | | VI ₂ | D-181 |
| 27 | 159 | 旧耕作土 | 須恵器 | 無台坏 | - | 6.3 | (1.8) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 底27/36 | | VI ₂ | D-182 |
| 27 | 160 | 旧耕作土 | 須恵器 | 無台坏 | - | 6.8 | (1.8) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 底36/36 | 内面体部黒化。焼きゆがみあり | VI ₂ | D-180 |
| 27 | 161 | 調査区側溝 | 須恵器 | 無台坏 | - | 7.6 | (1.1) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 底8/36 | 外底磨書(口正カ)。磨滅顕著 | VI ₁ か | 墨-011 |
| 27 | 162 | 調査区側溝 | 須恵器 | 無台坏 | - | - | (0.6) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 底小片 | 外底磨書、判読できず | VI | 墨-010 |
| 27 | 163 | 旧耕作土 | 須恵器 | 無台坏 | - | 7.2 | (2.5) | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 底9/36 | 2個体焼着。内面降灰。焼土付着。外面黒化。焼 土付着(部位で變。瓶置き台に転用) | VI ₁ | D-161 |
| 27 | 164 | 旧耕作土 | 須恵器 | 無台盤 | - | 11.2 | (1.1) | 青灰 | 青灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 底3/36 | 内外面平滑。外底磨書、判読できず | V ₂ ~VI ₁ | 墨-029 |
| 27 | 165 | 調査区側溝 | 須恵器 | 無台盤 | 13.8 | 9.3 | 3.1 | 灰白 | 黄灰 | D-b | 還軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り 後ナデ | 口5/36 | 外面黒化 | V ₂ ~VI ₁ | D-167 |
| 27 | 166 | 旧耕作土 | 須恵器か | 無台盤か | - | 9.4 | (1.3) | 橙 | 橙 | D-b | 還軟 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 底8/36 | 磨滅顕著 | V ₂ ~VI ₁ | D-121 |
| 27 | 167 | 調査区側溝 | 口クロ 土師器 | 有台碗 | - | 8.4 | (1.8) | 黒 | にぶい橙 | a-3 S・M・L | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ | 底10/36 | 内面黒色処理。磨滅顕著 | VI ₂ | D-169 |
| 27 | 168 | 旧耕作土 | 口クロ 土師器 | 有台碗 | - | 6.9 | (1.6) | にぶい褐 | にぶい褐 | a-2 S・M | 良 | 口クロナデ | 回転糸切線回転ナデ | 底8/36 | 被熱のため変色。煤付着 | VI ₂ | D-157 |
| 27 | 169 | 調査区側溝 | 口クロ 土師器 | 無台碗 | - | 6.1 | (1.9) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-3 S | 良 | 磨滅不明 | 口クロナデ、ケズリ | 底35/36 | 外面煤付着。内面、外底磨滅 | VI ₁ | D-116 |
| 27 | 170 | 調査区側溝 | 口クロ 土師器 | 無台碗 | - | 6.2 | (1.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 底18/36 | 磨滅顕著 | VI | D-170 |
| 27 | 171 | 表土 | 口クロ 土師器 | 無台碗 | - | 5.1 | (1.5) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 底35/36 | 磨滅顕著 | VI ₂ | D-109 |
| 27 | 172 | 調査区側溝 | 口クロ 土師器 | 無台皿 | 13.8 | 7.4 | 2.4 | にぶい橙 | にぶい橙 | b-1 S | 良 | 口クロナデか | 口クロナデか | 口18/36 | 磨滅顕著 | VI ₂ | D-082 |
| 27 | 173 | 調査区側溝、旧耕作土 | 須恵器 | 短頸壺 | 21.6 | - | (8.9) | 灰 | 灰 | C-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口1/36 | 肩部3ヶ所に流線。口縁部内面~外面降灰。外 面肩部自然釉付着 | V・VI | D-076 |
| 27 | 174 | 表土 | 須恵器 | 双耳瓶 | - | - | (7.1) | 灰白 | 灰白 | C-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ | - | 外面自然釉付着 | V・VI | D-212 |
| 27 | 175 | 表土 | 須恵器 | 瓶 | - | - | (7.6) | 灰 | 灰白 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ | - | 内外面自然釉付着 | V・VI | D-210 |
| 27 | 176 | 旧耕作土 | 須恵器 | 瓶 | 12.1 | - | (4.4) | 黄灰 | 黄灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口3/36 | 正位焼成。内面降灰。外面自然釉付着。小片の ため傾きに不安定 | V・VI | D-077 |
| 27 | 177 | 表土 | 須恵器 | 壺・瓶 | - | 9.8 | (3.8) | 淡灰 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ | 口クロナデ | 底5/36 | 内面降灰。外面黒化 | IVか | D-139 |
| 27 | 178 | 表土 | 須恵器 | 瓶 | - | 15.0 | (2.1) | 灰白 | 灰 | D-b | 還硬 | 口クロナデ、ナデ | 口クロナデ、ナデ | 底7/36 | 内底全面自然釉付着 | V・VI | D-153 |

第17表 A区第1面出土土器観察表5

※ () は残存法量を示す。

| 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 時期 | 発掘 番号 |
|----------|----------------|------------|-----|------------|------------|----------------|-------|-------|--------------|----|------------------|---------------------|---------|----------------------------|------|----------|
| 27 179 | 側壁 | 須恵器 | 瓶 | - | 11.6 | (6.4) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | ロクロナデ、ナデ | ロクロナデ、ナデ | 底 7/36 | 外面黒化 | V-VI | D-146 |
| 27 180 | 南側壁 | 須恵器 | 瓶 | - | 11.0 | (5.2) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | ロクロナデ、ナデ | ロクロナデ、ナデ | 底 11/36 | | V-VI | D-112 |
| 27 181 | 表土 | 須恵器 | 瓶 | - | 9.4 | (7.5) | 灰 | 灰 | D-b | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、板状工具ナデ | 底 11/36 | 焼成堅緻。外面黒化 | V-VI | D-152 |
| 27 182 | 表土 | 須恵器 | 小型瓶 | - | 3.6 | (1.9) (3.5) | 青灰 | 青灰 | X-b | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、糸切り | 底 9/36 | 砂粒ほとんど混ざらない。外面黒化 | V-VI | D-106 |
| 27 183 | 旧耕作土 | 須恵器 | 瓶 | - | 13.0 | (2.9) | 黄灰 | 灰黄 | X-b | 選硬 | ロクロナデ、ナデ | ロクロナデ、回転ヘラケース | 小片 | 砂粒ほとんど混ざらず粘質。内底やや平滑 | V-VI | D-172 |
| 27 184 | 表土 | 須恵器 | 鉢 | 約 24 | - | (8.3) | 灰白 | 灰 | D-b | 選硬 | ロクロナデ、カキメ | ロクロナデ | 口 3/36 | 外面黒化(倒位焼成か) | V-VI | D-154 |
| 27 185 | 旧耕作土 | 須恵器 | 鉢 | 約 30 | - | (7.2) | 灰白 | 灰白 | D-b | 選軟 | ロクロナデ | ロクロナデ | 口 2/36 | | V-VI | D-079 |
| 28 186 | 旧耕作土 | 須恵器 | 甕 | 約 23 | - | (5.9) | 灰白 | 灰白 | D-b | 選硬 | ロクロナデ、同心円 タタキ | ロクロナデ、格子タタキ、 カキメ | 口/36 | 内面Da類タタキ。内外面自然釉付着 | ~IV | D-206 |
| 28 187 | 旧耕作土 | 須恵器 | 甕 | - | - | (13.5) | 褐灰 | 灰 | D-b | 選硬 | 平行タタキ | 平行タタキ | - | 内外面Hd類 | VI | D-205 |
| 28 188 | 調査区側溝 | 須恵器 | 甕 | - | - | (9.0) | 褐灰 | 灰 | D-b | 選硬 | 同心円タタキ、平行 タタキ | 平行タタキ | - | 内面Da類・Hd類、外面Hd類 | V~ | D-207 |
| 28 189 | 旧耕作土 | ロクロ 土師器 | 甕 | 約 24 | - | (7.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 S・M・L | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ、カキメ | 口 1/36 | 内面炭化物・外面煤付着 | V~ | D-174 |
| 28 190 | 調査区側溝 | ロクロ 土師器 | 甕 | 約 20 | - | (2.7) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-2 S・M | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ | 口 3/36 | 内面ヨコレ付着 | VI~ | D-117 |
| 28 191 | 調査区側溝 | ロクロ 土師器 | 小甕 | - | 7.8 | 2.2 | にぶい黄橙 | 浅黄橙 | b-3 S・M・L | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ、回転糸切り | 底 9/36 | | - | D-171 |
| 28 192 | 調査区側溝 | ロクロ 土師器 | 小甕 | - | 7.4 | (2.2) | にぶい橙 | にぶい褐 | b-4 | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ、回転糸切り | 底 7/36 | 外面煤付着。内面磨減 | - | D-119 |
| 28 193 | 旧耕作土 | ロクロ 土師器 | 小甕 | - | 6.9 | (1.7) | にぶい橙 | にぶい黄褐 | b-4 S・M | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ、回転糸切りか | 底 10/36 | 外面煤付着。磨減顕著 | - | D-122 |
| 28 194 | 調査区側溝 | ロクロ 土師器 | 小甕 | - | 6.4 | (3.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ、回転糸切り | 底 14/36 | 外面煤付着 | - | D-118 |
| 28 195 | 旧耕作土 | ロクロ 土師器 | 小甕 | - | 6.1 | (2.9) | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | b-3 S・M | 良 | ロクロナデ | 磨減不明 | 底 14/36 | 内外面ヨコレ付着 | - | D-164 |
| 28 196 | 旧耕作土 | ロクロ 土師器 | 小甕 | - | 6.0 | (1.9) | 浅黄 | 黒褐 | b-4 S・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | 底 14/36 | 外底煤付着 | - | D-177 |
| 28 197 | 調査区側溝 | ロクロ 土師器 | 小甕 | 11.8 | - | (5.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M・L | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ | 口 6/36 | 外面煤付着。磨減目立つ | V~ | D-159 |
| 28 198 | 調査区側溝 | 土師器 | 埴 | 約 38.0 | - | (5.8) | にぶい橙 | にぶい黄橙 | b-1 S・M | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ、ナデ | 口 3/36 | 外面磨減 | IVか | D-083 |
| 28 199 | 旧耕作土 | 土師器 | 埴 | 約 40 | - | (4.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M・L | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ | 口 2/36 | | VI | D-156 |
| 28 200 | 旧耕作土 | 土師器 | 土錘 | 長さ 3.6 | 径 3.1 | 孔径 1.0 | - | にぶい黄橙 | b-4 M | 良 | - | ナデ | - | 残存重量 29.3g | - | D-176 |
| 28 201 | 南側壁 | 土師器 | 土錘 | 長さ 3.0 | 径 3.0 | 孔径 1.0 | - | 浅黄橙 | b-4 M | 良 | - | ナデ | - | 残存重量 22.4g。赤色酸化粒多い。 | - | D-115 |
| 28 202 | 調査区側溝 | 土師器 | 土錘 | 長さ 2.5 | 径 2.4 | 孔径 1.2 | - | 橙 | b-2 S・M | 良 | - | ナデ | - | 完形。長さ 8.3g。上下を切断 | - | D-120 |
| 28 203 | 第4・5面前層(黒褐色土層) | 瀬戸 | 平碗 | - | 5.0 | (3.0) | 灰白 | 灰オリーブ | 細粒少 S・M | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ | - | 内面灰釉オリーブ灰色。削り出し高台。外底放射状の雷書 | 15c | 黒-016 |
| 28 204 | 調査区壁(上層含む) | 珠洲焼 | 鉢 | - | - | (4.8) | オリーブ灰 | オリーブ灰 | A-b S・M | 選硬 | ロクロナデ、おろし 目 | ロクロナデ | - | | - | D-226 |

第18表 A区第1面出土土器観察表6

第2節 第1面の遺構と遺物

※()は残存法量を示す。

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 出土遺構 | 種 類 | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 重量 (g) | 石 材 | 備 考 | 実測 番号 |
|----------|----------|-----------------|------|-------------|-------------|-------------|-----------|--------|--------------------------------|----------|
| 21 | 8 | 7A1SB114 (P141) | 砥石 | (4.4) | 3.2 | 3.1 | (62.7) | 凝灰岩 | 灰白色。3側面を研ぎに使用 | 石22 |
| 24 | 37 | 7A1SD88 | 台石 | (13.0) | (10.7) | (8.3) | (1543.0) | 花崗岩か | 灰白色。一部被熱で変色 | 石11 |
| 26 | 118 | 検出面 | 石核 | 3.9 | 3.8 | 2.9 | 48.3 | 鉄石英 | 深赤色 | 石13 |
| 26 | 119 | 検出面 | 剥片 | 1.9 | 1.3 | 1.1 | 2.6 | 鉄石英 | 深赤色 | 石12 |
| 26 | 120 | 検出面 | 敲石 | 11.6 | 9.0 | 7.2 | 932.9 | 安山岩 | 完形。灰白色。2ヶ所に顕著な 敲打痕 | 石14 |
| 26 | 121 | 検出面 | 敲石 | (6.8) | (5.6) | (3.6) | (181.4) | 花崗岩か | | 石16 |
| 26 | 122 | 検出面 | 砥石 | 4.9 | 3.7 | 2.9 | 8.0 | 軽石凝灰岩 | 完形。灰白色。1面を除き平滑 | 石21 |
| 26 | 123 | 検出面 | 砥石 | (6.7) | (5.2) | (2.9) | (99.7) | 凝灰岩 | 浅黄橙色。鎌用、残存3側面を 研ぎに使用。1面に刃物痕 | 石15 |
| 28 | 205 | 表土 | 両刃石斧 | (5.9) | (4.7) | (3.7) | (147.5) | 硬質砂岩 | 明緑灰色。器面平滑 | 石10 |
| 28 | 206 | 旧耕作土 | 剥片 | 2.8 | 2.0 | 0.5 | 3.8 | 緑色凝灰岩 | 暗緑色。硬質 | 石23 |
| 28 | 207 | 調査区側溝 | 敲石 | (15.2) | (7.5) | (6.1) | (668.8) | 火山礫凝灰岩 | 淡緑灰色 | 石07 |
| 28 | 208 | 調査区側溝 | 砥石 | 6.1 | 4.6 | 2.8 | 15.4 | 軽石凝灰岩 | 完形。灰白色。ほぼ全面を研ぎ に使用。刃物痕1ヶ所 | 石08 |

第19表 A区第1面出土石器・石製品観察表

※()は残存法量を示す。

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 出土遺構 | 種 類 | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 重量 (g) | 備 考 | 実測 番号 |
|----------|----------|------|-----|-------------|-------------|-------------|-----------|-----|----------|
| 26 | 124 | 検出面 | 鉄滓 | 7.8 | 4.8 | 3.7 | 177.1 | | 金属2 |
| 28 | 209 | 旧耕作土 | 鉄滓 | 5.5 | 3.7 | 2.1 | 47.3 | | 金属3 |
| 28 | 210 | 旧耕作土 | 鉄滓 | 3.8 | 2.6 | 2.4 | 27.1 | | 金属1 |

第20表 A区第1面出土金属製品観察表

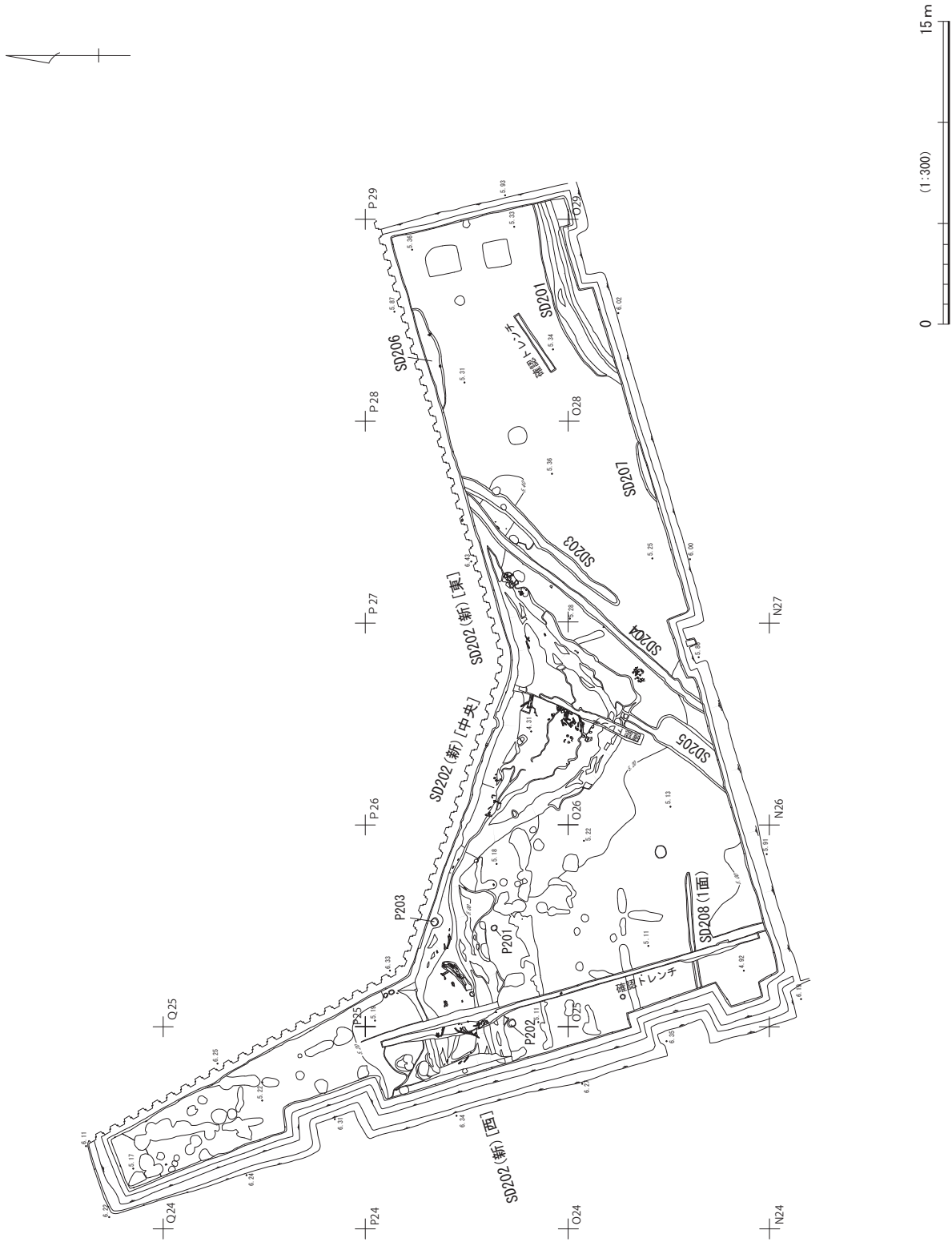
第3節 第2面の遺構と遺物

第2面は、古墳時代前期を下限とした集落縁辺域と考えられる。遺構検出面の標高は、最も高い調査区東北端(P-28区)が5.36mを、最も低い調査区西南端(O-25区)が4.92mを、調査区北端(R-24区)が5.17mをそれぞれ測り、第1面から3~16cm標高が下がる。北東方向から南西方向に向けて緩やかに標高を減ずる地勢は、第1面と同様である。遺物包含層は、第1面ベース土の淡褐灰~浅黄橙色土(第7区土層断面e第10層、同g第6層等)を、ベース土は淡黄灰・灰黄~明黄褐色粘質土(同区土層断面e第10層、同g第7層等)を基調とする。また、遺構番号は、200番台を付している。

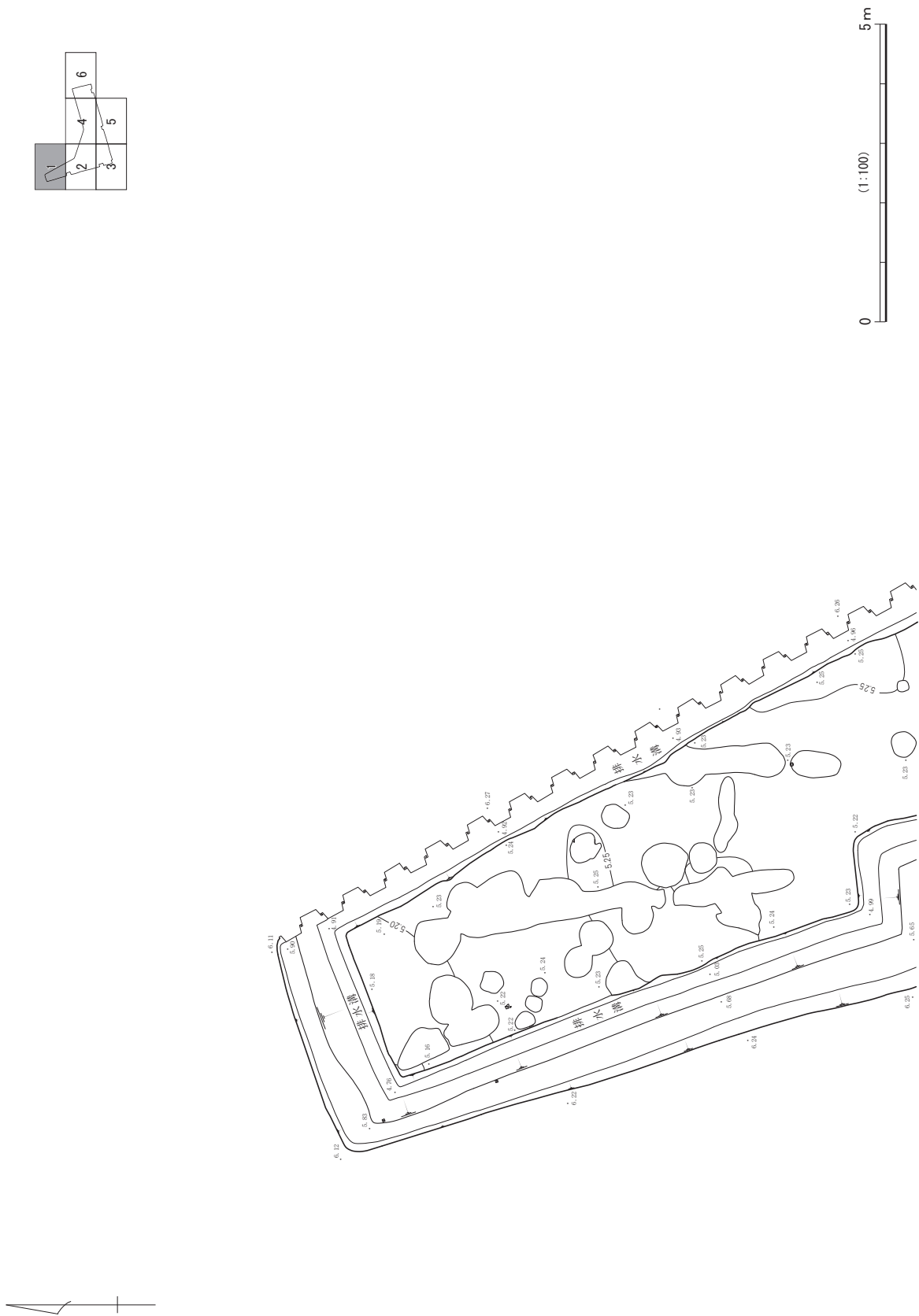
調査の結果、第5次調査C区下層SD5501とつながる自然流路(7A2SD202)、並走する溝(7A2SD203~205)等の溝7条、ピット3基を検出した(第29~35図)。蛇行しながら西側に流下する自然流路(以下、SD202(新))は、土層断面から大きく4回の流路に復元可能で、集落域から流れ込んだ大量の弥生土器、土師器、木器・木製品、自然木等が出土した。またSD202(新)とSD203~205は一部で重複し、SD202(新)とSD205の切りあい関係はSD202が新しく位置付けられる。第4節で述べる第3面出土遺物が古墳時代前期を下限とすることから、第3面から第2面への移行、第2面の廃絶(SD202(新)の氾濫)は比較的短期間のうちに進んだようだ。なお、SD208は、第1面に属する耕作に伴う小溝である。以下、遺構番号冒頭に付した「7A2」は省略する。

1 ピット (遺構: 第31・36図)

P-25区SD202(新)に近接して点在する3基のピットを検出した。いずれも径25~40cm、深さ15cm



第29図 A区第2面主要遺構配置図(S=1/300)

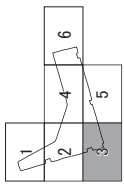
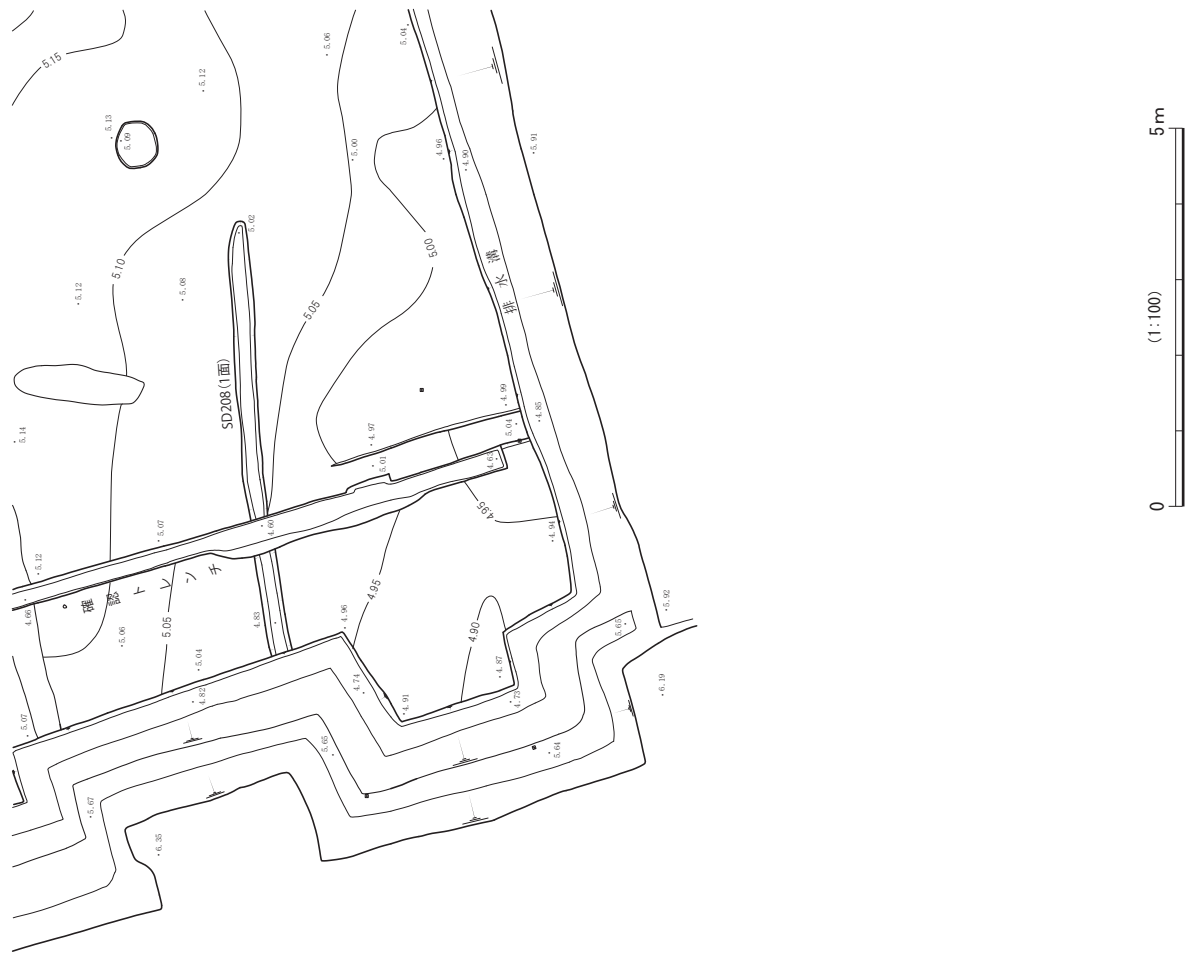


第30図 A区第2面遺構平面図1 (S=1/100)



第31図 A区第2面遺構平面図2 (S=1/100)

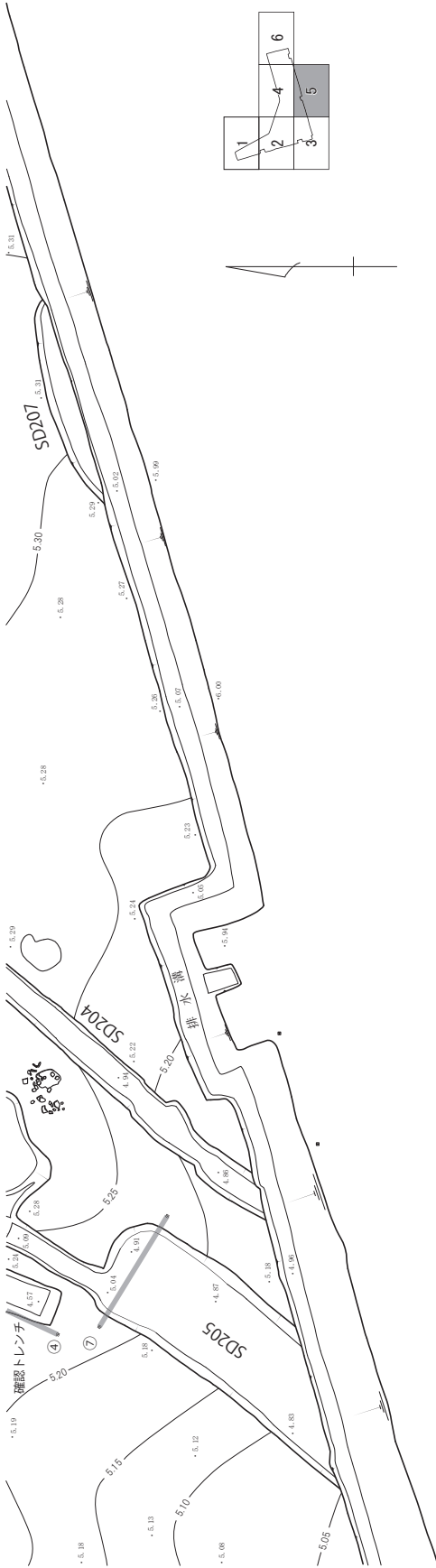
第3節 第2面の遺構と遺物



第32図 A区第2面遺構平面図3 (S=1/100)

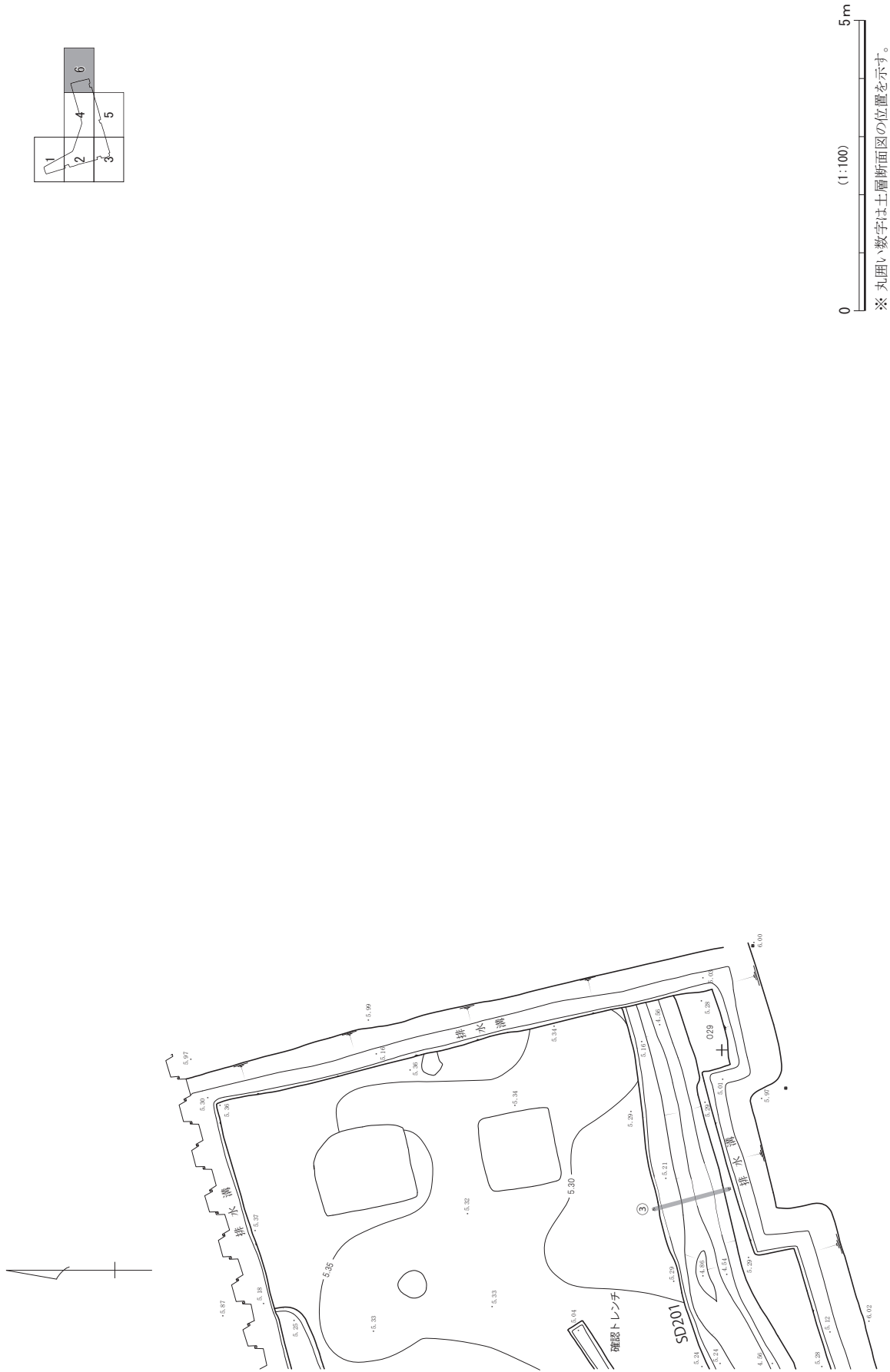


第33図 A区第2面遺構平面図4 (S=1/100)



第34図 A区第2面遺構平面図5 (S=1/100)

0 5m
(1:100)
※ 丸囲い数字は土層断面図の位置を示す。



第35図 A区第2面遺構平面図6 (S=1/100)

前後を測り、覆土は暗褐～暗灰褐色土を基調とする。明確な建物柱穴となりうるピットはなく、少量の遺物が出土したにとどまる。遺構の切り合い関係からP203は、SD202(新)より新しく位置付けられる。

2 溝(遺構:36～38図、第21表、遺物:第39～61図、第22～40表)

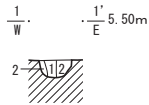
地勢に応じて東方向から西方向に流下する自然流路(SD202(新)、SD201・207、SD206)と、直線的に並走する溝群(SD203～205)に分かれる。各溝の規模等は、第21表に記しており、SD208は第1面に属する。**SD201** O・P-28・29区で検出した自然流路で、屈曲しながら南西方向に流下する。上幅93～130cm、深さ62～78cmを測り、断面形状は比較的しっかりとした略逆台形を呈する。覆土は暗青灰色～灰黄色粘質土が北方向から流入した後、水流に伴い淡黄～灰白色を基調とする細砂が堆積する。他遺構との切り合い関係はなく、SD207が同一溝の可能性を残す。少量の遺物が出土した。

SD202(新) O-26・27区、P-24～26区を蛇行する自然流路で、第5次調査C区下層SD5501につながる。現地調査時は、東・中央・西の3エリアに分割して、記録・遺物取り上げ作業を実施している(第29・38図)。累積した溝の最終的な規模は、上幅3.9m以上、深さ86～126cmを測る。流路は、土層断面図(第37図)のとおり、短期間に土砂堆積・流出を繰り返す流路1～4に細分可能である。各流路の層位は、ともに上位層から①上層:灰～浅黄色を基調とする細砂、②下層:明茶灰色を基調とする砂(腐植層がラミナ状に混ざる)、③最下層:暗黄灰色を基調とする粗砂に分けられる。また、遺物は、下層で木製品、未加工の自然木が、最下層で土器、木製品が多く出土する傾向を示し、4回の流路出土遺物の下限時期には大きな差をみだしにくく、比較的短期間で変遷したと考えられる。各層位で、特に土器が集中する箇所と取り上げ時の注記を第38図に示した。なお、後述する第3面現地調査では同一地点で重複して検出した自然流路を「第3面SD202」「SD202(第2面)」とするが、本報告ではSD202(古)に統一している。

遺物は、弥生時代中期、弥生時代後期～古墳時代前期の土器、木器・木製品、石器・石製品、未加工の流木が多量に出土、弥生時代終末～古墳時代前期初頭の遺物が主体を占める(第39～60図)。また、縄文土器片が数点出土している。遺物取り上げ時の層位(上層、中層、下層、最下層)が、前述4回の流路に対応すると理解し、以下では上位層から順に種別・器種ごとに述べる。

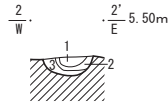
第39図211～第43図334は、上層から出土した。211～271は甕で、もっとも新しい271は古墳時代前期後半と考えられる。くの字口縁の211・212は口径約16cmを測り、弥生時代後期前半に位置付けられる。擬凹線をもつ有段口縁の213～241は、おおむね弥生時代終末に位置付けられ、214～219は口縁部の外傾具合が比較的弱い。213・216が彫りの深い擬凹線を施し、217～219は摩滅が目立つ。220～241は、口縁端部で大きく外傾する。222は、口縁帯下半のみに擬凹線を施す。223は口径18.8cmを測り、彫りの深い擬凹線を施す。228は口径17.5cmを測り、胴部の張りが弱い。229～231は摩滅が目立つ。232は口径16.4cmを測り、煮炊き痕を良好に残す。233～236は摩滅が目立ち、235の擬凹線はほとんどみえない。238は口径14.8cm、器高17.6cmを測り、煮炊き痕を良好に残す。240は擬凹線が乱れる。無文有段口縁の242～254は、242が弥生時代後期後半、243～250がおおむね弥生時代終末、251～254が古墳時代前期初頭に位置付けられる。242は口径18.0cmを測り、口縁部は緩やかに外傾する。243は口径16.0cm、器高26.7cmを測り、口縁部は剥離のため器厚を減ずる。245の胴部内面は、ハケ調整の後にケズリ調整を加える。248の胴部外面は、ヘラ状工具の接触痕を残し、煤の付着具合で2条のカゴ目痕(幅約0.5cm)が確認できる(写真図版17)。ゆがみをもつ249は、口径17.9cm、器高25.9cmを測り、煮炊き痕を良好に残す。251は、口縁部内面の屈曲が弱い。252は、胴部内面をナデ調整で仕上げる。253は口径14.2cmを測り、254は各部の調整が雑である。255～259はタタキ整形の甕で、胴部内面をナデ調整で仕上げる。タタキ整形の甕については、本遺跡が北加賀でも北側に位置することから古墳時代前期初頭に位置付けた。255は口径16.7cmを測り、

P201



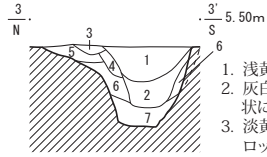
1. 暗褐色粘質土(淡黄色粘質土ブロックが混ざる)
2. 明黄褐色粘質土(明褐色粘質土ブロックが多く混ざる)
- ベース土 黄灰色砂質土

P202



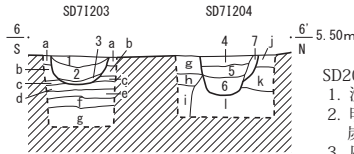
1. 褐灰色砂質土(炭化物片、2層ブロックが混ざる)
2. 灰白色細砂(暗灰褐色土ブロックが混ざる)
3. 暗灰褐色砂質土(灰白色細砂が混ざる)

SD201



1. 浅黄色細砂(しまりなし)
2. 灰白色細砂(灰褐色粘質土が層状に入る)
3. 淡黄色細砂(灰黄褐色粘質土ブロックが混ざる。)
4. 3層と同質土(3層よりしまりなく、含有物多く混ざる)
5. 灰黄色粘質土(炭化物が混ざる)
6. 青灰色粘質土(砂と暗褐色粘質土が混ざる)
7. 暗青灰色粘質土(暗褐色粘質土ブロックが混ざる)

SD203・204



SD203

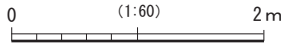
1. 淡黄色砂質土(粘性ややあり)
2. 明黄褐色砂質土(粘性ややあり。炭化物少量混ざる)
3. 灰黄色粘質土

SD204

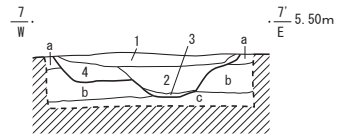
4. 浅黄色シルト
5. にぶい黄色粘質土(炭化物まざる)
6. 黄灰色粘質土(暗褐色粘質土粒混ざる)
7. 浅黄色シルト

- a. 淡黄灰色粘質土(砂混ざる)
- b. 明黄褐色粘質土(炭化物少量混ざる)
- c. 灰白色粘質土(d層がブロック状に混ざる)
- d. 暗褐灰色粘質土(炭化物多い。灰色粘質土粒混ざる。第3面包含層か)
- e. 灰黄褐色粘質土(炭化物、灰色粘質土粒混ざる)
- f. 黒褐色粘質土(第4面か)

- g. にぶい黄色粘質土
- h. 黒褐色粘質土
- i. 暗灰褐色粘質土
- j. 浅黄色粘質土(第3面遺構)
- k. にぶい黄色粘質土(")
- l. 褐灰色粘質土



SD205



1. 灰黄色細砂
2. 灰白色細砂(炭化物混ざる)
3. 灰黄色粘質土(細砂混ざる)
4. にぶい黄色粘質土(細砂混ざる)

- a. 明黄褐色粘質土
- b. 灰黄褐色粘質土(炭化物、土器混ざる。第3面)
- c. 淡黄色粘質土

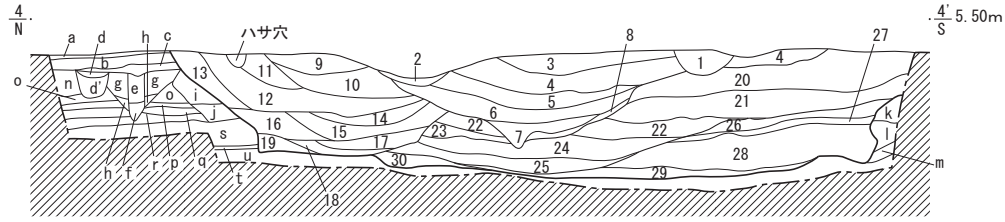
第36図 A区第2面遺構土層断面図1 (S=1/60)

| 遺構名 | グリッド | 規模 (cm) | | | 主軸方位 | 土色 | 性格 | 備考 |
|--------------|-----------------|---------|---------|--------|------------|---------|------|------------------------|
| | | 長さ | 幅 | 深さ | | | | |
| 7A2SD201 | O・P・28・29 | 960～ | 93～130 | 62～78 | N-50～70° E | 第36図土層3 | 自然流路 | |
| 7A2SD202 (新) | O-26・27、P-24～26 | - | 390～ | 86～126 | - | 第37図 | 自然流路 | 蛇行し西側に流下 |
| 7A2SD203 | O・P-27 | 990～ | 44～78 | 15～24 | N-約40° E | 第36図土層6 | 区画溝か | SD204・205と並行 |
| 7A2SD204 | O-26・27、P-27 | 1560～ | 38～64 | 19～30 | N-約40° E | 第36図土層6 | 区画溝か | SD203・205と並行 |
| 7A2SD205 | O-26 | 525～ | 140～152 | 15～34 | N-約40° E | 第36図土層7 | 区画溝か | SD203・204と並行。SD202と接続か |
| 7A2SD206 | P-28 | 518～ | 78～ | 10～44 | - | 浅黄褐色粘質土 | 不明 | 調査区外北側に延びる |
| 7A2SD207 | O-27 | 315～ | 42～ | 12～15 | - | 浅黄褐色粘質土 | 不明 | 調査区外南側に延びる |
| 7A2SD208 | O-25 | 275～ | 24～30 | 7～19 | N-85° E | 暗褐灰色粘質土 | 耕作溝 | 第1面遺構 |

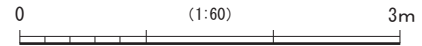
第21表 A区第2面溝規模等一覧表

口縁部が直線的に外傾する。257・258は、球胴形を呈する。257は口縁端部を丸く仕上げ、258は煮炊き痕を良好に残す。259は底部台状を呈する。くの字口縁の260～271は、古墳時代前期に位置付けられる。260・261は口縁端部を平坦に仕上げ、煮炊き痕を良好に残す。260は、胎土中に砂粒が多く混ざる。261は、胴部外面のナデ調整に板状工具を用いる。大型の262は口径25.4cmを測り、器肉は比較的薄い。263～265は、頸部で明瞭に屈曲する。263の胴部は、球形を呈する。266は口径16.6cmを測り、頸部～口縁部はなだらかに移行する。268は、胴部外面に粗いハケ調整が残る。269は、胴部外面下半に上半とは異なるハケ原体を用いる。丸底の271は口径14.7cm、器高24.7cmを測り、整形時のゆがみが目立つ。272～277は口径11cm以下の小甕で、272が弥生時代後期、その他が古墳時代前期に位置付けられる。272は、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。有段口縁・平底の273は、口径10.0cm、器高9.8cmを測る。有段口縁の274は、

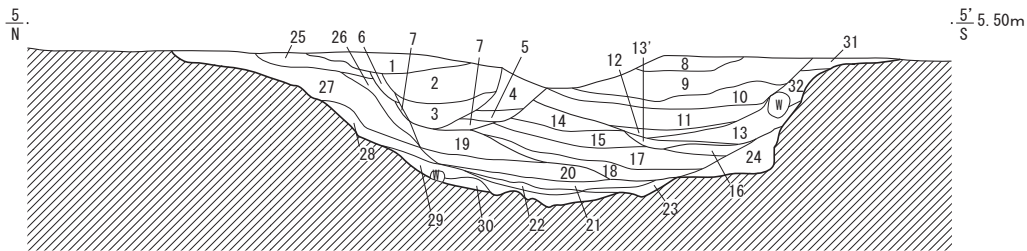
SD202(新)東



1. 灰白色細砂(淡灰褐色粘質土ブロック混ざる)
 2. 黄白色細砂(褐灰色粘質土がバッチ状に混ざる)
 - [流路1] (3~6層:上層,7層:下層,8層:最下層)
 3. 浅黄橙色粘質土(細砂多く混ざる)
 4. 浅黄色細砂(灰白色細砂を層状に入る)
 5. 灰白色細砂(1層より暗い,灰色細砂が層状に入る。炭化物混ざる)
 6. 灰色細砂(多くの炭化物や,灰褐色粘質土層が薄い層状に入る)
 7. 灰オリーブ色粘質土(細砂,少量の炭化物が混ざる)
 8. 褐灰色細砂(灰白色細砂が層状に入る)
 - [流路2] (9~15層:上層,16・17層:下層,18層:最下層)
 9. 1層と同色土(暗褐色粘質土ブロックと細砂が混ざる)
 10. 4層と同色同質土(灰白色細砂が薄い層状に入る)
 11. 灰白色細砂(1層より淡い。黄白色シルトが混ざる)
 12. 5層と同色同質土(白色細砂と少量の炭化物が混ざる)
 13. 11層と同色シルト(白色細砂が薄い層状に少量入る)
 14. 淡褐色シルト(白色細砂が混ざる)
 15. 褐灰色粘質土(層状の灰オリーブ細砂,少量の炭化物が層状に入る)
 16. 青灰色砂と褐灰色シルトの互層(腐植土,木片,炭化物が混ざる)
 17. 16層と同色同質土(16層より木片多く,砂粗い)
 18. 青灰色粗砂(17層より暗い,木片多く混ざる)
 19. 灰色粘質土(灰オリーブ砂が層状に入る)
 - [流路3] (20~23層:上層,24層:下層,25層:最下層)
 20. 浅黄色細砂(白色細砂が層状に入る)
 21. 灰白色細砂(5層と同色・同質土,5層よりやや砂粗い)
 22. 灰色細砂(6層より暗い,白色細砂粒と炭化物少量混ざる)
 23. 青灰色細砂(褐灰色シルト,木片,炭化物が混ざる)
 24. 灰オリーブ色砂と木片・炭化物が混ざる褐灰色シルトの互層(木片多く,粗砂が混ざる)
 25. 暗緑灰色粗砂(非常に多くの木片が混ざる)
 - [流路4] (26層:上層,27・28層:下層,29・30層:最下層)
 26. 22層と同色・同質土(22層より炭化物多く混ざる)
 27. 灰オリーブ色砂(褐灰色シルトが層状に入る)
 28. 暗褐色砂(木片と青灰色砂層が混ざる)
 29. 暗緑灰色粗砂(25層より暗い,非常に多い土器片・木片が混ざる)
 30. 黒灰色粘土(淡青灰色粘土と炭化物が混ざる)
- ベース
- a. 灰黄色粘質土(炭化物と砂が混ざる)
 - b. 灰白色砂質土
 - c. 灰色粘質土(砂と炭化物が混ざる)
 - d. 浅黄色砂質土
 - d'. 淡灰褐色粘質土(しまりややあり)
 - e. 淡灰色粘質土(浅黄色粘質土ブロックが混ざる)
 - f. e層と同質土(やや暗く,浅黄色粘質土ブロックと炭化物が混ざる)
 - g. にぶい黄灰色粘質土(浅黄色粘質土ブロックと炭化物と白色細砂が少量混ざる)
 - h. 灰色粘質土
 - i. 浅黄色細砂(淡褐灰色砂質土ブロックが混ざる)
 - j. 灰白色細砂
 - k. 灰色細砂(白色砂と炭化物が少量混ざる)
 - l. 暗灰褐色細砂(木片が混ざる)
 - m. 暗褐色砂(木片が多く混ざる)
 - n. にぶい灰黄色粘質土(炭化物が混ざる)
 - o. にぶい灰色粘質土(炭化物が混ざる)
 - p. 灰褐色粘質土(炭化物が多く混ざる)
 - q. にぶい灰褐色粘質土(灰黄色粘質土が混ざる)
 - r. q層と同色・同質土
 - s. 黒褐色粘質土(炭化物が混ざる)
 - t. 黒褐色粘質土(u層がバッチ状に多く混ざる)
 - u. 淡緑灰色粘質土

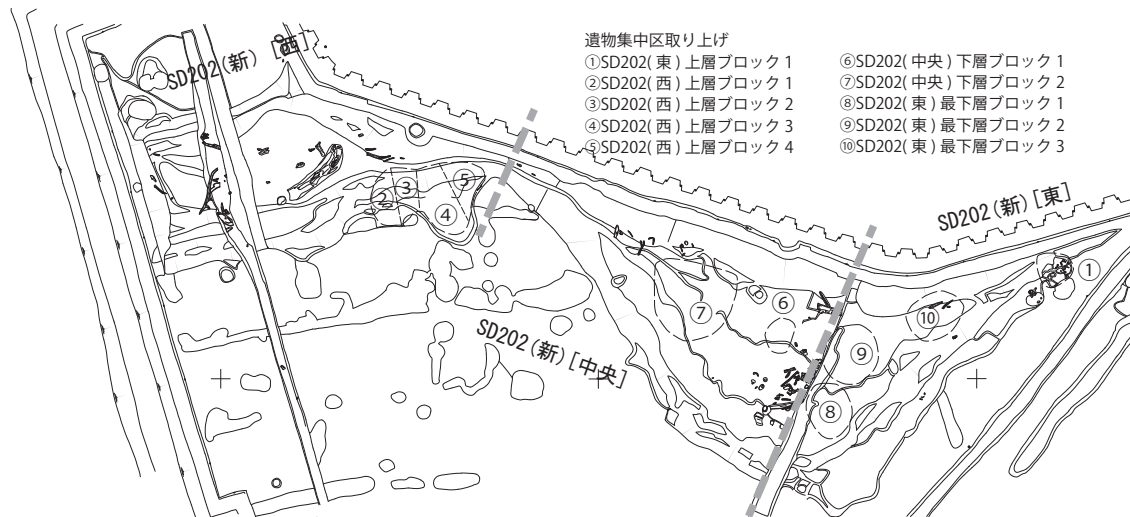


SD202(新)西



- [流路1]
1. 浅黄橙色粘質土(東セク3層に対応)
 2. 浅黄色細砂(東セク4層に対応)
 3. 灰白色細砂(白色細砂が層状に入る)
 4. 浅黄橙色細砂
 5. 灰白色細砂(東セク5層に対応,やや黄色がかる)
 6. 浅黄色細砂(暗緑灰色砂質土がブロック状に混ざる)
 7. 灰色細砂(東セク6層に対応,炭化物が若干少ない)
- [流路2]
8. 浅黄橙色粘質土(灰白色細砂が混ざる)
 9. 浅黄色細砂(東セク10層に対応,より粘性強い)
 10. 灰白色細砂(東セク11層に対応)
 11. 灰白色細砂(東セク12層に対応)
 12. 褐灰色粘質土(東セク15層に対応)
 13. 青灰色砂と褐灰色シルトの互層(東セク16層に対応)
 - 13'. 青灰色砂と褐灰色シルトの互層(東セク17層に対応)
- [流路3]
14. 灰色細砂(東セク22層に対応,より白色砂が層状)
 15. 青灰色細砂(東セク23層に対応)
 16. 黒灰色粘質土(木片と青灰色砂層が混ざる)
 17. 灰オリーブ色砂と木片・炭化物が混ざる褐灰色シルトの交互層(東セク24層に対応)
 18. 暗緑灰色粗砂(東セク25層に対応,より粗砂が混ざる)
- [流路4]
19. 灰オリーブ色砂(東セク27層に対応)
 20. 青灰色砂(木片が多量に混ざる)
 21. 青灰色砂(20層より暗い,多くの木片,粗砂,土器混ざる)
 22. 暗緑灰色シルト(木片,炭化物,土器が混ざる)
 23. 暗青灰色粗砂(木片,炭化物,土器が非常に多く混ざる。黄灰色粘質土と青灰色砂が混ざる)
 24. 青灰色細砂(褐灰色シルト,腐植土が少量混ざる)
 25. 暗黄褐色砂質土(炭化物,土器が混ざる)
 26. 暗灰褐色砂質土(炭化物,土器,灰白色細砂が混ざる)
 27. 暗褐色砂質土(炭化物,土器,白色細砂が混ざる)
 28. 灰白色細砂(暗褐色砂質土が混ざる)
 29. 暗緑灰色粗砂(非常に多くの木片,土器が混ざる)
 30. 暗灰褐色粘質土(粗砂が混ざる)
 31. 黄橙色砂質土
 32. 灰褐色粘質土(砂と少量の炭化物が混ざる)

第37図 A区第2面遺構土層断面図2 (S=1/60)



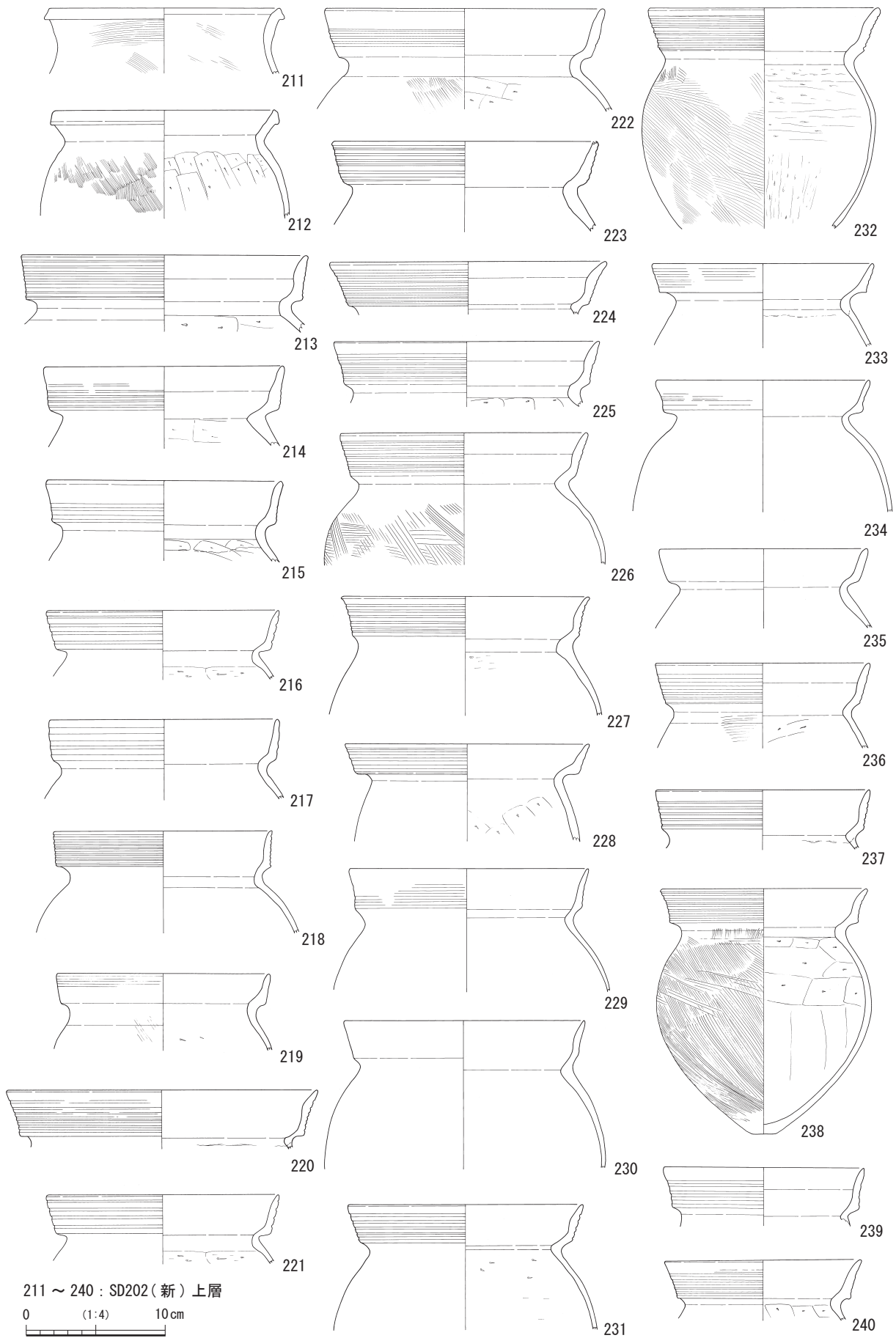
第38図 A区第2面SD202(新)遺物集中箇所取り上げ位置図(S=1/200)

煮炊き痕を良好に残す。275・276は平底で、276の底部は台状を呈する。277は、口縁部が短く外傾する。

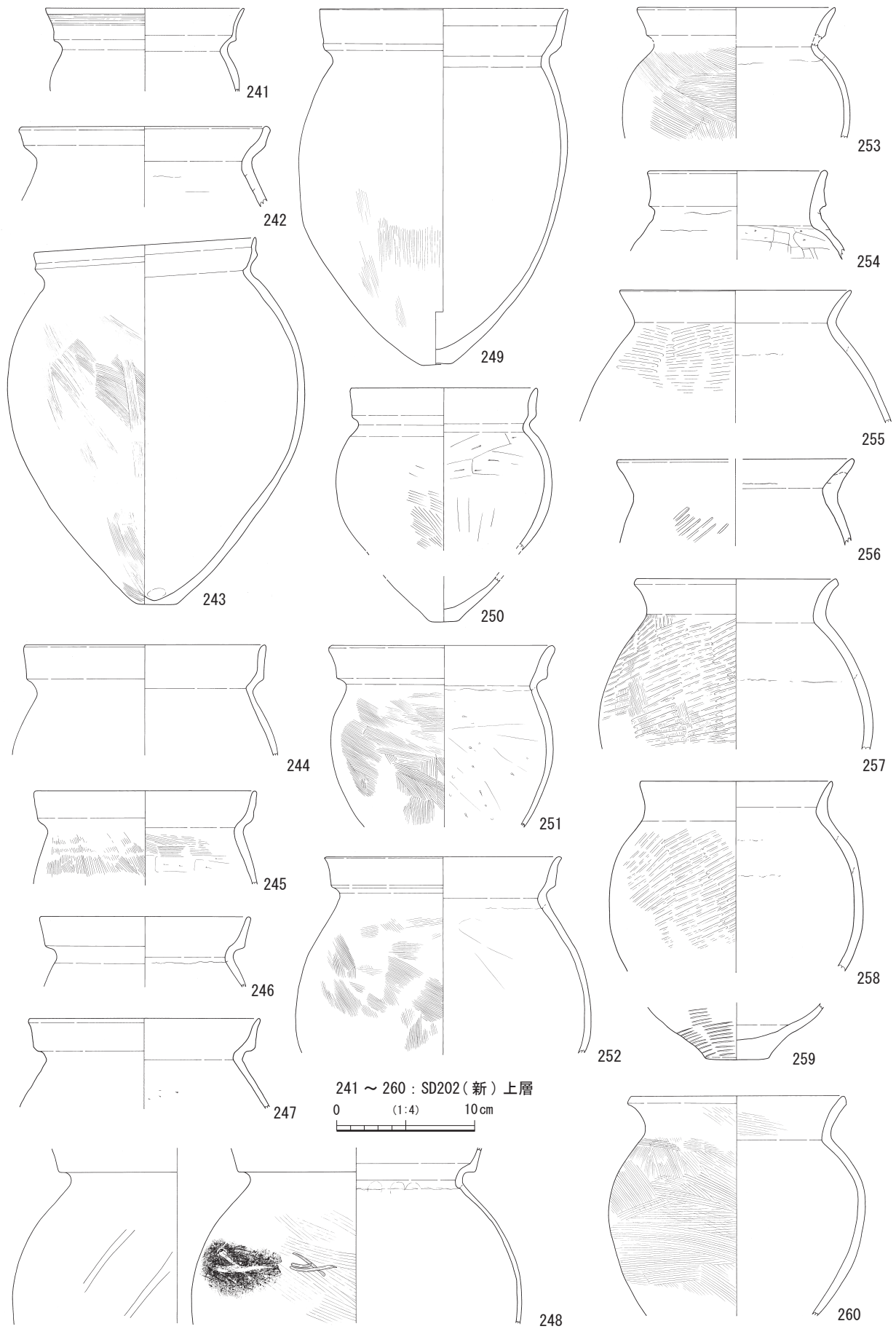
第41図278～第42図292は、壺類である。厚い底部片278が弥生時代中期後半に、279～284が弥生時代後期に位置付けられる。直口壺279の口縁部は、先細りながら小さく外反する。短頸の281は、口径15.7cmを測る。282・283は、台付細頸壺である。282は口径8.8cm、器高22.7cmを測り、摩滅のため調整は判然としない。外面赤彩の283は、胴部中程に隆帯を貼り付ける。有段口縁の284は弥生時代終末、285～288は古墳時代前期初頭に位置付けられる。二重口縁の285は口径13.2cmを測り、内面にミガキ調整を施す。286・287は、胎土の類似性から同一個体と考えられる。286は口径11.5cmを測り、口縁部が長く立ちあがる。球胴形の288は、胴部両面にハケ調整を施した後、外面に粗いミガキ調整を加える。小型台付壺289～292は、弥生時代終末頃に位置付けられる。289が口径9.4cm、290が口径9.9cm、器高15.2cmを測る。

第42図293～304は高坏で、293・294が弥生時代後期後半、295・296・298～300が終末、297・301～304が古墳時代前期初頭に位置付けられる。293・294は外面を赤彩、293が刺突文を施した突帯と2孔一対の透かし孔で、294が4条の沈線文と透かし孔で、それぞれ加飾する。295は、内外面ともミガキ調整が残る。296は口径14.6cmを測り、外反する口縁部は被熱する。東海系の297は口径19.8cmを測り、内面中央を突出気味に仕上げる。摩滅のため、調整は判然としない。298は煤の付着状況から、蓋に転用したと考えられる。300は坏型高坏の脚で、脚裾部が大きくひろがる。301は摩滅が顕著であり、303は器肉が厚い。304は、裾端部を内湾気味に仕上げる。器台305～316は、弥生時代後期後半の305～314と、古墳時代前期初頭の小型器台315・316に大別できる。305は口径23.8cm、器高16.2cmを測り、焼成時の黒斑が残る。306・307は器肉が厚いのに対して、308・309は器肉が薄い。310～312は口径約21cmを測る。310は彫りの深い擬凹線で口縁帯を加飾し、312は外面に煤が付着する。赤彩の313は、脚裾端部を平坦に仕上げる。小型器台315は、受部内面に煤が付着する。316は、内湾する脚部4ヶ所に円孔を穿つ。両面赤彩の装飾器台317は、涙的状の透かし孔を12ヶ所に穿つ。鉢類318～322は、弥生時代終末に位置付けられる。大型の318は口径24.1cmを測り、両面にミガキ調整を施す。319は、口縁帯を彫り幅のひろい擬凹線に加飾する他、外面に煤が付着する。320～322の口縁部は、大きく外反しながら長くのびる。320は低い台部を貼り付け、外面が被熱する。丸底の321は、322とともに器面の剥離が著しい。古墳時代前期初頭の323は碗形を呈し、両面ミガキ調整と考えられる。324～327は、有孔鉢である。324は内面にハケ調整を施し、上端部分は約3cm幅で接合部分から剥離する。325は口径16.4cm、器高10.2cmを測り、内面をナデ調整で仕上げる。326・327は、両面にハケ調整が残る。328～330は蓋で、外面赤彩の328が古墳時代前期初頭

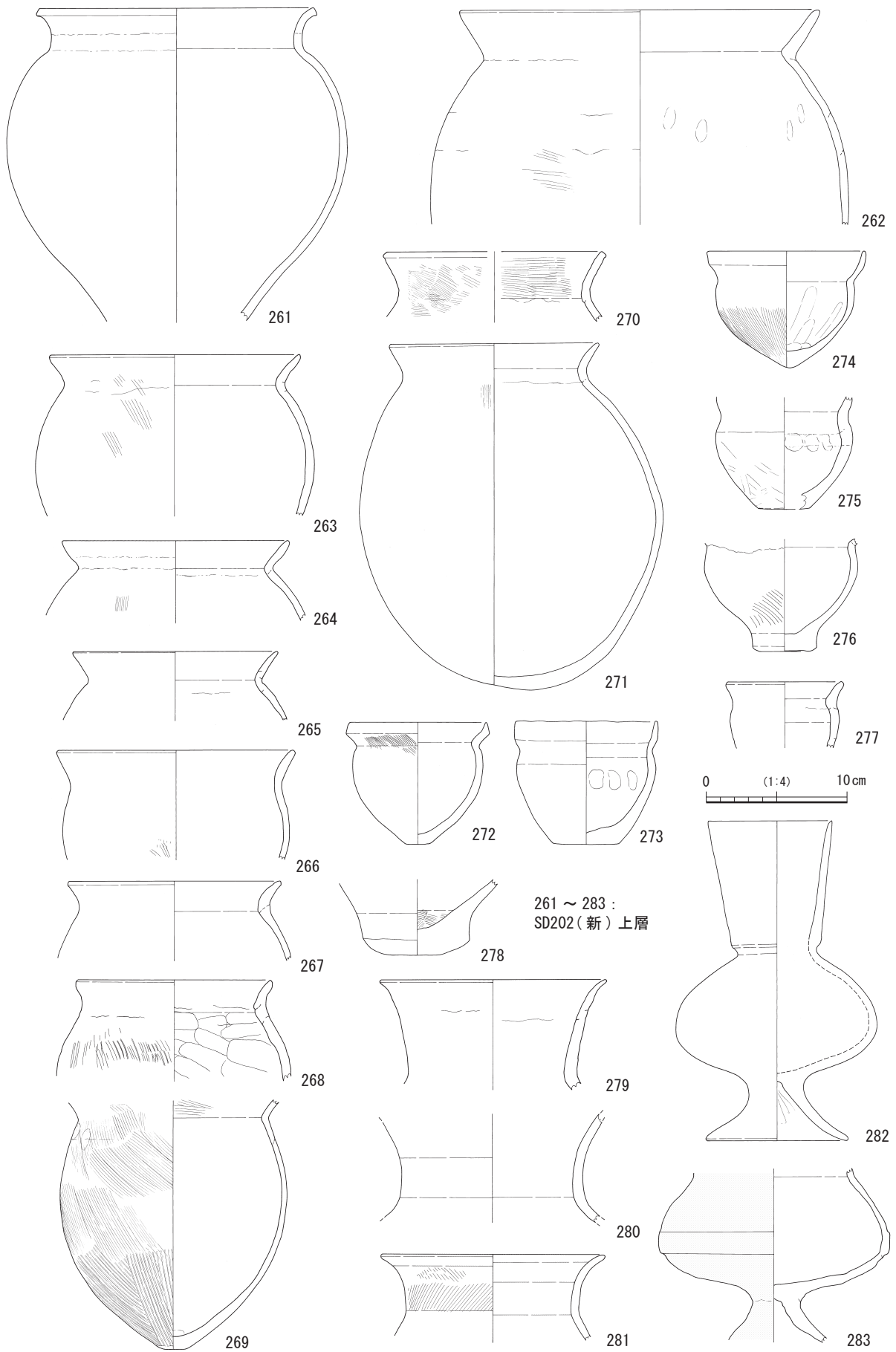
第3節 第2面の遺構と遺物



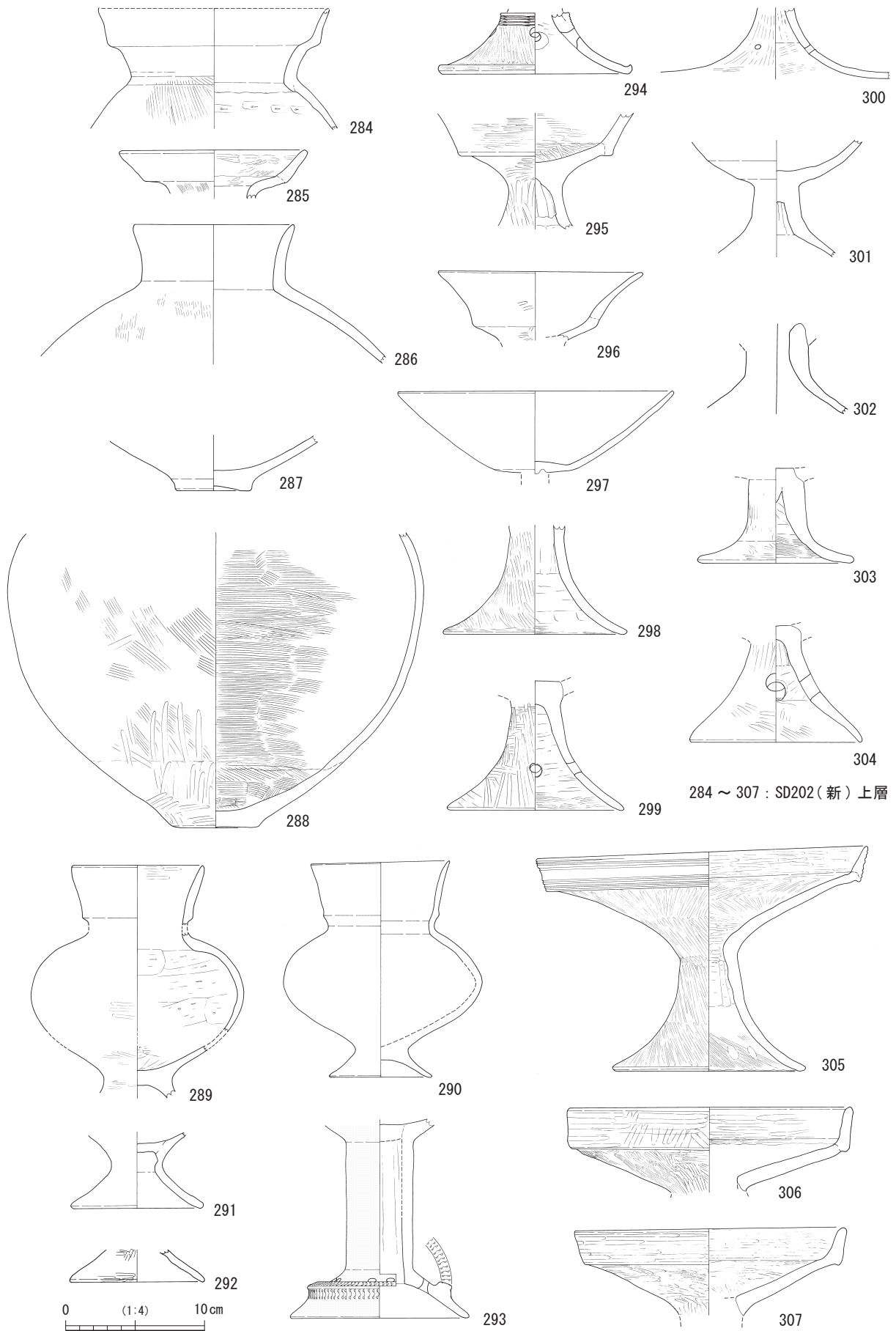
第39図 A区第2面出土遺物実測図1 (S=1/4)



第40図 A区第2面出土遺物実測図2 (S=1/4)

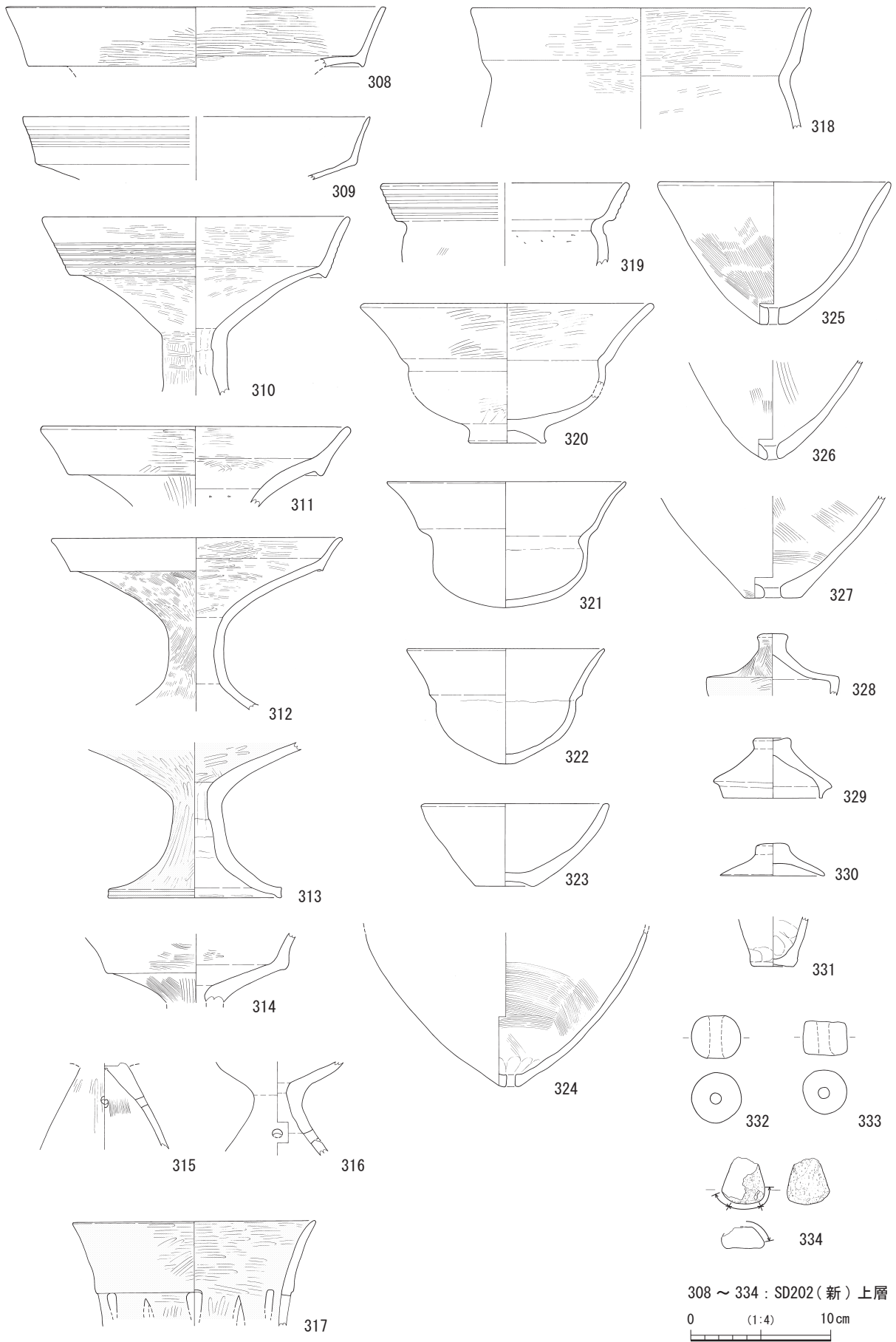


第41図 A区第2面出土遺物実測図3 (S=1/4)



284 ~ 307 : SD202(新)上層

第42図 A区第2面出土遺物実測図4(S=1/4)



第43図 A区第2面出土遺物実測図5 (S=1/4)

の可能性をもつ。329は胎土の練りが不十分で、摩滅が著しい。扁平な小型品330は口径7.5cm、器高2.3cmを測る。手づくね土器331は、コップ形を呈する。332・333は、土師質の土錘である。重さは、球形の332が30.1g、円柱形の333が22.8gを量る。軽石凝灰岩製の砥石334で、研ぎのため一部が平滑となる。

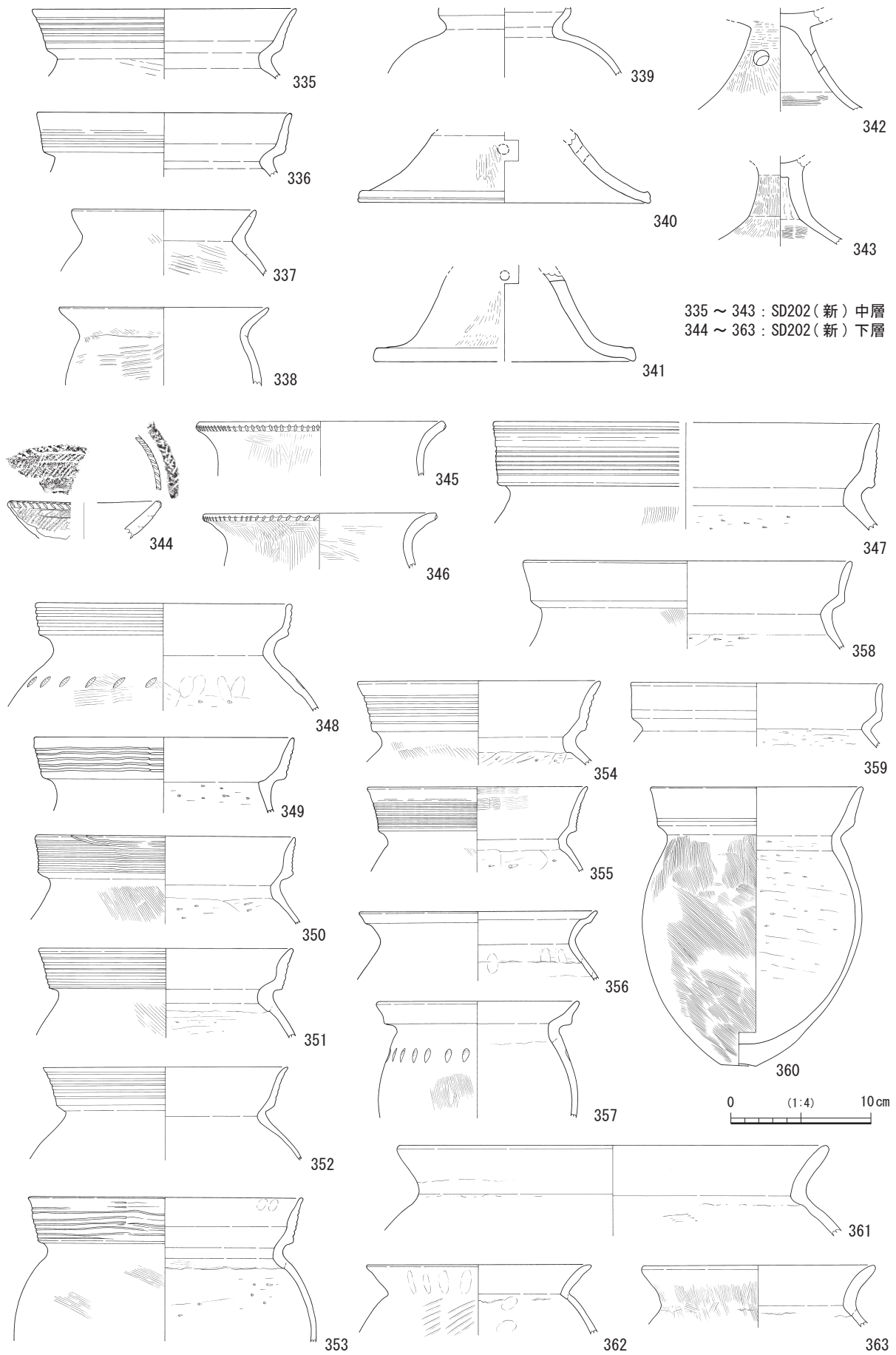
第44図335～343は、中層出土遺物である。有段口縁の甕335・336は弥生時代終末に、くの字口縁の甕337・338は古墳時代前期初頭に位置付けられる。335は口径17.7cmを測り、擬凹線はかすれ気味である。337は口縁部が内湾気味に立ちあがり、胴部両面にハケ調整を施す。338は口径14.8cmを測り、胴部外面はハケ調整の後にタタキを加える。土師器壺339は、胎土中に多くの海綿骨針が混ざる。340・341は、弥生時代後期の高坏と考えられる。340は脚裾端部に1条の沈線を施し、341は内面に煤が付着する。342・343は、古墳時代前期の土師器高坏である。脚部は、342が大きく外展するのに対して、343は途中で屈曲する。

第44図344～第48図439は、下層から出土した。受口状口縁の甕344は、外面をLR縄文後に沈線で、口縁端部を綾杉状の刻みでそれぞれ加飾する。東北系の天王山式と考えられる。弥生時代中期後半の甕345・346は、口縁部下端に刻みを施す。擬凹線を施す有段口縁の甕347～355は、弥生時代後期後半の348以外が弥生時代終末に位置付けられる。347は口径約27cmを測る大型品で、外面に煤が付着する。348は胴部外面の連続的なハケ原体の動きが、刺突文様にみえる。349～351は、口径約18cmを測る。352が丁寧な擬凹線を施すのに対して、353の擬凹線は乱れる。354は、煮炊き痕を良好に残す。357～360は無文有段口縁の甕で、弥生時代後期後半の357は、胴部外面の刺突文がかるうじて確認できる。358は、口縁部内面に炭化物が付着する。360は口径14.8cm、器高19.9cmを測り、口縁部内面の屈曲が弱い。356・361～369は、古墳時代前期初頭を中心とした土師器甕である。356は口径16.6cmを測り、胴部内面をナデ調整で仕上げる。大型の361は口径30.4cmを測り、粘土紐の積み上げ痕を残す。胴部タタキ整形の362は、口縁部の仕上げが粗い。363は、内外面とも煤が付着する。364は口径21.3cm、器高32.8cmを測り、煮炊き痕を良好に残す。365～367は口径16cm前後を測り、胴部内面をハケ調整またはナデ調整で仕上げる。368は口径14.0cmを測り、外面は摩滅が著しい。369は口径15.0cmを測り、口縁部を短く外傾させる。370～374は小甕で、373・374が古墳時代前期に属する。370は口径13.0cmを測り、口縁端部を平坦に仕上げる。有段口縁の371は、煮炊き痕を良好に残す。373は口径11.7cm、器高9.7cmを測り、厚い底部をもつ。374は口径11.4cmを測り、胴部球形を呈する。

壺類375～396は、375・376が弥生時代中期後半、377・378・393が後期後半、379・392・394・395が終末、380～391・396が古墳時代前期初頭に位置付けられる。375は第3面963(第80図)と同一個体の壺であり、外面をハケ調整の後に上方から鋸歯文、直線文、綾杉文、突帯2条で加飾する。376は両面ハケ調整を施し、底部外面中央が窪む。直口壺377は口径14.4cm、378は口径12.6cmを測る。有段口縁の379は口径20.6cmを測る大型品である。380・381は有段口縁様の口縁部を呈し、摩滅が著しい。382は口径13.2cmを測り、焼成はよくない。383は口径14.6cmを測り、口縁部が大きく外傾する。384・385は、東海系の広口壺である。384は、口縁部を綾杉文と、刻みを施した3本一対の棒状浮文で加飾する。385は口径25.8cmを測り、口縁部を波状文と3本一対の棒状浮文(剥離)で加飾する。386～391は、二重口縁の壺である。386は円形浮文を密に貼り付け、浮文中央に竹管文を施す。387・388は、胎土の特徴から同一個体となる。387・389が口径18.4cm、390が同17.0cmを測り、389・390は煤が付着する。391は口径14.6cmを測り、口縁部を丁寧な仕上げる。有段口縁の392は、外面にミガキ調整が残る。細口壺393は、胴部中央に隆帯を貼り付けた後、赤彩を施す。394は、有段口縁の小型壺と考えられる。396は、内面を雑に仕上げる。

第46図397・399～405は高坏で、404・405が古墳時代前期に属する。397の口縁部は、大きく外反しながら長くのびる。脚部400は蓋に転用したため、裾端部に炭化物、内面上部に煤が付着する。404は脚裾

第3節 第2面の遺構と遺物



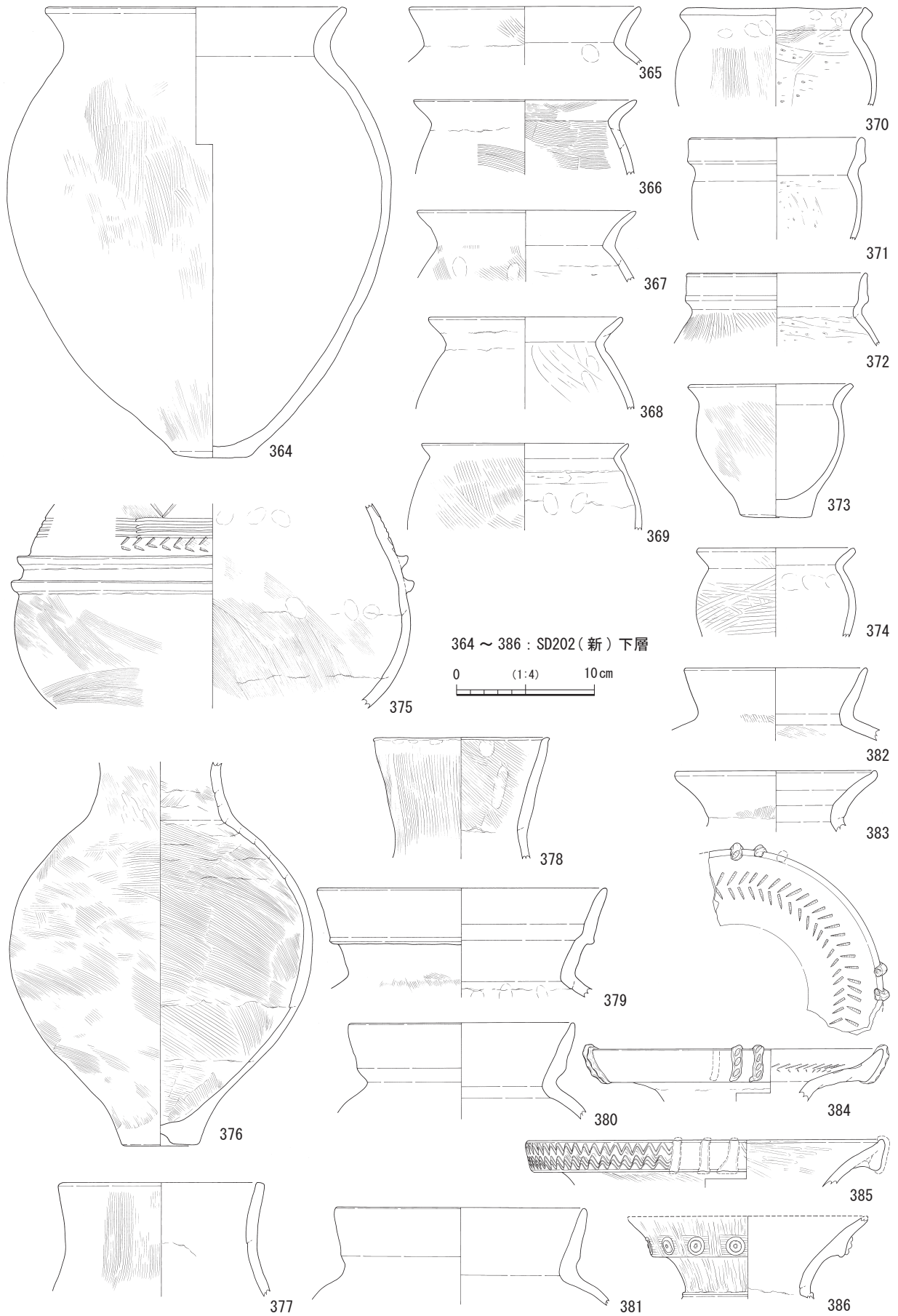
第44図 A区第2面出土遺物実測図6 (S=1/4)

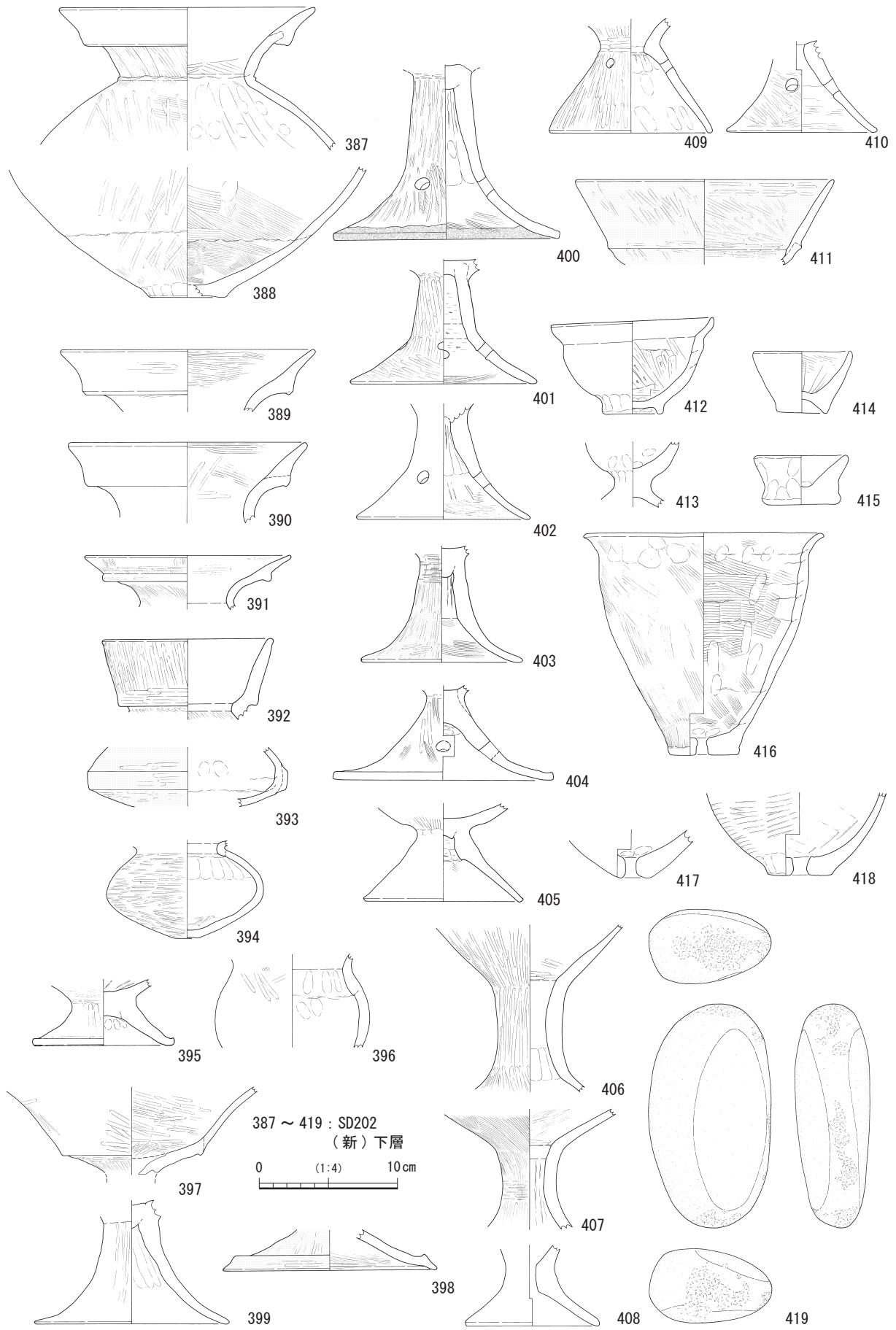
部が大きく外展し、煤の付着から蓋に転用したと考えられる。405は、直線的な脚部をヨコナデ調整で仕上げる。器台398・406～410は、409・410が古墳時代前期初頭に属する。脚小片398は、外面に赤彩を施す。弥生時代後期後半の406・407は、丁寧なミガキ調整で仕上げる。408は、摩滅が著しい。410は、脚部が直線的にのび、内外面とも煤が付着することから蓋に転用したと考えられる。411～413は、弥生時代後期～終末の鉢類である。両面赤彩の411は口径18.5cmを測る。412は口径11.4cm、器高6.9cmを測る小型品で、断面方形を呈した小振りな台部を貼り付ける。413は、器肉が比較的厚い。414・415は、土師器手づくね土器である。底部上げ底風の414が口径6.9cm、器高4.5cmを、扁平・厚底の415が口径6.3cm、器高3.5cmを測る。416～418は有孔鉢で、416が弥生時代中期後半、418が古墳時代前期初頭に位置付けられる。416は口径16.7cm、器高16.1cmを測り、外面に煤が付着する。418は外面にタタキ調整痕が残る。砂岩製の磨石419は重さ約1227gを量る。

第47図421～第48図439は、木器・木製品である。農耕具421～423は、全てコナラ属アカガシ亜属の材を用いる。421は泥除と考えられ、肥厚部分に柄孔が一部残存する。422は鋤または鍬の身であり、側面の一部に加工痕が残る。423は、横長の平面隅丸台形を呈する泥除けで、柄孔は長径4cm以上、短径2.9cmを測る。スギ材を用いた桶側板424は高さ25.4cmを測り、底板を受けるため内面下部を肥厚させる。ケヤキ材の槽425は平面隅丸長方形を呈し、長軸49.0cm、高さ9.8～11.2cmを測る。底部外面を長軸方向に削り込み、底外縁四方に台部をつくる。また、長軸方向に割れたことに起因して、底面2ヶ所に方形孔を穿ち、皮紐で綴じる補修が行われる。スギ材を用いた棒状木製品426は、2ヶ所に円孔を穿つ。薄い板状木製品427～429は、両面に編物圧着痕を残す。427・428の樹種はスギである。430は側面を加工し、有頭状に仕上げる栓か。2ヶ所に大きさの異なる方形孔を穿ち、一部が炭化する。樹種は、コナラ属アカガシ亜属である。棒状木製品431は、ツバキ属の材を用いる。板状木製品432、棒状木製品433～435は、スギ材を用いる。ツバキ属の材を用いる杭436は長さ58.9cmを測り、節部分が有頭状を呈する。側面は未加工である。部材と考えられる437は、コナラ属アカガシ亜属の材を用いる。全面が黒色に変色し、被熱した可能性を残す。438は、スギの棒状木製品である。439は、ツバキ属の芯持丸木を加工したもので、腐食が著しい。

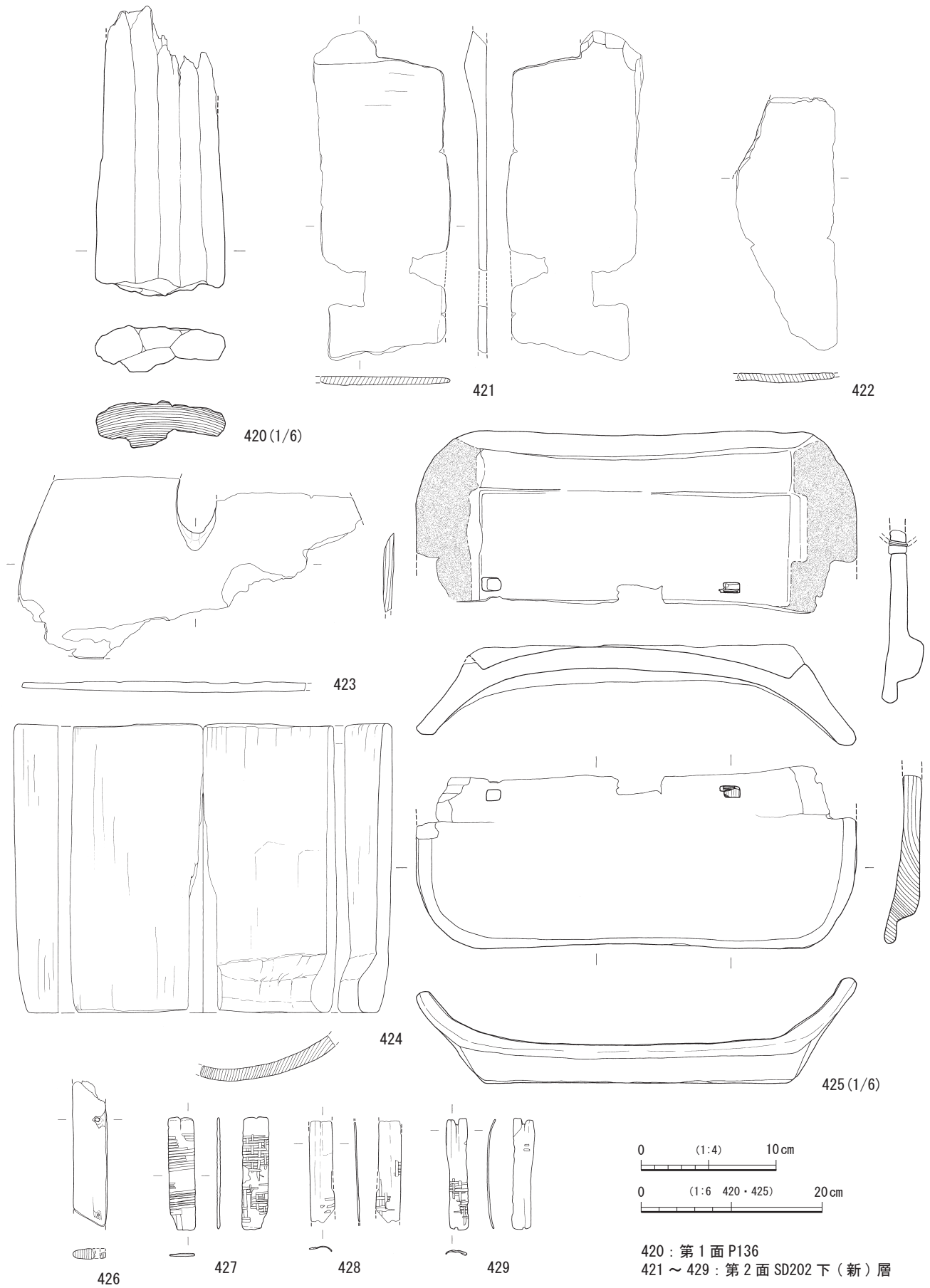
第49図440～第57図710、第59図737～第60図754は、最下層から出土した遺物である。440は縄文末～弥生初頭の鉢片で口径約14cmを測る。内面に条痕文、外面に網代文が残る。441は、弥生時代中期前半の沈線文系の壺であり、外面を刺突文、半截竹管を用いた直線文・弧状文で加飾する。全体に摩滅が進む他、一部は被熱する。442～444は、弥生時代中期後半の甕である。口縁部を、443は3列の綾杉文と刻み、444は刻みで加飾する。445は、同時期の無頸壺と考えられ、外面に煤が付着する。

446～544は甕である。弥生時代後期後半に属する446～450は、胴部内面をケズリ調整、外面をハケ調整で仕上げ、448以外は外面に煤が付着する。擬凹線をもつ有段口縁の甕451～486・502・508は、453～455が弥生時代後期後半、451・452・456～483・502・508が弥生時代終末、484～486が古墳時代前期初頭に位置付けられる。大型の451は口径約31cmを測り、擬凹線を丁寧に施す。大型の452は口径30.4cmを測り、煮炊き痕を良好に残す。454・455は口縁部が直立し、454は口縁部内面に指頭圧痕が、455は良好な煮炊き痕が、それぞれ認められる。457は口径21.2cmを測り、頸部より上部は異なる特徴をもった胎土を用いる。458・459は、胎土の特徴から同一個体と考えられる。底部459は、意図的に内面中央をくぼませる。462・464は、口縁部内面に指頭圧痕が残る。466は口径15.2cmを測り、口縁部が直立する。467は口縁部内面にヨゴレが付着する。469・470は口径16.8cmを測る。471は外面にかすかの擬凹線が残る。472は口径17.7cmを測り、煮炊き痕を良好に残す。473は、深い擬凹線を密に施す。傾きに不安を残す474も同様である。475は口径16.2cmを測り、口縁部内面の屈曲はなだらかである。476は、外面に厚い煤が付着する。477～482は、口径15cm前後を測る。478は丁寧な擬凹線を施し、479は煮炊き痕を良好に残す。厚手

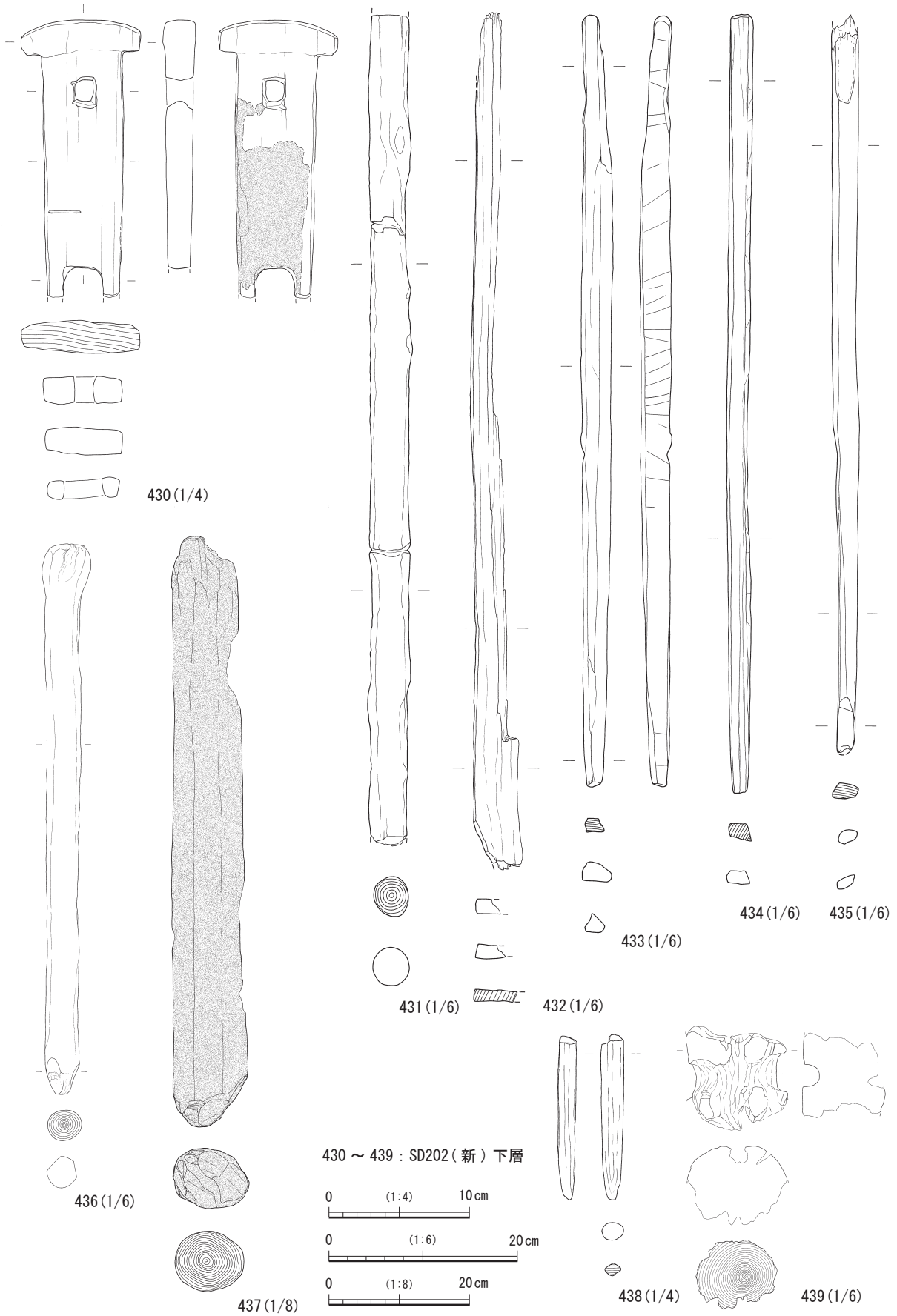




第46図 A区第2面出土遺物実測図8 (S=1/4)

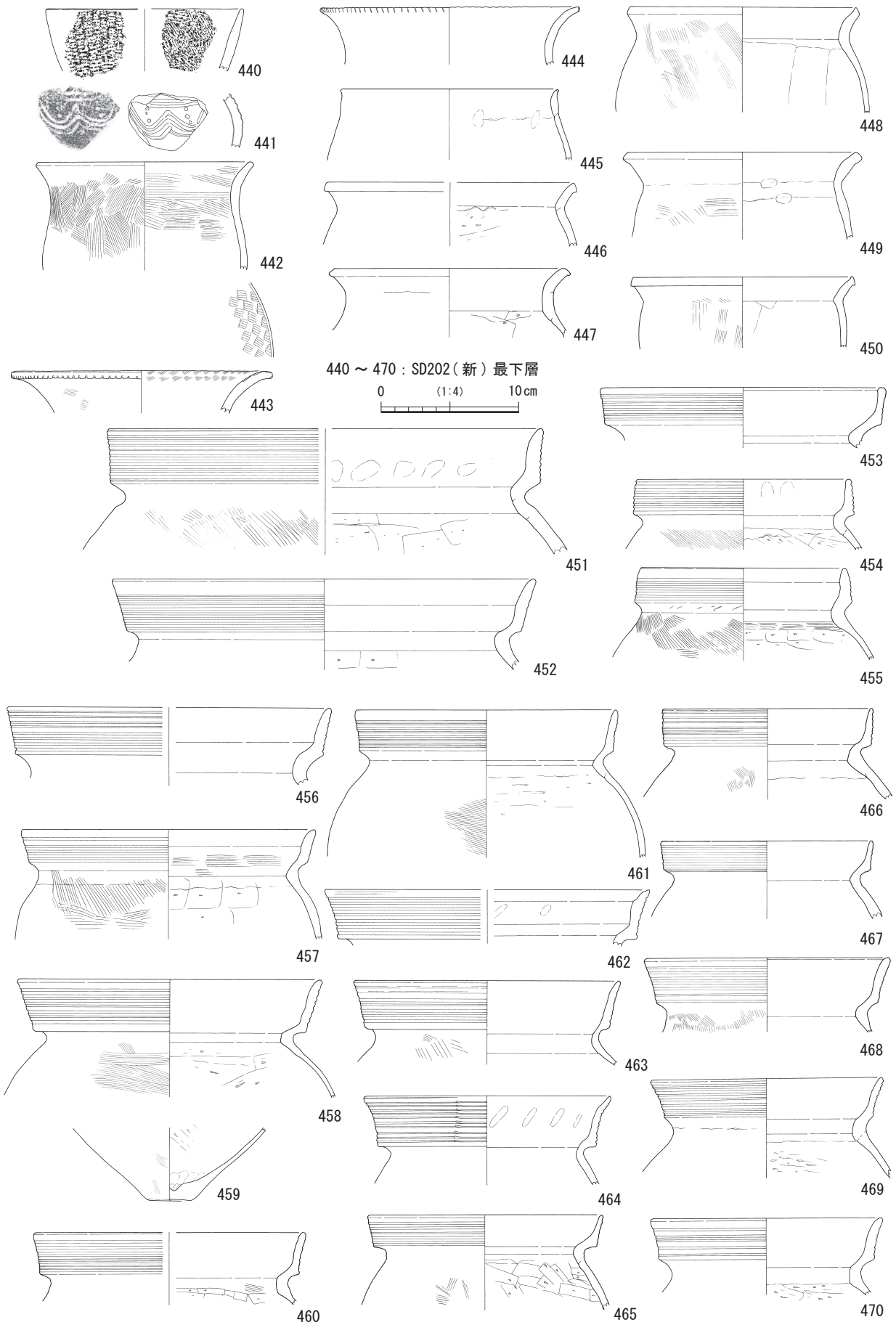


第47図 A区第2面出土遺物実測図9 (S=1/4・1/6)



第48図 A区第2面出土遺物実測図10 (S=1/4・1/6・1/8)

第3節 第2面の遺構と遺物



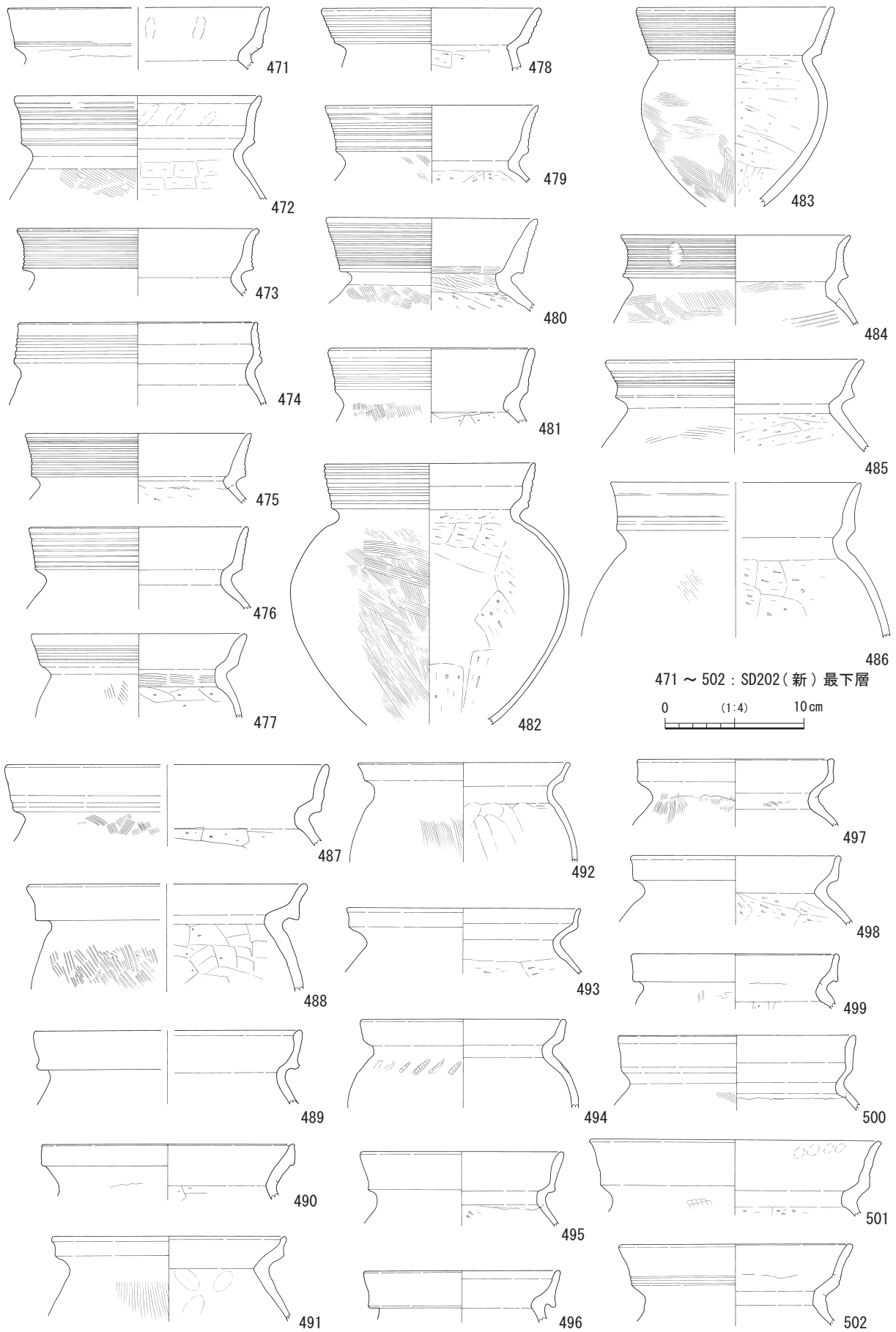
第49図 A区第2面出土遺物実測図11 (S=1/4)

の480が擬凹線を密に施すのに対して、481は間隔の空いた擬凹線を雑に施す。482・483は口径14cm強を測り、ともに煮炊き痕を良好に残す。484は口縁端部が小さく外反し、胴部内面をハケ調整で仕上げる。485は口径18.4cmを測り、擬凹線がかなり乱れる。486は擬凹線がかすかに残り、胴部は球形に近い。

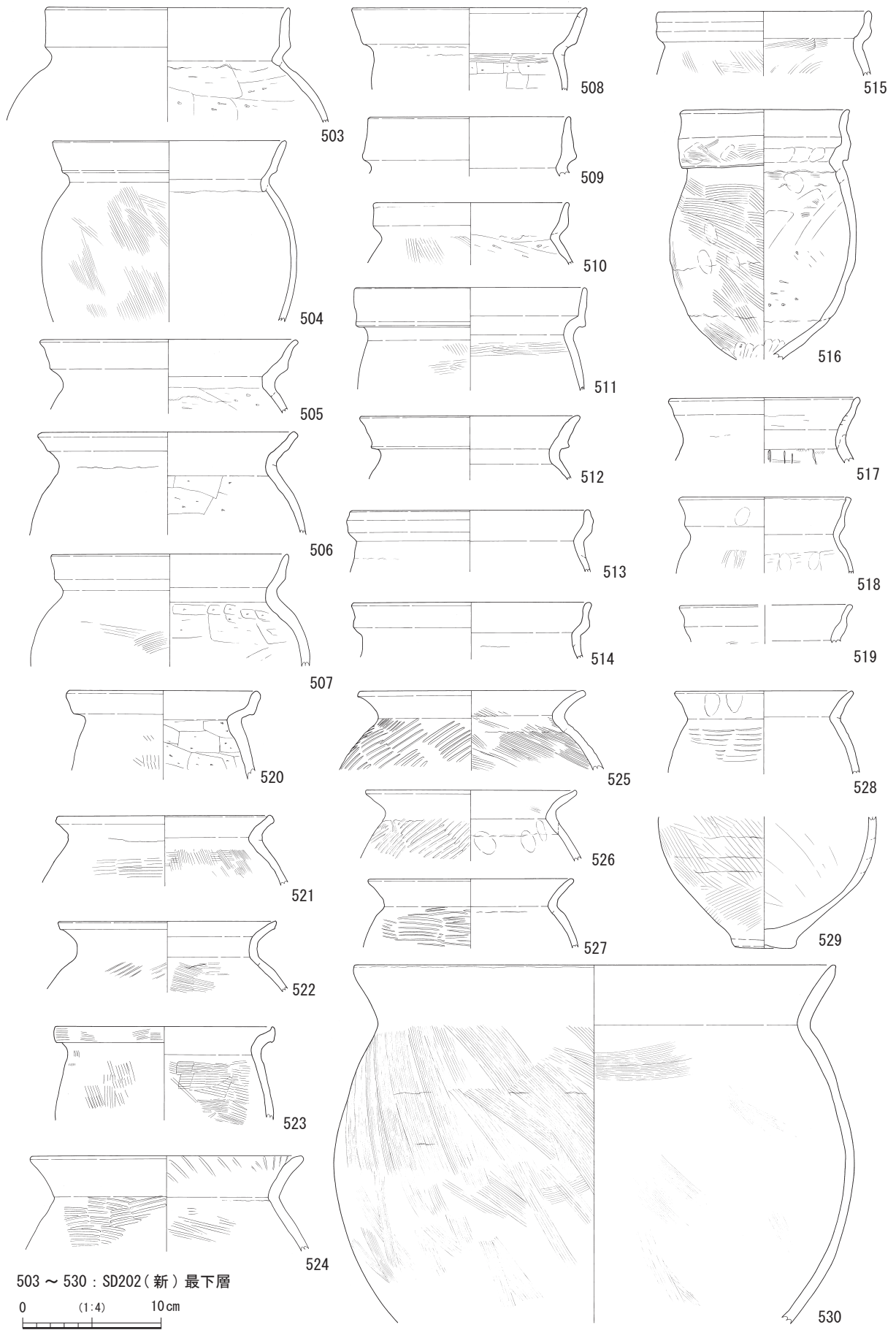
487～501・503～515は無文有段口縁の甕であり、488～499が弥生時代後期後半、487・500・501・508が弥生時代終末、503～507・509～515が古墳時代前期初頭におおむね位置付けられる。487は口径約23cmを測り、488とともに器肉が厚い。古相の490は口径18.0cmを測り、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。491は、口縁部が短く立ち上がる。492は口径15.2cm、493は口径16.8cmを測る。494は、肩部を刺突文で加飾する。495～499は口径14cm前後を測る。496は摩滅が目立ち、498は胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。500は、煮炊き痕を良好に残す。501は口径20.6cmを測り、口縁部内面に密な指頭圧痕が残る。503は口径17.4cmを測り、胴部球形を呈する。504は口縁部内面の屈曲が弱く、胴部内面をナデ調整で仕上げる。505の口縁部も同様である。506は口径18.2cmを測り、口縁部は有段状を呈する。外面に厚く煤が付着し、古墳時代前期前葉の可能性をもつ。厚手の507は、胴部球形を呈する。508は口縁部が外傾するのに対して、509は口縁部が直立する。510は口径14.0cmを測り、各部の調整は雑である。511は、胴部内面をハケ調整後にナデ調整を加える。513～515の口縁部は、有段の屈曲が緩やかとなる。小甕516～520は、520以外が古墳時代前期初頭と考えられる。516は口径11.6cmを測り、いびつな有段口縁と雑な仕上げを特徴とする。また、胴部内面には、固形物に由来するゴマ状の炭化物が付着する。517～519の口縁部は、有段状を呈する。518は口径12.0cmを測り、倒位で乾燥したため口縁端部が平坦に変形する。520は口径13.6cmを測り、弥生時代後期後半に位置付けられる。521～523は、弥生時代中期後半の近江系の甕と考えられる。521が胴部両面をハケ調整で、522が内面をハケ調整、外面をタタキ調整で、それぞれ仕上げる。523は口径15.6cmを測り、口縁端部は外側に平坦面をもつ。524～529・531・532は、古墳時代前期初頭の胴部タタキ整形の甕である。524は口径19.8cmを測り、口縁部内面にはハケ原体のアタリ痕がわずかに残る。525は胴部内面をハケ調整で、526～528はナデ調整でそれぞれ仕上げる。529は、胴部外面にハケ調整を施し、下半にタタキ調整を加える。532は口径10.2cmを測る小型品である。530・533～544は、古墳時代前期のくの字口縁の甕である。大型の530は口径34.6cmを測り、胴部内面はハケ調整後にナデ調整を加える。533・535は、口縁端部を平坦に仕上げる。胴部球形を呈する536は、口径20.6cmを測り、口縁部は直線的に外傾する。537は、ゆがみが目立つ。厚手の540は、胴部内面に粘土紐接合痕を残す。542は口径15.6cmを測り、口縁部は直線的に長くのびる。544は口径14.5cmを測り、口縁部を短く折り曲げる。小甕545～552は、545・546が弥生時代後期、551が弥生時代終末、他は古墳時代前期初頭～前葉に位置付けられる。545は口径13.6cmを測り、胴部内面をハケ調整で仕上げる。546は口径12.4cmを測り、煮炊き痕を良好に残す。547～549は、胴部内面をナデ調整で仕上げる。550は口径10.6cm、器高14.8cmを測り、胴部は両面ともハケ調整の後、下半にケズリ調整を施す。551は口径7.8cmを、552は口径9.8cmを測る小型品である。摩滅が進んだ甕底部553は弥生時代後期前半、554は古墳時代前期に位置付けられる。小さな平底をもつ554は、胴部両面ナデ調整で仕上げる。

第52図555～第54図615、第55図646は壺類である。555・556が弥生時代中期後半、557・558が同後期前半、559～570・572～578・609～612・646が同後期後半、571・592～594・600・613が同終末、579～591・595～599・601～604・614・615が古墳時代前期初頭～前半に位置付けられる。受口状口縁の大型壺555は口径約25cmを測り、外面を格子状刻み、内傾する口縁端部を綾杉文で加飾する。556は、底部内面に指頭痕が目立つ。短頸の557は口径15.0cmを測り、口縁端部を外側に肥厚させる。558～561・567は直口壺である。558は古相を呈し、559は胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。560は口縁端部を平坦に仕上げ、561は摩滅が著しい。短頸の567は、口径12.5cmを測る。562～566は有段口縁の壺である。562は口径17.4cmを測り、

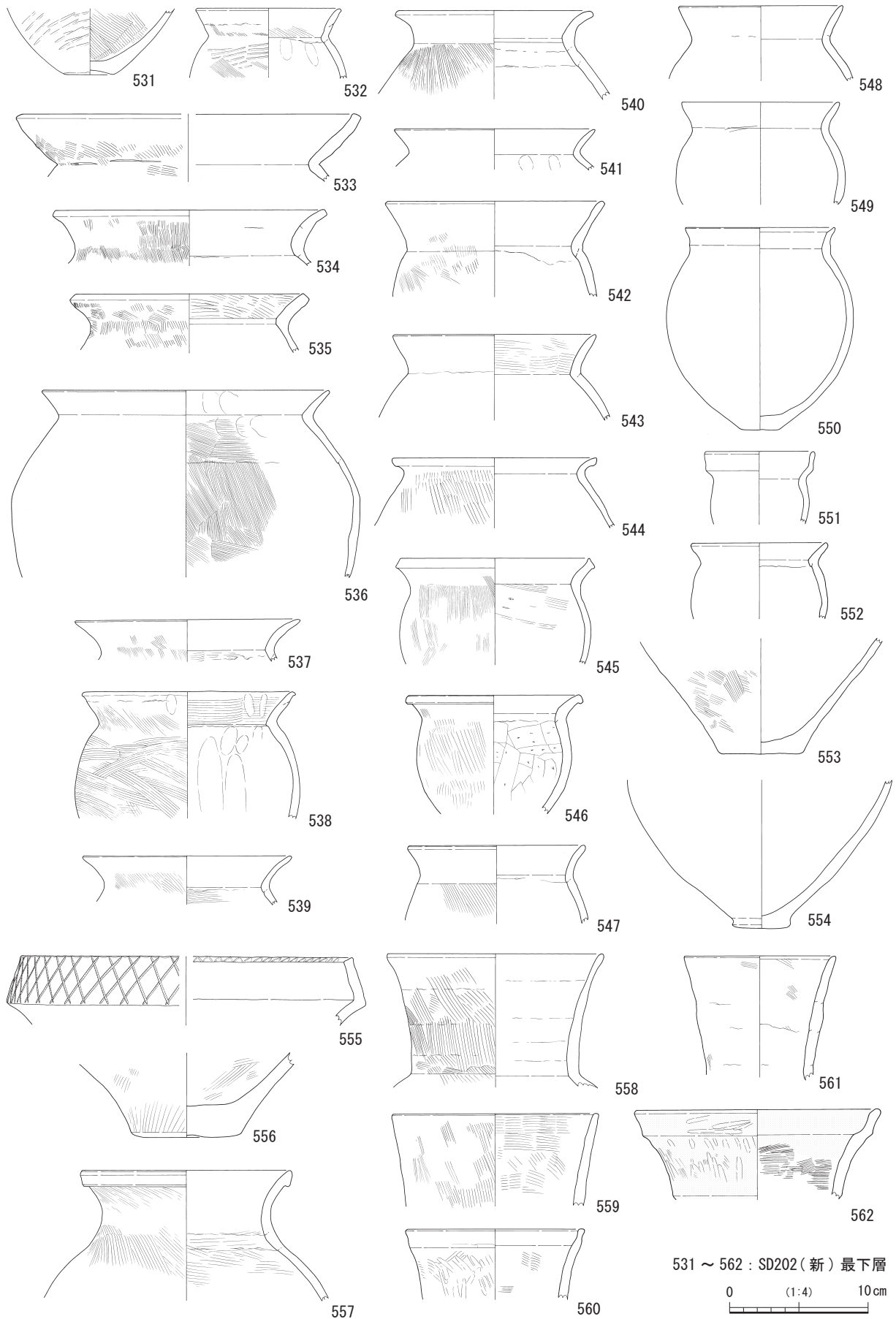
第3節 第2面の遺構と遺物



第50図 A区第2面出土遺物実測図12 (S=1/4)



第51図 A区第2面出土遺物実測図13 (S=1/4)

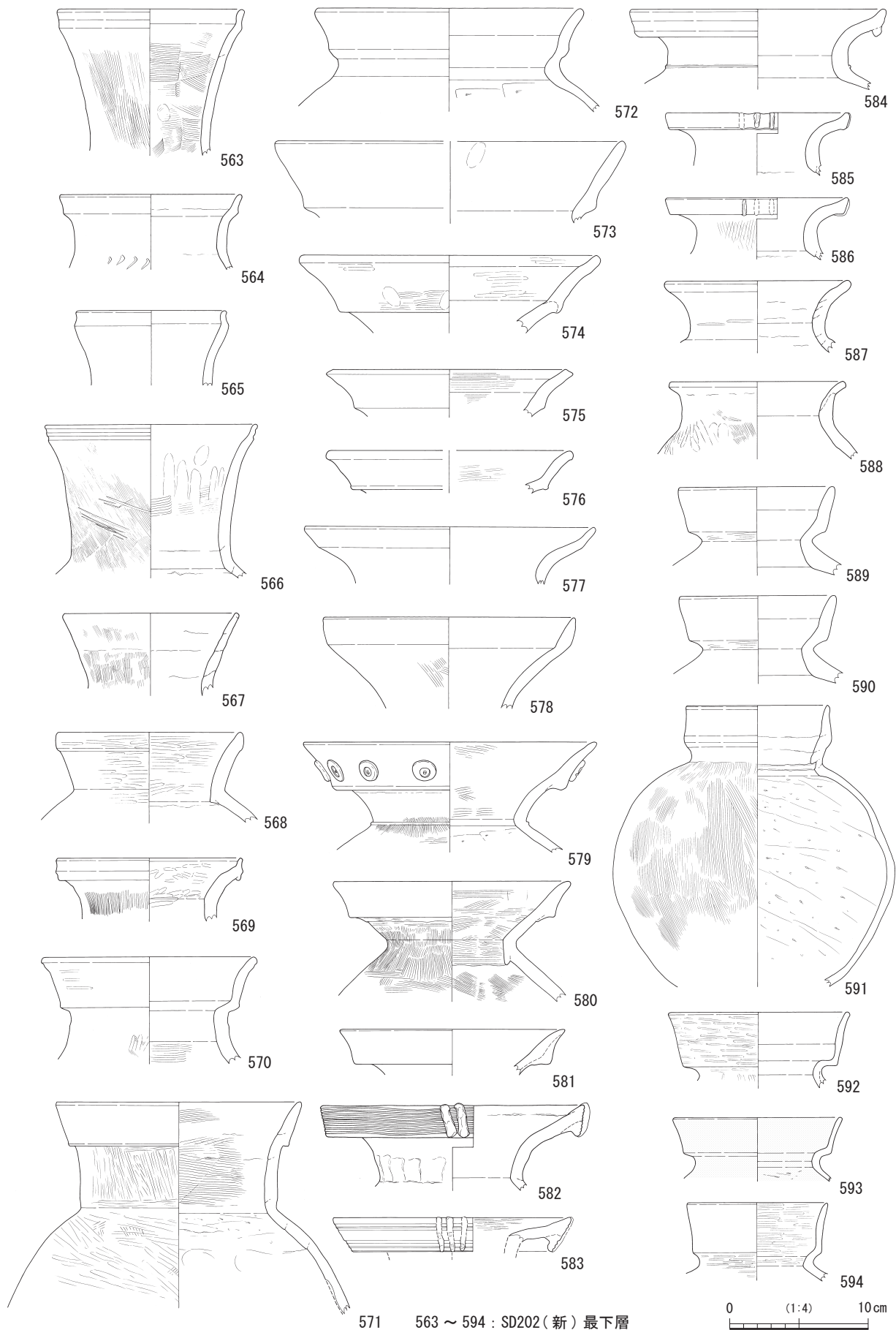


第52図 A区第2面出土遺物実測図14 (S=1/4)

外面に赤彩を施す。564は、肩部に粗い刺突文を雑に施す。566は口径15.1cmを測り、口縁部を凹線文で加飾する。また、内外でハケ原体が異なり、外面にはハケ原体のアタリ痕が残る。568・569は短頸壺である。569は口径13.4cmを測り、口縁端部を上下に引きのばして口縁帯をつくる。570～578は有段口縁の壺である。570は口径15.2cmを測り、口縁部が緩やかに外反する。571は口径17.7を測り、口縁部を外側に肥厚させて広い口縁帯をつくる。広口短頸の572は口径19.0cmを測り、摩滅が目立つ。大型の573は口径約25cmを測り、外面に煤が付着する。574は、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。575・576は口径17cm前後を測り、外反する口縁端部を平坦に仕上げる。577・578は口縁部が外傾しながら長くのびる他、摩滅が著しい。579～581は二重口縁の壺である。579は口径21.1cmを測り、竹管文で施文した円形浮文と、頸部の小さな突帯で加飾する。580は口径17.0cmを測り、口縁部内面に粗いミガキ調整を施す。582～586は、東海系の広口壺である。582・583は口縁帯に擬凹線を施した後、棒状浮文を貼り付ける。582は斜方向に棒状浮文であり、583の棒状浮文は全て剥離する。584は口径18.3cmを測り、頸部に小振りな突帯を巡らす。585・586は口径約13cmを測り、口縁帯に3本一対の棒状浮文を貼り付ける。短頸の587・588は口径13cm前後を測り、口縁端部を丸く仕上げる。589～594は有段口縁の小型壺である。589は器肉が厚く、590は口縁部外面にハケ調整が残る。591は口径10.1cmを測り、胴部は球形を呈する。592～594は丁寧ミガキ調整を施し、593には赤彩が残る。595～604は、胴部が球形を呈する壺で、口径は595が15.7cm、596が13.8cm、597が12.8cmを測る。597は、外面にかすかに赤彩痕が残る。ナデ肩の598は摩滅が著しく、600は外面にミガキ調整を施す。大型壺601は、胴部最大径約44cmを測る。602とともに底部外面中央をくぼませて、上げ底風を呈する。603は両面ハケ調整の後に外面下半に粗いミガキ調整を加え、604は内外面とも板状工具を用いたナデ調整で仕上げる。605～608は、底部が台状を呈する。605は外面中央をくぼませ、輪状高台風となる。606は両面ミガキ調整が残ることから鉢の可能性をもつ。609～612は、細頸壺である。609は口径8.9cmを測り、胴部中程に隆帯、棒状浮文を貼り付ける。内面は摩滅のため、赤彩かどうか判断できない。610は口径9.8cmを測り、傾きに不安を残す。611・612は外面を赤彩する。小型の無頸壺613は口径8.6cmを測り、肥厚した口縁部が内傾する。614・615は古墳時代前期の壺脚部と考えられ、614の端部は断面方形を呈する。615は外面に煤が付着する。

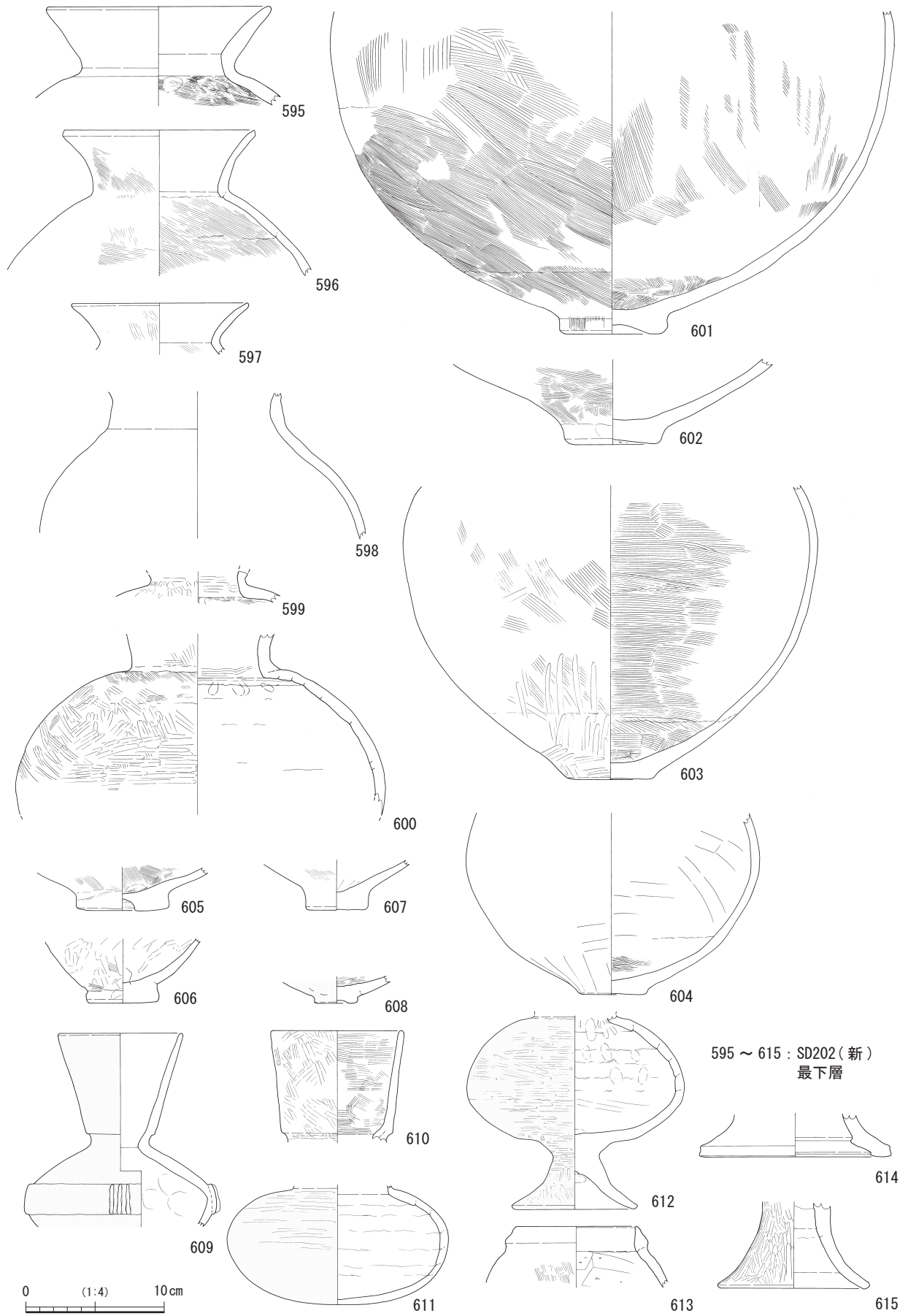
高坏は、616が弥生時代後期前半、617～623が同後期後半、624～641・647・649が同終末、642～645・648・650が古墳時代前期に位置付けられ、645・650が前期後半の器形を呈する。椀形を呈する616は口径14.3cmを測り、両面にミガキ調整を施す。617は口径約25cmを測り、肥厚した口縁端部を丸く仕上げる。618の脚は背が高い印象を受ける。脚裾部の仕上げは、平坦な619、肥厚する620・621、肥厚し跳ね上がる622と多様である。623は、内面に煤が付着する。口縁部が長くのびる坏部624～628は、坏底部の器形から624～626・630・631と627～629に大別できる。いずれもハケ調整の後に丁寧なミガキ調整を施す。脚部632～641は、背の高い632～638と背の低い639～641に大別できる。634は、煤の付着や被熱状況から蓋に転用したと考えられる。642は脚裾部が大きく外展する。643は口径17.0cm、器高6.6cmを測り、坏部内面に同心円的にミガキ調整を施す。644は摩滅のため、調整が判然としない。645は口径15.9cmを測り、内面ナデ調整、外面粗いミガキ調整と考えられる。小型の脚部647は3ヶ所に、648は4ヶ所に、それぞれ透かし孔を穿つ。649は坏部との接合のため、板状工具を用いて起伏をつけた痕跡が明瞭に残る。650は脚裾部が内湾気味にのび、内面全体に煤が付着する。

器台は、651・652・655が弥生時代後期後半、654が同終末、656～664が古墳時代前期初頭～前葉に位置付けられる。有段の受部をもつ651・652は、口縁帯を擬凹線で加飾する。両面赤彩の652は、内面底部に炭化物が付着し、蓋に転用したと考えられる。653は裾端部の突帯が剥離、654は摩滅が目立つ。655は、1ヶ所のみ円孔を穿つ。656・657は、外展する脚端部3ヶ所に円孔を穿つ。小型器台658は口径11.6cmを



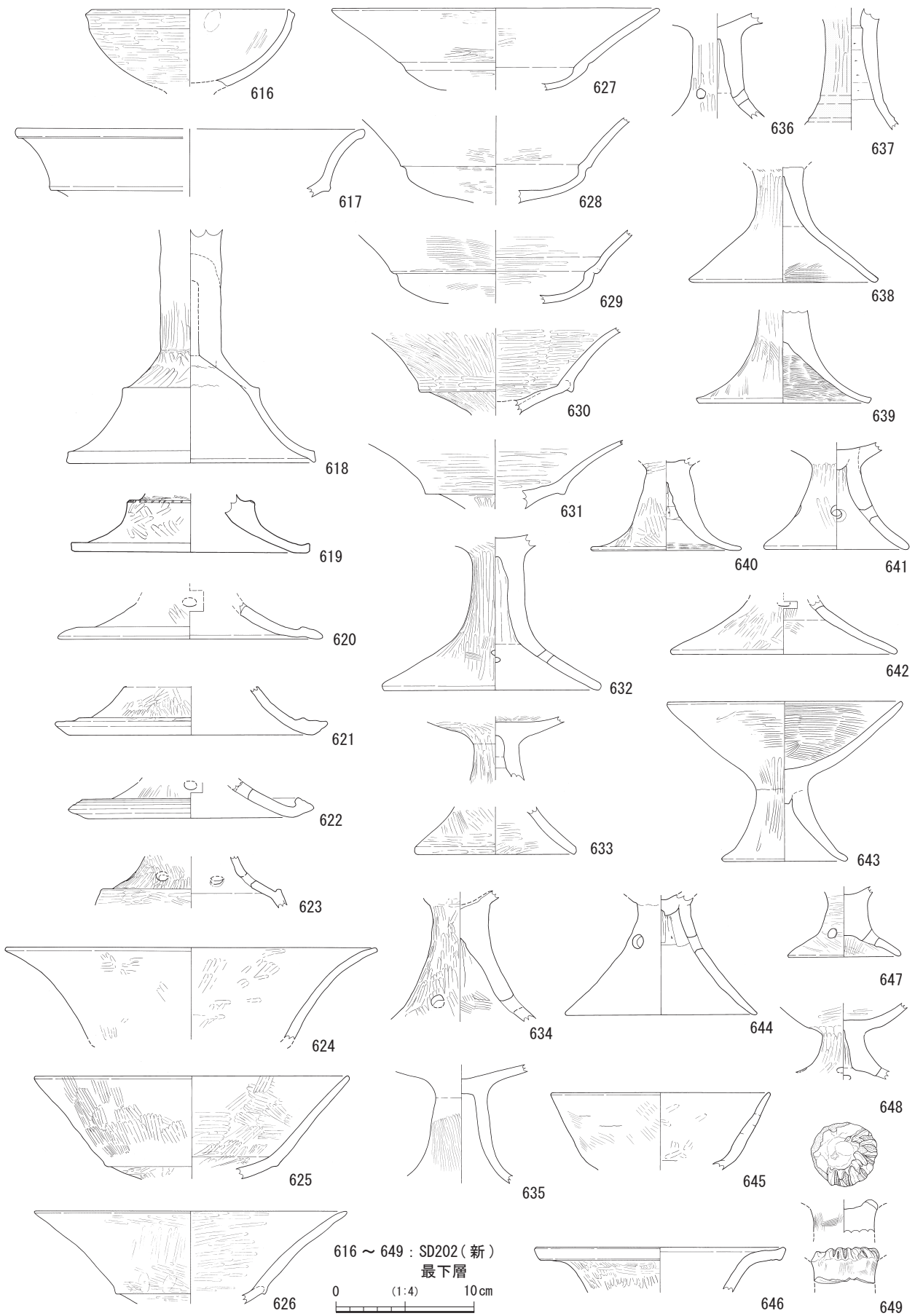
571 563 ~ 594 : SD202(新) 最下層

第53図 A区第2面出土遺物実測図15(S=1/4)



第54図 A区第2面出土遺物実測図16(S=1/4)

第3節 第2面の遺構と遺物



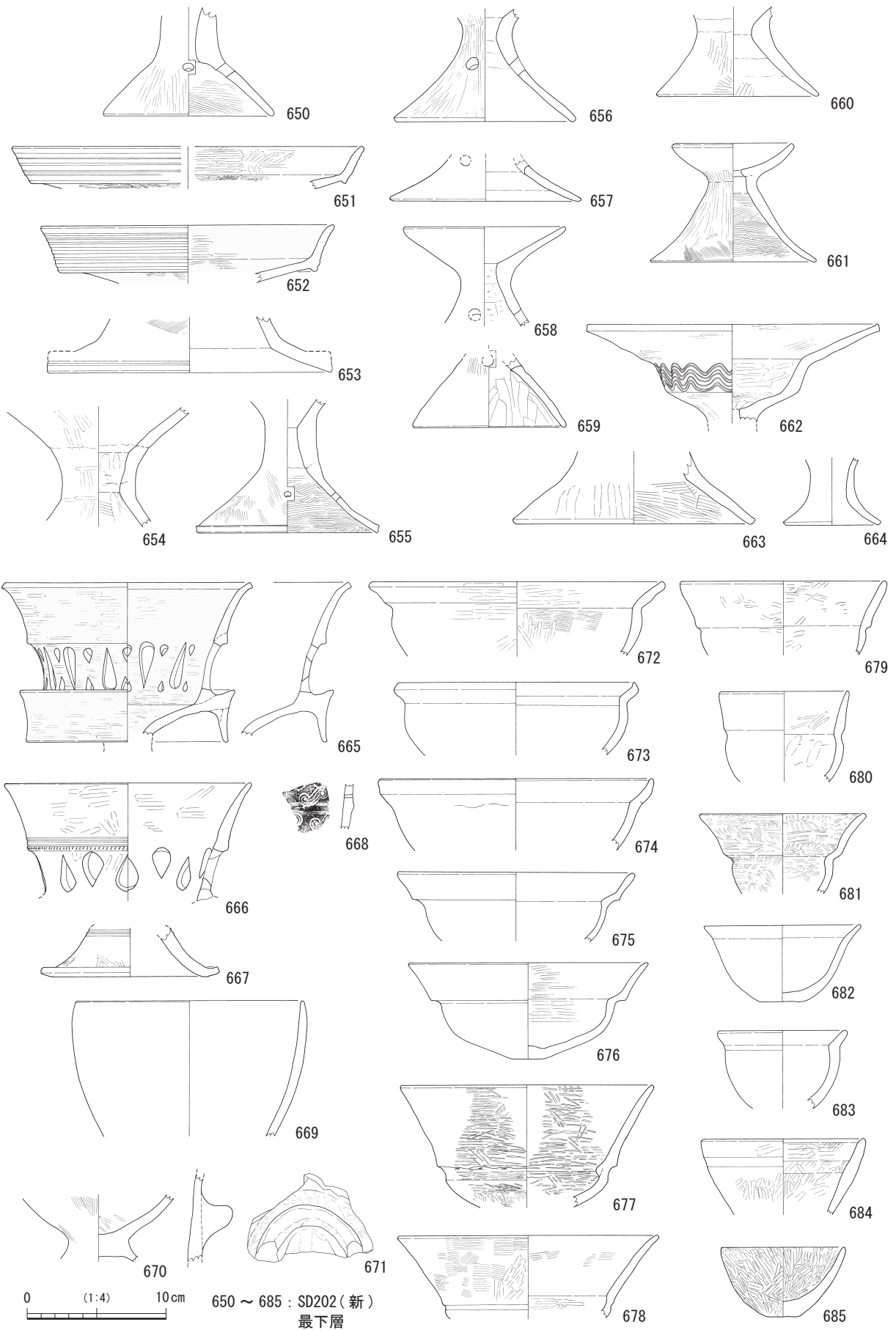
第55図 A区第2面出土遺物実測図17(S=1/4)

測り、受部が直線的にのびる。内湾気味の脚部659は、内外面ともナデ調整で仕上げる。660の脚部は、先細りながら外展する。661は口径8.5cm、器高8.5cmを測り、脚部が大きく外展する。662は口径20.8cmを測り、受部が途中で明瞭に屈曲する。両面ミガキ調整の後、外面を波状文で加飾する。663・664は、器台の脚部と考えた。663は内面にハケ調整を施し、664は脚裾径7.1cmを測る小型品となる。

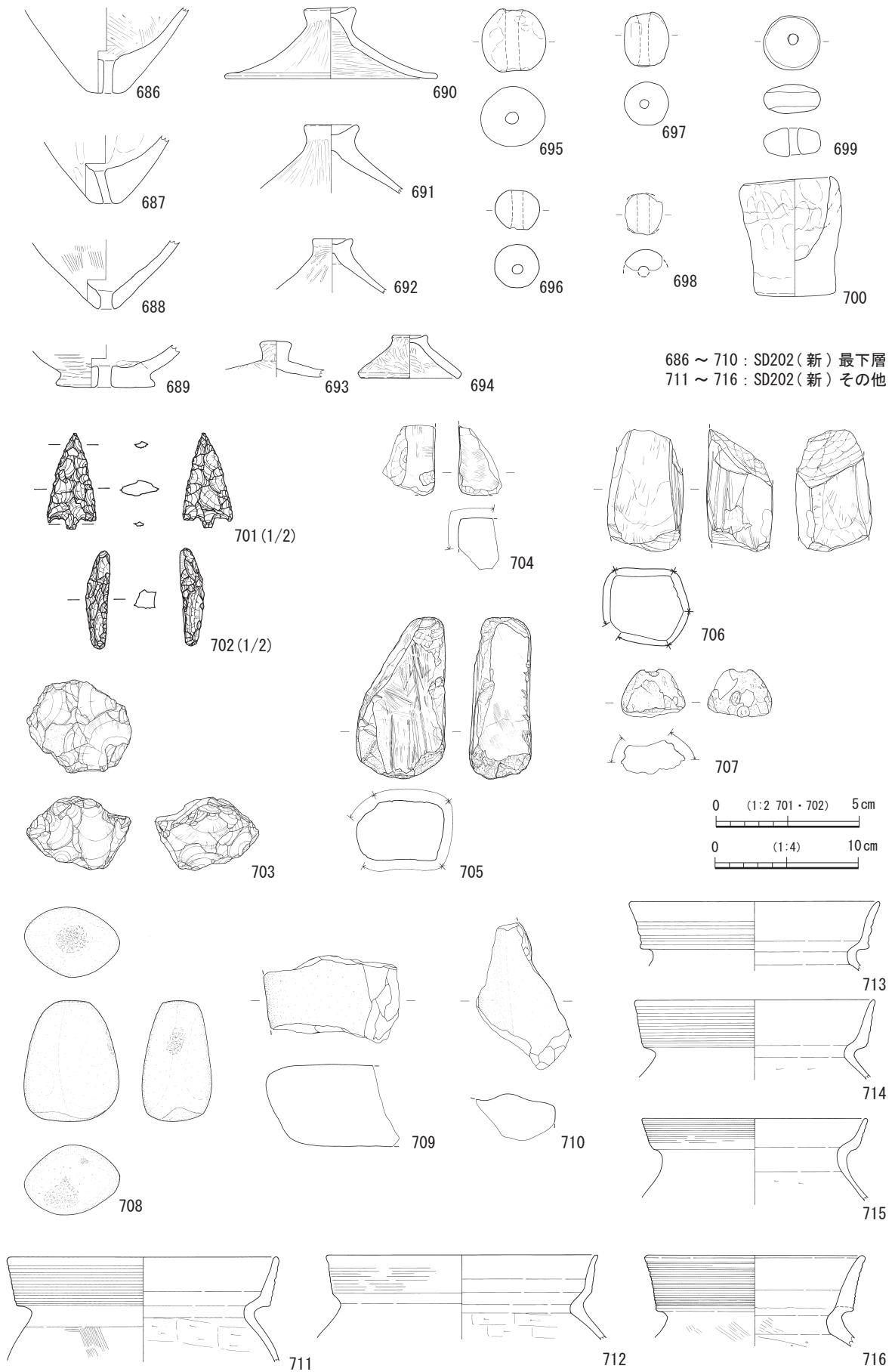
665～668は、弥生時代終末の装飾器台である。両面赤彩の665は口径17.5cmを測り、14ヶ所の涙滴状透かし孔を交互に配し、その間により小さな上下2段の透かしを穿つ。摩滅が進んだ666も両面赤彩の可能性が高い。口径17.8cmを測り、涙滴状透かし孔16ヶ所を交互に配し、その上部を沈線3条と刻み1条で加飾する。667は、胎土の類似性から666脚部の可能性をもつ。668は、2列配したS字状スタンプ文の各渦巻中心に穿孔を行う。669～685は鉢類で、古墳時代前期初頭の682、683以外は、弥生時代後期～終末に属する。古相を呈する669は口径16.4cmを測り、両面とも丁寧なミガキ調整を施す。小型脚付鉢670は、両面にミガキ調整が残る。671は、弥生時代終末の大型の有段口縁鉢把手と考えられる。672は口径20.9cmを測り、口縁部を有段状に仕上げる。673は口縁端部を上方につまみあげるのに対して、674は外傾しながら短くのびる。身の浅い676は口径17.3cm、器高6.9cmを測る。677・678は身が深く、口縁部は長くのびる。679は、破損後に被熱する。小型の680は、口径9.2cmを測る。681は胎土中に砂粒がほとんど混ざらず、口縁部外面に水平に煤が付着する。平底の682は口径11.2cm、器高5.5cmを測り、底部内面に板状工具痕を良好に残す。683は口径9.2cmを測り、口縁端部が短く外傾する。684は体部が直線的にのび、椀状の685は口径8.7cm、器高5.0cmを測る。第57図686～688は、有孔鉢底部片である。底部が厚い686・687のうち、687の穿孔は雑な印象を受ける。底部台状の689は、外面にタタキ整形痕を残し、土師器小型壺の可能性が高い。690～694は、蓋である。690が口径14.9cm、器高4.9cmを、694が口径6.8cm、器高3.0cmを測り、ともに丁寧なミガキ調整で仕上げる。693はボタン状の鈕をもち、破損後に煤が付着する。695～698は土師質の土錘で、重さは大型の695が73.5g、696が20.8g、697が37.0gを量る。土製紡錘車699は高さ2.1cm、径3.9cmを測り、精良な胎土を用いる。重さ24.3gを量る。

701～710は石器・石製品である。有茎の石鏃701は黒色ガラス質安山岩を用い、重さ2.16gを量る。702は同質の石材を加工した錐と考えられる。緑色凝灰岩の石核703は、重さ約167gを量る。砥石の石質は、704が砂岩、705・706が細粒凝灰岩、707が軽石凝灰岩となる。705・706に刃物痕が確認できる他、707は被熱・変色する。完形の敲石708は、図下面に特に顕著な敲打痕が残る。火山礫凝灰岩製の709は、その形状から台石の可能性をもつ。砂岩製の710は遺存面に溝状のくぼみがあり、置き砥石と考えられる。

第59図737～758は、木製品である。スギ材の737は、長軸46.6cm、残存幅20.7cm、厚さ2.1cmを測る。4ヶ所に不規則な方形孔を穿つ他、中央に半月状の腐食部分と長楕円形の変色部分が確認できる。方形孔の位置関係から、より大きな板材を不整無花果形に再整形した可能性が高い。738は、ツバキ材を用いた木錘である。両端の加工は粗い印象を受け、顕著な使用痕は確認できない。平面半円形を呈する739はサクラ属、棒状木製品740はスギ材を用いる。741・742は、建築部材と考えられる。741はエノキ属の材を用い、全体が炭化する。742はケヤキの材を用い、枝の切断が雑である。ケヤキ材のクサビ743は長さ22.2cm、幅5.0cmを測る。744は、コナラ属アカガシ亜属の分割材で、先端を扁平に先細らせる。745～747は、スギ材を用いる。ヘラ状木製品746は、先端が丸くなり、細身の柄は折損する。747は、頭部を両面から段状に加工する。板状木製品748の樹種はムクノキ、749はスギとなる。棒状木製品750は残存長96.4cmを測り、樹種はクリである。ツバキ属の杭751は、先端を1方向から切断して尖らす。752～754は、先端を加工した棒状木製品で、752がスギ、753・754がムクノキである。スギ材を用いた梯子755は、4段が残存する。残存長120.7cm、幅19.0cm、厚さ8.5cm、段の高さ3.6～4.2cm、段先端幅7.2～9.8cmを測り、左側面10ヶ所に不規則な挟りが残る。有頭状の棒状木製品756は長さ57.9cm、径約3.6cmを測り、先端を粗く



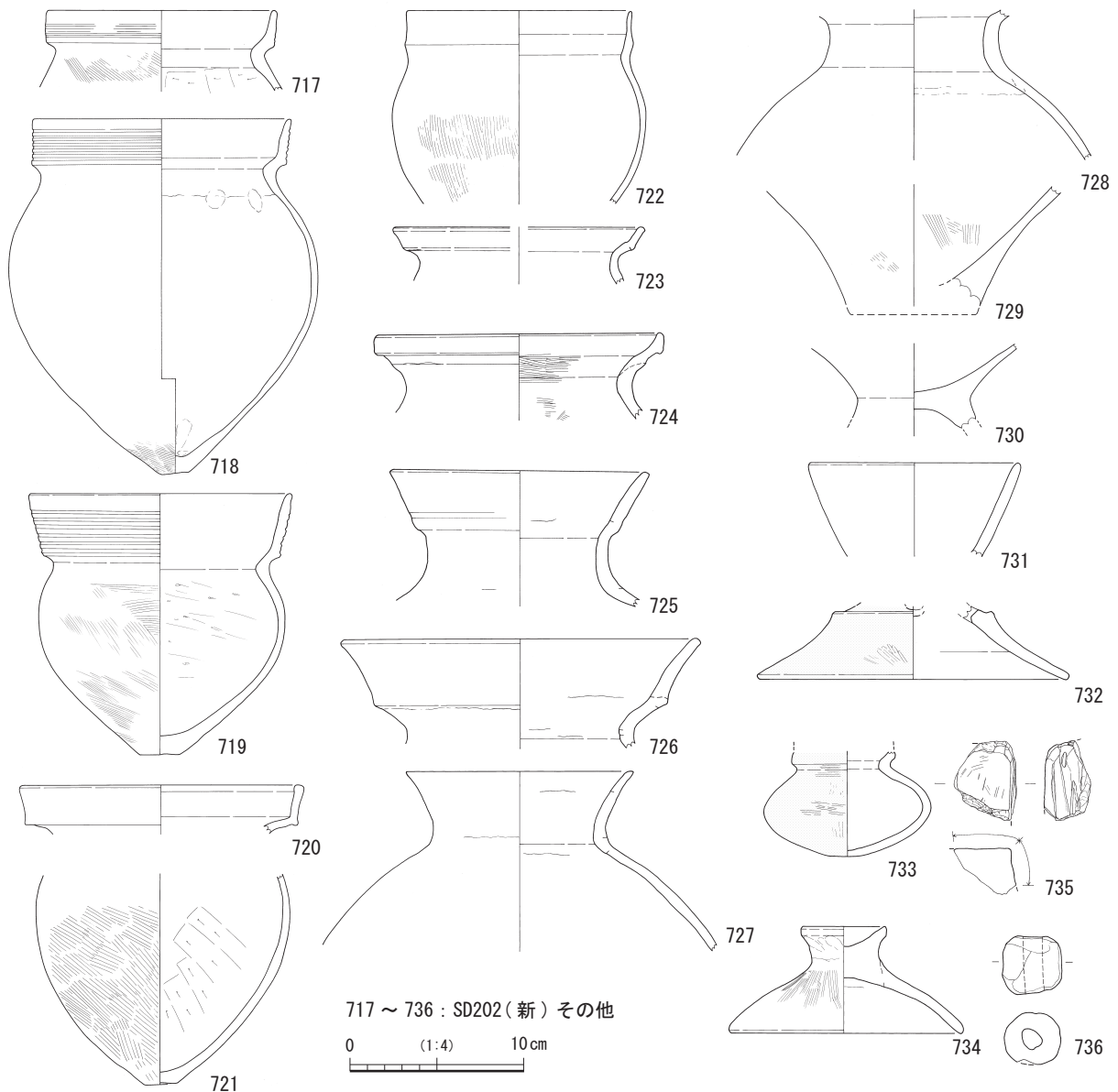
第56図 A区第2面出土遺物実測図18 (S=1/4)



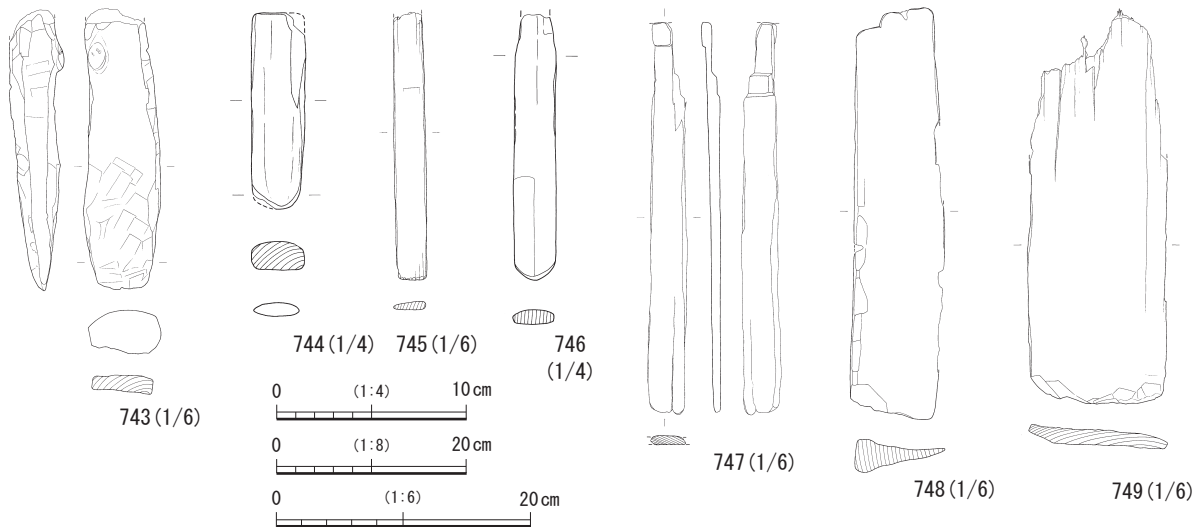
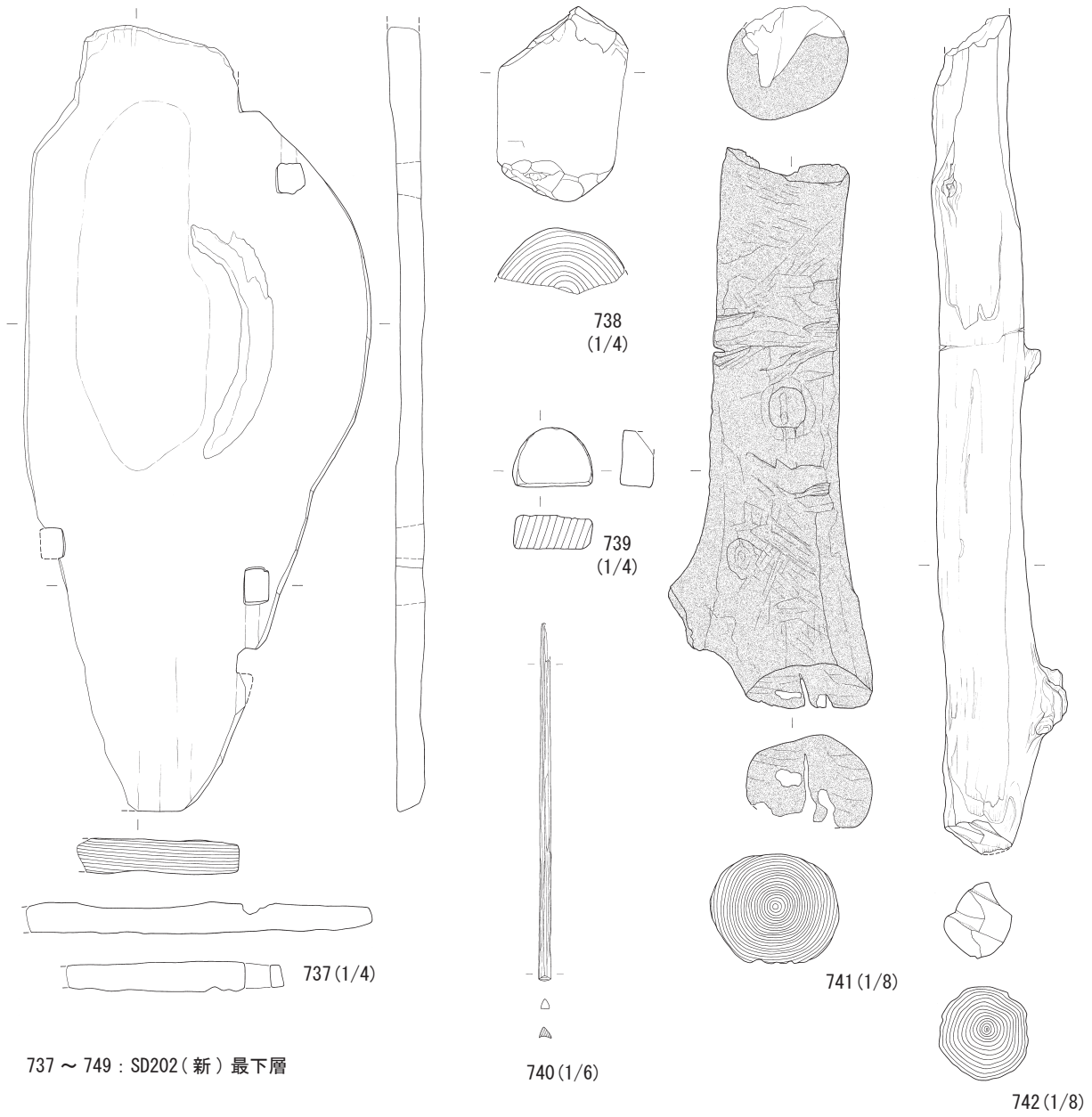
第57図 A区第2面出土遺物実測図19 (S=1/2・1/4)

切断する。樹種はスギである。平面剣形に近い757は、他材と組み合わせるため先端の側面・裏面を加工する他、頭部を薄く仕上げる。樹種は、コナラ属アカガシ亜属である。柱根758はスタジイ材を用い、一部が炭化する。

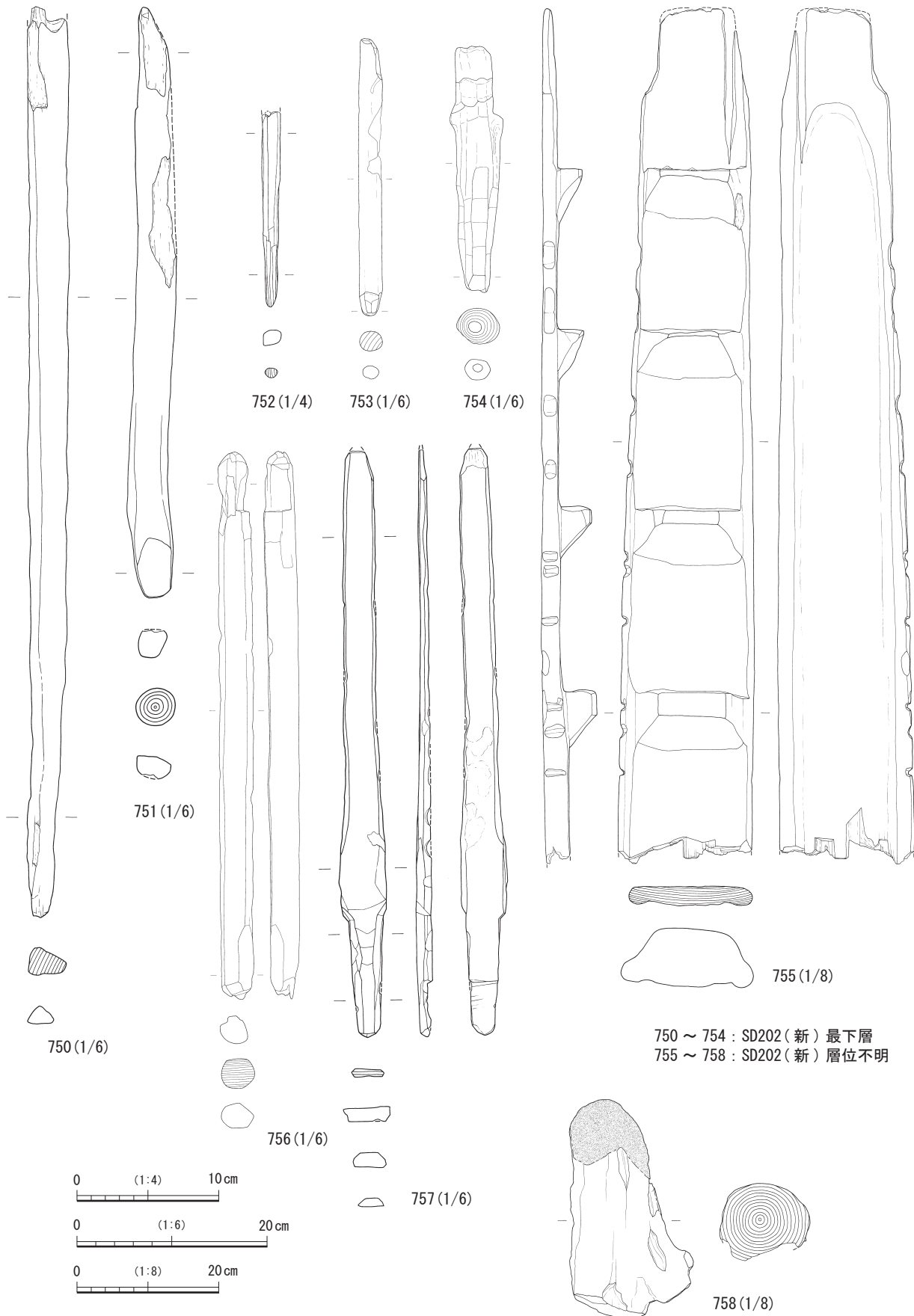
第57図711～第58図736は、出土層位が判然としない遺物である。甕711～723のうち、711～719・721は弥生時代終末の有段口縁の甕である。718が口径14.8cm、器高20.5cmを、719が口径15.0cm、器高15.1cmを測る。また、713・716は彫りの深い擬凹線で加飾する他、717・719は煮炊き痕を良好に残す。弥生時代後期後半の720は、口径16.0cmを測る。古墳時代前期初頭の722は摩滅が進み、東海系の723は焼成があまりよくない。壺724～731は、724～726が弥生時代後期後半、その他が古墳時代前期に位置付けられる。724は口縁部を上下に肥厚させ、破損後に被熱する。有段口縁の725・726は、外面に煤が付着する。くの字口縁の727は口径12.9cmを測り、摩滅が著しい。728・729は胎土の特徴から同一個体であり、さらに728は頸部に境に胎土の特徴が異なる。730は摩滅が著しい。731は口径11.7cmを測り、口縁部が内湾気味に立ち上がる。外面赤彩の器台732は、小型壺733とともに弥生時代終末に位置付けられる。蓋734



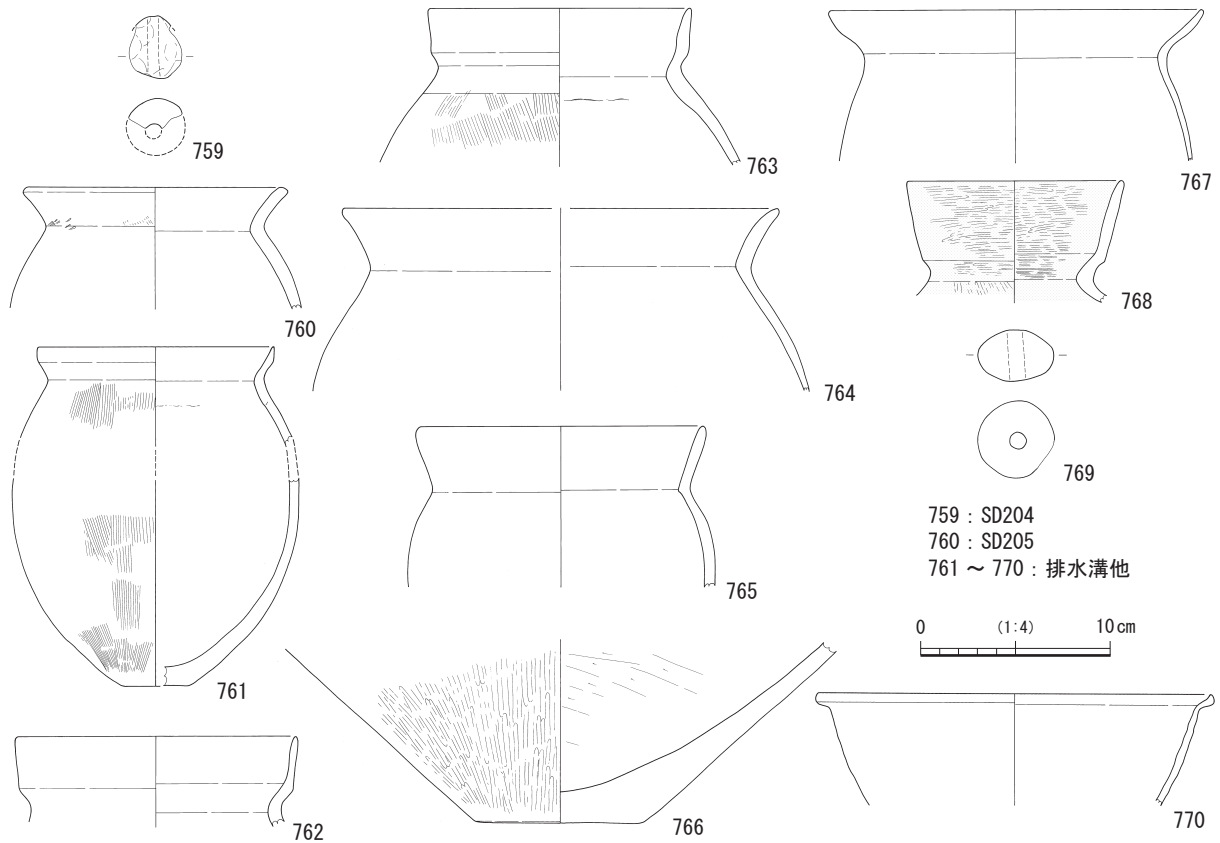
第58図 A区第2面出土遺物実測図20 (S=1/4)



第59図 A区第2面出土遺物実測図21 (S=1/4・1/6・1/8)



第60図 A区第2面出土遺物実測図22 (S=1/4・1/6・1/8)



第61図 A区第2面出土遺物実測図23 (S=1/4)

は口径13.2cm、器高6.1cmを測り、大型の鈕を丁寧に仕上げる。円筒形の土鍾736は、残存重量30.5gを量る。砂岩製の砥石735は、残存面全てが研ぎに用いる。

SD203～205 O・P-26・27区で検出した、ほぼ並走する位置関係をもつ溝群で、何らかの区画を示す可能性をもつ(第29・36図)。主軸方位はN-約40°Eを測り、溝底面の標高は北東側より南西側が低い。各溝の規模は、SD203が上幅44～78cm、深さ15～24cm、SD204が上幅38～64cm、深さ19～30cm、SD205が上幅140～152cm、深さ15～34cmを、それぞれ測る。覆土は、SD203・204が灰黄～黄灰色を基調とする粘質土が堆積した後に、浅黄色～明黄褐色を呈する砂質土・シルトが堆積する。SD205は、にぶい黄色粘質土の上位層に、SD201に近い色調をもつ細砂が堆積する。遺物は比較的少なく、SD204出土の土鍾第61図759、SD205出土の土師器甕760を図示した。厚手の760は口径13.3cmを測り、古墳時代初頭に位置付けられる。

3 包含層等出土遺物 (第61図、第38表)

第61図761・769・770が包含層、その他が排水溝等から出土した遺物である。有段口縁の甕761は弥生時代後期後半、摩滅した762は同終末に位置付けられる。763～765・767は古墳時代前期の甕である。厚手の763は、胴部内面をナデ調整で仕上げる。764は口径約23cmを測り、摩滅が著しい。765は口径15.0cmを測り、胴部は球形を呈する。剥離・摩滅が進んだ767は、口縁部が内湾気味に立ちあがる。弥生時代終末の大型壺766は、整形痕が比較的良好に残る。弥生時代終末の壺768は、丁寧なミガキ調整の後に、両面赤彩を施す。土師質の土鍾769は扁平な形状を呈する。770は平安時代のロクロ土師器鉢で、口径20.8cmを測る。

第3節 第2面の遺構と遺物

※ ()は残存法量を示す。

| 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 発掘 番号 |
|----------|--------------------|------|----|------------|------------|------------|--------------|----------------|--------------|----|--------------|------------|--------|-------------------------------|----------|
| 39 211 | 7A2SD202(東) | 弥生土器 | 甕 | 16.6 | - | (4.7) | 浅黄橙 にぶい黄橙 | にぶい黄橙 M-L | b-6 M-L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | □4/36 | 外面薄い煤付着 | C-766 |
| 39 212 | 7A2SD202(中)上層16 | 弥生土器 | 甕 | 16.0 | - | (7.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 M | a-4 M | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □7/36 | 外面煤付着 | C-040 |
| 39 213 | 7A2SD202(中)上層21 | 弥生土器 | 甕 | 20.5 | - | (5.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 S・M・L | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | □4/36 | 縦凹線(8条1単位) | C-160 |
| 39 214 | 7A2SD202(中)上層12 | 弥生土器 | 甕 | 16.9 | - | (5.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 M-L | b-3 M-L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □2/36 | 縦凹線(7条1単位)、外面煤付着 | C-156 |
| 39 215 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 弥生土器 | 甕 | 16.8 | - | (5.7) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 S・M・L | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ | □6/36 | 縦凹線(4条1単位)、外面煤付着 | C-170 |
| 39 216 | 7A2SD202(中)上層 | 弥生土器 | 甕 | 16.5 | - | (5.0) | 灰黄褐 | 橙 | a-4 M-L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ | □8/36 | 縦凹線(4条1単位)。胴部内面ヨコレ付 | C-097 |
| 39 217 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 弥生土器 | 甕 | 16.1 | - | (5.8) | 橙 | 橙 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリか | ヨコナデ | □7/36 | 縦凹線(3条1単位)、口縁部煤付着 | C-168 |
| 39 218 | 7A2SD202(中)上層17 | 弥生土器 | 甕 | 15.6 | - | (7.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 M-L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | □34/36 | 縦凹線(8条1単位)。外面煤付着。胴部 磨滅 | C-136 |
| 39 219 | 7A2SD202(中)上層18 | 弥生土器 | 甕 | 15.1 | - | (5.5) | 橙 | 橙 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □19/36 | 縦凹線残る。磨滅目立つ | C-141 |
| 39 220 | 7A2SD202(中)上層ブロック3 | 弥生土器 | 甕 | 22.2 | - | (4.1) | 橙 | 橙 | a-3 M-L | 良 | ヨコナデ、ケズリか | ヨコナデ | □8/36 | 縦凹線(7条1単位)。磨滅目立つ | C-171 |
| 39 221 | 7A2SD202(中)上層5 | 弥生土器 | 甕 | - | - | (6.5) | 橙 | 橙 | a-4 M-L | 良 | ヨコナデ、ケズリか | ヨコナデ | - | 縦凹線(5条以上)。磨滅顯著 | C-155 |
| 39 222 | 7A2SD202(中)上層ブロック3 | 弥生土器 | 甕 | 20.0 | - | (7.4) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 S・M・L | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □25/36 | 縦凹線(4条1単位)、外面煤付着 | C-093 |
| 39 223 | 7A2SD202(中)上層4 | 弥生土器 | 甕 | 18.8 | - | (6.5) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-4 M-L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | □3/36 | 縦凹線(6条1単位) | C-154 |
| 39 224 | 7A2SD202(中)上層17 | 弥生土器 | 甕 | 19.8 | - | (3.8) | 橙 | 橙 | b-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | □8/36 | 縦凹線(8条1単位)、外面煤付着 | C-135 |
| 39 225 | 7A2SD202(中)上層ブロック3 | 弥生土器 | 甕 | 19.0 | - | (4.7) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 S・M・L | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | □7/36 | 縦凹線(6条1単位)、外面割目立つ | C-128 |
| 39 226 | 7A2SD202(中)上層17 | 弥生土器 | 甕 | 17.8 | - | (9.5) | 橙 | 橙 | a-3 S-M | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □34/36 | 縦凹線(7条1単位)、外面煤付着 | C-037 |
| 39 227 | 7A2SD202(中)上層ブロック3 | 弥生土器 | 甕 | 17.6 | - | (8.6) | 浅黄橙、灰 明赤褐 | 浅黄橙、灰 明赤褐 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | 磨滅不明 | □9/36 | 縦凹線(6条1単位)。外面に黒斑。外面 磨滅顯著 | C-095 |
| 39 228 | 7A2SD202(中)上層 | 弥生土器 | 甕 | 17.5 | - | (7.0) | 橙 | 橙 | a-3 S-M | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □8/36 | 縦凹線(5条1単位)、外面煤付着 | C-140 |
| 39 229 | 7A2SD202(中)上層ブロック3 | 弥生土器 | 甕 | 17.2 | - | (8.7) | 橙 | 橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | □33/36 | 縦凹線多数不明。磨滅・剝離顯著 | C-098 |
| 39 230 | 7A2SD202(中)上層ブロック3 | 弥生土器 | 甕 | 17.2 | - | (10.7) | 橙 | 橙 | a-3 M-L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | □33/36 | 縦凹線かすかに残る。磨滅・剝離顯著 | C-096 |
| 39 231 | 7A2SD202(中)上層ブロック3 | 弥生土器 | 甕 | 16.8 | - | (9.0) | 黄橙 | 黄橙 | b-4 M-L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □10/36 | 縦凹線(5条1単位)。磨滅目立つ | C-094 |
| 39 232 | 7A2SD202(中)上層ブロック3 | 弥生土器 | 甕 | 16.4 | - | (15.9) | 橙、褐灰 | 橙、黒褐 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □36/36 | 縦凹線(9条1単位)。内面一部コガ、外 面全体煤付着 | C-101 |
| 39 233 | 7A2SD202(西)上層 | 弥生土器 | 甕 | 15.8 | - | (5.8) | 橙 | 橙 | b-3 M-L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | □8/36 | 縦凹線(4条1単位)。磨滅顯著 | C-125 |
| 39 234 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 弥生土器 | 甕 | 15.2 | - | (9.5) | 橙 | 橙 | b-3 M | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリか | ヨコナデ、ハケか | □12/36 | 縦凹線(4条1単位か)。磨滅顯著 | C-117 |
| 39 235 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 弥生土器 | 甕 | 15.0 | - | (5.7) | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | 磨滅不明 | □23/36 | 縦凹線かすかに残る。内面磨滅顯著 | C-111 |
| 39 236 | 7A2SD202(中)上層18 | 弥生土器 | 甕 | 15.3 | - | (6.1) | 橙 | 橙 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □9/36 | 縦凹線(5条1単位)。磨滅目立つ | C-139 |
| 39 237 | 7A2SD202(中)上層ブロック3 | 弥生土器 | 甕 | 15.0 | - | (4.3) | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | □9/36 | 縦凹線(5条1単位) | C-172 |
| 39 238 | 7A2SD202(中)上層17 | 弥生土器 | 甕 | 14.8 | 1.6 | 17.6 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S-M | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ、ナデ | □10/36 | 縦凹線(7条1単位)。内面ヨコレ、外面 煤付着 | C-036 |
| 39 239 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 弥生土器 | 甕 | 14.4 | - | (4.2) | 褐灰 | にぶい赤褐 | b-3 S・M | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | □36/36 | 縦凹線(5条1単位)。磨滅・剝離顯著 | C-115 |
| 39 240 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 弥生土器 | 甕 | 14.0 | - | (4.4) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | □32/36 | 縦凹線(6条1単位)。外面煤付着 | C-129 |

第22表 A区第2面出土土器観察表1

※ ()は残存法量を示す。

| 種別 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 実測 番号 |
|----------|-------------------------|------|----|------------|------------|------------|-------------|-------|--------------|----|-------------|-------------|------------------|---|----------|
| 40 241 | 7A2SD202 (中)上層 18 | 弥生土器 | 甕 | 14.3 | - | (6.0) | 橙 | 橙 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ケズリか | ヨコナデ、ハケか | □7/36 | 擬出線がすかに残る | C-142 |
| 40 242 | 7A2SD202 (東) | 弥生土器 | 甕 | 18.0 | - | (5.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ナデ | □3/36 | 外面煤付着 | C-702 |
| 40 243 | 7A2SD202 (中)上層ブロック4 | 弥生土器 | 甕 | 16.0 | 2.8 | 26.7 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ナデ、ハケ | □15/36 | 一部黒斑あり。外面全体に煤付着 | C-116 |
| 40 244 | 7A2SD202 (中)上層 17 | 弥生土器 | 甕 | 17.3 | - | (8.0) | 橙 | 橙 | b-4 M・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | □12/36 | 外面に黒斑。磨減顕著 | C-077 |
| 40 245 | 7A2SD202 (中)上層ブロック4 | 弥生土器 | 甕 | 15.9 | - | (6.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ハケ後ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □6/36 | 内面コケ、外面煤付着 | C-105 |
| 40 246 | 7A2SD202 (中)上層 18 | 弥生土器 | 甕 | 15.0 | - | (5.1) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | □14/36 | 胴部磨減目立つ | C-137 |
| 40 247 | 7A2SD202 (中)上層 16 | 弥生土器 | 甕 | 16.8 | - | (6.6) | 橙 | 橙 | a-6 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ | □8/36 | 胴部外面磨減 | C-045 |
| 40 248 | 7A2SD202 (中)上層ブロック3 | 弥生土器 | 甕 | - | - | (12.7) | 浅黄橙 | 橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ、ハケ | - | 胴部外面にヘラ痕。外面全体に煤付着(帯状にカミ網目後。幅0.5cm)。内面磨減顕著 | C-102 |
| 40 249 | 7A2SD202 (中)上層 16 | 弥生土器 | 甕 | 17.9 | 2.4 | 25.9 | 橙 | 橙 | a-4 S・M | 良 | ヨコナデ、ケズリか | ヨコナデ、ハケ、ナデ | □25/36 底36/36 | 胴部内面炭化物、外面煤付着。ゆがみあり | C-039 |
| 40 250 | 7A2SD202 (中)上層 17 | 弥生土器 | 甕 | 13.4 | 2.0 | 約17 | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □5/36 | 外面煤付着。磨減目立つ | C-078 |
| 40 251 | 7A2SD202 (中)上層 23 | 土師器 | 甕 | 16.0 | - | (13.2) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □18/36 | 内面ヨコレ、外面煤付着 | C-083 |
| 40 252 | 7A2SD202 (中)上層 | 土師器 | 甕 | 16.8 | - | (14.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | □36/36 | 磨減目立つ。外面一煤付着 | C-092 |
| 40 253 | 7A2SD202 (中)上層 20 | 土師器 | 甕 | 14.2 | - | (9.5) | にぶい橙、 褐灰 | にぶい橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □9/36 | 磨減目立つ。外面一煤付着 | C-138 |
| 40 254 | 7A2SD202 (中)上層 16 | 土師器 | 甕 | 12.8 | - | (6.4) | 褐灰 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ後ナデ | □6/36 | 内面ヨコレ、外面煤付着 | C-044 |
| 40 255 | 7A2SD202 (東)上層ブロック1 | 土師器 | 甕 | 16.7 | - | (9.6) | 黄灰 | 黄灰 | b-3 M・L | 並 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、タタキ | □5/36 | 外面煤付着 | C-059 |
| 40 256 | 7A2SD202 (中)上層 16 | 土師器 | 甕 | 約16 | - | (6.3) | 黄灰 | 黄灰 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、タタキ | □3/36 | 口縁部煤付着 | C-159 |
| 40 257 | 7A2SD202 (中)上層 14 | 土師器 | 甕 | 14.5 | - | (12.5) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ、板状工具ナデ | ヨコナデ、ハケ後タタキ | □11/36 | 外面煤付着 | C-048 |
| 40 258 | 7A2SD202 (西)上層 | 土師器 | 甕 | 13.9 | - | (13.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、タタキ | □10/36 | 内面下半コケ、外面煤付着 | C-123 |
| 40 259 | 7A2SD202 (中)上層 | 土師器 | 甕 | - | 4.6 | (4.1) | にぶい黄橙 | 黒褐 | a-3 S・M | 良 | ナデ | タタキ、ナデ | 底36/36 | 外面煤付着 | C-174 |
| 40 260 | 7A2SD202 (中)上層 16 | 土師器 | 甕 | 15.5 | - | (15.9) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | ハケ後ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | □23/36 | Mサイズ砂粒多い。内面炭化物、外面煤付着 | C-046 |
| 41 261 | 7A2SD202 (中)上層 15 | 土師器 | 甕 | 19.4 | - | (22.2) | 橙 | 橙 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ナデ | □10/36 | 内面下半コケ、外面煤付着 | C-049 |
| 41 262 | 7A2SD202 (中)上層 16 | 土師器 | 甕 | 25.4 | - | (15.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ、ナデ | □10/36 | 黒斑。外面煤付着 | C-047 |
| 41 263 | 7A2SD202 (東)上層 | 土師器 | 甕 | 17.8 | - | (11.5) | 浅黄橙 | 黒褐 | a-4 M・L | 並 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | □8/36 | | C-053 |
| 41 264 | 7A2SD202 (西)上層 | 土師器 | 甕 | 16.0 | - | (5.4) | 浅黄橙 | 橙 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | □7/36 | 外面煤付着 | C-124 |
| 41 265 | 7A2SD202 (東)上層ブロック1 | 土師器 | 甕 | 14.2 | - | (4.9) | 橙 | 橙 | a-4 M・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | □3/36 | 磨減顕著 | C-152 |
| 41 266 | 7A2SD202 (中)上層 16 | 土師器 | 甕 | 16.6 | - | (7.8) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデか | ヨコナデ、ハケ | □7/36 | 内面ヨコレ、外面煤付着 | C-134 |
| 41 267 | 7A2SD202 (東)上層 | 土師器 | 甕 | 15.1 | - | (5.6) | 橙 | にぶい橙 | a-4 M | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | □8/36 | 外面煤付着 | C-058 |
| 41 268 | 7A2SD202 (中)上層 16 | 土師器 | 甕 | 13.7 | - | (7.2) | 褐灰 | 黒褐 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ナデ、ハケ | □2/36 | | C-133 |
| 41 269 | 7A2SD202 (中)上層 17・ブロック3 | 土師器 | 甕 | - | 1.8 | (17.7) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 M・L | 良 | ハケ、ナデ | ハケ、ナデ | 底36/36 | 外面全体に煤付着、外底擦熱により赤化 | C-038 |
| 41 270 | 7A2SD202 (東) | 土師器 | 甕 | 約15 | - | (4.9) | 橙 | 橙 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | □5/36 | 外面に黒斑 | C-701 |

第23表 A区第2面出土器観察表2

第3節 第2面の遺構と遺物

※ ()は残存法量を示す。

| 掘削 番号 | 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 測 定 番 号 |
|----------|----------|-----------------------|------|-------|------------|------------|------------|--------------|-------------|--------------|----|-------------------|------------|------------------|---|------------------|
| 41 | 271 | 7A2SD202上層(白色細砂)中央群東① | 土師器 | 甕 | 14.7 | - | 24.7 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S-M | 良 | 磨減不明 | ハケ | 口18/36 底36/36 | ゆがみあり。外面に黒斑。磨減顕著 | C-330 |
| 41 | 272 | 7A2SD202(中)上層18 | 弥生土器 | 小甕 | 9.7 | 1.9 | 8.7 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S-M-L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口1/36 底36/36 | 赤色酸化粒多い。磨減目立つ | C-076 |
| 41 | 273 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 土師器 | 小甕 | 10.0 | 4.7 | 9.8 | 黄灰 | 黄灰、にぶい橙 | b-3 S-M-L | 並 | 磨減不明 | ヨコナデ、ナデ | 口13/36 | 口縁部にゆがみ。外面磨減 | C-120 |
| 41 | 274 | 7A2SD202(中)上層ブロック3 | 土師器 | 小甕 | 11.0 | - | 8.2 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 S-M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ、ナデ | 口12/36 | 外面に黒斑・煤付着 | C-099 |
| 41 | 275 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 土師器 | 小甕 | - | 3.7 | (8.0) | にぶい黄橙・黒 | にぶい黄橙 | a-3 S-M-L | 良 | ナデ | ヨコナデ、ナデ | 底6/36 | 外面に黒斑 | C-119 |
| 41 | 276 | 7A2SD202(中)上層25 | 土師器 | 小甕 | - | 4.5 | (8.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S-M | 不良 | ナデ | ハケ、ナデ | 底36/36 | 外面に黒斑。磨減顕著 | C-082 |
| 41 | 277 | 7A2SD202(東)上層 | 土師器 | 小甕 | 8.0 | - | (5.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M-L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ナデ | 口10/36 | | C-057 |
| 41 | 278 | 7A2SD202(中)上層 | 弥生土器 | 壺 | - | 7.5 | (5.4) | 黒 | にぶい黄橙 | b-3 S-M-L | 並 | ナデ、ハケ | ハケ、ナデ | 底36/36 | | C-091 |
| 41 | 279 | 7A2SD202(中)上層6 | 弥生土器 | 直口壺 | 15.8 | - | (7.8) | 浅黄橙 | にぶい黄橙 淡黄 | b-4 M-L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | 口2/36 | 磨減顕著 | C-153 |
| 41 | 280 | 7A2SD202(中)上層(茶褐色土) | 弥生土器 | 短頸壺 | - | - | (7.7) | 橙 | 橙 | b-3 S-M-L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | - | 磨減顕著 | C-173 |
| 41 | 281 | 7A2SD202(中)上層13 | 弥生土器 | 短頸壺 | 15.7 | - | 5.9 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 M-L | 並 | ヨコナデ、ナデ、ケズリか | ヨコナデ、ハケ | 口9/36 | | C-079 |
| 41 | 282 | 7A2SD202(中)上層17・ブロック4 | 弥生土器 | 台付細頸壺 | 8.8 | 9.9 | 22.7 | 橙 | 橙 | a-3 S-M | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | 口14/36 底19/36 | 磨減顕著。赤色酸化粒多い | C-068 |
| 41 | 283 | 7A2SD202(中)上層16 | 弥生土器 | 台付細頸壺 | - | - | (12.4) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M | 良 | 磨減不明 | ミガキ | 口27/36 | 外面赤彩(内面不明)。胴部外面に黒帯(幅1.0cm)。磨減顕著 | C-041 |
| 42 | 284 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 弥生土器 | 壺 | 15.2 | - | (7.2) | 橙 | 橙 | a-3 S-M | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ | 口2/36 | 外面磨減顕著 | C-127 |
| 42 | 285 | 7A2SD202(東)上層 | 土師器 | 壺 | 13.2 | - | (3.5) | にぶい黄橙 暗灰黄 | 暗灰黄 | a-3 M-L | 並 | ミガキ | ヨコナデ、ナデか | 口24/36 | | C-054 |
| 42 | 286 | 7A2SD202(中)上層7 | 土師器 | 壺 | 11.5 | - | (10.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 M-L | 並 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ後ナデ | 口6/36 | 磨減目立つ。287と同一個体 | C-051-1 |
| 42 | 287 | 7A2SD202(中)上層7 | 土師器 | 壺 | - | 5.6 | (4.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 M-L | 並 | ナデ | ナデ | 底36/36 | 磨減目立つ。286と同一個体 | C-051-2 |
| 42 | 288 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 土師器 | 壺 | 約16.5 | - | (8.7) | 橙 | 橙 | a-3 M-L | 良 | ハケ | ハケ、ナデ | - | 磨減・剝離顕著 | C-112 |
| 42 | 289 | 7A2SD202(中)上層ブロック3 | 弥生土器 | 台付壺 | 9.4 | - | (16.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 M-L | 良 | ミガキ、ハケ後ミガキ、ケズリ、ナデ | ミガキ | 口12/36 | 磨減目立つ | C-100 |
| 42 | 290 | 7A2SD202(中)上層24 | 弥生土器 | 台付壺 | 9.9 | 7.2 | 15.6 | 橙、灰 | 橙、灰 | a-4 S-M | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | ほぼ完形 | 磨減顕著 | C-084 |
| 42 | 291 | 7A2SD202(中)上層9 | 弥生土器 | 台付壺か | - | 9.2 | (5.5) | 橙 | 橙 | b-3 M-L | 良 | ナデ | 磨減不明 | 底24/36 | 磨減顕著 | C-050 |
| 42 | 292 | 7A2SD202(中)上層16 | 弥生土器 | 台付壺か | - | 9.4 | (2.3) | 灰黄 | 灰黄 | b-4 M | 良 | ナデ | ミガキ | 底14/36 | 一部黒斑 | C-157 |
| 42 | 293 | 7A2SD202(中)上層 | 弥生土器 | 高坏 | - | - | (14.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S-M-L | 良 | ナデ | ミガキか | 底1/36 | 外面赤彩(内面磨減)。胴部に磨減付け、刺突文で加飾。2孔1対の透かし孔4ヶ所(孔径0.4cm) | C-085 |
| 42 | 294 | 7A2SD202(中)上層20 | 弥生土器 | 高坏 | - | 13.3 | (4.4) | 黄灰 | 黄灰 | a-2 S | 良 | ナデ、ヨコナデ | ミガキ | 底10/36 | 外面赤彩。洗線4条。透かし孔4ヶ所(孔径0.8cm) | C-034 |
| 42 | 295 | 7A2SD202(中)上層19 | 弥生土器 | 高坏 | - | - | (8.2) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S-M-L | 良 | ミガキ、ナデ | ミガキ | - | 外面に黒斑 | C-033 |
| 42 | 296 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 弥生土器 | 高坏 | 14.6 | - | (5.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-1 | 良 | 磨減不明 | ミガキ | 口23/36 | 口縁部発熱・変色。磨減・剝離顕著 | C-121 |
| 42 | 297 | 7A2SD202(中)上層20 | 土師器 | 高坏 | 19.8 | - | (5.8) | 黒 | 黒 | a-3 S-L | 並 | 磨減不明 | 磨減不明 | 口6/36 | ゆがみあり | C-030 |
| 42 | 298 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 弥生土器 | 高坏 | - | 13.2 | (7.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S-M | 良 | ナデ、ハケ | ミガキ | 底36/36 | 内面にシボリ痕。内外面煤付着(既用か) | C-107 |
| 42 | 299 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 弥生土器 | 高坏 | - | 12.7 | (9.4) | 橙 | 橙 | b-4 M-L | 良 | ナデ、ハケ | ミガキ | 底36/36 | 透かし孔4ヶ所(孔径0.8cm)。赤色酸化粒多い。 | C-110 |
| 42 | 300 | 7A2SD202(中)上層8 | 弥生土器 | 高坏 | - | - | (4.9) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-3 S-M | 良 | ナデ、ミガキ | ミガキ | - | 内面にシボリ痕。透かし孔3ヶ所(孔径0.4cm) | C-131 |

第24表 A区第2面出土土器観察表3

※ ()は残存法量を示す。

| 種別 番号 | 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 実測 番号 |
|----------|----------|---------------------------|------|------|------------|------------|------------|-------|-------|--------------|----|-------------|-------------|------------------|-----------------------------|----------|
| 42 | 301 | 7A2SD202(東)上層 | 土師器 | 高坏 | - | - | (8.4) | 黒 | 浅黄橙 | a-4 M・L | 不良 | ナデ | 磨滅不明 | - | 内面にシボリ痕 | C-056 |
| 42 | 302 | 7A2SD202(中)上層16 | 土師器 | 高坏か | - | - | (6.4) | 橙 | にぶい橙 | b-4 M | 良 | ナデ | 磨滅不明 | - | | C-158 |
| 42 | 303 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 土師器 | 高坏 | - | 11.2 | (6.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-1 S | 良 | ナデ、ハケ | ミガキ | 底13/36 | 外面に黒斑 | C-108 |
| 42 | 304 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 土師器 | 高坏 | - | 12.4 | (8.4) | にぶい黄橙 | 橙 | a-3 S・M | 良 | ナデ、ハケ | ミガキ | 底6/36 | 内面にシボリ痕。透かし孔4ヶ所(孔径1.4cm) | C-109 |
| 42 | 305 | 7A2SD202(中)上層21 | 弥生土器 | 器台 | 23.8 | 13.5 | 16.2 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-1 S | 良 | ミガキ、ナデ、ハケ | ミガキ | 口21/36 底24/36 | 擬凹線(6条1単位)。口縁部に黒斑 | C-081 |
| 42 | 306 | 7A2SD202(中)上層16 | 弥生土器 | 器台 | 24.0 | - | (6.1) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-4 M | 良 | ミガキ | ミガキ | 口36/36 | | C-042 |
| 42 | 307 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 弥生土器 | 器台 | 19.4 | - | (6.2) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-3 S・M | 良 | ミガキ | ミガキ | 口33/36 | | C-113 |
| 43 | 308 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 弥生土器 | 器台 | 26.6 | - | (4.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-1 | 良 | ミガキ | ミガキ、ナデ | 口1/36 | | C-169 |
| 43 | 309 | 7A2SD202(中)上層16 | 弥生土器 | 器台 | 約25 | - | (4.5) | 浅黄橙 | 橙 | a-4 S・M | 良 | ミガキ | 磨滅不明 | 口2/36 | 擬凹線わずかに残る。磨滅・剝離顕著。870と同一個体か | C-132 |
| 43 | 310 | 7A2SD202(中)上層ブロック3 | 弥生土器 | 器台 | 21.7 | - | (12.4) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ミガキ | ミガキ | 口17/36 | 擬凹線(5条1単位)。内面シボリ痕 | C-103 |
| 43 | 311 | 7A2SD202(中)上層 | 弥生土器 | 器台 | 21.8 | - | (5.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ミガキ | ミガキ | 口2/36 | | C-175 |
| 43 | 312 | 7A2SD202(中)上層3 | 弥生土器 | 器台 | 20.7 | - | (20.0) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-3 M・L | 良 | ミガキ、ナデ | ハケ・ヨコナデ後ミガキ | 口6/36 | 外面被熱・薄い煤付着 | C-052 |
| 43 | 313 | 7A2SD202(中)上層19・ブロック3 | 弥生土器 | 器台 | - | 12.2 | (11.1) | にぶい橙 | 明赤褐 | a-3 S・M・L | 良 | ミガキ、ナデ、ヨコナデ | ミガキ、ヨコナデ | 底20/36 | 内外面赤彩 | C-028 |
| 43 | 314 | 7A2SD202(中)上層22 | 弥生土器 | 器台 | - | - | (5.0) | 橙 | にぶい黄橙 | a-2 S | 良 | ミガキ | ミガキ、ヨコナデ、ハケ | - | | C-027 |
| 43 | 315 | 7A2SD202(中)上層 | 土師器 | 器台 | - | - | (6.7) | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | a-3 S・M | 良 | ミガキ、ナデ | ミガキ | - | 透かし孔数不明(孔径0.7cm)。外面一部煤付着 | C-089 |
| 43 | 316 | 7A2SD202(中)上層 | 土師器 | 器台 | - | - | (5.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-5 S・M | 良 | ナデ、ハケ | ミガキ | - | 透かし孔4ヶ所(孔径0.6cm)。外面に煤付着 | C-698 |
| 43 | 317 | 7A2SD202(中)上層22 | 弥生土器 | 裝飾器台 | 17.2 | - | (7.5) | 橙 | 橙 | a-1 | 良 | ミガキ | ミガキ | 口7/36 | 両面赤彩。透かし孔12ヶ所 | C-032 |
| 43 | 318 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 弥生土器 | 鉢か | 24.1 | - | (8.5) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-3 M・L | 良 | ミガキ | ミガキ | 口12/36 | 磨滅・剝離顕著 | C-122 |
| 43 | 319 | 7A2SD202(東) | 弥生土器 | 鉢 | 約17 | - | (5.9) | にぶい黄橙 | 黒 | b-7 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ハケ | ヨコナデ、ナデ、ハケ | 口4/36 | 擬凹線(5条1単位)。外面煤付着 | C-700 |
| 43 | 320 | 7A2SD202(中)上層20 | 弥生土器 | 台付鉢 | 20.2 | 5.5 | 約10 | にぶい褐 | 灰褐 | a-3 S・M・L | 良 | ミガキ | ミガキ | 口9/36 底5/36 | 外面被熱・煤付着 | C-088 |
| 43 | 321 | 7A2SD202(中)上層ブロック2・3、上層18 | 弥生土器 | 鉢 | 17.0 | - | 9.0 | 橙 | 橙 | a-4 S・M・L | 不良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口14/36 | 磨滅・剝離顕著 | C-104 |
| 43 | 322 | 7A2SD202(中)上層7 | 弥生土器 | 鉢 | 14.0 | 1.1 | 8.2 | 灰褐 | 灰 | a-4 S・M・L | 不良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口2/36 底36/36 | 磨滅・剝離顕著 | C-080 |
| 43 | 323 | 7A2SD202(中)上層17 | 土師器 | 鉢 | 12.7 | 4.2 | 5.9 | にぶい橙 | にぶい褐 | a-3 S・M | 良 | ミガキ | ハケ後ミガキ | 口4/36 底36/36 | ゆがみあり | C-075 |
| 43 | 324 | 7A2SD202(中)上層3 | 弥生土器 | 有孔鉢 | - | 1.2 | (11.0) | 橙 | 橙 | a-4 M・L | 良 | ハケ、ナデ | 磨滅不明 | 底36/36 | 焼成前穿孔(孔径0.6cm) | C-055 |
| 43 | 325 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 弥生土器 | 有孔鉢 | 16.4 | 1.9 | 10.2 | 橙 | 橙 | b-3 M・L | 良 | ナデ | ナデ、ハケ | 口8/36 | 焼成前穿孔(孔径0.6cm)。外面に黒斑。 | C-114 |
| 43 | 326 | 7A2SD202(中)上層17 | 弥生土器 | 有孔鉢 | - | 約1 | (7.1) | 橙 | 橙 | b-3 S・M | 良 | ハケ | ハケ | 底36/36 | 焼成前穿孔(孔径0.7cm)。磨滅顕著 | C-035 |
| 43 | 327 | 7A2SD202(中)上層19・茶褐色土 | 土師器 | 有孔鉢 | - | 4.2 | (7.8) | 褐 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ハケ | ハケ、ナデ | 底20/36 | 焼成前穿孔(孔径1.1cm)。外面に黒斑 | C-029 |
| 43 | 328 | 7A2SD202(中)上層22 | 土師器か | 蓋 | - | つまみ径2.1 | (4.4) | にぶい黄橙 | 橙 | b-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ハケのちミガキ | - | 外面赤彩 | C-031 |
| 43 | 329 | 7A2SD202(中)上層 | 土師器か | 蓋 | - | つまみ径2.7 | (4.3) | 橙 | 橙 | a-3 S・M | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口6/36 | 磨滅顕著 | C-090 |
| 43 | 330 | 7A2SD202(中)上層ブロック4 | 弥生土器 | 蓋 | 7.5 | つまみ径2.7 | 2.3 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口19/36 | 磨滅顕著 | C-106 |

第25表 A区第2面出土土器観察表4

第3節 第2面の遺構と遺物

※ ()は残存法量を示す。

| 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 発掘 番号 |
|----------|----------------------|------|------------|------------|------------|------------|-------|---------|--------------|----|------------------|-------------|------------------|--------------------------------|----------|
| 43 | 7A2SD202(中)上層16 | 土師器 | 手づくね 土器 | - | 2.8 | (3.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M | 良 | ナデ | ナデ | 口1/36 底36/36 | 外面に黒斑 | C-043 |
| 43 | 7A2SD202(中)上層 | 弥生土器 | 土鍔 | 長さ 3.1 | 径 3.7 | 孔径 0.8 | - | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 並 | - | ナデ | 完形 | 重量30.1g。外面に黒斑 | C-086 |
| 43 | 7A2SD202(中)上層 | 弥生土器 | 土鍔 | 長さ 2.5 | 径 3.2 | 孔径 0.8 | 褐灰 | にぶい橙 | b-4 S・M | 並 | - | ナデ | 完形 | 重量22.8g | C-087 |
| 44 | 7A2SD202(東)中層 | 弥生土器 | 甕 | 17.7 | - | (4.3) | にぶい黄橙 | にぶい橙 | b-3 M | 良 | ヨコナデ、ケズリか | ヨコナデ | 口10/36 | 擬凹線(5条1単位)か。外面煤付着 | C-165 |
| 44 | 7A2SD202(東)中層 | 弥生土器 | 甕 | 18.5 | - | (4.7) | 橙 | 灰 | b-3 M | 並 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口2/36 | 擬凹線(5条1単位)。磨滅顯著 | C-167 |
| 44 | 7A2SD202(東)中層 | 土師器 | 甕 | 13.0 | - | (4.7) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | 外面煤付着 | C-696 |
| 44 | 7A2SD202(東)中層 | 土師器 | 甕 | 14.8 | - | (5.6) | 橙 | 浅黄橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ、タタキ | 口5/36 | 外面わずかに煤付着 | C-694 |
| 44 | 7A2SD202(東)中層 | 土師器 | 壺 | - | - | (4.8) | 橙 | 橙 | a-3 M | 良 | ヨコナデか | ヨコナデか | 口2/36 | 磨滅目立つ | C-166 |
| 44 | 7A2SD202(東)中層 | 弥生土器 | 高坏 | - | 20.8 | (5.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M | 良 | ナデ | ナデ | 底口5/36 | 裾端部に沈線1条。透かし孔数不明(孔径0.7cm)。外面磨滅 | C-695 |
| 44 | 7A2SD202(東)中層 | 弥生土器 | 高坏 | - | 約18 | (6.1) | 浅黄 | 浅黄 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | 底3/36 | 透かし孔数不明。磨滅目立つ | C-163 |
| 44 | 7A2SD202(東)中層 | 土師器 | 高坏 | - | - | (6.8) | 橙 | 橙 | a-3 S・M | 良 | ナデ、ハケ | ナデ、ハケ | - | 透かし孔3ヶ所(孔径1.1cm) | C-161 |
| 44 | 7A2SD202(東)中層 | 土師器 | 高坏 | - | - | (5.3) | 浅黄 | 浅黄 | b-3 S・M | 良 | ナデ、ハケ | ハケ後ミガキ | - | 内面にシボリ痕 | C-162 |
| 44 | 7A2SD202(西)下層 | 縄文土器 | 甕 | 10.8 | - | (2.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ナデ | ナデ | 口6/36 | 外面一部黒斑 | C-738 |
| 44 | 7A2SD202(中)下層(ブロック2) | 弥生土器 | 甕 | 17.5 | - | (3.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | 磨滅不明 | ヨコナデ、ハケ | 口6/36 | 口縁部下端に刻み | A-042 |
| 44 | 7A2SD202(中)下層(ブロック2) | 弥生土器 | 甕 | 16.6 | - | (4.0) | 橙、褐灰 | 橙、黒褐 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口7/36 | 口縁部下端に刻み。外面煤付着 | A-043 |
| 44 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 甕 | 約27 | - | (7.5) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-6 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口4/36 | 擬凹線(8条以上)。外面煤付着 | C-190 |
| 44 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 甕 | 18.0 | - | (7.7) | にぶい橙 | 浅黄橙 | b-6 M・L | 良 | ヨコナデか、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | 擬凹線(4条1単位)。ハケの動きが刺突文状にみえる | C-606 |
| 44 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 甕 | 18.2 | - | (5.3) | 橙 | 橙 | b-6 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | 口6/36 | 擬凹線(5条1単位)。口縁部若干ゆがむ | C-183 |
| 44 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 甕 | 18.4 | - | (6.3) | 橙 | にぶい黄橙 | b-4 M | 並 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | 擬凹線(8条1単位)。外面煤付着 | C-693 |
| 44 | 7A2SD202(中)下層ブロック2 | 弥生土器 | 甕 | 18.0 | - | (6.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙、黒 | a-4 S | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | 擬凹線(5条1単位)。外面に黒斑 | C-210 |
| 44 | 7A2SD202(中)下層ブロック2 | 弥生土器 | 甕 | 17.6 | - | (6.6) | 灰 | 橙、灰 | a-3 S・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口18/36 | 擬凹線(5条1単位)。磨滅顯著 | C-212 |
| 44 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 甕 | 19.5 | - | (10.1) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口9/36 | 乱れた擬凹線(8条程度)。外面煤付着 | C-205 |
| 44 | 7A2SD202(東)下層ブロック3 | 弥生土器 | 甕 | 17.3 | - | (6.0) | にぶい褐 | にぶい褐 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | 擬凹線(5条1単位)。内面ヨゴシ、外面煤付着 | C-624 |
| 44 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 甕 | 15.4 | - | (6.1) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 M | 良 | ヨコナデ後一部ハケ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口9/36 | 擬凹線(9条1単位) | C-184 |
| 44 | 7A2SD202(中)下層 | 土師器 | 甕 | 16.6 | - | (4.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-6 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ | 口8/36 | 胴部外面磨滅。外面煤付着 | C-191 |
| 44 | 7A2SD202(東)下層ブロック3 | 弥生土器 | 甕 | 14.3 | - | (8.3) | 浅黄 | 浅黄 | b-5 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ後一部ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口3/36 | 浅い刺突文。外面煤付着 | C-623 |
| 44 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 甕 | 23.3 | - | (6.3) | にぶい褐 | にぶい橙 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口3/36 | 内面炭化物付着 | C-608 |
| 44 | 7A2SD202(中)下層ブロック2 | 弥生土器 | 甕 | 17.8 | - | (4.6) | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | 口6/36 | | C-621 |
| 44 | 7A2SD202(西)下層 | 弥生土器 | 甕 | 14.8 | 2.4 | 19.9 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ハケ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口33/36 底36/36 | 擬凹線か字かに残る。煮沸痕(内面炭化物。外面煤付着) | C-224 |
| 44 | 7A2SD202(東)畔流れ4下層 | 土師器 | 甕 | 30.4 | - | (6.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ | 口13/36 | 外面煤付着。胴部磨滅 | C-350 |

第26表 A区第2面出土土器観察表5

※ ()は残存法量を示す。

| 挿入 番号 | 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 実測 番号 |
|----------|----------|-------------------------------|------|-----|------------|------------|------------|-------------|----------------|---------------|----|-------------|--------------------|------------------|---|----------|
| 44 | 362 | 7A2SD202(東)下層ブロック3 | 土師器 | 甕 | 15.7 | - | (5.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、タタキ | □9/36 | 外面煤付着 | C-200 |
| 44 | 363 | 7A2SD202(東)下層 | 土師器 | 甕 | 16.6 | - | (4.3) | 褐灰 | 褐 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリカ | ヨコナデ、ハケ | □9/36 | 内外面煤付着 | C-602 |
| 45 | 364 | 7A2SD202(東)下層ブロック1・ 群流れ4下層 | 土師器 | 甕 | 21.3 | 6.0 | 32.8 | 褐灰 | 橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | □16/36 底36/36 | 内面炭化物付着。外面に黒斑。磨滅顯著 | C-064 |
| 45 | 365 | 7A2SD202(東)下層ブロック2 | 土師器 | 甕 | 16.6 | - | (4.2) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | □8/36 | 口縁部煤付着 | C-625 |
| 45 | 366 | 7A2SD202(中)下層 | 土師器 | 甕 | 16.2 | - | (5.4) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 M | 良 | ハケ後ナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | □6/36 | 破片化後、煤付着 | C-609 |
| 45 | 367 | 7A2SD202(中)下層 | 土師器 | 甕 | 15.9 | - | (5.2) | 灰黄褐 | 灰黄褐 | a-3 S・M | 並 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | □6/36 | 胴部内面ヨコレ付着 | C-242 |
| 45 | 368 | 7A2SD202(東)下層 | 土師器 | 甕 | 14.0 | - | (6.7) | 黒褐 | 黒褐 | b-3 M | 不良 | ヨコナデ、ナデ | 磨滅不明 | □4/36 | | C-626 |
| 45 | 369 | 7A2SD202(中)下層 | 土師器 | 甕 | 15.0 | - | (6.3) | にぶい橙、 脚灰 | にぶい橙 | a-4 M・L | 並 | ヨコナデ、ケズリカ | ヨコナデ、ハケ | □6/36 | 赤色炭化物多い。外面煤付着 | C-607 |
| 45 | 370 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 小甕 | 13.0 | - | (7.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 M | 良 | ヨコナデ、ハケ後ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □6/36 | 破片化後、外面煤付着 | C-206 |
| 45 | 371 | 7A2SD202(西)下層 | 弥生土器 | 小甕 | 12.4 | - | (7.4) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケか | □9/36 | 内面に炭化物、外面煤付着 | C-223 |
| 45 | 372 | 7A2SD202(中)下層ブロック2 | 弥生土器 | 小甕 | 12.9 | - | (5.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □12/36 | | C-214 |
| 45 | 373 | 7A2SD202(中)下層 | 土師器 | 小甕 | 11.7 | 5.2 | 9.7 | 明赤褐、黒 | 明赤褐、黒 | ba-3 S・M・L | 並 | 磨滅不明 | ヨコナデ、ハケ、ナデ | □27/36 底36/36 | 黒斑目立つ。内面磨滅顯著 | C-203 |
| 45 | 374 | 7A2SD202(中)下層ブロック1 | 土師器 | 小甕 | 11.4 | - | (6.4) | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | □17/36 | 外面煤付着 | C-207 |
| 45 | 375 | 7A2SD202(東)下層 | 弥生土器 | 壺 | - | - | (14.8) | 透黄橙 | 透黄橙 | b-4 M・L | 良 | ナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | - | 胴部最大径28.7cm。縄文・垂縄文・透縄文・透形文・ 架部糸で加飾。第3面963と同一個体 | C-601 |
| 45 | 376 | 7A2SD202(中)下層3・ブロック2 | 弥生土器 | 壺 | - | 5.5 | (27.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ハケ | ハケ、ハケ後ナデ、ナデ | 底36/36 | 外面一部煤付着 | C-187 |
| 45 | 377 | 7A2SD202(中)下層ブロック2 | 弥生土器 | 長口壺 | 14.4 | - | (8.3) | 透黄 | 透黄 | a-4 S・M | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | □7/36 | 破片化後煤付着 | C-216 |
| 45 | 378 | 7A2SD202(東)下層 | 弥生土器 | 長口壺 | 12.6 | - | (8.8) | にぶい黄 橙、黒 | にぶい黄橙 S・M・L | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | □7/36 | 内面黒斑 | C-622 |
| 45 | 379 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 壺 | 20.6 | - | (7.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-6 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | □6/36 | 内面一部剝離、外面一部煤付着 | C-179 |
| 45 | 380 | 7A2SD202(中)下層ブロック2 | 土師器 | 壺 | 16.4 | - | (7.0) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | □12/36 | 胴部磨滅顯著 | C-220 |
| 45 | 381 | 7A2SD202(中)下層ブロック2 | 土師器 | 壺 | 18.0 | - | (7.1) | にぶい橙 黒 | にぶい橙、 黒 | a-4 S・M・L | 並 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | □7/36 | 磨滅顯著 | C-215 |
| 45 | 382 | 7A2SD202(中)下層ブロック2 | 土師器 | 壺 | 13.2 | - | (5.3) | にぶい黄 橙、黒 | にぶい黄 橙、黒 | a-3 S・M | 並 | ヨコナデ、ナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | □9/36 | 外面に黒斑 | C-221 |
| 45 | 383 | 7A2SD202(中)下層ブロック1 | 土師器 | 壺 | 14.6 | - | (4.4) | 透黄橙 | 透黄橙 | a-4 S・M | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ、ハケ | □11/36 | | C-240 |
| 45 | 384 | 7A2SD202(中)上・下層 | 土師器 | 壺 | 21.1 | - | (4.1) | 透黄橙 | 透黄橙 | b-6 M | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | □8/36 | 内面に透形文、外面に透形浮文(3本1単位、 4ヶ所か) | A-004 |
| 45 | 385 | 7A2SD202(中)下層 | 土師器 | 壺 | 25.8 | - | (3.4) | 灰黄 | 灰黄 | a-3 M・L | 並 | ハケのちミガキ | ヨコナデ、ハケ | □7/36 | 口縁部を透形文(7本1単位)、 本(剝離)で加飾。外面煤付着 | A-001 |
| 45 | 386 | 7A2SD202(中)下層ブロック2 | 土師器 | 壺 | 約17 | - | (5.9) | 褐灰 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 並 | ヨコナデ | ハケ後ミガキ | □8/36 | 透形浮文(15ヶ所か。竹筥文で加飾)貼付 け | C-218 |
| 46 | 387 | 7A2SD202(東)下層ブロック3 | 土師器 | 壺 | 18.4 | - | (10.4) | 黒 | にぶい黄橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ、ハケ後ミ ガキ | □12/36 | 388と同一個体 | C-185-1 |
| 46 | 388 | 7A2SD202(東)下層ブロック3 | 土師器 | 壺 | - | 5.4 | (9.4) | 黒 | にぶい黄橙 | a-4 M・L | 良 | ハケ | ハケ後ミガキ、ナデ | 底9/36 | 外面に黒斑。387と同一個体 | C-185-2 |
| 46 | 389 | 7A2SD202(中)下層ブロック2 | 土師器 | 壺 | 18.4 | - | (4.5) | にぶい黄橙、 黒 | にぶい黄橙、 黒 | a-4 S・M | 並 | ハケ、ヨコナデ | ヨコナデ後ミガキ | □6/36 | 外面に黒斑。内外面煤付着 | C-217 |
| 46 | 390 | 7A2SD202(中)下層 | 土師器 | 壺 | 17.0 | - | (5.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 M | 良 | ハケ後ミガキ、ナデ | ヨコナデ、ナデ | □3/36 | 内面煤付着 | C-610 |
| 46 | 391 | 7A2SD202(東)下層 | 土師器 | 壺 | 14.6 | - | (3.9) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 M | 良 | ミガキ | ハケ、ヨコナデ、ミガキ | □6/36 | | C-201 |

第27表 A区第2面出土土器観察表6

※ ()は残存法量を示す。

| 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器蓋 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 発掘 番号 |
|----------|----------------------|------|--------|------------|------------|------------|-------|-------|--------------|----|---------------|------------|------------------|---------------------------------------|----------|
| 46 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 壺 | 12.0 | - | (5.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ハケ | ヨコナデ、ミガキ | 口12/36 | | C-199 |
| 46 | 7A2SD202(東)下層ブロック2 | 弥生土器 | 細口壺 | - | - | (4.3) | 灰黄 | にぶい黄橙 | a-2 M | 良 | ナデ | ミガキ | 小片 | 外面赤彩。胴部最大径14.0cm。胴部貼り付け | C-604 |
| 46 | 7A2SD202(東)下層 | 弥生土器 | 小型壺 | - | 1.7 | (7.0) | 灰黄 | 灰黄 | b-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ミガキ | 底36/36 | 外面に一部黒斑 | C-188 |
| 46 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 台付壺 | - | 9.9 | (4.8) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-6 S・M・L | 良 | ナデ | ミガキ、ヨコナデ | 底27/36 | | C-204 |
| 46 | 7A2SD202(中)下層 | 土師器 | 小型壺 | - | - | (6.7) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 M | 良 | ナデカ | ミガキカ | - | | C-605 |
| 46 | 7A2SD202(東)下層ブロック2 | 弥生土器 | 高坏 | - | - | (6.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M・L | 良 | ハケ後ミガキ | ミガキ | - | | C-603 |
| 46 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 器台 | - | 15.2 | (2.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ナデ、ハケ後ナデ | ミガキ | 底5/36 | 外面赤彩。傾きに不安残す | C-692 |
| 46 | 7A2SD202(中)下層ブロック1 | 弥生土器 | 高坏 | - | 13.9 | (8.9) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-3 S・M | 良 | ナデ、ヨコナデ | ミガキ | 底15/36 | 内面にシボリ痕 | C-209 |
| 46 | 7A2SD202(東)下層ブロック1 | 弥生土器 | 高坏 | - | 16.0 | (12.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 M | 良 | ナデ、ハケ、ヨコナデ | ミガキ、ヨコナデ | 底9/36 | 透かし孔3ヶ所(孔径1.0cm)。脚部部帯状に灰化物。内面に煤付着(転用) | C-177 |
| 46 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | 13.0 | (9.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M・L | 良 | ナデ、ハケ後ナデ、ヨコナデ | ミガキ | 底13/36 | 透かし穴4ヶ所(孔径0.7cm) | C-193 |
| 46 | 7A2SD202下層ブロック3 | 弥生土器 | 高坏 | - | 13.0 | (8.3) | にぶい黄橙 | 明赤褐 | a-4 M・L | 良 | ナデ、ハケ | ミガキカ | 底36/36 | 透かし穴3ヶ所(孔径1.0cm) | C-180 |
| 46 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | 11.4 | (8.4) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | ナデ、ハケ後ナデ、ヨコナデ | ミガキ | 底1/36 | 外面赤彩 | C-195 |
| 46 | 7A2SD202(中)下層 | 土師器 | 高坏 | - | 15.7 | (6.9) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-6 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ミガキ、ヨコナデ | 底6/36 | 透かし孔1ヶ所(孔径不明)。内面全面煤付着(炭粥転用) | C-198 |
| 46 | 7A2SD202(東)下層ブロック1 | 土師器 | 高坏 | - | 11.1 | (7.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ナデ、ヨコナデ | ハケ、ナデ、ヨコナデ | 底5/36 | | C-176 |
| 46 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 器台 | - | - | (12.1) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-6 M | 良 | ミガキ、ナデ | ミガキ | - | | C-194 |
| 46 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 器台 | - | - | (8.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | ミガキ、ナデ、ヨコナデ | ミガキ | - | | C-192 |
| 46 | 7A2SD202(中)下層ブロック1 | 弥生土器 | 器台 | - | 9.6 | (5.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 底36/36 | 磨滅顯著 | C-208 |
| 46 | 7A2SD202(西)下層 | 土師器 | 器台 | - | 10.9 | (6.6) | 浅黄 | 浅黄 | a-3 S・M | 良 | ナデ、ハケ後ナデ | ミガキ | 底13/36 | 透かし孔3ヶ所(孔径0.9cm)。外面に黒斑 | C-222 |
| 46 | 7A2SD202(中)下層 | 土師器 | 器台 | - | 11.4 | (8.2) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 M | 良 | ミガキ、ナデ | ミガキ | 底19/36 | 透かし孔3ヶ所(孔径0.6cm)。内外面煤付 | C-182 |
| 46 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 鉢 | 18.5 | - | (6.2) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ミガキ | ミガキ | 口8/36 | 内外面赤彩。外面の赤彩は一部カ | C-241 |
| 46 | 7A2SD202(中)下層4 | 弥生土器 | 小型台付鉢 | 11.4 | 4.0 | 6.9 | 暗灰黄 | 暗灰黄 | a-3 M | 並 | ヨコナデ、ケズリ椀のミガキ | ヨコナデ、ナデ | 口9/36 | 酸化弱い | C-181 |
| 46 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 小型台付鉢 | - | - | (4.7) | 灰黄 | 灰黄 | b-6 M・L | 良 | ナデ | ナデ | - | | C-197 |
| 46 | 7A2SD202(中)下層ブロック2 | 土師器 | 手づくね土器 | 6.9 | 3.6 | 4.5 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・L | 良 | ハケ後ナデ | ナデ | 口21/36 底36/36 | | C-211 |
| 46 | 7A2SD202(東)下層ブロック2 | 土師器 | 手づくね土器 | 6.3 | 5.0 | 3.5 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 M・L | 良 | ナデ | ナデ | 口9/36 底18/36 | | C-725 |
| 46 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 有孔鉢 | 16.7 | 4.9 | 16.1 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 M | 良 | ハケ後ナデ | ハケ後ナデ、ナデ | 口1/36 | 外面より穿孔(孔径0.8cm)。内面に黒斑。外面部帯状に煤付着。 | A-002 |
| 46 | 7A2SD202(中)下層 | 弥生土器 | 有孔鉢 | - | - | (3.4) | にぶい黄橙 | 浅黄 | b-4 M | 並 | ナデ | ナデ | 底36/36 | 孔径0.8cm | C-691 |
| 46 | 7A2SD202(東)下層ブロック1 | 土師器 | 有孔鉢 | - | 4.4 | (6.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 M・L | 良 | 板状工具ナデ | タタキ後ナデ、ナデ | 底36/36 | 焼成前に内面から穿孔(孔径1.2~1.5cm。楕円形) | C-118 |
| 49 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂付近) | 縄文土器 | 鉢 | 約14カ | - | (4.5) | にぶい黄 | にぶい黄 | b-3 S・M | 良 | 条痕文 | 網代文 | 小片 | | D-353 |
| 49 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 壺 | - | - | (3.9) | 橙 | にぶい黄褐 | a-4 M・L | 良 | ナデ | ナデ、竹管文、刺突文 | 小片 | 沈線文系。外面一部煤付着。磨滅顯著 | C-299 |
| 49 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 甕 | 15.5 | - | (7.8) | 褐灰 | 褐灰 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口6/36 | 外面煤付着 | C-320 |

第28表 A区第2面出土土器観察表7

※ ()は残存法量を示す。

| 種別 番号 | 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 発掘 番号 |
|----------|----------|----------------------------|------|----|------------|------------|------------|-------|-------|--------------|----|-------------|---------|--------|---------------------------|----------|
| 49 | 443 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 甕 | 19.0 | - | (3.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-6 M | 並 | 磨減不明 | ヨコナデ、ハケ | □5/36 | 内面斜行短線文3列、外面刻み | A-050 |
| 49 | 444 | 7A2SD202 (東)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 甕 | 18.8 | - | (4.1) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 M・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | □4/36 | 口縁端部刻み。煤付着 | A-044 |
| 49 | 445 | 7A2SD202 (西)最下層 | 弥生土器 | 壺 | 15.8 | - | (5.1) | にぶい褐 | にぶい褐 | b-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ナデ | □4/36 | 外面煤付着 | C-756 |
| 49 | 446 | 7A2SD202 (中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 甕 | 約18 | - | (4.6) | にぶい橙 | 灰褐 | a-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □3/36 | 外面煤付着 | C-764 |
| 49 | 447 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 甕 | 16.8 | - | (5.0) | 浅黄橙 | にぶい橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ナデ | □9/36 | 外面煤付着。磨減目立つ | C-272 |
| 49 | 448 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 甕 | 16.4 | - | (7.7) | にぶい橙 | 淡黄 | b-3 M | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □7/36 | 磨減目立つ | C-251 |
| 49 | 449 | 7A2SD202 (中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 甕 | 16.8 | - | (6.3) | 明赤褐 | 明赤褐 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □8/36 | 外面煤付着 | C-321 |
| 49 | 450 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 甕 | 16.0 | - | (5.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □4/36 | 外面煤付着 | C-745 |
| 49 | 451 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 甕 | 約31 | - | (9.2) | にぶい黄橙 | 橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □6/36 | 縦凹線(10~11条1単位)。外面煤付着 | C-277 |
| 49 | 452 | 7A2SD202 (東)畔流れ3最下層 | 弥生土器 | 甕 | 30.4 | - | (6.6) | にぶい橙 | にぶい褐 | b-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ | □4/36 | 縦凹線(7条1単位)。口縁部内面ヨコレ、外面煤付着 | C-347 |
| 49 | 453 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 甕 | 20.6 | - | (4.4) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-7 M | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | □4/36 | 縦凹線(6条1単位)。外面煤付着。磨減目立つ | C-295 |
| 49 | 454 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 甕 | 15.4 | - | (5.1) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 M | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □7/36 | 縦凹線(6条1単位)。外面煤付着 | C-747 |
| 49 | 455 | 7A2SD202 (西)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 甕 | 14.8 | - | (6.8) | 橙 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □6/36 | 縦凹線(5条1単位)。頸部外面にハケ痕、外面煤付着 | C-354 |
| 49 | 456 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 甕 | 約23 | - | (5.7) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-5 M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ | □2/36 | 縦凹線(8条1単位) | C-252 |
| 49 | 457 | 7A2SD202 (東)畔流れ3最下層 | 弥生土器 | 甕 | 21.2 | - | (8.0) | 橙 | 橙 | b-4 S・M・L | 良 | ナデ、ハケ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □2/36 | 縦凹線(5条1単位)。頸部より上は異なる胎土 | C-349 |
| 49 | 458 | 7A2SD202 (中)最下層、(東)畔流れ3最下層 | 弥生土器 | 甕 | 21.8 | - | (8.7) | 灰 | 黄橙 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □12/36 | 縦凹線(7条1単位)。459と同一個体 | C-246-1 |
| 49 | 459 | 7A2SD202 (中)最下層、(東)畔流れ3最下層 | 弥生土器 | 甕 | - | 3.2 | (5.4) | 灰 | 黄橙 | b-4 M・L | 良 | ケズリ | ハケ、ナデ | 底36/36 | 底部外面は被熱で変色。458と同一個体 | C-246-2 |
| 49 | 460 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 甕 | 約20 | - | (5.3) | にぶい橙 | にぶい黄橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □5/36 | 縦凹線(9条1単位)。外面煤付着 | C-304 |
| 49 | 461 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 甕 | 18.8 | - | (10.8) | 橙 | 橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □3/36 | 縦凹線(8条1単位)。外面煤付着。磨減目立つ | C-292 |
| 49 | 462 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 甕 | 約23 | - | (4.1) | 灰白 | 灰白 | b-4 M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ | □1/36 | 内面指頭圧痕。縦凹線(6条1単位)。外面煤付着 | C-247 |
| 49 | 463 | 7A2SD202 (中)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 甕 | 19.2 | - | (6.1) | 黒灰 | 黒灰 | a-4 M・L | 並 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □8/36 | 縦凹線(9条1単位)。口縁部~頸部ゆがみ顕著 | C-658 |
| 49 | 464 | 7A2SD202 (東)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 甕 | 18.0 | - | (6.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □5/36 | 縦凹線(11条1単位)。内面ヨコレ、外面厚い煤付着 | C-236 |
| 49 | 465 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 甕 | 17.0 | - | (6.9) | 灰黄 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □4/36 | 縦凹線(7条1単位)。外面煤付着 | C-633 |
| 49 | 466 | 7A2SD202 (西)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 甕 | 15.2 | - | (6.3) | 浅黄 | にぶい黄橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □1/36 | 縦凹線(9条1単位)。外面煤付着 | C-717 |
| 49 | 467 | 7A2SD202 (中)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 甕 | 15.1 | - | (5.7) | にぶい黄橙 | 灰黄 | b-6 M・L | 並 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □3/36 | 縦凹線(6条1単位)。内面ヨコレ、外面煤付着 | C-657 |
| 49 | 468 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 甕 | 17.9 | - | (5.4) | 灰 | 黒 | a-3 M・L | 並 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □9/36 | 縦凹線(7条1単位)。外面に黒斑 | C-274 |
| 49 | 469 | 7A2SD202 (東)最下層6 | 弥生土器 | 甕 | 16.8 | - | (7.3) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | □32/36 | 縦凹線(7条1単位)。外面煤付着 | C-228 |
| 49 | 470 | 7A2SD202 (東)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 甕 | 16.8 | - | (5.6) | にぶい橙 | にぶい黄橙 | a-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ | □4/36 | 縦凹線(5条1単位)。外面に黒斑 | C-615 |
| 50 | 471 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 甕 | 約19 | - | (4.5) | にぶい黄橙 | 黒 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | □3/36 | 内面指頭痕。外面かすかに縦凹線。外面煤付着 | C-301 |
| 50 | 472 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 甕 | 17.7 | - | (7.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □3/36 | 縦凹線(7条1単位)。内面ヨコレ、外面煤付着 | C-653 |

第29表 A区第2面出土器観察表8

第3節 第2面の遺構と遺物

※ () は残存法量を示す。

| 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 測 定 番 号 |
|----------|----------------------------------|------|----|------------|------------|------------|-------------|-------|--------------|----|-------------|----------|--------|--------------------------|------------------|
| 50 473 | 7A2SD202 (西) 最下層5 | 弥生土器 | 甕 | 17.4 | - | (4.9) | 橙 | 橙、黒 | b-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ナデ | □7/36 | 擬凹線(12条1単位)。外面煤付着 | C-335 |
| 50 474 | 7A2SD202 (中) 最下層 | 弥生土器 | 甕 | 17.2 | - | (6.0) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-5 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □3/36 | 擬凹線(4条1単位)。外面煤付着。傾きに不安定す | C-770 |
| 50 475 | 7A2SD202 (中) 最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 甕 | 16.2 | - | (5.1) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ | □6/36 | 擬凹線(9条1単位)。外面に黒斑 | C-762 |
| 50 476 | 7A2SD202 (西) 最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 甕 | 15.6 | - | (5.9) | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ナデ | □4/36 | 擬凹線(7条1単位)。外面厚く煤付着 | C-722 |
| 50 477 | 7A2SD202 (東) 時流れ2最下層 | 弥生土器 | 甕 | 15.3 | - | (6.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | ヨコナデ、ハケ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □8/36 | 擬凹線(4条1単位)。外面煤付着 | C-348 |
| 50 478 | 7A2SD202 (中) 最下層 | 弥生土器 | 甕 | 15.6 | - | (4.5) | にぶい黄橙 | 黒 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □6/36 | 擬凹線(5条1単位)。外面煤付着 | C-281 |
| 50 479 | 7A2SD202 (東) 最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 甕 | 15.3 | - | (5.6) | にぶい橙～ 黄灰 | にぶい橙 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □13/36 | 擬凹線(7条1単位)。外面煤付着。吹きこぼれ痕 | C-235 |
| 50 480 | 7A2SD202 (東) 最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 甕 | 15.2 | - | (6.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 M | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □9/36 | 擬凹線(12条1単位)。内面一部ヨコナデ | C-234 |
| 50 481 | 7A2SD202 (中) 最下層 | 弥生土器 | 甕 | 14.6 | - | (5.4) | 灰黄褐 | 暗灰黄 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □7/36 | 擬凹線(5条1単位)乱れる。外面煤付着 | C-275 |
| 50 482 | 7A2SD202 (中) 下層ブロック2 最下層 | 弥生土器 | 甕 | 14.6 | - | (18.8) | 灰黄、黒 | 灰黄 | a-3 M | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □14/36 | 擬凹線(6条1単位)。内面ヨコナデ、外面煤付着 | C-189 |
| 50 483 | 7A2SD202 (東) 時流れ4最下層、 (中) 最下層 | 弥生土器 | 甕 | 14.2 | - | (14.4) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □26/36 | 擬凹線(12条1単位)。内面炭化物、外面煤付着 | C-276 |
| 50 484 | 7A2SD202 (中) 最下層 | 土師器 | 甕 | 16.4 | - | (6.5) | にぶい褐 | にぶい黄橙 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | □1/36 | 擬凹線(10条1単位)。内面コゲ、外面煤付着 | C-253 |
| 50 485 | 7A2SD202 (中) 最下層 | 土師器 | 甕 | 18.4 | - | (6.7) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □4/36 | 擬凹線は乱れる | C-290 |
| 50 486 | 7A2SD202 (中) 最下層 | 土師器 | 甕 | 約18 | - | (11.2) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □1/36 | 擬凹線、磨滅顯著 | C-250 |
| 50 487 | 7A2SD202 (中) 最下層 | 弥生土器 | 甕 | 約23 | - | (5.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □3/36 | 外面煤付着 | C-306 |
| 50 488 | 7A2SD202 (中) 最下層 | 弥生土器 | 甕 | 約20 | - | (7.8) | 橙 | 黒 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | □2/36 | 外面全面煤付着 | C-284 |
| 50 489 | 7A2SD202 (中) 最下層 | 弥生土器 | 甕 | 約19 | - | (5.3) | 灰黄 | 灰黄 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ナデ | □4/36 | ゆがみ顯著。外面薄く煤付着 | C-288 |
| 50 490 | 7A2SD202 (中) 最下層 | 弥生土器 | 甕 | 18.0 | - | (4.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | □5/36 | 赤色酸化粒多い | C-305 |
| 50 491 | 7A2SD202 (中) 最下層 | 弥生土器 | 甕 | 16.7 | - | (6.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | □5/36 | 外面煤付着 | C-648 |
| 50 492 | 7A2SD202 (中) 最下層 | 弥生土器 | 甕 | 15.2 | - | (7.1) | 黄灰 | 黄灰 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ、ナデか | ヨコナデ、ハケ | □4/36 | 外面煤付着 | C-647 |
| 50 493 | 7A2SD202 (中) 最下層 | 弥生土器 | 甕 | 16.8 | - | (4.7) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-6 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □4/36 | 外面煤付着 | C-761 |
| 50 494 | 7A2SD202 (中) 最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 甕 | 14.8 | - | (6.4) | 灰黄 | にぶい黄橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ナデか | □5/36 | 胴部に刺突文 | C-663 |
| 50 495 | 7A2SD202 (西) 最下層 | 弥生土器 | 甕 | 14.4 | - | (5.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 M | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ナデ | □6/36 | 外面煤付着 | C-760 |
| 50 496 | 7A2SD202 (中) 最下層 | 弥生土器 | 甕 | 14.1 | - | (3.7) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 並 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | □4/36 | 磨滅目立つ | C-768 |
| 50 497 | 7A2SD202 (西) 最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 甕 | 13.8 | - | (4.9) | にぶい黄橙 | 褐灰、黒 | b-2 M | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □1/36 | 外面煤付着 | C-723 |
| 50 498 | 7A2SD202 (中) 最下層 | 弥生土器 | 甕 | 14.8 | - | (5.0) | 褐灰 | 淡橙 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | □6/36 | 口縁部ゆがみ。赤色酸化粒多い | C-254 |
| 50 499 | 7A2SD202 (中) 最下層 | 弥生土器 | 甕 | 14.6 | - | (4.0) | 灰黄褐 | 灰黄 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □7/36 | | C-282 |
| 50 500 | 7A2SD202 (中) 最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 甕 | 17.0 | - | (5.4) | 灰黄 | 灰黄 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □13/36 | 口縁部ヨコナデ、外面煤付着 | C-734 |
| 50 501 | 7A2SD202 (中) 最下層 | 弥生土器 | 甕 | 20.6 | - | (5.5) | 橙 | 橙 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □6/36 | 指頭圧痕。磨滅目立つ | C-646 |
| 50 502 | 7A2SD202 (中) 最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 甕 | 16.6 | - | (5.9) | にぶい褐 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ | □6/36 | 外面煤付着 | C-674 |

第30表 A区第2面出土器観察表9

※ ()は残存法量を示す。

| 棟号 | 遺物番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 実測 番号 |
|----|------|---|------|----|------------|------------|------------|-------|-------|--------------|----|----------------|---------------|--------|-------------------------------|----------|
| 51 | 503 | 7A21SD202(中)最下層 | 土師器 | 甕 | 17.4 | - | (8.3) | 淡橙、褐灰 | 淡橙 | b-6 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | 口8/36 | 外面一部煤付着、摩滅目立つ | C-248 |
| 51 | 504 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 甕 | 16.8 | - | (13.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口13/36 | 外面煤付着 | C-311 |
| 51 | 505 | 7A2SD202(中)最下層 | 土師器 | 甕 | 18.5 | - | (5.3) | 灰白 | 灰白 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ | 口7/36 | 外面煤付着 | C-249 |
| 51 | 506 | 7A2SD202(中)最下層 | 土師器 | 甕 | 18.2 | - | (7.4) | 橙 | 黒 | a-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデか | 口9/36 | ゆがみ著しい。外面厚く煤付着 | C-283 |
| 51 | 507 | 7A2SD202(東)群流れ4最下層 | 土師器 | 甕 | 17.1 | - | (8.1) | 黒褐 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口3/36 | 外面煤付着 | C-352 |
| 51 | 508 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 甕 | 17.0 | - | (5.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ、ケズリ | ヨコナデ | 口3/36 | 外面煤付着 | C-676 |
| 51 | 509 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 甕 | 14.4 | - | (3.3) | 黒褐 | 黒褐 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | 口縁部内面指頭圧痕。外面煤付着 | C-673 |
| 51 | 510 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 甕 | 14.0 | - | (4.5) | 黄灰 | 黒褐 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口6/36 | 外面煤付着 | C-765 |
| 51 | 511 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 甕 | 16.6 | - | (7.4) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | ヨコナデ、ハケ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口11/36 | 口縁部ゆがみあり。外面煤付着 | C-314 |
| 51 | 512 | 7A2SD202(中)最下層 | 土師器 | 甕 | 15.9 | - | (4.6) | 黄灰 | 橙 | b-3 M・L | 並 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ナデ | 口5/36 | | C-627 |
| 51 | 513 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 甕 | 17.2 | - | (4.4) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | 口5/36 | 外面煤付着 | C-755 |
| 51 | 514 | 7A2SD202(中)最下層 | 土師器 | 甕 | 17.0 | - | (4.1) | 橙 | 橙 | a-4 M | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ | 口6/36 | 赤色酸化粒多い | C-291 |
| 51 | 515 | 7A2SD202(中)最下層 | 土師器 | 甕 | 15.4 | - | (4.6) | 淡黄、灰 | 淡黄 | b-3 M | 良 | ヨコナデ、ハケ後ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | | C-649 |
| 51 | 516 | 7A2SD202(中)下層~最下層(粗砂層) | 土師器 | 小甕 | 11.6 | - | (18.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ハケ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口27/36 | 口縁部ゆがみ大。内面コマ状の固形物起因の灰化痕。外面煤付着 | C-164 |
| 51 | 517 | 7A2SD202(中)最下層 | 土師器 | 小甕 | 13.6 | - | (4.6) | 灰黄 | 灰黄 | a-4 S・M | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | 内外面煤付着 | C-631 |
| 51 | 518 | 7A2SD202(中)最下層 | 土師器 | 小甕 | 12.0 | - | (5.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 M | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口7/36 | 倒位で乾燥か。外面煤付着 | C-651 |
| 51 | 519 | 7A2SD202(東)最下層(粗砂層) | 土師器 | 小甕 | 約12 | - | (2.7) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口4/36 | 内面ヨコシレ、外面煤付着 | C-616 |
| 51 | 520 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 小甕 | 13.6 | - | (6.5) | 橙 | 橙 | a-6 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口6/36 | 外面煤付着 | C-280 |
| 51 | 521 | 7A2SD202(西)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 甕 | 15.4 | - | (5.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ後ナデ | 口7/36 | 外面煤付着 | C-720 |
| 51 | 522 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 甕 | 15.8 | - | (5.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、タタキ | 口6/36 | 外面煤付着 | C-659 |
| 51 | 523 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 甕 | 15.6 | - | (6.8) | 灰黄 | 灰黄 | a-4 M | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | 外面煤付着 | C-279 |
| 51 | 524 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 甕 | 19.8 | - | (6.9) | 灰黄褐 | 灰黄褐 | a-3 S・M・L | 良 | 瓶状工具成形後ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、タタキ | 口9/36 | 口縁部内面に工具のアタリ痕。外面煤付着 | C-325 |
| 51 | 525 | 7A2SD202(西)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 甕 | 16.0 | - | (5.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ハケ後ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、タタキ | 口4/36 | 外面薄く煤付着 | C-344 |
| 51 | 526 | 7A2SD202(東)最下層(粗砂層) | 土師器 | 甕 | 15.2 | - | (5.1) | 橙 | にぶい黄橙 | b-4 M・L | 良 | ハケ後ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、タタキ | 口4/36 | 外面口縁部煤付着 | C-238 |
| 51 | 527 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 甕 | 14.7 | - | (5.1) | 灰黄 | 黒、灰黄 | a-2 M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口7/36 | 内外面煤付着 | C-672 |
| 51 | 528 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 甕 | 12.8 | - | (6.0) | 黄灰 | 明赤褐 | a-4 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、タタキ | 口4/36 | 内外面煤付着 | C-670 |
| 51 | 529 | 7A2SD202(中)最下層、(東)群流れ3最下層 | 土師器 | 甕 | - | 4.2 | (9.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ナデ、棒状工具ナデ | ハケ、タタキ | 底36/36 | 外面煤付着 | C-296 |
| 51 | 530 | 7A2SD202(東)下層?ロック2、群流れ3-4最下層、(中)下層、最下層(粗砂層) | 土師器 | 甕 | 34.6 | - | (25.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ後ナデ | ヨコナデ、ハケ後ナデ | 口7/36 | 外面煤付着 | C-219 |
| 52 | 531 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 甕 | - | 3.5 | (4.8) | 褐灰 | にぶい黄橙 | b-4 S・M・L | 良 | ハケ | タタキ、ナデ | 底36/36 | 内面一部煤付着 | C-775 |
| 52 | 532 | 7A2SD202(東)最下層(粗砂層) | 土師器 | 小甕 | 10.2 | - | (5.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 M | 良 | ハケ後ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、タタキ後一部ハケ | 口6/36 | 外面煤付着 | C-614 |

第31表 A区第2面出土土器観察表10

※ ()は残存法量を示す。

| 遺物番号 | 出土遺構 | 種類 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 測測番号 |
|------|---------------------------|------|---------|---------|---------|-------|-------|-----------|----|-----------------|-------------|-----------------|------------------------|-------|
| 52 | 533 7A2SD202 (中)最下層 | 土師器 | 約24 | - | (4.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M-L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ、ハケ | 口7/36 | 外面煤付着 | C-273 |
| 52 | 534 7A2SD202 (中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 19.6 | - | (4.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M-L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口6/36 | 内外面煤付着 | C-669 |
| 52 | 535 7A2SD202 (中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 16.4 | - | (4.2) | 灰黄 | 灰黄 | b-3 M | 良 | ハケ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口7/36 | 外面煤付着 | C-662 |
| 52 | 536 7A2SD202 (中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 20.6 | - | (13.7) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-3 S-M | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ナデ | 口4/36 | 内面ヨコシレ、外面煤付着 | C-326 |
| 52 | 537 7A2SD202 (西)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 16.2 | - | (3.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-6 M | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口6/36 | ゆがみあり。口縁部に黒斑 | C-764 |
| 52 | 538 7A2SD202 (中)最下層 | 土師器 | 15.2 | - | (9.1) | 灰 | 赤橙 | a-6 M-L | 良 | ハケ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口9/36 | 外面煤付着 | C-245 |
| 52 | 539 7A2SD202 (西)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 15.0 | - | (3.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | S-3 S-M-L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口7/36 | 口縁部に黒斑 | C-689 |
| 52 | 540 7A2SD202 (西)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 14.0 | - | (6.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S-M-L | 良 | ハケ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口6/36 | 内面粘土粗積み上げ痕残す | C-338 |
| 52 | 541 7A2SD202 (中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 14.4 | - | (2.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ | 口5/36 | 磨減目立つ | C-763 |
| 52 | 542 7A2SD202 (西)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 15.6 | - | (6.9) | 橙 | 黒 | b-3 M-L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | 外面煤付着 | C-716 |
| 52 | 543 7A2SD202 (中)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 14.6 | - | (6.2) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S-M-L | 良 | ハケ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口11/36 | 磨減目立つ | C-316 |
| 52 | 544 7A2SD202 (中)最下層 | 土師器 | 約14.5 | - | (5.0) | 浅黄橙 | 黒 | a-4 M-L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | 外面煤付着 | C-769 |
| 52 | 545 7A2SD202 (東)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 13.6 | - | (7.6) | 灰黄褐 | にぶい黄橙 | b-3 M-L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口4/36 | 外面煤付着 | C-613 |
| 52 | 546 7A2SD202 (西)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 12.4 | - | (8.6) | にぶい黄橙 | 黒褐 | a-4 M-L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | 胴部内面炭化物、外面煤付着 | C-719 |
| 52 | 547 7A2SD202 (東)最下層2 | 土師器 | 12.6 | - | (5.7) | 灰黄 | 灰黄 | a-3 S-M-L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口7/36 | 外面に黒斑 | C-239 |
| 52 | 548 7A2SD202 (中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 11.8 | - | (5.4) | 褐灰 | 褐 | b-4 S-L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ | 口13/36 | 外面煤付着。磨減目立つ | C-667 |
| 52 | 549 7A2SD202 (中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 11.2 | - | (7.4) | 黒 | 橙 | a-4 S-M-L | 良 | ヨコナデ、板状工具ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口7/36 | 磨減顕著 | C-322 |
| 52 | 550 7A2SD202 (中)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 10.6 | 2.8 | 14.8 | 黄灰 | にぶい黄橙 | a-3 S-M | 良 | ヨコナデ、ハケ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ、ケズリ | 口5/36 底30/36 | 内面炭化物、外面煤付着 | C-312 |
| 52 | 551 7A2SD202 (西)最下層 | 弥生土器 | 7.8 | - | (5.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-6 M-L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ナデ | 口6/36 | 外面煤付着 | C-759 |
| 52 | 552 7A2SD202 (西)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 9.8 | - | (5.5) | 浅黄 | 灰黄 | a-4 S-M | 並 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ナデ | 口4/36 | | C-724 |
| 52 | 553 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | - | 5.8 | (8.3) | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | b-4 M | 良 | 磨減不明 | ハケ | 底19/36 | 磨減顕著 | C-629 |
| 52 | 554 7A2SD202 (東)最下層2 | 土師器 | - | 4.2 | (10.8) | 黒 | にぶい黄橙 | S-3 S-M-L | 良 | ナデ | ナデ | 底33/36 | 外面煤付着 | C-226 |
| 52 | 555 7A2SD202 (東)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 約25 | - | (4.7) | 灰 | にぶい黄橙 | a-4 S-M-L | 良 | ハケ後ヨコナデ | ヨコナデ | 口4/36 | 受口状口縁。外面格子状刻み、口縁端部彩色文が | A-047 |
| 52 | 556 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | - | 8.0 | (6.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S-M | 良 | ハケ、ナデ | ハケ、ナデ | 底17/36 | 内底指頭部目立つ。外面煤付着 | C-302 |
| 52 | 557 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 15.0 | - | (9.5) | 灰黄 | 灰黄 | a-3 S-M | 良 | ヨコナデ、ハケ後ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ後ナデ | 口17/36 | | C-270 |
| 52 | 558 7A2SD202 (中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 15.5 | - | (9.8) | にぶい褐 | にぶい黄橙 | a-4 S-M-L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口1/36 | | C-328 |
| 52 | 559 7A2SD202 (中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 14.8 | - | (6.7) | 橙 | 橙 | b-4 M | 並 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口4/36 | 赤色酸化鉄多い | C-675 |
| 52 | 560 7A2SD202 (西)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 12.8 | - | (5.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-6 S-M | 良 | ヨコナデ、ハケ後ナデ | ヨコナデ、ハケ後ミガキ | 口5/36 | | C-721 |
| 52 | 561 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 10.8 | - | (8.9) | 褐灰 | 浅黄橙 | a-4 S-M | 良 | ハケ | ハケ | 口8/36 | 磨減目立つ。外面に黒斑 | C-630 |
| 52 | 562 7A2SD202 (西)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 17.4 | - | (6.5) | 灰黄 | 灰黄 | a-4 M | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ後ミガキ | 口12/36 | 外面赤彩 | C-300 |

第32表 A区第2面出土土器観察表11

※ ()は残存法量を示す。

| 種別 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 実測 番号 |
|----------|----------------------------|------|-------|------------|------------|------------|---------|----------|--------------|----|-------------------|-----------------|--------|------------------------------|----------------|
| 53 | 7A2SD202(東)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 長頸壺 | 13.2 | - | (10.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ後一部ナデ | □9/36 | | C-233 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 壺 | 12.9 | - | (5.5) | 褐灰 | 橙 | a-4 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ | □5/36 | 赤色酸化粒多い。外面に刺突文 | C-319 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 壺 | 10.7 | - | (5.4) | 浅黄橙 | にぶい橙 | a-4 M | 良 | 磨滅不明 | ヨコナデ、ミガキカ | □2/36 | 外面に黒斑 | C-752 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 壺 | 15.1 | - | (11.1) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-2 S・M | 良 | ヨコナデ、ハケ後ナデ | ヨコナデ、ハケ | □1/36 | 凹線文。外面に黒斑。外面に工具のアタリ痕 | C-645 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 直口壺 | 12.5 | - | (5.9) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 M・L | 並 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | □3/36 | | C-628 |
| 53 | 7A2SD202(西)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 短頸壺 | 13.2 | - | (6.5) | 橙 | 橙 | a-4 S・M・L | 良 | ミガキ、ナデ | ミガキ | □8/36 | 磨滅目立つ | C-339 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 短頸壺 | 13.4 | - | (4.5) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 M | 良 | ヨコナデ、ミガキ | ヨコナデ、ハケ | □4/36 | 赤色酸化粒多い | C-298 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 壺 | 15.2 | - | (7.7) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 M | 良 | ミガキ、ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ミガキ | □17/36 | | C-257 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 壺 | 17.7 | - | (15.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ハケ後ヨコナデ、ハケ、ケズリ、ナデ | ヨコナデ、ハケ後ミガキ | □1/36 | 内面粘土粗積み上げ痕残す | C-286 |
| 53 | 7A2SD202(西)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 広口壺 | 19.0 | - | (7.5) | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | □19/36 | 外面磨滅目立つ | C-341 |
| 53 | 7A2SD202(東)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 壺 | 約25 | - | (5.8) | 灰黄 | にぶい橙 | a-3 M | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | □2/36 | 外面煤付層 | C-612 |
| 53 | 7A2SD202(東)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 壺 | 21.2 | - | (5.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-5 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ後ミガキ | ヨコナデ、ハケ後ミガキ | □6/36 | 口縁部に黒斑。赤色酸化粒多い | C-617 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 壺 | 16.9 | - | (3.4) | 橙 | 橙 | b-4 S・M | 良 | ハケ後ヨコナデ | ヨコナデ、ナデ | □5/36 | | C-656 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 壺 | 約17 | - | (3.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 M | 並 | ヨコナデ、ミガキ | ヨコナデ | □3/36 | | C-751 |
| 53 | 7A2SD202(西)下層・最下層 | 弥生土器 | 壺 | 20.8 | - | (4.2) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-3 M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | □4/36 | 磨滅顕著 | C-620 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 壺 | 16.2 | - | (6.6) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 M・L | 良 | 磨滅不明 | ヨコナデ、ハケカ | □3/36 | 磨滅顕著 | C-749 |
| 53 | 7A2SD202(中)下層・最下層(粗砂層) | 土師器 | 二重口縁壺 | 21.1 | - | (8.0) | にぶい褐 | 黒褐 | b-4 S・M・L | 不良 | ハケ後ミガキ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ後ヨコナデ、ハケ | □4/36 | 円形浮文(竹管文で加飾)。頸部に突帯 | C-307 |
| 53 | 7A2SD202(西)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 二重口縁壺 | 17.0 | - | (8.7) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ハケ後ミガキ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | □11/36 | 頸部内面の接合部段差。内面黒斑。 | C-340 C-578 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層 | 土師器 | 二重口縁壺 | 16.2 | - | (3.3) | 暗灰 | にぶい黄橙 | b-3 S・M | 並 | ヨコナデ | ヨコナデ | □6/36 | | C-753 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 広口壺 | 18.6 | - | (6.3) | 灰黄 | 灰黄 | a-3 M・L | 並 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ナデ | □20/36 | 腰凹線(8条1単位)後に1対の棒状浮文(2本)1ヶ所残存 | C-196 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 広口壺 | 17.2 | - | (2.4) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | ミガキ | ヨコナデカ | □16/36 | 腰凹線(5条1単位)後に棒状浮文(3本1単位)貼付 | C-317 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層 | 土師器 | 広口壺 | 18.3 | - | (5.8) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-4 S・M | 良 | ミガキカ、ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ | □5/36 | 頸部に突帯。磨滅顕著 | C-287 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 広口壺 | 13.2 | - | (4.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 並 | ミガキ、ヨコナデカ | 磨滅不明 | □9/36 | 棒状浮文3ヶ所(1ヶ所剥離)。磨滅顕著 | C-313 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層 | 土師器 | 広口壺 | 13.0 | - | (4.4) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | ミガキカ | ヨコナデ、ハケ | □4/36 | 棒状浮文3ヶ所残存。外面に黒斑。磨滅目立つ | C-654 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層 | 土師器 | 壺 | 13.2 | - | (5.2) | 浅黄 | 浅黄 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ナデ | □7/36 | 破片化後煤付層 | C-285 |
| 53 | 7A2SD202(西)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 壺 | 12.4 | - | (5.6) | 灰黄 | 灰黄 | a-4 M・L | 並 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ後ミガキ | □9/36 | | C-718 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 壺 | 11.1 | - | (6.3) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-2 S | 良 | ミガキ、ナデ | ミガキ | □8/36 | 磨滅目立つ | C-331 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 壺 | 10.2 | - | (5.7) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ハケ、ヨコナデ | 10/36 | | C-318 |
| 53 | 7A2SD202(西)最下層5 | 土師器 | 壺 | 10.1 | - | (20.3) | にぶい黄橙、黒 | にぶい黄橙、褐灰 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □33/36 | 外面に黒斑、煤付層 | C-333 |
| 53 | 7A2SD202(中)最下層、(西)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 小型壺 | 13.0 | - | (5.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ミガキ | □19/36 | 口縁部に黒斑 | C-243 |

第33表 A区第2面出土器観察表12

第3節 第2面の遺構と遺物

※ ()は残存法量を示す。

| 遺物番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 発掘番号 |
|------|------------------------------------|-------|---------|---------|---------|---------|--------|-------|-----------|----|------------|------------|--------|------------------------------|-------|
| 53 | 7A2SD202 (西)最下層 | 弥生土器 | 壺 | 12.0 | - | (4.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ミガキ、ナデ、ケズリ | ミガキ、ヨコナデ | 口5/36 | 両面赤彩 | C-690 |
| 53 | 7A2SD202 (中)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 壺 | 10.1 | - | (6.1) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M | 良 | ミガキ、ナデ | ミガキ | 口4/36 | 磨滅目立つ | C-750 |
| 54 | 7A2SD202 (中)最下層(東)下層(2) | 土師器 | 壺 | 15.7 | - | (7.1) | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ナデ | 口14/36 | 内外面黒點著に付着 | C-202 |
| 54 | 7A2SD202 (中)下層ブロック・(西)最下層(粗砂層) | 土師器 | 壺 | 13.8 | - | (10.6) | 淺黄 | 淺黄 | a-3 S・M | 並 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ後ナデ | 口13/36 | 外面かすかに赤彩痕 | C-213 |
| 54 | 7A2SD202 (中)最下層 | 土師器 | 壺か | 12.8 | - | (3.7) | 灰黄 | 灰黄 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ハケ後ナデ | ハケ後ヨコナデ | 口7/36 | 磨滅顯著 | C-743 |
| 54 | 7A2SD202 (中)最下層 | 土師器 | 壺 | - | - | (10.7) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | - | 磨滅顯著 | C-269 |
| 54 | 7A2SD202 (中)最下層 | 土師器 | 壺 | - | - | (2.2) | 灰 | にぶい黄橙 | b-4 M | 並 | ミガキ、ハケ後ナデ | ミガキ | - | 接合部で剥離 | C-771 |
| 54 | 7A2SD202 (西)最下層5 | 弥生土器か | 壺 | - | - | (13.1) | 灰黄 | 淺黄橙 | b-4 M・L | 良 | ハケ、ナデ | ハケ後ミガキ | - | 内面指節圧痕目立つ。外面煤付着・黒斑 | C-394 |
| 54 | 7A2SD202 (中)最下層、(東)下層ブロック・最上層(粗砂層) | 土師器 | 壺 | - | 7.7 | (23.3) | 灰黄褐 | 灰黄褐 | a-3 S・M | 良 | ハケ後一部ナデ | ハケ、ナデ | 底36/36 | 胴部最大径約44cm。外面に黒斑。外面一部煤付着 | C-726 |
| 54 | 7A2SD202 (中)最下層 | 土師器 | 壺 | - | 7.0 | (6.2) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | ナデ | ハケ、ナデ、ケズリ | 底36/36 | 外面に黒斑 | C-303 |
| 54 | 7A2SD202 (東)時流れ4最下層 | 土師器 | 壺 | - | 6.3 | (21.3) | 黒 | にぶい褐 | b-3 S・M | 並 | ハケ | ハケ後粗いミガキ | 底36/36 | 外面に黒斑 | C-012 |
| 54 | 7A2SD202 (東)時流れ4最下層 | 土師器 | 壺 | - | 4.8 | (13.2) | 黒 | 黄灰 | a-3 S・M・L | 良 | ナデ、ハケ | ミガキ | 底36/36 | 外面に黒斑 | C-351 |
| 54 | 7A2SD202 (中)最下層 | 土師器 | 壺 | - | 6.7 | (3.1) | 暗灰 | にぶい橙 | a-4 M・L | 良 | ハケ | ハケ後ナデ、ナデ | 底36/36 | 外底輪状・中央がくぼむ | C-742 |
| 54 | 7A2SD202 (中)最下層(粗砂付近) | 土師器か鉢 | 壺または鉢 | - | 5.3 | (4.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・L | 良 | ミガキ | ハケ後ミガキ、ナデ | 底36/36 | 底部台状 | C-661 |
| 54 | 7A2SD202 (西)下層・最下層 | 土師器 | 壺 | - | 4.3 | (3.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ハケ後ナデ | ハケ、ナデ | 底36/36 | 底部台状。外面煤付着。磨滅顯著 | C-619 |
| 54 | 7A2SD202 (中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 壺 | - | 3.2 | (1.9) | 灰黄 | 灰黄 | b-4 S・M | 良 | ハケ後ナデ | ミガキ、ナデ | 底36/36 | 外面赤彩 | C-666 |
| 54 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 細頸壺 | 8.9 | - | (14.1) | にぶい橙、灰 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口8/36 | 外面赤彩(内面磨滅不明)。胴部中に突起帯、3本の條状浮文 | C-289 |
| 54 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 細頸壺 | 9.2 | - | (8.2) | にぶい黄 | にぶい黄橙 | a-4 M | 良 | ハケ | ミガキ | 口4/36 | 傾きに不安定す | C-278 |
| 54 | 7A2SD202 (東)最下層 | 弥生土器 | 細頸壺 | - | - | (8.6) | 黒褐 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ミガキ | 底36/36 | 外面赤彩 | C-230 |
| 54 | 7A2SD202 (中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 台付細頸壺 | - | 8.4 | (14.0) | 淺黄 | 淺黄 | a-3 S・M | 良 | ナデ、ヨコナデ | ハケ後ミガキ | 底6/36 | 外面赤彩 | C-256 |
| 54 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 無頸壺 | 8.6 | - | (4.4) | にぶい橙 | 橙 | b-4 M | 良 | ナデ、ケズリ | ナデ、ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | 外面煤付着 | C-632 |
| 54 | 7A2SD202 (中)最下層 | 土師器 | 壺台部か | - | 13.8 | (3.1) | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | a-4 M・L | 良 | ナデ、ヨコナデ | ミガキか、ヨコナデ | 底7/36 | 胴部肥厚 | C-748 |
| 54 | 7A2SD202 (中)最下層 | 土師器 | 壺脚部か | - | 10.5 | (6.2) | にぶい黄橙 | 淺黄 | a-4 M | 良 | ナデ、ヨコナデ | ミガキ、ヨコナデ | 底36/36 | 内面に粘土粗積み上げ痕。黒斑 | C-261 |
| 55 | 7A2SD202 (東)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 高坏 | 14.3 | - | (5.5) | にぶい褐 | にぶい褐 | a-4 S・M | 良 | ミガキ | ミガキ | 口7/36 | ゆがみあり | C-618 |
| 55 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 高坏 | 約25 | - | (4.9) | 淺黄 | 淺黄 | a-4 S・M | 良 | ミガキ | ミガキ | 口1/36 | 口縁部外面に黒斑 | C-636 |
| 55 | 7A2SD202 (中)最下層、(西)下層・最下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | 18.2 | (16.8) | 淺黄橙 | 淺黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ナデ、ヨコナデ | ミガキ | 底6/36 | 外面磨滅目立つ | C-640 |
| 55 | 7A2SD202 (中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 高坏または器台 | - | 13.0 | (3.2) | 灰 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | 磨滅不明 | ミガキ | 底4/36 | 外面に刻み。内面煤付着 | C-685 |
| 55 | 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | 19.0 | (2.6) | 淺黄 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 並 | ヨコナデ | ミガキ | 底9/36 | 透かし孔数不明 | C-266 |
| 55 | 7A2SD202 (中)下層・最下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | 18.0 | (3.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 S・M | 良 | ヨコナデ | ミガキ | 底17/36 | | C-263 |
| 55 | 7A2SD202 (東)時流れ4最下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | 18.0 | (2.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | ナデ、ヨコナデ | ミガキ、ヨコナデ | 底5/36 | | C-353 |

第34表 A区第2面出土土器観察表13

※ ()は残存法量を示す。

| 挿入 番号 | 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 実測 番号 |
|----------|----------|-------------------------------|------|-----|------------|------------|------------|-------|-------|--------------|----|-------------|-------------|----------------|----------------------------------|----------|
| 55 | 623 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | - | (3.7) | 暗灰黄 | にぶい黄橙 | a-3 S | 良 | ヨコナデ | ミガキ | 底8/36 | 透かし孔6ヶ所(孔径0.8cm)。内面煤・炭化物付着 | C-634 |
| 55 | 624 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 高坏 | 26.8 | - | (6.7) | にぶい黄褐 | 灰黄 | a-4 M | 良 | ミガキ | ミガキ | 小片 | 磨滅顕著 | C-682 |
| 55 | 625 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 高坏 | 22.6 | - | (7.5) | 橙 | 橙 | a-4 M・L | 良 | ミガキ | ミガキ | 口1/36 | | C-258 |
| 55 | 626 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 高坏 | 22.6 | - | (6.7) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 M | 良 | ミガキ | ハケ後ミガキ | 口5/36 | | C-644 |
| 55 | 627 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 高坏 | 23.5 | - | (5.9) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M | 良 | ミガキ | ミガキ | 口13/36 | 外面煤付着。磨滅目立つ | C-323 |
| 55 | 628 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | - | (6.0) | 明黄褐 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | ミガキ | ミガキ | - | | C-635 |
| 55 | 629 | 7A2SD202(西)最下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | - | (5.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ミガキ | ハケ後ミガキ | 口3/36 | | C-687 |
| 55 | 630 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | - | (6.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-2 S | 良 | ミガキ | ミガキ | - | | C-637 |
| 55 | 631 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | - | (4.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | ミガキ | ミガキ | - | | C-638 |
| 55 | 632 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | 15.7 | (11.2) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ナデ、ヨコナデ | ハケ後ミガキ | 底8/36 | 透かし孔4ヶ所(孔径0.7cm)。内面シボリ | C-267 |
| 55 | 633 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | 11.8 | (約10) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-1 S・M | 良 | ミガキ、ナデ | ヨコナデ、ハケ後ミガキ | 底12/36 | 坏部内面磨熱痕。胴部外面炭化物付着 | C-642 |
| 55 | 634 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | - | (9.4) | 浅黄 | 浅黄 | a-3 M・L | 良 | ナデ、ハケ | ミガキ | - | 透かし孔3ヶ所(孔径約1cm)。内面シボリ | C-773 |
| 55 | 635 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | - | (8.6) | 橙 | 橙 | a-4 S・M | 良 | ミガキ、ナデ、ヨコナデ | ミガキ | 底36/36 | | C-643 |
| 55 | 636 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | - | (7.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M・L | 良 | ナデ | ミガキ | - | 透かし孔3ヶ所(孔径0.7cm) | C-774 |
| 55 | 637 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 高坏か | - | - | (8.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-2 S | 良 | ナデ | ミガキ | - | 外面赤彩 | C-739 |
| 55 | 638 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | 13.7 | (8.7) | 黄灰 | にぶい黄橙 | a-2 | 良 | ナデ、ハケ | ハケ後ミガキ | 底8/36 | 磨滅、剥離目立つ | C-178 |
| 55 | 639 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | 12.4 | (6.7) | 黒褐 | にぶい黄橙 | a-3 S | 良 | ハケ | ハケ後ミガキ、ヨコナデ | 底7/36 | 破片化後磨熱・煤付着 | C-293 |
| 55 | 640 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 高坏 | - | 10.6 | (6.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M | 良 | ナデ、ヨコナデ | ハケ後ミガキ、ヨコナデ | 底4/36 | 内面しぼり痕 | C-265 |
| 55 | 641 | 7A2SD202最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 高坏 | - | 10.3 | (7.7) | にぶい橙 | 浅黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ナデか | ミガキ、ヨコナデ | 底9/36 | 透かし穴4ヶ所(孔径0.8cm)。磨滅目立つ | C-231 |
| 55 | 642 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 高坏 | - | 16.2 | (4.9) | にぶい橙 | 橙 | a-4 M・L | 良 | ハケ、ヨコナデ | ミガキ、ヨコナデ | 底10/36 | 透かし孔数不明。磨滅あり | C-681 |
| 55 | 643 | 7A2SD202流れ4最下層、(中)下層・最下層(粗砂層) | 土師器 | 高坏 | 17.0 | 9.2 | 6.6 | にぶい橙 | にぶい黄橙 | a-2 S・M | 良 | ミガキ | ミガキ | 口4/36 底6/36 | 内面ヨコシ付着 | C-260 |
| 55 | 644 | 7A2SD202(中)最下層 | 土師器 | 高坏 | - | 13.6 | (8.7) | 橙 | 橙 | a-4 M | 良 | 磨滅不明 | 磨滅顕著 | 底34/36 | | C-262 |
| 55 | 645 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 高坏 | 15.9 | - | (5.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 M・L | 良 | ナデか | ハケ後ミガキ | 口4/36 | 内面粘土結核み上げ痕残す | C-684 |
| 55 | 646 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 壺 | 18.0 | - | (3.3) | 灰黄 | 黒 | b-3 S・M | 良 | ヨコナデ | ミガキ、ヨコナデ | 口5/36 | 外面煤付着 | C-671 |
| 55 | 647 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 高坏 | - | 8.0 | (5.1) | にぶい黄 | にぶい黄 | a-3 S・M | 良 | ハケ | ミガキ | 底24/36 | 透かし孔3ヶ所(孔径0.8cm) | C-308 |
| 55 | 648 | 7A2SD202(東)最下層(粗砂層) | 土師器 | 高坏 | - | - | (5.5) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 M・L | 良 | ミガキ、ナデ | ミガキ | - | 透かし穴4ヶ所 | C-611 |
| 55 | 649 | 7A2SD202(東)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 高坏 | - | - | (2.3) | - | にぶい黄橙 | b-3 M | 良 | ハケ、ヨコナデ | ハケ後ナデ | - | 坏部接合のため、板状工具で起伏つける。外面に黒斑 | C-232 |
| 56 | 650 | 7A2SD202(中)最下層 | 土師器 | 高坏か | - | 12.2 | (7.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ナデ、ハケ | ハケ後ミガキ、ナデ | 底6/36 | 透かし孔数不明(孔径0.8cm)。内面煤付着 | C-641 |
| 56 | 651 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 器台 | 約25 | - | (3.1) | 橙 | にぶい褐 | a-4 M | 良 | ミガキ | ミガキ | 口4/36 | 口縁部に黒凹線(5-6条1単位)。破片化後煤付着 | C-259 |
| 56 | 652 | 7A2SD202(西)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 器台 | 21.0 | - | (4.1) | にぶい赤褐 | 褐 | b-4 S・L | 良 | ミガキ | ミガキ | 口9/36 | 向面赤彩。口縁部に黒凹線(7条1単位)。内底炭化物付着(蓋監用) | C-346 |

第35表 A区第2面出土土器観察表14

※ ()は残存法量を示す。

| 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 発掘 番号 |
|----------|---|------|-------|------------|------------|------------|-------|-------|--------------|----|--------------|-------------|------------------|---------------------------------|----------|
| 56 | 653 7A2SD202 (西)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 器台 | - | 20.4 | (4.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ナデ | ヨコナデ、ハケ | □4/36 | 裾端部安帯が剥離 | C-688 |
| 56 | 654 7A2SD202 (西)最下層 | 弥生土器 | 器台 | - | - | (8.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 M | 良 | ミガキ | ミガキ | - | 磨滅目立つ | C-758 |
| 56 | 655 7A2SD202 (西)最下層 | 弥生土器 | 器台 | - | 12.8 | (9.6) | にぶい黄 | にぶい黄 | a-3 S・M | 並 | ハケ後ミガキ、ヨコナデ | ハケ後ミガキ、ヨコナデ | 底26/36 | 透かし孔1ヶ所(孔径0.4cm)。外面磨滅目立つ | C-337 |
| 56 | 656 7A2SD202 (東)最下層3 | 土師器 | 器台 | - | 12.8 | (8.1) | にぶい黄 | にぶい黄 | a-3 S・M | 良 | ナデ | ハケ後ミガキ | 底34/36 | 透かし孔3ヶ所(孔径0.9cm) | C-227 |
| 56 | 657 7A2SD202 (中)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 器台 | - | 13.4 | (3.0) | 橙 | 橙 | a-4 M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 底11/36 | 透かし孔3ヶ所か。黒斑あり | C-660 |
| 56 | 658 7A2SD202 (中)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 器台 | 11.6 | - | (7.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | 坏部磨滅、脚部ケズリ | ハケ後ミガキ | □30/36 | 透かし孔3ヶ所(孔径約0.9cm) | C-329 |
| 56 | 659 7A2SD202 (中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 器台 | - | 11.0 | (5.0) | 黒褐 | 黄灰 | a-4 S・M・L | 良 | 柄状工具ナデ | ハケ後ナデ | 底9/36 | 透かし孔数不明。外面煤付着 | C-664 |
| 56 | 660 7A2SD202 (中)最下層 | 土師器 | 器台 | - | 11.8 | (6.4) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-3 S・M・L | 良 | ナデ、ハケ後ナデ | ミガキ | 底10/36 | 外面磨滅目立つ | C-294 |
| 56 | 661 7A2SD202 (西)最下層 | 土師器 | 器台 | 8.5 | 12.0 | 8.5 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ハケ後ミガキ、ハケ | ヨコナデ、ハケ後ミガキ | □36/36 底4/36 | 内外面赤彩。漆油状透かし孔(復元で大14ヶ所。その間に小2段) | C-336 |
| 56 | 662 7A2SD202 (東)最下層 | 土師器 | 器台 | 20.8 | - | (7.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-2 S・M | 良 | ヨコナデ、ミガキ | ヨコナデ、ミガキ | □2/36 | 外面に波状文(7案1単位)。磨滅目立つ | A-003 |
| 56 | 663 7A2SD202 (中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 器台脚部か | - | 17.0 | (5.2) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 M | 良 | ハケ | ヨコナデ、ミガキ | 底5/36 | 外面磨滅目立つ | C-683 |
| 56 | 664 7A2SD202 (中)最下層 | 土師器 | 器台か | - | 7.1 | (4.8) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | 底13/36 | 内外面赤彩。漆油状透かし孔(復元で大14ヶ所。その間に小2段) | C-639 |
| 56 | 665 7A2SD202 (東)上層7ロウク3最下層(粗砂層)・中層7A1SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 裝飾器台 | 17.5 | - | (11.5) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-2 S | 良 | ヨコナデ、ミガキ | ヨコナデ、ミガキ | □8/36 | 内外面赤彩。漆油状透かし孔(復元で大14ヶ所。その間に小2段) | C-186 |
| 56 | 666 7A2SD202 (西)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 裝飾器台 | 17.8 | - | (8.5) | 橙 | 橙 | a-4 M | 良 | ヨコナデ、ミガキ | ヨコナデ、ミガキ | □8/36 | 内外面赤彩か。外面に沈線3案、刻み1案、漆油状透かし孔16ヶ所 | C-342-1 |
| 56 | 667 7A2SD202 (西)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 裝飾器台 | - | 11.3 | (3.5) | 橙 | 橙 | a-4 M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ミガキ、ヨコナデ | 底28/36 | 沈線2案。666と同一個体か。 | C-342-2 |
| 56 | 668 7A2SD202 (東)畔流れ4最下層 | 弥生土器 | 裝飾器台 | - | - | (3.2) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S | 良 | ミガキ | ナデ | - | S字状スタンプ文2列。湧巻中心を穿孔 | D-222 |
| 56 | 669 7A2SD202 (西)最下層 | 弥生土器 | 鉢 | 16.4 | - | (9.7) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | ミガキ | ハケ後ミガキ | □5/36 | 外面に黒斑 | C-686 |
| 56 | 670 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 脚付鉢 | - | - | (4.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 M | 良 | ミガキ、ナデ | ハケ後ミガキ、ナデ | - | 脚部粘土細割剥離。外面薄く煤付着 | C-744 |
| 56 | 671 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 鉢 | - | - | (5.6) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | ナデ | ナデ | - | 赤色酸化粒多い | C-255 |
| 56 | 672 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 鉢 | 20.9 | - | (5.4) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ハケ後ミガキ | ミガキ | □5/36 | 外面に黒斑 | C-715 |
| 56 | 673 7A2SD202 東畔流れ4最下層 | 弥生土器 | 鉢 | 17.0 | - | (5.3) | 橙 | にぶい橙 | b-2 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ミガキ | ヨコナデ、ミガキ | □5/36 | 外面に黒斑 | C-677 |
| 56 | 674 7A2SD202 (中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 鉢 | 19.7 | - | (5.1) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 M・L | 並 | ミガキ | 磨滅不明 | □3/36 | 磨滅目立つ | C-714 |
| 56 | 675 7A2SD202 東畔流れ4最下層 | 弥生土器 | 鉢 | 16.8 | - | (5.0) | 橙 | 橙 | b-4 S・M | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | □6/36 | 磨滅顕著 | C-324 |
| 56 | 676 7A2SD202 (中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 鉢 | 17.3 | 2.3 | 6.9 | 橙 | 橙 | a-4 S・M・L | 良 | ミガキ | ヨコナデ、ミガキ | □5/36 | 外面磨滅。一部煤付着 | C-264 |
| 56 | 677 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 鉢 | 18.2 | - | (8.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ハケ後ミガキ | ハケ後ミガキ | □2/36 | 外面に黒斑 | C-680 |
| 56 | 678 7A2SD202 (中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 鉢 | 18.8 | - | (6.0) | 橙 | 橙 | b-4 M・L | 良 | ハケ後ミガキ | ハケ後ミガキ | □4/36 | 磨滅目立つ | C-772 |
| 56 | 679 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 鉢 | 14.8 | - | (5.4) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M | 良 | ミガキ | ミガキ | □5/36 | 破片化後、内外面煤付着 | C-746 |
| 56 | 680 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 小型鉢 | 9.2 | - | (6.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M | 良 | ヨコナデ後ミガキ、ケズリ | ヨコナデ、ナデ | □6/36 | 口縁部外面煤付着 | C-297 |
| 56 | 681 7A2SD202 (中)最下層 | 弥生土器 | 小型鉢 | 11.8 | - | (5.8) | 橙 | 橙 | a-4 S | 良 | ミガキ | ミガキ | □6/36 | 内底に板状工具痕あり。外面磨滅目立つ | C-343 |
| 56 | 682 7A2SD202 (西)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 小型鉢 | 11.2 | 3.4 | 5.5 | にぶい褐 | にぶい褐 | a-2 | 並 | ヨコナデ、ナデ | ナデ | □20/36 底36/36 | | |

第36表 A区第2面出土土器観察表15

※ ()は残存法量を示す。

| 神図 番号 | 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 備考 | 遺存率 | 実測 番号 |
|----------|----------|----------------------|------|-----------------|------------|-------------|------------|------------|--------------|--------------|----|-----------|------------|-----------------------------|------------------|----------|
| 56 | 683 | 7A2SD202(東)最下層 | 土師器 | 小型鉢 | 9.2 | - | (5.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ナデ | | 7/36 | C-713 |
| 56 | 684 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 小型鉢 | 11.5 | - | (5.5) | 浅黄 | 灰黄 | a-4 M | 良 | ハケ後ミガキ | ヨコナデ、ミガキ | 外面に黒斑 | □7/36 | C-665 |
| 56 | 685 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 小型鉢 | 8.7 | 2.1 | 5.0 | 黄灰 | にぶい黄橙 | a-4 M・L | 並 | ミガキ | ミガキ、ナデ | 外面に一部黒斑 | □8/36 底36/36 | C-271 |
| 57 | 686 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 有孔鉢 | - | 2.7 | (6.0) | 灰黄 | 灰黄 | a-4 S・M | 良 | ケズリ | ハケか | 底部穿孔1ヶ所(孔径0.6cm) | 底36/36 | C-652 |
| 57 | 687 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 有孔鉢 | - | 2.2 | (4.7) | 灰 | 黄灰 | a-3 M・L | 良 | ナデ | 磨滅不明 | 焼成前に底部を内面から斜め方向に穿孔(孔径0.5cm) | 底36/36 | C-650 |
| 57 | 688 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 有孔鉢 | - | 1.1 | (4.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 ～黄褐 | a-4 S・M・L | 良 | ナデ | ハケ後ナデ | 底部穿孔1ヶ所(孔径0.8cm)、外底に黒斑 | 底36/36 | C-679 |
| 57 | 689 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 土師器 | 有孔壺か | - | 6.8 | (3.0) | 灰黄 | 灰黄 | a-4 S・M・L | 並 | ナデ | ナデ、タタキ | 底部穿孔1ヶ所(孔径0.9cm)、内面磨滅、外面に黒斑 | 底36/36 | C-678 |
| 57 | 690 | 7A2SD202(東)最下層4 | 弥生土器 | 蓋 | 14.9 | つまみ径 3.6 | 4.9 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ミガキ | ミガキ | | □13/36 | C-229 |
| 57 | 691 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 蓋 | - | つまみ径 3.8 | (4.8) | 黄灰 | にぶい橙 | a-3 S・M | 良 | ナデ | ナデ、ミガキ | 内面にヨコレ付着 | つまみ 33/36 | C-315 |
| 57 | 692 | 7A2SD202(西)最下層 | 弥生土器 | 蓋 | - | つまみ径 2.7 | (2.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | ヨコナデ、ミガキ | 外面に黒斑 | つまみ 33/36 | C-757 |
| 57 | 693 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 蓋 | - | つまみ径 1.2 | (2.5) | 黒褐 | 褐灰 | a-3 S・M | 良 | ナデ | ミガキ | 破片化後煤付着 | つまみ 33/36 | C-332 |
| 57 | 694 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 蓋 | 6.8 | つまみ径 2.4 | 3.0 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | ミガキ | ミガキ | | □11/36 | C-668 |
| 57 | 695 | 7A2SD202(東)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 土鉢 | 長さ 4.4 | 径 0.8 | 孔径 0.7 | - | にぶい黄橙 | b-3 S | 良 | - | ナデ | | 完形 | C-237 |
| 57 | 696 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 弥生土器 | 土鉢 | 長さ 2.8 | 径 3.17 | 孔径 0.7 | - | にぶい黄橙 | b-3 S | 良 | - | ナデ | | 完形 | C-327 |
| 57 | 697 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 土鉢 | 長さ 3.9 | 径 3.1 | 孔径 0.6 | - | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | - | ナデ | | 完形 | C-310 |
| 57 | 698 | 7A2SD202(西)最下層(粗砂付近) | 弥生土器 | 土鉢 | 長さ 2.9 | 径 1.2 | 孔径 0.8 | - | にぶい黄橙 | b-3 S | 良 | - | ナデ | | - | C-345 |
| 57 | 699 | 7A2SD202(中)最下層 | 弥生土器 | 土製 初釜車 土器 | 高さ 2.1 | 径 3.9 | 孔径 0.6 | - | 灰黄 | a-3 | 良 | - | ナデ | | 完形 | C-309 |
| 57 | 700 | 7A2SD202(中)最下層 | 土師器 | てづくね 土器 | 6.0 | 5.5 | 8.4 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-2 S・L | 良 | ナデ | ナデ | | □11/36 底36/36 | C-244 |
| 57 | 711 | 7A2SD202(中)ブロック2 | 弥生土器 | 甕 | 18.9 | - | (5.8) | 灰 | 橙 | b-3 M | 並 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | 縦凹線(5条1単位)、外面磨滅目立つ | □2/36 | C-145 |
| 57 | 712 | 7A2SD202(中)ブロック2 | 弥生土器 | 甕 | 18.6 | - | (7.3) | 橙 | にぶい橙 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 縦凹線(7条1単位)、外面煤付着 | □2/36 | C-144 |
| 57 | 713 | 7A2SD202(西)たちわり北 | 弥生土器 | 甕 | 17.3 | - | (4.5) | 橙 | 橙 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | 縦凹線4条 | □4/36 | C-126 |
| 57 | 714 | 7A2SD202(中)ブロック2 | 弥生土器 | 甕 | 16.7 | - | (5.4) | 橙 | 橙 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | 縦凹線(7条1単位)、外面煤付着 | □8/36 | C-699 |
| 57 | 715 | 7A2SD202(中)ブロック2 | 弥生土器 | 甕 | 15.5 | - | (5.6) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-3 M・L | 並 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | 縦凹線(7条1単位) | □7/36 | C-147 |
| 57 | 716 | 7A2SD202(東) | 弥生土器 | 壺 | 15.0 | - | (6.4) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 縦凹線11条前後 | □7/36 | C-150 |
| 58 | 717 | 7A2SD202(中)ブロック2 | 弥生土器 | 甕 | 13.1 | - | (4.5) | 浅黄橙 | にぶい橙 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 縦凹線6～7条、口縁部内面ヨコレ、外面煤付着 | □27/36 | C-067 |
| 58 | 718 | 7A2SD202(中)ブロック2 | 弥生土器 | 甕 | 14.7 | 1.6 | 20.5 | にぶい橙～ 橙 | にぶい橙～ 橙 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 縦凹線(6条1単位)、磨滅目立つ | □36/36 | C-074 |
| 58 | 719 | 7A2SD202(中)ブロック2 | 弥生土器 | 甕 | 15.0 | 2.3 | 15.1 | 明赤褐 | 明赤褐～黄 褐 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ、ナデ | 縦凹線(6条1単位)、内面底部コゲ、外面煤付着 | □34/36 底25/36 | C-069 |
| 58 | 720 | 7A2SD202(東) | 弥生土器 | 甕 | 16.0 | - | (2.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | 外面煤付着 | □7/36 | C-767 |
| 58 | 721 | 7A2SD202(中)ブロック2 | 弥生土器 | 甕 | - | 2.0 | (12.2) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 M・L | 良 | ケズリ | ハケ、ナデ | 外面煤付着 | 底36/36 | C-143 |
| 58 | 722 | 7A2SD202(中)ブロック2 | 土師器 | 甕 | 12.8 | - | (11.1) | 橙 | 橙 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリか | ヨコナデ、ハケ | 内面磨滅、外面煤付着 | □12/36 | C-073 |

第37表 A区第2面出土土器観察表16

第3節 第2面の遺構と遺物

※ () は残存法量を示す。

| 掘削 番号 | 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 発掘 番号 |
|----------|----------|------------------|------------|-----|------------|-------------|------------|-------|-------|--------------|----|-------------|-------------|--------|---------------------------|----------|
| 58 | 723 | 7A2SD202(東) | 土師器 | 甕 | 約14 | - | (3.3) | 黄灰 | 黄灰 | b-4 S・M | 並 | ヨコナデ、ハケカ | ヨコナデ | 口7/36 | 内外面煤付着 | C-149 |
| 58 | 724 | 7A2SD202(東) | 弥生土器 | 壺 | 16.0 | - | (5.0) | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ナデ | 口4/36 | 破片化後、内外面煤付着 | C-151 |
| 58 | 725 | 7A2SD202(東) | 弥生土器 | 壺 | 14.6 | - | (7.8) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 S・M・L | 並 | ヨコナデカ | ヨコナデ | 口35/36 | 外面煤付着。磨滅目立つ | C-063 |
| 58 | 726 | 7A2SD202(東) | 弥生土器 | 壺 | 20.4 | - | (6.3) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 M・L | 並 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口10/36 | 外面一部煤付着 | C-060 |
| 58 | 727 | 7A2SD202(東) | 土師器 | 壺 | 12.9 | - | (10.4) | 橙 | 橙 | a-4 S・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口18/36 | 外面煤付着。磨滅顕著 | C-065 |
| 58 | 728 | 7A2SD202(中)ブロック2 | 土師器 | 壺 | - | - | (8.6) | 黄橙 | 黄橙 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ナデ | - | 粘土紐積み上げ腹を境に胎土異なる。729と同一個体 | C-072-1 |
| 58 | 729 | 7A2SD202(中)ブロック2 | 土師器 | 壺 | - | - | (6.6) | 黄橙 | 黄橙 | b-3 M・L | 良 | ナデ、ハケ | ナデ、ハケ | - | 外面剥離目立つ。底部台状。728と同一個体 | C-072-2 |
| 58 | 730 | 7A2SD202(中)ブロック2 | 土師器 | 壺カ | - | - | (4.6) | にぶい橙 | 橙 | b-3 M・L | 並 | ナデカ | ナデカ | 底36/36 | 内面ヨコレ付着。磨滅顕著 | C-071 |
| 58 | 731 | 7A2SD202(中)ブロック2 | 土師器 | 壺 | 11.7 | - | (5.4) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ハケカ | ヨコナデ、ナデ | 口16/36 | 内外面被熱。磨滅顕著 | C-146 |
| 58 | 732 | 7A2SD202(東) | 弥生土器 | 器台 | - | 17.8 | (4.2) | 灰黄 | にぶい黄橙 | a-4 M・L | 並 | ナデ | ミガキ | 底5/36 | 外面赤彩。透かし孔4ヶ所カ | C-148 |
| 58 | 733 | 7A2SD202(中)ブロック2 | 弥生土器 | 小型壺 | - | 2.3 | (6.0) | 橙 | 橙 | b-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ミガキ、ナデ | 底36/36 | 外面赤彩 | C-070 |
| 58 | 734 | 7A2SD202(東) | 弥生土器 | 蓋 | 13.2 | つまみ径 4.8 | 6.1 | にぶい橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ナデ | ナデ、ヨコナデ、ハケ | 口6/36 | ゆがみあり。内面口縁部一部煤付着 | C-062 |
| 58 | 736 | 7A2SD202(東) | 弥生土器 | 土罐 | 長さ 3.4 | 孔径 3.1 | - | - | 灰 | a-3 S・L | 並 | - | ナデ | ほぼ完形 | 外面に黒斑。残存重量30.5g | C-061 |
| 61 | 759 | 7A2SD204 | 弥生土器 | 土罐 | 長さ 3.3 | 径 0.8 | - | - | にぶい黄 | b-1 S | 良 | - | ナデ | - | 残存重量11.2g | C-359 |
| 61 | 760 | 7A2SD205 | 土師器 | 甕 | 13.3 | - | (6.4) | にぶい橙 | 橙 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口10/36 | 頸部にハケ原体のアタリ痕。外面煤付着 | C-358 |
| 61 | 761 | 検出面 | 弥生土器 | 甕 | 12.5 | 3.7 | 約18 | 黄灰 | 黄灰 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口2/36 | 外面煤付着。磨滅目立つ | C-361 |
| 61 | 762 | 東側排水溝 | 弥生土器 | 甕 | 14.7 | - | (4.5) | 黄橙 | 黄橙 | b-3 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口13/36 | かすかに縦凹線。磨滅顕著 | C-363 |
| 61 | 763 | 調査区溝側溝 | 土師器 | 甕 | 13.7 | - | (8.1) | にぶい黄橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデカ | ヨコナデ、ハケ | 口8/36 | 外面に黒斑 | C-356 |
| 61 | 764 | 調査区溝側溝 | 土師器 | 甕 | 約23 | - | (9.7) | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | b-3 S・M・L | 並 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口12/36 | 磨滅顕著 | C-357 |
| 61 | 765 | 中央排水溝 | 土師器 | 甕 | 15.0 | - | (8.4) | にぶい橙 | 橙 | a-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口7/36 | 赤色酸化粒、海綿骨針多い。磨滅顕著 | C-364 |
| 61 | 766 | 南北サブトレ | 弥生土器 | 壺 | - | 8.9 | (9.2) | 暗灰黄 | にぶい黄 | a-3 S・M | 良 | ケズリ、ナデ | ミガキ | 底14/36 | 内面剥離目立つ | C-365 |
| 61 | 767 | 東側排水溝 | 土師器 | 甕 | 19.7 | - | (7.9) | 橙 | 橙 | b-3 S・M | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口2/36 | 磨滅、剥離顕著 | C-362 |
| 61 | 768 | 調査区側溝(北東) | 弥生土器 | 壺 | 11.2 | - | (6.1) | 橙 | 橙 | a-3 S・M | 良 | ミガキ、ヨコナデ | ミガキ | 口30/36 | 赤彩。外面磨滅目立つ | C-355 |
| 61 | 769 | 検出面 | 弥生土器 | 土罐 | 長さ 2.7 | 径 4.1 | - | - | 浅黄 | b-3 S・M・L | 良 | - | 磨滅不明 | - | 残存重量39.4g | C-360 |
| 61 | 770 | 検出面 | 口ク口 土師器 | 鉢 | 20.8 | - | (6.0) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 S・M・L | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口4/36 | 混ざりこみ | D-224 |

第38表 A区第2面出土土器観察表17

※()は残存法量を示す。

| 挿図番号 | 遺物番号 | 出土遺構 | 種類 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 重量(g) | 石材 | 備考 | 実測番号 |
|------|------|---------------------|-----|---------|---------|---------|---------|----------|--------------------------|------|
| 43 | 334 | 7A2SD202(西)上層 | 砥石 | (3.4) | (3.1) | (1.6) | (4.3) | 軽石凝灰岩 | 研ぎに使用。灰白色 | 石27 |
| 46 | 419 | 7A2SD202(中)下層 | 磨石 | 16.2 | 9.0 | 5.4 | 1227.5 | 砂岩 | 完形。緑灰色。側面に使用痕 | 石28 |
| 57 | 701 | 7A2SD202(中)最下層 | 石鏝 | 3.36 | 1.73 | 0.49 | 2.16 | ガラス質安山岩か | 完形。黒色 | 石38 |
| 57 | 702 | 7A2SD202(中)最下層 | 石鏝か | 3.45 | 0.82 | 0.73 | 2.36 | ガラス質安山岩か | 完形。灰色 | 石37 |
| 57 | 703 | 7A2SD202(中)最下層 | 石核 | 5.15 | 7.29 | 6.48 | 166.99 | 緑色凝灰岩 | 完形。明オリブ灰色 | 石46 |
| 57 | 704 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層) | 砥石か | (4.9) | (2.9) | (3.6) | (51.2) | 砂岩 | 灰白色。研ぎ面平滑 | 石48 |
| 57 | 705 | 7A2SD202(中)最下層 | 砥石 | 11.3 | 6.3 | 4.4 | 423.3 | 細粒凝灰岩 | 完形。灰白色。1側面に刃物痕あり | 石49 |
| 57 | 706 | 7A2SD202(東)アゼ流れ4最下層 | 砥石 | (8.5) | 5.3 | 4.6 | (262.3) | 細粒凝灰岩 | 灰白色。全側面を研ぎに使用。1側面に顕著な刃物痕 | 石25 |
| 57 | 707 | 7A2SD202(東)最下層(粗砂層) | 砥石 | 3.4 | 4.5 | 2.8 | 4.6 | 軽石凝灰岩 | 完形か。灰白色 | 石29 |
| 57 | 708 | 7A2SD202(東)最下層(粗砂層) | 砥石 | 8.5 | 6.7 | 4.9 | 382.1 | 花崗岩か | 完形。灰白色 | 石31 |
| 57 | 709 | 7A2SD202(中)最下層 | 台石か | (5.4) | (9.3) | 5.7 | (457.4) | 火山礫凝灰岩 | 淡灰色 | 石30 |
| 57 | 710 | 7A2SD202(西)最下層 | 砥石か | (10.3) | (5.5) | (3.5) | (162.5) | 砂岩 | 灰白色。残存面が溝状にくぼむ。一部煤付着 | 石24 |
| 58 | 735 | 7A2SD202(東) | 砥石 | 4.55 | 3.6 | 2.66 | 37.93 | 砂岩 | 灰白色。残存面を研ぎに使用 | 石26 |

第39表 A区第2面出土石器・石製品観察表

※()は残存法量を示す。

| 挿図番号 | 遺物番号 | 出土遺構 | 種類 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 木取り | 樹種 | 備考 | 実測番号 |
|------|------|-----------------------|--------|---------|---------|------------|-------|------------|--|-------|
| 47 | 421 | 7A2SD202(東)下層 | 泥除か | (23.9) | (9.7) | 1.7 | 柱目 | コナラ属アカガシ亜属 | 上部肥厚。柄孔一部残存か | 木-76 |
| 47 | 422 | 7A2SD202(中)下層 | 鋏または鋤身 | (18.6) | (7.2) | 0.6 | 柱目 | コナラ属アカガシ亜属 | 側面一部のみ残存 | 木-57 |
| 47 | 423 | 7A2SD202(中)下層ブロック② | 泥除 | (13.5) | (25.4) | 0.8 | 柱目 | コナラ属アカガシ亜属 | 平面形は横長不整隅丸台形か。上面に長さ4cm以上、短径幅2.9cmの柄孔残る | 木-19 |
| 47 | 424 | 7A2SD202(西)下層 | 桶側板 | 21.5 | (10.3) | 2.1 | 分割材 | スギ | 内面下部肥厚。長径約27cmか | 木-35 |
| 47 | 425 | 7A2SD202(中)下層① | 槽 | 49.0 | (20.3) | 高さ9.8~11.2 | 分割材 | ケヤキ | 台部削り出し。破損後に皮綴で補修(方形孔2ヶ所残存(1.5×1.5cm、1.7×1.2cm(孔内に楕皮3枚・木片1片残))。裏側面上下が黒色に変色) | 特記-04 |
| 47 | 426 | 7A2SD202(東)アゼ流れ4下層 | 棒状木製品 | (10.0) | 2.5 | 0.9 | 柱目 | スギ | 円孔2ヶ所(径約0.5cm)。腐食 | 木-56 |
| 47 | 427 | 7A2SD202(中)下層 | 板状木製品 | 8.3 | 2.0 | 0.3 | 板目 | スギ | 両面に縷物圧着痕あり | 木-13 |
| 47 | 428 | 7A2SD202(中)下層 | 板状木製品 | (7.5) | 1.80 | 0.1 | 板目 | スギ | ◇ | 木-12 |
| 47 | 429 | 7A2SD202(中)下層 | 板状木製品 | 8.2 | 1.6 | 0.2 | 板目 | - | ◇ | 木-14 |
| 48 | 430 | 7A2SD202(東)下層 | 栓か | (19.8) | 8.5 | 2.4 | 分割材 | コナラ属アカガシ亜属 | 有頭状。2ヶ所に方形孔(2.2×1.7cm、2.4×2.7cm)。裏面下半炭化 | 木-23 |
| 48 | 431 | 7A2SD202(中)下層ブロック② | 棒状木製品 | (88.9) | 5.0 | 4.3 | 芯持丸木 | ツバキ属 | | 木-62 |
| 48 | 432 | 7A2SD202(中)下層ブロック② | 板状木製品 | (91.7) | (4.9) | 1.6 | 柱目 | スギ | 先端側面を斜方向に切断 | 木-02 |
| 48 | 433 | 7A2SD202(東)下層 | 棒状木製品 | 82.4 | 3.5 | 2.5 | 分割材 | スギ | 断面方形。両端を加工し、先細らせる。腐食 | 木-81 |
| 48 | 434 | 7A2SD202(西)下層 | 棒状木製品 | 85.3 | 2.5 | 1.9 | 分割棒状 | スギ | 断面方形 | 木-82 |
| 48 | 435 | 7A2SD202(中)下層ブロック② | 棒状木製品 | (78.7) | 3.0 | 1.9 | 分割材 | スギ | 先端に加工痕 | 木-80 |
| 48 | 436 | 7A2SD202(中)下層ブロック② | 杭 | 58.9 | 5.2 | 5.4 | 芯持丸木 | ツバキ属 | 頭部は筋のため、有頭状。側面未加工。先端2方向から加工 | 木-01 |
| 48 | 437 | 7A2SD202(東)下層 | 部材か | 84.1 | 10.7 | 9.0 | 芯持丸木 | コナラ属アカガシ亜属 | 表面が黒色に変色。被熱か。腐食顕著 | 木-58 |
| 48 | 438 | 7A2SD202(中)下層ブロック② | 棒状木製品 | (11.8) | 1.7 | 1.3 | 削出丸棒 | スギ | 断面略円形。先端を尖らせる | 木-66 |
| 48 | 439 | 7A2SD202(中)下層 | 加工材 | 10.2 | 10.6 | 8.8 | 芯持丸木 | ツバキ属 | 腐食顕著 | 木-73 |
| 59 | 737 | 7A2SD202(西)最下層 | 加工材 | 46.6 | (20.7) | 2.1 | 板目 | スギ | 中央に半月状の腐食・長楕円形の变色。方形孔4ヶ所か(うち右側2孔は2.0×1.4cm、1.8×1.7cm)。側面再加工か | 木-51 |
| 59 | 738 | 7A2SD202(東)最下層(粗砂層) | 木鏝か | 11.5 | 7.5 | 3.7 | 分割材 | ツバキ属 | 半裁。両端を粗く加工。使用痕なし | 木-63 |
| 59 | 739 | 7A2SD202(中)最下層 | 加工材 | 3.5 | 4.7 | 2.0 | 分割材 | サクラ属 | | 木-71 |
| 59 | 740 | 7A2SD202(中)最下層 | 棒状木製品 | 31.8 | 1.0 | 1.1 | 分割材 | スギ | 断面略三角形 | 木-55 |
| 59 | 741 | 7A2SD202(中)最下層 | 部材か | (66.5) | 24.2 | 13.4 | 芯持丸木 | エノキ属 | 側面に工具痕。腐食 | 特記-11 |
| 59 | 742 | 7A2SD202(中)最下層 | 部材か | (99.4) | 15.9 | 11.7 | 芯持丸木 | ケヤキ | 腐食目立つ | 特記-10 |
| 59 | 743 | 7A2SD202(中)最下層 | クサビか | 22.2 | 5.0 | 4.3 | 分割材 | ケヤキ | 先端を両側から加工 | 木-65 |
| 59 | 744 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層付近) | 板状木製品 | 10.3 | 2.9 | 1.8 | 分割材 | コナラ属アカガシ亜属 | 先端を扁平に加工 | 木-64 |
| 59 | 745 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂層付近) | 板状木製品 | (21.0) | 2.5 | 0.7 | 柱目 | スギ | | 木-72 |
| 59 | 746 | 7A2SD202(中)最下層 | へら状木製品 | (14.0) | 2.2 | 0.8 | 柱目 | スギ | 先端丸い。細い柄部分折損 | 木-17 |
| 59 | 747 | 7A2SD202(中)最下層 | 板状木製品 | 30.8 | 2.9 | 1.0 | 柱目 | スギ | 頭部両面を加工。段差あり | 木-70 |
| 59 | 748 | 7A2SD202(中)最下層 | 板状木製品 | 32.6 | 7.2 | 2.6 | ミカン割材 | ムクノキ | | 木-67 |
| 59 | 749 | 7A2SD202(中)最下層 | 板状木製品 | (31.2) | 10.9 | 2.1 | 分割材 | スギ | | 木-68 |
| 60 | 750 | 7A2SD202(中)最下層(粗砂付近) | 棒状木製品 | (96.4) | 4.4 | 3.2 | 分割材 | クリ | 腐食目立つ | 木-83 |
| 60 | 751 | 7A2SD202(中)最下層 | 杭 | 62.5 | 4.9 | 4.3 | 芯持丸木 | ツバキ属 | 先端を1方向から切断。頭部腐食 | 木-79 |
| 60 | 752 | 7A2SD202(中)最下層 | 棒状木製品 | (13.7) | 1.3 | 1.1 | 削出丸棒 | スギ | 断面略方形。先端を先細らせる | 木-69 |
| 60 | 753 | 7A2SD202(中)下層・最下層 | 棒状木製品 | 29.3 | 2.5 | 2.1 | 削出丸棒 | ムクノキ | 断面略円形。先端を丸く加工 | 木-74 |
| 60 | 754 | 7A2SD202(中)最下層 | 棒状木製品 | 26.0 | 5.6 | 3.8 | 芯持丸木 | ムクノキ | 断面円形。先端を先細らせる | 木-78 |
| 60 | 755 | 7A2SD202(東) | 梯子 | (120.7) | 19.0 | 8.5 | 分割材 | スギ | 段4ヶ所残存(高さ3.6~4.2cm、先端幅7.2~9.8cm)。左側面10ヶ所に不規則な抉り | 特記-03 |
| 60 | 756 | 7A2SD202 | 棒状木製品 | 57.9 | 3.6 | 3.3 | 削出丸棒 | スギ | 有頭。先端を粗く切断 | 木-61 |
| 60 | 757 | 7A2SD202(東)① | 板状木製品 | (62.0) | 5.0 | 1.9 | 柱目 | コナラ属アカガシ亜属 | 先端表面を両側から削り、裏面薄くする | 木-33 |
| 60 | 758 | 7A2SD202(東) | 柱根 | (30.9) | 17.5 | 10.8 | 芯持丸木 | スダジイ | 底面平坦。上部炭化 | 木-25 |

第40表 A区第2面出土木器・木製品観察表

第4節 第3面の遺構と遺物

第3面は、弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭を主体とする調査面である。遺構検出面の標高は、最も高い調査区北東端(P-28区)が5.35m(第2面検出面とほぼ同じ)を、最も低い調査区南西端(O-25区)が4.86m(第2面検出面から-約10cm)を、調査区北端(R-24区)が5.09m(同-約10cm)をそれぞれ測り、調査区西側に向けて検出面標高が次第に下がる地勢は第2面と同様である。遺物包含層は、O・P-27区トレンチ8で明黄白色または淡黄灰色を呈する粘質土(第70図土層1、2)、O～Q-24・25区トレンチ1・2北側で暗茶灰色粘質土(第72図土層29)として観察できる。また、第3面検出面(ベース土)は、O・P-27区トレンチ8では浅黄灰色粘質土(第70図土層a)と比較的安定しているのに対して、O～Q-24・25区トレンチ1・2では北側で濁灰黄色シルト(第72・73図土層98)、中央付近で暗灰茶粘質土(同図土層142)と、谷中央部に向けて傾斜をもつ地勢に応じて一様な堆積を示さない。

遺構番号は、現地調査時に遺物が出土した遺構に対して300番台を付した他、第2面SD202(新)と重複する自然流路に、SD202(古)またはSD202(2面)を付している(本報告ではSD202(古)に統一)。

調査の結果、調査区全体で溝約18条(7A3SD202(古)、7A3SD301～321)の他、土坑3基(7A3SK301～303、焼土面含む)、少数のピットを検出した。大部分の遺構は、西側に向けて流下する自然流路であり、集落縁辺部の様相を呈する(第62～68図)。遺物は、器面の摩滅や剥離が目立つ土器を中心に、石器・石製品、木製品が出土した。なお、現地調査直後は、第3面を弥生時代後期～終末の生活面と報告したが、現時点では第2面堆積直前まで存続した生活面と考える。

1 土坑・ピット(遺構:第62・69図、遺物:第74図、第42表)

SK301 O・P-26区でSD202(古)に南接して検出した不定形な浅い落ち込みである。長軸110cm以上、深さ約10cmを測り、SD202(古)より古く位置付けられる。図化した遺物はない。

SK302 O-26区SD309上で検出した焼土面である。長軸約120cm、厚さ2～10cmを測り、粘砂土の中心付近が最も被熱し焼土面をなす。出土遺物のうち、第74図771の土師器甕を図示した。古墳時代前期初頭の有段口縁の甕771は口径13.5cmを測り、頸部は肉厚である。

SK303 Q-24区で検出した焼成坑である。平面不整形円形を呈し、径110cm前後、深さ21cmを測る。平坦な底面と壁の一部に厚さ4～6cmを測る顕著な焼土層が確認できる。図化した遺物はない。

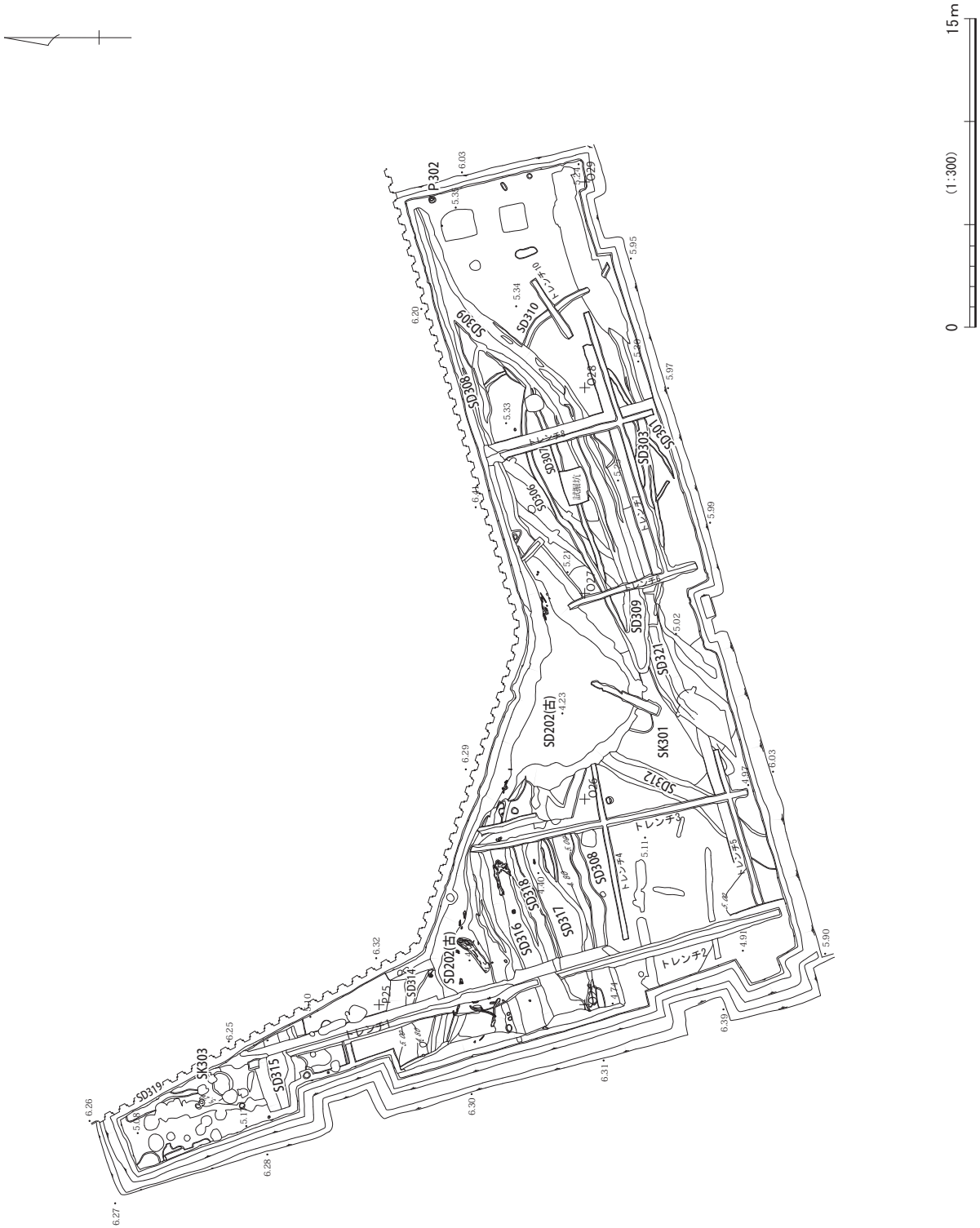
ピット 約10基の小ピットが点在、うち3基に遺構番号を付した(7A3P301～303)。Q-24区P301は、第1面に属する遺構である。P28区P302は、平面隅丸方形を呈し、柱穴の可能性が高い。一辺31～34cm、深さ32cmを測り、覆土は淡黄灰色粘質土である。図化した遺物はない。

2 溝(遺構:第70～73図、第41表、遺物:第74～80図、第42～47・49・50表)

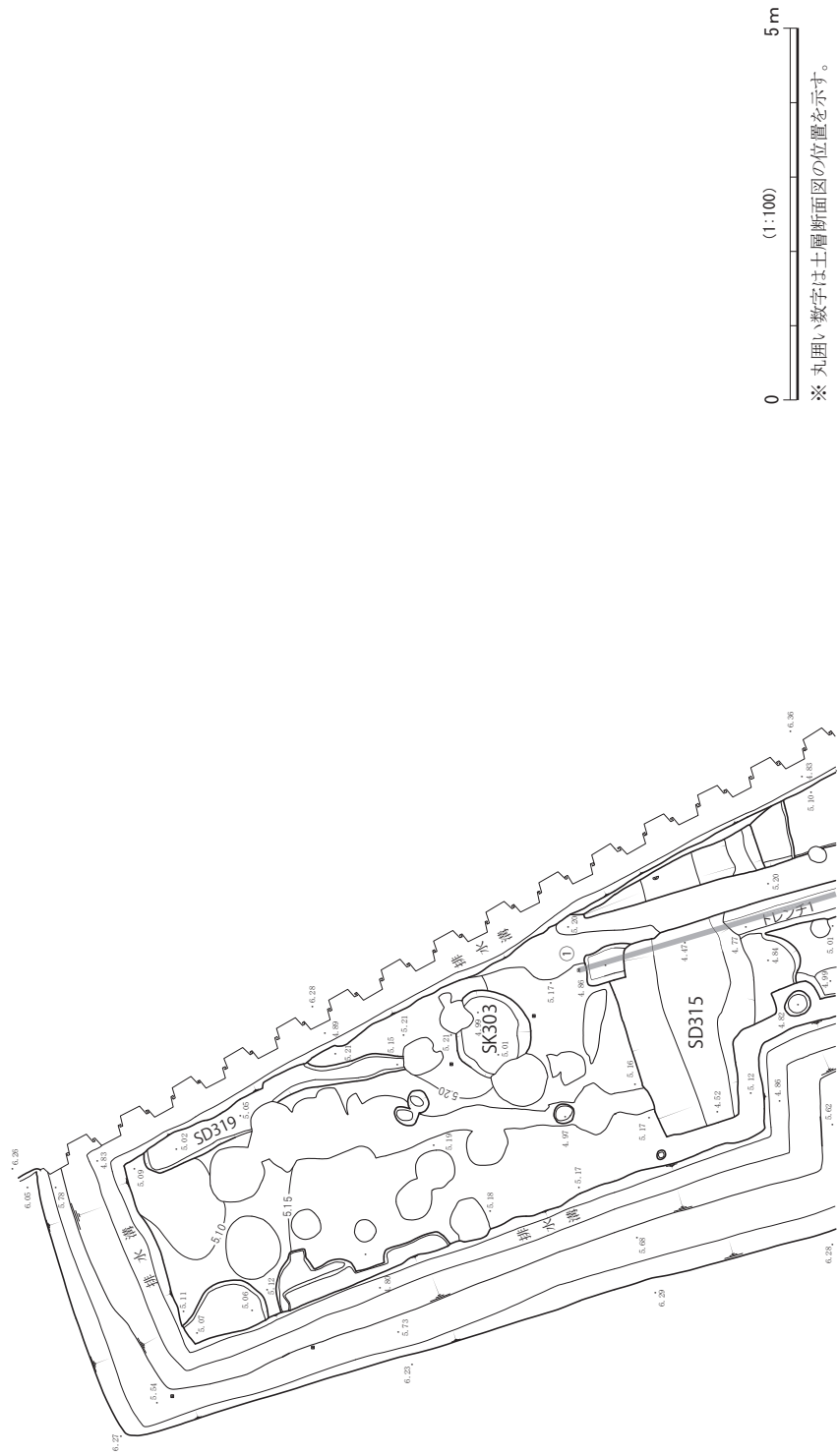
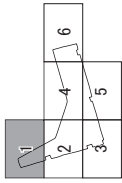
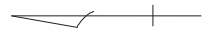
SD301 O・P-27、O-28で検出した浅い溝である。上幅18～24cm、深さ6～12cmを測り、断面形状は比較的しっかりとした略逆台形を呈する。覆土は明灰白色粘質土で、遺構の切り合い関係からSD303より古く位置付けられる。図化した遺物はない。

SD302 O-27区で検出した小規模な溝で、SD304より古い。図化した遺物はない。

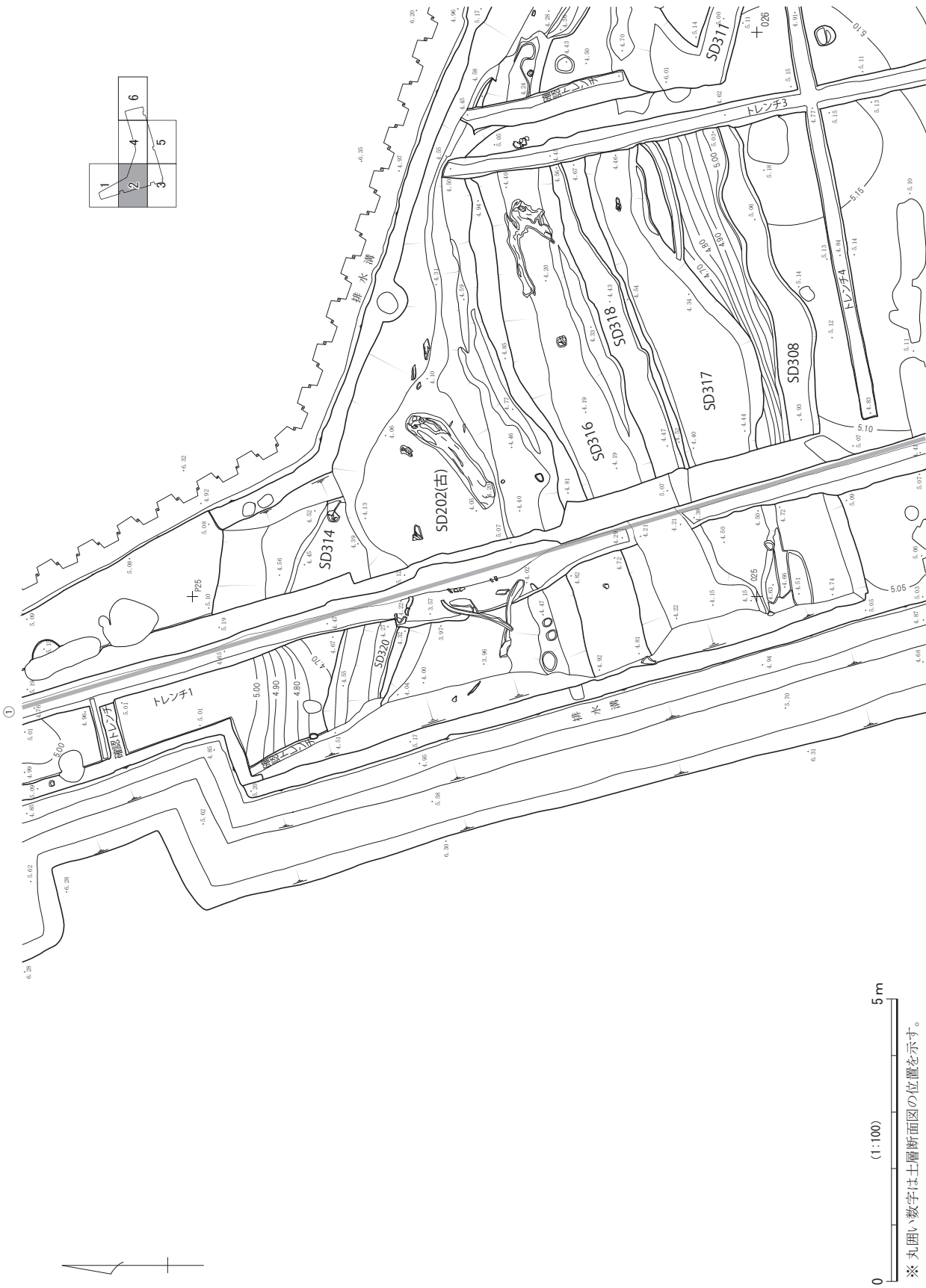
SD303・304・313 O-26、O・P-27・28で検出した溝群で、連続した一つの流路と考えられる。上幅28～60cm、深さ7～21cmを測り、覆土は淡灰～灰色粘質土である。出土遺物のうち、第74図772の弥生後期後半の甕を図示した。772は口径17.8cmを測り、肩部は張りが弱い。



第62図 A区第3面主要遺構配置図(S=1/300)



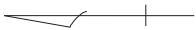
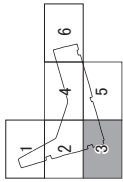
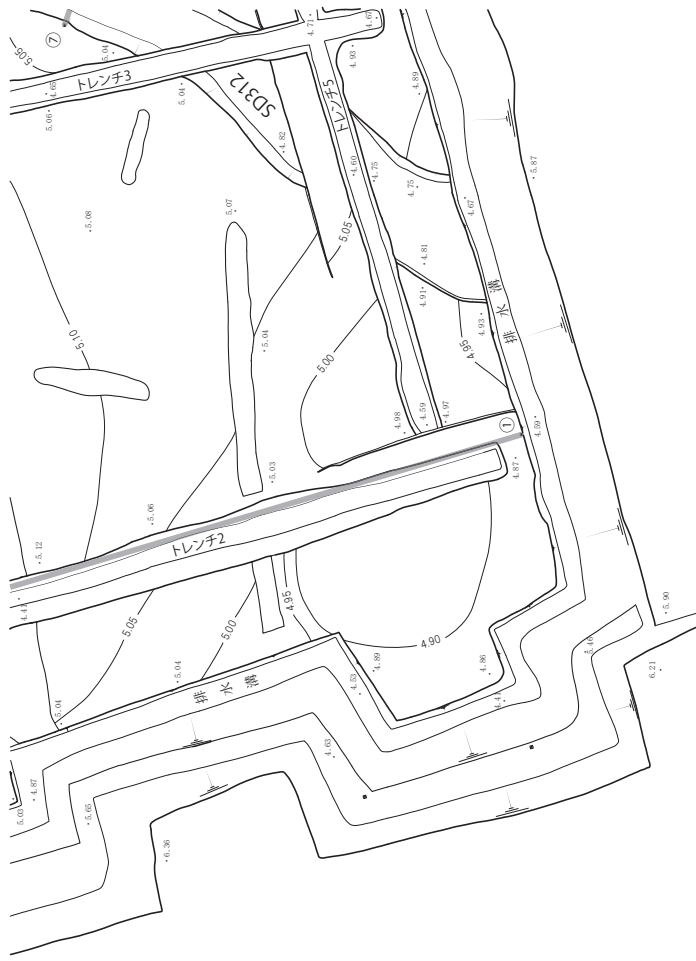
第63図 A区第3面遺構平面図1 (S=1/100)



第64図 A区第3面遺構平面図2 (S=1/100)

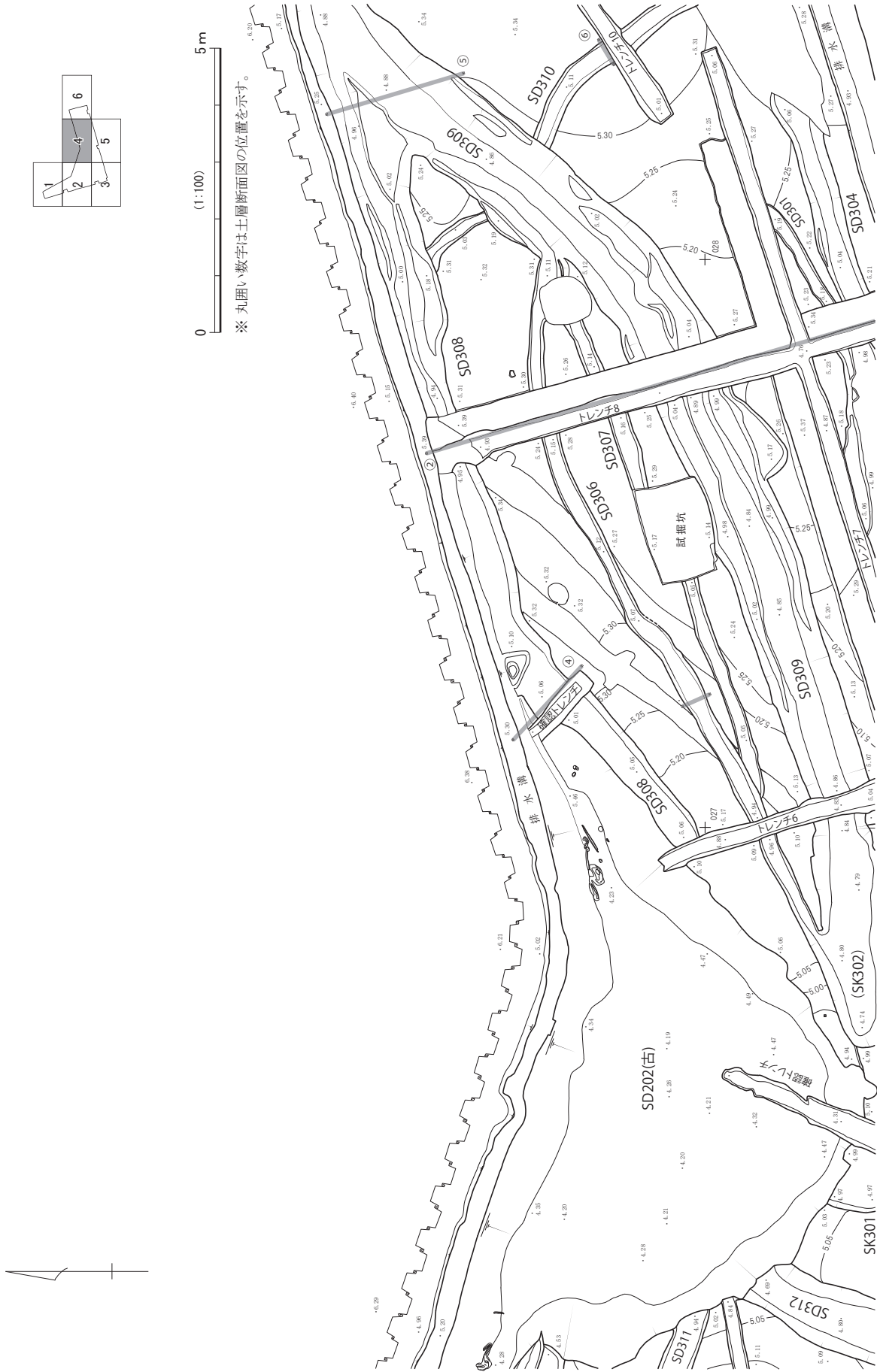
※ 丸囲い数字は土層断面図の位置を示す。

第4節 第3面の遺構と遺物



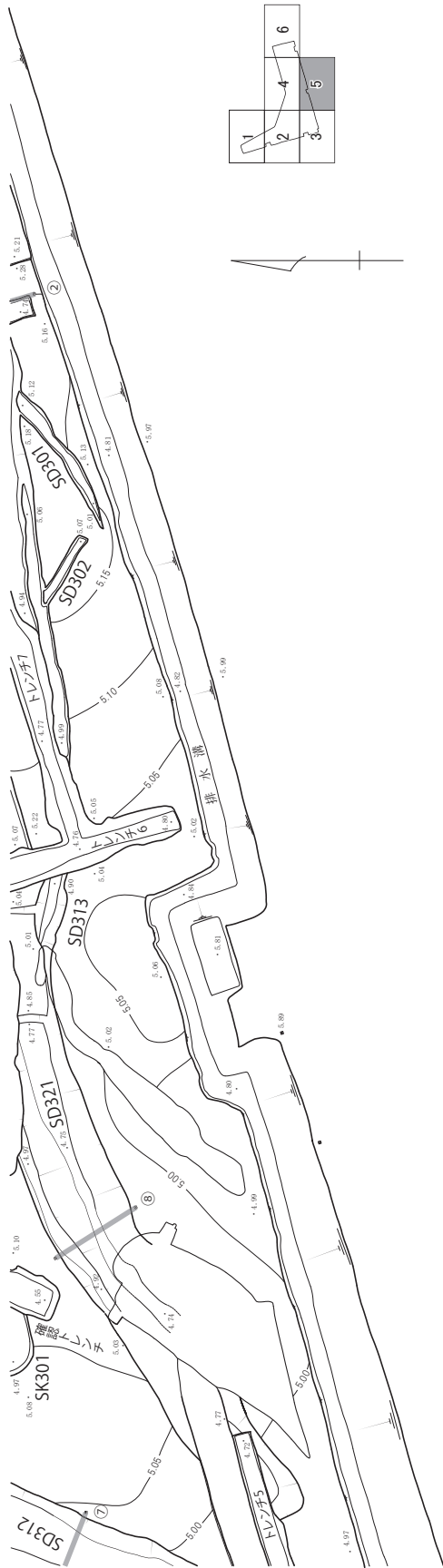
※ 丸囲い数字は土層断面図の位置を示す。

第65図 A区第3面遺構平面図3 (S=1/100)



第66図 A区第3面遺構平面図4 (S=1/100)

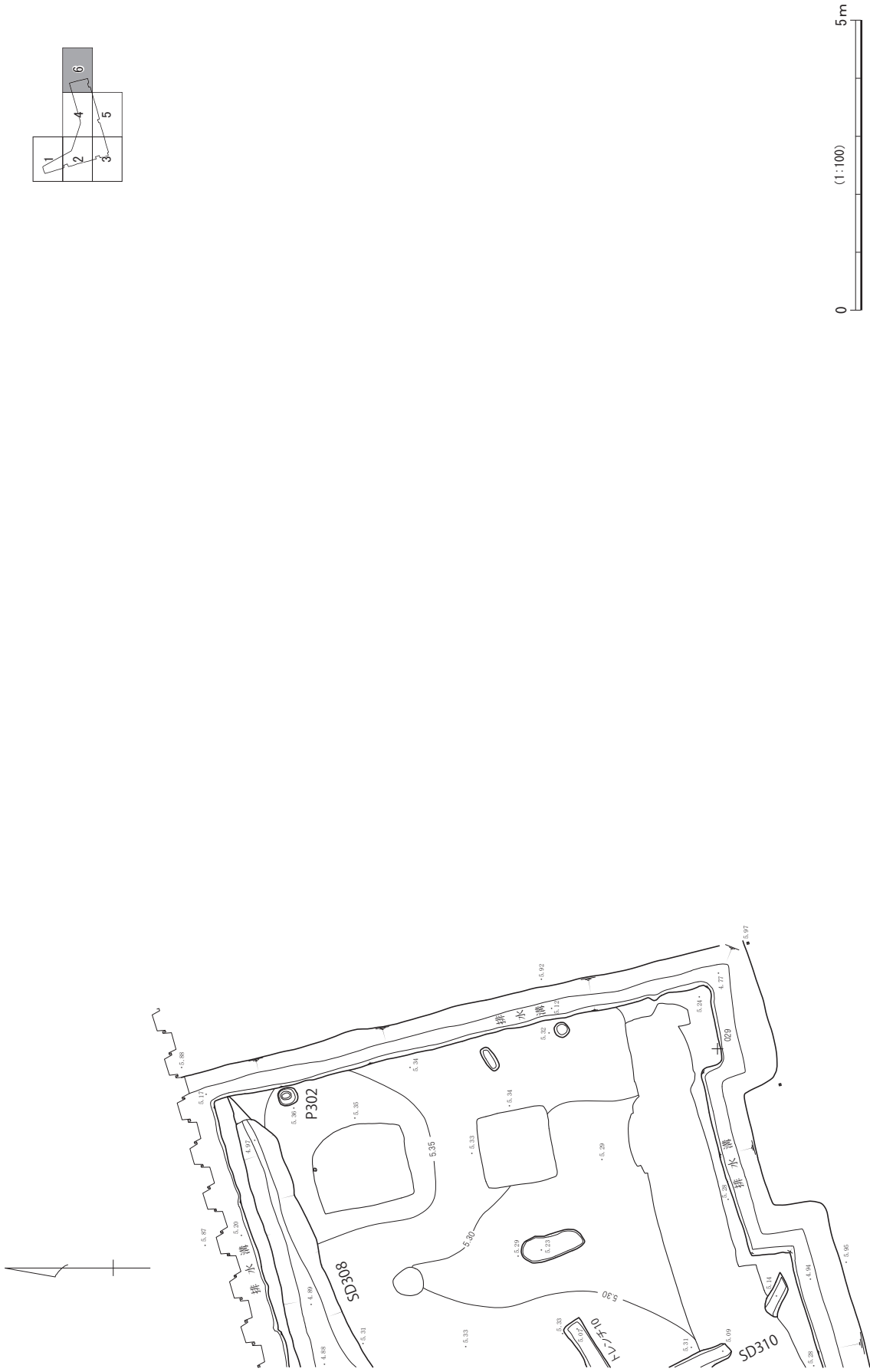
第4節 第3面の遺構と遺物



0 (1:100) 5m

※ 丸囲い、数字は土層断面図の位置を示す。

第67図 A区第3面遺構平面図5 (S=1/100)



第68図 A区第3面遺構平面図6 (S=1/100)

SD305・306・310 O-26区、O・P-27・28区で検出した一つの小規模な流路である。東側で大きく南湾し、上幅20～46cm、深さ12～32cmを測る。覆土は、東側では浅黄白～浅黄灰色を、西側では暗灰～黒灰褐色をそれぞれ呈する粘質土である。遺構の切り合い関係からSD307・309に後出する。図化した遺物はない。

SD307 O・P-27区で検出した直線的な小溝である。上幅24～40cm、深さ11～22cmを測り、覆土はSD307と近似した粘質土である。遺構の切り合い関係からSD306より古く、図化した遺物はない。

SD308 SD202(古)を挟み、O・P-24・25区、P-27・28区で検出した。西側に流下する自然流路で、上幅94～120cm、深さ9～42cmを測る。覆土は、茶灰～灰褐色や暗灰色を呈したシルト、粘質土を基調とする(第70図土層15～17、第71図断面5土層1～4、第72・73図土層69～72)。他遺構との切り合い関係は、SD202(新)、SD317より古く、SD309より新しく位置付けられる。

比較的多く出土した遺物のうち、第74図773～第76図854を図示した。773～802は甕で、773～792・794・795・799～802が弥生時代後期～終末、793・796～798が古墳時代前期初頭～前葉にそれぞれ位置付けられる。弥生時代後期前半の773は口径15.0cmを測り、口縁部が短く外反する。774～776は、擬凹線を施した有段口縁の甕である。厚手の774は口径15.3cmを測り、短くのびる口縁部外面に彫りの浅い擬凹線を施す。775・776は口径16cm台を測り、口縁端部で小さく外反する。774が後期後半、775・776が同終末に位置付けられる。777～792は無文有段口縁の甕で、777・779～783が弥生時代後期後半、778～792が同終末にそれぞれ位置付けられる。厚手の777は口径15.0cmを測り、胴部外面を刺突文で加飾する。778は口径24.2cmを測り、口縁部下端は鋭く屈曲する。779・781は摩滅が著しい。780は口径19.0cmを測り、外面に煤が付着する。782は焼成不良で、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。783は、口縁部内面に指頭圧痕がかすかに残る。784～788は、摩滅が著しい。789は口径17.0cmを測り、外面全体に煤が付着する。790は胴部球形を呈し、器面の剥離に伴い薄い印象を受ける。791は口径15.4cmを測り、外面に煤が付着する。鉢形の792は口径14.1cmを測り、煮炊き痕を明瞭に残す。有段口縁の土師器甕793は口径17.0cmを測り、直立する口縁部は先端で先細る。794・795は、弥生時代後期後半の小甕である。794は口径12.4cmを測り、摩滅が著しい。795は口径10.6cm、器高10.0cmを測り、胴部内面に板状工具を用いたナデ調整が残る。土師器甕796・797は胎土の近似性から同一個体と考えられる。球胴形を呈する796は口径16.9cmを測り、胴部内面にケズリ調整を施す。底部片797は、内面に黒色を呈したコゲが付着する。798は口径約25cmを測り、口縁端部が小さく外傾する。第75図799～802は甕底部片で、いずれも煮炊き痕を良好に残す。

第75図803～809は、弥生時代後期後半～終末の壺である。直口壺803～806は、口径13cm前後を測る。806の口縁部は直立すると考えられる。外面赤彩の台付細頸壺807は口径11.4cmを測り、口縁部は直線的にたちあがる。小型の短頸壺808は口径9.8cmを測り、口縁部外面をS字状スタンプ文で加飾する。有段口縁の809は口径11.0cmを測り、口縁部が直立する。器面の摩滅、剥離が著しい。

810～818・821は弥生時代の高坏で、810・811・821が後期後半に位置付けられる。810は口径26.3cmを測り、口縁端部は横方向にのびる。脚部811は摩滅が著しい。812は口径23.8cm、器高18.2cmを測り、口縁部は外反しながら長くのびる。813～815は、器面の摩滅、剥離が著しい。813は口径25.8cmを測り、口縁端部が肥厚する。816は、孔径約0.8cmの円孔を4ヶ所に穿つ。817は、脚裾部が緩やかにひろがる。818は摩滅が著しい。819は弥生時代終末の高坏または器台脚部と考えられる。2孔一対の円孔を3ヶ所に穿つ。821は脚裾部が肥厚する。820・822～825は弥生時代後期後半の器台である。820は、摩滅が著しい。822は口径20.2cm、器高16.3cmを測り、外面の一部にミガキ調整がかすかに残る。823は口径19.0cmを測り、両面ミガキ調整を施す。824は口径21.6cmを測り、口縁部は外反気味である。825は脚裾部に擬凹線を施す。第76図826は、古墳時代前期末頃の高坏と考えられる。口径31.0cmを

測る大型品で、内外面とも細かい単位の手調整を施す。弥生時代終末の装飾器台827・828は、受け部に無花果形の透かし孔が残る。827は摩滅顕著で、828は両面赤彩が残る。829～835は、弥生時代終末の鉢類である。829は口径13.9cmを測り、口縁部が内湾する。有段口縁の鉢830は口径14.8cmを測り、外面に煤が付着する。完形の831は口径15.8cm、器高7.3cmを測り、口縁部が長くのびる。大型の有段鉢832は口径26.8cmを測り、両面を赤彩する。摩滅が著しい。小型鉢833は底部台状を呈し、外面に煤が付着する。834・835は有孔鉢で、834内面にヨゴレの付着が認められる。836・837は蓋で、836は口径12.9cm、器高4.5cmを測る。837は摩滅が著しい。838～840は、土師質の土錘である。扁平な838は、高さ2.3cm、径2.9cm、重さ14.3gである。手づくね土器841は口径3.3cm、器高4.0cmを測り、底部付近はゆがみが大きい。842は、富来産と考えられる黒色を呈したガラス質安山岩原石で、重さ56.0gを量る。緑色凝灰岩843は、管玉粗割り工程の形状をもつ。重さ4.1gを量る。

第76図844～854の破片は、SD317からも出土する。844～847は、弥生時代後期後半の甕である。844は口径14.4cmを測り、胴部内面にナデ調整を施す。845・846は胎土が共通し、同一個体と考えられる。845は口径15.3cmを測り、胴部外面を円形の刺突文で加飾する。847は口径17.8cmを測り、外面に煤が付着する。小甕848は口径12.9cmを測り、胴部の張りは弱い。直口壺849は口径13.4cmを測り、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。850は、細頸壺胴部と考えられる。高坏851、小型鉢852は、弥生時代終末に位置付けられる。852は、口縁部内面にコゲ、外面に煤が付着し、煮炊き容器に転用される。853は土師質の土錘である。土製円盤854は、外面に煤が付着した甕胴部片を加工したものである。重さ11.7gを量る。**SD309** O-26・27、P-27・28で検出し、緩やかに蛇行しながら調査区外東側から流下する。上幅110～165cm、深さ27～48cmを測り、覆土は粘質土を基調とする(第70図土層6～12、第71図断面5土層5～16)。他遺構との切り合い関係は、SD305・308より古く、SD321より新しく位置付けられる。出土遺物のうち、第77図856・857を図示した。弥生時代後期後半の有段口縁の甕856は口径15.4cmを測り、口縁部～外面に煤が付着する。摩滅した台付壺857は、外面が被熱する。弥生時代終末に位置付けられる。

SD311 P-25・26区で検出した浅い溝で、上幅50～98cm、深さ4～8cmを測る。他遺構との切り合い関係は、SD308より新しく、出土遺物のうち第77図858の弥生時代終末の有段口縁の甕を図示した。858は口径20.2cmを測り、内外面とも被熱し、煤が付着する。

SD312 O-25・26区、P-26区で検出した溝で、他の溝とは異なり屈曲しながら南西方向から北東方向に向けて流下した可能性をもつ。底面は比較的平坦で、上幅92～120cm、深さ24～36cmを測る。覆土は粘質土(第71図断面7)を基調とし、出土遺物のうち第77図859～861を図示した。古墳時代前期初頭の甕859は口径20.2cmを測り、口縁部は短く外傾する。胴部内外面ともナデ調整で仕上げる。860は、859と同一個体と考えられる。灰白色の軽石凝灰岩を用いた砥石861は、全面を研ぎに使用する他、刃物痕を残す。残存重量27.1gを量る。

SD314・20 トレンチ1・2を挟んでP-24・25区で検出した同一自然流路と考えられる。深さ40～71cmを測り、覆土は水流で堆積したシルトを基調とする(第72・73図土層98、104、125～129、132～137)。遺構の切り合い関係から、SD202(古)より古く位置付けられる。

出土遺物は、SD314出土の第76図855、第77図862～873、第82図992、SD320出土の第80図946～954、第82図993・996・997を図示した。SD314出土遺物が弥生時代後期後半～終末と時期が比較的まとまるのに対して、SD320出土遺物は弥生時代後期前半～古墳時代前期までの時期幅を示す。弥生時代終末の大型甕855は口径33.2cmを測り、調整は丁寧である。第77図862～868は甕である。862は口径14.6cmを測り、口縁端部を平坦に仕上げる。855と同様に煮炊き痕を良好に残す。有段口縁の甕863～864は、口縁部が大きく外傾する。口径は、863が21.4cm、864が19.5cm、865が17.9cmを測る。

866は摩滅が目立つ。弥生時代後期後半の甕867・868は、煮炊き痕を明瞭に残す。867は口径13.8cmを測り、口縁部は外傾した平坦面をもつ。868は口径14.0cmを測り、口縁部は短く直立する。弥生時代後期後半の直口壺869は、外面に線刻が残る。線刻は、縦方向の線刻2条と、縦方向の線刻を基準として、その左側2ヶ所の横方向の線刻(上段は3条、下段は1条)よりなり、意匠は不明である。器台870は口径23.8cmを測り、赤彩を施した可能性をもつ。台付壺871は、台部がしっかりと外展する他、外面に煤が付着する。高坏872は口径27.0cmを測り、口縁端部で肥厚する。摩滅が進んでおり、外面のみにかすかに赤彩が残る。完形の磨石873は、使用に伴い器面は平滑である。重さ460.17gを量る。第82図992は、頭部を菱形様に加工した棒状木製品で、頭部は反りをもつ。残存長24.0cm、厚さ2.0cmを測り、樹種はウコギ属である。

SD320出土の第80図946～952は甕で、946が弥生時代後期後半、947～952は古墳時代前期初頭と考えられる。946は口径18.5cmを測り、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。有段口縁の947は、口径18.6cmを測る。948は口径13.6cmを測り、胴部は内外面ともハケ調整で仕上げる。949は口径18.2cmを測り、胴部外面にはタタキ痕が残る。950は口径13.4cm、器高12.4cmを測り、口縁部は短く外傾する。胴部内面をナデ調整、外面をハケ調整で仕上げる。台付甕951は口径20.0cmを測り、煮炊き痕が明瞭に残る。952は口径13.4cmを測り、口縁部は緩やかに外反する。土師器壺953は口径12.8cmを測り、摩滅が目立つ。954は弥生時代後期前半の高坏で、器肉は厚い。第82図993は、コナラ属アカガシ亜属の材を用いた平鋸で、厚さ1.0cmを測る。加工材996は断面隅丸方形を呈し、先端が肥厚する。残存長58.5cm、最大幅4.8cm、厚さ3.0cmを測り、クマノミズキ類の材を用いる。997は機織りの刀杼と考えられ、カエデ属の材を用いる。残存幅23.8cm、高さ4.7cm、幅0.7cmを測り、上下面に目盛りの刻みと使用に伴う糸擦痕が密に残る。腐食が著しい。

SD315 Q-24区で検出した比較的規模の大きい溝で、上幅170～185cm、深さ65～70cmを測る。覆土は、底面に黄灰～灰色を基調とするシルトが堆積した後に、粘質土により埋没する(第72・73図土層73～82、91)。

比較的多くの遺物が出土し、第77図874～第78図895を図示した。弥生時代中期後半の壺874は口径約15cmを測り、摩滅、剥離のため調整は判然としない。875～880は弥生時代後期後半の甕で、875～878は有段口縁の甕となる。875は口径約24cmを測り、876と同様に胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。877は口径17.6cmを測り、口縁部が短く直立する。878は口径13.8cmを測り、胎土は練りが不十分のためマーブル状を呈する。879・880は内面の摩滅が著しい。甕底部881は、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。第78図882は古墳時代前期初頭の球胴の甕である。口径18.0cmを測り、口縁端部を丸く仕上げる。弥生時代後期後半の甕883は口径13.6cm、器高12.8cmを測る。胴部内面をナデ調整で仕上げ、良好に煮炊き痕を残す。884～886は弥生時代後期後半の壺である。有段口縁をもつ884は口径19.5cmを測り、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。885は底部が厚く、外面下部に煤が付着する。886は外面に明瞭な煮炊き痕を残す。887・888は、古墳時代前期初頭の台付壺で、同一個体と考えられる。口径11.2cmを測り、胴部外面に「+」と線刻する。889・890は弥生時代後期後半の高坏である。889は、内面のシボリ痕を良好に残す。有段口縁の890は坏部が深く、比較的細身の脚部を付す。高坏891は古墳時代前期に位置付けられる。892・893は弥生時代後期後半の器台である。892は、2孔一対の円孔を4ヶ所に穿つ。893は胎土中に赤色酸化粒が多く混ざり、摩滅が著しい。土師質の土錘894は扁平な球形、895は球形を呈する。895は重さ32.8gを量る。

SD316～318 O・P-24・25区で検出した自然流路で、SD317が最も新しい。SD317は上幅82～170cm、深さ59～72cmを測る。覆土は、SD316が暗茶灰～黒褐色を基調とする粘質土(第72・73図土層51～58)、SD317が暗褐色～黒褐色、黒灰色を呈する粘質土(同図土層44～50)となる。

比較的多くの遺物が出土し、SD316出土の第78図896～第79図933、SD317出土の第76図844～854 (SD308で記述)、第79図934～第80図943、第82図994・995、SD318出土の第80図944・945を図示した。

SD316出土の896・897は弥生時代中期後半の土器である。壺片896は、口縁部内面を2列の垂下線と3列の綾杉文、口縁端部をX字文で加飾する。甕897は口径19.6cmを測り、細く繊細な綾杉文を施す。898～924はおおむね弥生時代後期後半に位置付けられる。898は口径17.2cmを測り、口縁部が大きく外傾する。899は口縁端部をしっかりと面取りし、良好に煮炊き痕を残す。900は口縁部がゆがむ。901～910は有段口縁の甕である。901は口径17.9cmを測り、口縁帯の擬凹線はほぼ摩滅する。902は口径16.0cmを測り、廃棄後に被熱する。903は口径14.7cmを測り、口縁部が若干外傾する。904は口縁部の屈曲が弱く、内面にハケ調整が残る。905は口径20.8cmを測り、口縁帯下端を鋭く仕上げる。906・907は、口径15.8cmを測る。908は口縁部が外傾する他、胴部内面の粘土紐接合痕が目立つ。909は口径14.0cmを測り、摩滅が著しい。910は口縁部がゆがむ。911は底部外面に「×」と線刻する。912～916は壺である。直口壺912は口径11.3cmを測り、黒斑が残る。広口壺913は口径20.4cmを測り、口縁端部を平坦に仕上げる。有段口縁の短頸壺914・915は摩滅が進み、調整は不明である。有段口縁の916は口径10.7cmを測り、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。917～919・921は高坏である。917は口径約33cmを測り、口縁端部は肥厚部分が剥離した可能性が高い。口縁部内面をS字状スタンプ文で加飾する他、内面にわずかに赤彩が残る。深身の918は口径20.1cmを測り、摩滅が著しい。919は外面を赤彩する。921は脚端部の突帯を丁寧に仕上げる。また、脚端部は内外面とも被熱・煤付着し、蓋に転用したと考えられる。920・922～924は器台である。920は、焼成がよくない。922は突帯上に刺突文を施し、内面の煤付着から蓋に転用したと考えられる。赤彩の923は、口縁帯に円形浮文を密に貼り付ける。924の擬凹線は乱れ、円孔を3ヶ所に穿つ。925・926は弥生時代終末頃の鉢である。平底を呈する925は口径13.4cm、器高6.6cmを測り、外面の一部にタタキ様の調整痕が残る。丸底の926は摩滅が目立つ。927～929は、土師質の土錘である。いずれも球形を呈し、完形の928が34.3gを量る。手づくね土器930は平底を呈し、焼成がよくない。砂岩製の敲石931は破損後に被熱し、全面に煤が付着する。932・933は、SD316・318から出土した甕である。球胴の932は口径14.7cmを測り、口縁端部を短くつまみあげる。933は外面に煤が厚く付着し、弥生時代終末に位置付けられる。

SD317出土の934～936は、弥生時代後期の甕である。934は口径19.4cmを測り、摩滅が目立つ。935は器肉が厚く、外面に煤が付着する。936は口縁端部を上方につまみあげ、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。弥生時代後期後半の直口壺937は口径12.6cmを測り、内面をナデ調整で仕上げる。938は弥生時代後期、939は古墳時代前期初頭の壺底部である。厚底の938は、破損後に被熱する。底部台状を呈する939は、外面をタタキで整形する。弥生時代後期後半の高坏940は、脚裾径21.3cmを測る。比較的重いにもかかわらず、内面端部の厚い煤付着から、蓋に転用したと考えられる。土師器鉢類と考えられる914は細身で、摩滅が目立つ。土師質の土錘942は円筒形を呈し、重さ58.0gを量る。石英製の磨石943は長径4.4cm、短径3.9cmを測り、かすかに擦痕が確認できる。重さ37.5gを量る。SD318出土の甕944・945は、弥生時代後期後半に位置付けられる。944が口径19.6cm、945が口径16.4cmを測り、いずれも外面に煤が付着する。第82図994は、コナラ属アカガシ亜属の材を用いた直柄平鉢である。最大厚約1cm、柄挿入孔径が5.3cm×4.6cm、方形の柄挿入孔台が高さ0.7cmを測り、腐食が著しい。棒状木製品995はスギの材を用いる。断面方形を呈し、残存長78.3cmを測る。

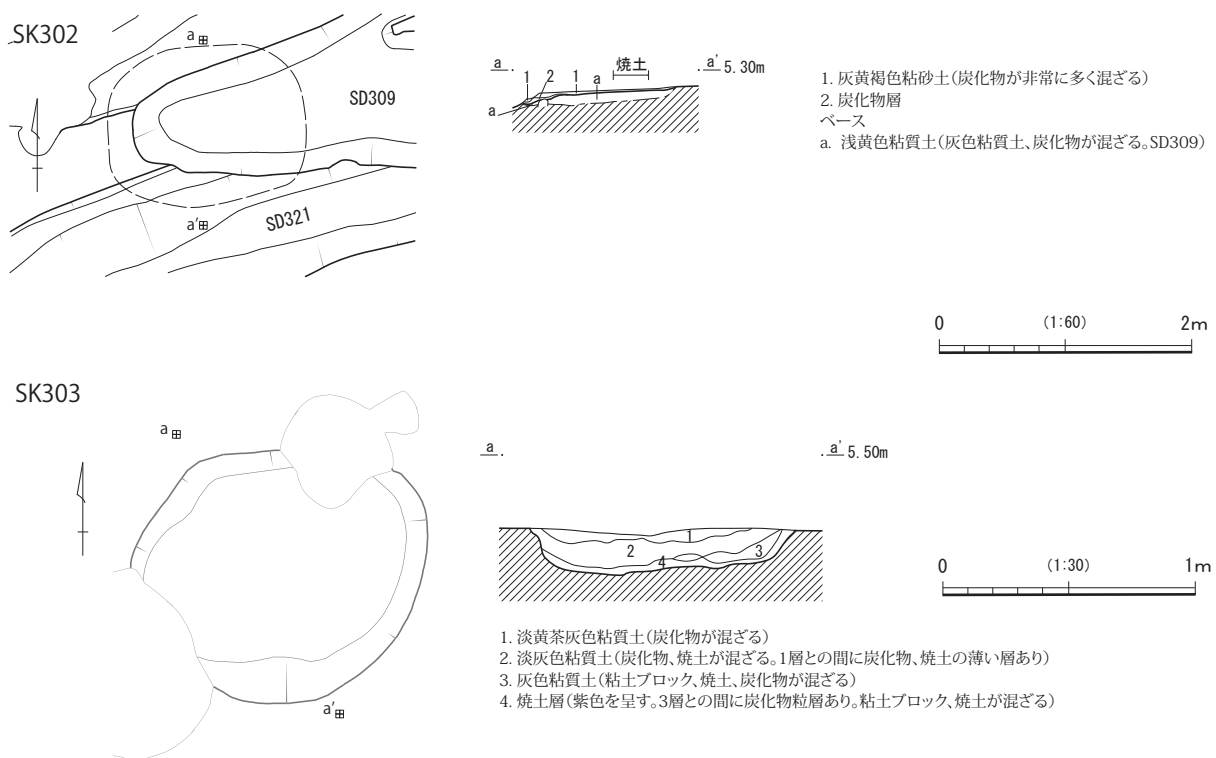
SD319 Q・R-24区で検出した小規模な溝で、上幅20cm以上、深さ5～7cmを測る。覆土は、炭化物が多く混ざる暗褐色砂質土である。図化した遺物はない。

SD321 O-26区で検出した溝で、上幅94～122cm、深さ21～27cmを測る。覆土は淡灰黄～灰色を呈

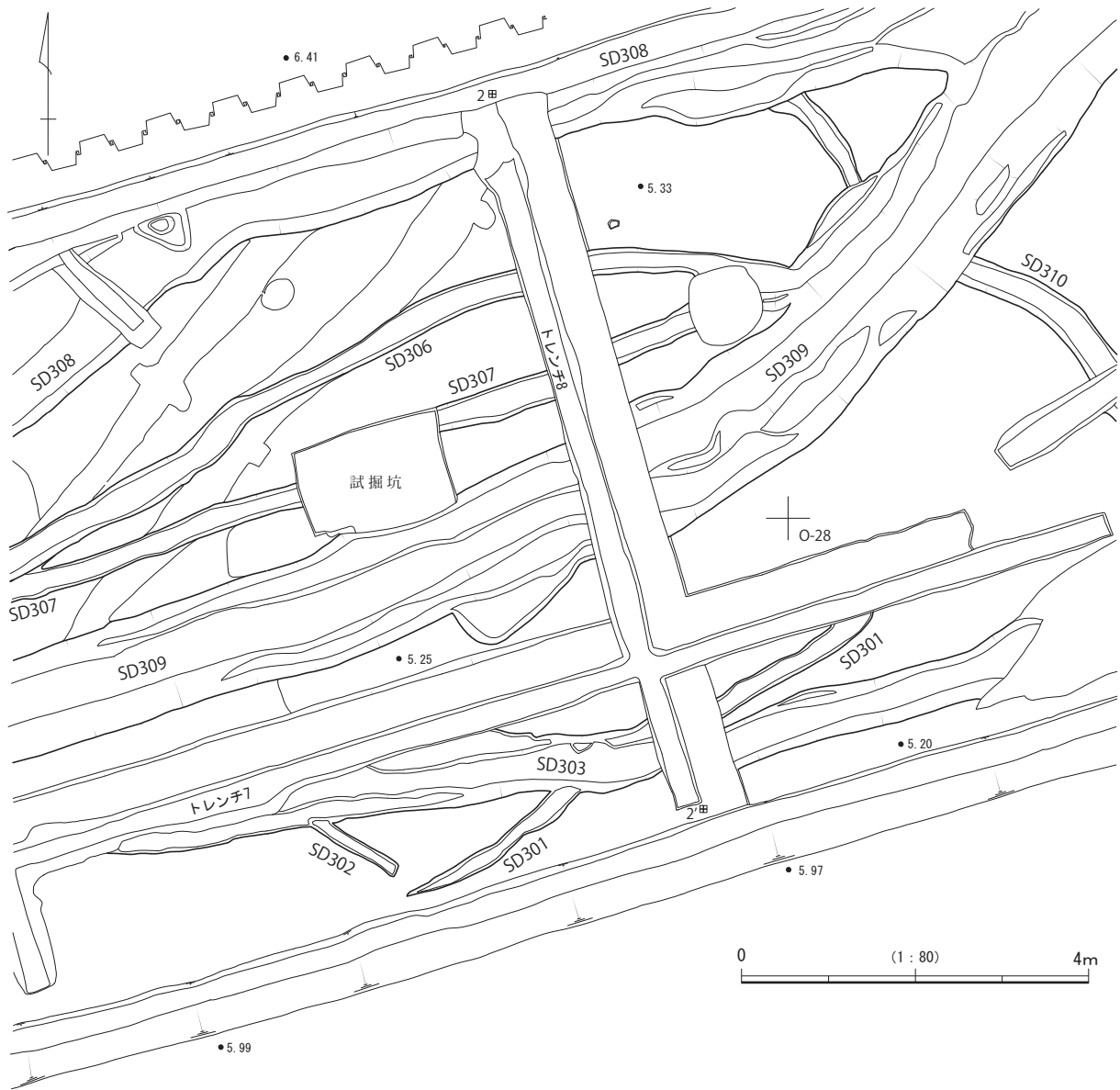
第4節 第3面の遺構と遺物

| 遺構名 | グリッド | 規模(cm) | | | 方位 | 土色等 | 備考 |
|--------------|---------------------|--------|---------|-------|------------|---------------|----------------------------|
| | | 延長 | 幅 | 深さ | | | |
| 7A3SD202(古) | P-24・25、O・P-26、P-27 | - | 580~ | 90前後 | - | 第71~73図 | 蛇行。SD308より古、SD314・20より新 |
| 7A3SD301 | O・P-27、O-28 | 350~ | 18~24 | 6~12 | N-53° E | 第70図 | SD303より古。南西方向に流下 |
| 7A3SD302 | O-27 | 150~ | 18~24 | 8~10 | N-33° W | 暗灰色砂質土か | SD304より古 |
| 7A3SD303・304 | O・P-27・28 | 950~ | 48~60 | 7~21 | N-80~84° E | 第70図 | SD313と接続か |
| 7A3SD305 | P-28 | 130~ | 22~26 | 10~16 | N-50~80° W | 第71図 | SD310に接続か。SD309より新 |
| 7A3SD306 | O-26、O・P-27、P-28 | 1300~ | 20~46 | 12~32 | -(湾曲) | 第70・71図 | SD305・310と接続か。SD307・309より新 |
| 7A3SD307 | O・P-27 | 1000~ | 24~40 | 11~22 | N-約68° E | 第70図 | SD306より古 |
| 7A3SD308 | O・P-24・25、P-27・28 | 4000~ | 94~120 | 9~42 | N-約70° E | 第70~73図 | SD202(新)、SD317より古、SD309より新 |
| 7A3SD309 | O-26・27、P-27・28 | 2200~ | 110~165 | 27~48 | N-45~80° E | 第70・71図 | 蛇行。SD305・308より古、SD321より新 |
| 7A3SD310 | O・P-28 | 410~ | 28~40 | 22 | -(湾曲) | 第71図 | SD305・306と接続か |
| 7A3SD311 | P-25・26 | 635~ | 50~98 | 4~8 | N-75° W | 第71図 | SD308より新 |
| 7A3SD312 | O-25・26、P-26 | 950~ | 92~120 | 24~36 | N-30~40° E | 第71図 | 北東方向に流下した可能性あり |
| 7A3SD313 | O-26・27 | 120~ | 28~44 | 10 | N-77° W | - | SD303・304と接続か。 |
| 7A3SD314 | P-24・25 | - | 290~ | 71 | - | 第72・73図 | SD320と同流路か。SD202(古)より古。 |
| 7A3SD315 | Q-24 | 400~ | 170~185 | 65~70 | N-約75° E | 第72・73図 | |
| 7A3SD316 | P-24・25 | 1100~ | 120~216 | 54~66 | N-70前後° E | 第72・73図 | SD317より古 |
| 7A3SD317 | O・P-24・25 | 1100~ | 82~170 | 59~72 | N-70前後° E | 第72・73図 | SD308・316より新 |
| 7A3SD318 | P-24・25 | 660~ | 50~ | 5~11 | N-70前後° E | 第72・73図 | |
| 7A3SD319 | Q・R-24 | 370~ | 20~ | 5~7 | N-約22° W | 暗褐色砂質土(炭化物多い) | |
| 7A3SD320 | P-24 | 200~ | 58 | 40 | N-73° W | 第72・73図 | SD314と同流路か。SD202(古)より古。 |
| 7A3SD321 | O-26 | 960~ | 94~122 | 21~27 | -(湾曲) | 第71図 | SD309より古 |

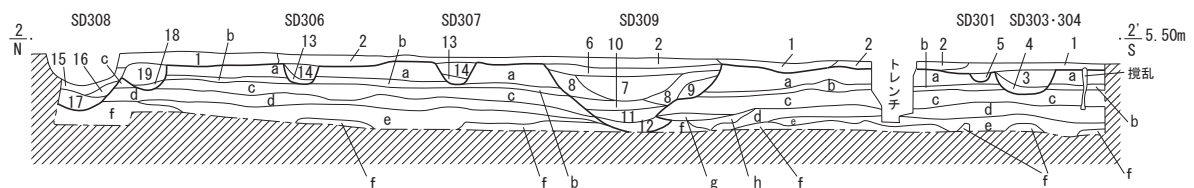
第41表 A区第3面溝規模等一覧表



第69図 A区第3面土坑平面図・土層断面図(S=1/30・1/60)



SD301・303・304・306～309 (トレンチ8)

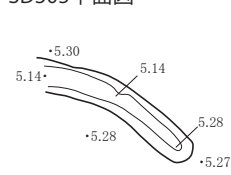


- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 明黄白色粘質土(第3面包含層) 2. 淡黄灰色粘質土(第3面包含層,炭粒混ざる) 3. 淡灰色粘質土(SD303) 4. 灰色粘質土(少量の炭化物混ざる,SD303) 5. 明灰白色粘質土(SD301) 6. 浅黄白色粘質土(SD309) 7. 黄灰色粘質土(炭化物混ざる,SD309) 8. 暗灰色粘質土(SD309) 9. 暗灰色粘質土(a層がブロック状に混ざる,SD309) 10. 淡灰色粘質土(やや砂質,SD309) 11. 淡灰色粘質土(10層より砂質,SD309) 12. 灰白色粘質土(炭化物粒混ざる,SD309) 13. 浅黄白色粘質土(やや砂質,SD306) 14. 浅黄灰色粘質土(白色砂粒混ざる,SD307) 15. 茶灰色粘質土(0.5~1mm大炭化物混ざる,SD308) 16. 灰褐色粘質土(炭化物粒(1~2mm大)混ざる,SD308) 17. 暗灰色粘砂土(砂質,炭化物粒(1~2mm大)が混ざる,SD308) 18. 灰褐色粘質土(炭化物粒が混ざる) 19. 暗灰褐色粘質土(炭化物粒が混ざる) | <ol style="list-style-type: none"> a. 浅黄灰色粘質土(第3面ベース土) b. 橙灰色粘質土(非常に多くの炭化物混ざる) c. 灰白色粘質土 d. 暗黒褐色粘質土(炭化物混ざる,第4・5面包含層) e. 淡黒褐色粘質土(f層が混ざり,白っぽい) f. 黄白色粘質土 g. 灰白色粘質土(c層と同質土,層状に炭化物混ざる) h. 灰白色粘質土(c層と類似) |
|---|---|

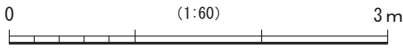
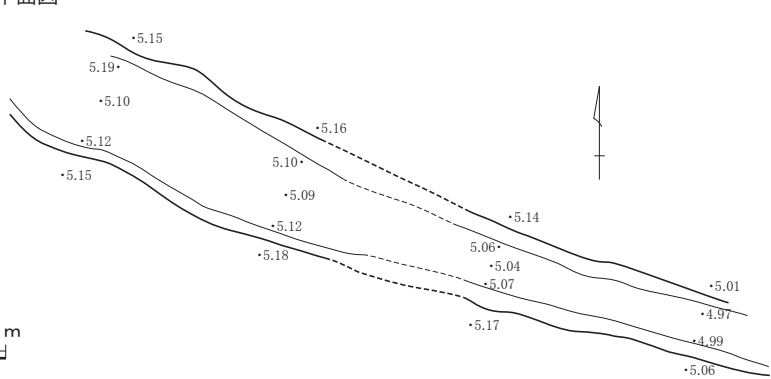
第70図 A区第3面溝平面図・土層断面図1 (S=1/60・1/80)

第4節 第3面の遺構と遺物

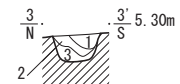
SD305平面図



SD311平面図

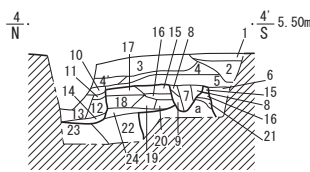


SD306



1. 浅黄色粘砂土 (灰色粘質土が混ざる)
2. 黄灰色粘砂土
3. 灰色粘質土

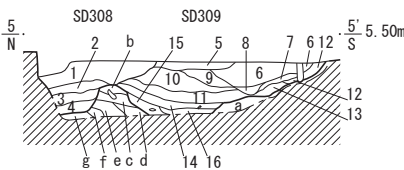
SD308、SD202(古)



[SD308]

1. 茶灰色シルト(黄灰色シルトが少量混ざる)
2. 灰茶色粘質土(均質のシルト、微量の炭粒が混ざる)
3. 灰褐色シルト(少量の炭粒、灰白色シルトが混ざる)
4. 濁橙灰色粘土(弥生後期後半ベース土に類似)
- 4' 灰褐色粘質土(少量の橙灰色粘土、炭粒が混ざる)
5. 暗灰褐色粘土(多くの暗灰色粘土、少量のシルト、炭粒が均質に混ざる)
6. 黒灰色粘質土
7. 濁黄灰色シルト(粘性あり。黒灰色粘質土がブロック状に混ざる)
8. 黒灰色粘質土(灰褐色粘質土が混ざる)
9. 灰茶色粘質土(少量の灰白色シルト、黒灰色粘質土が混ざる)
10. 濁灰褐色粘質土(灰色シルトが多く混ざる)
11. 暗灰色粘質土(灰色粘質土が混ざる)
12. 黒灰色粘質土(灰色が強い。シルト、微量の炭粒が混ざる。一部黄白色砂のラミナ状堆積あり)

SD308・309



[SD308]

1. 灰褐色シルト(鉄分沈着。少量の炭粒、橙灰色粘土が混ざる)
2. 灰褐色シルト(黒灰色粘質土ブロックが多く混ざる)
3. 暗灰褐色粘質土(少量のシルト含む。)
4. 茶灰色粘土

[SD309]

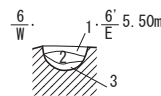
5. 暗灰色シルト(少量の炭粒が混ざる。土器少量)
 6. 灰茶色粘質土(多くの炭粒、均質なシルトが混ざる。土器少量)
 7. 灰茶色粘質土(微量の炭粒、橙灰色粘土、均質なシルトが混ざる)
 8. 灰茶色粘質土(微量の炭粒、灰白色シルトが混ざる)
 9. 灰茶色粘質土(多くのシルト、少量の橙灰色粘土が混ざる)
 10. 灰色粘質土(多くのシルト、定量の炭粒が混ざる)
 11. 灰白色シルト(少量の灰色粘質土混ざる。やや強い流れで形成)
 12. 灰茶色粘質土(多くの橙白色粘土が混ざる)
 13. 黒灰色粘土(灰茶色粘質土、少量のシルトが混ざる)
 14. 灰白色シルト(11層より粘質土多い。少量の炭粒が混ざる。やや強い流れ)
 15. 暗灰色粘質土
 16. 黒灰色粘質土(灰色シルトが混ざる)
- a. 黄白色粘質土(ベース土。シルト均質に混ざる。2次堆積の地山で、弥生中期か)
- b. 黒灰色粘質土(少量の炭粒が混ざる)
- c. 暗灰色粘質土(少量のa層、定量の炭粒が混ざる)
- d. 暗灰色粘質土(定量の黒灰色粘質土、炭粒が混ざる)
- e. 濁灰白色シルト(多くの暗灰色粘土が混ざる)
- f. 灰茶色粘質土
- g. 黄白色シルト

13. 灰茶色粘質土(微量の黒灰色粘質土が混ざる。少量の土器含む)
14. 灰色シルト(12層が多く混ざる)

[第3面SD202(古)]

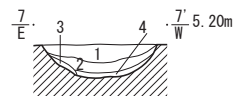
15. 黒灰色粘質土(濁灰白色粘質土、微量の炭粒が混ざる)
 16. 灰褐色シルト(粘性あり。少量の黒灰色粘質土が混ざる)
 17. 灰茶色粘質土(多くの微細な炭粒、灰色粘質土が混ざる)
 18. 濁灰茶色粘質土(多くの微細な炭粒、少量の黄白色シルトが混ざる)
 19. 灰褐色粘質土(多くのシルトが混ざる)
 20. 黄白色シルト(微量の灰褐色粘質土が混ざる)
 21. 灰茶色シルト(粘性あり。多くの黄白色シルトが混ざる)
 22. 濁黄灰色シルト(ベース土に類似。ベース土よりシルト質強い)
 23. 濁黄白色シルト(粘性あり。微量の暗灰色粘質土が混ざる)
 24. 灰茶色粘質土(微量の黒灰色粘質土、少量の黄白色シルトが混ざる)
- a. 黄白色シルト(ベース土。粘性あり。弥生中期か)

SD310



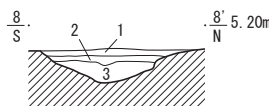
1. 黒灰褐色粘質土(多くの炭化物粒、黄白色砂粒が混ざる)
2. 暗灰色粘質土(炭化物粒、多くの黄白色ブロックが混ざる)
3. 暗灰色粘質土

SD312

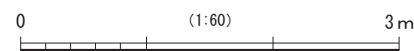


1. 黄灰色粘質土
2. 褐灰色粘質土
3. 灰白色粘質土
4. 褐灰色粘質土 (白色土が混ざる)

SD321

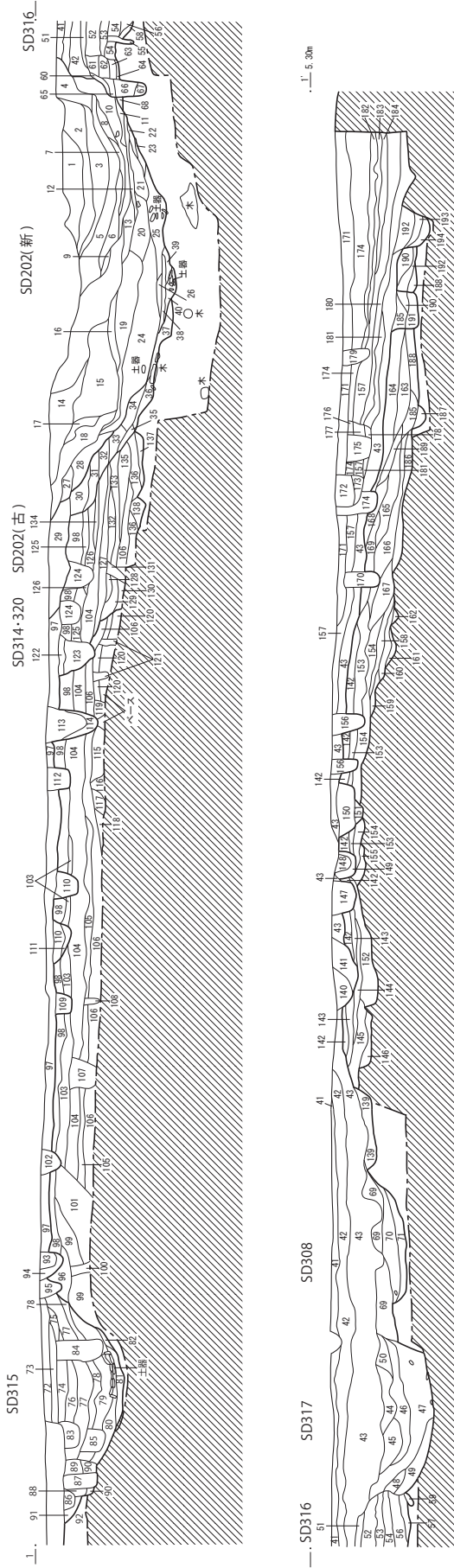


1. にぶい灰黄色粘質土
2. にぶい灰色粘質土(少量の炭化物が混ざる)
3. 淡灰黄色粘質土(少量の砂が混ざる)



第71図 A区第3面溝平面図・土層断面図2 (S=1/60)

トレンチ1・2



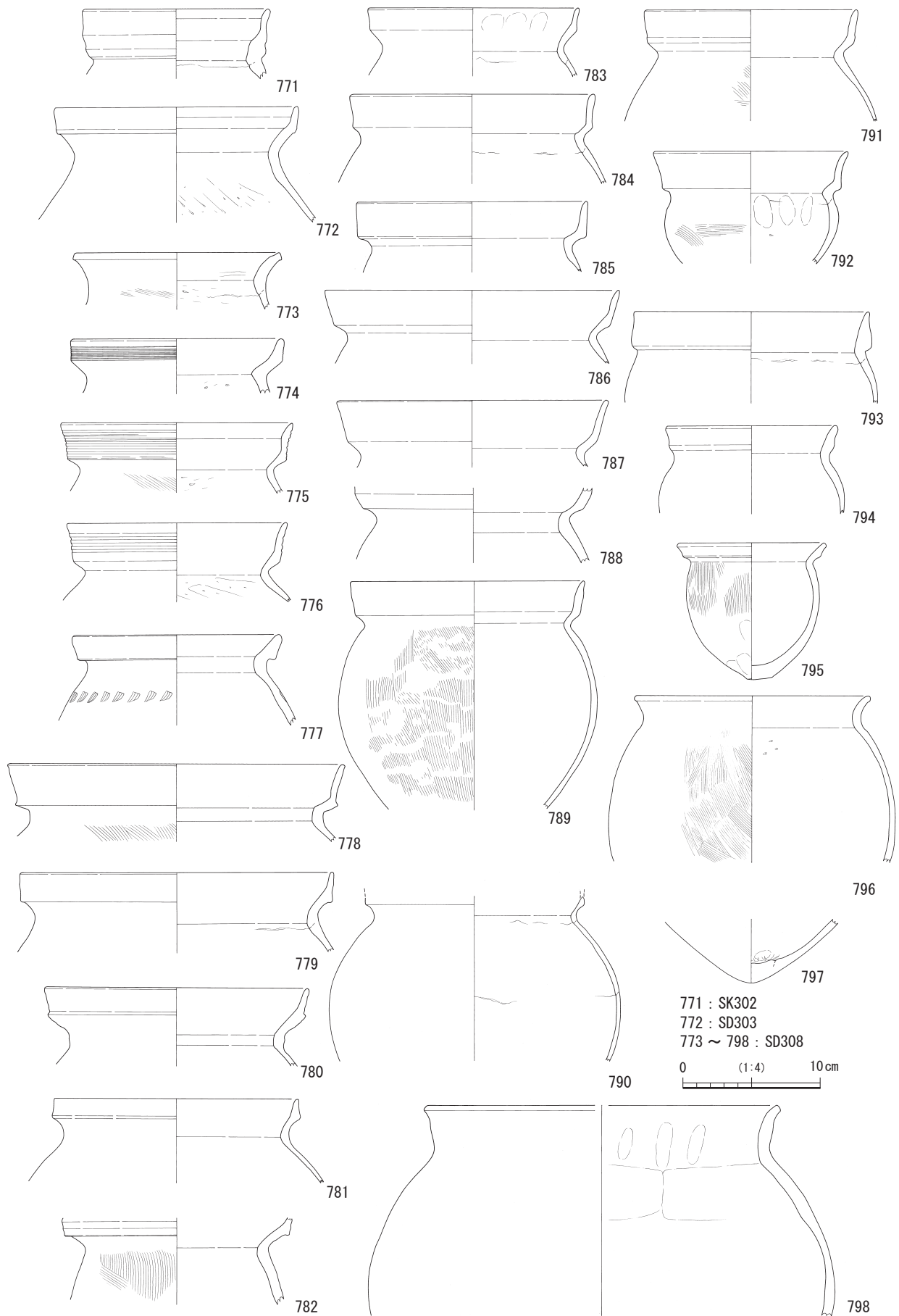
- 【第2面SD202(新) 土層1~28】**
1. 黄灰色粘質土 (多量のシルトと少量の炭粒が混ざる)
 2. 黄灰色シルト (少量の粘質土と少量の炭粒が混ざる)
 3. 灰白色シルト (少量の粘質土と少量の炭粒が混ざる)
 4. 暗灰色シルト (少量の粘質土と少量の炭粒が混ざる)
 5. 黄白色シルト (少量の暗灰色粘質土が混ざる)
 6. 灰白色シルト (粘性あり)
 7. 灰褐色粘土
 8. 青灰色シルト (ラミナ状の堆積、少量の植物質遺体が混ざる)
 9. 灰色シルト (多量の粘質土が混ざる)
 10. 青灰色シルト (ラミナ状堆積、多量の植物質遺体が混ざる)
 11. 青灰色シルト (ラミナ状堆積、微量の植物質遺体が混ざる)
 12. 灰茶色粘質土 (少量の青灰色シルトが混ざる)
 13. 青灰色シルト (ラミナ状堆積、少量の植物質遺体が混ざる)
 14. 暗灰色粘質土 (少量の粘質土と少量の炭粒が混ざる)
 15. 灰白色シルト (少量の粘質土と少量の炭粒が混ざる)
 16. 灰白色シルト (ラミナ状堆積、少量の植物質遺体が混ざる)
 17. 15層と18層の混合土
 18. 暗褐色粘質土 (少量の黄灰色シルトと少量の炭粒が混ざる)
 19. 青灰色シルト (ラミナ状堆積、多量の植物質遺体と少量の炭粒が混ざる)
 20. 青灰色シルト (ラミナ状堆積、著しい量の植物質遺体や少量の自然木・枝、多量の炭粒が混ざる)
 21. 青灰色シルト (ラミナ状堆積、少量の植物質遺体が混ざる)
- 【第3面SD202(古) 土層30~40】**
30. 28層と同質土 (少量の黄白色シルト、少量の炭粒が混ざる)
 31. 28層と同質土 (多量の灰白色シルト、少量の炭粒が混ざる)
 32. 28層と同質土 (多量の灰色シルト、少量の炭粒が混ざる)
 33. 灰褐色粘質土 (多量の黒褐色粘質土が混ざる)
 34. 灰白色シルト (多量の黒褐色粘質土が混ざる)
 35. 灰褐色シルト (暗褐色粘質土、少量の粗砂が混ざる)
 36. 青灰色シルト (少量の黒褐色粘質土、少量の植物質遺体が混ざる)
 37. 青灰色砂 (少量の暗褐色粘質土、少量の植物質遺体、少量の土器が混ざる)
 38. 暗茶灰色粘質土 (少量のシルト、炭粒が混ざる)
 39. 38層と白白色シルトの混合土
 40. 青灰色粗砂 (少量の暗褐色粘質土が混ざる、土器多量出土)
- 【第3面SD202(新) 土層41~43】**
41. 黄灰色シルト (粘性のある灰褐色シルトが多く混ざる)
 42. 暗褐色粘質土 (少量のシルト、少量の炭粒が混ざる、土器少量)
 43. 灰色シルト (少量の灰褐色粘質土が混ざる)
- 【SD317 土層44~50】**
44. 黒灰色粘土 (少量の暗褐色粘土、炭粒、シルトが混ざる)
 45. 黒灰色粘質土 (少量の炭粒、土器が混ざる)
 46. 暗褐色粘質土 (微量の炭粒が混ざる)
 47. 暗褐色粘質土 (多量の灰色シルト、少量の炭粒が混ざる)
 48. 暗褐色粘質土 (少量の黒褐色粘質土が混ざる)
 49. 黒褐色粘質土 (少量の炭粒が混ざる)
 50. 4層と同質土 (少量の炭粒が混ざる)
- 【SD316 土層51~58】**
51. 暗褐色粘質土 (少量のシルト質土、多量の炭粒が混ざる)
 52. 暗褐色粘質土 (少量の黒褐色粘質土、少量の炭粒が混ざる)
 53. 暗褐色粘質土 (少量の炭粒が混ざる)
 54. 暗褐色粘質土 (少量のシルト、少量の炭粒が混ざる)
 55. 暗褐色粘質土 (少量のシルトが混ざる)
 56. 暗褐色粘質土 (少量の黄白色シルト、多量の炭粒が混ざる)
 57. 黒褐色粘質土 (少量のシルト、少量の炭粒が混ざる)
 58. 濁灰緑色シルト (少量の暗褐色粘質土が混ざる)

第72図 A区第3面トレンチ1・2土層断面図1 (S = 1/60)



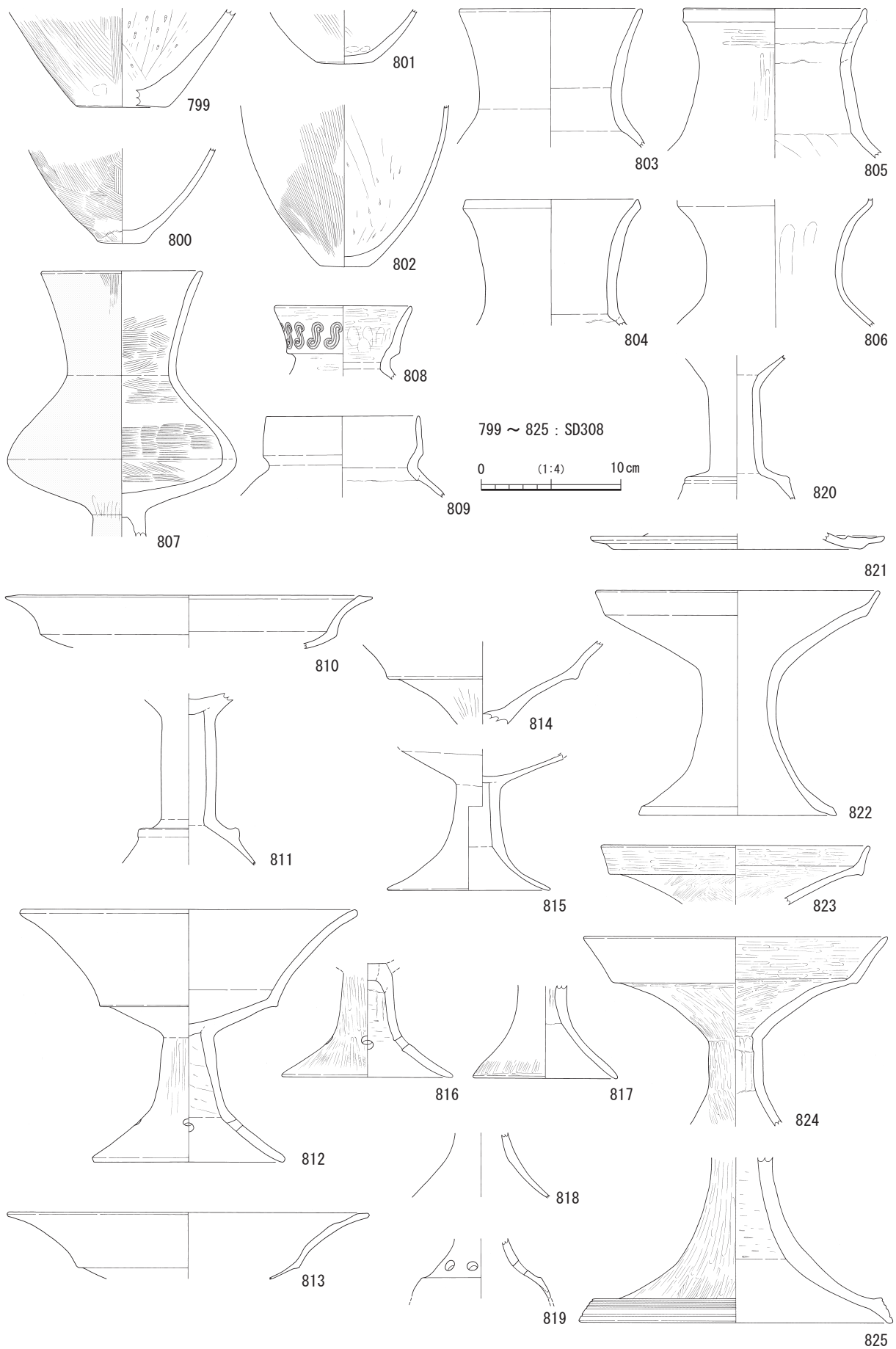
59. 暗褐色粘土 (少量の薄灰色シルトが混ざる)
60. 暗灰茶色粘質土 (多くのシルトが混ざる)
61. 灰茶色シルト (少量の暗灰褐色粘質土が混ざる)
62. 薄黄白色シルト (少量の暗灰褐色粘質土が混ざる)
63. 暗褐色粘質土 (多くの黄白色シルトブロックが混ざる)
64. 暗褐色粘質土
65. 60層と同質土 (多くの黄白色シルトが混ざる)
66. 暗褐色粘質土 (少量の黄白色シルトが混ざる)
67. 薄灰緑色シルト (少量の暗灰褐色粘質土、黒褐色粘質土が混ざる)
68. 薄灰褐色シルト
- (SD308 土層69～71)**
69. 暗褐色粘質土 (定量の黄白色シルトが混ざる)
70. 薄灰色シルト (定量の炭粒が混ざる)
71. 暗灰褐色粘質土 (多くのシルトが混ざる)
72. 灰茶色粘質土 (多くの炭粒が混ざる)
- (SD315 土層73～82)**
73. 薄灰黄色粘質土 (少量の炭粒が混ざる)
74. 暗褐色粘質土 (微量の茶灰色シルト、定量の炭粒、土器が混ざる)
75. 74層と同質土
76. 暗灰褐色粘質土 (定量の薄灰色シルト、多くの炭粒が混ざる)
77. 薄褐色粘質土 (少量の暗灰褐色シルト、多くの炭粒、定量の土器が混ざる)
78. 黒灰色粘質土 (多くの炭粒が混ざる)
79. 暗灰茶色粘質土 (多くの炭粒が混ざる。土器が層下部から層状に出土)
80. 黄灰色シルト (微量のシルト、少量の炭粒、少量の土器が混ざる)
81. 灰白色シルト (暗灰褐色粘質土、定量の炭粒、少量の土器が混ざる)
82. 薄灰茶色シルト (粘性あり)
83. 暗灰茶色シルト (定量の薄灰褐色粘質土、微量の薄灰色粘土が混ざる)
84. 暗灰褐色粘質土 (少量の薄灰褐色粘質土が混ざる)
85. 暗灰茶色シルト (定量の炭粒、多くの土器が混ざる)
86. 薄褐色シルト
87. 暗灰粘質土 (定量のシルト、少量の炭粒、定量の土器が混ざる)
88. 薄灰黄色シルト (少量の暗灰褐色粘質土が混ざる)
89. 薄黄灰色シルト (土器が多く出土)
90. 薄灰褐色粘質土 (定量のシルトが混ざる)
91. 薄黄灰色シルト (定量の灰茶色粘質土が混ざる)
92. 薄黄白色シルト (粘性あり、少量の茶灰色粘土が混ざる)
93. 暗灰褐色シルト (微量の黄灰色シルト、少量の炭粒が混ざる)
94. 灰褐色シルト (微量の黄灰色シルト、少量の炭粒が混ざる)
95. 灰色シルト (定量の94層、微量の炭粒が混ざる)
96. 薄灰褐色粘質土 (多量の灰茶色シルト、微量の炭粒が混ざる)
97. 暗灰褐色粘質土 (29層と同質土、微量の炭粒が混ざる)
98. 薄灰黄色シルト (少量の炭粒が混ざる)
99. 薄褐色シルト (少量の灰白色シルトが混ざる)
100. 灰色シルト (少量の茶灰色粘質土が混ざる)
101. 薄灰褐色シルト (少量の灰茶色シルト、炭粒が混ざる)
102. 薄灰白色粘質土 (暗灰茶色粘質土、少量の土器が混ざる)
103. 薄黄灰色粘質土 (少量の暗褐色粘土が混ざる)
104. 薄灰黄色シルト (粘性あり)
105. 黄白色シルト (少量の暗灰褐色粘質土が混ざる)
106. 薄灰褐色粘質土 (定量の炭粒が混ざる。弥生中期包含層か)
107. 暗灰茶色粘質土 (少量の薄白色粘質土がブロック状に混ざる)
108. 灰褐色粘質土 (少量の黄灰色シルトが混ざる)
109. 暗灰褐色シルト (少量の薄灰色シルトが混ざる)
110. 薄褐色シルト (少量の暗灰褐色シルトが混ざる)
111. 薄白色シルト (少量の110層が混ざる)
112. 薄白色シルト (暗褐色シルトがブロック状に混ざる)
113. 薄黄白色シルト (微量の暗灰褐色シルトが混ざる)
114. 暗灰茶色粘質土 (微量の黄灰色シルト、少量の炭粒が混ざる)
115. 薄黄白色シルト (多量の暗灰茶色粘質土が混ざる)
116. 黄白色シルト (ベースカ)
117. 薄黄白色シルト (少量の暗灰褐色粘質土が混ざる (分層可能))
118. 黒灰色粘質土 (少量の黄白色シルト粒、多量の炭粒が混ざる (分層可能))
119. 黒灰色シルト (少量の黄白色シルトが混ざる)
120. 薄黄白色シルト (少量の灰茶色粘質土が混ざる)
121. 黄白色シルト (少量の灰茶色粘質土が混ざる)
122. 薄白色シルト (少量の暗灰褐色シルトが混ざる)
123. 暗灰茶色シルト (粘性あり、微量の炭粒が混ざる)
124. 薄黄灰色シルト (暗灰茶色シルトが混ざる)
125. 薄褐色粘質土 (多くの灰色シルトが混ざる)
126. 薄褐色シルト (微量の灰褐色粘土が混ざる)
127. 薄黄白色シルト (少量の暗灰褐色粘質土が混ざる)
128. 薄黄白色シルト
129. 灰茶色粘質土 (微量の黄白色シルトが混ざる)
130. 薄褐色粘質土 (定量の黄白色シルトが混ざる)
131. 106層と同質土 (多量の黄白色シルトがブロック状に混ざる)
132. 黄灰色粘質土 (微量の灰褐色粘質土が混ざる)
133. 黄灰色粘質土 (少量の灰褐色粘質土が混ざる)
134. 薄褐色シルト
135. 暗褐色シルト (微量の黄白色シルト、少量の炭粒が混ざる)
136. 暗灰褐色シルト (多量の薄褐色シルトブロックが混ざる)
137. 灰緑色シルト (少量の暗褐色シルトが混ざる)
138. 灰褐色シルト (多量の薄褐色シルトブロックが混ざる)
139. 暗灰褐色粘質土 (定量の黄灰色シルト、少量の暗褐色粘質土が混ざる)
140. 暗灰茶色粘質土 (定量のシルト、微量の薄灰色シルト、少量の炭粒が混ざる)
141. 暗灰粘質土 (定量の薄白色シルトが混ざる)
142. 暗灰茶色粘質土 (少量の暗灰褐色粘質土が混ざる)
143. 暗灰褐色粘質土 (多量の炭(炭層)が北面に多く混ざる)
144. 黒灰色粘質土 (定量の炭粒が混ざる)
145. 暗灰褐色シルト (少量の黄灰色粘質土、炭粒が混ざる)
146. 薄黄白色シルト (暗灰褐色粘質土が混ざる)
147. 灰色シルト (多くの薄灰褐色シルトが混ざる)
148. 暗灰褐色粘質土 (微量の黄灰色シルトが混ざる)
149. 暗灰褐色シルト (粘性あり、少量の黄灰色シルト、黒灰色粘質土が混ざる)
150. 暗灰褐色シルト (粘性あり、微量の黄灰色シルト、少量の炭粒が混ざる)
151. 黒褐色粘質土 (微量の黄白色シルト粒が混ざる。土器少量出土)
152. 薄灰褐色シルト (少量の灰白色シルトが混ざる)
153. 薄黄灰色シルト (定量の暗灰褐色シルト、微量の炭粒が混ざる)
154. 暗灰褐色シルト (少量の黄灰色シルトが混ざる)
155. 暗灰褐色シルト (粘性あり、少量の炭粒が混ざる)
156. 暗灰褐色粘質土 (少量の黄灰色シルト、少量の炭粒が混ざる)
157. 暗灰褐色粘質土 (定量の黒褐色粘質土が混ざる)
158. 黒色粘質土 (少量の灰褐色粘土、定量の炭粒が混ざる)
159. 灰色粘質土
160. 暗灰褐色粘質土 (少量の炭粒が混ざる)
161. 灰白色シルト (定量の160層が混ざる)
162. 暗灰褐色粘質土 (定量の黄白色粘質土が混ざる)
163. 暗灰褐色粘質土 (定量の薄白色粘土、少量の炭粒が混ざる)
164. 163層と同質土
165. 169層と同質土 (多くの黄灰色粘質土がブロック状に混ざる)
166. 黒灰色粘質土 (少量の薄白色粘土ブロック、炭粒が混ざる)
167. 黒灰色粘質土 (定量の薄白色粘土粒～灰緑色シルト、少量の炭粒、黒色粘質土が混ざる)
168. 暗灰褐色粘質土 (定量の灰緑色シルトブロック、少量の炭粒が混ざる)
169. 暗灰褐色粘質土 (粘性あり、微量の黄白色シルト粒が混ざる)
170. 暗灰褐色シルト (少量の黄白色シルトが混ざる)
171. 薄黄白色シルト
172. 薄黄灰色シルト
173. 灰茶色粘質土 (暗褐色粘質土が混ざる。土器少量出土)
174. 薄灰黄色粘土 (少量のシルトが混ざる)
175. 茶灰色粘質土 (多量の黄灰色粘質土が混ざる)
176. 薄灰黄色粘土 (微量の黒褐色粘質土が混ざる)
177. 黒褐色粘質土 (定量の炭粒が混ざる)
178. 暗灰褐色粘質土
179. 黄灰色シルト (下部に暗灰褐色粘質土多く混ざる)
180. 暗褐色粘土 (少量の炭粒が混ざる)
181. 薄灰褐色粘質土 (微量の黄白色シルト粒、少量の炭粒が混ざる)
182. 薄灰褐色粘土 (多量の炭粒が混ざる)
183. 黄白色粘土 (微量の炭粒が混ざる)
184. 暗灰褐色粘質土 (微量の黄白色粘土粒、少量の炭粒が混ざる)
185. 黒灰褐色粘質土 (少量の灰色シルトが混ざる)
186. 薄白色粘質土 (黒灰色粘質土がブロック状に混ざる)
187. 黒灰褐色粘質土 (多量のベース土が混ざる)
188. 黒灰色粘質土 (多量のベース土、少量の炭粒が混ざる)
189. 暗灰褐色粘質土 (少量の黄白色粘質土、炭粒が混ざる)
190. 黒灰色粘質土 (黄白色粘質土がブロック状に混ざる)
191. 黒灰色粘質土 (ブロック状のベース土、炭粒が混ざる)
192. 45層と同質土 (黄灰色粘質土が粒状に混ざる)
193. 灰色粘質土
194. 灰褐色粘質土 (多量のベース土、少量の炭粒が混ざる)

第73図 A区第3面トレンチ1・2土層断面図2

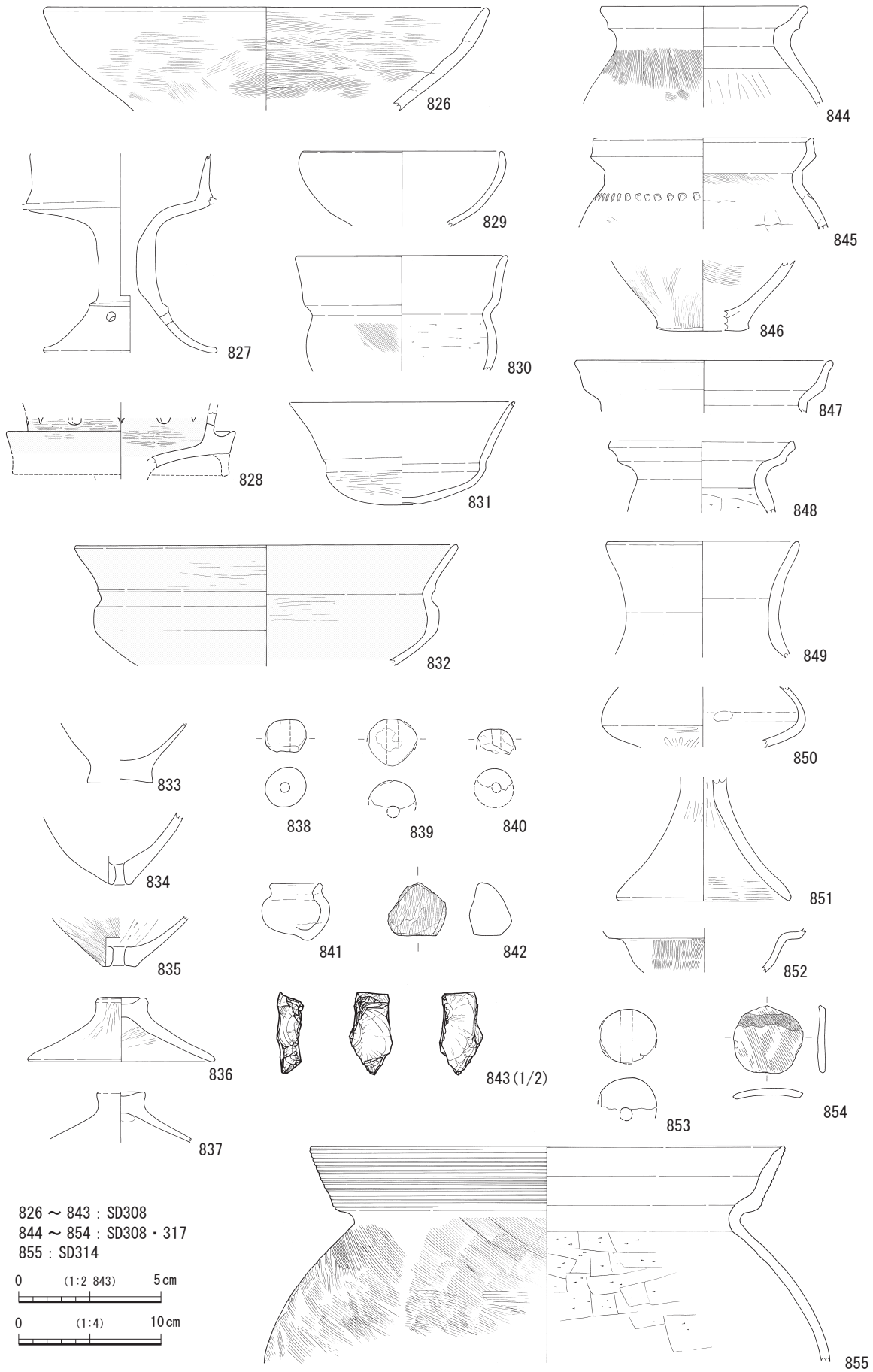


第74図 A区第3面出土遺物実測図1 (S=1/4)

第4節 第3面の遺構と遺物

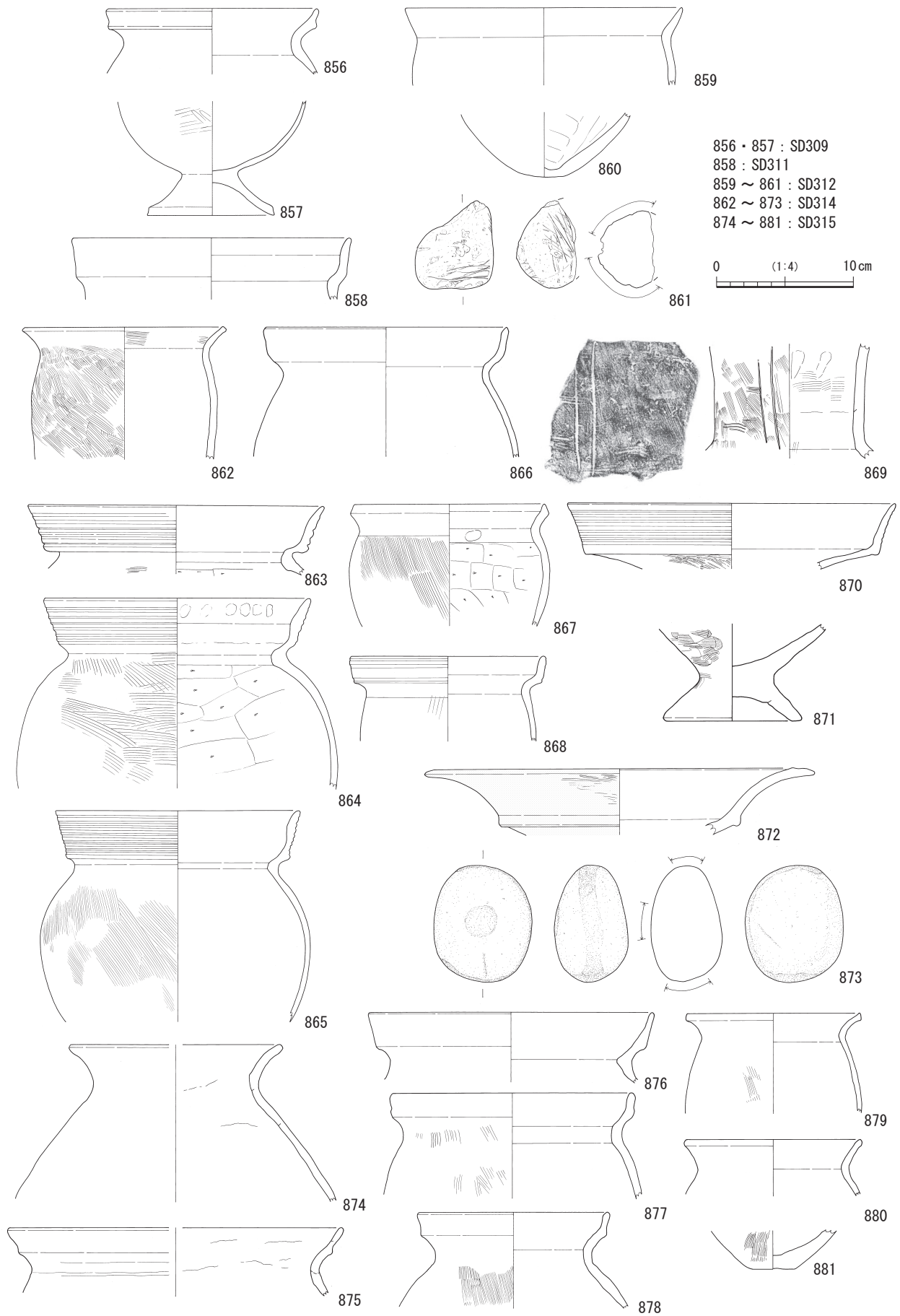


第75図 A区第3面出土遺物実測図2 (S=1/4)

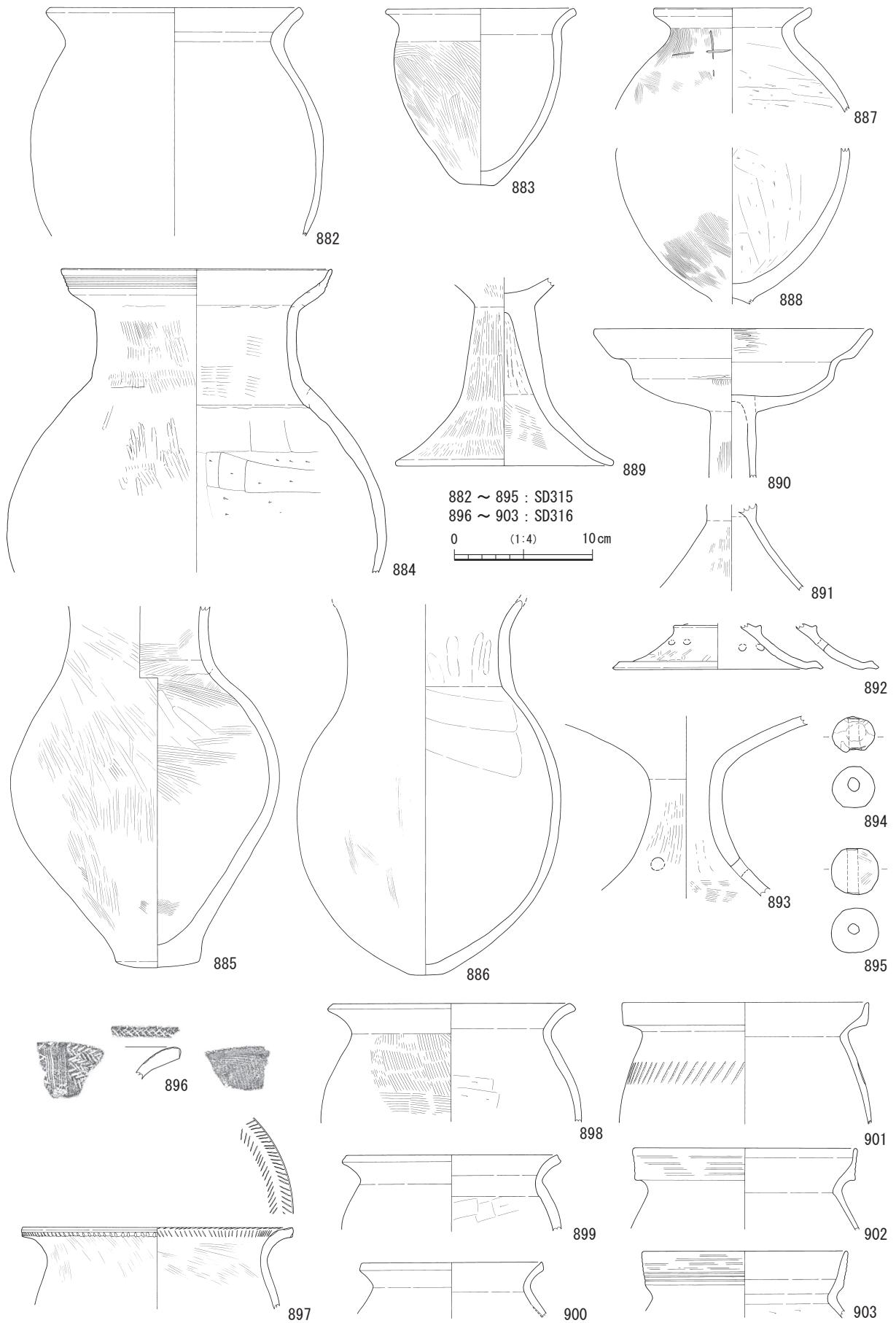


第76図 A区第3面出土遺物実測図3(S=1/2・1/4)

第4節 第3面の遺構と遺物

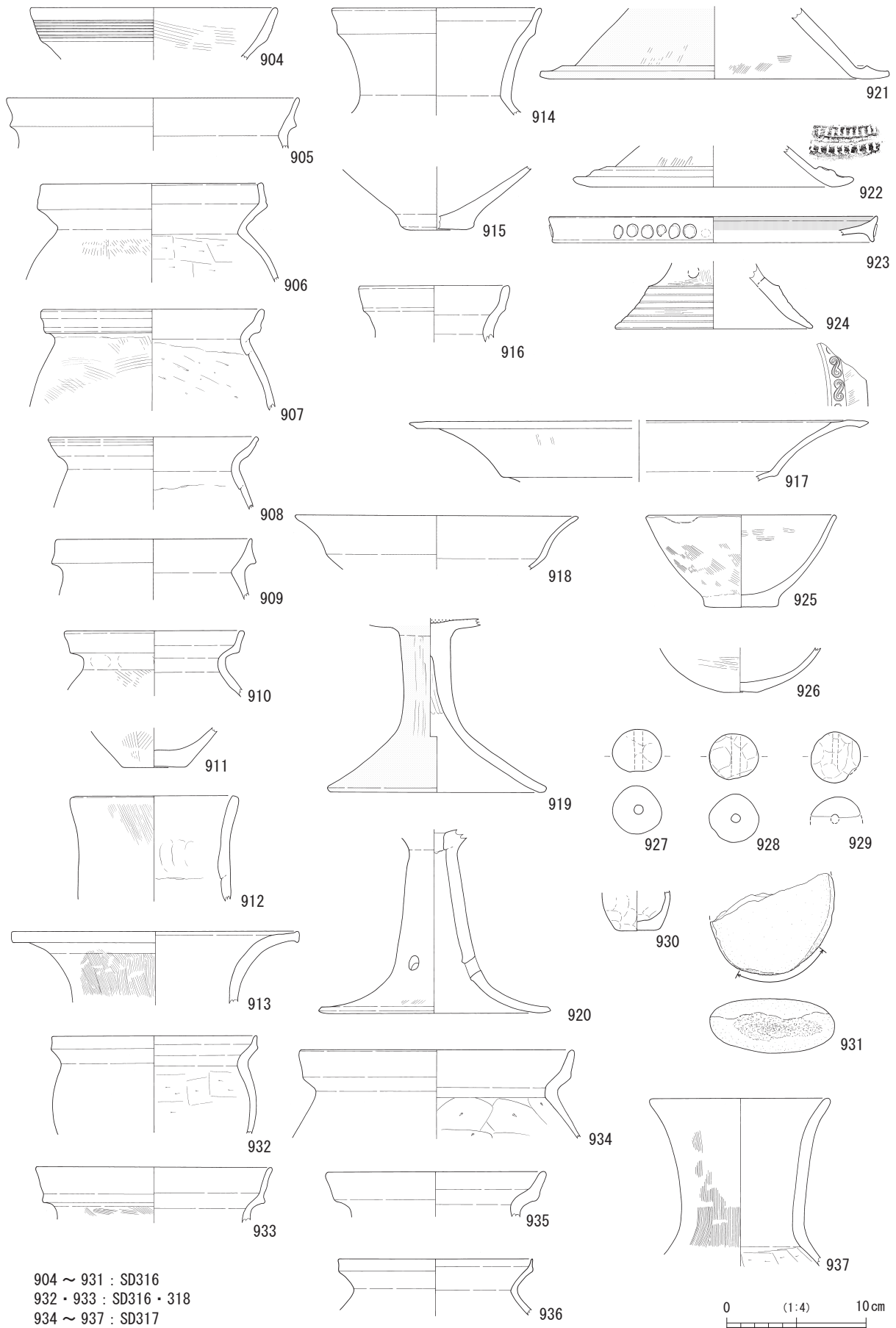


第77図 A区第3面出土遺物実測図4 (S=1/4)



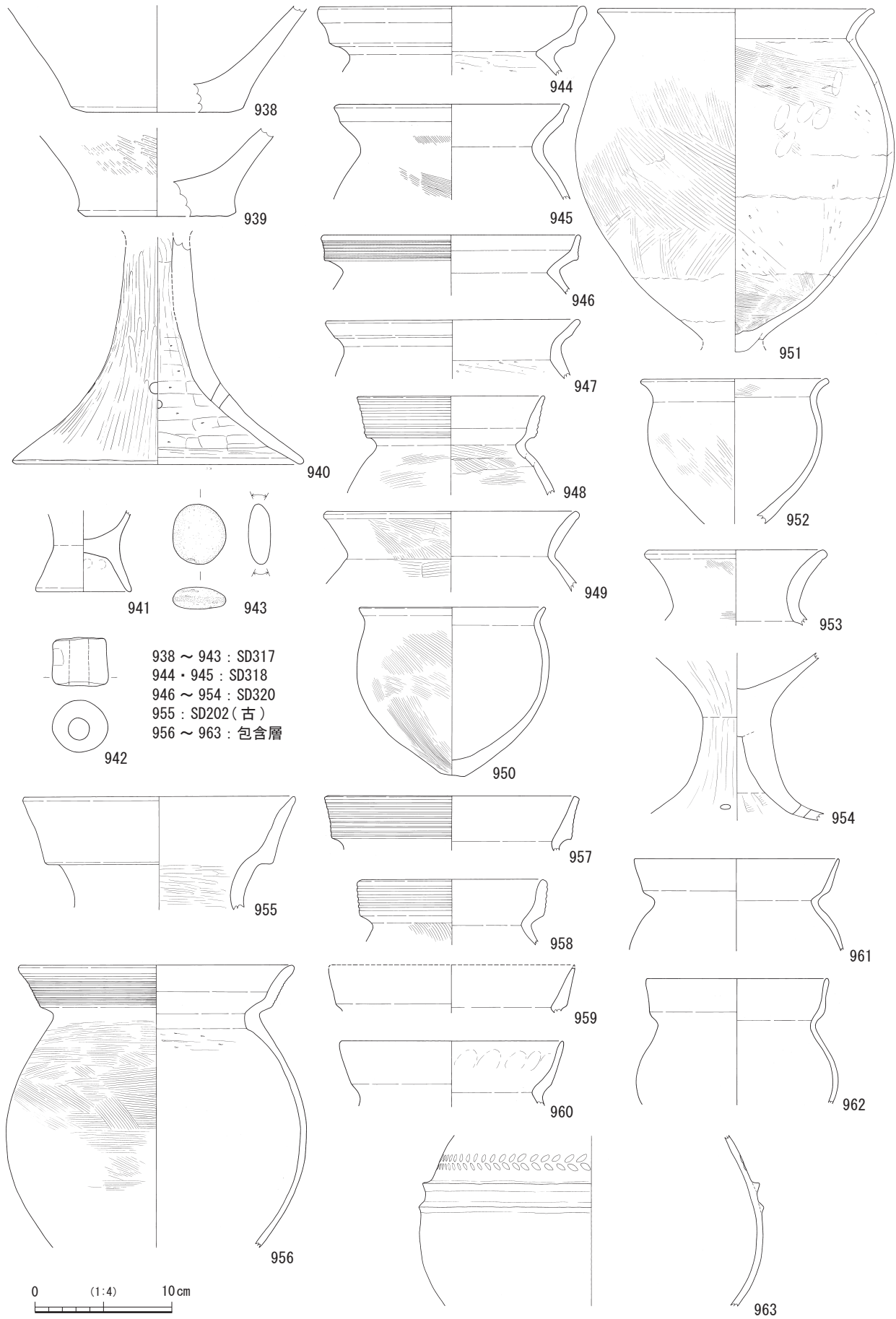
第78図 A区第3面出土遺物実測図5 (S=1/4)

第4節 第3面の遺構と遺物



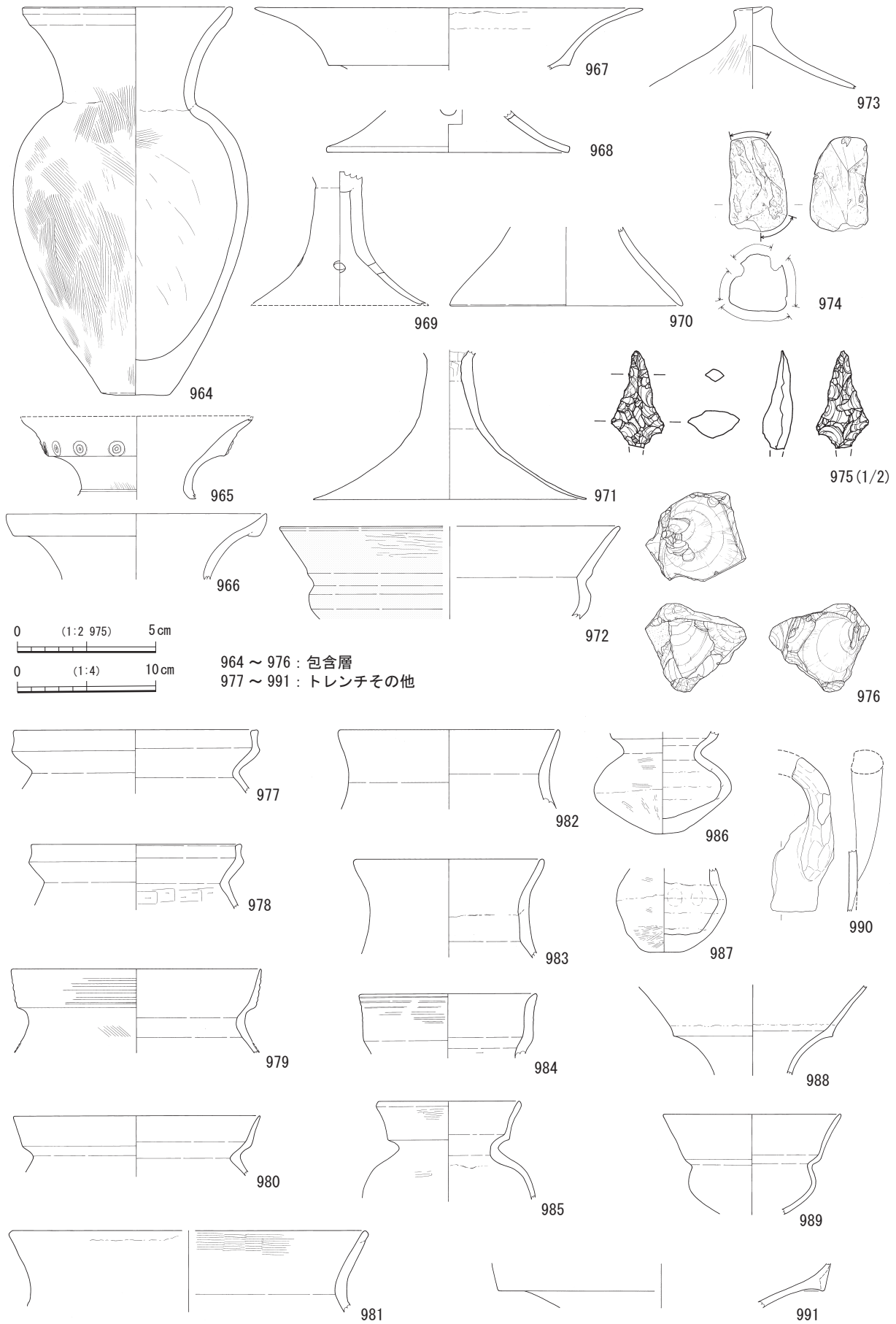
904 ~ 931 : SD316
 932・933 : SD316・318
 934 ~ 937 : SD317

第79図 A区第3面出土遺物実測図6 (S=1/4)

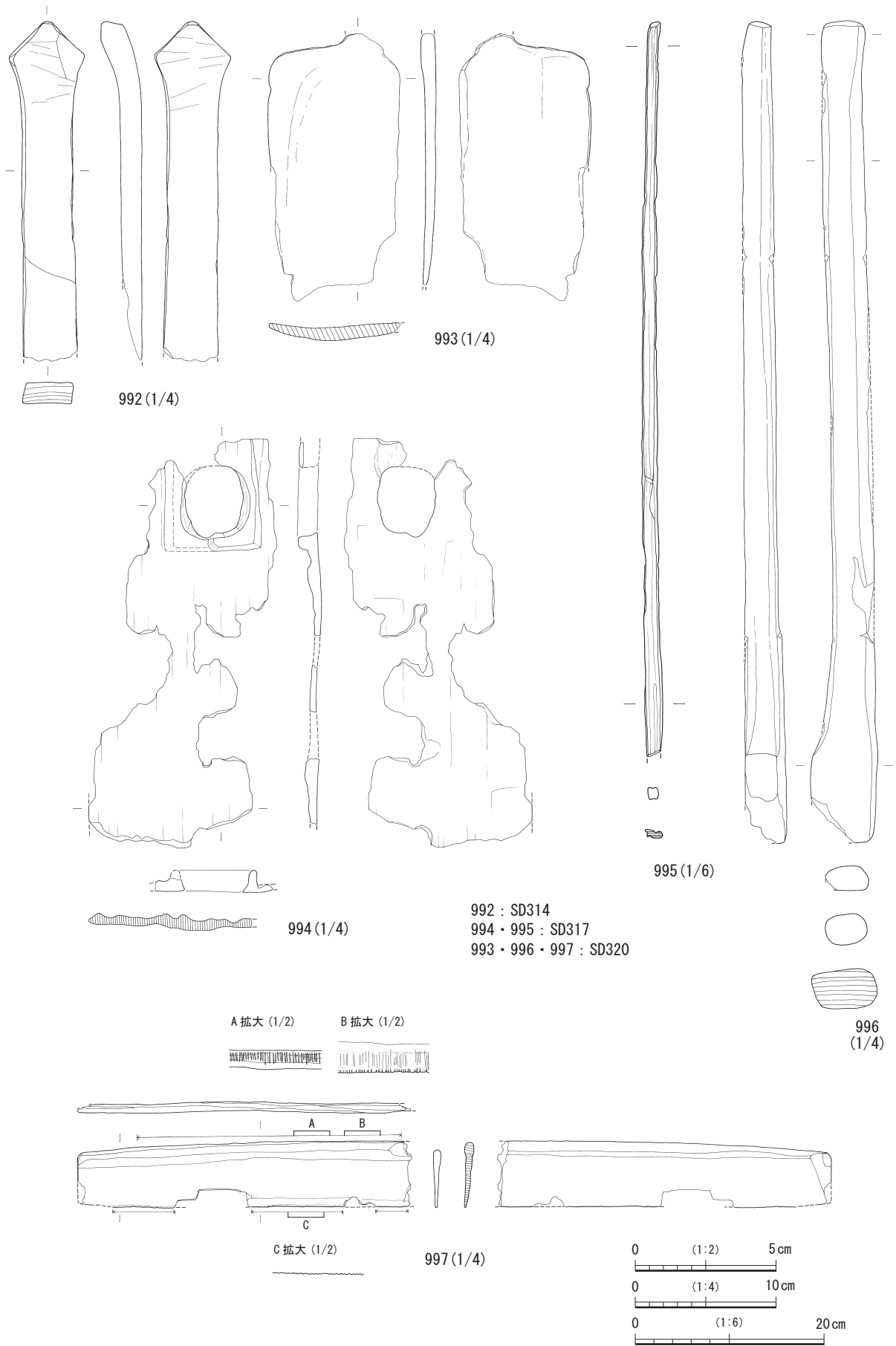


第80図 A区第3面出土遺物実測図7 (S=1/4)

第4節 第3面の遺構と遺物



第81図 A区第3面出土遺物実測図B (S=1/2・1/4)



第82図 A区第3面出土遺物実測図9 (S=1/2・1/4・1/6)

する粘質土であり(第71図)、図化した遺物はない。

SD202(古) P-24・25、O・P-26、P-27で検出し、第2面SD202(新)と流路が重複する別流路である。SD202(新)により大部分が流出し、規模については深さ90cm前後を測ること以外は判然としない。シルトを主体とする堆積土の一部が、第71図断面4土層15～24、第72図土層30～40で確認できる。また、現地調査時の観察では、第72図土層41～43をSD202(古)堆積土と記しており、SD202(古)南側で多量の土砂堆積を伴う氾濫があったと推測できる。他遺構との切り合い関係から、SD314・320より新しく位置付けられる他、第72図土層41～43はSD308・316・317埋没後の堆積土となる。遺物は、第80図955を図示した。弥生時代終末の大型壺955は口径19.9cmを測り、口縁部が緩やかに外反する。

3 包含層等出土遺物 (第80・81図、第47～49表)

包含層及び遺構検出時に出土した遺物のうち、第80図956～第81図976を図示した。956～962は、弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭の甕である。球胴を呈する956は口径19.9cmを測り、口縁部は緩やかに外反する。957は口縁部内面の屈曲が弱い。958は口径13.2cmを測り、器肉は厚い。959は、口縁端部が先細る。960は摩滅し、口縁部内面にかすかに指頭圧痕が残る。961・962とも摩滅が著しい。962は口径13.2cmを測り、胴部はナデ肩を呈する。弥生時代中期後半の壺963は、第45図375と同一個体と考えられ、摩滅が目立つ。外面を綾杉文と2条の貼り付け突帯で加飾する。第81図964は、弥生時代後期後半の壺と考えられ、口径14.8cm、器高28.2cmを測る。口縁部が大きくひろがる他、底部が厚い印象を受ける。965・966は古墳時代前期の壺である。二重口縁の965は口径約17cmを測り、竹管文で施文した円形浮文を貼り付ける。966は口径19.0cmを測り、粘土紐を貼り付けて口縁部を肥厚させる。967～971は高坏で、970以外は弥生時代終末に位置付けられる。摩滅した967と968は同一個体と考えられ、967で口径28.2cmを測る。970は古墳時代前期前半に位置付けられる。971は両面とも摩滅、剥離が進み、器肉が薄くなる。脚裾部が大きく広がり、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。弥生時代終末の有段口縁の鉢972は、外面に赤彩を施す。蓋973は、鈕を丁寧な仕上げる。軽石凝灰岩製の砥石974は全面を研ぎに用い、被熱のため変色する。鉄石英製の石鏃975は、基部を折損する。緑色凝灰岩の石核976は明緑灰色を呈し、一部に加工痕が残る。重さ207.3gを量る。

977～991はトレンチ1、3、6等から出土した。977～981は、弥生時代後期後半～古墳時代前期前葉の甕である。977は口径17.7cmを測り、口縁端部が内傾する。978は外面に煤が付着する。979は内面の摩滅、剥離が著しい。980は口径17.9cmを測り、口縁部は緩やかに外反する。土師器甕981は口径約25cmを測り、口縁部内面をハケ調整で仕上げる。982・983は弥生時代後期後半の壺である。いずれも摩滅し、982が口径15.8cm、983が口径13.5cmを測る。有段口縁の小型壺984～986は、弥生時代終末に位置付けられる。985・986は、外面にミガキ調整を施す。土師器小型壺987は底部が厚く、胴部外面下半にハケ調整痕が残る。988・989は、弥生時代終末に位置付けられる。器台988は、摩滅が著しい。有段口縁の小型鉢989は口径12.7cmを測り、口縁部は緩やかに外反する。990は壺胴部に貼り付けた把手である。991は弥生時代終末の器台と考えられ、焼成はよくない。

また、写真図版48に掲載したおにぎり形を呈した石器は、幅2.9cm、高さ2.7cm、厚さ1.5cmを測る。器面が非常に平滑であり、指で持ちながら固体表面を平滑に仕上げる道具と考えられる。砂岩製で、重さ17.2gを量る。

※ ()は残存法量を示す。

| 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 発掘 番号 |
|----------|---------------------|------|----|------------|------------|------------|------------|------------|--------------|----|--------------|------------|-----------------|-------------------------------|----------|
| 74 771 | 7A3SK302 | 土師器 | 甕 | 13.5 | - | (5.1) | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | □33/36 | 外面煤付着。磨減顕著 | C-373 |
| 74 772 | 7A3SD303(トレンチ8西側) | 弥生土器 | 甕 | 17.8 | - | (8.4) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | 磨減不明 | □11/36 | 磨減不明 | C-705 |
| 74 773 | 7A3SD308上層 | 弥生土器 | 甕 | 15.0 | - | (4.1) | にぶい橙 | 橙 | b-4 M・L | 良 | ハケ後ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □5/36 | ヨコナデ、ハケ | C-729 |
| 74 774 | 7A3SD308 | 弥生土器 | 甕 | 15.3 | - | (4.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | □4/36 | 浅い縦凹線(7条1単位)。外面煤付着 | C-368 |
| 74 775 | 7A3SD308 | 弥生土器 | 甕 | 16.8 | - | (5.1) | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □14/36 | 縦凹線(7条1単位)か。磨減・剥離目立つ | C-367 |
| 74 776 | 7A3SD308上層③ | 弥生土器 | 甕 | 16.0 | - | (5.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S | 良 | ヨコナデ、ケズリ | 磨減不明 | □12/36 | 縦凹線。磨減・剥離顕著 | C-385 |
| 74 777 | 7A3SD308 | 弥生土器 | 壺 | 15.0 | - | (6.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリか | 磨減不明 | □8/36 | 肩部に削突文。外面煤付着。磨減顕著 | C-413 |
| 74 778 | 7A3SD308上層 | 弥生土器 | 甕 | 24.2 | - | (5.7) | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | a-4 M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | □3/36 | | C-421 |
| 74 779 | 7A3SD308、第1面 | 弥生土器 | 甕 | 22.5 | - | (5.9) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 M・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | □12/36 | 磨減顕著 | C-394 |
| 74 780 | 7A3SD308 | 弥生土器 | 甕 | 19.0 | - | (5.7) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ナデ | □4/36 | 外面煤付着 | C-452 |
| 74 781 | 7A3SD308上層① | 弥生土器 | 甕 | 17.8 | - | (6.2) | 橙、黄灰 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | □10/36 | 磨減顕著 | C-380 |
| 74 782 | 7A3SD308 | 弥生土器 | 甕 | 約17 | - | (6.4) | 浅黄橙 | 黒 | a-3 S・M | 不良 | 磨減不明 | ヨコナデ、ハケ | - | 外面焼成不良 | C-414 |
| 74 783 | 7A3SD308上層 | 弥生土器 | 甕 | 15.4 | - | (5.0) | 浅黄橙 | 橙 | b-4 M・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | □7/36 | 磨減顕著 | C-727 |
| 74 784 | 7A3SD308下層 | 弥生土器 | 甕 | 17.7 | - | (6.5) | 橙 | 橙 | a-4 M・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | □9/36 | 磨減顕著 | C-404 |
| 74 785 | 7A3SD308上層② | 弥生土器 | 甕 | 16.8 | - | (5.1) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-4 S・M | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | □9/36 | 磨減顕著 | C-732 |
| 74 786 | 7A3SD308上層③ | 弥生土器 | 甕 | 21.4 | - | (5.4) | にぶい橙、 灰 | にぶい橙、 灰 | b-3 S・M | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | □18/36 | 磨減顕著 | C-384 |
| 74 787 | 7A3SD308上層② | 弥生土器 | 甕 | 19.6 | - | (4.9) | 橙、灰 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | □6/36 | 磨減顕著 | C-733 |
| 74 788 | 7A3SD308 | 弥生土器 | 甕 | - | - | (5.5) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 S・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ | 底7/36 | 磨減目立つ。口縁部に被執痕 | C-423 |
| 74 789 | 7A3SD308上層④ | 弥生土器 | 甕 | 17.0 | - | (16.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □10/36 | 外面全体煤付着 | C-391 |
| 74 790 | 7A3SD308上層⑤ | 弥生土器 | 甕 | - | - | (12.0) | 黄灰 | にぶい橙 | a-4 M | 良 | ケズリか | 磨減不明 | - | 外面に黒斑 | C-392-1 |
| 74 791 | 7A3SD308上層(トレンチ8西側) | 弥生土器 | 甕 | 15.4 | - | (8.1) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-3 S・M・L | 良 | 磨減不明 | ヨコナデ、ハケ | □8/36 | 外面煤付着 | C-712 |
| 74 792 | 7A3SD308、第1面包含層 | 弥生土器 | 甕 | 14.1 | - | 8.1 | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ後ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □32/36 | 口縁部歪みあり。内面コゲ、外面煤付着。 器面脆くなる | C-390 |
| 74 793 | 7A3SD308 | 土師器 | 甕 | 17.0 | - | (6.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリか | ヨコナデ、ナデ | □24/36 | 磨減目立つ | C-419 |
| 74 794 | 7A3SD308上層① | 弥生土器 | 甕 | 12.4 | - | (6.4) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | □13/36 | 外面被熱・煤付着。磨減顕著 | C-381 |
| 74 795 | 7A3SD308上層① | 弥生土器 | 小甕 | 10.6 | 1.9 | 10.0 | 灰黄 | 灰黄 | a-3 S・M・L | 並 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ、ナデ | □7/36 底36/36 | 外面に黒斑 | C-383 |
| 74 796 | 7A3SD308上層⑥ | 土師器 | 甕 | 16.9 | - | (12.2) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-3 M | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □17/36 | 外面煤付着。797と同一個体か | C-535-1 |
| 74 797 | 7A3SD308上層⑥ | 土師器 | 甕 | - | - | (4.7) | にぶい褐 | にぶい橙 | a-3 M | 良 | ケズリ後ナデ | ナデ | 底36/36 | 内面コゲ付着。796と同一個体か | C-535-2 |
| 74 798 | 7A3SD308、第1面 | 土師器 | 甕 | 約25 | - | (15.4) | にぶい黄橙 | 橙 | b-4 M・L | 並 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ | □9/36 | 磨減目立つ | C-395 |
| 75 799 | 7A3SD308下層② | 弥生土器 | 甕 | - | 6.3 | (7.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-5 M・L | 良 | ケズリ | ハケ | 底12/36 | 外底煤付着 | C-737 |
| 75 800 | 7A3SD308上層⑤ | 弥生土器 | 甕 | - | 3.2 | (6.9) | 黄灰 | 黄灰 | a-4 M | 良 | 磨減不明 | ハケ、ナデ | 底36/36 | 外面煤付着。底部被熱で変色 | C-392-2 |
| 75 801 | 7A3SD308上層 | 弥生土器 | 甕 | - | 4.0 | (3.8) | にぶい橙 | 暗灰 | a-3 M・L | 良 | ケズリ | ハケ、ナデ | 底36/36 | 外面煤付着 | C-728 |

第42表 A区第3面出土器観察表1

※()は残存法量を示す。

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色调 | 外面色调 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 実測 番号 |
|----------|----------|---|-------------|-------------|------------|------------|------------|------------|------------|--------------|----|-------------|--------------|------------------|--------------------------------|----------|
| 75 | 802 | 7A3SD308 | 弥生土器 | 甕 | - | 3.5 | (11.6) | 灰黄褐 | 黄灰 | a-3 S・M | 良 | ケズリ | ハケ、ナデ | 底36/36 | 底部外面焼熱変色、煤付着 | C-412 |
| 75 | 803 | 7A3SD308 | 弥生土器 | 直口壺 | 13.0 | - | (9.9) | にぶい橙 | 橙 | a-3 M・L | 良 | ヨコナデカ | ヨコナデカ | 口5/36 | 磨滅目立つ | C-424 |
| 75 | 804 | 7A3SD308上層 | 弥生土器 | 直口壺 | 12.4 | - | (9.0) | 橙 | 橙 | b-3 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口8/36 | 磨滅顕著 | C-399 |
| 75 | 805 | 7A3SD308上・下層、トレンチ3 | 弥生土器 | 長口壺 | 12.9 | - | (10.8) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ミガキ | 口1/36 | 外面煤付着 | C-397 |
| 75 | 806 | 7A3SD308 | 弥生土器 | 長口壺 | - | - | (9.2) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | - | 磨滅顕著 | C-416 |
| 75 | 807 | 7A3SD308、7A3SD319、 トレンチ8西側 | 弥生土器 | 台付細頸壺 | 11.4 | - | (19.0) | 黒 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ、ナデ | ヨコナデ、ミガキ | 口3/36 | 外面赤彩 | C-449 |
| 75 | 808 | 7A3SD308、第1面 | 弥生土器 | 短頸壺 | 9.8 | - | (5.2) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-2 M | 良 | ミガキ | ヨコナデ、ミガキ | 口13/36 | S字状スタンプ文、剝離顕著 | C-393 |
| 75 | 809 | 7A3SD308上層④ | 弥生土器 | 壺 | 11.0 | - | (5.8) | 黄灰 | 黄灰 | a-3 S | 並 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口25/36 | 磨滅・剝離顕著 | C-388 |
| 75 | 810 | 7A3SD308上層 | 弥生土器 | 高坏 | 26.3 | - | (3.8) | 橙 | 橙 | a-3 M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口10/36 | 磨滅顕著 | C-398 |
| 75 | 811 | 7A3SD308上層① | 弥生土器 | 高坏 | - | - | (12.3) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-3 S・M | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | - | 磨滅顕著 | C-378 |
| 75 | 812 | 7A3SD308上層④ | 弥生土器 | 高坏 | 23.8 | 13.6 | 18.2 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ミガキ、ナデ | ミガキ | 口8/36 底14/36 | 透かし孔4ヶ所(孔径0.7cm) | C-387 |
| 75 | 813 | 7A3SD308上層(レンチ8西側) | 弥生土器 | 高坏 | 25.8 | - | (4.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口10/36 | 磨滅・剝離顕著 | C-411 |
| 75 | 814 | 7A3SD308(トレンチ8西側) | 弥生土器 | 高坏 | - | - | (5.9) | 赤橙、浅黄 橙 | 赤橙、浅黄 橙 | a-3 S・M | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口3/36 | 磨滅顕著 | C-376 |
| 75 | 815 | 7A3SD308上層(レンチ8西側) | 弥生土器 | 高坏 | - | 11.6 | (10.2) | 明赤褐 | 明赤褐 | b-3 S | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 底11/36 | 磨滅・剝離顕著 | C-410 |
| 75 | 816 | 7A3SD308上層 | 弥生土器 | 高坏 | - | 12.0 | (8.3) | 浅黄橙 | にぶい橙 | a-2 S | 良 | ナデ | ハケ後ミガキ、ヨコナデ | 底6/36 | 透かし孔4ヶ所(孔径0.8cm) | C-708 |
| 75 | 817 | 7A3SD308上層 | 弥生土器 | 高坏 | - | 10.2 | (6.6) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 S・M | 良 | ナデ | ニガキカ | 脚36/36 | 内面収り痕。内外面に黒斑。磨滅目立つ | C-709 |
| 75 | 818 | 7A3SD308 | 弥生土器 | 高坏 | - | - | (4.6) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | - | 磨滅顕著 | C-417-1 |
| 75 | 819 | 7A3SD308 | 弥生土器 | 高坏または 器台 | - | - | (4.3) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | - | 2孔二対の透かし孔3ヶ所(孔径1.0cm)。 磨滅顕著 | C-417-2 |
| 75 | 820 | 7A3SD308上層① | 弥生土器 | 器台 | - | - | (10.3) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 S・M | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | - | 磨滅顕著 | C-377 |
| 75 | 821 | 7A3SD308 | 弥生土器 | 高坏か | - | 17.7 | (1.1) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-3 S・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 脚6/36 | 磨滅顕著 | C-451 |
| 75 | 822 | 7A3SD308 | 弥生土器 | 器台 | 20.2 | 14.0 | 16.3 | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-3 S・M | 良 | 磨滅不明 | ミガキカ | 口19/36 底33/36 | 外面に黒斑。磨滅・剝離顕著 | C-415 |
| 75 | 823 | 7A3SD308上層 | 弥生土器 | 器台 | 19.0 | - | (4.2) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-3 S・M | 良 | ミガキ | ミガキ | 口5/36 | 内面にシボリ痕 | C-400 |
| 75 | 824 | 7A3SD308上層④ | 弥生土器 | 器台 | 21.6 | - | (13.7) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M | 良 | ミガキ、ナデ | ミガキ | 口11/36 | 内面にシボリ痕 | C-386 |
| 75 | 825 | 7A3SD308下層① | 弥生土器 | 器台 | - | 22.2 | (11.9) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ | ハケ後ミガキ | 脚11/36 | 擬凹線(4条1単位)。外面に黒斑 | C-402 |
| 76 | 826 | 7A3SD308上層(トレンチ8西側)、 7A3SD202両趾流れ4下層 | 弥生土器 土師器 | 高坏 | 31.0 | - | (7.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口9/36 | 内面黒斑 | C-405 |
| 76 | 827 | 7A3SD308 | 弥生土器 | 裝飾器台 | - | 11.9 | (14.0) | 橙 | 橙 | a-3 S・M | 良 | ミガキ、ナデ、ヨコナデ | ミガキカ | - | 透かし孔3ヶ所(孔径0.7cm)。磨滅顕著 | C-418 |
| 76 | 828 | 7A3SD308上層③、7A3SD202(中) 上層ブロック4、下層 | 弥生土器 | 裝飾器台 | - | - | (4.0) | 橙 | 橙 | b-3 S・M | 良 | ナデ、ハケ後ミガキ | ナデ、ハケ後ミガキ・ナデ | - | 赤彩。透かし孔12ヶ所 | C-130 |
| 76 | 829 | 7A3SD308上層② | 弥生土器 | 鉢 | 13.9 | - | (5.3) | 橙 | 橙 | a-3 S・M | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口9/36 | 磨滅顕著 | C-731 |
| 76 | 830 | 7A3SD308上層(トレンチ8西側) | 弥生土器 | 鉢 | 14.8 | - | (8.1) | 橙 | 橙 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口4/36 | ゆがみあり。外面煤付着 | C-711 |
| 76 | 831 | 7A3SD308上層③ | 弥生土器 | 鉢 | 15.8 | 2.0 | 7.3 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 不良 | 磨滅不明 | ミガキ | 口5/36 | ほぼ完形。磨滅・剝離顕著 | C-382 |
| 76 | 832 | 7A3SD308上層(レンチ8西側) | 弥生土器 | 鉢 | 26.8 | - | (8.5) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-4 S・M | 良 | ミガキ | ミガキ | 口10/30 | 両面赤彩。磨滅・剝離顕著 | C-406 |

第43表 A区第3面出土土器観察表2

※ ()は残存量を示す。

| 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 発掘 番号 |
|----------|-----------------------------------|------|------------|---------------|------------|------------|------------------------|----------------|--------------|----|-------------|---------|--------|---------------------------------|----------|
| 76 833 | 7A3SD308上層(トレンチ8西側) | 弥生土器 | 小型鉢 | - | 4.6 | (4.2) | にぶい黄 にぶい黄橙 にぶい赤褐 | 明赤褐 | a-3 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 底36/36 | 底部台状。磨滅顕著。外面煤付着 | C-408 |
| 76 834 | 7A3SD308上層(トレンチ8西側) | 弥生土器 | 有孔鉢 | - | 2.0 | (5.0) | にぶい黄 にぶい黄橙 | にぶい黄橙 にぶい赤褐 | a-3 S・M | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 底36/36 | 底部穿孔(径0.6cm)。磨滅目立つ | C-409 |
| 76 835 | 7A3SD308上層 | 弥生土器 | 有孔鉢 | - | 2.3 | (3.5) | にぶい黄 | 浅黄橙 | b-4 M | 良 | ケズリ | ハケ、ナデ | 底36/36 | 底部穿孔(径0.8cm)。外面に黒斑 | C-730 |
| 76 836 | 7A3SD308上層② | 弥生土器 | 蓋 | つまみ径 3.7 | 4.5 | (3.5) | にぶい黄 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 不良 | ミガキ | ミガキ | 口11/36 | 外面に黒斑。磨滅目立つ | C-379 |
| 76 837 | 7A3SD308、第1面 | 弥生土器 | 蓋 | つまみ径 3.3 | 3.3 | (3.5) | にぶい黄 | にぶい黄 | b-4 S・M | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | - | 磨滅目立つ | C-396 |
| 76 838 | 7A3SD308上層④(トレンチ東) | 弥生土器 | 土罐 | 長さ 2.3 | 径 0.7 | (4.0) | - | 浅黄橙 | b-4 S | 良 | - | ナデ | 完形 | 重量14.3g | C-389 |
| 76 839 | 7A3SD308 | 弥生土器 | 土罐 | 長さ 3.3 | 径 (3.3) | (3.3) | - | にぶい黄橙 | a-4 M・L | 良 | - | ナデ | - | 残存重量16.5g | C-422 |
| 76 840 | 7A3SD308上層⑤ | 弥生土器 | 土罐 | 長さ (1.8) | 径 (2.6) | (2.6) | - | 灰黄 | a-4 M・L | 並 | - | ナデ | - | 残存重量6.6g | C-401 |
| 76 841 | 7A3SD308上層(レンチ8西側) | 土師器か | 手づくね 土器 | 3.3 | - | 4.0 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ナデ | 口10/30 | 底部付近ゆがみ大。外面に黒斑 | C-407 |
| 76 844 | 7A3SD308-7A3SD317 | 弥生土器 | 甕 | 14.4 | - | (7.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口10/36 | 外面に黒斑 | C-427 |
| 76 845 | 7A3SD308上・下層①、 7A3SD317 | 弥生土器 | 甕 | 15.3 | - | (6.4) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口4/36 | 楕状具による斜行列点文。外面スス付着。 846と同一個体 | C-403-1 |
| 76 846 | 7A3SD308上・下層①、 7A3SD317 | 弥生土器 | 甕 | - | 6.4 | (5.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 M・L | 良 | ハケ、ナデ | ハケ、ナデ | 底7/36 | 845と同一個体 | C-403-2 |
| 76 847 | 7A3SD308-7A317 | 弥生土器 | 甕 | 17.8 | - | (3.6) | にぶい赤褐 | にぶい赤褐 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ、ナデ | 口10/36 | 外面煤付着。磨滅顕著 | C-459 |
| 76 848 | 7A3SD308、7A1317 | 弥生土器 | 小甕 | 12.9 | - | (5.0) | 褐灰 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ナデ | 口6/36 | | C-707 |
| 76 849 | 7A3SD308-7A3SD317 | 弥生土器 | 長口壺 | 13.4 | - | (8.2) | 橙 | 橙 | a-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口6/36 | 赤色酸化粒多い。磨滅顕著 | C-425 |
| 76 850 | 7A3SD308、7A317 | 弥生土器 | 細頸壺 | - | - | (4.3) | にぶい黄 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | ナデ | ミガキ | - | 磨滅目立つ | C-706 |
| 76 851 | 7A3SD308-7A3SD317 | 弥生土器 | 高坏 | - | 12.3 | (8.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 S・M・L | 良 | ナデ、ハケ | ナデ、ハケ | 底7/36 | 内面シボリ痕 | C-420 |
| 76 852 | 7A3SD308-7A317 | 弥生土器 | 鉢 | - | - | (3.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口9/36 | 口縁部内面コゲ、外面煤付着(煮炊転用) | C-710 |
| 76 853 | 7A3SD308-7A317 | 弥生土器 | 土罐 | 長さ 3.8 | 径 (4.0) | (4.0) | - | 黒褐 | a-2 S | 並 | - | ナデ | - | 残存重量25.5g | C-460 |
| 76 854 | 7A3SD308-7A3SD317 | 弥生土器 | 土製円蓋 | 長さ 4.7~4.9 | - | 厚さ 0.5 | にぶい黄 | にぶい黄 | a-4 M・L | 良 | 磨滅不明 | ハケ | - | 壺胴部転用。11.7g。外面煤付着 | C-426 |
| 76 855 | 7A3SD202(西)(中)下層・最下層、 7A3SD314 | 弥生土器 | 甕 | 33.2 | - | (15.3) | 浅黄橙 | 灰黄褐 | b-5 S・M | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口16/36 | 擬凹線14~16条。内面口縁部ヨコレ、 外面煤付着 | C-225 |
| 77 856 | 7A3SD309(トレンチ8東側畔内) | 弥生土器 | 甕 | 15.4 | - | (4.8) | 浅黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | ヨコナデ | 口7/36 | 外面煤付着。磨滅目立つ | C-527 |
| 77 857 | 7A3SD309 | 弥生土器 | 台付壺 | - | 9.3 | (8.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄 | a-3 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | ミガキ、ナデ | 底36/36 | 磨滅・被熱顕著 | C-450 |
| 77 858 | 7A3SD311 | 弥生土器 | 甕 | 20.2 | - | (4.5) | 褐灰 | 褐灰 | a-3 S・M・L | 並 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ナデ | 口3/36 | 内外面被熱・煤付着 | C-458 |
| 77 859 | 7A3SD312 | 土師器 | 甕 | 20.2 | - | (5.7) | にぶい黄 | 黒褐 | b-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | 磨滅不明 | 口7/36 | 磨滅目立つ。860と同一個体 | C-448-1 |
| 77 860 | 7A3SD312 | 土師器 | 甕 | - | - | (4.8) | にぶい黄 | 黒褐 | b-4 S・M・L | 良 | ナデ | 磨滅不明 | 底36/36 | 外面煤付着。859と同一個体 | C-448-2 |
| 77 862 | 7A3SD314右岸 | 弥生土器 | 甕 | 14.6 | - | (9.7) | 浅黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 M・L | 良 | ハケ後ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口3/36 | 内面ヨコレ、外面煤付着 | C-442 |
| 77 863 | 7A3SD314右岸 | 弥生土器 | 甕 | 21.4 | - | (5.1) | 橙 | 橙 | b-4 M | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口15/36 | 擬凹線(5条1単位)。外面煤付着 | C-441 |
| 77 864 | 7A3SD314 | 弥生土器 | 甕 | 19.5 | - | (19.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-6 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口6/36 | 擬凹線(7条1単位)。外面煤付着 | C-445 |
| 77 865 | 7A3SD314右岸、トレンチ1 | 弥生土器 | 甕 | 17.9 | - | (15.6) | にぶい黄 | にぶい黄 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口30/36 | 擬凹線(9条1単位)。内面ヨコレ、外面 煤付着 | C-443 |
| 77 866 | 7A3SD314右岸 | 弥生土器 | 甕 | 17.6 | - | (9.5) | 明赤褐 | 明赤褐 | b-3 M・L | 良 | 磨滅不明 | ヨコナデ | 口5/36 | 磨滅目立つ。外面煤付着 | C-455 |

第44表 A区第3面出土土器観察表3

第4節 第3面の遺構と遺物

※ ()は残存法量を示す。

| 挿入 番号 | 遺物 番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 実測 番号 |
|----------|----------|-----------------------|------|-----|------------|------------|------------|-------|-------|--------------|----|----------------|-------------|------------------|------------------------------|----------|
| 77 | 867 | 7A3SD314 | 弥生土器 | 甕 | 13.8 | - | (8.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口8/36 | 胴部内面炭化物、外面煤付着 | C-446 |
| 77 | 868 | 7A3SD314 | 弥生土器 | 甕 | 14.0 | - | (6.2) | 橙 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口8/37 | 縦凹線(3条1単位)。内面ヨコシ、外面厚く煤付着 | C-457 |
| 77 | 869 | 7A3SD314 (7A3SD202含む) | 弥生土器 | 長口壺 | - | - | (8.4) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ハケ後ナデ | ハケ | - | ヘラによる線刻 | C-456 |
| 77 | 870 | 7A3SD314 | 弥生土器 | 器台 | 23.8 | - | (4.8) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-4 M | 良 | ミガキカ | ヨコナデ、ミガキ | 口10/36 | 縦凹線(8条1単位)。赤彩か。内面磨滅目立つ | C-697 |
| 77 | 871 | 7A3SD314右岸 | 弥生土器 | 台付壺 | - | 7.2 | (5.3) | 橙 | 灰黄 | a-4 M・L | 並 | ナデ | ナデ、ヨコナデ、ハケ | 底36/36 | 一部煤付着 | C-444 |
| 77 | 872 | 7A3SD314 | 弥生土器 | 高坏 | 27.0 | - | (4.8) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M | 良 | 磨滅不明 | ミガキ | 口4/36 | 内面加熱・磨滅不明。外面赤彩 | C-447 |
| 77 | 874 | 7A3SD315上層③ | 弥生土器 | 壺 | 約15 | - | (11.6) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 M | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口4/36 | 磨滅・剥離顕著 | C-435 |
| 77 | 875 | 7A3SD315下層② | 弥生土器 | 甕 | 約24 | - | (5.0) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口7/36 | 2mmを超える赤色酸化粒多い。粘土紐接合痕残る。磨滅顕著 | C-453 |
| 77 | 876 | 7A3SD315 | 弥生土器 | 甕 | 20.8 | - | (5.1) | 橙 | 橙 | a-4 M・L | 並 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口11/36 | 赤色酸化粒多い。磨滅顕著 | C-430 |
| 77 | 877 | 7A3SD315 | 弥生土器 | 甕 | 17.6 | - | (7.7) | 橙 | 灰黄 | b-4 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口6/36 | 外面煤付着 | C-429 |
| 77 | 878 | 7A3SD315下層② | 弥生土器 | 甕 | 13.8 | - | 7.0 | 浅黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ、ハケ | 口16/36 | 外面煤付着。内面磨滅・剥離顕著 | C-433 |
| 77 | 879 | 7A3SD315 | 弥生土器 | 甕 | 13.7 | - | (7.3) | にぶい黄橙 | 浅黄橙 | a-4 M・L | 良 | 磨滅不明 | ヨコナデ、ハケ | 口6/36 | 磨滅・剥離顕著 | C-437 |
| 77 | 880 | 7A3SD315 | 弥生土器 | 甕 | 12.8 | - | (4.1) | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口10/36 | 外面一部煤付着 | C-454-1 |
| 77 | 881 | 7A3SD315 | 弥生土器 | 甕 | - | 3.0 | (2.8) | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | ケズリカ | ハケ、ナデ | 底29/36 | 赤色酸化粒多い。外面一部煤付着 | C-454-2 |
| 78 | 882 | 7A3SD315上層①、7A3SD315 | 土師器 | 甕 | 18.0 | - | (16.7) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデカ | ヨコナデ、ナデカ | 口13/36 | 磨滅顕著 | C-434 |
| 78 | 883 | 7A3SD315 | 弥生土器 | 甕 | 13.6 | 2.5 | 12.8 | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ、ナデ | 口34/36 底36/36 | 内面口縁部ヨコシ、外面煤付着 | C-571 |
| 78 | 884 | 7A3SD315 | 弥生土器 | 壺 | 19.5 | - | (22.0) | 灰黄、灰 | 灰白 | a-4 S・M | 良 | ヨコナデ、ハケ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ後ミガキ | 口16/36 底37/36 | 縦凹線(4条1単位)。赤色酸化粒多い | C-570 |
| 78 | 885 | 7A3SD315下層① | 弥生土器 | 壺 | - | 6.0 | (26.2) | 灰白 | 灰白 | a-3 S・M | 良 | ミガキ、ハケ、ナデ | ハケ後ミガキ | 底36/36 | 外面下部煤付着 | C-436 |
| 78 | 886 | 7A3SD315下層②③ | 弥生土器 | 壺 | - | 2.4 | (26.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ、ナデ | 底19/36 | 内面頸部指頭ナデ目立つ。外面明瞭な煮沸痕(煤付着) | C-428 |
| 78 | 887 | 7A3SD315 | 土師器 | 壺 | 11.2 | - | (7.6) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口2/36 | 胴部外面に線刻「十」。888と同一個体 | C-573-1 |
| 78 | 888 | 7A3SD315 | 土師器 | 壺 | - | - | (11.3) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ケズリ | ハケ、ナデ | 口2/36 | 外底に黒斑。887と同一個体 | C-573-2 |
| 78 | 889 | 7A3SD315上層① | 弥生土器 | 高坏 | - | 15.9 | (13.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ナデ、ハケ | ミガキ、ヨコナデ | 口13/36 | 内面シボリ痕 | C-432 |
| 78 | 890 | 7A3SD315 | 弥生土器 | 高坏 | 20.1 | - | (10.3) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M | 良 | ミガキ | ハケ後ミガキ | 口6/36 | 器面剥離顕著。焼き込みあり | C-572 |
| 78 | 891 | 7A3SD315上層① | 土師器か | 高坏 | - | - | (6.3) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-3 S・M・L | 良 | ナデ | ハケカ | - | 磨滅・剥離目立つ | C-740 |
| 78 | 892 | 7A3SD315 | 弥生土器 | 器台 | - | 15.0 | (3.3) | にぶい黄橙 | 浅黄橙 | b-4 M | 良 | ヨコナデ | ミガキ | 底3/36 | 2孔一対の透かし孔4ヶ所(孔径0.6cm) | C-440 |
| 78 | 893 | 7A3SD315上層② | 弥生土器 | 器台 | - | - | (12.6) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 S・M | 良 | ナデ、ハケ後ナデ | ミガキ | - | 透かし孔3ヶ所(孔径0.9cm)。赤色酸化粒多い。 | C-431 |
| 78 | 894 | 7A3SD315 | 弥生土器 | 土埴 | 長さ 2.6 | 径 3.0 | 0.8 | - | にぶい黄橙 | a-4 M | 並 | - | ナデ | ほぼ完形 | 残存重量16.3g。黒斑あり | C-439 |
| 78 | 895 | 7A3SD315 | 弥生土器 | 土埴 | 長さ 3.3 | 径 3.4 | 0.8 | - | にぶい黄橙 | b-4 M | 良 | ハケ後ナデ | ハケ後ナデ | 完形 | 赤色酸化粒多い。重量32.8g | C-438 |
| 78 | 896 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 壺 | - | - | (2.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | ナデ | ハケ | 小片 | 内面綾杉文3列・垂下線2列。口縁部X字文 | D-184 |
| 78 | 897 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 甕 | 19.6 | - | (5.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口9/36 | 内面綾杉文、口縁部下端刻み。外面煤付着 | A-008 |
| 78 | 898 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 甕 | 17.2 | - | (8.6) | 浅黄 | 浅黄 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | 外面煤付着 | C-497 |

第45表 A区第3面出土土器観察表4

※()は残存法量を示す。

| 棟四番号 | 遺物番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 発掘番号 |
|------|------|------------------------------|------|-----|---------|---------|---------|----------|-------|-----------|----|-------------|---------------|---------|--|---------|
| 78 | 899 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 甕 | 15.3 | - | (5.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口13/36 | 内面炭化物、外面煤付着 | C-503 |
| 78 | 900 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 小甕 | 13.1 | - | (3.7) | 橙 | 橙 | b-3 S・M | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | 口10/36 | 口縁部にゆがみ。磨滅目立つ | C-499 |
| 78 | 901 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 甕 | 17.9 | - | (8.8) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-3 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口5/36 | 縦凹線がすかに残る。胴部外面に刺突文。外面煤付着。磨滅顕著 | C-568 |
| 78 | 902 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 甕 | 16.0 | - | (5.8) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-5 M | 並 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口4/36 | 縦凹線(4条1単位)。磨滅目立つ。破片 | C-513 |
| 78 | 903 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 甕 | 14.7 | - | (4.4) | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ナデ | 口16/36 | 縦凹線(7条1単位か)。磨滅目立つ | C-494 |
| 79 | 904 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 甕 | 17.7 | - | (3.8) | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ | 口9/36 | 縦凹線(7条1単位か)。外面煤付着 | C-509 |
| 79 | 905 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 甕 | 20.8 | - | (3.7) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | 口3/36 | ゆがみあり。外面煤付着 | C-512 |
| 79 | 906 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 甕 | 15.8 | - | (6.9) | 黄灰 | 黄灰 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口15/36 | 口縁部煤付着 | C-496 |
| 79 | 907 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 甕 | 15.8 | - | (7.3) | にぶい黄橙、黄灰 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口7/36 | 磨滅目立つ。外面煤付着 | C-526 |
| 79 | 908 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 甕 | 14.8 | - | (5.2) | 黄灰 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ、ハケか | 口16/36 | 外面煤付着。粘土紐接合痕目立つ | C-569 |
| 79 | 909 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 甕 | 14.0 | - | (4.1) | 橙 | 橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | 口6/36 | 外面煤付着。磨滅顕著 | C-508 |
| 79 | 910 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 小甕 | 12.7 | - | (4.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口11/36 | 口縁部ゆがみあり | C-498 |
| 79 | 911 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 甕 | - | 4.8 | (2.6) | 黒褐 | 暗灰黄 | b-3 S・M・L | 良 | ナデか | ハケ、ナデ | 底36/36 | 外底に線刻「X」。内面炭化物、外面煤付 | C-741 |
| 79 | 912 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 長頸壺 | 11.3 | - | (7.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口9/36 | 口縁部に黒斑 | C-583 |
| 79 | 913 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 壺 | 20.4 | - | (5.0) | にぶい黄 | にぶい橙 | a-4 S・M | 並 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口3/36 | 赤色酸化粒多い | C-511 |
| 79 | 914 | 7A3SD316、トレンチ2壁面精査 | 弥生土器 | 短頸壺 | 15.0 | - | (7.5) | 黄灰 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 不良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口4/36 | 磨滅顕著。915と同一個体 | C-504-1 |
| 79 | 915 | 7A3SD316、トレンチ2壁面精査 | 弥生土器 | 短頸壺 | - | 5.2 | (4.3) | 黄灰 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口4/36 | 914と同一個体 | C-504-2 |
| 79 | 916 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 短頸壺 | 10.7 | - | (4.0) | 橙 | 橙 | a-4 S・M | 並 | ヨコナデか | ヨコナデか | 口6/36 | 赤色酸化粒多い。磨滅目立つ | C-528 |
| 79 | 917 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 高坏 | 約33 | - | (4.4) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ミガキ | ヨコナデ、ミガキ | 口1/36以下 | 内面がすかに赤彩痕。口縁部内面にS字状ストラン文、肩部は剥離か。磨滅、剥離目立つ | C-502 |
| 79 | 918 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 高坏 | 20.1 | - | (3.9) | 橙 | 橙 | b-1 S | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口5/36 | 磨滅顕著 | C-500 |
| 79 | 919 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 高坏 | - | 15.2 | (12.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ナデ、ヨコナデ | ミガキ | 底9/36 | 外面赤彩。内面シボり痕 | C-567 |
| 79 | 920 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 器台 | - | 16.8 | (13.2) | 灰白 | 灰白 | a-3 S・M | 不良 | ナデ | かすかにハケ | 底4/36 | 透かし孔3ヶ所(孔径1.0cm)。磨滅顕著 | C-525 |
| 79 | 921 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 高坏 | - | 25.2 | 5.1 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M | 良 | ハケ後ナデ、ヨコナデ | ミガキ、ヨコナデ | 底3/36 | 外面赤彩。脚端部内外面被熱・煤付着(蓋取用) | C-495 |
| 79 | 922 | 7A3SD202(東)畔流れ4最下層、7A3SD316 | 弥生土器 | 器台 | - | 20.2 | (2.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | ナデ、ヨコナデ | ミガキ、ヨコナデ | 底5/36 | 架帯上に刺突文2段。内面全面煤付着(蓋取用) | D-223 |
| 79 | 923 | 7A3SD202(中)最下層(粗砂層)、7A3SD316 | 弥生土器 | 器台 | 23.3 | - | (1.9) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ミガキか | ヨコナデ、ミガキ | 口6/36 | 内面赤彩。円形浮文を貼り付け加飾。外面に黒斑 | C-505 |
| 79 | 924 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 器台 | - | 14.4 | (4.7) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ | ミガキ | 底5/36 | 縦凹線。穿孔3ヶ所か | C-510 |
| 79 | 925 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 鉢 | 13.4 | 5.4 | 6.6 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ後ナデ | ヨコナデ、ハケ・タキ後ナデ | 口9/36 | | C-506 |
| 79 | 926 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 鉢 | - | 2.5 | (3.2) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | 磨滅不明 | ミガキか | 底27/36 | 外面に黒斑。磨滅顕著 | C-529 |
| 79 | 927 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 土罐 | 長さ3.5 | 径3.6 | 孔径0.6 | - | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | - | ナデ | ほぼ完形 | 残存重量34.8g | C-485 |
| 79 | 928 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 土罐 | 長さ3.3 | 径3.6 | 孔径0.6 | - | 灰黄 | a-4 S・M・L | 良 | - | ナデ | 完形 | 重量34.3g。外面に黒斑 | C-486 |
| 79 | 929 | 7A3SD316 | 弥生土器 | 土罐 | 長さ3.7 | 径3.5 | 孔径- | - | にぶい黄橙 | b-3 S・M | 良 | - | ナデ | - | 残存重量15.9g | C-493 |

第46表 A区第3面出土土器観察表5

第4節 第3面の遺構と遺物

※ ()は残存法量を示す。

| 挿入番号 | 遺物番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 実測番号 |
|------|------|-------------------------------|------|--------|---------|---------|---------|-------|-------|-----------|----|----------------|-------------|------------------|------------------------------------|-------|
| 79 | 930 | 7A3SD316 | 土師器 | 手づくね土器 | - | 3.2 | (2.8) | 黒 | 黒 | a-3 S・M・L | 並 | ナデ | ナデ | - | | C-476 |
| 79 | 932 | 7A3SD316、7A3SD318 | 弥生土器 | 甕 | 14.7 | - | (7.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-5 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | □4/36 | 外面磨減顕著 | C-507 |
| 79 | 933 | 7A3SD316、7A3SD318 | 弥生土器 | 甕 | 16.8 | - | (3.8) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ、ハケ | □2/36 | 外面厚く煤付着 | C-514 |
| 79 | 934 | 7A3SD317 | 弥生土器 | 甕 | 19.4 | - | (6.4) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ナデ | □10/36 | 外面に黒斑。磨減目立つ | C-564 |
| 79 | 935 | 7A3SD317 | 弥生土器 | 甕 | 15.6 | - | (3.2) | 橙 | 橙 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ | □9/36 | 外面煤付着 | C-481 |
| 79 | 936 | 7A3SD317 | 弥生土器 | 甕 | 13.9 | - | (3.7) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | □6/36 | 赤色酸化粒多い。磨減顕著 | C-480 |
| 79 | 937 | 7A3SD317 | 弥生土器 | 長口壺 | 12.6 | - | (11.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □36/36 | 外面に黒斑 | C-501 |
| 80 | 938 | 7A3SD317 (トレンチ3東) | 弥生土器 | 壺 | - | 12.6 | (7.6) | 灰黄 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | ナデ | ナデ | 底6/36 | 外面に黒斑。破片化後煤付着 | C-736 |
| 80 | 939 | 7A3SD317 (トレンチ3東) | 土師器 | 壺 | - | 11.6 | (5.9) | 黄橙 | 浅黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ナデ | ナデ、タタキ | 底6/36 | 外面に黒斑 | C-066 |
| 80 | 940 | 7A3SD317 | 弥生土器 | 高坏 | - | 21.3 | (16.7) | 褐灰 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ケズリ状ナデ、ヨコナデ | ミガキ、ヨコナデ | 底5/36 | 透かし孔ヶ所(孔径0.8~1.0cm)。内面端部厚く煤付着(蓋転用) | C-563 |
| 80 | 941 | 7A3SD317、(トレンチ3東) | 土師器 | 台付鉢 | - | 7.0 | (5.7) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-3 S・M | 良 | ナデ、指頭圧痕 | ナデ | 底32/36 | 磨減目立つ | C-477 |
| 80 | 942 | 7A3SD317 | 弥生土器 | 土埴 | 長さ3.6 | 径4.1 | 孔径1.5 | - | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | - | ナデ | 完形 | 重量58.0g。一部黒斑 | C-478 |
| 80 | 944 | 7A3SD318 | 弥生土器 | 甕 | 19.6 | - | (5.0) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | □5/36 | 外面煤付着 | C-524 |
| 80 | 945 | 7A3SD318 | 弥生土器 | 甕 | 16.4 | - | (6.9) | 浅黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | □8/36 | 外面煤付着 | C-475 |
| 80 | 946 | 7A3SD320 | 弥生土器 | 甕 | 18.5 | - | (4.0) | にぶい橙 | 橙 | b-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | □5/36 | 縦凹線(7条1単位)。赤色酸化粒多い | C-474 |
| 80 | 947 | 7A3SD316、7A3SD320 | 土師器 | 甕 | 18.6 | - | (4.3) | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | □9/36 | 外面煤付着 | C-577 |
| 80 | 948 | 7A3SD320 | 土師器 | 甕 | 13.6 | - | (7.2) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | □9/36 | 縦凹線(9条1単位)。頸部粘土紐接合痕明瞭。外面煤付着 | C-574 |
| 80 | 949 | 7A3SD320 | 土師器 | 甕 | 18.2 | - | (5.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ、タタキ | □8/36 | 外面煤付着 | C-576 |
| 80 | 950 | 7A3SD320、7A3SD202(西)最下層(粗砂付近) | 土師器 | 甕 | 13.4 | - | 12.4 | 橙 | 橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ、ナデ | □19/36 底36/36 | 外面煤付着 | C-553 |
| 80 | 951 | 7A3SD320、7A3SD202(中)最下層 | 土師器 | 台付甕 | 20.0 | - | (25.1) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ、ナデ | □9/36 | 内面下半に帯状コゲ付着。外面下半が熱で変色 | C-268 |
| 80 | 952 | 7A3SD320 | 土師器 | 甕 | 13.4 | - | (10.6) | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | ハケ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | □12/36 | 外面煤付着 | C-565 |
| 80 | 953 | 7A3SD320 | 土師器 | 壺 | 12.8 | - | (5.5) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | 磨減不明 | ヨコナデ、ハケ | □9/36 | 外面磨減目立つ | C-575 |
| 80 | 954 | 7A3SD320 | 弥生土器 | 高坏 | - | - | (12.2) | 浅黄 | 浅黄 | a-3 S・M・L | 良 | ミガキ、ナデ、ハケ | ミガキ | - | 透かし孔ヶ所(孔径0.7cm)。磨減目立つ | C-566 |
| 80 | 955 | 7A3SD202(西)古 | 弥生土器 | 壺 | 19.9 | - | (8.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | ミガキ | ハケ後ミガキか | □3/36 | 磨減目立つ | C-375 |
| 80 | 956 | 椀出面 | 土師器 | 甕 | 19.9 | - | (20.7) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □12/36 | 縦凹線(12条1単位)。外面煤付着 | C-466 |
| 80 | 957 | 壁面精査 | 弥生土器 | 甕 | 17.9 | - | (3.9) | 橙 | 橙 | a-3 M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | □3/36 | 縦凹線(9条1単位)。外面に黒斑 | C-471 |
| 80 | 958 | 第3面直上 | 弥生土器 | 甕 | 13.2 | - | (4.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | □9/36 | 縦凹線(5条1単位) | C-374 |
| 80 | 959 | 椀出面 | 弥生土器 | 甕 | 約18 | - | (3.2) | 橙 | 橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | □5/36 | 外面煤付着。磨減顕著 | C-467 |
| 80 | 960 | 椀出面 | 弥生土器 | 甕 | 16.1 | - | (4.7) | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | □23/36 | 磨減顕著 | C-462 |
| 80 | 961 | 椀出面 | 弥生土器 | 甕 | 14.9 | - | (6.6) | 灰褐 | にぶい橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデか、ケズリ | ヨコナデ | □5/36 | 磨減目立つ | C-461 |
| 80 | 962 | 椀出面 | 土師器 | 甕 | 13.2 | - | (9.2) | 橙 | 橙 | b-3 S・M・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | □11/36 | 磨減顕著 | C-463 |

第47表 A区第3面出土器観察表6

※ ()は残存量を示す。

| 遺物番号 | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 発掘番号 |
|------|-----------------------|------|-----|---------|---------|---------|-------|-------|--------------|----|--------------|------------|-----------------|--------------------------|---------|
| 80 | 963 第2面・3面間層 | 弥生土器 | 壺 | - | - | (12.5) | 褐灰 | 橙 | b-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | - | 外面を綾杉文、突帯2列で加飾。375と同一個体か | C-369 |
| 81 | 964 株出面 | 弥生土器 | 壺 | 14.8 | 5.0 | 28.2 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ナデ、一部ケズリ状の粗い | ヨコナデ、ハケ、ナデ | 口1/36 底36/36 | 外底に黒斑 | C-465 |
| 81 | 965 第2面・3面間層 | 土師器 | 壺 | 約17 | - | (5.8) | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | a-4 S・M・L | 並 | 磨滅不明 | ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | 円形浮文を貼り付け。磨滅顕著 | C-366 |
| 81 | 966 第2・3面間層 | 土師器 | 壺 | 19.0 | - | (4.7) | 黄灰 | 黄灰 | a-4 S・M・L | 並 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口5/36 | 磨滅顕著 | C-704 |
| 81 | 967 株出面 | 弥生土器 | 高坏 | 28.2 | - | (4.6) | 橙 | 橙 | a-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口5/36 | 磨滅顕著。968と同一個体 | C-464-1 |
| 81 | 968 株出面 | 弥生土器 | 高坏 | - | 17.5 | (3.0) | 橙 | 橙 | a-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 底10/36 | 赤色酸化粒多い。磨滅顕著。967と同一個体 | C-464-2 |
| 81 | 969 第2面・3面間層 | 弥生土器 | 高坏 | - | 約12.6 | (9.6) | 橙 | 橙 | a-4 S・M | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 底1/36 | 透かし孔4ヶ所(孔径0.8cm)。磨滅顕著 | C-371 |
| 81 | 970 第2・3面間層(トレンチ7北側畔) | 土師器 | 高坏 | - | 16.8 | (5.7) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 底6/36 | 磨滅顕著 | C-519 |
| 81 | 971 第2・3面間層 | 弥生土器 | 高坏か | - | 20.0 | (10.7) | 灰 | 灰 | b-3 S・M・L | 不良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 底3/36 | 赤色酸化粒多い。磨滅・剥離顕著 | C-370 |
| 81 | 972 第2・3面間層(トレンチ8東側畔) | 弥生土器 | 鉢 | 約24 | - | (6.7) | 浅黄橙 | にぶい赤褐 | a-4 S・M | 良 | ミガキ | ミガキ、ヨコナデ | 口1/36 | 外面赤彩 | C-518 |
| 81 | 973 第3面直上 | 弥生土器 | 蓋 | - | つまみ径2.8 | (5.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | ナデ、ミガキ | - | 磨滅顕著 | C-372 |
| 81 | 977 トレンチ7 | 弥生土器 | 甕 | 17.7 | - | (4.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | 口9/36 | | C-483 |
| 81 | 978 トレンチ3 | 弥生土器 | 甕 | 15.1 | - | (4.4) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ | 口10/36 | 磨滅顕著。外面煤付着 | C-488 |
| 81 | 979 トレンチ1 | 弥生土器 | 甕 | 17.9 | - | (6.1) | 橙 | 橙 | b-3 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | ヨコナデ、ハケ | 口2/36 | 擬凹線(6条1単位)。内面磨滅 | C-468 |
| 81 | 980 トレンチ3 | 弥生土器 | 甕 | 17.9 | - | (4.1) | にぶい橙 | 橙 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | 口5/36 | 磨滅顕著 | C-484 |
| 81 | 981 壁面精査 | 土師器 | 甕 | 約25 | - | (5.4) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ハケ、ヨコナデ | ヨコナデ、ナデ | 口2/36 | 口縁部外面煤付着 | C-472 |
| 81 | 982 7A3SD202内(中)壁面精査 | 弥生土器 | 壺 | 15.8 | - | (5.8) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口5/36 | 磨滅顕著 | C-473 |
| 81 | 983 トレンチ3 | 弥生土器 | 壺 | 13.5 | - | (6.8) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデか | ヨコナデ、ナデか | 口6/36 | 磨滅目立つ | C-479 |
| 81 | 984 トレンチ3 | 弥生土器 | 甕 | 12.7 | - | (4.4) | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | 口21/36 | 擬凹線(7~8条1単位)。磨滅目立つ | C-492 |
| 81 | 985 トレンチ3 | 弥生土器 | 小型壺 | 10.3 | - | (6.9) | 橙 | 橙 | b-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ミガキ | 口8/36 | 剥離目立つ | C-491 |
| 81 | 986 トレンチ3 | 弥生土器 | 小型壺 | - | (2.6) | (7.3) | 浅黄 | 浅黄 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ミガキ | 底36/36 | | C-489 |
| 81 | 987 トレンチ3 | 土師器 | 小型壺 | - | 3.6 | (6.1) | 橙 | 橙 | b-3 S・M | 良 | ナデ | ナデ、ハケ後ナデ | 底36/36 | 外面に黒斑 | C-490 |
| 81 | 988 壁面精査 | 弥生土器 | 器台 | - | - | (6.4) | 橙 | 橙 | b-4 M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | - | 磨滅・剥離顕著 | C-470 |
| 81 | 989 トレンチ1 | 弥生土器 | 小型鉢 | 12.7 | - | (7.2) | 橙 | 橙 | b-3 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口16/36 | 磨滅顕著 | C-469 |
| 81 | 990 トレンチ1 | 弥生土器 | 壺把手 | - | - | (4.4) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ナデ | ナデ | - | | C-487 |
| 81 | 991 トレンチ6 | 弥生土器 | 器台 | - | - | (3.2) | 灰 | 灰 | a-3 M・L | 並 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | - | 一部剥離。磨滅顕著 | C-482 |

第48表 A区第3面出土器観察表7

第4節 第3面の遺構と遺物

※()は残存法量を示す。

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | グリッド | 出土遺構 | 種 類 | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 重量 (g) | 石 材 | 備 考 | 実測 番号 |
|----------|----------|-----------|------------|-------|-------------|-------------|-------------|-----------|---------|---------------------|----------|
| 76 | 842 | O・P-24・25 | 7A3SD308上層 | 原石 | 3.7 | 4.1 | 3.1 | 56.0 | ガラス質安山岩 | 黒色。加工痕なし | 石43 |
| 76 | 843 | P-25 | 7A3SD308下層 | 管玉未成品 | 2.9 | 1.5 | 0.9 | 4.1 | 緑色凝灰岩 | 緑灰色。粗割り工程 | 石47 |
| 77 | 861 | O-26 | 7A3SD312 | 砥石 | 6.5 | (5.8) | 5.0 | (27.1) | 軽石凝灰岩 | 灰白色。全面研ぎに使用。一部刃物痕あり | 石41 |
| 77 | 873 | P-24・25 | 7A3SD314 | 磨石 | 8.6 | 7.2 | 5.4 | 460.2 | 花崗岩か | 完形。灰白色。擦痕 | 石42 |
| 79 | 931 | P-24・25 | 7A3SD316 | 敲石 | (7.4) | (9.0) | 3.9 | (306.9) | 砂岩 | 灰色。1側面被熱、全面煤付着 | 石45 |
| 80 | 943 | O・P-24・25 | 7A3SD317 | 磨石か | 4.4 | 3.9 | 1.6 | 37.5 | 石英 | 灰白色。かすかに擦痕あり | 石34 |
| 81 | 974 | Q-24 | 包含層 | 砥石 | 6.8 | 4.2 | 4.2 | 21.0 | 軽石凝灰岩 | 完形。灰白色。全面研ぎに使用。被熱 | 石40 |
| 81 | 975 | Q-24 | 包含層 | 石鏃 | (3.55) | 1.92 | 0.99 | (4.2) | 鉄石英 | 暗赤色。基部欠損 | 石39 |
| 81 | 976 | Q-24 | 包含層 | 石核 | 6.4 | 7.3 | 6.5 | 207.3 | 緑色凝灰岩 | 明緑灰色 | 石44 |

第49表 A区第3面出土石器・石製品観察表

※()は残存法量を示す。

| 挿図 番号 | 遺物 番号 | グリッド | 出土遺構 | 種 類 | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 木取り | 樹種 | 備 考 | 実測 番号 |
|----------|----------|-----------|-------------|-------|-------------|-------------|-------------|------|------------|---|----------|
| 82 | 992 | O・P-27・28 | 7A3SD314右岸 | 棒状木製品 | (24.0) | 5.3 | 2.0 | 板目 | ウコギ属 | 頭部を加工。腐食目立つ | 木-77 |
| 82 | 993 | P-24 | 7A3SD320 | 平鋤 | (17.8) | (9.3) | 1.0 | 柱目 | コナラ属アカガシ亜属 | | 木-60 |
| 82 | 994 | O・P-24・25 | 7A3SD317(中) | 直柄平鋤 | (29.1) | (13.3) | 1.7 | 柱目 | コナラ属アカガシ亜属 | 柄挿入孔径5.3×4.6cm、角度不明。柄挿入孔台高0.7cm。身厚約1cm。腐食顕著 | 木-20 |
| 82 | 995 | O・P-24・25 | 7A3SD317 | 棒状木製品 | (78.3) | 2.2 | 1.3 | 分割材 | スギ | 断面方形 | 木-27 |
| 82 | 996 | P-24 | 7A3SD320 | 加工材 | (58.5) | 4.8 | 3.0 | 削出丸棒 | クマノミズキ類 | 断面隅丸長方形。腐食目立つ | 木-59 |
| 82 | 997 | P-24 | 7A3SD320 | 刀桴 | (23.8) | 4.7 | 0.7 | 柱目 | カエデ属 | 上部肥厚。使用に伴う擦痕。腐食目立つ | 特記-05 |

第50表 A区第3面出土木器・木製品観察表

第5節 第4面の遺構と遺物

第4面は、弥生時代後期後半を主体とする調査面である。遺構検出面の標高は、最も高い調査区北東端(P-28区)が5.34m(第2・3面検出面とほぼ同じ)を、最も低い調査区南西端(O-25区)が4.56m(第3面検出面から-約35cm)を、調査区北端(R-24区)が5.05m(同-約5cm)をそれぞれ測る。標高差は、調査区北東端(P-28区)と調査区南西端(O-25区)で約80cm、調査区北端(R-24区)と調査区南西端(O-25区)で約50cmとなり、調査区南西側(谷中央部)に向けて遺構検出面の標高が急激に下がる地勢となる。遺物包含層は、弥生時代後期後半までの間に堆積した、第3面ベース土を構成する白灰色粘質土(P-27区付近)または淡灰～浅黄橙色(O・P-27区付近)、暗茶灰～暗灰褐色(O・P-27区付近)を呈する粘質土である。また、第4面の遺構検出面(ベース土)は、第5面遺物包含層である黒褐～暗灰色粘質土であり、比較的多くの弥生時代中期後半の遺物が混ざる。

遺構番号は、現地調査時に400番台を付しており、調査の結果、土坑とした落ち込み5基(7A4SK401～405)、ピット約20基(うち18基に遺構番号7A4P401～418)、溝15条(うち14条に遺構番号7A4SD401～414)を検出し、遺構密度が比較的低い集落縁辺部の様相を呈する(第83図)。うち、SK405、SD407は、第5面掘り下げ時に検出しており、第4面遺構の中でも古く位置付けられる。また、弥生時代中期後半の遺物の他に、少量の弥生時代後期後半～終末の遺物が出土したが、弥生時代後期以降の遺物は第2・3面に属する混ざり込みと判断している。

なお、南側の隣接調査区との関係では、土坑、流路を検出した第8次調査B区第5面と、周溝・周堤をもつ竪穴建物(4本主柱)、溝、ピットを検出した第9次C区第5面が、連続した調査面となる。また、第8次調査B区第4面、第9次調査C区第4面で確認した水田遺構は、A区では明確な調査面として把握できなかった。ただし、検出した溝の一部が水田に伴う水路となる可能性をもち、第8・9次調査の正報告を待ちたい。

1 土坑・ピット(遺構:第83・84・89図、第51表)

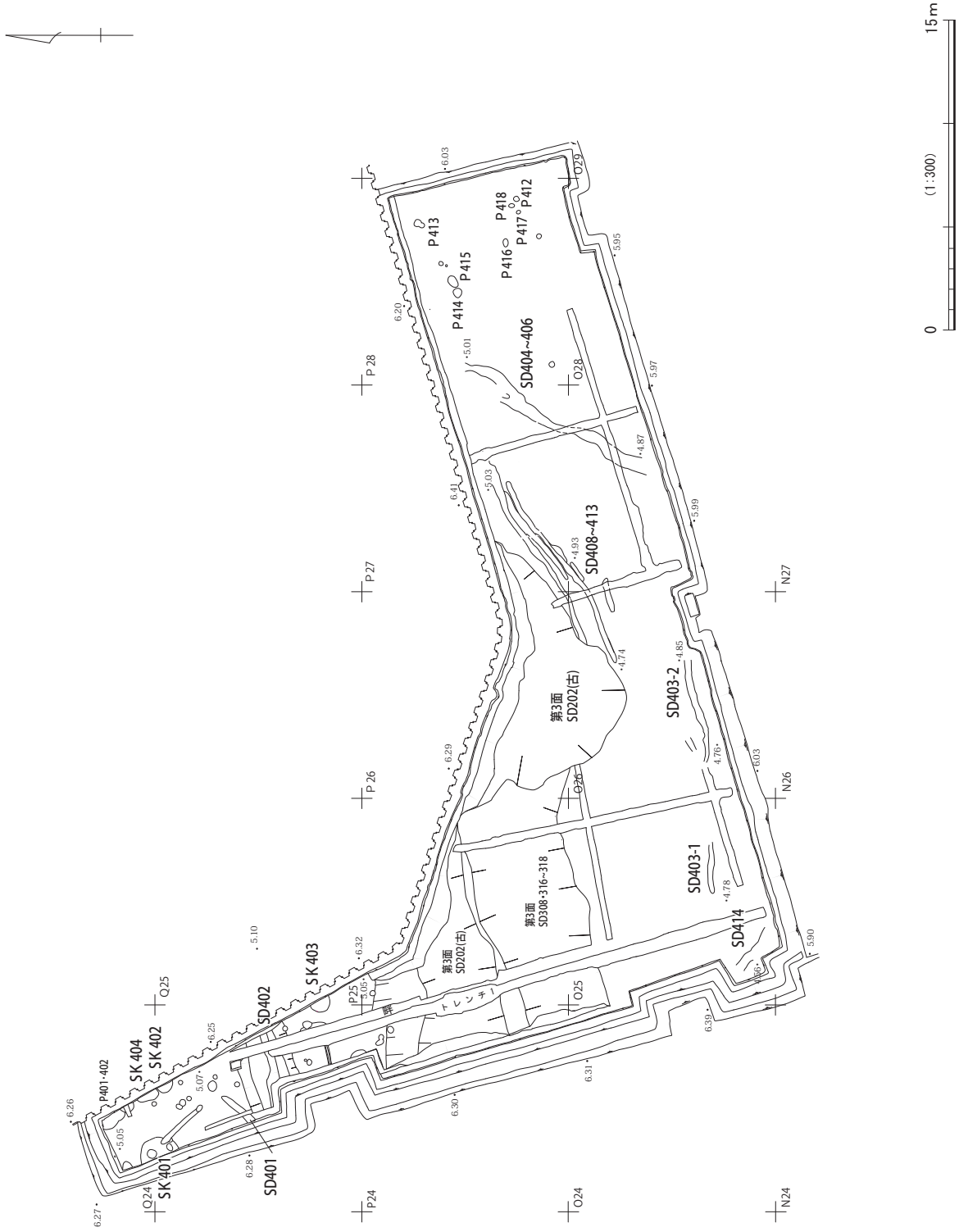
SK401～404 Q・R-24・25で検出した浅い落ち込み状の土坑で、いずれも調査区外にのびる。深さ5～17cmを測り、覆土は灰褐～褐灰色粘質土を基調とする(第51表)。それぞれ少量の遺物が出土した。

SK405 Q-24区で検出した平面不整隅丸方形を呈する土坑である(第89図)。長辺124cm、短辺97cm、深さ13～21cmを測り、覆土は淡灰褐色粘質土となる。前述のとおり、周辺の遺構より古く位置付けられる。

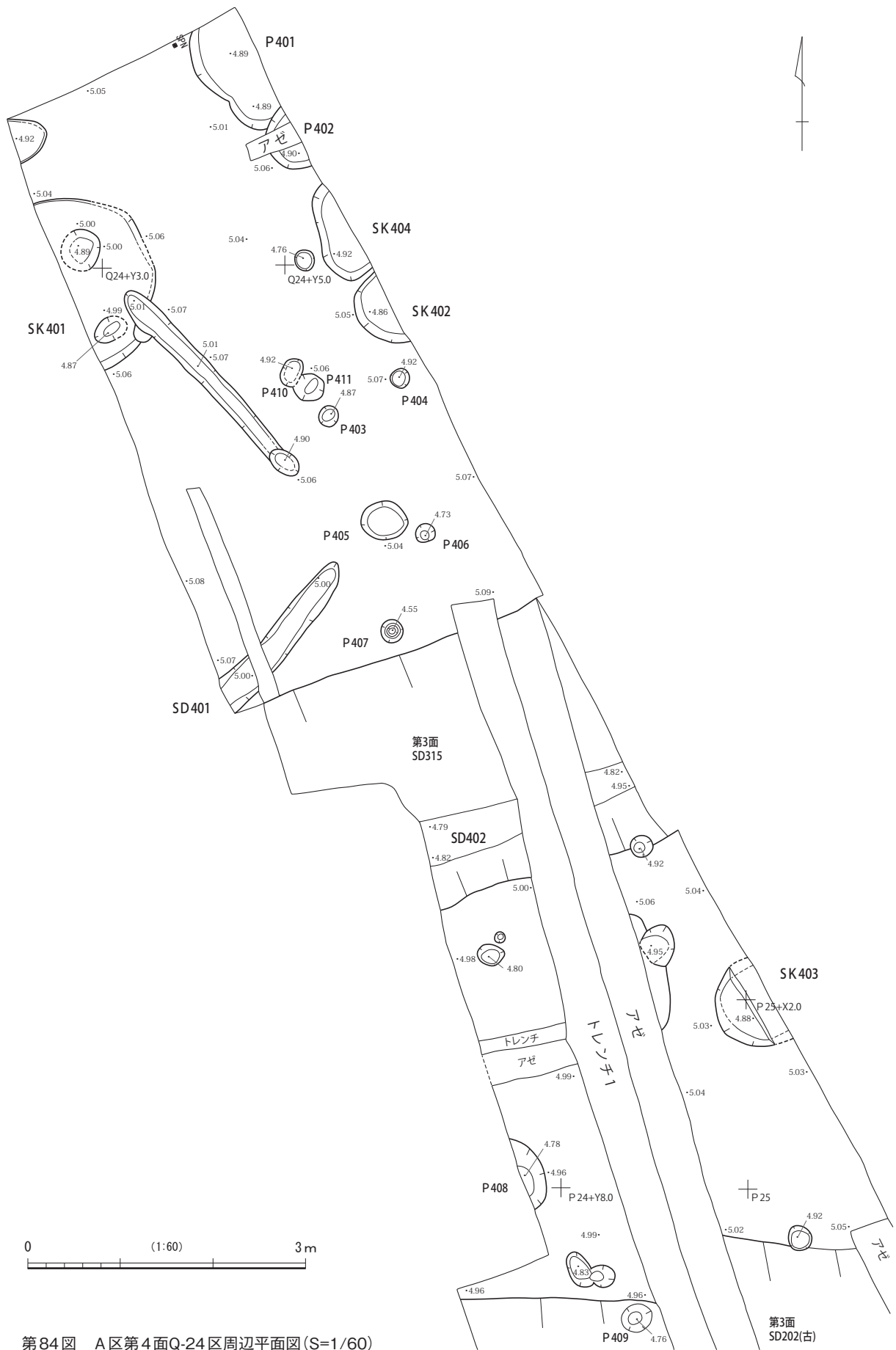
ピット Q・R-24区、P-28区で約20基のピットを検出、うち18基に遺構番号を付した(7A4P401～418)。Q・R-24区で検出したP401～411の規模等は、第51表のとおりであり、柱穴の可能性をもつP407が深さ52cmを、それ以外は深さ31cm未満を測る。覆土は、灰褐～褐灰色を呈する粘質土を基調とする。図化した遺物はない。また、P-28区で検出したピット(P412～418)は、現地調査時の遺構略図に記載されるのみで、明確なピットと判断しなかった可能性が高い。覆土は、炭化物が混ざる暗褐灰色粘質土である。

2 溝(遺構:第72・73・83～86・89・91図、第51表、遺物:第87図、第52・53表)

SD401 Q-24で検出した浅い溝で、延長190cm以上、上幅28～38cm、深さ5～7cmを測る。覆土は暗褐灰色粘質土で、第87図998の弥生時代終末の甕を図示した。有段口縁の998は口径15.8cmを測り、摩滅が著しい。なお、998の破片はSD402からも出土した。



第83図 A区第4面主要遺構配置図(S=1/300)



第84図 A区第4面Q-24区周辺平面図(S=1/60)

第5節 第4面の遺構と遺物

| 遺構名 | グリッド | 平面形 | 規模 (cm) | | | 土色等 | 備考 |
|----------|--------|--------|---------|-----|-------|---------------------|----------------------|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | |
| 7A4SK401 | Q・R-24 | 略円形か | 196 | 95～ | 5 | 褐灰色粘質土 | ビット深さ15cm前後 |
| 7A4SK402 | Q-24 | 不整形 | 84～ | 38～ | 5～9 | 灰褐色粘質土 | |
| 7A4SK403 | Q-25 | 略円形か | 95～ | 45～ | 17 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A4SK404 | Q-24 | 略円形か | 106 | 42～ | 5～14 | 灰褐色粘質土 | |
| 7A4SK405 | Q-24 | 不整隅丸方形 | 124 | 97 | 13～21 | 淡灰褐色粘質土 | 他遺構より古。平面図は第5面(第89図) |
| 7A4P401 | R-24 | 不整形 | 130～ | 70～ | 10～12 | 暗褐灰色粘質土 | P401より古 |
| 7A4P402 | R-24 | 略円形か | 64 | 36～ | 11～16 | 灰褐色粘質土 | P402より新 |
| 7A4P403 | Q-24 | 略円形か | 22 | 22 | 19 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A4P404 | Q-24 | 略円形か | 22 | 20 | 15 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A4P405 | Q-24 | 不整円形 | 50 | 40 | - | 褐灰色粘質土 | 掘りすぎあり |
| 7A4P406 | Q-24 | 略円形 | 22 | 20 | 31 | 暗褐灰色粘質土 | |
| 7A4P407 | Q-24 | 円形 | 24 | 24 | 52 | 褐灰色粘質土 | 柱穴の可能性あり |
| 7A4P408 | Q-24 | 円形か | 80～ | 26～ | 17 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A4P409 | P-24 | 略円形 | 34 | 28 | 13 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A4P410 | Q-24 | 略楕円形 | 32 | 20 | 8 | 褐灰色粘質土 | |
| 7A4P411 | Q-24 | 略円形か | 30 | 30 | - | 褐灰色粘質土 | 掘りすぎあり |
| 7A4P412 | P-28 | - | - | - | - | 暗褐灰色粘質土 (炭化物混ざる) | 略図に記載(未図化) |
| 7A4P413 | P-28 | - | - | - | - | 暗褐灰色粘質土 (炭化物混ざる) | 〃 |
| 7A4P414 | P-28 | - | - | - | - | 暗褐灰色粘質土 (炭化物混ざる) | 〃 |
| 7A4P415 | P-28 | - | - | - | - | 暗褐灰色粘質土 (炭化物混ざる) | 〃 |
| 7A4P416 | P-28 | - | - | - | - | 浅黄橙色粘質土 | 〃 |
| 7A4P417 | P-28 | - | - | - | - | 暗褐灰色粘質土 (炭化物混ざる) | 〃 |
| 7A4P418 | P-28 | - | - | - | - | 暗褐灰色粘質土 (炭化物混ざる) | 〃 |

| 遺構名 | グリッド | 主軸方位 | 規模 (cm) | | | 土色等 | 備考 |
|----------|------------------|----------|---------|-------|-------|----------|----------------------|
| | | | 延長 | 幅 | 深さ | | |
| 7A4SD401 | Q-24 | N-約45° E | 190～ | 28～38 | 5～7 | 暗褐灰色粘質土 | |
| 7A4SD402 | Q-24 | E-Wか | 230～ | 90～ | 22～28 | 第72図 | 第3面SD315とほぼ重複 |
| 7A4SD403 | O-25・26 | E-W | 1140～ | 14～34 | 4～45 | 浅黄橙色粘質土か | |
| 7A4SD404 | O・P-27 | N-約25° E | 780～ | 30～84 | 16～32 | 濁灰緑色粘土 | 蛇行、南に流下。SD405・406に分岐 |
| 7A4SD405 | P-27・28 | N-約14° E | 50～ | 25～30 | 30 | 浅黄橙色粘質土 | 南西方向に流下。SD404より分岐 |
| 7A4SD406 | P-27・28 | N-約22° E | 190～ | 25～55 | 22～27 | 浅黄橙色粘質土 | 蛇行。SD404より分岐 |
| 7A4SD407 | Q・R-24 | N-約50° W | 240～ | 60～ | 4～14 | 淡灰褐色粘質土 | 他遺構より古。平面図は第5面(第89図) |
| 7A4SD408 | O-26・27 | N-75° E | 165 | 26～30 | 17～26 | 淡灰色粘質土 | |
| 7A4SD409 | O-26・27、 P-27 | N-約60° E | 1020 | 15～34 | 11～21 | 淡灰色粘質土 | 南西側に流下。SD410・413より新 |
| 7A4SD410 | O-27 | N-55° E | 105 | 18 | 5～8 | 淡灰色粘質土 | SD409より古 |
| 7A4SD411 | P-27 | N-約60° E | 525 | 16～46 | 6～14 | 淡灰色粘質土 | 南西側に流下。SD412より古 |
| 7A4SD412 | O-26、 P-26・27 | N-約60° E | 1010～ | 16～44 | 6～14 | 淡灰色粘質土 | 南西側に流下。SD411より新 |
| 7A4SD413 | P-27 | N-約60° E | 110～ | 36～ | 7～21 | 淡灰色粘質土 | SD409より古 |
| 7A4SD414 | O-25 | N-約40° W | 230～ | 45～50 | 21～27 | 淡灰色粘質土か | 平面図は第5面(第91図) |

第51表 A区第4面遺構規模等一覧表

SD402 Q-24区で検出した溝で、第3面SD315とほぼ重複する。覆土は、上位層から橙白色粘質土(第72・73図土層96)、橙～橙灰色シルト(同図土層99・101)が堆積する。出土遺物のうち、第87図998を図示した。

SD403 O-25・26で検出した蛇行気味の溝で、地勢に反して東側に向けて深くなる。延長11.4m以上、上幅14～34cm、深さ4～45cmを測り、覆土は浅黄橙色粘質土と考えられる。少量の遺物が出土した。

SD404～406 O・P-27・28区で検出した蛇行気味の流路で、分岐箇所以北をSD405・406としている。地勢に応じて南西側に流下し、上幅25～84cm、深さ16～32cmを測る。肩部は比較的しっかりとしており、覆土は濁灰緑色粘土～浅黄橙色粘質土を基調とする。少量の出土遺物のうち、SD404出土の横刃形石器999を図示した。完形の999は、高さ9.5cm、幅13.0cm、厚さ3.4cmを測り、刃部両面を幅3～4cm程度磨いて鋭利に仕上げる。重さ384.3gを量り、一部に煤が付着する。

SD407 Q・R-24区で検出した直線的な浅い溝で、SK405と同じく周辺の遺構より古く位置付けられる(第89図)。深さ4～14cmを測り、覆土は淡灰褐色粘質土である。出土遺物のうち、第87図1000を図示した。弥生時代中期後半の壺片1000は、外面を斜行短線文で加飾する。

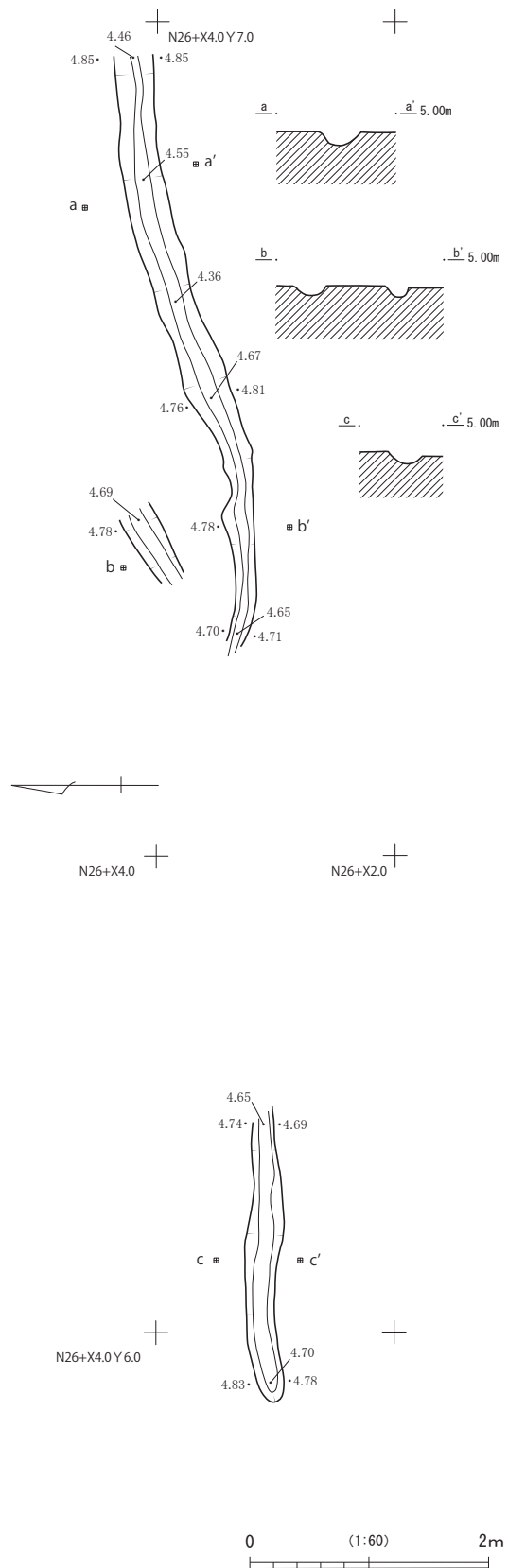
SD408～413 O・P-26・27で検出した蛇行気味の溝群で、一部重複しながら南西方向に流下する。最も長いSD409が延長10.2mを測る。また、各溝の規模は近似しており、上幅15～46cm、深さ5～26cmを測る。覆土は淡灰色粘質土で、出土遺物のうち、SD409出土の土師質土錘片1001を図示した。球形の1001は、2次的に被熱し、器面はかなり脆い。

SD414 O-25区で検出した溝である(第91図)。上幅45～50cm、深さ21～27cmを測る。

3 包含層等出土遺物 (第87図、第52・53表)

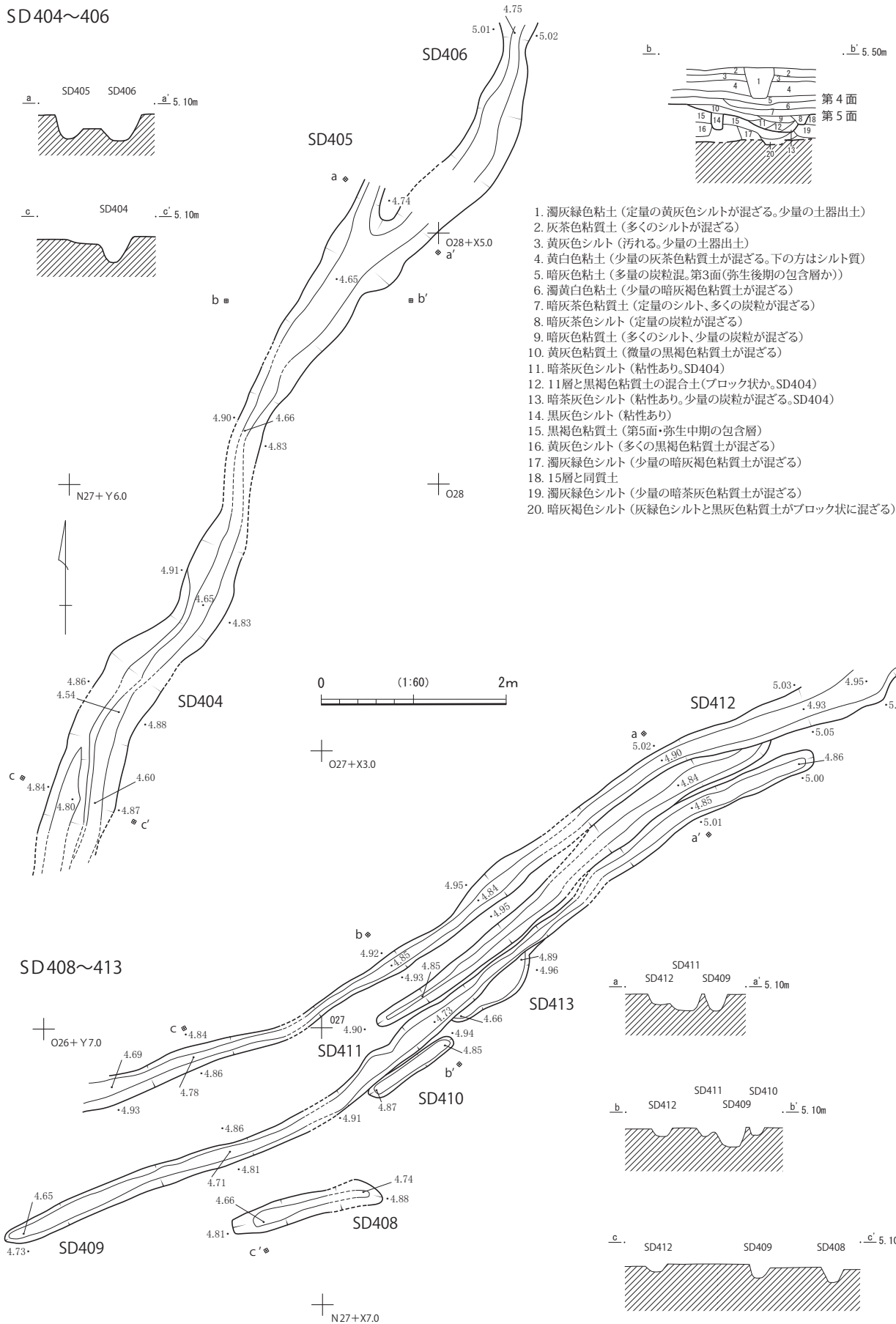
1002・03が第3・4層間層(白灰色粘質土)、1004～14が第3・4面間層(黒褐色粘質土)、1015～19がトレンチ2・3等から出土、一部に第2・3面に属する遺物が混ざる。1002・03は弥生時代後期に属する。有段口縁の甕1002は口径約22cmを測り、1003は器台脚部と考えられる。ともに胎土中に赤色酸化粒が多く混ざり、摩滅が著しい。

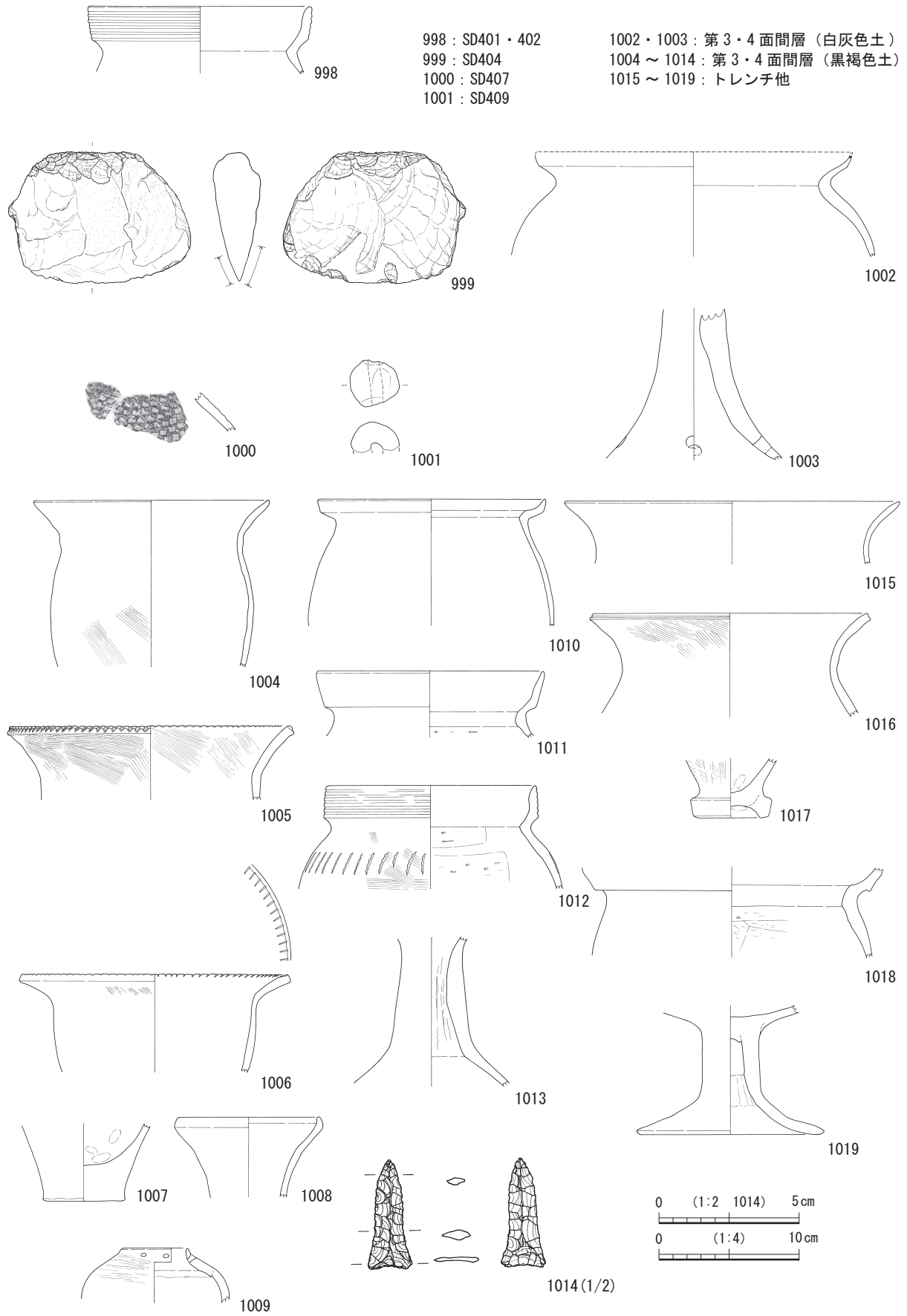
1004～08は弥生時代中期後半に属し、1004～07は甕



第85図 A区第4面SD403平面図・断面図(S=1/60)

SD404~406





第87図 A区第4面出土遺物実測図(S=1/2・1/4)

※ ()は残存法量を示す。

| 遺物番号 | グリッド | 出土遺構 | 種類 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 発掘番号 |
|---------|--------------|--------------------------------|------|---------|---------|---------|-------|-------|-----------|----|-------------|------------|--------|---------------------------------|-------|
| 87 998 | P-24 | 7A4SD401・71402 | 甕 | 15.8 | - | (4.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 並 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口5/36 | 縦凹線(5条1単位) | C-523 |
| 87 1000 | Q-R-24 | 7A4SD407、第3・4面間層 | 壺 | - | - | (2.7) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M | 良 | ナデ | ナデ | - | 斜行短線文6列 | D-227 |
| 87 1001 | O-26・27、P-27 | 7A4SD409 | 土鏝 | 長さ(3.4) | 径3.3 | 孔径0.9 | - | にぶい黄橙 | b-3 M | 並 | - | ナデ | 18/36 | 残存重量18.6g | C-522 |
| 87 1002 | P-27 | 白灰色土層(黒褐色土層上面) | 甕 | 約22 | - | (7.3) | 橙 | 橙 | a-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口1/36 | 赤色酸化粒多い。磨滅顕著 | C-520 |
| 87 1003 | P-27 | 白灰色土層(黒褐色土層上面) | 器台か | - | - | (10.8) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-4 S・M・L | 並 | 磨滅不明 | ミガキか | - | 透かし孔4ヶ所か(孔径0.8cm)。磨滅顕著 | C-521 |
| 87 1004 | Q-R-24 | 第3・4面間層 | 甕 | 16.8 | - | (11.9) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-6 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | ヨコナデ、ハケ | 口6/36 | 外面一部煤付着。内面磨滅顕著 | C-532 |
| 87 1005 | P-24 | 第3・4面間層 | 甕 | 19.8 | - | (5.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口7/36 | 口縁端部に刻み。外面煤付着 | A-009 |
| 87 1006 | Q-R-24 | 第3・4面間層③・142・143付近 | 甕 | 19.0 | - | (7.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | 磨滅不明 | ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | 口縁部内面に刻み。磨滅目立つ | A-007 |
| 87 1007 | P-24 | 第3・4面間層 | 甕 | - | 5.6 | (5.5) | 暗灰色 | 橙色 | b-4 M・L | 良 | ナデ | ハケ、ナデ | 底36/36 | 磨滅・剥離目立つ | D-214 |
| 87 1008 | Q-R-24 | 第3・4面間層 | 壺 | 9.9 | - | (5.7) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口21/36 | 磨滅顕著 | C-534 |
| 87 1009 | O-25 | 第3・4面間層④・142・143付近(トレンチ2セクション) | 小型壺 | 4.7 | - | (3.9) | 黒褐 | 橙、黒 | a-3 S・M | 並 | ヨコナデ、ナデ | ミガキ | 口29/36 | 2孔一対の凹孔(径0.3~0.4cm)。外面に黒斑。磨滅目立つ | C-516 |
| 87 1010 | Q-R-24 | 第3・4面間層(黒褐色土層(群含む)) | 甕 | 16.2 | - | (9.0) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口9/36 | 磨滅顕著 | C-533 |
| 87 1011 | P-24 | 第3・4面間層 | 甕 | 16.1 | - | (4.7) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデか | 口9/36 | かすかに縦凹線残る | C-530 |
| 87 1012 | Q-R-24 | 第3・4面間層 | 甕 | 14.9 | - | (7.4) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口9/36 | 縦凹線(5条1単位)。胴部外面に刺突文(貝殻線)。磨滅目立つ | C-531 |
| 87 1013 | O-25 | 第3・4面間層 | 器台 | - | - | (10.7) | 浅黄橙 | にぶい橙 | b-4 M・L | 良 | ナデ | 磨滅不明 | - | 内面シボリ痕。磨滅顕著 | C-515 |
| 87 1015 | O-25 | トレンチ2セクション | 甕 | 23.8 | - | (4.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口4/36 | 磨滅・剥離顕著 | C-538 |
| 87 1016 | Q-R-24 | トレンチ3内(黒褐色土・青灰色土層) | 甕 | 19.7 | - | (7.4) | にぶい橙 | 橙 | b-4 S・M・L | 良 | ハケか | ヨコナデ、ハケ | 口6/36 | 外面煤付着 | C-539 |
| 87 1017 | O-27 | 群 | 小型鉢か | - | 5.3 | (4.2) | 暗灰 | にぶい橙 | a-3 M・L | 良 | ナデ | ハケ後ナデ、ヨコナデ | 底6/36 | 台部貼り付け | C-545 |
| 87 1018 | O-27 | 群 | 甕 | - | - | (6.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ナデ | - | 赤色酸化粒多い。外面剥離目立つ | C-540 |
| 87 1019 | P-25 | トレンチ3東群 | 高坏 | - | 13.0 | (9.2) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-2 S | 良 | ナデ、ヨコナデ | 磨滅不明 | 縦27/36 | 赤色酸化粒多い。磨滅顕著 | C-546 |

第52表 A区第4面出土石器観察表

| 遺物番号 | グリッド | 出土遺構 | 種類 | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 重量 (g) | 石材 | 備考 | 発掘番号 |
|---------|------|----------|-------|----------|----------|----------|--------|---------|------------------------------------|------|
| 87 999 | O-24 | 7A4SD404 | 横刃形石器 | 9.5 | 13.0 | 3.4 | 384.3 | 安山岩か | 完形。明灰オリープ色。刃先面を平滑に磨く(幅3~4cm)。一部煤付着 | 石54 |
| 87 1014 | P-25 | 第3・4面間層 | 石鏝 | 3.85 | 1.50 | 0.36 | 1.60 | ガラス質安山岩 | 完形。黒色 | 石09 |

第53表 A区第4面出土石器・石製品観察表

※ ()は残存法量を示す。

である。1004は口径16.8cmを測り、口縁部は大きく外反する。1005は平坦に仕上げた口縁端部を刻みで加飾する他、胎土中に2mm大の砂粒が多く混ざる。鉢形に近い1006は口径19.0cmを測り、大きく外傾する口縁端部に刻みを施す。また、口縁部内面にヨゴレ、外面全体に煤が付着する。底部片1007は摩滅が目立つ。壺1008は口径9.9cmを測り、口縁端部は内傾する。摩滅が著しいため、調整は判然としない。小型の無頸壺1009は口径4.7cmを測り、外面にミガキ調整を施した後に、2孔一対の円孔(径0.3~0.4cm)を穿つ。1010~13は、本来、3面に属する遺物で、1010~12は有段口縁の甕である。1010は口径16.2cmを測り、口縁部が短く立ち上がる。1011は、口縁帯外面にかすかに擬凹線が観察できる。1012は口径14.9cmを測り、胴部外面を深い刺突文で加飾する。器台1013は胎土中に赤色酸化粒が多く混ざり、摩滅が著しい。黒色のガラス質安山岩製の石鏃1014は、重さ1.60gを量る。

トレンチ等出土の1015~17は弥生時代中期後半に、1018・19は同後期にそれぞれ位置付けられる。甕1015は口径23.8cmを測り、摩滅、剥離のため器厚はかなり薄くなる。甕1016は口径19.7cmを測り、口縁端部を平坦に仕上げた後に1条の沈線を加える。1017は小型の鉢と考えられ、断面方形を呈するしっかりとした台部を貼り付ける。有段口縁の甕1018、高坏1019とも、胎土中に赤色酸化粒が多く混ざる。

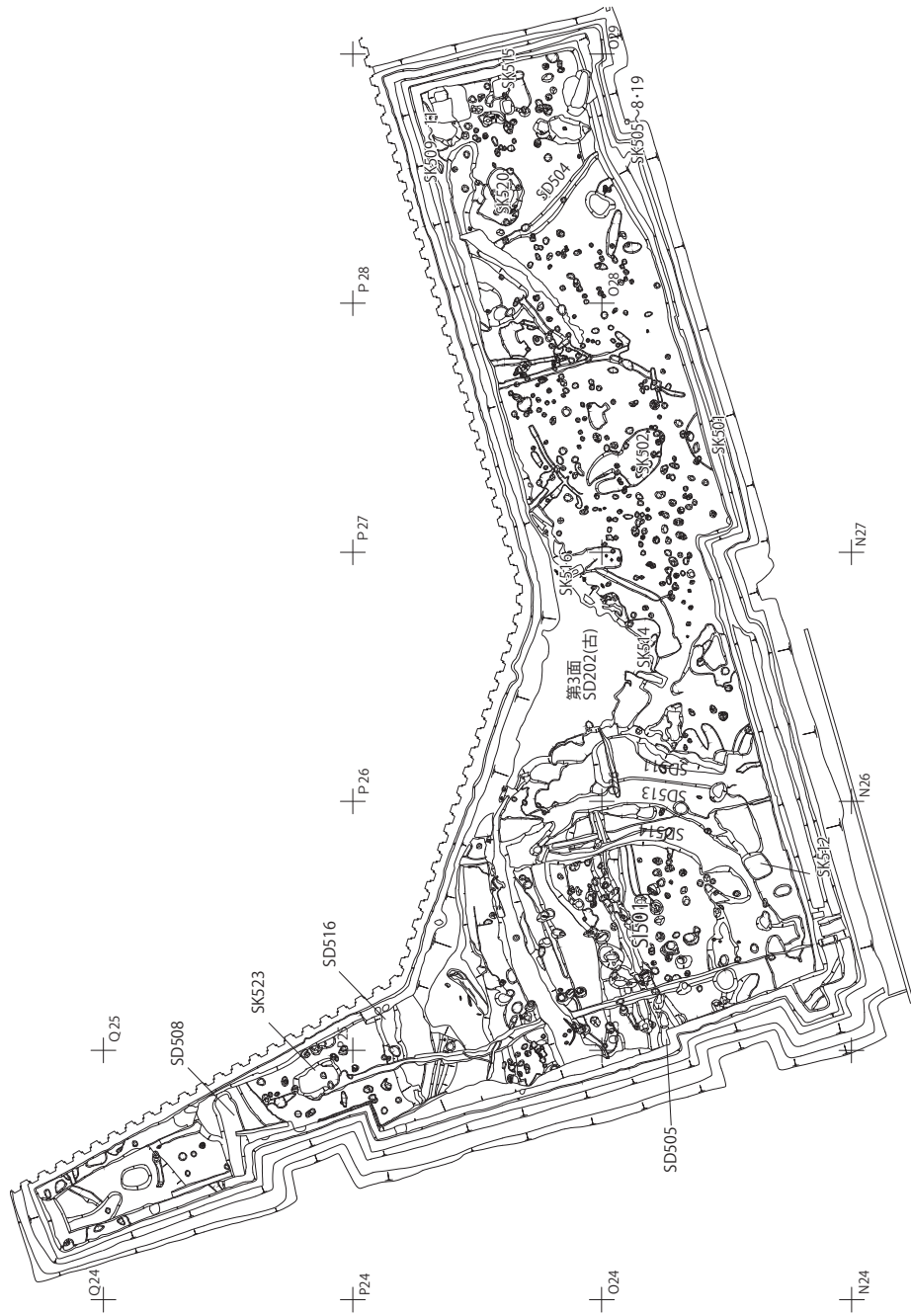
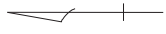
第6節 第5面の遺構と遺物

第5面は、弥生時代中期後半の調査面で、隣接する第8・9次調査成果を加味すれば集落域の西寄りに位置する。遺構検出面の標高は、最も高い調査区北東端(P-28区)が4.91m(第4面検出面より-約40cm)を、最も低い調査区南西端(O-25区)が4.75m(同-約30cm)を、調査区北端(R-24区)が4.40m(同-約65cm)をそれぞれ測り、第4面検出面から30~65cm掘り下げたこととなる。標高差は、調査区北東端(P-28区)と調査区南西端(O-25区)で約60cm、調査区北端(R-24区)と調査区南西端(O-25区)で10cm強となり、第4面より緩やかな勾配を示す。遺物包含層は、第4面検出面でもある炭化物が多く混ざる黒褐~暗灰色粘質土(第6区土層断面b土層9)、また遺構検出面(ベース土)は青灰~灰白色を基調とする強粘質土(同区断面b土層12層)となる。

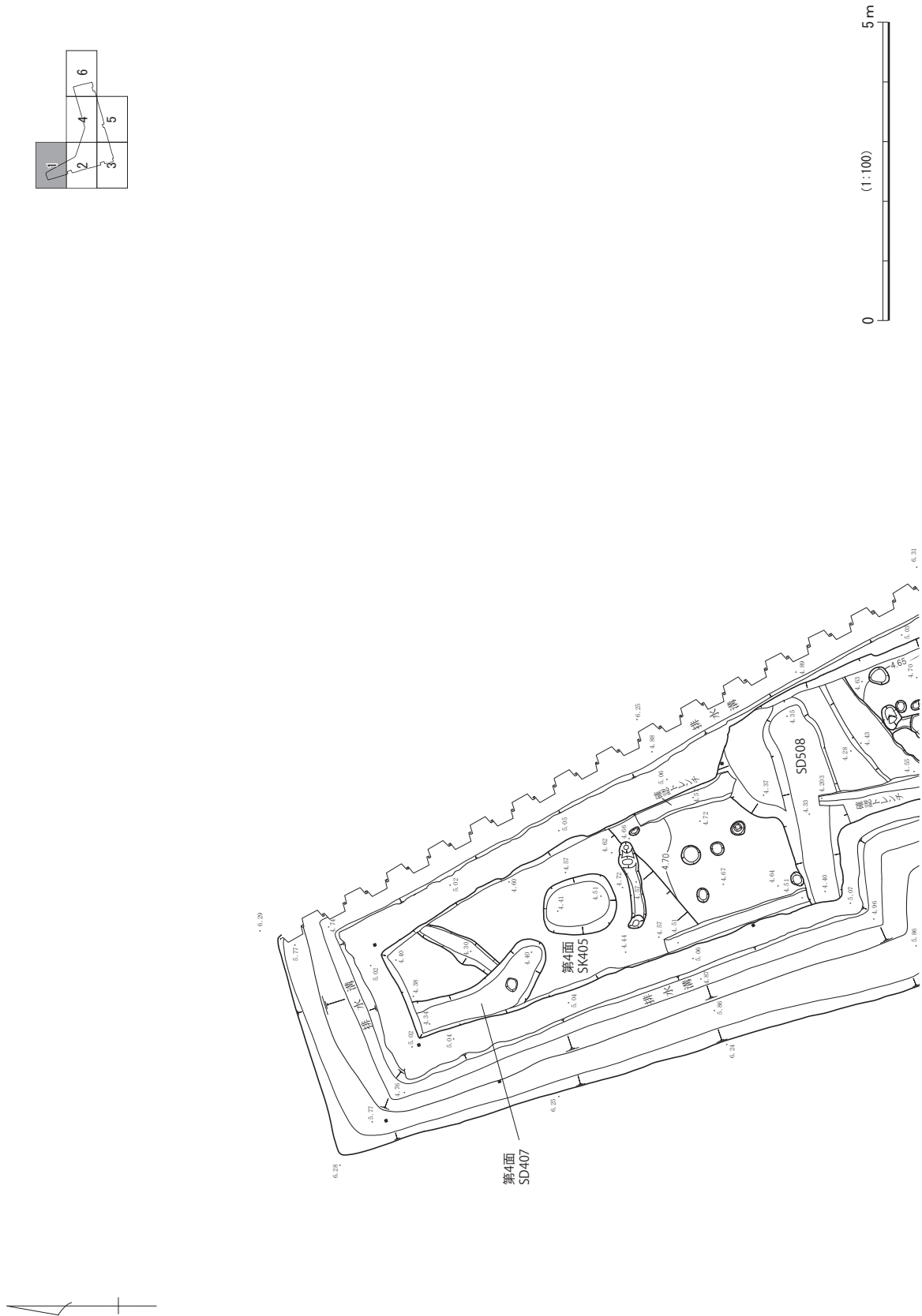
遺構番号は、現地調査時に遺物が出土した遺構に500~700番台を、また報告時に復元した平地建物にそれぞれ番号を付与している。調査の結果、土坑22基(7A5SK501~23、7A5SK504欠番)、溝21条(7A5SD501~521)、ピット約300基(7A5P501~721、欠番あり)を検出し、O・P-24~26区に分布する遺構を組み合わせて平地建物(7A5SI501)を復元している(第88~94図)。遺構別の分布は、O・P-26~28区西側に溝と小ピットが、O・P-28区東側に土坑が偏在する傾向を示し、O・P-24~26区(平地建物北側)は第2~4面遺構による損壊もあり判然としない。遺物は、比較的多くの弥生時代中期の土器に加えて、石器・石製品や平地建物の柱根、枕木が出土した他、SD202(古)に属する遺物がある。

1 平地建物(遺構:第96~98図、第54表、遺物:第99・100図、第58・61・62表)

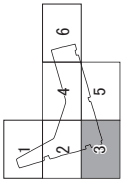
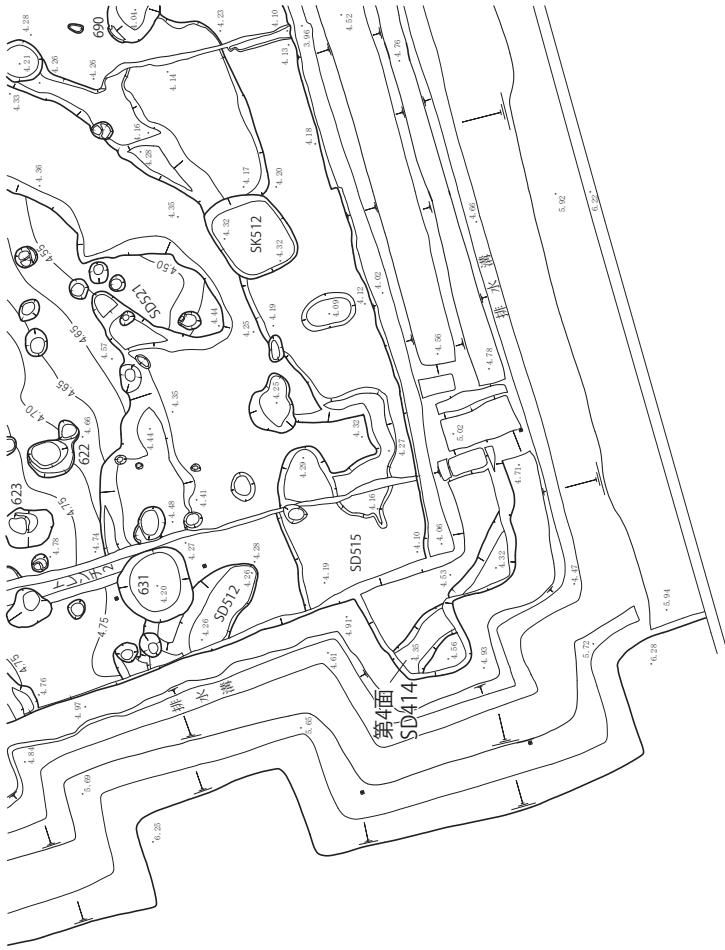
O・P-24~26区に位置する平地建物SI501は、多数の柱穴が密集しており、北東側~北側を第3面SD202(古)、SD316・317等で大きく損壊する。調査担当の主柱プランの復元、変遷等に関する記録がないことから、以下でプラン復元を試みる。復元は、幅広の外周溝と考えられるSD514・519・513・501土層断面(第97図断面e-e')が、西方向(SD514)から東方向(SD501)に向けて順次新しくなること、同様にSD514・519・513・501の平面位置も西方向から東方向及び北側から南側に向けて移動することから、平地建物は一部重複しながら南東方向に順次変遷すると想定した。また、主柱プランについては、第8・9次調査で検出した平地建物が4本主柱と報告される⁽²⁾ものの、A区第5面で検出した平地建物の占地面積



第88図 A区第5面主要遺構配置図(S=1/300)



第89図 A区第5面遺構平面図1 (S=1/100)



※ピット番号はPを省略。

第91図 A区第5面遺構平面図3 (S=1/100)

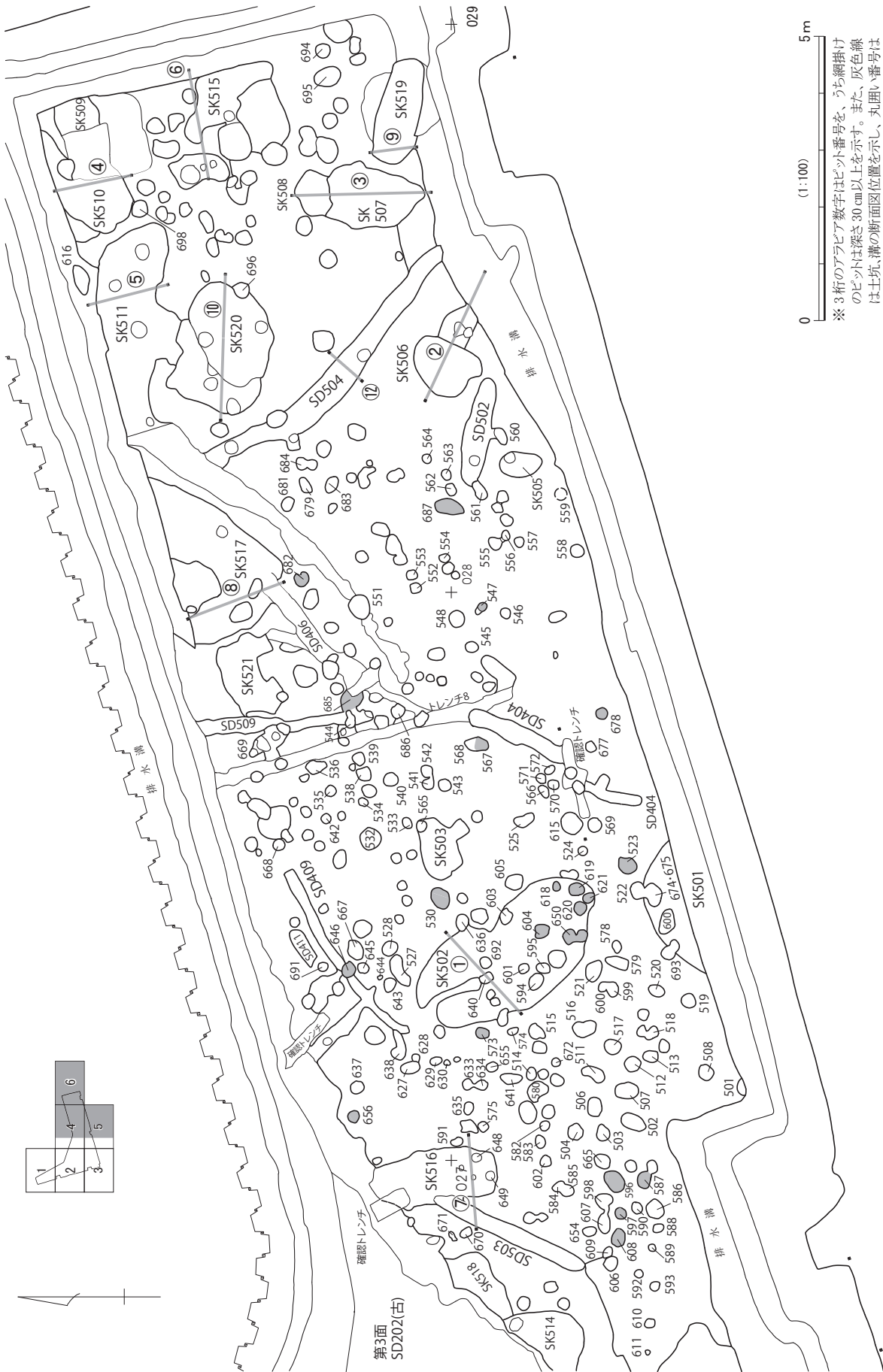


※ピット番号はPを省略。また、SK514 以東の
ピット番号は第95図を参照。

第92図 A区第5面遺構平面図4 (S=1/100)



第93図 A区第5面遺構平面図5 (S=1/100)



0 5m
(1:100)

※ 3桁のアラビア数字はピット番号を、うち網掛けのピットは深さ30cm以上を示す。また、灰色線は土坑・溝の断面図位置を示し、丸囲い番号は断面図番号と一致する。

第95図 A区第5面東半遺構配置図(S=1/100)

が、それらより大きいこと、4本主柱の復元では柱穴に多数の過不足が生じること等から、同心円構造をもつ多柱穴プランと判断、柱根、枕木の出土状況を勘案し、柱穴のおさまりのよい6本主柱を選択した。主柱穴の復元は、P-25区第3面SD316・317付近で東西方向に並列する主柱穴を目安としており、SI501の変遷としてほぼ同規模の6本主柱建物が南東側に向けて建て替える4小期の変遷(a～d環、第98図)を示した⁽³⁾。b環以外で柱根または枕木が出土しており、各主柱の沈降防止のため、主柱下端を挟り、1本の横木をはめ込む「根がらみ」の技術を、継続して用いるものと考えられる。また、外周溝は、南側が途切れるようで、建物入口になる可能性が高い。

a環 最も古い建物として、主柱穴P716、P707、P711、P664、P709等(北東方向から時計回り。以下、同じ)を、外周溝SD519・521・514(一部)を想定した。主柱で囲まれた範囲は径5.3×5.4m、主柱間距離は2.60～3.00m、主柱環の径と外周溝内径との距離は3.0～3.5mをそれぞれ測り、建物敷地は平面円形(約102㎡)となる。外周溝は判然としないが、幅34～66cm、深さ20cm前後と比較的小規模で、SD519覆土は灰褐～灰色粘質土を基調とする。P709・716から柱根(第99図1022・23)、P711から枕木(未図化)が出土している。なお、SD514も外周溝の可能性をもつが、主柱穴P707との距離が約1.1mと狭く、a環に先行する敷地境界と考えておきたい。

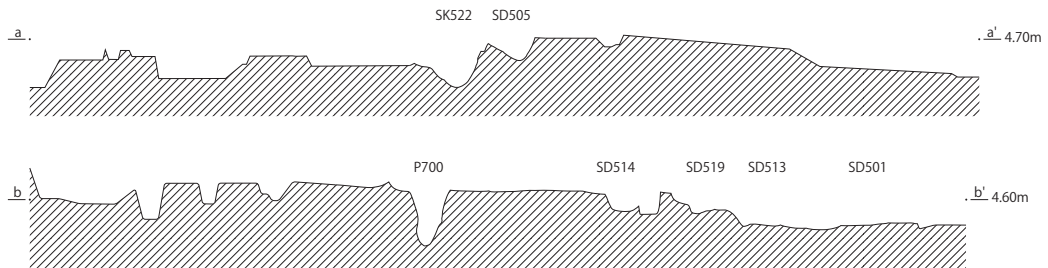
出土遺物のうち、SD514出土の第99図1020・21、主柱根1022・23を図示した。甕1020は口径17.8cmを測り、口縁部を綾杉文と下方からの刻みで加飾する。摩滅が進んだ甕底部1021は、1020と胎土が近似する。P709の柱根1022、P716の柱根1023とも、下端に横幅約12cmの方形挟りを入れ、同程度の太さをもつ1本の横木をはめ込んだと考えられる。柱根は、いずれも長径約25cm、短径20cm弱を測るが、1022がモクレン属の半裁材、1023がエノキ属の芯持丸木と、樹種、木取りは異なる。

b環 主柱穴としてP657、P705、P662等、外周溝としてSD513・515、建物中央の炉としてSK522、P701・708を想定した。主柱で囲まれた範囲は径4.9～5.2mを、主柱間距離は2.40～2.80mをそれぞれ測る。また、主柱穴と外周溝内径との距離は、東側が3.2m、それ以外が3.5～3.7mをそれぞれ測り、a環より南北方向が長い平面略楕円形を呈する。幅広の外周溝SD513は、最大幅205cm、深さ30～55cmを測り、SD513・515間に延長約3.2mの途切れ部分をもつ。覆土は黄灰色粘質土、暗灰褐色粘質土を基調とする。

また、建物中央に位置するSK522は平面略楕円形を呈する(第97図)。長径108cm、短径88cm、深さ63cmを測り、覆土は暗茶灰色粘土の上位層に、厚さ8～12cmの炭化物層(第97図土層7・8)が確認できる。SK522を中心として対称的な位置関係をもつP701・P708の配置は、松菊里型住居を想起させる。柱根は出土せず、遺構の切りあい関係からSD505より新しく位置付けられる。出土遺物のうち、SK522出土の第99図1024を図示した。石英質の敲石1024は上下2ヶ所に顕著な敲打痕を残し、重さ377.1gを量る。

c環 主柱穴としてP717、P704、P721、P715等、外周溝としてb環と同様にSD513・515を想定したが、主柱穴1ヶ所が欠落する。主柱で囲まれた範囲は径5.1～5.4mを、主柱間距離は2.35～2.70m、3.15m(P717・715間)をそれぞれ測る。また、主柱環の径と外周溝内径との距離は、東側が2.5～2.8m、その他が3.0～3.6mをそれぞれ測り、b環と同様に南北方向が長い平面略楕円形を呈する。主柱は抜き取られたものの、枕木がP715(第99図1026)、P717(同図1027)、P704(同図1028)から出土している。出土遺物のうち、第99図1025～1028を図示した。主柱穴P704出土の大型甕1025は口径27.8cm、器高34.5cmを測り、口縁端部を小さくつまみあげる。また、底部外面に黒斑が残り、胴部は摩滅が著しい。枕木は、幅9cm前後のコナラ属コナラ亜属コナラ節の材を用いる点で共通するものの、1026が断面略三角形を呈する分割材、1027が一部に樹皮が残る分割材、1028が長さ43.6cmの芯持丸木と、形状を優先した適度の選択性が認められる。

d環 最も新しい建物として、主柱穴P712、P659、P623、P714等、外周溝SD501を想定したが、主柱

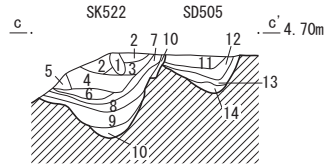
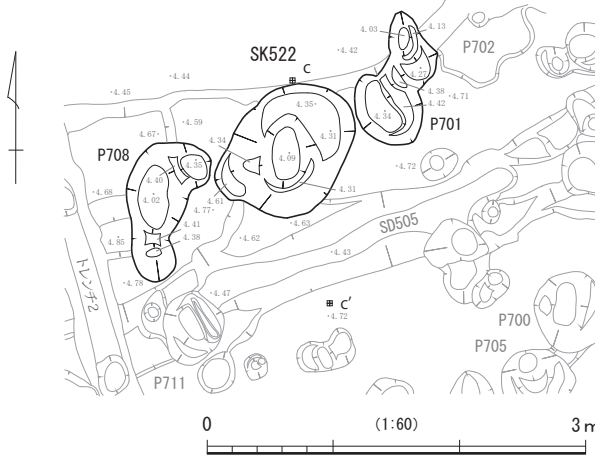


0 (1:100) 5m

※ 3桁のアラビア数字はピット番号を示す。

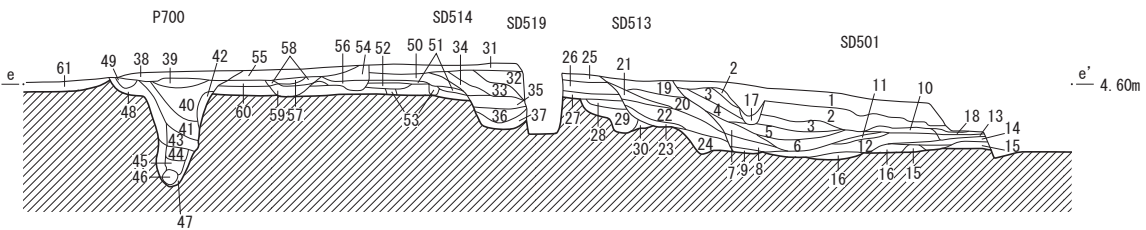
第96図 A区第5面SI501平面図・断面図(S=1/100)

SK522・SD505



1. 暗灰褐色粘土
2. 灰褐色粘土 (炭化物が混ざる)
3. 灰褐色粘土 (黄灰色シルト、炭化物が混ざる。)
4. 灰褐色粘土 (黄灰色粘土ブロック、黄灰色シルト、暗灰褐色粘土が混ざる)
5. 暗灰褐色粘土 (炭化物、黄灰色粘土ブロックが多量に混ざる)
6. 黄灰色粘土 (第2層、炭化物が少量混ざる)
7. 炭化物層
8. 炭化物層 (黄灰色粘土ブロックが混ざる)
9. 暗茶灰色粘土 (炭化物、淡灰色シルト粘土が混ざる)
10. 暗茶灰色粘土
11. 淡茶灰色粘土
12. 灰褐色粘土 (黄灰色粘土ブロックが混ざる)
13. 黄灰色シルト (第2層が混ざる)
14. 灰褐色粘土 (第3層が混ざる)

SD501



(SD501)

1. 黒褐色粘質土 (灰色粘質土と交互層となる部分あり)
2. 灰褐色粘質土 (炭化物が混ざる)
3. 暗灰褐色粘質土 (炭化物、黄灰色粘土小ブロックが混ざる)
4. 黄灰色粘質土 (暗灰褐色土が混ざる)
5. 暗灰色粘質土 (黄灰色粘土小ブロック、炭化物が混ざる)
6. 暗灰色粘質土 (黄灰色粘土ブロック、炭化物が混ざる)
7. 暗灰色粘質土 (黄灰色粘土ブロックと暗灰色土の混合土)
8. 暗灰色粘質土 (黄灰色粘土ブロックと暗灰色土の混合土)
9. 灰色粘質土
10. 淡灰色粘質土
11. 暗灰色粘質土 (灰白色粘土細粒が混ざる)
12. 暗灰色粘質土 (灰白色粘土ブロックが多量に混ざる)
13. 緑灰色砂質土
14. 暗灰色粘質土
15. 灰白色粘質土
16. 灰白色粘質土 (暗灰色粘質土、炭化物が混ざる)
17. 暗灰色粘質土
18. 黒褐色粘質土

(SD513)

19. 灰色粘質土
20. 灰色粘質土 (黄灰色粘質土ブロックが少量混ざる)
21. 灰色粘質土
22. 灰色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック、暗灰色粘土が混ざる)
23. 黄灰色粘質土 (灰色粘質土、暗灰色粘質土ブロックが混ざる)
24. 黄灰色粘質土 (黄灰色粘質土ブロックと白青灰色粘質土が互層状堆積。炭化物が混ざる)

(SD519)

25. 灰褐色粘質土 (黄灰色粘土小ブロックが混ざる)
26. 灰褐色粘質土 (黒褐色粘質土、黄灰色粘質土ブロックが混ざる)
27. 黒褐色粘質土 (黄灰色粘質土小ブロックが混ざる)
28. 灰色粘質土 (黄灰色粘質土小ブロックが混ざる)
29. 灰色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック多量に混ざる)
30. 暗灰色粘質土

(SD501)

31. 灰褐色粘質土
32. 暗灰褐色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック、炭化物が混ざる)

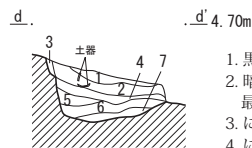
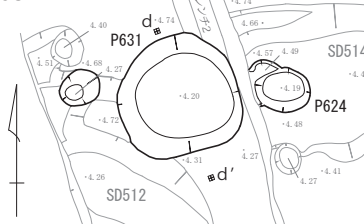
(SD514)

33. 暗灰褐色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック多量に混ざる)
34. 灰色粘質土
35. 黄灰色粘質土ブロック主体 (灰色粘質土が混ざる)
36. 黄灰色粘質土ブロック主体 (暗灰色粘質土が混ざる)
37. 黒褐色粘質土 (36層との境に炭化物層、黄灰色粘質土ブロックが混ざる)

(P700 38~49)

38. 灰色粘質土
39. 暗灰色粘質土 (黄灰色粘質土小ブロックが混ざる)
40. 暗灰色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック多量に混ざる)
41. 暗灰色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック多いが、40層より少ない)
42. 暗灰色粘質土 (黄灰色粘質土小ブロックが混ざる)
43. 暗灰色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック多量に混ざる)
44. 灰白色粘質土 (暗灰色シルトが混ざる)
45. 暗灰色シルト (灰白色粘質土ブロックが混ざる)
46. 茶灰色粘質土
47. 青灰色シルト (暗灰色粘質土ブロックが混ざる)
48. 黄灰色粘質土 (暗灰色粘質土が混ざる)
49. 灰色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック多量に混ざる)
50. 灰色粘質土 (黄灰色粘質土ブロックが混ざる)
51. 暗灰褐色粘質土 (炭化物が混ざる)
52. 灰色粘質土
53. 灰色粘質土 (黄灰色粘質土ブロックが混ざる)
54. 灰色粘質土
55. 灰色粘質土 (炭化物多量に混ざる)
56. 暗灰色粘質土 (黄灰色粘質土ブロックが混ざる)
57. 暗灰褐色粘質土 (炭化物が混ざる)
58. 灰色粘質土
59. 淡灰色粘質土
60. 灰色粘質土
61. 灰色粘質土

P631



1. 黒褐色粘質土 (土器片、炭化物が混ざる)
2. 暗灰褐色粘質土 (土器片、炭化物が多量に混ざる。最下部に薄い炭化物層あり)
3. にぶい灰色粘質土 (ベース土粒が混ざる)
4. にぶい灰色粘質土 (ベース土粒が多量に混ざる)
5. 暗灰褐色粘質土 (ベース土ブロックが混ざる)
6. 暗灰色粘質土 (炭化物が混ざる)
7. 灰色粘質土 (ベース土ブロックが多く混ざる)

第97図 A区5面SI501等平面図・土層断面図 (S=1/60)

支柱穴等

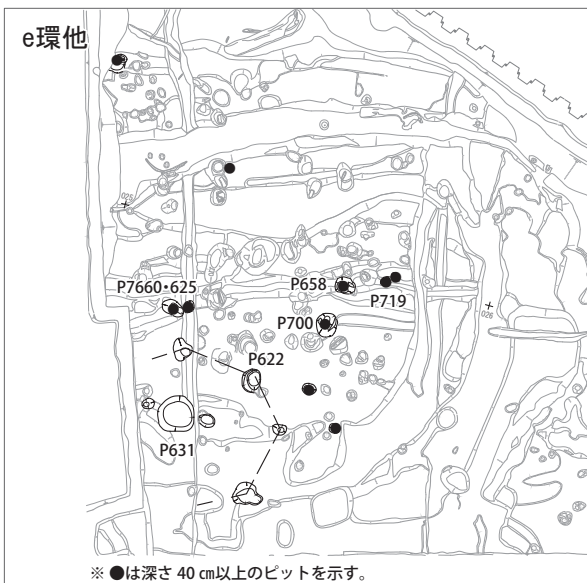
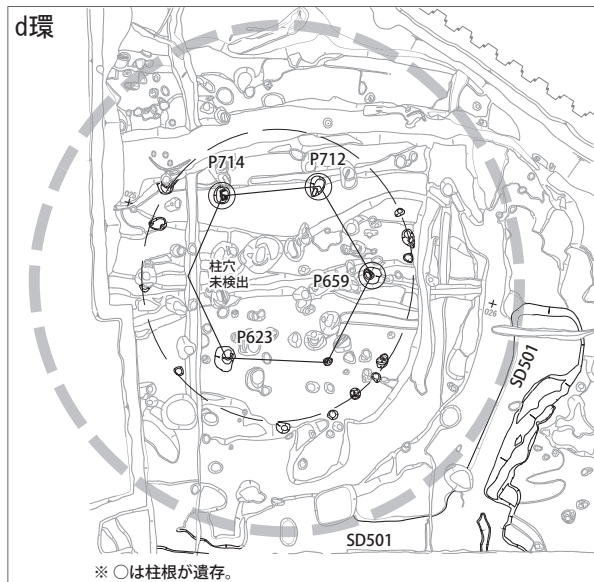
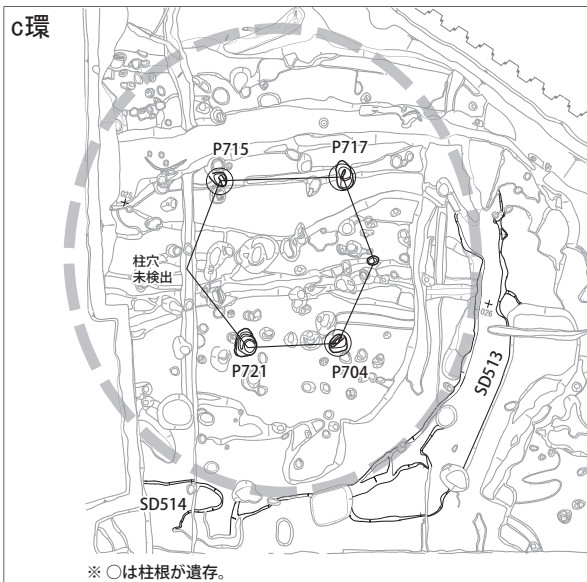
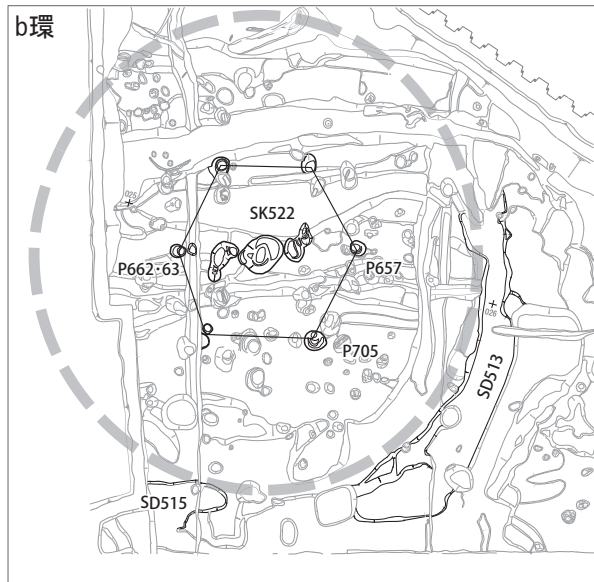
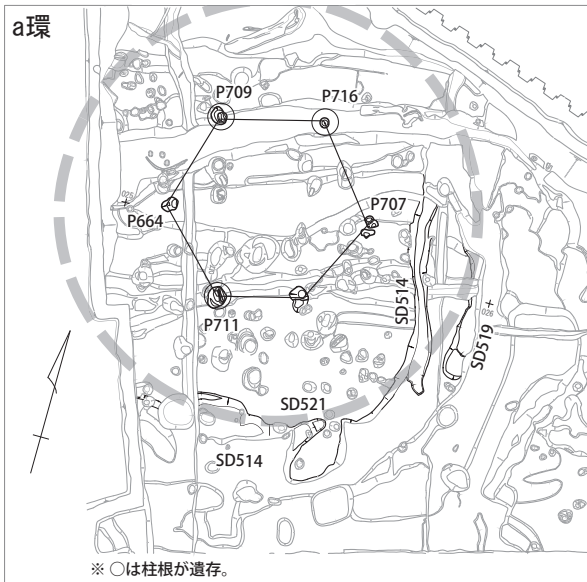
| 復元案 | 遺構番号 | グリッド | 柱穴平面形 | 規模 (cm) | | | 備考 |
|-----------|----------|--------|-------|---------|------|------|-----------------------|
| | | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | |
| a環 (6本主柱) | 7A5P716 | P-25 | 略円形 | 26 | 24 | 38 | 枕木あり |
| | 7A5P707 | P-25 | 不整形 | 35 | 22 | 51 | |
| | 番号なし | O-25 | 不整楕円形 | 68 | 48 | 70 | |
| | 7A5P711 | O-25 | 不整形円形 | 50 | 48 | 53 | 柱根あり |
| | 7A5P664 | P-25 | 不整楕円形 | 32 | 20 | 33 | |
| | 7A5P709 | P-25 | 不整形円形 | 48 | 38 | 47 | 柱根あり。中央一段くぼむ。SK513より新 |
| b環 (6本主柱) | 番号なし | P-25 | 不整楕円形 | 52 | 38 | 64 | |
| | 7A5P657 | P-25 | 略円形 | 42 | 36 | 76 | |
| | 7A5P705 | O-25 | 略円形 | 58 | 52 | 49 | |
| | 番号なし | O-25 | 略円形 | (26) | (26) | (6) | |
| | 7A5P662 | O-25 | 略円形 | 34 | 32 | 41 | |
| | 番号なし | P-25 | 略円形 | 56 | 52 | 76 | |
| b環 (炉関係) | 7A5SK522 | O・P-25 | 略楕円形 | 108 | 88 | 63 | SD505より新。炭化物層あり |
| | 7A5P701 | O・P-25 | 不整楕円形 | 64 | 52 | 37 | |
| | 7A5P708 | O-25 | 略楕円形 | 72 | 50 | 75 | |
| c環 (6本主柱) | 7A5P717 | P-25 | 不整楕円形 | 76 | 40 | 68 | 柱根あり |
| | 番号なし | P-25 | 略楕円形 | (28) | (24) | (10) | |
| | 7A5P704 | O-25 | 不整形円形 | 52 | 46 | 58 | 柱根あり |
| | 7A5P721 | O-25 | 不整形円形 | 72 | 56 | 80 | |
| | (未検出) | O-25 | - | - | - | - | |
| | 7A5P715 | P-25 | 不整形円形 | 38 | 36 | 73 | 枕木あり |
| d環 (6本主柱) | 7A5P712 | P-25 | 不整楕円形 | 58 | 36 | 87 | 柱根あり |
| | 7A5P659 | O・P-25 | 不整形円形 | 46 | 46 | 63 | 柱根あり |
| | 番号なし | O-25 | 不整形円形 | (24) | (20) | (20) | |
| | 7A5P623 | O-25 | 不整形円形 | 66 | 53 | 95 | |
| | (未検出) | O-25 | - | - | - | - | |
| | 7A5P714 | P-25 | 不整形円形 | 45 | 42 | 54 | 柱根あり |
| e環 (8本柱か) | 7A5P622 | O-25 | 不整楕円形 | 54 | 34 | 83 | 黒褐色粘質土か |
| | 7A5P631 | O-25 | 不整形円形 | 96 | 94 | 54 | SD514より古。炭層あり |

外周溝

| 復元案 | 遺構名 | グリッド | 規模 (cm) | | | 備考 |
|------|------------|-----------------|---------|---------|-------|-------------------|
| | | | 延長 | 幅 | 深さ | |
| a環か | 7A5SD514 | O・P-25 | 1200~ | 72~ | 26~35 | SD513より古。SD517より新 |
| a環か | 7A5SD519 | O・P-25 | 334~ | 50~ | 13~17 | SD513・517より古 |
| | 7A5SD521 | O-25 | 100~ | 34~56 | 21 | |
| | (7A5SD512) | O-25 | 126~ | 66 | 48 | P631より古 |
| b・c環 | 7A5SD513 | O・P-25・26 | 1400~ | 55~205 | 31~46 | SD517より新。SD501より古 |
| | 7A5SD515 | O-25 | 210~ | 75~ | 35~55 | |
| d環 | 7A5SD501 | O-25、 O・P-26 | 1450~ | 120~185 | 19~30 | 湾曲。SD513より新 |

第54表 A区第5面SI501 規模等一覧表

穴1ヶ所が欠落する。主柱で囲まれた範囲は径4.8~5.2mを、主柱間距離は2.40~2.80mをそれぞれ測る。また、主柱環径と外周溝内径との距離は2.7~3.2mと、南北方向が長い傾向を維持する。外周溝SD501は幅120~185cm、深さ20~30cmを測り、覆土は暗灰色粘質土を基調とする。第98図のとおり、主柱環と同心円的に小ピットが点在し、周堤内側の土止杭(壁周壁)とすれば、建物規模は径7.0×7.7m(約42㎡)、周堤幅2.7~3.2mに復元可能である。主柱穴P659から柱根(第100図1029)、P712・714から腐食が進んだ枕木片(未図化)が出土している。柱根1029は、長径20.5cmを測るサクラ属の芯持丸木材を用い、下端に枕木と組み合わせるために浅い抉り痕が確認できる。外周溝SD501から第100図1030~46が出土、1030~37・41は甕、1338~40・42は壺となる。1030は口径23.2cmを測り、口縁端部を平坦に仕上げる。上げ底風の底部1031は、内面に炭化物が付着し、胎土が1030と近似する。1032は口径32.0cmを測り、口縁端部を上方から指で押圧して小波状に仕上げる。1033は口縁端部上下方向から刻みを施し、上方から

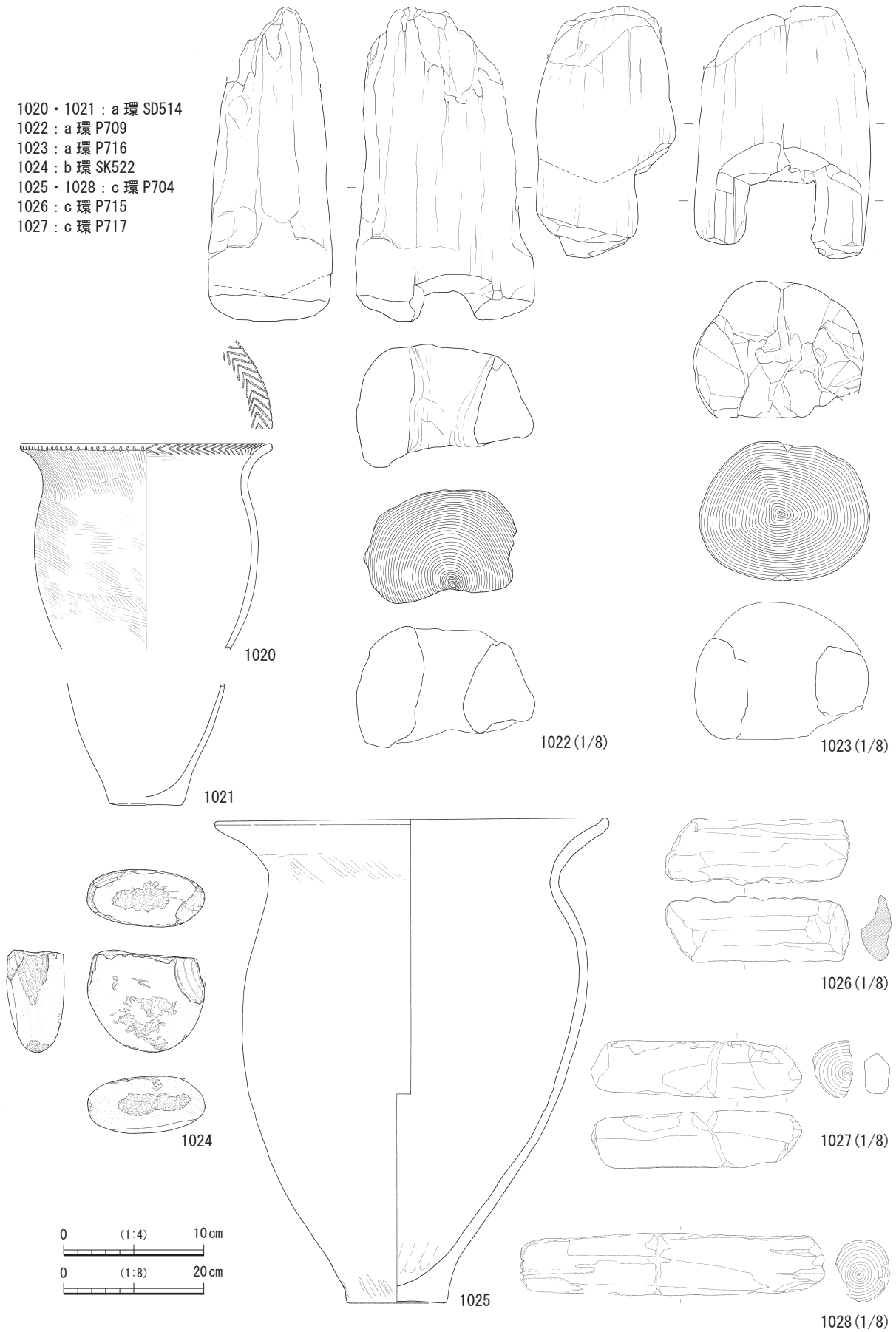


| | 主柱環復元径 | 主柱プランと柱間距離 (ゴチックは柱根、枕木が遺存) | 外周溝他 | 外周溝内側復元径 | 主柱環径と外周溝内径の間の距離 |
|----|---------------|--|-------------------------------------|------------------------------|----------------------------|
| a環 | 5.4× 5.3m | P716 -(3.00m)- P707 周辺-(2.60m)-番号なし-(2.70m) P711 -(2.80m)- P664 -(2.65m)- P709 -(2.80m)- P716 | (SD519・521・514) | SD519・521等 11.4× 11.4m | SD519・521等 3.0～ 3.5m |
| b環 | 5.2× 4.9m | 番号なし-(2.50m)- P657 -(2.60m)- P705 -(2.80m)-番号なし-(2.70m)- P662 - P663 周辺-(2.60m)-番号なし-(2.40m)-番号なし | SD513・515 中央炉 SK522、P701、P708 | 12.5× 11.5m | 3.2～ 3.7m |
| c環 | 5.4× 5.1m | P717 -(2.45m)-番号なし-(2.30m)- P704 -(2.35m)- P721 -(2.70m)-未検出ピット-(2.55m)- P715 -(3.15m)- P717 | SD513・515 | 12.4× 11.0m | 2.5～ 3.6m |
| d環 | 5.2× 4.8m | P712 -(2.70m)- P659 -(2.50m)-番号なし-(2.70m)- P623 -(2.40m)-未検出ピット-(2.80m)- P714 -(2.50m)- P712 | SD501 | 13.7× 12.8m | 2.7～ 3.2m |
| e環 | 4.6× 4.7mか | 番号なし-(2.00m)-番号なし-(1.60m)- P622 -(2.00m)-番号なし | - | - | - |

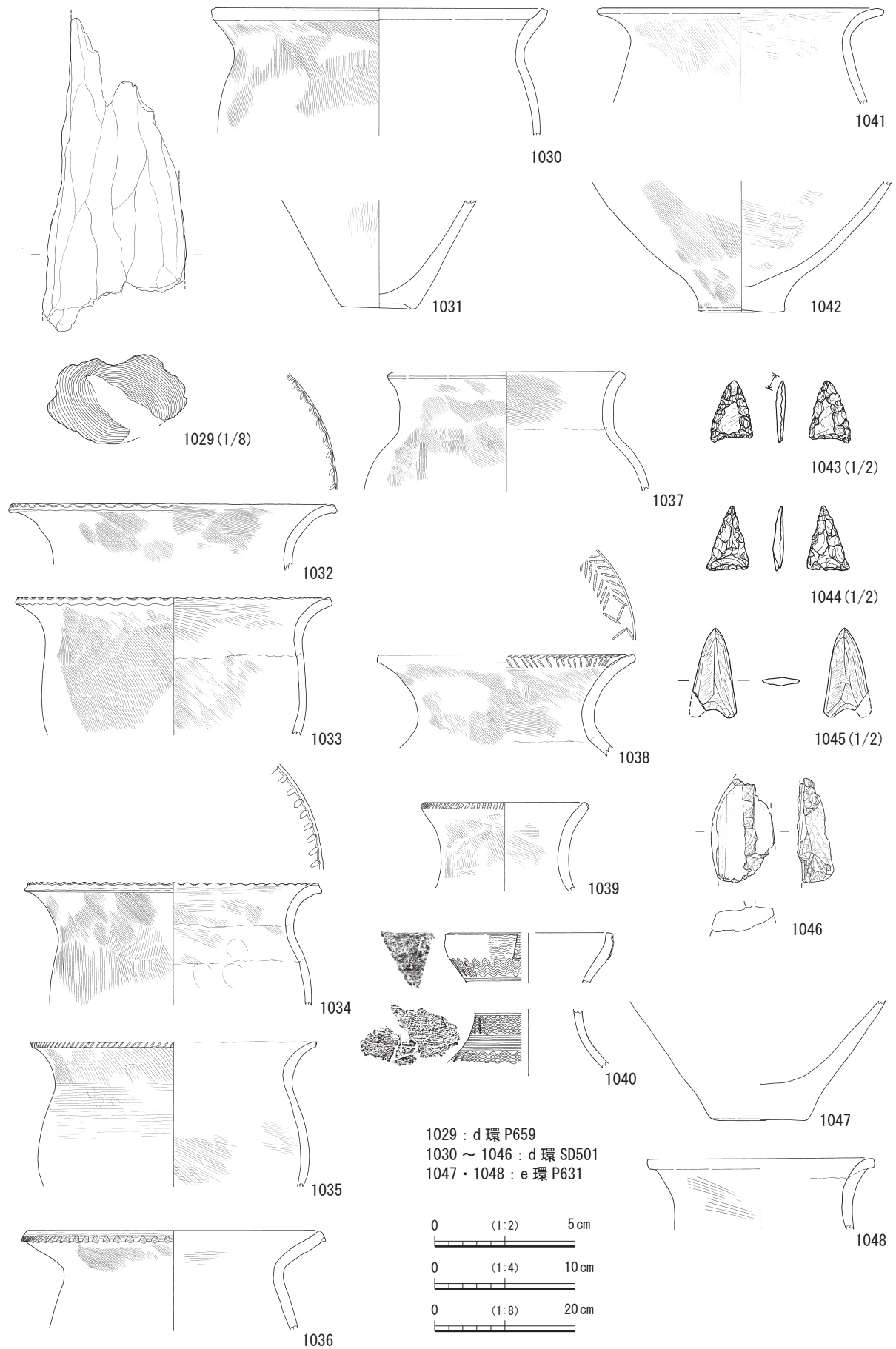


第98図 A区第5面平地建物復元案(S=1/200)

- 1020・1021 : a 環 SD514
- 1022 : a 環 P709
- 1023 : a 環 P716
- 1024 : b 環 SK522
- 1025・1028 : c 環 P704
- 1026 : c 環 P715
- 1027 : c 環 P717



第99図 A区第5面SI501 出土遺物実測図1 (S=1/4・1/8)



第100図 A区第5面SI501出土遺物実測図2 (S=1/2・1/4・1/8)

の刻みは丸棒状工具を用いるため比較的浅い。1034は、平坦に仕上げた口縁端部に1条の沈線を加えた後、上方から丸棒状工具で刻みを施す。1035は口径20.4cmを測り、胴部外面に横方向のハケ調整が残る。また、胴部内面にコゲ、外面に煤が付着する。1036は頸部の屈曲が強く、破片はP689からも出土した。1037は口径16.0cmを測り、壺形に近い印象を受ける。壺1038は、口縁部内面を大振りの綾杉文で加飾する。1039は口径11.6cmを測り、口縁端部の刻みは密である。1040は口径約11cmを測る小片である。外面を直線文、波状文で加飾した後、口縁部に棒状浮文を貼り付け、その上に横方向の刻みを施す。1041は口径19.5cmを測り、摩滅が著しい。底部片1042は、甕1041と胎土が類似する。平基無茎の石鏃1043・44は、黒色のガラス質安山岩製である。1043は先端に磨きを加え平滑となる。重さは、1043が1.05 g、1044が0.81 gを量る。1045は鋭利に磨かれた磨製石鏃で、一部を欠損する。オリーブ灰色の透閃石を用い、残存重量1.55 gを量る。明青灰色を呈する透閃石製の1016は、磨製石斧を再加工した際の残欠と考えられる。両側面から擦切りを行うため、中央の直線的な折面(幅0.7~0.8cm)を挟んで段差をもつ。

その他 SI501と異なる、P631を中央炉とする8本主柱建物を想定した(第98図左下。e環)が、SI501とは異なる建物構造や外周溝を欠くこと等、その根拠を欠く部分も多く、あくまで可能性として提示しておく。仮に建物とした場合、主柱で囲まれた範囲は径4.6~4.7m、主柱間距離は1.60~2.00mを測る。平面不整形円形を呈するP631は径約95cm、深さ11cmを測り、覆土中に炭化物層が存在する(第97図断面d-d'土層2)。両脇に小ピットが位置する関係はSK522と類似し、遺構の切り合い関係からSD514より古く位置付けられる。P631出土遺物のうち、第100図1047・48を図示した。壺底部1047は全体が摩滅する。壺口縁部1048は口径16.0cmを測る。

2 土坑・ピット(遺構:第101・102図、第55・57表、遺物:第103図、第58・59・61表)

土坑は22基を確認し、うちSK522はSI501の一部を構成する。分布状況は、SK512・513・523以外が、調査区東半に偏在し、特にO・P-28は密集度合が高い。平面形等から、平面不整形を呈する比較的浅い落ち込み状の土坑(SK501~503・505・514・518・521)と、溝状の土坑(SK509~511・516・517)、平面不整形または円形・楕円形を呈する比較的深い土坑(SK506~508・512・513・515・519・520・523)に分類可能である。うち、溝状の土坑、深い土坑は、平地建物外周溝、土坑墓の可能性をもつ。規模等を、第55表に示した。**SK501~503・505・514・518・521** 浅い落ち込み状の土坑である。覆土は、遺物包含層と類似した黒褐・黒茶灰~暗灰色粘質土を基調とし、深さ10cmより浅いものが大部分を占める。SK514・518は、P-26区第3面SD202(古)沿いに分布する遺構番号のない浅い落ち込みと同様に、第3面SD316と一体をなす遺構の可能性をもつ。

SK506 O・P-28区で検出した平面不整形楕円形を呈する土坑である(第101図)。覆土は暗灰~黒灰色シルトで、第7層上面に厚さ約1cmの炭層が確認できる。

SK507・8 P-28区で検出した土坑で、SK508が新しい。覆土は、SK508が暗灰色粘質土、SK509が褐灰~灰色粘質土を基調とし、SK507第5層に多量の炭化物が混ざる。

SK509・10 P-28区で検出した土坑で、SK509が新しい。SK509は、第4面までの遺構で大部分が損壊し、覆土は黒灰色粘質土である。SK510は延長230cm以上を図る溝状の土坑であり、覆土は暗灰褐色粘質土である。SK510出土遺物のうち、第103図の壺1049を図示した。細身の1049は底部外面に糊圧痕1ヶ所が確認できる他、胎土の練りが不十分なためマーブル状の色調を呈する。

SK511・517 P-27・28区で検出した溝状の土坑で、調査区外北側にのびる。SK511の底面は起伏をもち、覆土は暗褐灰~暗灰色を基調とする粘質土が堆積する。SK117は逆L字状に屈曲し、覆土最上層に多量の炭化物が混ざる黒灰色粘質土が堆積する。SK511出土遺物のうち、第103図1050を図示した。底部穿

| 遺構名 | グリッド | 平面形態 | 規模 (cm) | | | 備考 |
|----------|-----------|--------|---------|------|-------|----------------------|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | |
| 7A5SK501 | O-27 | 不明 | 245 | 70~ | 2~6 | 浅い落ち込み状 |
| 7A5SK502 | O・P-27 | 不整形 | 372 | 約130 | 2~18 | |
| 7A5SK503 | O・P-27 | 不整長方形 | 112 | 94 | 10~13 | 浅い落ち込み状 |
| 7A5SK505 | O-28 | 略楕円形 | 74 | 44 | 4~6 | 浅い落ち込み状 |
| 7A5SK506 | O・P-28 | 不整楕円形 | 118 | 94 | 35 | |
| 7A5SK507 | P-28 | 不整楕円形 | 168 | 120 | 21~31 | SK508より古 |
| 7A5SK508 | P-28 | 不整方形か | 78 | 60~ | 13~15 | SK507より新 |
| 7A5SK509 | P-28 | 不整長方形 | 230~ | 78 | 31~49 | 溝状。SK510より新 |
| 7A5SK510 | P-28 | 不明 | 100~ | 50~ | 45 | SK509より古 |
| 7A5SK511 | P-28 | 不整長方形 | 453~ | 115 | 6~34 | SK517より古。溝状 |
| 7A5SK512 | O-25 | 不整方形 | 114 | 94 | 7~9 | SD501より新 |
| 7A5SK513 | P-25 | 不整円形か | 155 | 86~ | 15~18 | P709より古。第3面SD316で損壊 |
| 7A5SK514 | O-26 | 不整形 | 222 | 85~ | 7~11 | 浅い落ち込み状。SK518より新 |
| 7A5SK515 | P-28 | 不整形 | 155 | 142 | 28 | |
| 7A5SK516 | O・P-26・27 | 略長方形 | 226~ | 96 | 8~24 | SD503より新か |
| 7A5SK517 | P-27・28 | 不整形 | 235 | 118 | 14~24 | SD506より古、SK511より新。溝状 |
| 7A5SK518 | O-26 | 不整形 | 150~ | 50~ | 4~20 | 浅い落ち込み状。SK514より古 |
| 7A5SK519 | P-28 | 不整楕円形か | 190 | 102~ | 44~49 | |
| 7A5SK520 | P-28 | 不整形 | 170 | 115 | 12~29 | |
| 7A5SK521 | P-27 | 不整形 | 146 | 104 | 2~11 | 浅い落ち込み |
| 7A5SK523 | Q-24 | 不整長方形 | 245 | 112 | 19~22 | |

第55表 A区第5面土坑規模等一覧表

| 遺構名 | グリッド | 規模 (cm) | | | 備考 |
|----------|---------|---------|---------|-------|----------------------------|
| | | 延長 | 幅 | 深さ | |
| 7A5SD502 | O-28 | 192 | 35~48 | 5~12 | |
| 7A5SD503 | O・P-26 | 290 | 28~30 | 10~17 | SK516より古か |
| 7A5SD504 | O・P-28 | 565~ | 30~52 | 5~18 | 南側に流下 |
| 7A5SD505 | O・P-25 | 980~ | 64~116 | 17~35 | SK522、SD514より古 |
| 7A5SD506 | Q-24 | 65 | 32 | 15 | |
| 7A5SD507 | O-26 | 120~ | 26~46 | 6~9 | 湾曲 |
| 7A5SD508 | Q-24 | 350~ | 275~295 | 15~28 | |
| 7A5SD509 | P-27 | 302~ | 16~30 | 3~8 | |
| 7A5SD510 | O-26 | - | 約200 | 3~5 | 不整形な落ち込みか |
| 7A5SD511 | O-26 | - | 145~185 | 13~16 | 不整形な落ち込みか |
| 7A5SD516 | P-24・25 | 400~ | 100~258 | 42~58 | P713より古 |
| 7A5SD517 | O・P-25 | 135~ | 44~56 | 16~18 | SD513・514より古。SD505・518と接続か |
| 7A5SD518 | O-25 | 220~ | 54~ | 5~13 | SD505と重複 |
| 7A5SD520 | O・P-25 | 855~ | 78~264 | 10~23 | |

第56表 A区第5面溝規模等一覧表

孔の鉢1050は、内面に炭化物、外面に煤が付着する。

SK512 O-25区で検出した平面不整方形を呈する土坑である。SD501より新しく位置付けられる。

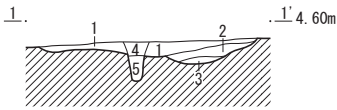
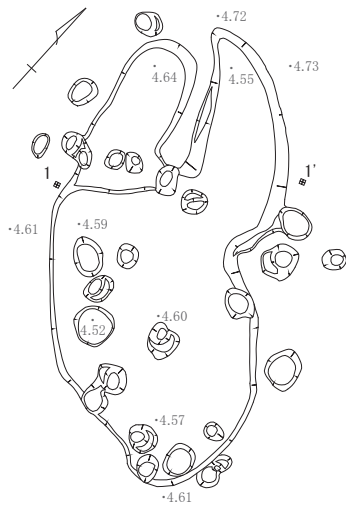
SK513 P-25区で検出した土坑で、大部分が第3面SD316により損壊する。

SK515 P-28区で検出し、平面プランから2つの土坑が重複すると考えられる。覆土は、ベース土が混ざる暗灰~暗褐色粘質土である。

SK516 O・P-26・27区で検出した直線的な溝状土坑で、北側は第3面SD202(古)で損壊する。覆土は暗褐色粘質土で、下位層に多くのベースが混ざる。

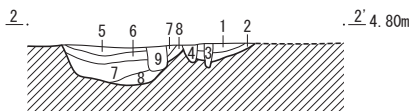
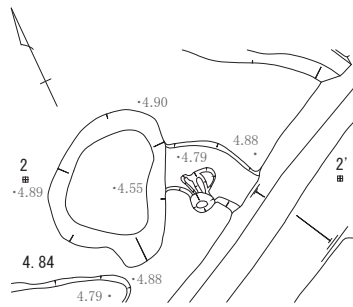
SK519 P-28区で検出した土坑で、一部損壊するが平面不整楕円形を呈すると考えられる。長軸約190cm、深さ44~49cmを測り、覆土下位層にベース土混ざりの黒灰色粘質土がほぼ水平に堆積する。出土遺物のうち、第103図1051~54を図示、1051~53は甕となる。1051は口径18.4cmを測り、口縁端部

O・P-27区 SK502



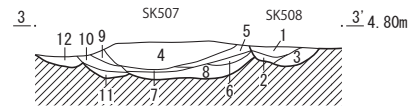
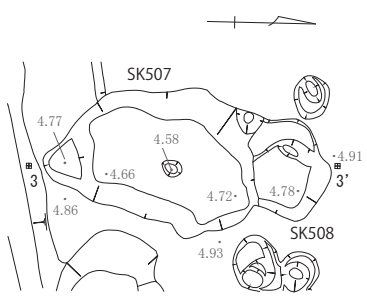
1. 黒茶灰色粘質土 (多量の茶褐色粒が混ざる)
2. 黒茶灰色粘質土 (第1層に浅黄色粘質土粒が混ざる)
3. 淡灰色粘質土 (多量のベース土が混ざる)
4. 暗黒褐色粘質土
5. 淡黒褐色粘質土

O・P-28区 SK506



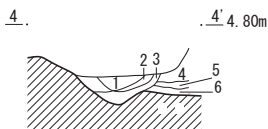
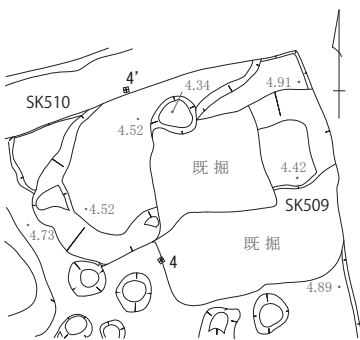
1. 暗灰褐色シルト (少量の橙白色シルト土粒、炭粒が混ざる)
2. 濁橙灰色シルト (少量の暗灰褐色シルトが混ざる)
3. 黒灰色シルト
4. 暗灰茶色粘質土 (少量の橙白色シルト粒が混ざる)
5. 暗灰色シルト (粘性あり、少量の橙白色シルト粒が混ざる)
6. 5層と同質土 (橙白色シルトブロックが多量に混ざる)
7. 黒灰色シルト (少量の炭粒、緑灰色シルト粒が混ざる。最上部に炭層あり(厚さ約1cm))
8. 黒灰色シルト (少量の緑灰色シルトブロックが混ざる)
9. 暗褐色シルト (粘性あり)
- ベース土 橙白色シルト

P-28区 SK507・508



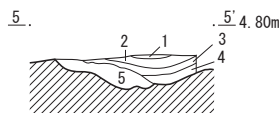
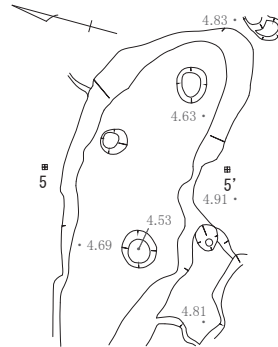
1. 暗灰色粘質土
2. 淡オリブ灰色シルト
3. 1層と同質土 (やや明るい、少量のベース土粒混ざる)
4. 褐灰色粘質土 (多量の浅黄色粘質土粒、炭化物混ざる)
5. 暗灰色粘質土 (多量の炭化物が混ざる)
6. 灰色粘質土
7. 6層と同色同質土 (炭化物が混ざる)
8. 灰色粘質土 (多くのベース土ブロックが混ざる)
9. 褐灰色粘質土 (")
10. 褐灰色粘質土 (少量のベース土粒が混ざる)
11. 浅黄色粘質土ブロック層 (ベース土主体)
12. 黒褐色粘質土 (ベース土ブロックが混ざる)

P-28区 SK509・510



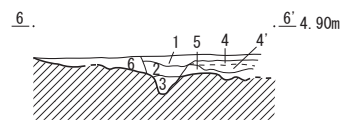
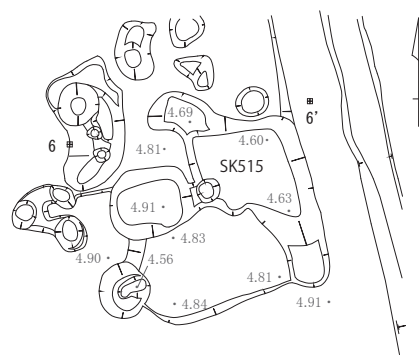
- [SK509]
1. 黒灰色粘質土 (少量のベース土がバッチ状に混ざる)
 2. 黒灰色粘質土 (最下部に炭化物層あり)
 3. 黒灰色粘質土 (多量のベース土ブロックが混ざる)
- [SK510]
4. 暗灰褐色粘質土 (少量のベース土粒が混ざる)
 5. 暗灰褐色粘質土 (炭化物層が混ざる)
 6. 暗灰褐色粘質土 (多量のベース土ブロックが混ざる)

P-28区 SK511

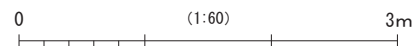


1. にぶい暗褐色粘質土
2. 暗褐色粘質土 (ベース土粒が混ざる)
3. 暗灰色粘質土 (多くの炭化物が混ざる)
4. 暗灰色粘質土 (多くのベース土粒が混ざる)
5. にぶい暗褐色粘質土 (炭化物と多くのベース土ブロックが混ざる)

P-28区 SK515

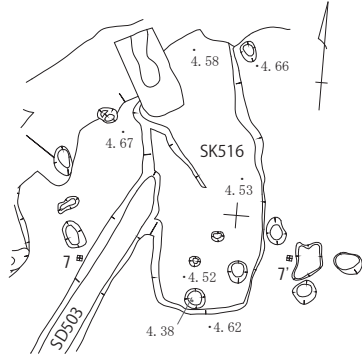


1. 暗褐色粘質土 (少量のベース土粒と炭化物混ざる)
2. にぶい褐灰色粘質土 (ベース土粒が混ざる)
3. 暗灰色粘質土 (ベース土ブロックが混ざる)
4. 暗褐色粘質土 (若干しまりあり、少量の炭化物混ざる)
- 4' 4層と同質土 (4層より淡くしまり弱い、少量のベース土粒が混ざる)
5. 淡オリブ灰色シルト (ベース土ブロック、暗褐色粘質土が混ざる)
6. 暗褐色粘質土 (ベース土ブロックが混ざる)

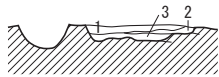


第101図 A区5面土坑平面図・土層断面図(S=1/60)

O・P-26・27区 SK516

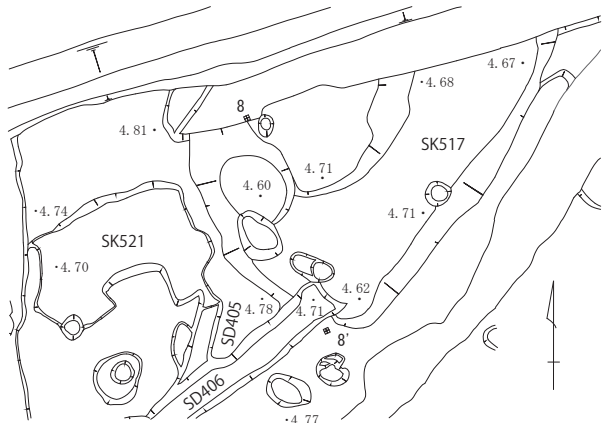


7. 4.80m

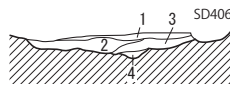


1. 暗褐色粘質土 (多くの炭化物、少量の土器片が混ざる)
2. 暗褐色粘質土 (多くのベース土粒が混ざる)
3. ベース土と同質土 (暗褐色粘質土が混ざる)

P-27・28区 SK517

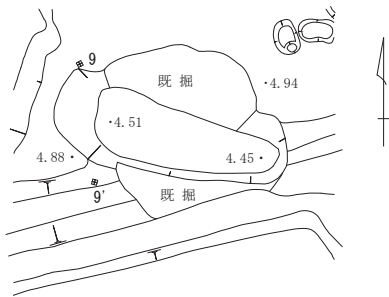


8. 4.80m

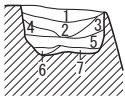


1. 黒灰色粘質土 (多量の炭化物、少量のベース土粒が混ざる)
2. にぶい灰色粘質土 (少量の炭化物、多量のベース土粒が混ざる)
3. 灰褐色粘質土 (多量のベース土ブロックが混ざる)
4. 淡オリブ灰色シルト (ブロック状。灰褐色粘質土が混ざる)

P-28区 SK519

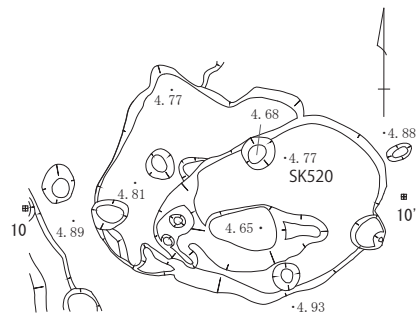


9. 4.80m

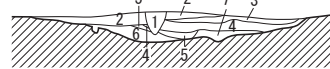


1. にぶい褐色粘質土 (炭化物とベース土が混ざる)
 2. 暗灰色粘質土 (炭化物と多量のベース土ブロックが混ざる)
 3. 暗灰褐色粘質土 (少量のベース土粒と炭化物が混ざる)
 4. 暗灰褐色粘質土 (4層よりベース土粒、炭化物多い)
 5. 黒灰色粘質土 (多量の炭化物と土器片、ベース土ブロックが混ざる)
 6. 黒灰色粘質土 (多量のベース土ブロックが混ざる)
 7. 淡オリブ灰色シルト (ベース土ブロック層、6層が混ざる)
- ベース土 淡オリブ灰色シルト

P-28区 SK520

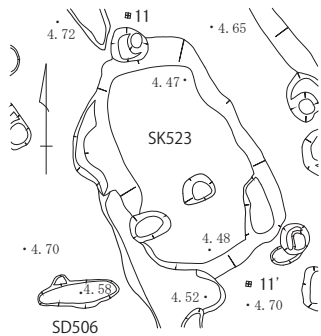


10. 4.80m

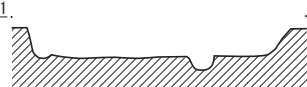


1. 暗褐色粘質土 (炭化物が混ざる)
2. にぶい褐色粘質土
3. 淡黄褐色粘質土 (多くのベース土粒が混ざる)
4. 黒灰色粘質土 (炭化物と非常に多くのベース土ブロック混ざる)
5. 暗灰色粘質土
6. 灰褐色シルト (ベース土ブロックが混ざる)
7. 黄灰色シルト (ベース土ブロック、暗灰色粘質土が混ざる)

Q-24区 SK723

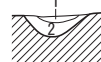


11. 4.80m

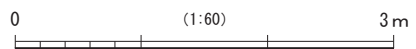


P-28区 SD504

12. 4.80m



1. 褐色粘質土
2. 淡褐色粘質土 (ベース土ブロックが混ざる)



第102図 A区5面土坑等平面図・土層断面図(S=1/60)

| 遺構番号 | グリッド | 平面形態 | 規模 (cm) | | | 土色等 | 備考 |
|---------|---------|-------|---------|-----|----|---------|---------|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | |
| 7A5P501 | O-27 | 略円形か | 30 | 15~ | - | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P502 | O-27 | 不整形円形 | 45 | 26 | 25 | 褐色粘質土 | ビット2つ重複 |
| 7A5P503 | O-27 | 略円形 | 24 | 24 | 19 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P504 | O-27 | 不整形円形 | 30 | 28 | 22 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P505 | O-27 | 不整形円形 | 25 | 23 | 23 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P506 | O-27 | 不整形円形 | 34 | 24 | 17 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P507 | O-27 | 略楕円形 | 40 | 30 | 23 | 褐色粘質土 | ビット2つ重複 |
| 7A5P508 | O-27 | 不整形円形 | 30 | 26 | 26 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P511 | O-27 | 不整形円形 | 30 | 22 | 22 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P512 | O-27 | 不整形円形 | 28 | 26 | 31 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P513 | O-27 | 不整形円形 | 26 | 20 | 17 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P514 | O-27 | 不整形円形 | 24 | 17 | 11 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P515 | O-27 | 不整形円形 | 32 | 24 | 17 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P516 | O-27 | 不整形円形 | 40 | 28 | 23 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P517 | O-27 | 略円形 | 30 | 26 | 28 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P518 | O-27 | 不整形円形 | 26 | 20 | 15 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P519 | O-27 | 略円形 | 25 | 24 | 16 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P520 | O-27 | 不整形円形 | 28 | 20 | 16 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P521 | O-27 | 不整形円形 | 40 | 26 | 22 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P522 | O-27 | 隅丸方形 | 30 | 26 | 22 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P523 | O-27 | 不整形円形 | 30 | 28 | 37 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P524 | O-27 | 略円形 | 16 | 16 | 9 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P525 | O-27 | 不整形円形 | 34 | 22 | 17 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P527 | P-27 | 不整形円形 | 60 | 22 | 19 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P528 | P-27 | 不整形円形 | 28 | 24 | 23 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P529 | P-27 | 略円形 | 32 | 32 | 17 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P530 | P-27 | 不整形円形 | 40 | 30 | 30 | 黒褐色粘質土 | 柱穴か |
| 7A5P532 | P-27 | 略円形 | 38 | 36 | 14 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P533 | P-27 | 不整形円形 | 22 | 15 | 9 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P534 | P-27 | 不整形円形 | 17 | 14 | 22 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P535 | P-27 | 略円形 | 20 | 18 | 14 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P536 | P-27 | 不整形円形 | 36 | 24 | 22 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P538 | P-27 | 不整形円形 | 26 | 24 | 20 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P539 | P-27 | 不整形円形 | 24 | 22 | 11 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P540 | P-27 | 略円形 | 26 | 24 | 19 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P541 | P-27 | 不整形円形 | 20 | 18 | 15 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P542 | P-27 | 不整形円形 | 22 | 20 | 10 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P543 | P-27 | 隅丸方形 | 22 | 20 | 30 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P544 | P-27 | 不整形円形 | 34 | 26~ | 14 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P545 | O-27 | 不整形円形 | 22 | 18 | 24 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P546 | O-27 | 略円形 | 18 | 16 | 27 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P547 | O-27 | 略円形 | 16 | 14 | 33 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P548 | O-P-27 | 不整形円形 | 28 | 28 | 15 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P551 | P-27 | 略楕円形 | 42 | 36 | 17 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P552 | P-27・28 | 不整形円形 | 20 | 17 | 24 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P553 | P-28 | 不整形円形 | 20 | 16 | 14 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P554 | O-P-28 | 不整形円形 | 17 | 15 | 24 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P555 | O-28 | 不整形円形 | 25 | 22 | 21 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P556 | O-28 | 不整形円形 | 18 | 17 | 25 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P557 | O-28 | 不整形円形 | 18 | 18 | 15 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P558 | O-28 | 略円形 | 24 | 24 | 14 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P559 | O-28 | - | - | - | - | - | 略図のみ記載 |
| 7A5P560 | O-28 | 略楕円形 | 34 | 20 | 23 | 黒褐色粘質土か | |
| 7A5P561 | O-28 | 不整形円形 | 36 | 20 | 23 | 黒褐色粘質土か | |
| 7A5P562 | O-P-28 | 不整形円形 | 22 | 17 | 22 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P563 | P-28 | 不整形円形 | 20 | 17 | 10 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P564 | P-28 | 略円形 | 17 | 16 | 14 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P565 | P-27 | 不整形円形 | 20 | 18 | 28 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P566 | O-27 | 不整形円形 | 24 | 16 | 24 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P567 | O-27 | 不整形円形 | 38 | 24 | 42 | 黒褐色粘質土か | 深い |
| 7A5P569 | O-27 | 略円形 | 24 | 24 | 21 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P570 | O-27 | 不整形円形 | 20 | 17 | 9 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P571 | O-27 | 不整形円形 | 20 | 16 | 9 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P572 | O-27 | 略楕円形 | 20 | 12 | 23 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P573 | O-27 | 不整形円形 | 23 | 20 | 39 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P574 | O-27 | 略楕円形 | 18 | 13 | 11 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P575 | O-27 | 不整形円形 | 18 | 16 | 19 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P576 | O-27 | 不整形円形 | 30 | 30 | 9 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P577 | P-27 | 不整形円形 | 24 | 18 | 24 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P578 | O-27 | 略円形 | 16 | 16 | 10 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P579 | O-27 | 不整形円形 | 40 | 20 | 22 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P580 | O-27 | 不整形円形 | 38 | 36 | 20 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P581 | O-27 | 不整形円形 | 40 | 29 | 27 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P582 | O-27 | 略円形 | 18 | 16 | 16 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P583 | O-27 | 不整形円形 | 24 | 16 | 17 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P584 | O-26 | 不整形円形 | 24 | 12 | 12 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P585 | O-26 | 不整形円形 | 22 | 12 | 16 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P586 | O-26 | 不整形円形 | 34 | 30 | 38 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P587 | O-26 | 略楕円形 | 30 | 22 | 29 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P588 | O-26 | 不整形円形 | 20 | 14 | 12 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P589 | O-26 | 不整形円形 | 12 | 12 | 13 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P590 | O-26 | 不整形円形 | 21 | 18 | 14 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P591 | O-27 | 不整形円形 | 21 | 16 | 11 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P592 | O-26 | 不整形円形 | 14 | 14 | 23 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P593 | O-26 | 不整形円形 | 16 | 16 | 15 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P594 | O-27 | 不整形円形 | 32 | 24 | 19 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P595 | O-27 | 不整形円形 | 24 | 18 | 14 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P596 | O-26 | 不整形円形 | 41 | 28 | 29 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P597 | O-26 | 不整形円形 | 22 | 20 | 32 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P598 | O-26 | 不整形円形 | 30 | 26 | 16 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P599 | O-27 | 不整形円形 | 26 | 20 | 12 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P600 | O-27 | 不整形円形 | 15 | 15 | 7 | 黒褐色粘質土 | |

| 遺構番号 | グリッド | 平面形態 | 規模 (cm) | | | 土色等 | 備考 |
|---------|---------|-------|---------|-----|------|--------------------|--------------|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | |
| 7A5P602 | O-26・27 | 略円形 | 20 | 20 | 22 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P603 | O-27 | 不整形円形 | 29 | 22 | 14 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P604 | O-27 | 不整形円形 | 25 | 24 | 32 | 黒褐色粘質土か | |
| 7A5P605 | O-27 | 不整形円形 | 30 | 28 | 20 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P606 | O-26 | 不整形円形 | 26 | 24 | 22 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P607 | O-26 | 略楕円形 | 36 | 21 | 20 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P608 | O-26 | 不整形円形 | 32 | 28 | 30 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P609 | O-26 | 略楕円形 | 22 | 15 | 13 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P610 | O-26 | 不整形円形 | 18 | 16 | 18 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P611 | O-26 | 不整形円形 | 9 | 7 | 15 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P612 | O-26 | 不整形円形 | 34 | 30 | 27 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P613 | O-26 | 不整形円形 | 32 | 30 | 21 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P614 | O-26 | 不整形円形 | 32 | 24 | 22 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P601 | O-27 | 不整形円形 | 18 | 18 | 24 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P616 | P-28 | 不整形円形 | 54 | 24 | 21 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P618 | O-27 | 不整形円形 | 17 | 13 | 34 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P619 | O-27 | 不整形円形 | 27 | 22 | 25 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P620 | O-27 | 略円形 | 24 | 22 | 27 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P621 | O-27 | 不整形円形 | 22 | 17 | 28 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P624 | O-25 | 略楕円形 | 44 | 36 | 55 | 黒褐色粘質土か | |
| 7A5P625 | O-25 | 不明 | 30 | 24 | 65 | 黒褐色粘質土か | トレンチ2内 |
| 7A5P626 | P-25 | 不整形円形 | 48 | 32~ | 32 | 黒褐色粘質土か | |
| 7A5P627 | P-27 | 略楕円形 | 34 | 22 | 21 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P628 | P-27 | 略円形 | 13 | 13 | 25 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P629 | P-27 | 不整形円形 | 21 | 14 | 21 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P630 | P-27 | 不整形円形 | 10 | 10 | 11 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P632 | O-27 | 略円形 | 10 | 8 | 13 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P633 | O-27 | 略円形 | 20 | 18 | 10 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P634 | O-27 | 不整形円形 | 26 | 18 | 7 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P635 | O-27 | 不整形円形 | 23 | 18 | 21 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P636 | O-27 | 不整形円形 | 30 | 24 | 17 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P637 | P-27 | 略円形 | 24 | 22 | 27 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P638 | P-27 | 不整形円形 | 54 | 26 | 11 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P639 | P-27 | 不整形円形 | 14 | 12 | 19 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P640 | O-27 | 不整形円形 | 24 | 18 | 24 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P641 | O-27 | 不整形円形 | 40 | 20 | 10 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P642 | P-27 | 不整形円形 | 17 | 16 | 13 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P643 | P-27 | 不整形円形 | 25 | 22 | 20 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P644 | P-27 | 不整形円形 | 9 | 7 | 16 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P645 | P-27 | 不整形円形 | 18 | 18 | 25 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P646 | P-27 | 不整形円形 | 24 | 24 | 30 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P648 | O-26・27 | 略円形 | 16 | 15 | 21 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P649 | O-26 | 略円形 | 16 | 16 | 24 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P650 | O-27 | 不整形円形 | 26 | 23 | 29 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P651 | O-27 | 不整形円形 | 22 | 20 | 15 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P653 | O-26 | 不整形円形 | 24 | 16 | 26 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P655 | O-27 | 略円形 | 20 | 18 | 17 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P656 | P-27 | 略円形 | 21 | 20 | 29 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P658 | O-25 | 不整形円形 | 54 | 44 | 79 | 灰色粘質土(黒褐色粘質土多く混ざる) | |
| 7A5P660 | O-25 | 略円形 | 約40 | 38 | 76 | 〃 | |
| 7A5P661 | O-25 | 略円形 | 約36 | 34 | 76 | 〃 | |
| 7A5P663 | O-25 | 不明 | 32 | 22 | 71 | 〃 | トレンチ2内 |
| 7A5P665 | O-26・27 | 不整形円形 | 30 | 24 | 19 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P667 | P-27 | 不整形円形 | 35 | 27 | 20 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P668 | P-27 | 略円形 | 21 | 20 | 22 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P669 | P-27 | 不整形円形 | 86 | 34 | 19 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P670 | O-26 | 不整形円形 | 22 | 16 | 14 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P671 | O-P-26 | 不整形円形 | 18 | 7 | 6 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P672 | O-27 | 略円形 | 16 | 16 | 17 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P673 | O-27 | 不整形円形 | 24 | 21 | 17 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P674 | O-27 | 不整形円形 | 40 | 28 | 19 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P677 | O-27 | 不整形円形 | 20 | 18 | 22 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P678 | O-27 | 不整形円形 | 20 | 20 | 32 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P679 | P-28 | 不整形円形 | 30 | 18 | 7 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P681 | P-28 | 略楕円形 | 25 | 20 | 7 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P682 | P-28 | 不整形円形 | 26 | 26 | 30 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P683 | P-28 | 不整形円形 | 32 | 20 | 27 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P684 | P-28 | 不整形円形 | 27 | 22 | 13 | 褐色粘質土 | ビット2つ重複 |
| 7A5P685 | P-27 | 略円形 | 22 | 20 | 31 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P686 | P-27 | 不整形円形 | 24 | 22~ | 6 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P687 | O-P-28 | 不整形円形 | 53 | 27 | 35 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P688 | O-26 | 不整形円形 | 38 | 36 | 26 | 褐色粘質土か | |
| 7A5P689 | O-25 | 不整形円形 | 70~ | 50~ | 9~21 | 褐色粘質土か | SD519の一部か |
| 7A5P690 | O-25・26 | 不整形円形 | 85 | 65 | 37 | 褐色粘質土か | SD501・513より新 |
| 7A5P691 | P-27 | 不整形円形 | 16 | 16 | 18 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P692 | O-27 | 不整形円形 | 20 | 20 | 26 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P693 | O-27 | 不整形円形 | 24 | 24 | 24 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P694 | P-28 | 略円形 | 16 | 15 | 26 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P695 | P-28 | 不整形円形 | 48 | 34 | 23 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P696 | P-28 | 不整形円形 | 30 | 28 | 16 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P697 | P-28 | 不整形円形 | 16 | 14 | 17 | 黒褐色粘質土 | |
| 7A5P698 | P-28 | 不整形円形 | 28 | 26 | 9 | 褐色粘質土 | |
| 7A5P699 | O-28 | 不整形円形 | 24 | 20 | 27 | 黒褐色粘質土か | |

を刻む他、胴部外面上部を2列の直線文で加飾する。1052は、口縁端部の一部を粗い刻みで加飾する。1053は口径15.6cmを測り、口縁部は緩やかに外反する。壺底部片1054は、摩滅が著しい。

SK520 P-28で検出した平面不整形を呈する土坑で、粘質土、シルトが自然堆積する。

SK523 Q-24区で単独に検出した平面不整形長方形を呈する土坑である。長辺245cm、短辺112cm、深さ20cm前後を測る。出土遺物のうち、第103図1055を図示した。壺1055は、口縁端部を指で押圧して刻みを施す他、胴部外面上半に粗いミガキ調整を加える。

ピット 調査区全体でピットを検出、特にO・P-27・28区に多くの小ピットが集中する。第95図・第57表のとおり、深さ30cm未満を測る浅いピットが大部分を占め、柱穴等の有意性をもった配置は復元できなかった。同様な小ピットの集中は、第8～10次調査でも確認でき、耕作痕の可能性をもつ。覆土は、黒褐～褐灰色粘質土を基調とする。番号を付したピットから少量の遺物が出土し、第103図1056～58を図示した。P625出土の土製紡錘車1056は、土器片を再加工し、径5.7cm×5.1cm、厚さ0.7cmを測る。1057・58は、P690から出土した。小型の鉢1057は小片のため、傾きに不安を残す。1058はメノウの原石で、重さ30.9gを量る。

3 溝（遺構：第97・102図、第54・56表、遺物：第103図、第59表）

溝は、SI501外周溝を除くと、P・Q-24・25区で調査区を東西方向に流れる自然流路3条(SD505・508・516・517・518・520)、地勢のほぼ垂直方向に掘られる小溝(SD503・504・509)、短い小溝(SD502・506・507)、浅い落ち込み状の溝(SD510・511)に大別でき、自然流路は第4面までの遺構により大部分が損壊する。各溝の規模等は第56表のとおりであり、以下、主な溝について記す。

SD503 O・P-26で検出した直線的な溝で、長さ290cm、幅約30cm、深さ10～17cmを測る。

SD504 O・P-28区を蛇行気味に南流する溝である。幅30～52cm、深さ5～18cmを測り、覆土は褐灰～淡褐灰色粘質土である

SD505 O・P-25区で検出し、接続するSD517・518と一連の自然流路と考えられる。覆土は、下位層から灰褐色粘土、黄灰色シルト、灰褐色粘土、淡茶灰色粘土が自然堆積する(第97図断面c-c')。遺構の切りあい関係からSI501(SK522・SD513・514)より古く位置付けられる。

SD509 P-27区で検出した小溝で、幅16～30cm、深さ3～8cmを測る。

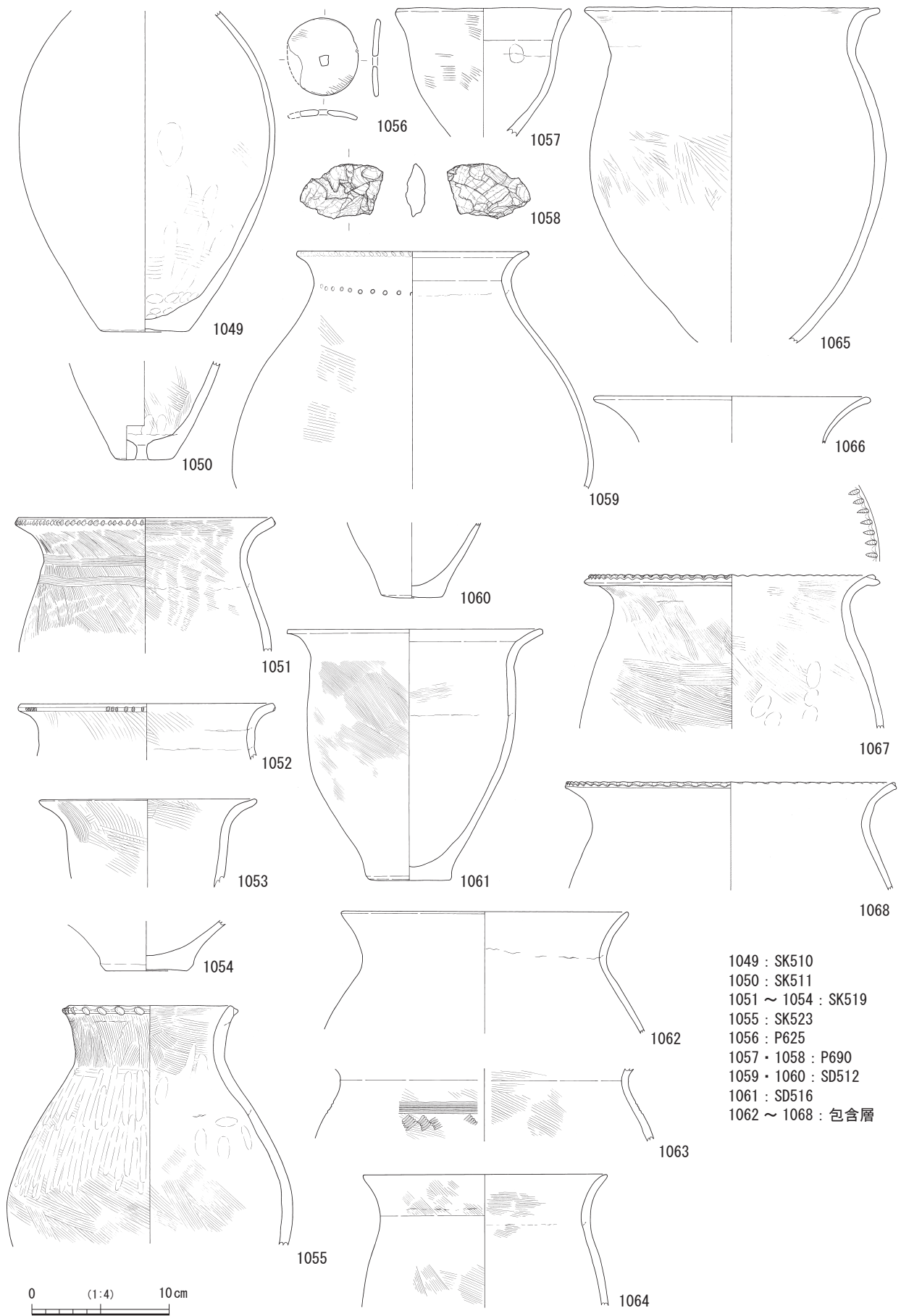
SD512 O-25区で検出した溝で、位置関係からSI501a環外周溝を構成する可能性を残す。上幅66cm、深さ48cmを測り、遺構の切り合い関係からe環P631より古く位置付けられる。出土遺物のうち、第104図1059・60を図示した。摩滅した壺1059は口径16.7cmを測り、頸部外面を竹管文で雑に加飾する。甕1060は、内縁に煮炊きに伴う炭化物が付着する。

SD516 P-24・25区で検出した自然流路で、大部分は第3面SD202(古)により損壊する。第103図1061が出土した。甕1061は口径18.7cm、器高18.3cmを測り、良好に煮炊き痕を残す。

4 包含層等出土遺物（第103～105図、第59～61表）

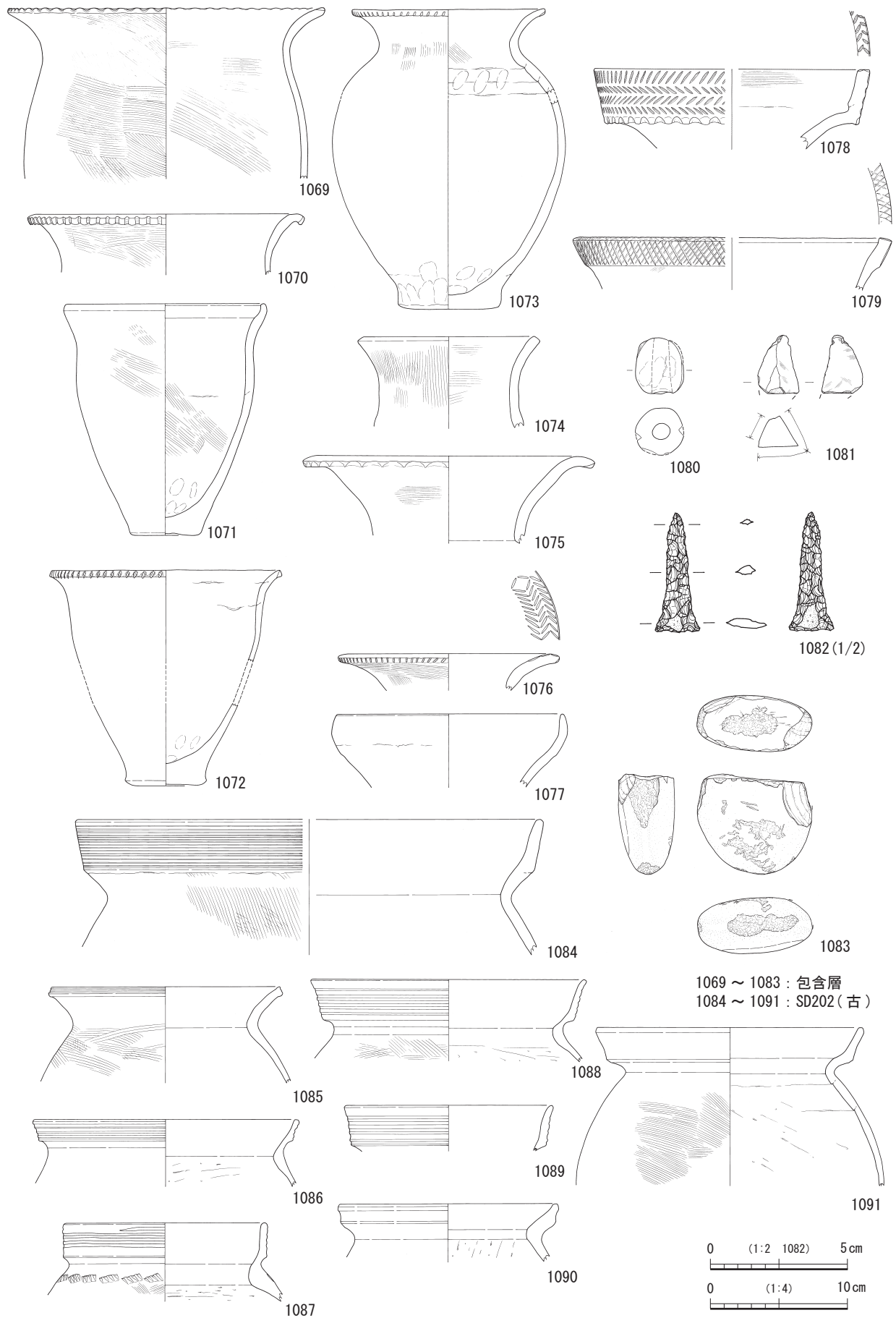
弥生時代中期後半に属する第103図1062～第104図1083の他、第5面調査時に残存したSD202(古)覆土から取り上げた同図1084～第105図1102を図示した。

1062～72は甕である。1062は口径20.8cmを測り、摩滅が著しい。1063は胴部外面に直線文、斜行短線文を施す。1064・65は、良好に煮炊き痕を残す。1066は口径20.0cmを測り、摩滅、剥離のため器厚を大きく減じる。1067は平坦に仕上げた口縁端部に1条の沈線を加えた後、上方から刻みを施す。1068は口径23.8cmを測り、摩滅が進んだため調整は判然としない。1069は、口縁端部にかすかに刻みが残る。

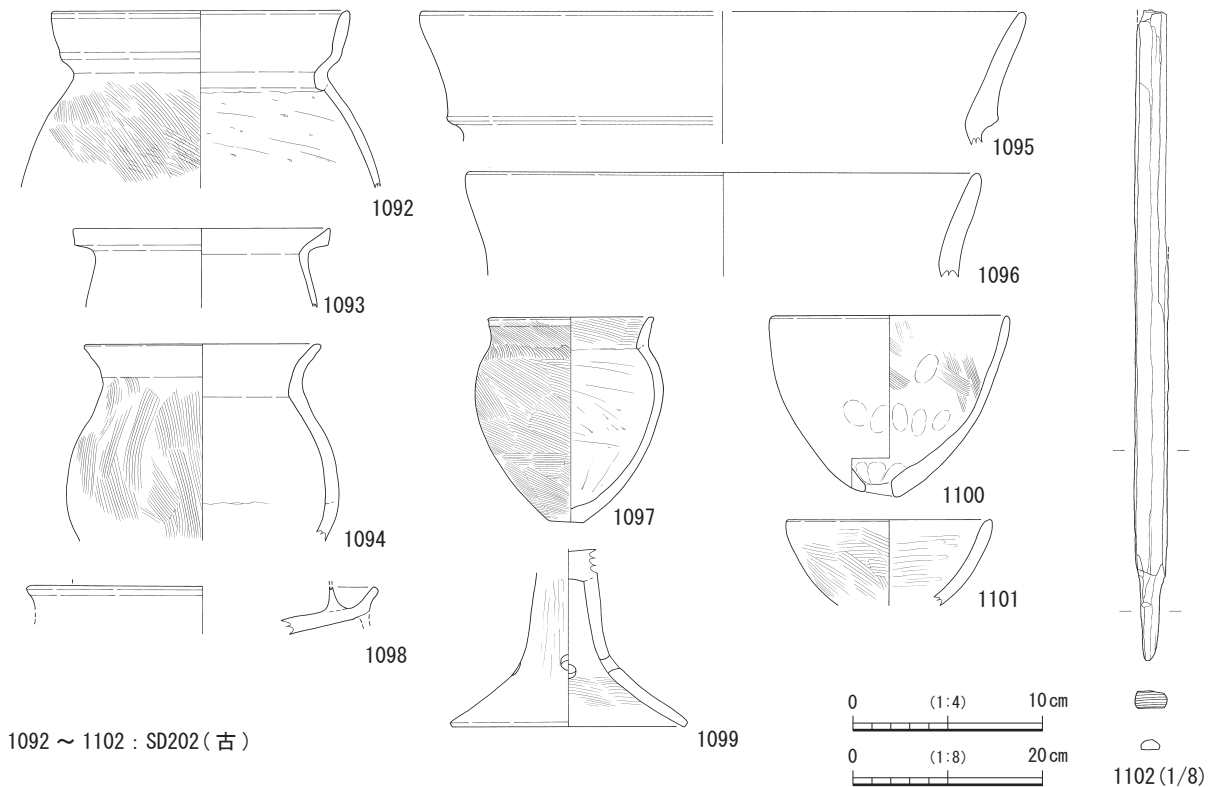


第103図 A区第5面出土遺物実測図1 (S=1/4)

第6節 第5面の遺構と遺物



第104図 A区第5面出土遺物実測図2(S=1/2・1/4)



第105図 A区第5面出土遺物実測図3 (S=1/4・1/8)

1070は口径20.4cmを測り、小さく折り曲げた口縁端部に棒状工具で刻みを施す。小型の1071は口径14.2cm、器高17.0cmを測り、口縁端部を内屈気味に仕上げる。1072は口径16.6cmを測り、底部は台状を呈する。

第104図1073～79は壺である。1073は口径14.1cm、器高約22cmを測り、大きく外反する口縁端部下端を刻みで加飾する。1074は口径12.4cmを測り、口縁端部を平坦に仕上げる。1075は口径21.3cmを測り、口縁端部が大きく外傾する。また、口縁端部下端を、下方から指で押圧して小波状に仕上げる。1076は口縁端部を綾杉文、刻みで加飾する他、外面に煤が付着する。1077は口径16.4cmを測り、口縁部が内湾する。1078は綾杉文と棒状工具による刻みで、1079はヘラ状工具を用いたX線文・斜格子文で、それぞれ加飾する。土師質の土錘1080は、焼成がよくない。砥石1081は三角錐状を呈し、折損部以外を研ぎに用いる。灰白色を呈し、凝灰岩製と考えられる。平基無茎の石鎌1082は、細身長身で長さ4.34cm、幅1.61cm、厚さ0.38cmを測る。下呂石製で、重さは1.86gを量る。石英質の敲石1083は、破損した後も使用しており、全面に敲打痕、研ぎ痕が認められる。

第104図1084～第105図1102は、SD202(古)から出土した弥生時代後期～古墳時代前期の土器である。1084～1094は甕で、1085・90・93が弥生時代後期前半、1094が古墳時代前期に位置付けられる。大型の有段口縁の甕1084は口径約34cmを測り、外面に煤が付着する。1085は口径16.8cmを測り、口縁端部に凹線文を施す。1086の擬凹線は、やや乱れる。1087は頸部が厚く、口縁部が直立する。1088は口径19.9cmを測り、幅の広い擬凹線を施す。1089は、外面に煤が厚く付着する。1090は口径16.0cmを測り、器肉は厚い。1091は口径19.4cmを測り、口縁部は直線的に外傾する。1092は、頸部内面の接合が粗い。小甕1093は口径13.4cmを測り、摩滅が著しい。球胴の1094は口径12.4cmを測り、口縁部は緩やかに外反する。1095は弥生時代終末の有段口縁の大型壺と考えられ、外面に煤が付着する。1096は口径27.0cmを測り、土師器大型甕と考えられる。土師器小甕1097は口径8.3cm、器高10.9cmを測り、口縁部が短くのびる。装飾器台1098は、摩滅が著しい。弥生時代終末の高坏1099は、4ヶ所に透かし孔を穿つ。小

※ ()は残存量を示す。

| 埋蔵 番号 | 遺物 番号 | グリッド | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 発掘 番号 |
|----------|----------|-----------------|---|------|-----|------------|------------|------------|--------|-------|--------------|----|------------|---------|------------------|---|----------|
| 99 | 1020 | O-P-25 | S1501a環 7A5SD514 | 弥生土器 | 甕 | 17.8 | - | (14.7) | 浅黄橙、灰 | 浅黄橙、灰 | a-3 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | ヨコナデ、ハケ | 口33/36 底36/36 | 口縁部内面に綾彩文・外面に刻み。 外面煤付着、磨滅、剥離目立つ | A-031-1 |
| 99 | 1021 | O-P-25 | S1501a環 7A5SD514 | 弥生土器 | 甕 | - | 5.1 | (8.7) | 浅黄橙、灰 | 浅黄橙、灰 | a-3 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口33/36 底36/36 | 外底煤付着。1020と同一個体か | A-031-2 |
| 99 | 1025 | O-25 | S1501c環 7A5SD513 灰色粘質土、 トレ2 | 弥生土器 | 甕 | 27.8 | 7.0 | 34.5 | 橙 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | ヨコナデ、ハケ | 口23/36 底36/36 | 内外底面黒斑。口縁部煤付着。磨滅 顕著 | A-034 |
| 100 | 1030 | O-25、 O-P-26 | S1501d環 7A5SD501 | 弥生土器 | 甕 | 23.2 | - | (9.2) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口26/36 | 内面ヨコシ、外面煤付着 | A-026-1 |
| 100 | 1031 | O-25、 O-P-26 | S1501d環 7A5SD501 | 弥生土器 | 甕 | - | 5.4 | (7.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ハケ | ハケ、ヨコナデ | 底36/36 | 内面炭化物、外面煤付着。1030と 同一個体か | A-026-2 |
| 100 | 1032 | O-25 O-P-26 | S1501d環 7A5SD501 | 弥生土器 | 甕 | 23.0 | - | (4.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口6/36 | 口縁部は指押圧で小落状。外面煤付 着 | A-037 |
| 100 | 1033 | O-25、 O-P-26 | S1501d環 7A5SD501 | 弥生土器 | 甕 | 22.3 | - | (9.9) | 灰黄 | 灰黄 | a-3 S・M・L | 良 | ハケ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口15/36 | 口縁部上下に刻み。外面煤付着 | A-027 |
| 100 | 1034 | O-25 | S1501d環 7A5SD501 黒褐色土層 | 弥生土器 | 甕 | 20.6 | - | (8.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口32/36 | 口縁部に刻み。外面煤付着 | A-028 |
| 100 | 1035 | O-25、 O-P-26 | S1501d環 7A5SD501 | 弥生土器 | 甕 | 20.4 | - | (10.3) | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口8/36 | 口縁部に刻み、ゆがみあり。胴部内 面コケ・外面煤付着 | A-025 |
| 100 | 1036 | O-25 | S1501d環 7A5P689 黒褐色層 | 弥生土器 | 甕 | 20.8 | - | (7.2) | にぶい橙、灰 | 橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口19/36 | 口縁部下端に刻み。外面煤付着 | A-029 |
| 100 | 1037 | O-25、 O-P-26 | S1501d環 7A5SD501 | 弥生土器 | 甕 | 16.0 | - | (8.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ハケ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口4/36 | 外面煤付着 | A-024 |
| 100 | 1038 | O-25、 O-P-26 | S1501d環 7A5SD501 下層(炭層 より上、暗灰褐色土) | 弥生土器 | 壺 | 18.0 | - | (7.2) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口7/36 | 口縁部に綾彩文 | A-022 |
| 100 | 1039 | O-25、 O-P-26 | S1501d環 7A5SD501 | 弥生土器 | 壺 | 11.6 | - | (6.3) | 灰白 | 灰白 | a-4 S・M | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口6/36 | 口縁部に刻み。磨滅目立つ | A-038 |
| 100 | 1040 | O-25、 O-P-26 | S1501d環 7A5SD501 黒褐色土層 | 弥生土器 | 壺 | (約11) | - | - | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | 口6/36 | 波状文(11条1単位)、直線文(11 条1単位)、棒状浮文1ヶ所 | A-013 |
| 100 | 1041 | O-25、 O-P-26 | S1501d環 7A5SD501 | 弥生土器 | 甕 | 19.5 | - | (6.8) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口8/36 | 磨滅顕著 | A-023-1 |
| 100 | 1042 | O-25、 O-P-26 | S1501d環 7A5SD501 | 弥生土器 | 甕 | - | 6.2 | (9.2) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ハケ | ハケ、ナデ | 底14/36 | 黒斑あり | A-023-2 |
| 100 | 1047 | O-25 | e環7A5P631(中央区) | 弥生土器 | 壺 | - | 6.9 | (8.5) | 黒 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 底36/36 | 磨滅顕著 | A-015 |
| 100 | 1048 | O-25 | e環7A5P631(中央区) | 弥生土器 | 壺 | 16.0 | - | (5.0) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 S・L | 良 | 磨滅不明 | ヨコナデ、ハケ | 口36/36 | 磨滅顕著 | A-016 |
| 103 | 1049 | P-28 | 7A5SK510 | 弥生土器 | 壺 | - | 6.0 | (23.4) | にぶい黄橙 | 浅黄橙 | a-4 M・L | 良 | ハケ、ナデ | 磨滅不明 | 底36/36 | 外底モミ庄痕1ヶ所。内底に黒斑。 外面磨滅目立つ | A-021 |
| 103 | 1050 | P-28 | 7A5SK511 | 弥生土器 | 有孔鉢 | - | 4.0 | (7.2) | 灰黄褐 | にぶい橙 | b-4 S・M・L | 良 | ハケ、ナデ | ナデ | 底36/36 | 焼成前外部から穿孔(孔径0.8cm)。 内面炭化物付着。外面炭化変色・煤 付着 | A-019 |
| 103 | 1051 | P-28 | 7A5SK519 東側最下層 | 弥生土器 | 甕 | 18.4 | - | (9.8) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口9/36 | 口縁部下端に刻み、胴部外面直線文 2列。破片化後外面煤付着 | A-005 |
| 103 | 1052 | P-28 | 東側遺構覆土 7A5SK519 | 弥生土器 | 甕 | 18.4 | - | (4.1) | にぶい黄橙 | にぶい橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口9/36 | 口縁部下端に刻み。赤色酸化粒多い。 磨滅目立つ | A-010 |
| 103 | 1053 | P-28 | 東側遺構覆土 7A5SK519 | 弥生土器 | 甕 | 15.6 | - | (6.4) | にぶい黄橙 | 黒 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口4/36 | 内面口縁部端部～外面煤付着 | A-048 |
| 103 | 1054 | P-28 | 7A5SK519 | 弥生土器 | 壺 | - | 6.0 | (3.6) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 底18/36 | 底部内外面に黒斑。磨滅顕著 | C-582 |

第58表 A区第5面出土土器観察表1

※ ()は残存法量を示す。

| 押図 番号 | 遺物 番号 | グリッド | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 選存率 | 備考 | 実測 番号 |
|----------|----------|---------------|------------------------|------|-------|---------------|------------|---------------|-------------|-------|--------------|----|-------------|--------------------|------------------|---------------------------|----------------|
| 103 | 1055 | Q-24 | 7A5SK523 | 弥生土器 | 壺 | 11.8 | - | (17.5) | 灰黄 | にぶい黄橙 | a-5 M・L | 良 | ハケ、ナデ | ヨコナデ後ハケ、 ミカキ、ハケ | 口9/36 | 口縁部に指頭刻み。外底黒斑 | C-581 |
| 103 | 1056 | O-25 | 7A5P625 | 弥生土器 | 土製紡錘車 | 口径 5.1×5.7 | 最大厚 0.7 | 孔径 0.6-0.8 | 橙 | 灰黄褐 | b-3 S・M | 良 | 磨減不明 | ハケ | - | 土器片転用。1面煤付着 | A-018 |
| 103 | 1057 | O-25-26 | 7A5P690 | 弥生土器 | 小型鉢 | 12.4 | - | (8.3) | 橙 | にぶい褐 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 8/36 | 外面煤付着。傾きに不安残す | A-017 |
| 103 | 1059 | O-25 | 7A5SD512 | 弥生土器 | 壺 | 16.7 | - | (17.4) | にぶい橙 | 橙 | b-4 S・M・L | 良 | 磨減不明 | ヨコナデ、ハケ | 口20/36 | 口縁部に刻み。肩部に竹管文。磨減・ 剝離顕著 | A-030 |
| 103 | 1060 | O-25 | 7A5SD512 | 弥生土器 | 壺 | - | 4.5 | (5.5) | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | 磨減不明 | ハケ、ナデ | 底36/36 | 内面炭化物付着 | C-735 |
| 103 | 1061 | P-24-25 | 7A5SD516 | 弥生土器 | 壺 | 18.7 | 6.0 | 18.3 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ、板状工具ナデ | ヨコナデ、ハケ、ナデ | 口6/36 底36/36 | 内面コゴ、外面煤付着 | A-032 |
| 103 | 1062 | O-25 | 黒褐色土層(4面直上) | 弥生土器 | 壺 | 20.8 | - | (8.9) | 黄灰 | 橙 | b-4 M・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | 口8/36 | 磨減顕著 | C-517 A-020 |
| 103 | 1063 | O-26 | 第4面内側溝(黒褐色土 層と青灰土層) | 弥生土器 | 壺 | - | - | (5.3) | 黄灰 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ハケ | ハケ | - | 外面に直線文、斜行短線文。煤付着 | A-049 |
| 103 | 1064 | - | 暗褐色層(第5面検出面 直上) | 弥生土器 | 壺 | 17.7 | - | 9.6 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口28/36 | 内面ヨゴシ、外面煤付着 | A-033 |
| 103 | 1065 | R-24、 O-26 | 黒褐色土層 | 弥生土器 | 壺 | 21.3 | - | (24.4) | 橙 | 橙 | b-5 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口30/36 | 磨減目立つ。内面下半コゴ、外面煤 付着 | C-536 |
| 103 | 1066 | P-28 | 第4-5面間層、黒褐色 土層 | 弥生土器 | 壺 | 20.0 | - | (3.4) | 橙 | 橙 | a-3 S・M | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | 口5/36 | 口縁部変色。磨減・剝離顕著 | A-039 |
| 103 | 1067 | O-26 | 黒褐色土層 | 弥生土器 | 壺 | 20.5 | - | (11.2) | 灰黄 | にぶい黄橙 | a-5 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口12/36 | 口縁部に刻み。外面煤付着 | A-011 |
| 103 | 1068 | O-26 | 黒褐色土層 | 弥生土器 | 壺 | 23.8 | - | (7.9) | にぶい橙 | 橙 | b-6 S・M・L | 良 | 磨減不明 | ハケカ | 口8/36 | 口縁部に刻み | C-544 |
| 104 | 1069 | P-28 | 黒褐色土層 | 弥生土器 | 壺 | 23.0 | - | (12.4) | 浅黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | - | 口縁部にかすかに刻み。磨減目立つ | A-014 |
| 104 | 1070 | - | 黒褐色土層、その下層 | 弥生土器 | 壺 | 20.4 | - | (4.4) | 浅黄橙 | 灰白 | a-4 S・M・L | 良 | 磨減不明 | ヨコナデ、ハケ | 口2/36 | 丸棒状工具で刻み | A-006 |
| 104 | 1071 | P-28 | 黒褐色土層 | 弥生土器 | 壺 | 14.2 | 5.0 | 17.0 | にぶい黄橙 | にぶい橙 | b-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ、ナデ | ヨコナデ、ハケ、ナデ | 口12/36 底18/36 | 磨減目立つ | C-537 |
| 104 | 1072 | O-26 | 黒褐色土層 | 弥生土器 | 壺 | 16.6 | 6.0 | 約16 | にぶい橙、 黄灰 | にぶい黄橙 | b-6 M・L | 良 | ヨコナデ、ナデカ | 磨減不明 | 口11/36 底12/36 | 口縁部に刻み。磨減顕著 | A-012 |
| 104 | 1073 | O-27 | 黒褐色土層 | 弥生土器 | 壺 | 14.1 | 7.3 | 約22 | 橙～灰 | 橙 | a-3 M・L | 良 | ナデ、ハケ | ナデ、ハケ | 口11/36 底36/36 | 口縁部に刻み。磨減目立つ | C-542 |
| 104 | 1074 | - | 暗褐色土層(第5面検出 面直上) | 弥生土器 | 壺 | 12.4 | - | (6.7) | 橙 | 橙 | a-4 S・M | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | 口縁部外面を指頭で流す。磨減目立 つ | A-040 |
| 104 | 1075 | - | 中期以降包含層 | 弥生土器 | 壺 | 21.3 | - | (6.4) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデカ | ハケ | 口5/36 | 口縁部外面を指頭で流す。磨減目立 つ | A-036 |
| 104 | 1076 | - | 中期包含層 | 弥生土器 | 壺 | 16.0 | - | (2.7) | 灰黄褐 | 灰黄褐 | a-3 S・M | 良 | 磨減不明 | ヨコナデ、ハケ | 口16/36 | 口縁部を椀杉文、刻みで加飾。外面 煤付着 | A-035 |
| 104 | 1077 | O-25 | 黒褐色土層 | 弥生土器 | 壺 | 16.4 | - | (5.3) | 浅黄橙 | 淡橙 | b-4 S・M・L | 良 | 磨減不明 | 磨減不明 | 口4/36 | 磨減顕著 | C-541 |
| 104 | 1078 | O-25 | 黒褐色土層 | 弥生土器 | 壺 | 約20 | - | (5.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ハケ | 磨減不明 | 口3/36 | 口縁部～外面を椀杉文、刻みで加飾 | A-046 |
| 104 | 1079 | P-27 | 黒褐色土層 | 弥生土器 | 壺 | 約23 | - | (3.8) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-3 M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | 口3/36 | 口縁部にヘラ状工具でX線文・斜格 子文 | A-020 |

第59表 A区第5面出土土器観察表2

※ ()は残存法量を示す。

| 掘削 番号 | 遺物 番号 | クリッド | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備 考 | 発掘 番号 |
|----------|----------|--------|-------------|------|------|------------|------------|------------|-------|-------|--------------|----|-------------|----------|------------------|------------------------------|----------|
| 104 | 1080 | O・P-28 | 黒褐色土層 | 弥生土器 | 土鉢 | 長さ 4.0 | 口径 3.5 | 口径 3.4 | 褐灰、橙 | - | b-4 S・M・L | 並 | - | ナデ | - | 残存重量43.0g | C-543 |
| 104 | 1084 | O・P-26 | 7A5SD202(古) | 弥生土器 | 甕 | 約34 | - | (9.9) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | 縦凹線16条1単位。外面一部煤付 | C-556 |
| 104 | 1085 | O・P-26 | 7A5SD202(古) | 弥生土器 | 甕 | 16.8 | - | (7.0) | 橙、黒褐 | 橙、黒褐 | a-4 S・M | 良 | 磨滅不明 | ヨコナデ、ハケ | 口12/36 | 外面煤付着 | C-558 |
| 104 | 1086 | O・P-26 | 7A5SD202(古) | 弥生土器 | 甕 | 19.5 | - | (4.9) | 暗灰黄 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口6/36 | 縦凹線4条1単位。外面煤付着 | C-550 |
| 104 | 1087 | O・P-26 | 7A5SD202(古) | 弥生土器 | 甕 | 14.6 | - | (5.7) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口10/36 | 縦凹線5条1単位。刺突文。外面煤付着 | C-547 |
| 104 | 1088 | O・P-26 | 7A5SD202(古) | 弥生土器 | 甕 | 19.9 | - | (6.0) | 橙 | 橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口5/36 | 縦凹線5条1単位 | C-562 |
| 104 | 1089 | O・P-26 | 7A5SD202(古) | 弥生土器 | 甕 | 15.2 | - | (3.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | 口12/36 | 縦凹線。外面煤付着 | C-548 |
| 104 | 1090 | O・P-26 | 7A5SD202(古) | 弥生土器 | 甕 | 16.0 | - | (4.2) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ、ケズリ | ヨコナデ | 口7/36 | 外面煤付着 | C-549 |
| 104 | 1091 | O・P-26 | 7A5SD202(古) | 弥生土器 | 甕 | 19.4 | - | (11.6) | 橙、黒 | 橙 | a-4 S・M・L | 並 | ヨコナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口8/36 | 外面煤付着 | C-559 |
| 105 | 1092 | O・P-26 | 7A5SD202(古) | 弥生土器 | 甕 | 15.6 | - | (9.4) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口9/36 | | C-557 |
| 105 | 1093 | - | 弥生後期以降(包含層) | 弥生土器 | 小甕 | 13.4 | - | (4.2) | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | 磨滅不明 | 磨滅不明 | 口33/36 | 磨滅顕著 | C-584 |
| 105 | 1094 | O・P-26 | 7A5SD202(古) | 土師器 | 小甕 | 12.4 | - | (10.4) | 灰黄 | 灰黄 | a-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | 口8/36 | 外面煤付着 | C-554 |
| 105 | 1095 | O・P-26 | 7A5SD202(古) | 弥生土器 | 壺 | 約31 | - | (7.0) | 褐灰 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | 磨滅不明 | ヨコナデ | 口4/36 | 内面ヨコシ、外面煤付着 | C-555 |
| 105 | 1096 | O・P-26 | 7A5SD202(古) | 土師器 | 甕か | 27.0 | - | (5.5) | にぶい褐 | にぶい褐 | a-4 S・M・L | 良 | ヨコナデ | 磨滅不明 | 口6/36 | | C-560 |
| 105 | 1097 | O・P-26 | 7A5SD202(古) | 土師器 | 小甕 | 8.3 | 1.9 | 10.9 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 S・M | 良 | ハケ、ケズリ | ヨコナデ、ハケ | 口26/36 底36/36 | 外面に黒斑あり | C-552 |
| 105 | 1098 | O・P-26 | 7A5SD202(古) | 弥生土器 | 裝飾器台 | 18.0 | - | (2.5) | 橙 | 橙 | a-4 S・M | 並 | 磨滅不明 | ミガキ | 口6/36 | 磨滅顕著 | C-561 |
| 105 | 1099 | O・P-26 | 7A5SD202(古) | 弥生土器 | 高坏 | - | 12.3 | (9.4) | 橙 | 橙 | a-4 S・M | 良 | ハケ、ナデ | ミガキ | 底36/36 | 透かし孔4ヶ所(径0.8cm) | C-551 |
| 105 | 1100 | O・P-26 | 7A5SD202(古) | 弥生土器 | 有孔鉢 | 12.4 | - | 9.5 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-6 S・M・L | 良 | ハケ後ナデ | ナデ、ハケ後ナデ | 口24/36 底36/36 | 焼成前穿孔(長径1.4cm、短径1.1cm)。外面に黒斑 | C-580 |
| 105 | 1101 | O・P-26 | 7A5SD202(古) | 弥生土器 | 小型鉢 | 10.7 | - | (4.5) | 橙 | 橙 | a-4 S・M・L | 良 | ミガキ | ハケ | 口13/36 | 外面煤付着 | C-579 |

第60表 A区第5面出土土器観察表3

※()は残存法量を示す。

| 挿入番号 | 遺物番号 | グリッド | 出土遺構 | 種類 | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 重量 (g) | 石材 | 備考 | 実測 番号 |
|------|------|-------------|------------------------------|-------|-------------|-------------|-------------|-----------|---------|----------------------------------|----------|
| 99 | 1024 | O-P-25 | SI501 b環 7A5SK522 | 敲石 | 8.0 | 6.7 | 5.1 | 377.1 | 石英質 | 灰白色。2ヶ所に顕著な敲打痕 | 石01 |
| 100 | 1043 | O-25、O-P-26 | SI501d環 7A5SD501・7A5SD503 | 石鏃 | 2.21 | 1.49 | 0.36 | 1.05 | ガラス質安山岩 | 完形。黒色 | 石50 |
| 100 | 1044 | O-25、O-P-26 | SI501d環 7A5SD501・7A5SD503 | 石鏃 | 2.28 | 1.49 | 0.38 | 0.81 | ガラス質安山岩 | 完形。黒色 | 石51 |
| 100 | 1045 | O-25、O-P-26 | SI501d環 7A5SD501 | 磨製石鏃 | 3.21 | 1.57 | 0.28 | (1.55) | 透閃石 | オリーブ灰色。一部折損 | 石35 |
| 100 | 1046 | O-25、O-P-26 | SI501d環 7A5SD501 | 石斧残欠か | (7.4) | 4.5 | (2.5) | (99.4) | 透閃石 | 明青灰色。磨製石斧を再加工した残欠か。両側面から擦切り | 石33 |
| 103 | 1058 | O-25・26 | 7A5P690 | 原石 | 4.1 | 6.1 | 1.5 | 30.9 | メノウ | 灰白色 | 石52 |
| 104 | 1081 | - | 包含層 | 砥石 | (4.2) | 3.0 | (2.3) | (23.0) | 凝灰岩か | 灰白色。折損部以外を研ぎに使用。平滑。下方折損後に被熱、煤付着 | 石53 |
| 104 | 1082 | O-25 | 包含層(黒褐色土層) | 石鏃 | 4.34 | 1.61 | 0.38 | 1.86 | 下呂石 | 完形。黒色 | 石06 |
| 104 | 1083 | R-24 | 包含層(黒褐色土層) | 敲石 | 7.4 | 8.4 | 4.1 | 366.1 | 石英質 | オリーブ灰色。側面を敲打、磨ぎに使用。被損後、被損面を敲打に使用 | 石32 |

第61表 A区第5面出土石器・石製品観察表

※()は残存法量を示す。

| 挿入番号 | 遺物番号 | グリッド | 出土遺構 | 種類 | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 木取り | 樹種 | 備考 | 実測 番号 |
|------|------|--------|---------------------|--------|-------------|-------------|-------------|------|---------------|--------------------------|----------|
| 99 | 1022 | P-25 | SI501a環 7A5P709 | 柱根 | (44.9) | 25.6 | 17.7 | 半裁木 | モクレン属 | 斜方向に幅約11.5cm、深さ約7.5cmの挟り | 特記-06 |
| 99 | 1023 | P-25 | SI501a環 7A5P716 | 柱根 | (36.1) | 25.2 | 19.8 | 芯持丸木 | エノキ属 | 幅約12cm、深さ約10cmの挟り | 特記-07 |
| 99 | 1026 | P-25 | SI501c環 7A5P715 | 礎板(枕木) | 26.4 | 9.4 | 4.3 | 分割材 | コナラ属コナラ亜属コナラ節 | 断面略三角形 | 木-38 |
| 99 | 1027 | P-25 | SI501c環 7A5P717 | 礎板(枕木) | 30.1 | 8.3 | 5.5 | 分割材 | コナラ属アカガシ亜属 | 一部樹皮残る | 木-37 |
| 99 | 1028 | O-25 | SI501c環 7A5P704 | 礎板(枕木) | 43.6 | 8.0 | 7.9 | 芯持丸木 | コナラ属アカガシ亜属 | | 木-36 |
| 100 | 1029 | O-P-25 | SI501 d環 7A5P659 | 柱根 | (44.7) | 20.5 | 12.0 | 芯持丸木 | サクラ属 | 深さ約3.5cmの挟りか | 木-24 |
| 105 | 1102 | O-P-26 | 7A5SD202(古) | 棒状木製品 | 69.7 | 3.6 | 1.9 | 分割材 | スギ | 断面略長方形。表面両側面から削り先細る | 木-75 |

第62表 A区第5面出土木器・木製品観察表

型の有孔鉢1100は口径12.4cm、器高9.5cmを測り、円孔を雑に穿つ。小型鉢1101は内面をミガキ調整で仕上げる他、外面に煤が付着する。スギ材を用いた棒状木製品1102は長さ約70cmを測り、一端を尖らせる。

〔註〕

- (1) 本報告で記した古代の土器年代は、田嶋明人氏の土器編年に基づく(田嶋2013)。暦年代は、第7表左表によるが、右表のとおり暦年代の比定に関して県内の研究者間で差異をもつ。そのため、本書では、主に田嶋氏の土器編年による表記とし、必要に応じて暦年代を用いることとした。また、土師器の表記について、ロクロで成形と推される土師器を「ロクロ土師器」、古墳時代より続く非ロクロ成形の土師器を「土師器」として区別している。
- (2) (財)石川県埋蔵文化財センター2003「加茂遺跡(第8次)」『石川県埋蔵文化財情報 第10号』
(財)石川県埋蔵文化財センター2004「加茂遺跡(第9次)」『石川県埋蔵文化財情報 第12号』
- (3) 復元試案では、第98図のとおり、未検出の柱穴を想定せざるを得ないことや、支柱穴としたピット以外にも例えばP658・700等の支柱穴級の規模をもつピットがいくつか残存することから、今後とも県内外の平地建物の類例を参考に、第5面平地建物の復元プランの検討を続ける必要を痛感している。

〔引用・参考文献〕

田嶋明人2013「平安期土器の暦年代と横江荘遺跡の変遷」『加賀 横江荘遺跡Ⅱ』白山市・白山市教育委員会

第5章 C・D・K区上層の遺構と遺物

第1節 調査の概要

C・D・K区は、第4章で報告したA区の南側にあたり、西側は第6次調査B区を挟んで主要地方道高松津幡線に、東側は道路を挟んで第9次調査H区・第10次調査J区と隣り合う。調査時は「第I区(南側)」と呼称していたが、本報告では第8次以降のアルファベット表記に倣い、調査区の西側をC区、東側は北をD区、南をK区と区分する。第7次調査においてはC・D・K区の上層を調査したのち、C区は第8、9次、D区は第9次、K区は第10次において、それぞれ下層の調査を行っている。上層の調査対象面積は約2,500㎡を測り、調査杭グリッドでいえば、C区がK-28～30区、L-27～30区、M-27～30区、N-27～29区、O-27～29区に、D区がN-30～33区、O-30～33区、P-30～33区に、K区がL-31～33、M-31～33区にあたる(第106図)。遺構検出面は、C区の北西端(O-27区)が標高5.3m弱、D区北東端(O-33区)が5.6m弱、C区南西端(K-29区)が5.2m強、K区南東端(L-33区)が5.4m強を測り、北東方向から南西方向に向けて、緩やかに標高を減ずる。遺物包含層は水田耕作土・耕地整理盛土の直下で検出しており、褐灰・暗褐灰～黒褐色を呈する粘質土を基調とする。ベース土は淡褐灰～にぶい黄褐色を呈する粘質土を基調とする。

調査の結果、第1～6次調査と連続する、古代Ⅵ期(9世紀後葉～10世紀前葉)を主体とした集落跡を確認した。検出した遺構には、掘立柱建物6棟(SB01～SB06)、柱穴列25列(D区1～7・9・11・13・14・16～24号柱穴列、D・K区8・12号柱穴列、K区10・15号柱穴列)、土坑6基、耕作に伴う小溝等約60条、柱穴を含むピット多数がある(第107図)。遺構の分布状況を概観すれば、まず調査区西側にあたるC区では、グリッドLライン以北に掘立柱建物6棟が集中し、Lライン以南は耕作に伴う小溝が密に並んだ畝溝状遺構と、それらを切り込みながら北東方向に横断する溝SD53・SD54が占めている。このような遺構分布状況は調査区西側の第6次調査B区上層の調査成果と近似している(『加茂Ⅲ』にて既報告)。対照的に調査区東側のD区及びK区は、長さ20m以上の列(1・2・4号柱穴列)を含む、列状の杭穴と思われる遺構(調査時は「柱穴列」と表記)と、水田面(1～6号水田面)を主体とする。

遺物は、「福」「平」等の墨書土器を含む須恵器、土師器、ロクロ土師器や弥生土器、柱根等の木製品、和同開珎1点が出土している。また、下層に属する磨製石斧や管玉等の石製品が少数出土した。

以下、各遺構種別に主な遺構及び遺物を報告する。なお、先述の通り本書の奈良・平安時代の器種分類や時期表示は、田嶋明人氏による北陸地方の古代土器編年(田嶋1986)により記述しており、本章での報告もそれに準拠する。暦年代に関しては、第4章の第7表を参照されたい。

第2節 建物・柱穴列

1 掘立柱建物(遺構：第119～127図、第63表、遺物：第136・139図、第71・76表)

調査区西壁際の建物については第6次調査成果を参照しつつ、掘立柱建物6棟(SB01～05、いずれもC区)を復元した。分布状況としては、調査区北西部に建物跡が集中しており、うちSB01とSB02、SB02とSB06はそれぞれ一部が重複する。

建物構造については、総柱構造をとるのはSB02のみで、それ以外の5棟は側柱構造である。総柱構造のSB02は、2×2間の柱配置を持ち、うち3本の柱根が遺存していた。柱穴の規模は中程度で、小



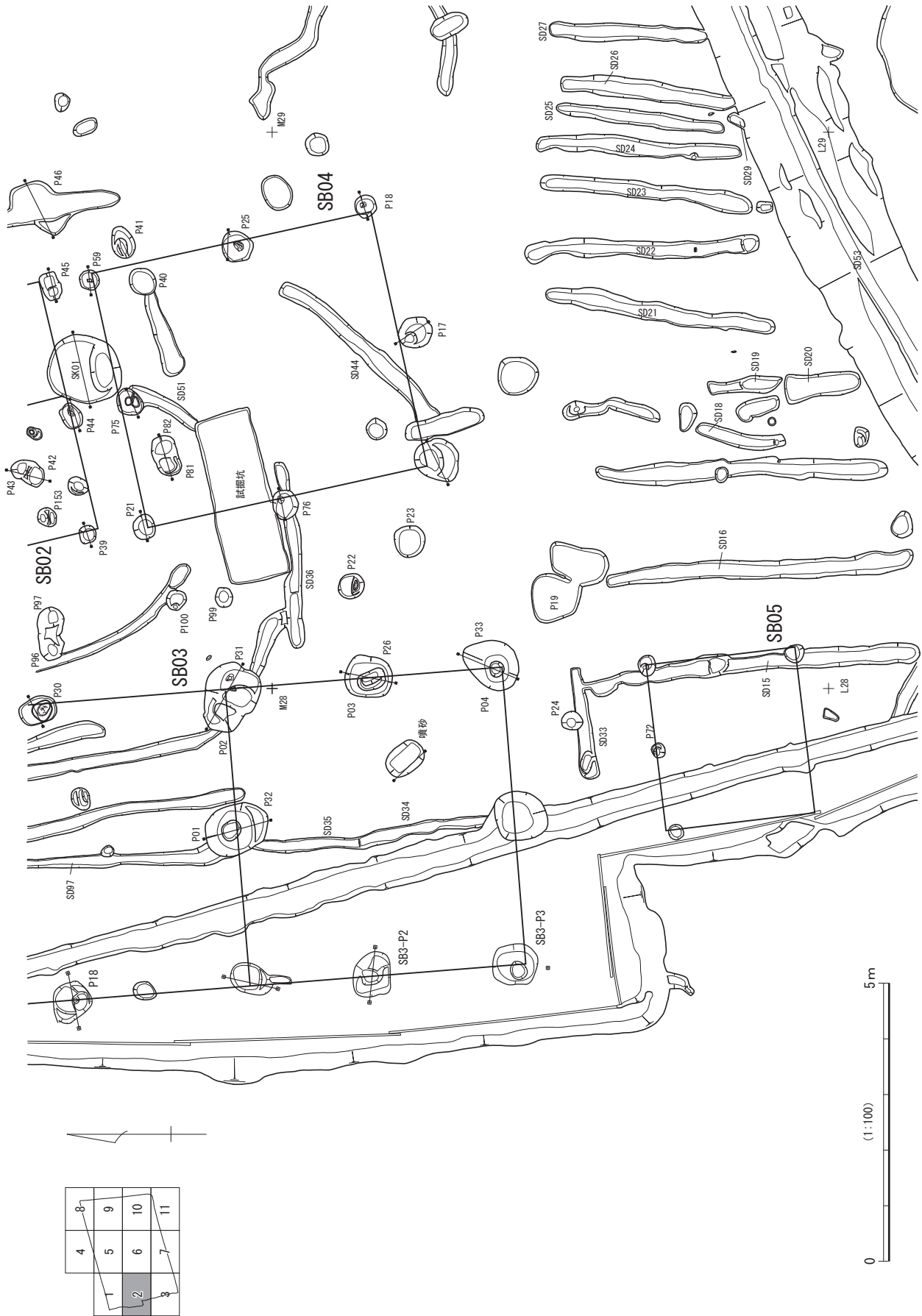
第106図 C・D・K区第1面グリッド配置図(S=1/300)



第107図 C・D・K区第1面主要遺構配置図(S=1/300)



第108図 C・D・K区第1面遺構平面図1 (S=1/100)

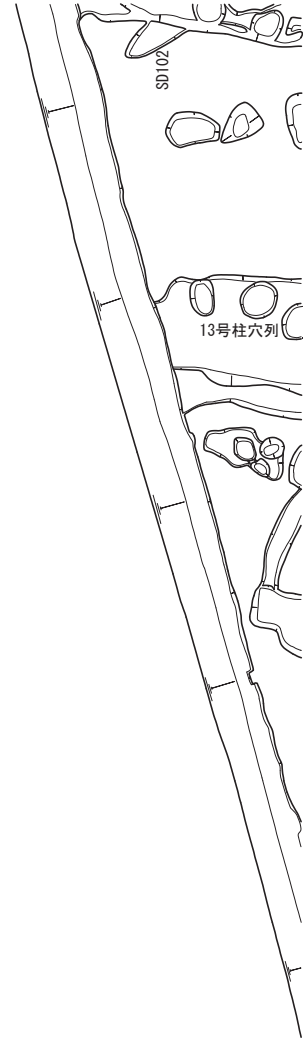
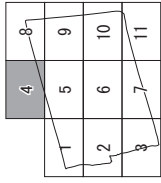


第109図 C・D・K区第1面遺構平面図2 (S=1/100)

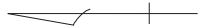


| | |
|---|----|
| 4 | 8 |
| 5 | 9 |
| 6 | 10 |
| 2 | 11 |

第110図 C・D・K第1面区遺構平面図3 (S=1/100)



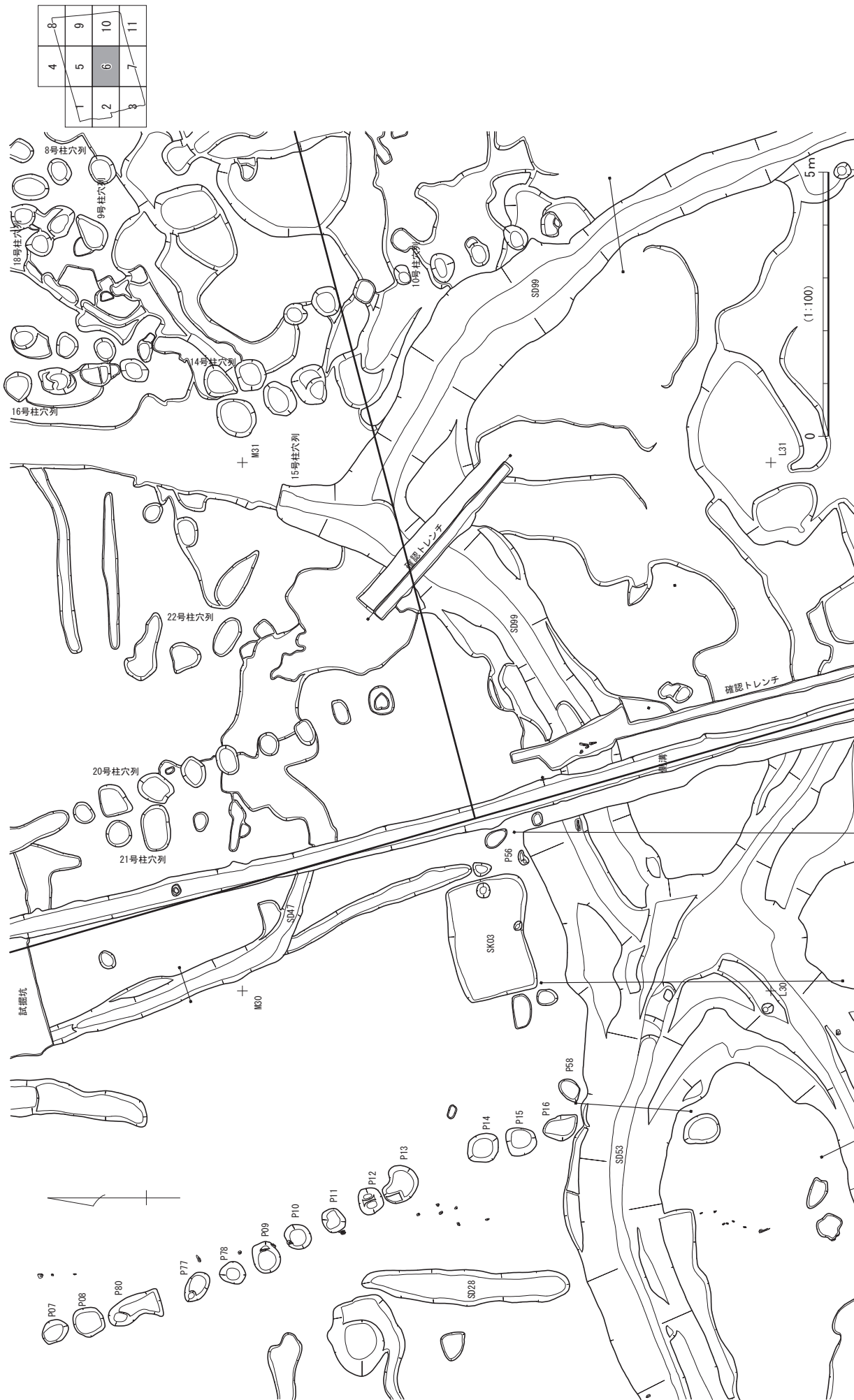
第111図 C・D・K区第1面遺構平面図4 (S=1/100)



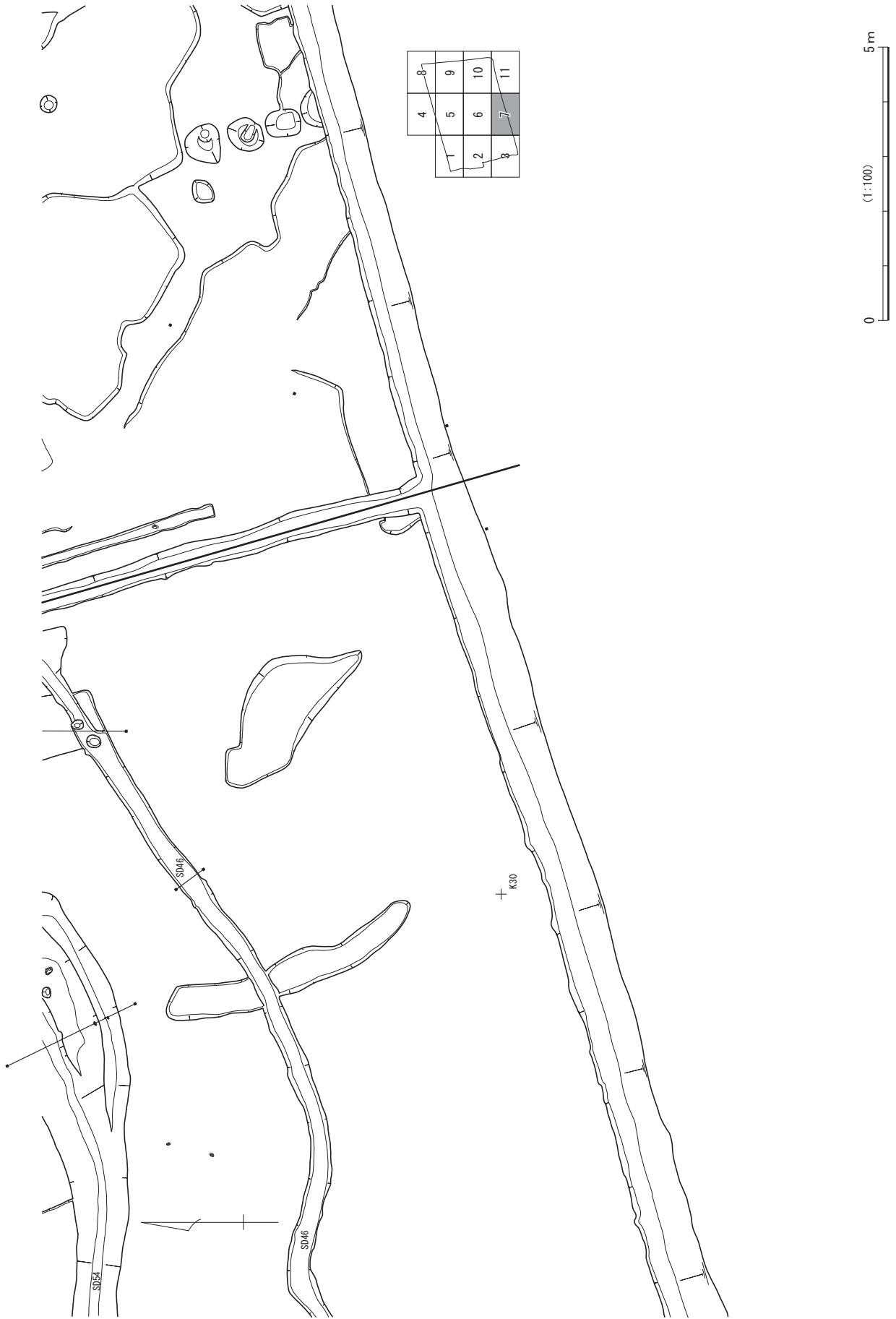
| | |
|---|----|
| 4 | 8 |
| 5 | 9 |
| 6 | 10 |
| 2 | 7 |
| 3 | 11 |



第112図 C・D・K区第1面遺構平面図5(S=1/100)

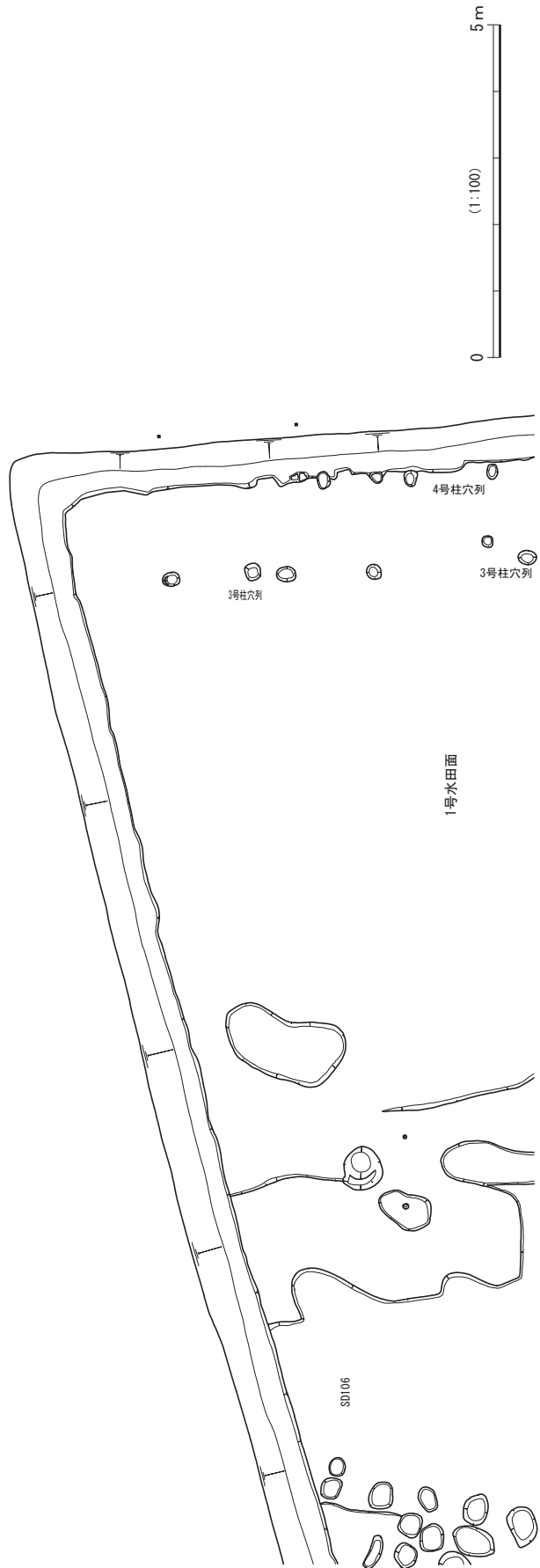
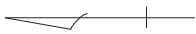


第113図 C・D・K区第1面遺構平面図6 (S=1/100)



第114図 C・D・K区第1面遺構平面図7 (S=1/100)

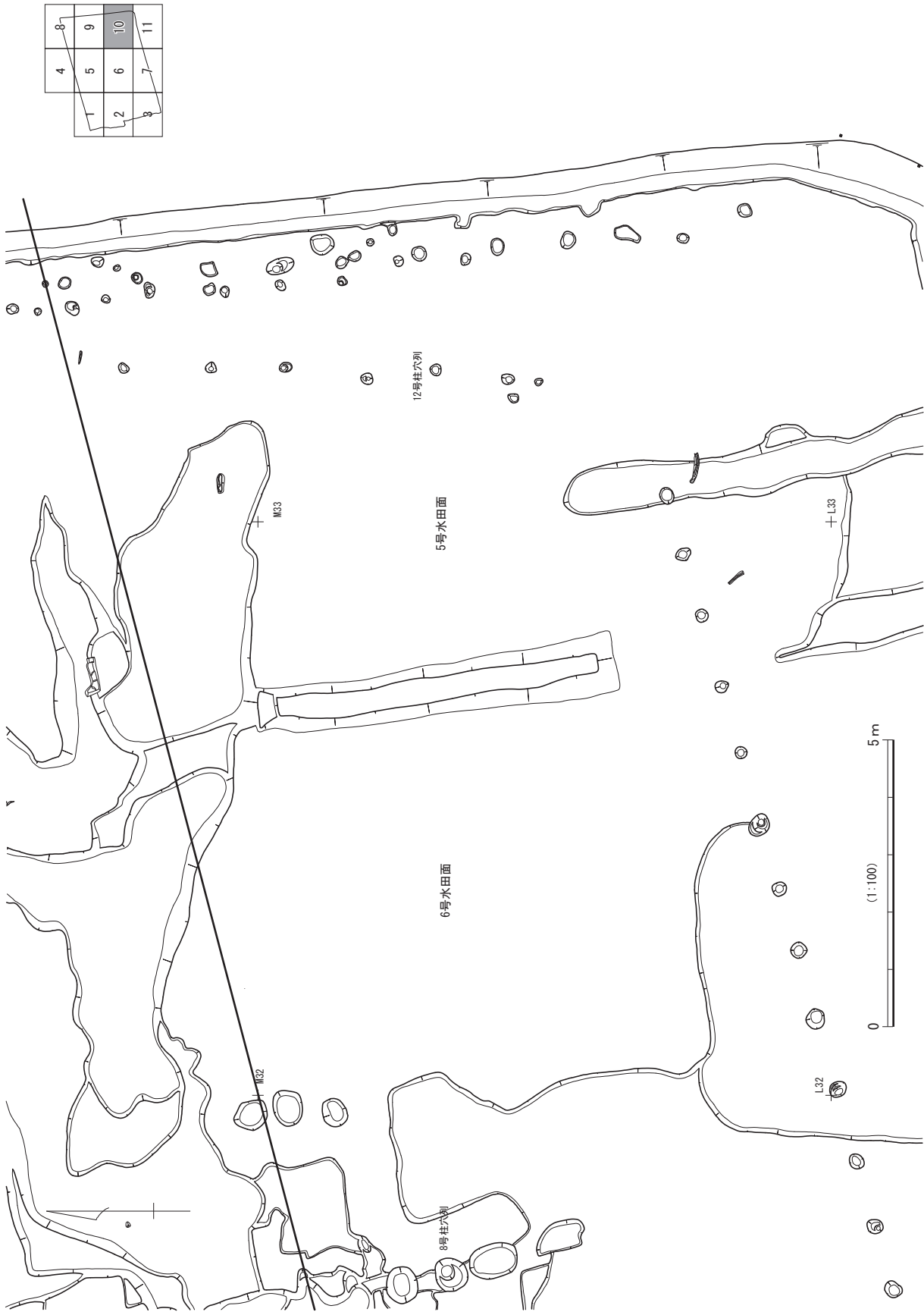
| | | | |
|---|---|----|--|
| 4 | 8 | | |
| 1 | 5 | 9 | |
| 2 | 6 | 10 | |
| 3 | 7 | 11 | |



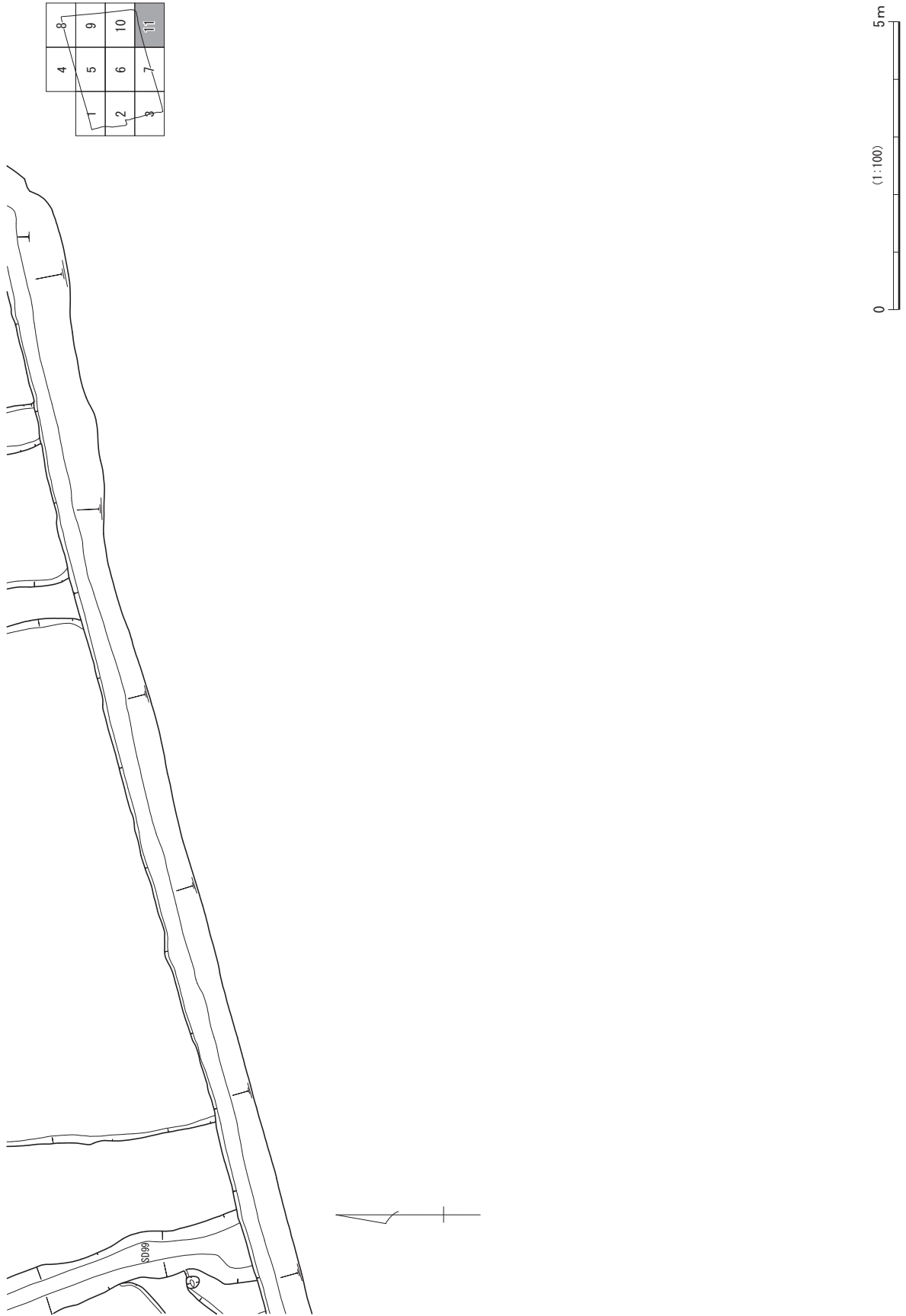
第115図 C・D・K区第1面遺構平面図8(S=1/100)



第116図 C・D・K区第1面遺構平面図9(S=1/100)



第117図 C・D・K区第1面遺構平面図10(S=1/100)



第118図 C・D・K区第1面遺構平面図11 (S=1/100)

型倉庫の可能性がある。側柱構造をとる他の5棟の平面プランとしては、2×1～間が1棟 (SB05)、2×2間が3棟 (SB01・04・06)、4×2間が1棟 (SB03) に分類できる。床面積については、8㎡以下が2棟 (SB01・05)、18～25㎡が3棟 (SB・02・04・06)、61㎡の大型建物が1棟 (SB03) となる。大型の構造をとるSB03は柱筋が安定しているが、それ以外の比較的小型な建物は柱筋が不安定である。このような小型建物群が検出される状況は、A区第1面の西側と共通している。調査区西側に隣り合う第6次調査区B区の建物と比較すれば、主軸方位がN-12° W～15° Wの、2×2間の正方形に近い側柱構造といった類似がみられ、調査区北側に建物が集中する立地が共通している。また、今回報告する掘立柱建物から出土した遺物は、VI₁・VI₂期 (9世紀後葉～10世紀前葉) を主体とする。

なお、今回の報告に伴い建物として復元したが、懸念が残るものについては各遺構の説明に付記している。また掘立柱建物として復元した柱穴以外にも、柱穴と考えられるピットがある程度存在しており、実際の掘立柱建物の数はさらに多くなる可能性をもつ。加えて、調査時に「柱穴列」と判断している遺構については別に検討しており、次項にて詳述する。

※ 柱間寸法は北端から南端柱穴、または東端から西端柱穴の順に計測。

| 遺構名 | 図No | グリッド名 | 建物構造 | 柱配置(間) | 床面積(㎡) | 桁行長(m) | 桁行柱間寸法(m) | 梁行長(m) | 梁間柱間寸法(m) | 主軸方位 | 柱穴の平面形態 | 柱穴の規模(cm) | 柱根の有無 | 備考 |
|---------|-----------|------------|------|--------|--------|--------|---------------------|--------|----------------|---------|---------|-----------|--------|----|
| 7C1SB01 | 第119図 | N-27,28 | 側柱か | 2×2間 | 11.3 | 4.56 | [西桁] 3.16+1.40 | 2.48 | [北梁] 2.12+2.36 | N-1° 東 | 不整円形 | 36～43 | なし | |
| 7C1SB02 | 第120・121図 | N-28 | 総柱 | 2×2間 | 22.5 | 4.95 | 2.55+2.40 | 4.55 | 2.40+2.15 | N-13° 西 | 不整円形略円形 | 31～70 | あり(3本) | |
| 7C1SB03 | 第122・123図 | N-27, M-27 | 側柱か | 4×2間 | 61.0 | 11.40 | 3.30+3.20+2.60+2.30 | 5.35 | 2.70+2.65 | N-5° 西 | 不整円形 | 51～123 | あり(4本) | |
| 7C1SB04 | 第124・125図 | N-28, M-28 | 側柱 | 2×2間 | 24.2 | 5.15 | 2.40+2.75 | 4.70 | 2.30+2.40 | N-13° 西 | 不整円形略円形 | 35～84 | あり(3本) | |
| 7C1SB05 | 第126図 | M-27,28 | 側柱か | 2×1～間 | 8.0 | 2.65 | [東桁] 1.25+1.40? | 3.00 | [北梁] 1.45+1.55 | N-6° 西 | 略円形 | 24～38 | なし | |
| 7C1SB06 | 第127図 | O-28, N-28 | 側柱か | 2×2間 | 18.2 | 3.72 | [西桁] 1.28+2.44 | 4.88 | [北梁] 3.12+1.76 | N-13° 西 | 略円形 | 26～66 | なし | |

第63表 C区第1面SB規模等一覧表

SB01 (遺構：第119図、第63・66表、遺物：第136図、第71表)

N-28区で検出した側柱構造と思われる掘立柱建物で、2×2間で復元した。主軸方位はN-1° Eで、ほぼ南北に沿う。桁行2間 (4.56m)・梁間2間 (2.48m)、床面積11.3㎡を測る。柱間寸法は、西桁行が3.16m + 1.40mで不揃い、北梁行が2.12m + 2.36mでやや不揃いである。柱筋の通りは悪い。柱穴の平面形態は不整円形で、規模は36～43cm。柱根は遺存していなかった。P34で長軸43cm・短軸40cm・深さ45cmを測る。遺物は1088～1091を第136図に図示した。1088は須恵器の有台坏で、焼成は良好であり、外面に降灰がみられる。VI₂期とした。1089は須恵器の無台坏で、焼成が不足しており灰白色を呈する。VI₁期とした。1090は須恵器坏で、焼成は良好だが、灰色を呈する外面に比して、内面はやや白みがかっている。外面に降灰がみられる。VI₁期とした。1091は土師器甕の口縁部である。外面の一部に煤が付着する。

SB02 (遺構：第120・121図、第63・66表、遺物：第136・139図、第71・76表)

N-28区で検出した、2×2間の総柱構造をとる掘立柱建物である。主軸方位はN-13° Wで、SB04・06と同一方向を示す。桁行2間 (4.95m)・梁間2間 (4.55m)、床面積22.5㎡を測る。柱間寸法は、西桁行が2.55m + 2.40mでやや不揃い、北梁行が2.40m + 2.15mで不揃いである。柱筋の通りは悪い。柱穴の平面形態は不整円形ないし略円形で、規模は31～70cm。柱根は3カ所 (P44・51・88) に残っていた。P44で長軸45cm・短軸35cm・深さ55cmを測る。第7次調査区では唯一の総柱建物と思われる遺構で、

小型の倉庫の可能性がある。遺物は1092を第136図、柱根1195～1197を第139図に図示した。1092は須恵器の提瓶である。外面に降灰がみられる。1195はP44から出土した柱根である。クリの丸木を使用しており、現存長で58.7cm、最大幅17cm、最大厚13.8cmである。1196はP60から出土した柱根である。スギを板目取りで使用しており、断面形態は不整長方形をとる。現存長24.8cm、最大幅13.2cm、厚さは5cmを測る。1197はP88から出土した柱根で、スギを板目取りで用いている。1196と同様に断面形態は不整長方形をとる。現存長69.4cm、最大幅18.5cm、最大厚5cmを測る。

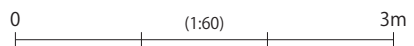
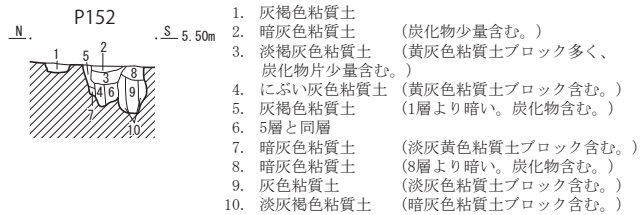
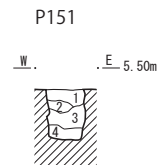
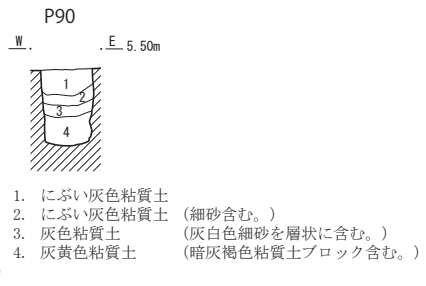
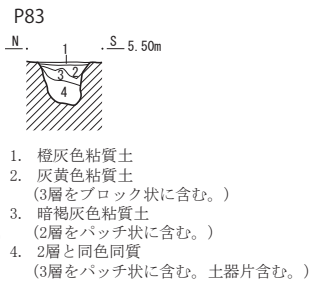
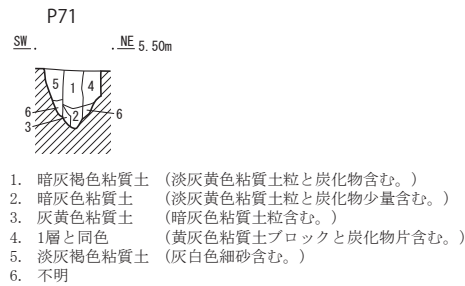
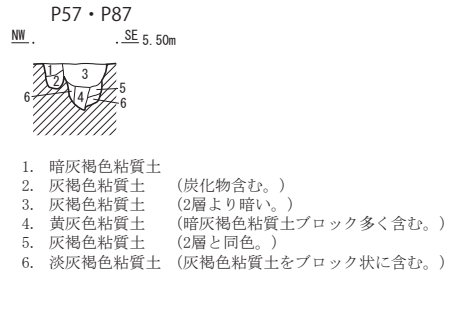
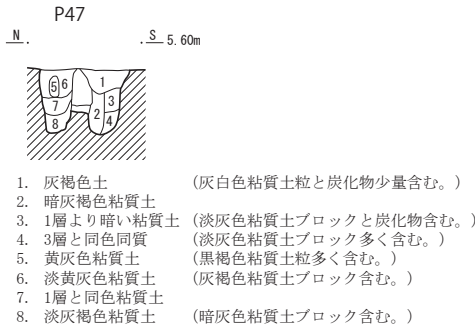
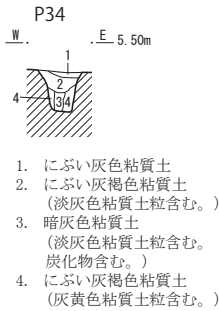
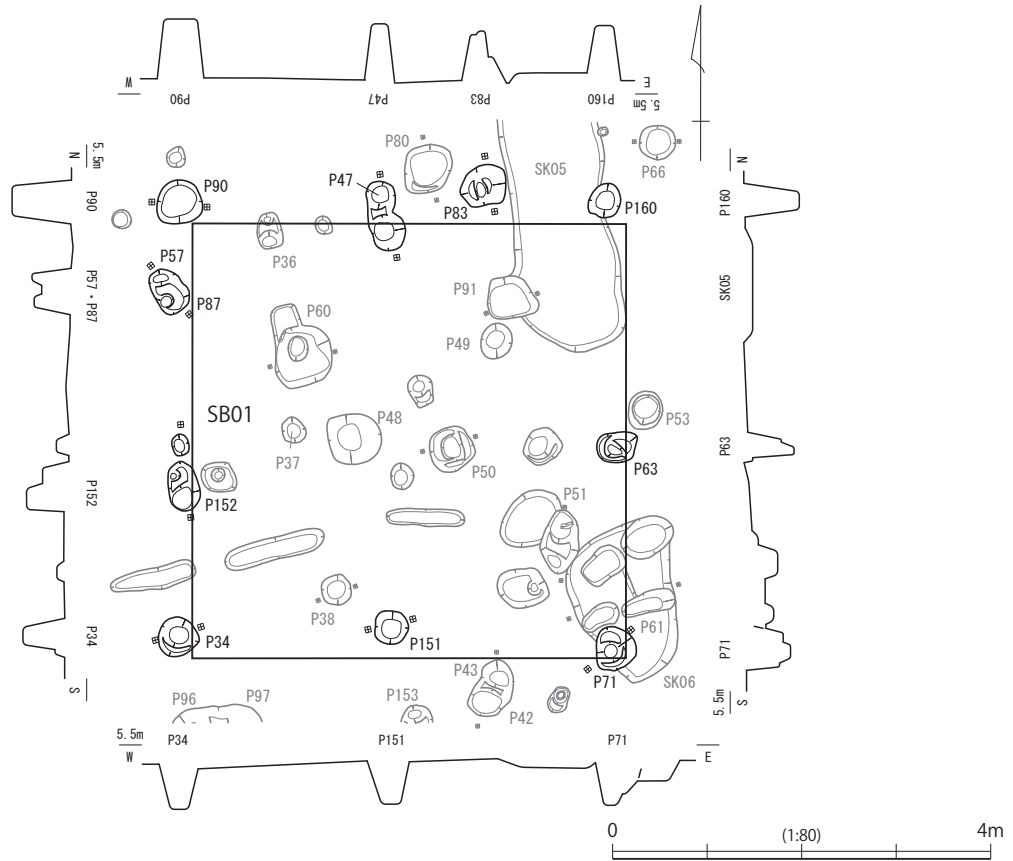
SB03 (遺構：第122・123図、第63・66表、遺物：第136・139図、第71・76表)

N-27・M-27～28区で検出した、4×2間の側柱構造をとる掘立柱建物である。主軸方位はN-5° Wで、SB03とはほぼ同一方向を示す。桁行4間(11.40m)・梁間2間(5.35m)、床面積61.0㎡を測る。柱間寸法は、東桁行が3.30m + 3.20m + 2.60m + 2.30mで、北側2間と南側2間で幅に差があり、P01を間仕切柱としたと考えられる。南北梁は北梁行2.70m + 2.65mでほぼ等間である。柱筋の通りはよい。柱穴の平面形態は不整円形で、規模は51～123cm。柱根は3カ所(P28・29・27)に残っていた。P28で長軸55cm・短軸47cm・深さ65cmを測る。第7次調査では南北梁行～東桁行を調査している。遺物は1093～1100を第136図、柱根1198～1201を第139図に図示した。1093は須恵器の無台坏で、焼成は良好で灰色を呈し、口縁に重ね焼き痕がみられる。P01の柱抜き取り痕から出土している。VI₂期とした。1094は須恵器無台坏の底部で、内面に「本」の墨書がある。外面に降灰がみられる。VI₁～VI₂期とする。1095は須恵器の双耳瓶で、外面に降灰がみられる。1096は須恵器の無台坏で、外面底部に墨書がみられる。VI₂期とした。1097は鉄鉢を模倣した須恵器鉢である。漆痕、重ね焼き痕がみられる。1098は土師器甕である。口縁部のみ遺存している。1099は須恵器の瓶で、焼成は良好で灰色を呈する。P27北西隅から出土している。1100は和同開珎である。左上が欠損しており、P04から出土した。1198はP27から出土した柱根である。現存長40cm、最大幅22.7cmで、最大厚14.6cmを測る。アサダの芯持ち材で、一部に加工痕が残る。1199はP28から出土した柱根で、現存長45.3cmを測り、最大幅16.8cm、最大厚13.2cmで、断面形態は楕円形をとる。カエデ属の丸木である。1200はP29から出土した柱根である。現存長37.5cm、最大幅19.7cm、最大厚12.3cmを測る。材はアサダの分割材を用いており、一部が炭化していると思われる。1201はP76から出土した柱根で、現存長44.2cm、最大幅17.9cm、最大厚9.3cmを測る。1200同様にアサダの分割材で、一部に加工痕が残る。SB03の西桁行は隣接する第6次調査B区で先行して検出しており、遺物に関する詳細は『加茂Ⅲ』にて報告されているが、特筆すべき遺物としては「千カ」と墨書された須恵器坏蓋(IV₁期)、神功開寶銅銭が挙げられる。

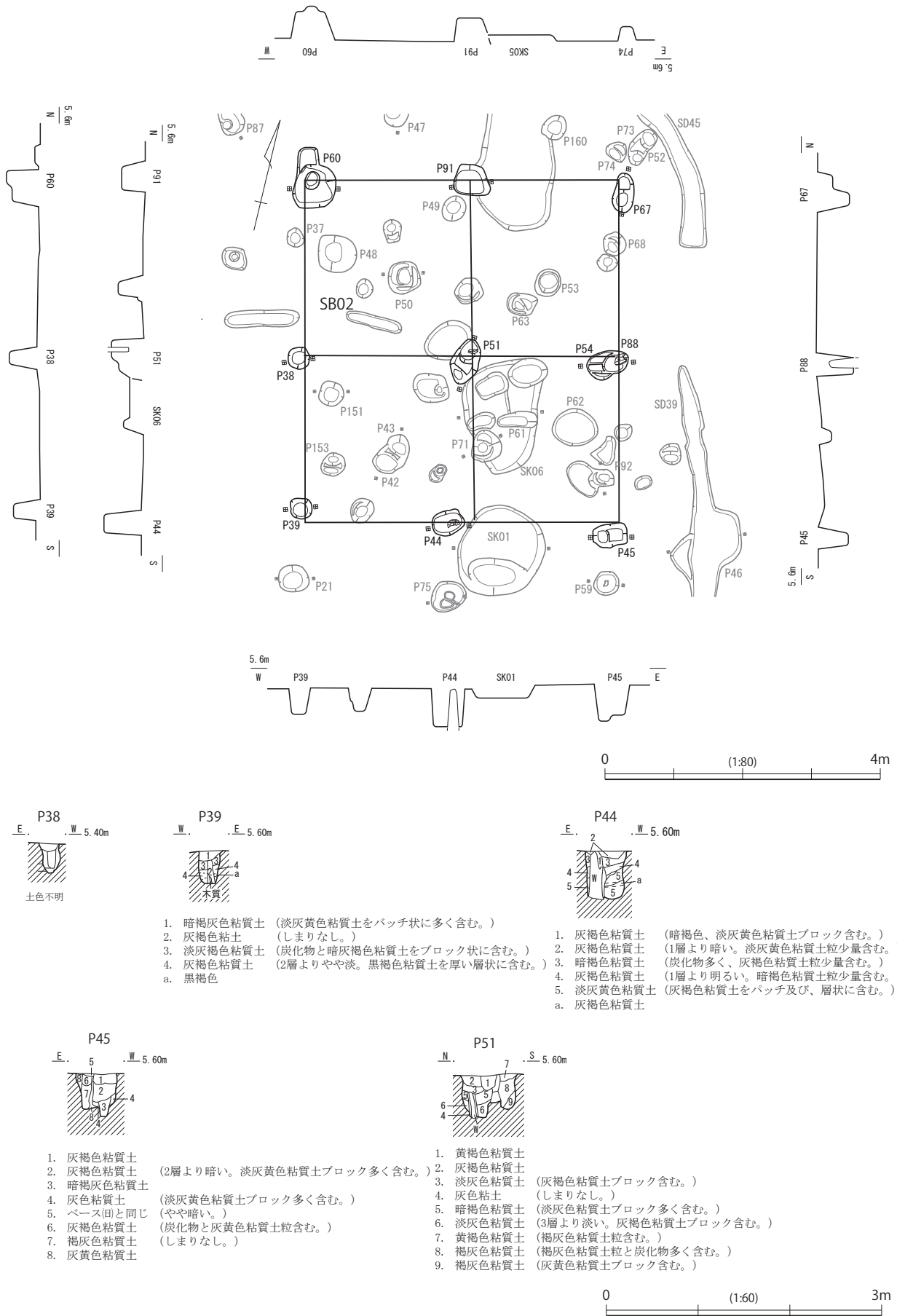
SB04 (遺構：第124・125図、第63・66表、遺物：第139図、第76表)

N-28・M-28区で検出した2×2間の側柱構造をとる掘立柱建物である。主軸方位はN-13° Wで、SB02・06と同一方向を示す。桁行2間(5.15m)・梁間2間(4.70m)、床面積24.2㎡を測る。柱間寸法は、西桁行が2.40m + 2.75mで不揃い、北梁行が2.30m + 2.40mでやや不揃いである。柱筋の通りは悪い。柱穴の平面形態は不整円形ないし略円形で、規模は35～84cm。柱根は4カ所(P18・59・75・76)に残っていた。P76で長軸54cm・短軸45cm・深さ40cmを測る。遺物は1202・1203を第139図に図示した。1202はP18出土の柱根で、現存長31.9cm、最大幅12.2cm、最大厚11.8cmを測る。ケヤキのミカン割材である。1203はP76から出土しているが、ほぼ全体が炭化しており、詳細は不明である。現存長36.3cm、最大幅10.5cm、最大厚10.2cmを測る。ケヤキの分割材である。

第2節 遺構と遺物

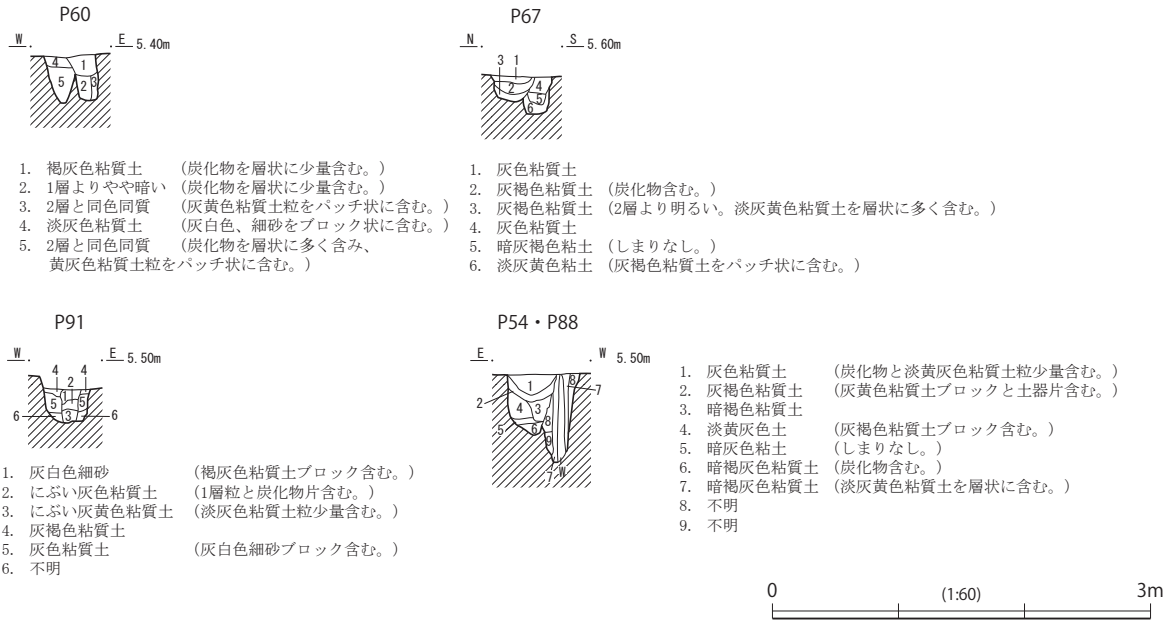


第119図 C区第1面 SB01平面図・土層断面図(S=1/80・1/60)



第120図 C区第1面 SB02平面図・土層断面図(S=1/80・1/60)

第2節 遺構と遺物



第121図 C区第1面SB02土層断面図(S=1/60)

SB05 (遺構：第126図、第63・66表)

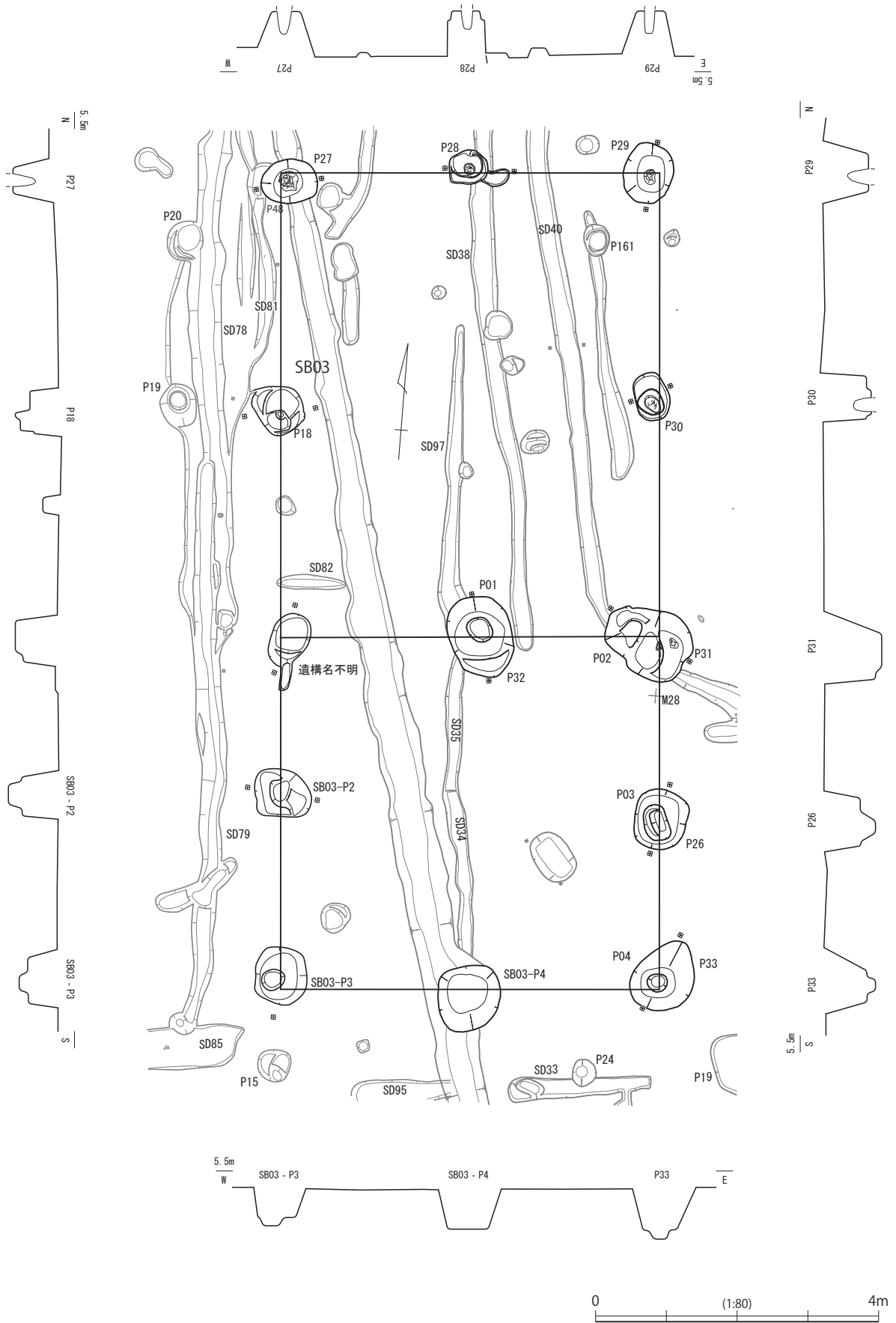
調査区西壁際の M-27・28区で検出した、2×1～間の側柱構造と思われる掘立柱建物である。主軸方位はN-6° Wで、SB03とほぼ同一方向を示す。桁行2間(2.65m)・梁間2間(3.00m)、床面積8.0㎡を測る。柱間寸法は、東桁行が1.25m + 1.40mでやや不揃い、北梁行が1.45m + 1.55mで不揃いである。柱筋の通りは悪い。柱穴の平面形態は略円形で、規模は24～38cm。柱根は遺存していなかった。P72で長軸26cm・短軸24cm・深さ11cmを測る。

SB06 (遺構：第127図、第63・66表)

O-28・N-28区で検出した側柱構造と思われる掘立柱建物で、2×2間で復元した。主軸方位はN-13° Wで、SB02・04と同一方向を示す。桁行2間(3.72m)・梁間2間(4.88m)、床面積18.2㎡を測る。柱間寸法は、西桁行が1.28m + 2.44mでやや不揃い、北梁行が3.12 + 1.76mで不揃いである。柱筋の通りは悪い。柱穴の平面形態は略円形で、規模は26～66cm。柱根は遺存していなかった。P55で長軸35cm・短軸35cm・深さ35cmを測る。

2 柱穴列(遺構：第64表)

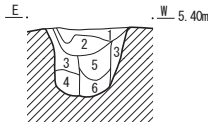
主にD区、一部K区やD・K区に分布する状況を示す。調査段階で「柱穴列」と呼称し遺構番号を付与している遺構群であるが、各穴間は建物跡に比して幅が狭く、建物の柱穴というより杭等を列状に打った跡である可能性が高いと推察する。とはいえ調査時の検討を含み置き、本報告ではSA等として遺構番号を振り直すことはせず、「○号柱穴列」とそのまま表記する。遺物は確認していない。調査区内の溝や水田面を切り込んでおり、最も新しい時期の痕跡だと考えられる。以下、埋土の性質ごとに分類して報告する。



第122図 C区第1面 SB03平面図・土層断面図(S=1/80)

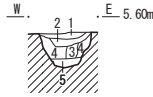
第2節 遺構と遺物

P18



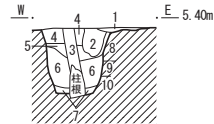
1. 暗灰色粘質土 (〜φ7mm炭化物片多含む。一部地山土(淡灰色土)ブロック混入する。)
2. 明灰褐色粘質土 (〜φ7mm炭化物片やや多含む。パイピングによる鉄分混入が顕著。)
3. 灰色粘質土 (青灰色シルト土やや多含む。パイピングによる鉄分混入が顕著。炭化物をあまり含まない。)
4. 黒灰色粘質土 (多量の炭化物(〜φ7mm)と青灰色シルト土が混在する。)
5. 灰色粘質土 (1層より暗・4層より明。シルトと炭化物を極めて多含む。パイピングによる鉄分混入が顕著。)
6. 黒灰色粘質土〜シルト (〜φ5mm炭化物の混入顕著、4層よりやや明。)

P26



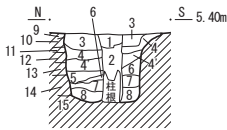
1. 淡黄灰色粘質土 (炭化物含む。)
2. 暗灰褐色土 (炭化物含む。)
3. 淡黄灰色粘質土 (2層をバッチ状に多く含む。)
4. 暗灰褐色粘質土 (黄灰色粘ブロック含む。)
5. 黄灰色粘質土 (暗灰色粘粒含む。)

P28



1. 灰褐色粘質土 (炭化物少量含む。)
2. 褐灰色粘質土 (黄褐色粘粒・炭化物含む。)
3. 灰褐色粘土 (しりなし。黄灰色粘粒少含む。)
4. 淡灰褐色粘質土 (灰黄色粘粒多含む。炭化物少含む。)
5. 灰黄色粘質土 (淡灰褐色粘粒含む。)
6. 4層と同色同質 (灰黄色粘粒少含む。炭化物多含む。)
7. 灰色粘土 (黄灰色粘粒含む。)
- ベース
8. 黄灰色粘質土
9. 淡灰色粘質土
10. 灰黄色粘質土

P29

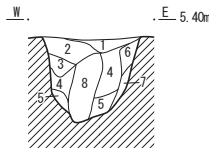


1. 灰褐色粘土 (灰黄色粘質土含む。)
2. 灰褐色粘土 (しりなし。)
3. 褐黄色粘質土 (灰色粘・炭化物少量含む。)
4. 灰黄色粘質土 (灰褐色粘ブロック含む。)
- 4'. 灰黄色粘質土 (灰褐色粘ブロック多く含む。)
5. 灰色粘質土 (灰褐色粘ブロック多く含む。)
6. 暗褐灰色粘質土 (灰色粘粒少量含む。)
7. 灰色粘質土 (黄灰色粘粒含む。)
8. (暗) 灰粘質土 (黄灰色粘ブロック・暗褐灰色粘ブロック少量含む。)

ベース

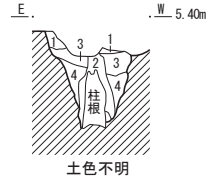
9. 褐灰色粘質土
10. 黄灰色粘質土
11. 灰褐色粘質土
12. 灰黄色粘質土
13. 灰色粘質土 (炭化物少量含む。)
14. 3層と同色
15. 青灰色粘質土

SB03-P2



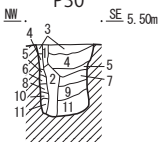
1. 黒灰色土 (しり強・粘性非常に強。炭化物を多く含む。灰白色粘ブロック混入する。)
2. 灰褐色土 (しり非常に強・極めて粘性に富む。黄灰白色粘多混入。一部黒色土が含まれる。)
3. 暗灰色土 (しり弱・粘性非常に強。黒色土・黄灰白色粘がランダムに混じり、φ10〜15mm炭化物片を含む。)
4. 淡灰色土 (しり強・粘性非常に強。若干の炭化物を混入。)
5. 暗灰色土 (しりやや強・粘性極めて強。炭化物多含む。)
6. 淡灰色土 (しり強・極めて粘性に富む。地山の近似の土質、〜φ10mm炭化物片やや多く含む。)
7. 淡灰色土 (しりやや強・粘性非常に強。青灰色シルト多含、ほとんど炭化物含まない。)
8. 灰色土 (しり強・粘性極めて強。〜φ7mm炭化物片少含む。黄灰白色粘ブロック混入。)

P27



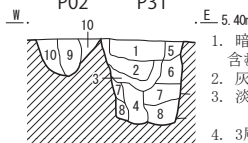
土色不明

P30



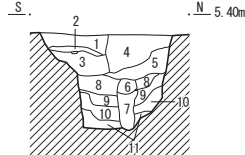
1. 灰黄色粘質土 (炭化物を含む。)
2. 灰色粘質土
3. 暗灰褐色粘質土 (灰黄色粘ブロック含む。)
4. 灰黄色粘質土 (灰黄色粘ブロック含む。)
5. 淡灰褐色粘質土 (灰黄色粘ブロック含む。)
6. 黄灰色粘質土 (暗灰褐色粘ブロック・炭化物含む。)
7. 暗灰褐色粘質土 (炭化物含む。)
8. 黄灰色粘質土
9. 暗灰褐色粘質土
10. 黄灰色粘質土
11. 暗灰褐色粘質土

P02 P31



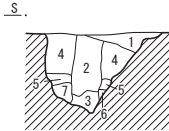
1. 暗灰褐色粘質土 (灰色粘質土ブロックと炭化物含む。)
2. 灰褐色粘質土 (暗灰色粘質土ブロック含む。)
3. 淡黄灰色粘質土 (黒褐色粘質土と暗灰褐色粘質土ブロック含む。)
4. 3層と同色粘質土 (黒褐色粘質土と暗灰褐色粘質土ブロック多く含む。)
5. 暗灰色粘質土 (淡黄灰色土をバッチ状に含む。)
6. 淡黄灰色土 (灰褐色粘質土をブロック状に含む。)
7. 淡灰褐色粘質土 (灰黄色粘質土ブロック含む。)
8. 黒灰色粘質土 (青灰色土をブロック状に含む。)
9. 淡黄色土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
10. 灰褐色粘質土 (灰白色粘質土と炭化物少含む。)

P32 P01

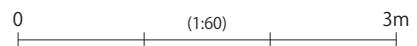


1. 暗灰褐色粘質土 (炭化物を少含み、灰黄色粘ブロック含む。)
2. 炭化物層 (3層と土器片少量含む。)
3. 暗灰褐色粘質土 (1層より灰黄色粘ブロック少ない。)
4. 黄灰色粘質土 (黒褐色・灰褐色粘ブロック多含む。炭化物含む。)
5. 灰黄色粘質土 (黒褐色・灰褐色粘ブロック多含む。)
6. 灰色粘土
7. 黒灰色粘土 (灰色粘ブロック含む。)
8. 灰黄色粘質土 (5層より暗、黒褐色粘ブロック多含む。)
9. 暗灰色粘質土 (黒褐色粘ブロック多含む。)
10. 黒褐色粘質土 (灰色粘を層状に含む。)
11. 黒褐色粘質土 (灰色細砂ブロック含む。)

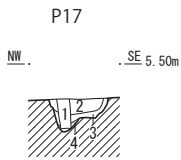
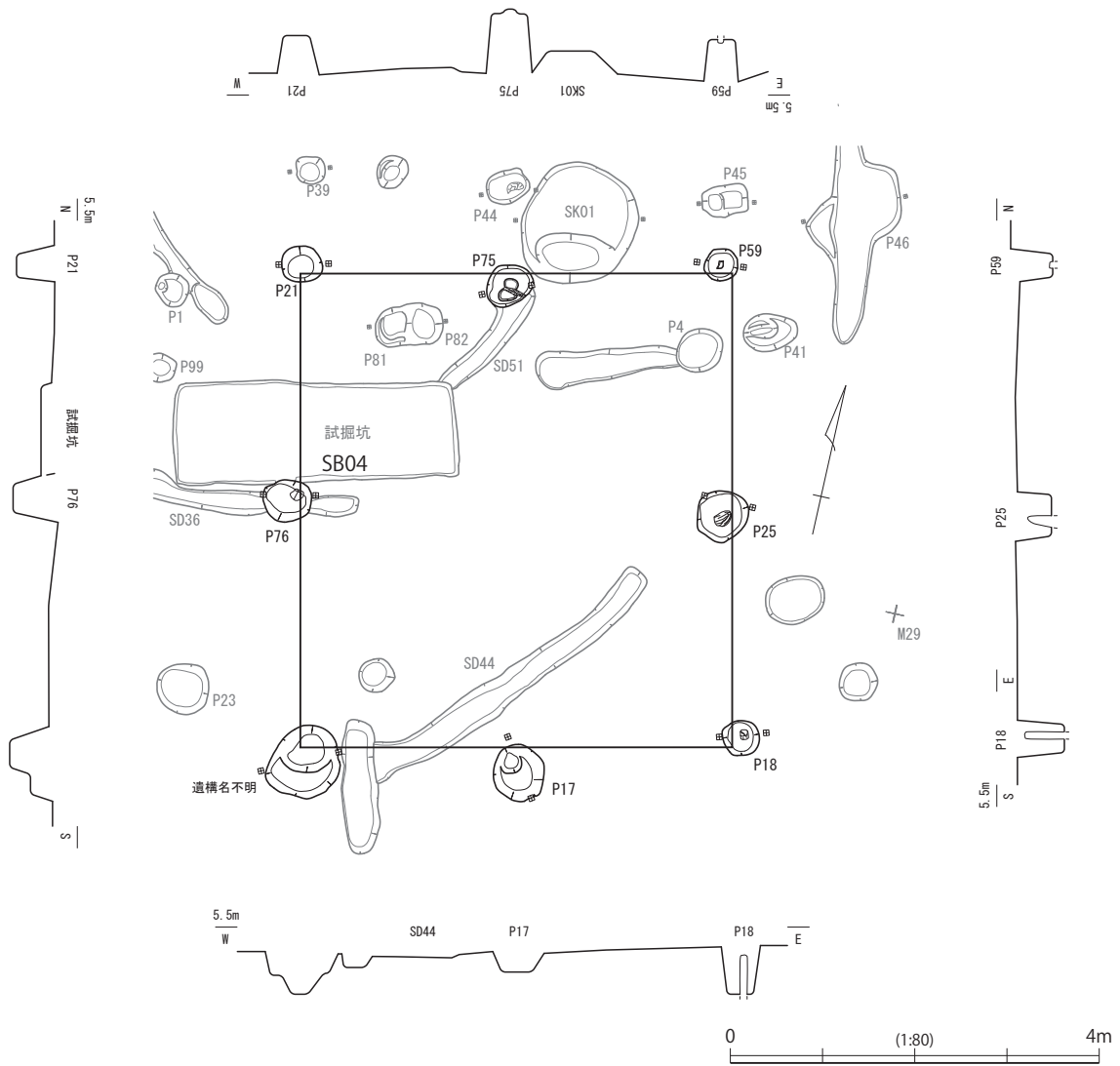
P33



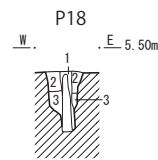
1. 暗褐灰色粘質土 (淡灰褐色粘粒と炭化物含む。)
2. 暗褐灰色粘質土 (淡黄灰色粘粒・ブロック極多、黒褐色粘ブロック少含む。)
3. 灰色粘土 (黒灰色粘ブロック少含む。)
4. 淡黄灰色粘質土 (灰褐色粘ブロック含む。)
5. 淡灰黄色粘質土 (黒褐色粘を層状に含む。)
6. 褐灰色粘質土 (淡灰黄色粘ブロック含む。)
7. 黒褐色粘質土 (淡灰黄色粘ブロック少含む。)



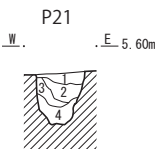
第123図 C区第1面 SB03土層断面図(S=1/60)



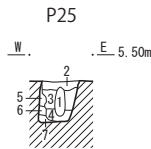
1. 淡灰色粘質土 (炭化物含む。)
2. 灰褐色粘質土 (炭化物と灰黄色粘質土含む。)
3. 灰黄色粘質土 (褐灰色粘質土ブロック含む。)
4. 灰黄色粘質土 (細砂含む。)



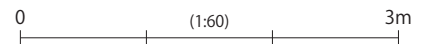
1. 暗灰色粘質土
2. 暗褐色粘質土 (灰黄色粘質土粒と炭化物含む。)
3. 暗褐色粘質土 (灰黄色粘質土粒を薄い層状に含む。)



1. 灰褐色粘質土 (炭化物と灰黄色粘質土粒含む。)
2. 灰褐色粘質土 (1層よりやや暗い。炭化物と灰黄色粘質土粒多く含む。)
3. 淡黄灰色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
4. 暗灰褐色粘質土 (炭化物と淡黄灰色粘質土ブロック多く含む。)

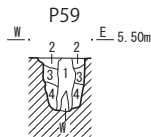


1. 灰色粘土
2. 黄灰色粘質土 (炭化物含む。)
3. 灰白色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック多く含む。)
4. 灰白色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック少量含む。)
5. 灰褐色粘質土 (灰白色細砂をバッチ状に含む。)
6. 暗褐色粘質土
7. 淡灰褐色粘質土

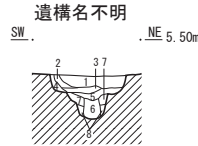


第124図 C区第1面SB04平面図・土層断面図(S=1/80・1/60)

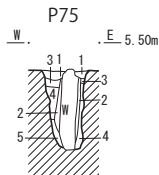
第2節 遺構と遺物



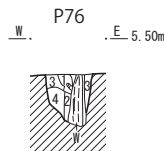
1. 淡灰褐色粘質土 (しまりなし。)
 2. 灰褐色粘質土 (炭化物と、灰黄色粘質土粒含む。)
 3. 灰褐色粘質土 (2層より暗い。灰黄色粘質土ブロック含む。)
 4. 灰黄色粘質土 (暗灰色粘質土ブロック含む。)



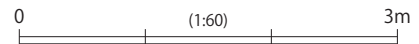
1. 灰色粘質土 (灰黄色粘質土ブロック多く含む。炭化物含む。)
 2. 暗灰色粘質土
 3. 暗褐色粘質土
 4. 灰褐色粘質土 (炭化物多量に含む。)
 5. 暗褐色粘質土 (黄灰色粘質土粒、暗褐色粘質土粒含む。)
 6. 暗褐色粘質土 (炭化物、灰黄色粘質土ブロック含む。)
 7. 黄褐色粘質土 (細砂、灰褐色粘質土ブロック含む。)
 8. 灰黄色粘質土



1. 灰黄色粘質土 (暗灰色粘質土ブロック、炭化物含む。)
 2. 灰色粘土 (しまりなし。)
 3. 淡黄灰色 (炭化物と灰白色細砂を層状に含む。)
 4. 灰褐色粘質土 (炭化物と淡灰褐色粘質土ブロック含む。)
 5. 淡灰褐色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)



1. 灰白色細砂 (淡灰褐色粘質土をブロック状に含む。)
 2. 灰色粘土 (しまりなし。)
 3. 褐灰色粘質土
 4. 灰褐色粘質土



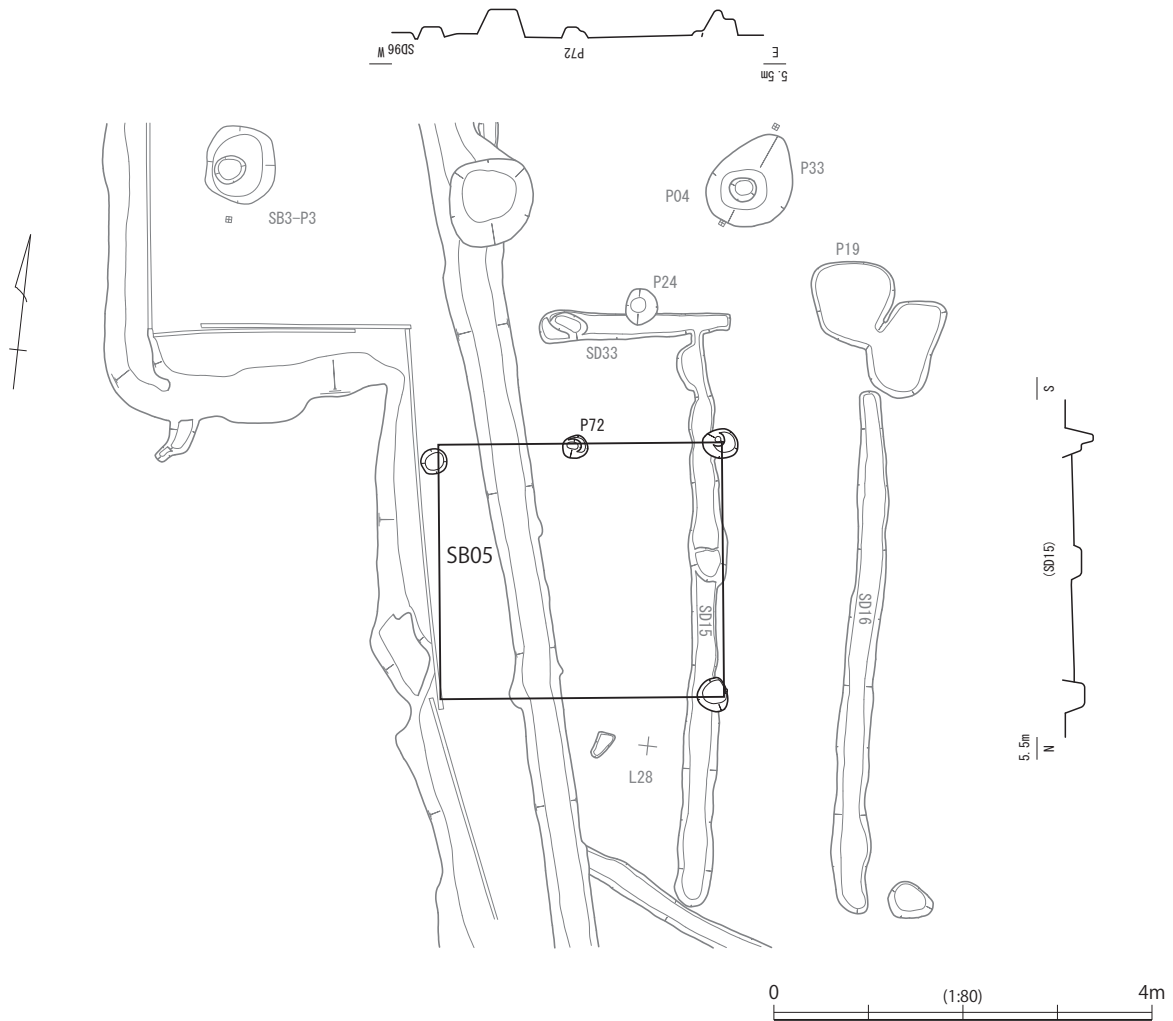
第125図 C区第1面SB04土層断面図(S=1/60)

| 遺構名(報告書) | グリッド | 柱穴の数 | 規模 (cm) | | | 方位 | 土色 | 柱穴の平面形態 | 備考 |
|-------------|---------------------|------|---------|-------|-------|-----------------|--------------|-----------|----------|
| | | | 長さ | 柱穴の規模 | 深さ | | | | |
| 7D11号柱穴列 | O-30,0-31,0-32,0-33 | 29 | 2873 | 15~45 | 8~25 | N-88° E | 砂 | 不整形、略楕円形 | |
| 7D12号柱穴列 | O-30,0-31,0-32,0-33 | 45 | 2830 | 15~35 | 10~33 | N-87° E | 砂 | 不整形、不整楕円形 | |
| 7D13号柱穴列 | P-33,0-33 | 8 | 694 | 17~27 | 7~30 | N-5° W | 灰褐色粘質土(砂混じり) | 不整形、不整楕円形 | |
| 7D14号柱穴列 | P-33,0-33, N-33 | 25~ | 2100~ | 10~30 | 5~39 | N-5° W | 灰色砂 | 不整形 | |
| 7D15号柱穴列 | O-33,N-33 | 18 | 1069 | 16~30 | 6~35 | N-6° W | 灰色砂 | 不整形 | |
| 7D16号柱穴列 | N-31 | 4 | 241 | 26~80 | 11~17 | N-25° E | 灰褐色粘質土 | 不整形 | |
| 7D17号柱穴列 | N-31 | 2 | 43 | 46~58 | 6~11 | N-12° E | 灰褐色粘質土 | 不整形 | |
| 7D19号柱穴列 | N-31 | 2 | 78 | 58~75 | 7~9 | N-22° E | 灰褐色粘質土 | 不整形 | |
| 7D111号柱穴列 | P-31,0-31, N-31 | 22 | 1468 | 44~86 | 11~21 | N-2° W | 灰褐色粘質土 | 不整形 | 少しS字状に湾曲 |
| 7D113号柱穴列 | P-31,0-31, N-31 | 19 | 1373 | 30~61 | 10~23 | N-2° E, N-14° E | 灰褐色粘質土 | 不整形、略楕円形 | S字状に湾曲 |
| 7D114号柱穴列 | N-31 | 2 | 68 | 59~62 | 16~17 | N-15° W | 灰褐色粘質土 | 不整形 | |
| 7D116号柱穴列 | N-31 | 5 | 297 | 51~76 | 9~14 | N-7° W | 灰褐色粘質土 | 不整形 | |
| 7D117号柱穴列 | N-31 | 3 | 198 | 33~ | 5~9 | N-26° W | 灰色 | 不整形 | |
| 7D118号柱穴列 | N-31 | 2 | 63 | 50~ | 10 | N-58° E | 灰色 | 不整形 | |
| 7D119号柱穴列 | O-31,N-31 | 7 | 919 | 25~60 | 12~20 | N-5° E | 灰褐色粘質土(一部灰色) | 不整形 | |
| 7D120号柱穴列 | N-30, | 9 | 600 | 41~59 | 7~19 | N-20° W | 灰色 | 不整形 | |
| 7D121号柱穴列 | N-30, | 4 | 235 | 72~92 | 5~11 | N-8° W | 灰褐色粘質土(一部灰色) | 不整形 | |
| 7D122号柱穴列 | N-30, | 3 | 177 | 50~ | 9~13 | N-18° W | 灰色 | 不整形 | |
| 7D123号柱穴列 | O-30 | 2 | 102 | 27~50 | 13~20 | N-77° E | 灰褐色粘質土 | 不整形 | |
| 7D124号柱穴列 | N-30 | 2 | 196 | 20 | 20 | N-87° W | 砂 | 不整形 | |
| 7D・K18号柱穴列 | N-31,M-31 | 8 | 967 | 55~85 | 5~17 | N-13° W | 灰褐色粘質土 | 不整形 | |
| 7D・K112号柱穴列 | N-33,M-33 | 5 | 465 | 15~25 | 25~43 | N-4° W | 砂 | 不整形、略楕円形 | |
| 7K110号柱穴列 | M-31 | 8 | 517 | 38~60 | 2~12 | N-19° W | 灰色 | 不整形 | |
| 7K115号柱穴列 | M-31 | 3 | 167 | 65~81 | 6~13 | N-22° W | 灰褐色粘質土 | 不整形 | |

第64表 C・D・K区第1面柱穴列規模等一覧表

7C1 1・2・4・5・24・7D・K1 12号柱穴列

砂ないし灰色砂で埋まっていた穴の列を挙げた。1・2号はO-30~33区、4号はP-33・O-33・N-33区、5号はO-33・N-33区、12号はN-33・M-33区(D・K区)、24号はN-30区に位置する。長さは1・2号が28m以上、



第126図 C区第1面 SB05平面図・土層断面図(S=1/80)

4号が21m以上、5号が10m程、12号が5m弱、24号が2m程である。主軸方位は1・2・24号がN-87~88° E、4・5・12号が約N-4~6° Wで、2方向に大別できる。穴の平面形態は不整形・不整楕円形が多く、一部略楕円形を含む。規模については、径は10~45cm、深さは5~43cmと非常にバラツキがある。

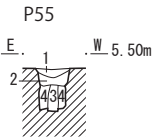
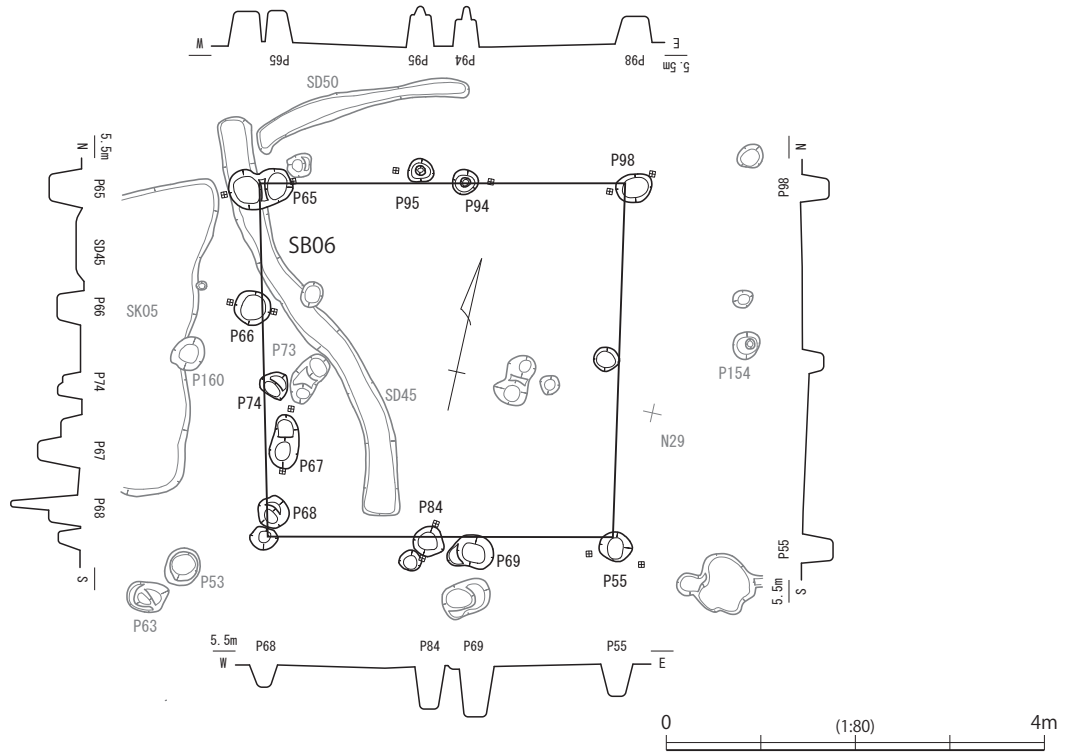
7C1 17・18・20・22・7K1 10号柱穴列

灰色粘質土で埋まっていたと思われる穴の列を挙げた。10号はM-31区(K区)、17・18号はN-31区、20・22号はN-30区にそれぞれ収まる。列の長さは20号が6m、10号が約5m、17・22号が20m弱、18号が0.6m程である。主軸方位は10・20・22号がN-18~19° Wで類似しているが、17号はN-26° W、18号はN-58° Eで他との共通性はみられない。穴の平面形態はいずれも不整形である。規模については、径は33~60cmとバラツキがあり、深さは2~19cmと比較的浅い。

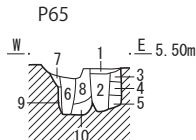
7K1 3・6~9・11・13・14・16・19・21・23・7K1 15号柱穴列

主に灰褐色粘質土で埋まっていたと思われる穴の列である。3号がP-33・O-33区、6・7・9・14・16号がN-31区、11・13号がP-31・O-31・N-31区、19号がO-31・N-31区、21号がN-30区、23号がO-30区、8号がN-31・M-31区(D・K区)、15号がM-31区(K区)に位置する。列の長さは11・13号が15m弱、8・19号が10m弱、3号が7m弱、6・16・21号が2~3m、15・23号が1~2m、7・9・14号が1m以下である。主軸方位は不揃いで、東向きなのが6号(N-25° E)・7号(N-12° E)・9号(N-22° E)・13号(N-2° E・N-14° E)・19号(N-5° E)・23号(N-77° E)で、共通性が認められない。西向きなのは3号(N-5° W)・8号(N-13° W)・11

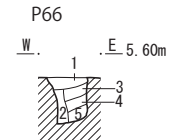
第2節 遺構と遺物



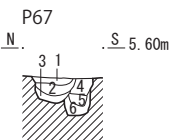
1. 灰褐色粘質土 (炭化物含む。)
2. 灰褐色粘質土 (炭化物少量含む。) →1層より暗い。
3. 暗灰褐色粘質土 (炭化物含む。)
4. 灰黄色粘質土 (暗褐色粘質土ブロック含む。)



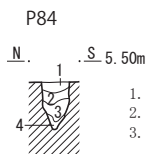
1. にぶい灰色粘質土
2. 灰褐色粘質土 (淡褐色粘質土粒と炭化物含む。)
3. にぶい褐色粘質土
4. 2層と同色同質 (2層より炭化物多い。)
5. 3層と同色同質 (3層より暗い。黄灰色粘質土粒含む。)
6. 淡灰色粘質土 (黄灰色・暗褐色粘質土粒多く含む。)
7. にぶい灰褐色粘質土
8. 暗褐色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック含む。)
9. 8層と同層
10. 褐色粘質土 (黄灰色粘質土粒含む。)



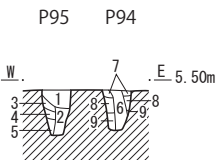
1. 灰褐色粘質土 (炭化物少量含む。)
2. 灰褐色粘質土 (1層よりやや淡い。炭化物含む。)
3. 黄灰色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
4. 褐色粘質土
5. 淡灰褐色粘質土



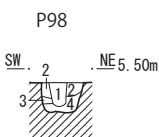
1. 灰色粘質土
2. 灰褐色粘質土 (炭化物含む。)
3. 灰褐色粘質土 (2層より明るい。淡灰黄色粘質土を層状に多く含む。)
4. 灰色粘質土
5. 暗灰褐色粘土 (しまりなし。)
6. 淡灰黄色粘土 (灰褐色粘質土をパッチ状に含む。)



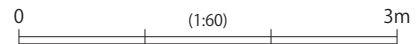
1. 灰褐色粘質土 (灰黄色粘質土粒含む。)
2. 暗灰色粘質土 (炭化物を層状に含む。)
3. 暗灰色粘質土 (2層より明るい。炭化物と灰黄色粘質土粒含む。)
4. 褐色粘質土



1. 淡灰褐色粘質土
2. 褐色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック多く、炭化物含む。)
3. 淡灰色粘質土
4. にぶい灰褐色粘質土 (炭化物多く含む。)
5. 淡灰色粘質土 (3層より暗い。)
6. にぶい灰黄色粘質土 (炭化物少量含む。)
7. 淡灰色粘質土
8. 淡黄灰色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
9. 灰褐色粘質土



1. 灰褐色粘質土 (炭化物と黄灰色粘質土ブロック含む。)
2. 灰黄色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
3. 暗褐色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック含む。)
4. にぶい灰黄色粘質土 (淡灰黄色粘質土ブロック含む。)



第127図 C区第1面 SB06平面図・土層断面図(S=1/80・1/60)

号(N-2° W)・14号(N-5° W)・15号(N-22° W)・16号(N-7° W)・21号(N-8° W)となっており、8・15号を除いて、N-2° W～8° Wの範囲に収まる。穴の平面形態はほとんどが不整形で、一部のみ不整楕円形・略楕円形を含む。規模については、径は13～86cmと非常にバラツキがあり、深さは6～30cmで、比較的浅い穴が多い。3号については灰褐色粘質土に砂が混じり、19・21号は灰褐色～灰色粘質土を埋土とする。

第3節 土坑、ピット

1 土坑(遺構：第128図、第65表、遺物：第136・137図、第71・72表)

土坑は、C区で6基を検出し、主にⅥ期、一部Ⅰ期の遺物が出土している。ほとんどがO-28・N-28区付近に分布しており、平面形態や規模をみると、不整形～不整円形を呈する深さ20cm弱の土坑(SK01・06)、不整形で深さ10cm以下の土坑(SK02)、不整長方形で長軸が2m以上、短軸が1m前後の土坑(SK03・04・05)に区分できる。埋土は主に褐灰色を呈する粘質土である。第65表に規模、他遺構との切り合い関係等を示しており、以下では主な土坑について記す。

| 遺構名 | グリッド | 平面形 | 規模(cm) | | | 土色 | 備考 |
|---------|-----------|-------|--------|-----|------|--------|-----------------|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | |
| 7C1SK01 | N-28 | 不整円形 | 134 | 126 | 16 | 第128図 | |
| 7C1SK02 | O-27,O-28 | 不整形 | 206 | 38 | 7 | 褐灰色粘質土 | |
| 7C1SK03 | M-29,M-30 | 不整長方形 | 225 | 128 | 3～6 | 褐灰色粘質土 | |
| 7C1SK04 | N-27 | 不整長方形 | 217 | 95 | 8～15 | 褐灰色粘質土 | 畝溝(遺構番号なし)に切られる |
| 7C1SK05 | O-28,N-28 | 不整長方形 | 330 | 105 | 8 | 褐灰色粘質土 | |
| 7C1SK06 | N-28 | 不整形 | 160 | 108 | 17 | 第128図 | |

第65表 C・D・K区第1面土坑規模等一覧表

SK01(遺構：第128図)

炭化物を含んだ灰黄色粘質土と砂混じりの暗褐灰色粘質土の二層から成る、不整円形の土坑である。深さは16cm。SB01の南辺・SB04の北辺上に位置するが、いずれの柱穴とも切り合いはみとめられない。

SK04(遺物：137図、第72表)

長軸2.17m、短軸0.95mを測る不整長方形の土坑である。深さは最も深い地点で15cm、浅い地点で7cm。畝溝状遺構に切られており、生産域となる前の段階に位置付けられる。遺物は1139、1140を図示した。1139は須恵器甕の口縁部破片で、焼成は良好である。内面に降灰がみられる。1140は重さ27.96gの土錘である。

SK05(遺物：137図、第72表)

長軸3.30m、短軸1.05mを測る不整長方形の土坑である。深さは8cm程度。遺物は1141、1142を図示した。1141は須恵器の有台坏で、焼成はやや甘く内外面ともに灰白色を呈する。Ⅵ₁期と判断した。1142は口縁部に返しがある須恵器の坏身で、Ⅰ期と判断した。

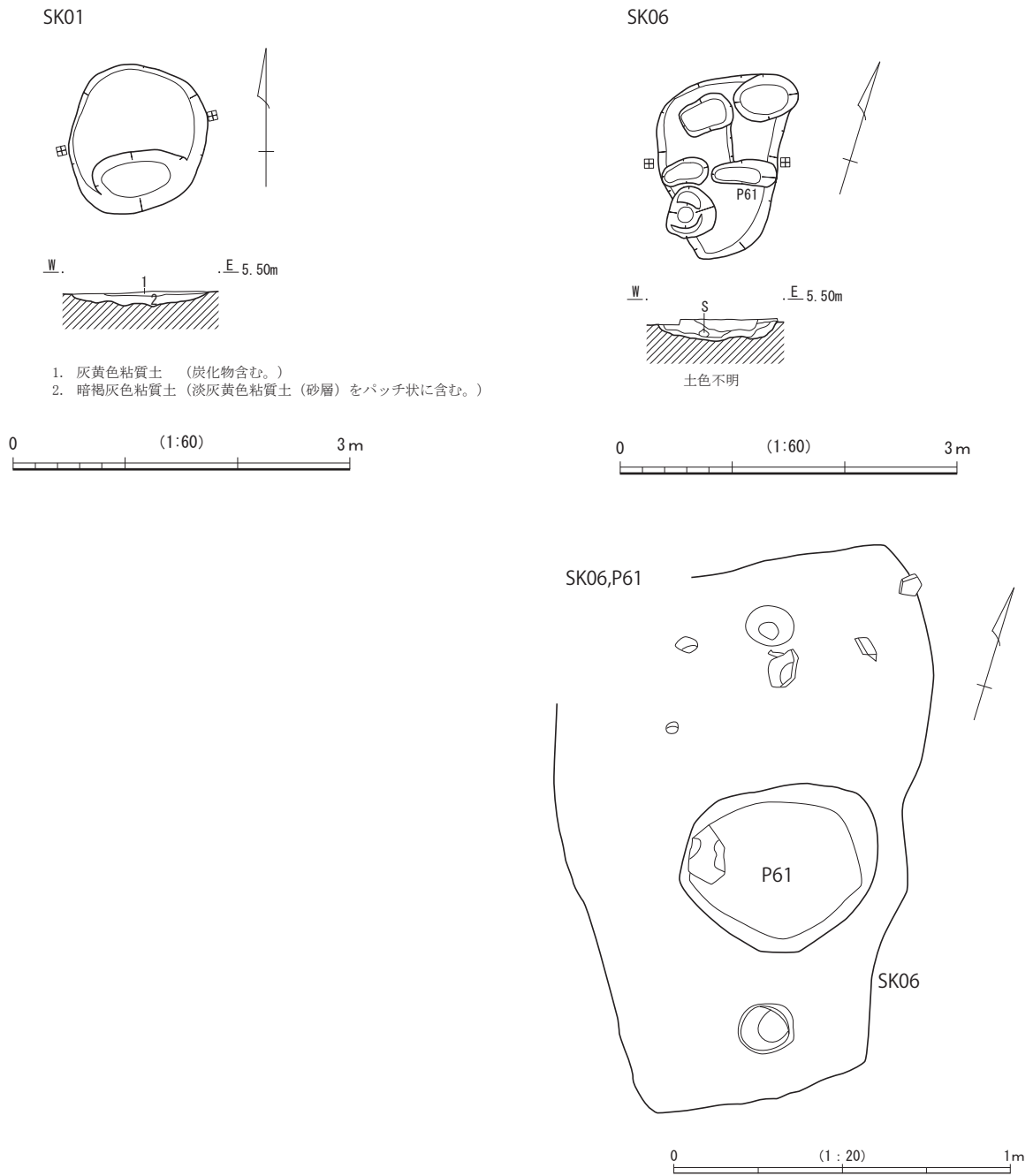
SK06(遺構：第128図、遺物：第137図、第72表)

断面図の注記が無く土層は不明だが、P61を切り込む不整形の土坑である。深さは17cm。遺物は1143を図示した。須恵器の底部で、ヘラ記号がみられる。また1092の一部破片が出土しており、遺構の年代をSB02と同時期に位置付けられる。

2 ピット(遺構：第129・130図、第67・68表、遺物：第136・139図、第71・76表)

調査区全体で多数のピットを検出している。遺物が出土したピットに対して遺構番号を付しており、報告段階で確認できた、遺構番号のあるピットは101箇所、うちC区のP25、51等で柱根を確認しており、復元しえなかった建物等の柱穴を含むと思われる。今回復元した掘立柱建物6棟を構成する柱穴

第3節 土坑、ピット



第128図 C・D・K区第1面土坑・ピット平面図・土層断面図 (S=1/60・S=1/20)

P34

W. E. 5. 50m



1. にぶい灰色粘質土
2. にぶい灰褐色粘質土 (淡灰色粘質土粒含む。)
3. 暗灰色粘質土 (淡灰色粘質土粒含む。炭化物含む。)
4. にぶい灰褐色粘質土 (灰黄色粘質土粒含む。)

P35

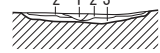
N. S. 5. 50m



1. 灰黄褐色粘質土
2. 暗灰色粘質土 (炭化物と淡灰黄色粘質土粒含む。)
3. にぶい灰黄色粘質土

P46,SD39

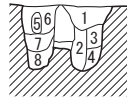
W. P46 SD39 E. 5. 50m



- SD39
1. 暗灰色粘質土 (炭と黄灰色粘土ブロック含む。)
- P46
2. 灰黄色粘質土
 3. 灰褐色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック含む。)

P47

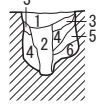
N. S. 5. 60m



1. 灰褐色土 (灰白色粘質土粒と炭化物少量含む。)
2. 暗灰褐色粘質土
3. 1層より暗い粘質土 (淡灰色粘質土ブロックと炭化物含む。)
4. 3層と同色同質 (淡灰色粘質土ブロック多く含む。)
5. 黄灰色粘質土 (黒褐色粘質土粒多く含む。)
6. 淡黄灰色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
7. 1層と同色粘質土
8. 淡灰褐色粘質土 (暗灰色粘質土ブロック含む。)

P50

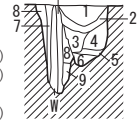
W. E. 5. 50m



1. 灰褐色粘質土 (黄灰色粘質土粒と炭化物少量含む。)
2. 褐色粘質土 (黄灰色粘質土粒多く、炭化物含む。)
3. にぶい黄灰色粘質土
4. 1層より暗い粘質土 (灰黄色粘質土粒と炭化物少量含む。)
5. 灰色粘質土
6. にぶい褐色粘質土 (灰黄色粘質土ブロック含む。)

P54

W. E. 5. 50m



1. 灰色粘質土 (炭化物と淡黄灰色粘質土粒少量含む。)
2. 灰褐色粘質土 (灰黄色粘質土ブロックと土器片含む。)
3. 暗褐色粘質土
4. 淡黄灰色土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
5. 暗灰色粘土 (しまりなし。)
6. 暗褐色粘質土 (炭化物含む。)
7. 暗褐色粘質土 (淡灰黄色粘質土を層状に含む。)
8. 不明
9. 不明

P55

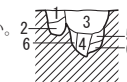
E. W. 5. 50m



1. 灰褐色粘質土 (炭化物含む。)
2. 灰褐色粘質土 (炭化物少量含む。) → 1層より暗い。
3. 暗灰褐色粘質土 (炭化物含む。)
4. 灰黄色粘質土 (暗褐色粘質土ブロック含む。)

P57

N. S. 5. 50m



1. 暗灰褐色粘質土
2. 灰褐色粘質土 (炭化物含む。)
3. 灰褐色粘質土 (2層より暗い。)
4. 黄灰色粘質土 (暗灰褐色粘質土ブロック多く含む。)
5. 灰褐色粘質土 (2層と同色。)
6. 淡灰褐色粘質土 (灰褐色粘質土をブロック状に含む。)

P66

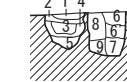
W. E. 5. 60m



1. 灰褐色粘質土 (炭化物少量含む。)
2. 灰褐色粘質土 (1層よりやや淡い。炭化物含む。)
3. 黄灰色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
4. 褐色粘質土
5. 淡灰褐色粘質土

P81,82

W. E. 5. 40m



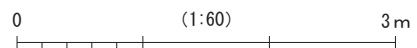
1. 灰黄色粘質土
2. 灰褐色粘質土
3. 暗灰褐色粘質土 (炭化物、黄灰色粘質土粒含む。)
4. 灰黄色粘質土 (1層より暗い。)
5. 灰色粘質土 (淡灰色粘質土をパッチ状に含む。)
6. 不明
- 6' 不明
7. 不明
8. 不明
9. 不明

P83

N. S. 5. 50m



1. 橙灰色粘質土
2. 灰黄色粘質土 (3層をブロック状に含む。)
3. 暗褐色粘質土 (2層をパッチ状に含む。)
4. 2層と同色同質 (3層をパッチ状に含む。土器片含む。)



第129図 C・D・K区第1面ピット土層断面図1(S=1/60)

第3節 土坑、ピット

P84

N. S. 5.50m



1. 灰褐色粘質土 (灰黄色粘質土粒含む。)
2. 暗灰色粘質土 (炭化物を層状に含む。)
3. 暗灰色粘質土 (2層より明るい。炭化物と灰黄色粘質土粒含む。)
4. 褐灰色粘質土

P92

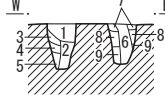
S. N. 5.50m



1. 灰黄色粘質土 (炭化物と黄灰色粘質土粒多く含む。)
2. 灰褐色粘質土 (黄灰色粘質土ブロックと炭化物多く含む。)
3. 淡灰褐色粘質土 (淡黄灰色粘質土ブロックと層状の炭化物多く含む。)
4. 黄灰色粘質土 (淡黄灰色粘質土ブロックと炭化物片含む。)
5. 灰黄色粘質土

P95,94

P95 P94 W. E. 5.50m



1. 淡灰褐色粘質土
2. 褐灰色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック多く、炭化物含む。)
3. 淡灰色粘質土
4. にぶい灰褐色粘質土 (炭化物多く含む。)
5. 淡灰色粘質土 (3層より暗い。)
6. にぶい灰黄色粘質土 (炭化物少量含む。)
7. 淡灰色粘質土
8. 淡黄灰色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
9. 灰褐色粘質土

P98

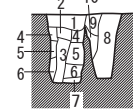
W. E. 5.50m



1. 灰褐色粘質土 (炭化物と黄灰色粘質土ブロック含む。)
2. 灰黄色粘質土 (灰褐色粘質土ブロック含む。)
3. 暗褐灰色粘質土 (黄灰色粘質土ブロック含む。)
4. にぶい灰黄色粘質土 (淡灰黄色粘質土ブロック含む。)

P42,43

S. N. 5.50m



1. 灰褐色粘質土
2. 暗黄灰色粘質土 (炭化物と淡黄灰色粘質土粒含む。)
3. 暗灰色粘質土 (炭化物多く、淡黄灰色粘質土ブロック含む。)
4. 淡黄灰色粘質土 (炭化物含む。)
5. 淡黄灰色粘質土 (細砂含む。)
6. 褐灰色粘質土 (炭化物多く含む。)
7. 5層と同色同質
8. 褐灰色粘質土 (淡灰褐色粘質土と炭化物粒多く含む。)
9. 灰褐色粘質土
10. 淡灰色粘質土 (炭化物含む。)

P80

N. S. 5.50m



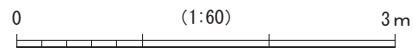
1. 橙褐色粘質土 (暗褐灰色粘質土ブロック含む。)
2. 暗灰褐色粘質土 (暗褐灰色粘質土ブロック含む。)
3. 淡灰褐色粘質土
4. 灰褐色粘質土 (暗褐灰色粘質土, 灰白色細砂をブロック状に含む。)
5. 灰褐色粘質土 (4層より暗い。黄灰色粘質土粒含む。)
6. 褐灰色粘質土 (4層より暗い。黄灰色粘質土ブロック含む。)

P92

S. N. 5.50m



1. 灰黄色粘質土 (炭化物と黄灰色粘質土粒多く含む。)
2. 灰褐色粘質土 (黄灰色粘質土ブロックと炭化物多く含む。)
3. 淡灰褐色粘質土 (淡黄灰色粘質土ブロックと層状の炭化物多く含む。)
4. 黄灰色粘質土 (淡黄灰色粘質土ブロックと炭化物片含む。)
5. 灰黄色粘質土



第130図 C・D・K区ピット土層断面図2 (S=1/60)

※ 網掛けは、深さ30cm以上のビットを示す。

| 遺構名 | グリッド | 平面形 | 規模 (cm) | | | 土色 | 備考 |
|-----------------|-----------|-------|---------|----|-----|----------------|--------------|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | |
| 7C1SB01 (P151) | N-28 | 不整形 | 36 | 35 | 44 | 褐灰色粘質土 | |
| 7C1SB01 (P152) | N-28 | 不整楕円形 | 52 | 33 | 40 | 第119図 | |
| 7C1SB01 (P160) | N-28 | 不整形 | 36 | 32 | 58 | 褐灰色粘質土 | |
| 7C1SB01 (P34) | N-28 | 不整形 | 43 | 40 | 45 | 第119図 | |
| 7C1SB01 (P47) | N-28 | 不整形 | 75 | 30 | 62 | 第119図 | |
| 7C1SB01 (P57) | N-28 | 不整楕円形 | 30 | 18 | 40 | 第119図 | P87より新 |
| 7C1SB01 (P63) | N-28 | 不整形 | 41 | 31 | 52 | 褐灰色粘質土 | |
| 7C1SB01 (P71) | N-28 | 不整形 | 45 | 43 | 46 | 第119図 | |
| 7C1SB01 (P83) | N-28 | 不整形 | 53 | 43 | 56 | 第119図 | |
| 7C1SB01 (P87) | N-28 | 不整形 | 35 | 33 | 38 | 褐灰色粘質土 | P57より古 |
| 7C1SB01 (P90) | N-28 | 不整形 | 49 | 45 | 63 | 第119図 | |
| 7C1SB02 (P38) | N-28 | 不整円形 | 32 | 31 | 41 | 褐灰色粘質土 | |
| 7C1SB02 (P39) | N-28 | 不整形 | 31 | 30 | 37 | 第120図 | |
| 7C1SB02 (P44) | N-28 | 不整形 | 45 | 35 | 55 | 第120図 | 柱根抜き取り |
| 7C1SB02 (P45) | N-28 | 不整形 | 50 | 34 | 52 | 第120図 | |
| 7C1SB02 (P51) | N-28 | 不整形 | 68 | 40 | 46 | 第120図 | |
| 7C1SB02 (P54) | N-28 | 不整形 | (24) | 45 | 51 | 褐灰色粘質土 | P88より古 |
| 7C1SB02 (P60) | N-28 | 不整形 | 63 | 60 | 49 | 第121図 | 柱根痕(径50cm)あり |
| 7C1SB02 (P88) | N-28 | 略楕円形 | 37 | 31 | 54 | 褐灰色粘質土 | P54より新 |
| 7C1SB02 (P91) | N-28 | 不整形 | 50 | 45 | 35 | 第121図 | |
| 7C1SB02 (P67) | N-28 | 不整楕円形 | 32 | 31 | 45 | 第121図 | P74より新 |
| 7C1SB02 (P68) | N-28 | 不整円形 | 34 | 33 | 73 | 暗灰色粘質土(炭化物を含む) | |
| 7C1SB03 (P01) | N-27 | 不整楕円形 | 118 | 88 | 108 | 第123図 | P32と同一 |
| 7C1SB03 (P02) | N-28 | 不整楕円形 | 120 | 98 | 81 | 第123図 | P31と同一 |
| 7C1SB03 (P03) | M-27,M-28 | 略楕円形 | 85 | 73 | 72 | 褐灰色粘質土 | P26と同一 |
| 7C1SB03 (P04) | M-27,M-28 | 不整楕円形 | 105 | 81 | 73 | 第123図 | P33と同一 |
| 7C1SB03 (P18-2) | N-27 | | 37 | 31 | | 第123図 | 枝番報告段階に付与 |
| 7C1SB03 (P27) | N-27 | 略楕円形 | 0 | 61 | 23 | 第123図 | 柱根抜き取り |
| 7C1SB03 (P28) | N-27 | 不整形 | 55 | 47 | 65 | 第123図 | 柱根抜き取り |
| 7C1SB03 (P29) | N-27 | 不整楕円形 | 85 | 71 | 64 | 第123図 | 柱根抜き取り |
| 7C1SB03 (P30) | N-27 | 不整楕円形 | 68 | 47 | 71 | 第123図 | 柱根痕(径50cm)あり |
| 7C1SB03 (P2) | M-27 | 不整形 | 85 | 69 | 65 | 褐灰色粘質土 | |
| 7C1SB03 (P3) | M-27 | 不整形 | 83 | 82 | 54 | 褐灰色粘質土 | |
| 7C1SB04 (P17) | M-28 | 不整楕円形 | 55 | 62 | 20 | 第124図 | |
| 7C1SB04 (P18-1) | M-28 | 不整円形 | 40 | 37 | 53 | 第124図 | 枝番報告段階に付与 |
| 7C1SB04 (P21) | N-28 | 不整楕円形 | 45 | 40 | 45 | 第124図 | |
| 7C1SB04 (P25) | N-28 | 不整形 | 56 | 55 | 37 | 第124図 | 柱根抜き取り |
| 7C1SB04 (P59) | N-28 | 略円形 | 36 | 34 | 42 | 第125図 | |
| 7C1SB04 (P75) | N-28 | 不整形 | 51 | 44 | 71 | 第125図 | |
| 7C1SB04 (P76) | M-28 | 不整楕円形 | 54 | 45 | 40 | 第125図 | |
| 7C1SB05 (P72) | M-27 | 不整円形 | 26 | 24 | 11 | 褐灰色粘質土 | |
| 7C1SB06 (P55) | N-28,N-29 | 不整形 | 35 | 35 | 35 | 第127図 | |
| 7C1SB06 (P65) | O-28 | 不整形 | 66 | 38 | 35 | 第127図 | |
| 7C1SB06 (P66) | O-28 | 不整楕円形 | 38 | 36 | 29 | 第127図 | |
| 7C1SB06 (P84) | N-28 | 不整形 | 31 | 35 | 44 | 第127図 | |
| 7C1SB06 (P94) | O-28 | 不整円形 | 26 | 25 | 42 | 第127図 | |
| 7C1SB06 (P95) | O-28 | 不整形 | 26 | 25 | 42 | 第127図 | |
| 7C1SB06 (P98) | O-28 | 不整形 | 35 | 30 | 30 | 褐灰色粘質土 | |

第66表 C・D・K区第1面ビット規模等一覧表1

第3節 土坑、ピット

※ 網掛けは、深さ30cm以上のピットを示す。

| 遺構名 | グリッド | 平面形 | 規模 (cm) | | | 土色 | 備考 |
|----------|-----------|-------|---------|------|----|--------------------------|-----------|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | |
| 7C1P07 | N-29 | 不整形 | 52 | 36 | 22 | 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる) | 植栽痕か |
| 7C1P08 | N-29 | 不整形 | 58 | 56 | 17 | 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる) | 植栽痕か |
| 7C1P09 | M-29 | 不整楕円形 | 60 | 50 | 20 | 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる) | 植栽痕か |
| 7C1P10 | M-29 | 不整円形 | 51 | 46 | 29 | 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる) | 植栽痕か |
| 7C1P11 | M-29 | 不整形 | 46 | 41 | 7 | 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる) | 植栽痕か |
| 7C1P12 | M-29 | 不整形 | 50 | 45 | 18 | 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる) | 植栽痕か |
| 7C1P13 | M-29 | 不整形 | 73 | 50 | 15 | 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる) | 植栽痕か |
| 7C1P14 | M-29 | 不整楕円形 | 58 | 55 | 13 | 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる) | 植栽痕か |
| 7C1P15 | M-29 | 不整形 | 55 | 53 | 12 | 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる) | 植栽痕か |
| 7C1P16 | M-29 | 不整形 | 66 | 49 | 9 | 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる) | 植栽痕か |
| 7C1P19 | M-28 | 不整形 | 91 | 88 | 6 | 褐色粘質土(少量の炭化物を含む) | |
| 7C1P22 | M-28 | 略円形 | 46 | 45 | 45 | 褐色粘質土 | |
| 7C1P23 | M-28 | 不整円形 | 56 | 53 | 12 | 灰褐色粘質土 | |
| 7C1P24 | M-27 | 不整楕円形 | 37 | 33 | 38 | 褐色粘質土 | |
| 7C1P35 | O-28 | 不整形 | 42 | 35 | 31 | 第129図 | |
| 7C1P36 | N-28 | 不整楕円形 | 36 | 26 | 27 | 暗灰色粘質土 | |
| 7C1P37 | N-28 | 不整形 | 21 | 20 | 39 | 褐色粘質土 | |
| 7C1P40 | N-28 | 不整楕円形 | 53 | 46 | 9 | 暗灰褐色粘質土(炭化物を含む) | |
| 7C1P41 | N-28 | 不整形 | 60 | 41 | 25 | 暗灰褐色粘質土(炭化物を含む) | |
| 7C1P42 | N-28 | 不整形 | 36 | 31 | 54 | 第130図 | |
| 7C1P43 | N-28 | 不整形 | 35 | 28 | 61 | 第130図 | |
| 7C1P46 | N-28 | 不整形 | (105) | (80) | 12 | 第129図 | |
| 7C1P48 | N-28 | 不整形 | 55 | 55 | 25 | 灰褐色粘質土(少量の炭化物を含む) | |
| 7C1P49 | N-28 | 略楕円形 | 37 | 34 | 42 | 褐色粘質土 | |
| 7C1P50 | N-28 | 不整形 | 46 | 45 | 54 | 第5-24図 | |
| 7C1P52 | N-28 | 不整形 | 28 | 25 | 28 | 褐色粘質土 | P52より新 |
| 7C1P53 | N-28 | 不整楕円形 | 36 | 41 | 59 | 褐色粘質土 | |
| 7C1P56 | M-30 | 不整形 | 46 | 29 | 5 | 褐色粘質土 | |
| 7C1P58 | M-29 | 不整形 | 49 | 32 | 4 | 灰褐色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状に混ざる) | 植栽痕か |
| 7C1P61 | N-28 | 不整形 | 60 | 20 | 10 | 暗褐色粘質土 | |
| 7C1P62 | N-28 | 不整楕円形 | 66 | 55 | 11 | 暗褐色粘質土(多量の炭化物を含む) | |
| 7C1P64 | O-29 | 不整形 | 25 | 15 | 21 | 褐色粘質土 | |
| 7C1P69 | N-28 | 不整形 | 49 | 34 | 55 | 褐色粘質土 | |
| 7C1P70 | N-28 | 不整長方形 | 55 | 35 | 13 | 褐色粘質土 | |
| 7C1P73 | N-28 | 不整形 | (30) | 30 | 27 | 褐色粘質土 | P73より古 |
| 7C1P74 | N-28 | 不整形 | (24.5) | 25 | 23 | 暗灰褐色粘質土(炭化物を含む) | P67より古 |
| 7C1P77 | N-29 | 不整楕円形 | 63 | 40 | 9 | 褐色粘質土 | |
| 7C1P78 | N-29 | 不整形 | 45 | 43 | 18 | 褐色粘質土 | |
| 7C1P80-1 | N-28,O-28 | 不整形 | 56 | 50 | 44 | 第130図 | 枝番報告段階に付与 |
| 7C1P80-2 | N-29 | 不整形 | 105 | 45 | 12 | 褐色粘質土 | 枝番報告段階に付与 |
| 7C1P81 | N-28 | 不整形 | 41 | 33 | 25 | 第129図 | P82より古 |
| 7C1P82 | N-28 | 不整形 | 45 | 38 | 57 | 第129図 | P81より新 |
| 7C1P85 | O-27,N-27 | 不整楕円形 | 25 | 21 | 20 | 黒褐色粘質土 | |
| 7C1P92 | N-28 | 不整形 | 37 | 25 | 50 | 第130図 | |
| 7C1P96 | N-28 | 不整形 | 40 | 35 | 44 | 褐色粘質土 | |

第67表 C・D・K区第1面ピット規模等一覧表2

※ 網掛けは、深さ30cm以上のピットを示す。

| 遺構名 | グリッド | 平面形 | 規模 (cm) | | | 土色 | 備考 |
|---------|------|--------|---------|----|----|-------------------|----|
| | | | 長軸 | 短軸 | 深さ | | |
| 7C1P97 | N-28 | 不整形 | 50 | 35 | 70 | 褐灰色粘質土 | |
| 7C1P99 | N-28 | 不整形 | 35 | 31 | 40 | 褐灰色粘質土 | |
| 7C1P100 | N-28 | 不整形 | 35 | 35 | 45 | 褐灰色粘質土(少量の炭化物を含む) | |
| 7C1P153 | N-28 | 不整形 | 35 | 35 | 45 | 褐灰色粘質土 | |
| 7C1P154 | O-29 | 不整形 | 31 | 28 | 32 | 褐灰色粘質土 | |
| 7C1P155 | O-29 | 不整形楕円形 | 48 | 37 | 16 | 暗灰色粘質土 | |
| 7C1P157 | N-27 | 不整形 | 46 | 30 | 59 | 褐灰色粘質土 | |
| 7C1P161 | N-27 | 不整形楕円形 | 45 | 37 | 45 | 褐灰色粘質土 | |

第68表 C・D・K区第1面ピット規模等一覧表3

以外のピットについて、土層断面図を第129・130図に示した。以下は、主に出土遺物について報告する。

ピットから出土した遺物について、1101～1112を第136図、柱根1204、1205は第139図に図示した。1102は須恵器の蓋である。内面に墨痕と思われる痕跡と、外面に重ね焼き痕がみられる。Ⅳ～Ⅴ期とした。1105は須恵器無台坏で、シルト質に似た素地である。Ⅵ₂期とした。1106は須恵器の無台坏で、外面底部に「信續□」の墨書がみられる。Ⅵ₂期とした。1107は須恵器の無台坏である。焼成はやや不良で灰白色を呈し、外面の口縁部に降灰がみられる。Ⅵ₁期とした。1109は須恵器の無台坏で、外底面に墨書がある。内外面共に口縁部に重ね焼き痕がみられる。接合痕や、外面に板目上の圧痕もみえる。Ⅵ₂期とした。1110は須恵器の無台坏底部の小片である。青灰色を呈し、Ⅵ₂期の可能性がある。1111は須恵器の有台坏である。焼成は良好で灰色を呈する。Ⅴ期か。1112は須恵器の坏身で、口縁部に返しがある。外面に降灰がみられる。Ⅰ期と推定した。1204はP25から出土した柱根である。現存長31cm、最大幅11cm、最大厚8.8cmを測る。材はサクラ属の丸木である。1205はP51から出土した柱根で、現存長37.5cm、最大幅6.8cm、最大厚5.1cmを測る。クリの丸木で、一部にコゲがみえる。底部には穿孔痕がみられる。

第4節 溝

調査区全体で多数検出しており、遺物が出土した溝に対して遺構番号を付している。遺構番号のある溝のうち、報告段階で確認したのは59条で、土層断面図を第131～134図に示した。調査区内の分布状況としては、主にC区に集中する。特にC区の南側、グリッドLライン以南は耕作に伴う小溝が密に並んで畝溝状遺構を成しており、それらを溝SD53・SD54が切り込んで北東方向に横断している。西側の第6次調査B区上層と近似した分布状況である。以下、主な溝について記す。

溝(遺構：第131～134図、第69・70表、遺物：第136・137・139図、第71・72・76表)

SD40(遺構：第134図、遺物：第137図、第72表)

調査区西側を南北方向に流れ、南端は東側へと屈曲する溝である。屈曲部がSB03のP02・31に切られる。深さは10～20cmで埋土は二層に分かれ、上層が暗灰色粘質土で、下層は灰黄色粘質土に上層の土が混ざる。遺物は1123・1124を図示した。1123は須恵器坏で、外面に墨書がみられるが判読できない。1124は須恵器壺で、焼成は良好で硬質である。外面の一部に薄く降灰がみられる。

SD42(遺構：第134図)

調査区北西隅を東西方向に流れる、直線的な溝である。SK02を切り込み、P35に切られる。深さは4～12cmと浅く、灰色・灰褐色・灰黄褐色の粘質土を埋土とする。

第4節 溝

| 遺構名(報告書) | グリッド | 規模 (cm) | | | 方位 | 土色 | 性格 | 備考 |
|----------|--------------------|---------|-------|-------|------------|---------------|------|---------------|
| | | 長さ | 幅 | 深さ | | | | |
| 7C1SD01 | L-28,K-28 | 543~ | 26~39 | 5~13 | N-17° W | 第131図 | 耕作小溝 | SD53より古 |
| 7C1SD02 | L-28,K-28 | 1248~ | 24~41 | 9~15 | N-12° W | 第131図 | 耕作小溝 | SD53,54より古 |
| 7C1SD03 | L-28,K-28 | 1250~ | 17~34 | 7~17 | N-11° W | 第131図 | 耕作小溝 | SD53,54より古 |
| 7C1SD04 | L-28,K-28 | 1003~ | 15~29 | 7~12 | N-11° W | 第131図 | 耕作小溝 | SD46,53,54より古 |
| 7C1SD05 | L-28,K-28 | 1348~ | 23~33 | 6~13 | N-約9° W | 第131図 | 耕作小溝 | SD46,53,54より古 |
| 7C1SD06 | L-28,K-28 | 1143~ | 17~30 | 7~10 | N-9° W | 第131図 | 耕作小溝 | SD46,54より古 |
| 7C1SD07 | L-28,K-28 | 1068~ | 21~25 | 8~13 | N-9° W | 第131図 | 耕作小溝 | SD46,54より古 |
| 7C1SD08 | L-28,K-28 | 1157~ | 21~33 | 5~22 | N-約9° W | 第131図 | 耕作小溝 | SD46,54より古 |
| 7C1SD09 | L-28,K-28 | 1132~ | 10~26 | 6~22 | N-6° W | 第131図 | 耕作小溝 | SD46,54より古 |
| 7C1SD10 | L-28,K-28 | 1130~ | 17~32 | 6~15 | N-7° W | 第131図 | 耕作小溝 | SD46,54より古 |
| 7C1SD11 | L-28,K-28 | 1103~ | 17~35 | 8~18 | N-6° W | 第131図 | 耕作小溝 | SD46,54より古 |
| 7C1SD12 | L-28,L-29, K-29 | 1097~ | 14~29 | 6 | N-3°~10° W | 第131図 | 耕作小溝 | SD46,54より古 |
| 7C1SD13 | L-29,K-29 | 1087~ | 14~29 | 5~10 | N-6° W | 第131図 | 耕作小溝 | SD46,54より古 |
| 7C1SD15 | M-28,L-28 | 596 | 12~31 | 11~20 | N-3° W | 褐灰色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7C1SD16 | M-28,L-28 | 530 | 25~35 | 7~12 | N-3° W | 褐灰色粘質土(炭化物少量) | 耕作小溝 | |
| 7C1SD17 | M-28,L-28 | 516 | 28~43 | 5~12 | N-0° | 褐灰色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7C1SD18 | M-28 | 169 | 20~24 | 6~12 | N-8° E | 褐灰色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7C1SD19 | M-28 | 138 | 21~25 | 5~9 | N-6° W | 褐灰色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7C1SD20 | M-28 | 129 | 30~46 | 3~7 | N-約10° W | 褐灰色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7C1SD21 | M-28 | 415 | 21~35 | 7~18 | N-10° E | 褐灰色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7C1SD22 | M-28 | 405 | 15~24 | 8~10 | N-0° | 褐灰色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7C1SD23 | M-28 | 380 | 14~36 | 7 | N-8° E | 褐灰色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7C1SD24 | M-28 | 360 | 18~32 | 2~11 | N-3° E | 褐灰色粘質土 | 耕作小溝 | |
| 7D1SD25 | M-29 | 302 | 25~32 | 2~8 | N-8° E | 褐灰色粘質土 | 耕作小溝 | |

第69表 C・D・K区第1面溝規模等一覧表1

SD46 (遺構：第132・134図、遺物：第137図、第72表)

調査区南西隅からC区とK区の境まで、北東方向に横断する流路で、境付近でSD53・54と合流する。中央部で緩いS字状に流れを変え、後述の耕作に伴う小溝群を横断して切り込む。東側と西側の二地点、及びSD53・54との合流部で断面を図化している。淡灰色シルト・黄灰色砂質土・灰色粘質土の順に堆積しており、西側のみ最下層に灰白色粘質土がみられる。合流部では、SD53・54の埋土を、南端で切り込んでしていると推定する。遺物は1126・1127を図示したが、いずれもSD53・54との合流部から出土している。1126は、くの字状を呈する弥生土器の口縁部である。1127は口縁部に段をつくり、上部に擬凹線9条を配する甕で、弥生時代終末期と判断した。外面に煤が付着している。

SD53 (遺構：第132・134図、遺物：第137・139図、第72・76表)

C区を南西壁から北東方向に横断し、L-29杭付近でSD54・46と合流する流路である。幅は1.7m程、深さは1.02mを測る。表層には灰黄褐色粘質土が堆積し、その下には炭化物を含んだ褐灰～灰褐色粘質土が層状に累積する。断面図は東側・西側・合流部で計測しているが、西側より東側の方が炭化物を多く含んでいると思われる。遺物は1128～1135、木製品の1206～1208を図示した。1128は返しが付いた須恵器坏で、ヘラ記号がみられる。I期とした。1129は灰釉陶器の有台坏とみられる。1130～1132は順に土師器の小型高坏・台付鉢・高坏・有台坏である。1133は栗林式系の弥生土器の小片とみられる。1134・1135はSD54との合流部から出土した遺物である。1134は土師器の甕で、内外面共にヨコナデ・ハケ調整がみられる。古墳時代前期と推定した。1135は有段の口縁部に8条の擬凹線を描いた甕で、弥生時代終末期と判断した。1206はムクノキの丸木で、芯持ち材である。1207はスギの分割材、1208はスギの板目材で遺存長は137cmを測る。いずれも部材と思われるが、詳細は不明である。

SD54 (遺構：第132・134図、遺物：第137図、第72表)

SD53とSD46の間に位置し、C区を南西壁から概ね北西方向へ蛇行し、SD53・46と合流する流路である。合流する前の幅は0.7m程、深さは0.78mを測る。SD54と同様に表層には灰黄褐色粘質土が、その下には褐灰色・灰黄褐色粘質土が堆積する。さらに下層には灰白色粘質土がみられ、淡灰色砂質土が基調となる。東側の最下層では、還元がかかった青灰色の砂層がみられる。SD53との合流部では、SD53の埋土がSD54の埋土の上から堆積している。遺物は合流部を除き、1137・1138を図示した。1137は土師器の甕で、内外面が摩耗している。1138は小型高坏で、内外面共にミガキを施すが、摩耗がみられる。

SD99 (遺構：第133・134図、遺物：第139図、第76表)

主にK区を南北方向に流れ、M-30杭付近で西方向へ直角に流れを変えてSSD53・54の合流部に突き当たる流路である。D区とK区の境で、確認のためトレンチ掘削を行っている。幅は南北方向の地点では0.9m程度だが、流れを変えた後2.9m程に拡がり、深さも0.54mから1.02mに変わる。埋土は灰褐色～褐灰色粘質土から、下層はシルト・砂質土に変化する。遺物は木製品の1209・1210を図示した。共にスダジイを板目取りで使用し、杭状に加工している。上方部は炭化しており、下方部は先端を尖らせるように加工する。

耕作に伴う小溝(遺構：第131図、第69・70表、遺物：第136図、第71表)

SD01～27 (遺構：第134図、遺物：第137図、第72表)

調査区南西部に集中する小規模な溝群である。南北方向に向かって幅30cm強に切った溝が畝溝状に並んでおり、耕作に伴う小溝だと考えられる。他遺構との切り合いをみれば、南西方向から調査区中央に向かうSD46・53・54に斜めに切られている。埋土は淡灰褐～灰褐色の粘質土である。遺物は1113～1116を図示した。1113はSD03から出土した土師器の高坏、1114はSD06から出土した土師器甕の口縁部で、共に石英・長石の砂粒を含む。1115はSD07から出土した須恵器の無台坏で、焼成は良好で灰白色を呈し、外面の片側に降灰がみられる。VI₂期とした。1116はSD22から出土した須恵器壺の口縁部で、焼成は良好で黄灰色を呈する。

第5節 その他

その他の遺構(遺構：第135図)

N-27グリッドの噴射断面図を第135図に図示した。表層は暗褐灰色粘質土で、噴砂に落ち込んだ旧表土の可能性はある。遺物は確認していない。

表土・包含層の出土遺物(遺物：第137～139図、第72～76表)

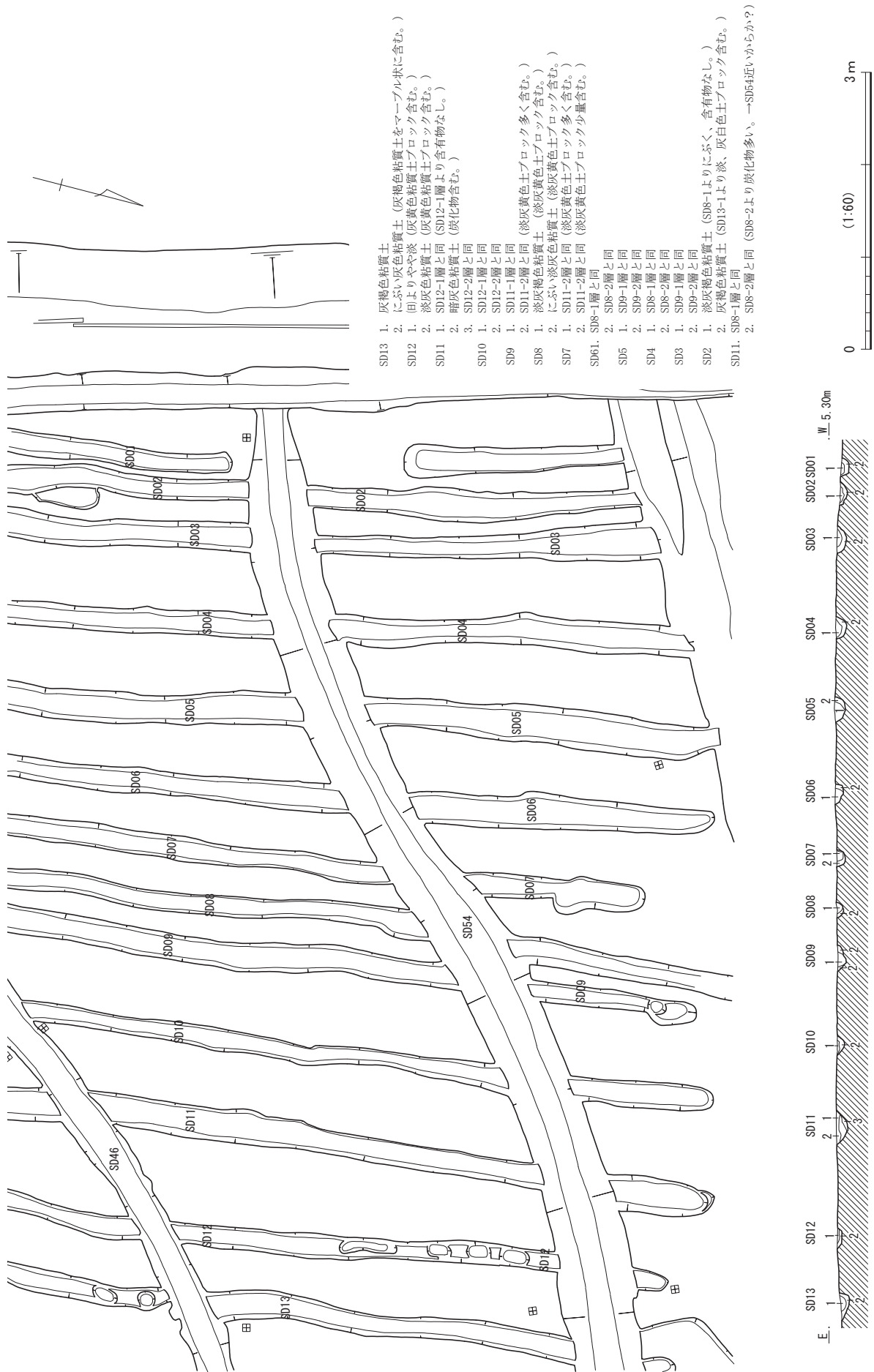
水田面から出土した1144・1145を第137図、表土から出土した1146～1174、第1面精査時の包含層から出土した1175～1177を第138図、検出面から出土した1178～1188を第138～139図、下層検出面出土と思われる1189～1194を第189図に図示した。1144は水田面出土の須恵器有台坏で、素地から鳥屋窯産と思われる。歪みがみられ、VI期とした。1145は水田面から出土した丸瓦である。以下、1146～1157は表土出土の土器である。1146は須恵器有台坏で、VI₁期か。1147は須恵器有台坏で、VI₂期とした。1148は須恵器の有台坏で、VI₁期か。1149は須恵器の有台坏で、内外面の口縁部に降灰がみられる。IV期か。1150は須恵器無台坏で、灰白色を呈し、外面口縁部に降灰がみられる。VI₂期とした。1151は須恵器無台坏で、内外面口縁部に降灰がみられる。VI₁期とした。1152は須恵器の無台坏で、外面口縁部に降灰がみられる。VI₁期とした。1153は須恵器無台坏で、灰白色を呈する。VI期か。1154も須恵器無台坏で灰白色を呈し、VI₂期とした。1155は須恵器無台坏で、外面底部に墨書がある。外面には板目圧痕が5

第5節 その他

| 遺構名(報告書) | グリッド | 規模(cm) | | | 方位 | 土色 | 性格 | 備考 |
|-----------|---------------------------------------|--------|--------|--------|---------------|---------------------|------|------------|
| | | 長さ | 幅 | 深さ | | | | |
| 7D1SD26 | M-29 | 310~ | 21~31 | 3~10 | N-8° E | 褐灰色粘質土 | 耕作小溝 | SD53より古 |
| 7C1SD27 | M-29 | 278~ | 28~35 | 3~7 | N-0° | 褐灰色粘質土 | 耕作小溝 | SD53より古 |
| 7C1SD28 | M-29 | 391 | 49~70 | 6 | N-0° | 褐灰色粘質土 | 不明 | |
| 7C1SD29 | M-29 | 28~ | 約18 | 6 | N-約8° W | 褐灰色粘質土 | 不明 | SD53より古 |
| 7C1SD33 | M-27,M-28 | 196 | 11~35 | 5~15 | N-80° W | 褐灰色粘質土 | 不明 | |
| 7C1SD34 | M-27 | 236 | 21~25 | 6~12 | N-8° E | 灰褐色粘質土 | 不明 | SD53より古 |
| 7C1SD35 | M-27 | 180 | 14 | 9 | N-3° E | 灰褐色粘質土 | 不明 | |
| 7C1SD36 | M-28 | 247 | 10~28 | 4~11 | N-88° E | 褐灰色粘質土 | 不明 | |
| 7C1SD37 | L-28 | 33~ | 約36 | 10 | N-18° W | 褐灰色粘質土 | 不明 | SD53より古 |
| 7C1SD38 | N-27 | 755 | 18~31 | 6~11 | N-9° W | 褐灰色粘質土 | 不明 | |
| 7C1SD39 | N-28 | 398 | 22~69 | 2~15 | N-4°~19° W | 褐灰色粘質土 | 不明 | |
| 7C1SD40 | N-27 | 約1130 | 20~24 | 10~20 | N-9°~59° E | 第134図 | 不明 | 湾曲 |
| 7C1SD42 | O-28,O-27 | 550 | 24~56 | 4~12 | N-79° E | 第134図 | 不明 | |
| 7C1SD43 | O-27,O-28 | 1113 | 36~71 | 3~11 | N-81°、N-52° E | 暗灰色粘質土と黄褐色粘質土混在 | 不明 | |
| 7C1SD44 | M-28 | 357 | 20~47 | 5 | N-約45° E | 灰褐色粘質土 | 不明 | |
| 7C1SD45 | O-28,N-28 | 441 | 約30 | 3~7 | N-16°~51° W | 暗褐色粘質土・褐灰色粘質土 | 不明 | 二度湾曲 |
| 7C1SD46 | K-28,L-28, L-29,L-30 | 2511~ | 23~61 | 23~42 | N-58° W,78° E | 第134図 | 不明 | SD53より古、湾曲 |
| 7C1SD47 | N-29,N-30, M-30 | 1410~ | 27~58 | 3~15 | N-66° E,9° W | 第134図 | 不明 | |
| 7C1SD48 | N-29 | 約620 | 42~63 | 7~17 | N-6° E | 褐灰色粘質土 | 不明 | |
| 7C1SD49 | O-29 | 342 | 22~34 | 2~8 | N-29° E | 灰色粘質土(黄灰色粘質土がブロック状) | 不明 | |
| 7C1SD51 | N-28 | 約121 | 22 | 3 | N-30° E | 褐灰色粘質土 | 不明 | |
| 7C1SD53 | L-28,M-28, M-29,M-30, L-30,L-29 | 2677~ | 約173 | 86~101 | N-49° W,64° E | 第134図 | 不明 | |
| 7C1SD54 | L-28,L-29, M-30,L-30 | 2213~ | 64~189 | 69~83 | N-84° W,78° E | 第134図 | 不明 | |
| 7C1SD97 | N-27 | 395 | 14~33 | 8~13 | N-8° E | 灰褐色粘質土 | 不明 | |
| 7C1SD98 | N-27,O-27 | 464 | 11~42 | 4~8 | N-86° W,77° E | 暗灰褐色粘質土、暗灰黄色粘質土 | 不明 | |
| 7D・K1SD99 | M-30,M-31, L-31 | 2590~ | 73~169 | 22~60 | N-58° E~20° W | 第133図 | 不明 | 湾曲 |
| 7D1SD100 | P-31,O-31, O-30 | 258~ | 32~53 | 4~22 | N-23° E | 褐灰色粘質土 | 不明 | |
| 7D1SD101 | O-31 | 261~ | 60~150 | 2~4 | N-約90° E | 褐灰色粘質土 | 不明 | |
| 7D1SD102 | P-31 | 75~ | 約40 | 3 | N-34° W | 褐灰色粘質土 | 不明 | |
| 7D1SD103 | O-31 | 283~ | 約24 | 4~6 | N-5° W | 褐灰色粘質土 | 不明 | |
| 7D1SD105 | O-31 | 88~ | 約38 | 3 | N-約90° W | 褐灰色粘質土 | 不明 | |
| 7D1SD106 | P-31 | 約859 | 約435 | 1~3 | N-約0° W | 褐灰色粘質土 | 不明 | |
| 7D1SD107 | O-30,O-31, P-30,P-31 | 約420 | 約53 | 3~6 | N-約20° E | 褐灰色粘質土 | 不明 | |
| 7D1SD108 | O-30 | 266 | 18~24 | 4 | N-85° W | 褐灰色粘質土 | 不明 | |
| 7D1SD109 | N-30 | 523 | 49~60 | 2~3 | N-27° E~84° W | 褐灰色粘質土 | 不明 | 湾曲 |

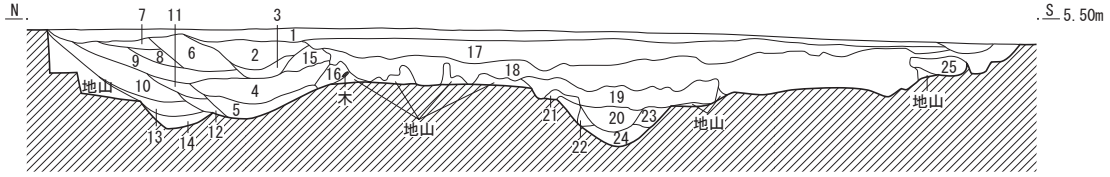
第70表 C・D・K区第1面溝規模等一覧表2

本みられる。VI期とした。1156は須恵器の有台皿で、内外面に降灰がみられる。VI₂期か。1157は須恵器の皿で、灰白色を呈する。VI₂期とした。1175は第1面精査時に包含層から出土した須恵器無台坏で、灰白色を呈する。口縁の一部に炭化物が付着している。VI期とした。以下、1178・1180~1182は検出面から出土している。1178は須恵器有台坏で、IV期か。1180~1182は須恵器の坏身で、いずれも口縁部に返しがある。I期と置く。続いて1190~1193は下層検出面出土と考えられる。1190は須恵器蓋で、歪みがあり、内面に墨痕がみられる。VI期とした。1191~1193は須恵器の坏身で、返しがあり、黄色灰~灰、灰白色を呈する。I期とした。



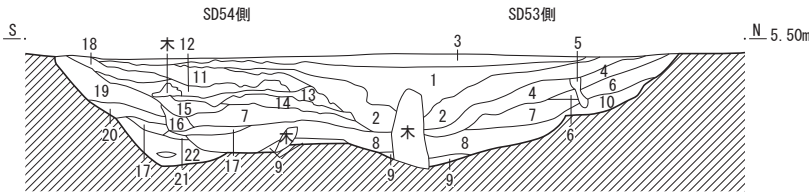
第131図 C・D・K区第1面溝平面図・土層断面図1 (S=1/60)

SD46,53,54合流部

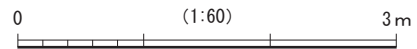


1. にぶい黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
2. にぶい黄褐色粘質土 (やや暗い、黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)
3. 灰黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
4. 灰褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)
5. 灰褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)(黒色土がブロック状に混じる。埋め戻した感じ。)
6. 灰白色シルト質土 (黄褐色シルト質土粒含む。炭化物少量含む。)
7. 灰白色シルト質土 (やや明るい、黄褐色シルト質土粒含む。)
8. 灰白色砂質土 (黄褐色砂質土粒含む。)
9. 褐色砂質土 (黄褐色砂質土粒含む。)
10. 褐色砂質土 (やや明るい、黄褐色砂質土粒含む。)
11. 灰褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
12. 青灰色砂質土 (黄褐色砂質土粒少量含む。)
13. 明青灰色砂質土 (有機物含む。)
14. 青灰色砂質土 (やや暗い、有機物含む。)
15. 灰白色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
16. にぶい黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
17. 灰褐色粘質土 (やや明るい、黄褐色粘質土粒含む。)
18. 灰褐色粘質土 (やや明るい、黄褐色粘質土粒含む。)(ひっくり返した感じ。灰白色砂質土がブロック状にところどころ混じる。)
19. 褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。明黄褐色砂質土、灰褐色粘質土層が波状に混じる。)
20. 灰色シルト質土 (炭化物含む。明黄褐色砂質土と互層をなす。)
21. 青灰色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
22. 灰色シルト質土 (やや暗い、炭化物含む。)
23. 緑灰色砂質土 (明黄褐色砂質土と互層をなす。)
24. 灰褐色粘質土
25. 明黄褐色砂質土

SD53,54合流部

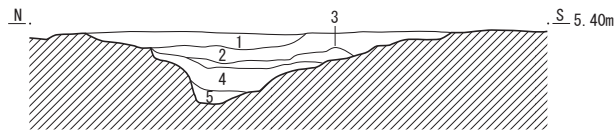


1. 灰黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
2. にぶい黄褐色砂質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
3. にぶい黄褐色粘質土 (褐色粘質土粒含む。)
4. 灰黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物微量含む。SD7153 (東側)の4層と似てる。)
5. 褐色粘質土 (やや暗い、黄褐色粘質土粒含む。)
6. にぶい黄褐色シルト質土 (黄褐色シルト質土粒含む。)
7. 灰褐色砂質土 (やや明るい、炭化物含む。)
8. 灰褐色砂質土 (炭化物含む。)
9. 褐色砂質土 (炭化物含む。)
10. 灰白色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
11. 褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物微量含む。SD7154 (東側)の2層と似てる。)
12. にぶい黄褐色シルト質土 (黄褐色シルト質土粒含む。炭化物微量含む。)
13. 灰黄褐色シルト質土 (黄褐色シルト質土粒含む。)
14. 褐色シルト質土 (黄褐色シルト質土粒含む。炭化物微量含む。)
15. 褐色粘質土 (やや明るい、黄褐色粘質土粒含む。炭化物微量含む。)
16. 灰白色砂質土 (黄褐色砂質土粒含む。炭化物少量含む。)
17. 灰白色砂質土 (やや明るい、黄褐色砂質土粒少量含む。炭化物少量含む。)
18. 明褐色砂質土 (黄褐色砂質土粒含む。炭化物含む。)
19. 明黄褐色砂質土 (黄褐色砂質土粒含む。)
20. 灰黄褐色砂質土 (黄褐色砂質土粒含む。)
21. 灰白色砂質土 (やや暗い、黄褐色砂質土粒少量含む。)
22. 灰白色砂質土 (炭化物多量含む。)



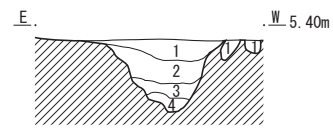
第132図 C・D・K区第1面溝土層断面図2 (S=1/60)

SD99(西から)



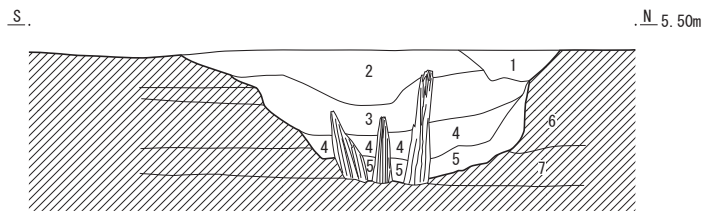
1. 灰褐色粘質土
2. 褐灰色粘質土
3. 黒色炭層
4. 灰白色粘質土 (粘性やや強い。)
5. 灰白色粘質土 (やや明るい。粘性やや強い。)

SD99(北から)



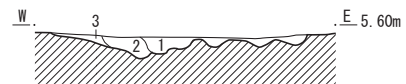
1. 灰褐色粘質土 (下方に炭層あり。)
2. 灰白色粘質土 ((田より砂混じる。))
3. 青灰色シルト質土 (炭化物含む。)
4. 青灰色砂質土 (炭化物含む。)

SD99

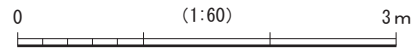


1. 褐灰色粘質土 (明黄褐色粘質土粒含む。)
2. 明褐灰色粘質土 (明黄褐色粘質土粒含む。)
3. にぶい黄橙色粘質土 (明黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)
4. 灰白色粘質土 (やや明るい。明黄褐色粘質土粒含む。)
5. 褐灰色砂質土 (明黄褐色砂質土粒含む。)
6. 灰黄色砂質土 (明黄褐色砂質土粒含む。)
7. 灰黄褐色砂質土 (明黄褐色砂質土粒含む。炭化物含む。)

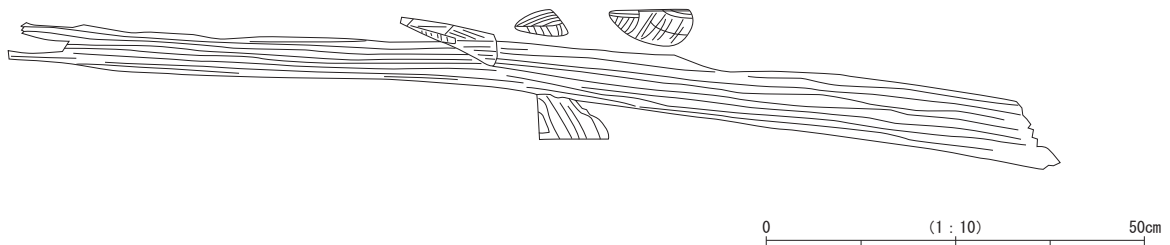
SD100(南から)



1. 灰褐色粘質土
2. 灰黄褐色粘質土
3. 明褐灰色粘質土



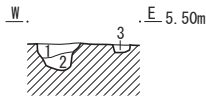
SD99平面図(遺物出土状況)



第133図 C・D・K区第1面溝平面図・土層断面図3 (S=1/60・1/20)

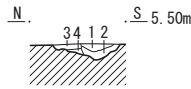
第5節 その他

SD40



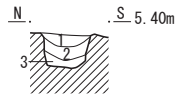
1. 暗灰色粘質土 (淡灰色粘質土・暗褐色粘質土をパッチ状に含む。炭化物含む。)
2. 灰黄色粘質土 (1層をブロック状に含む。)
3. 褐灰色粘質土 (暗褐色粘質土含む。)

SD42



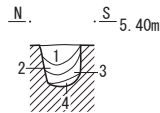
- SD42
1. にぶい灰色粘質土 (炭化物含む。)
2. 淡灰褐色粘質土 (灰黄色粘質土ブロック含む。)
3. 灰褐色粘質土
4. にぶい灰黄色粘質土

SD46(東側)



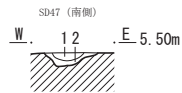
1. 灰色粘質土
2. 黄灰色砂質土 (黄褐色砂含む。)
3. 淡灰色シルト (黄褐色砂含む。)

SD46(西側)



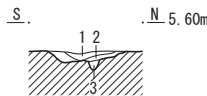
1. 灰色粘質土
2. 黄灰色砂質土 (黄褐色砂含む。)
3. 淡灰色シルト (黄褐色砂含む。)
4. 灰白色粘質土 (灰色粘土ブロック少量含む。)

SD47(南側)



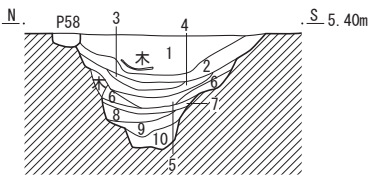
- SD47 (南側)
1. 暗灰褐色粘質土
2. 暗灰褐色粘質土 (淡灰黄色粘質土ブロック含む。)

SD47



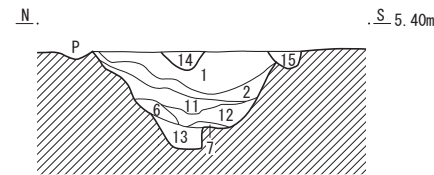
1. 暗灰褐色粘質土
2. 暗灰褐色粘質土 (1層よりにぶい。淡灰褐色粘質土含む。)
3. 暗褐色粘質土

SD53(東側)



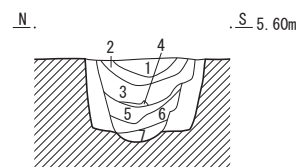
1. 灰黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
2. にぶい黄褐色砂質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
3. にぶい黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
4. 灰黄褐色粘質土 (やや暗い。黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)
5. 褐灰色粘質土 (黄褐色粘質土粒少量含む。炭化物少量含む。)
6. 灰褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)
7. 灰褐色砂質土 (やや明るい。炭化物含む。)
8. 灰褐色砂質土 (炭化物含む。)
9. 褐灰色砂質土 (炭化物含む。)
10. 灰褐色粘質土 (やや暗い。炭化物含む。)

SD53(西側)



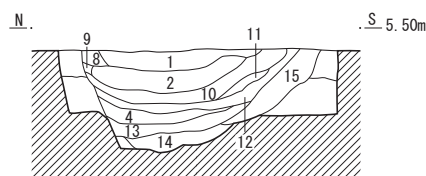
1. 灰黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
2. にぶい黄褐色砂質土 (黄褐色粘質土粒含む。)
6. 灰褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)
7. 灰褐色砂質土 (やや明るい。炭化物粒含む。)
11. 褐灰色粘質土 (やや暗い。黄褐色粘質土粒含む。)
12. 褐灰色粘質土 (黄褐色粘質土粒少量含む。)
13. 灰白色粘質土 (炭化物含む。褐灰色砂質土ブロック含む。)
14. 灰黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。6次調査から続くSD (北西～南東へ流れる) 部分。)
15. 明褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。SD7105。)

SD54(西側)

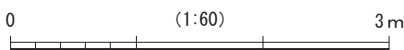


1. 灰黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)
2. 褐灰色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物多く含む。)
3. 灰黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物含む。)
4. 灰白色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)
5. 灰黄褐色砂質土 (黄褐色砂質土粒含む。炭化物少量含む。)
6. 褐灰色砂質土 (やや明るい。黄褐色砂質土粒含む。炭化物少量含む。)
7. 褐灰色砂質土

SD54(東側)

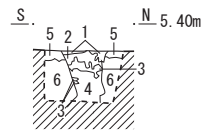


1. 灰黄褐色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)
2. 褐灰色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物多く含む。)
4. 灰白色粘質土 (黄褐色粘質土粒含む。炭化物少量含む。)
8. 淡茶灰色砂質土
9. 暗茶灰色砂質土
10. 淡灰色砂質土
11. 淡茶灰色砂質土 (粘性ずれる。)
12. 淡茶灰色砂質土
13. 青灰色砂質土 (茶灰色粘質土と互層をなす。有機物多量に含む。)
14. 青灰色砂 (茶灰色粘質土と互層をなす。13層よりあらい。)
15. 灰白色砂質土

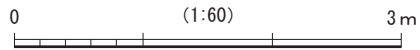


第134図 C・D・K区第1面溝土層断面図4 (S=1/60)

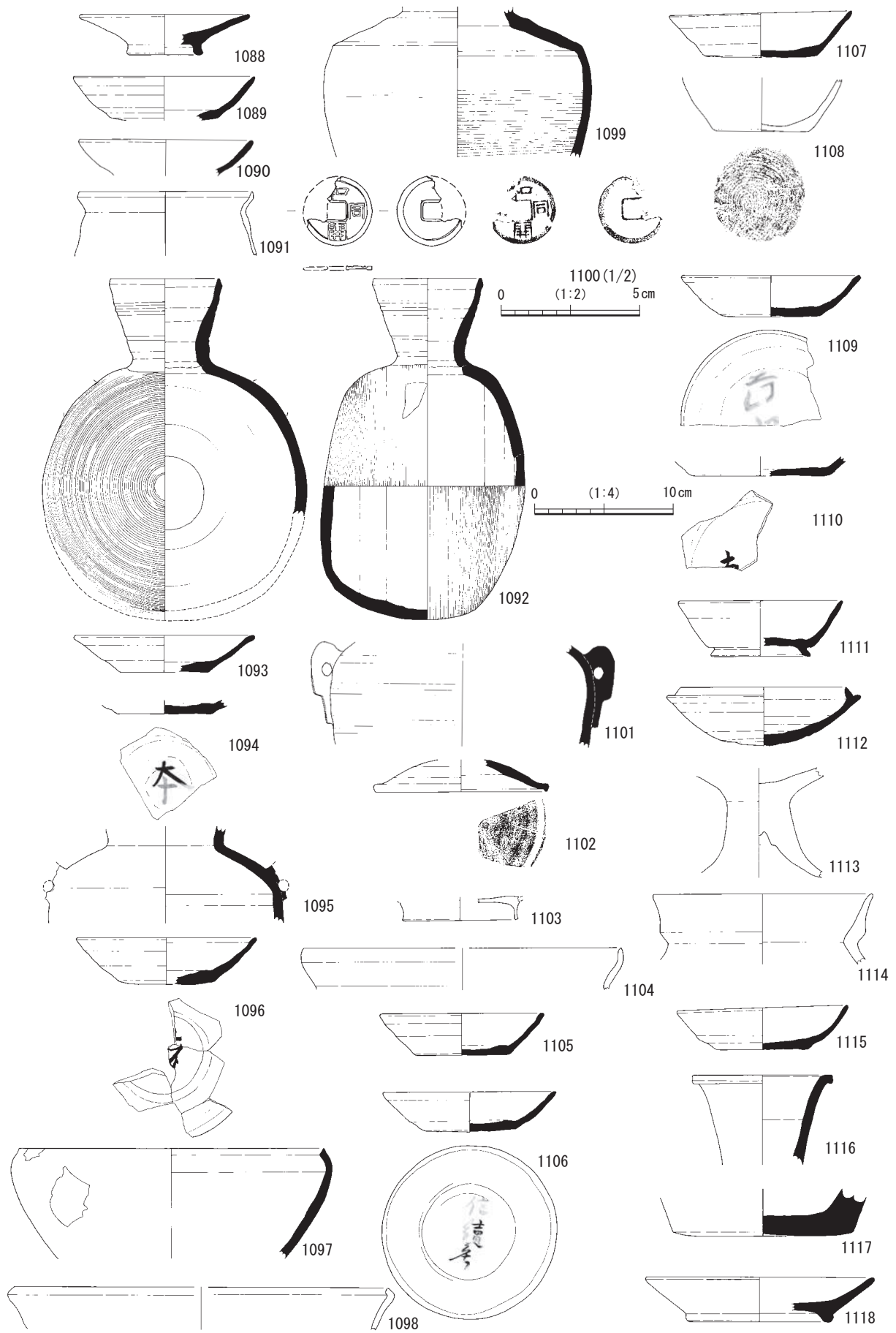
N27墳砂



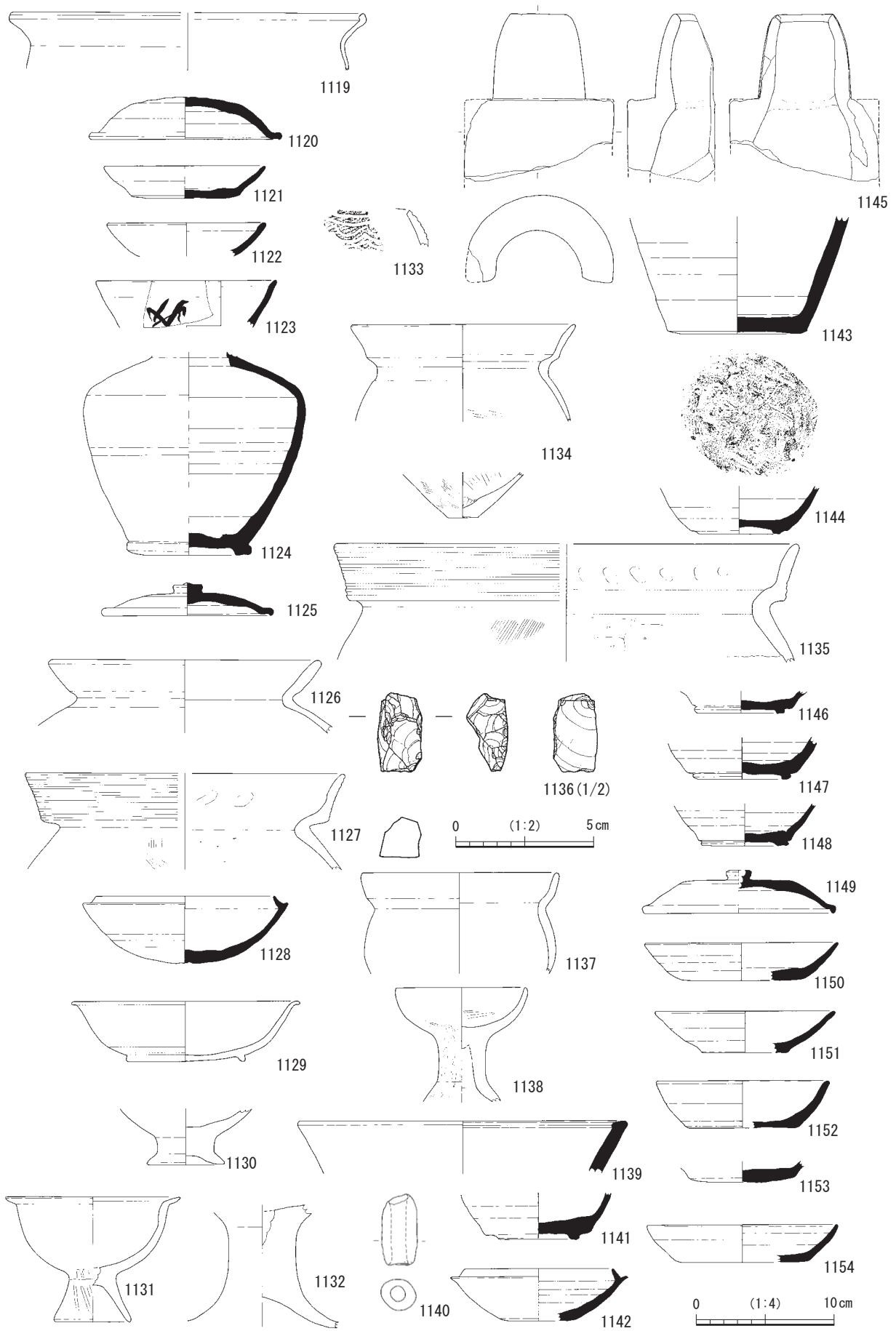
1. 暗褐色粘質土 (墳砂中に落ち込んだ旧表土?)
2. 淡灰黄色粘質土 (細砂含む。)
3. 灰褐色粘質土 (灰白色細砂含む。)
4. 淡灰色細砂 (粘土含む。)
5. 灰黄色粘質土
6. 淡灰黄色粘質土 (細砂含む。)



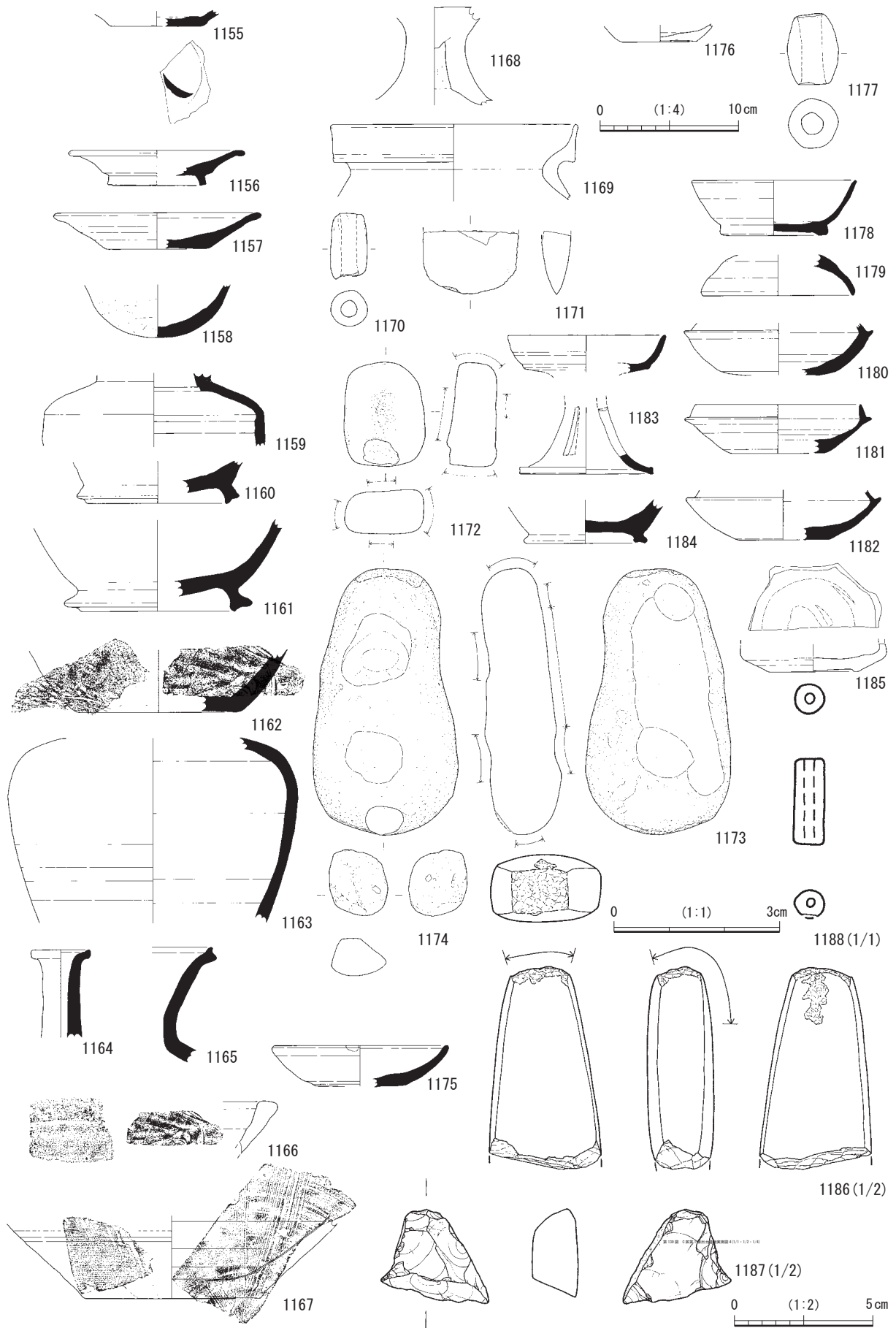
第135図 C・D・K区第1面噴砂土層断面図(S=1/60)



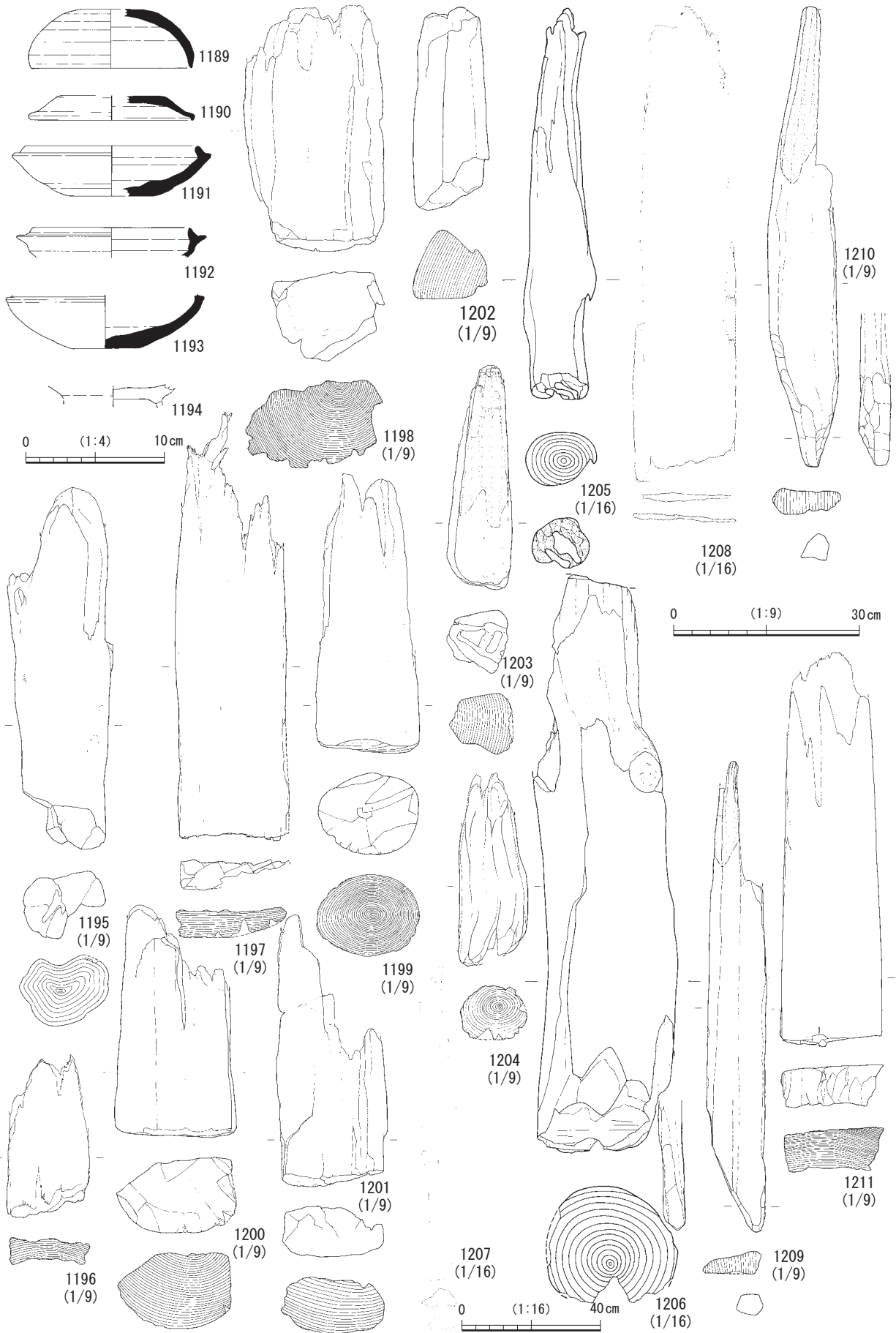
第136図 C区第1面出土遺物実測図1 (S=1/2・1/4)



第137図 C区第1面出土遺物実測図2 (S=1/2・1/4)



第138図 C区第1面出土遺物実測図3(S=1/1・1/2・1/4)



第139図 C区第1面出土遺物実測図4 (S=1/4・1/9・1/16)

※ () は残存法量を示す。

| 横図 番号 | 番号 | 出土遺構 (報告) | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 時期 | 測 番号 |
|----------|------|-------------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|-------------|-------|--------------|------------|-----------------|------------------|------------------|------------------------------------|----------------------------------|---------|
| 136 | 1088 | 7C1SB01 (P160) | 須恵器 有台坏 | 須恵器 有台坏 | 12.2 | 5.6 | 2.9 | 灰 | 灰 | D-b | 良 | 口クロナデ 回転ヘラ切り | 口クロナデ、 回転ヘラ切り | 口8/36 底14/36 | 外面降灰 | VI ₂ | D-067 |
| 136 | 1089 | 7C1SB01 (P83) | 須恵器 無台坏 | 須恵器 無台坏 | 13.1 | - | - | 灰白 | 灰白 | D-b | 不良 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口14/36 底12/36 | | VI ₁ | D-027 |
| 136 | 1090 | 7C1SB01 (P83) | 須恵器 坏 | 須恵器 坏 | 12.6 | - | - | 灰白 | 灰 | | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口11/36 | 外面降灰 | VI ₁ | D-028 |
| 136 | 1091 | 7C1SB01 (P57) | 土師器 甕 | 土師器 甕 | 12.6 | - | - | にぶい橙~ 褐灰 | 橙 | | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口16/36 | 外面一部スチ付着 | | D-034 |
| 136 | 1092 | 7C1SB02 (P54)・ 7C1SK06,同掘方 | 須恵器 提瓶 | 須恵器 提瓶 | 7.8 | - | 24.7 | 灰 | 灰 | | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ、カキメ | 口29/36 | 外面降灰 | | D-021 |
| 136 | 1093 | 7C1SB03 (P01) | 須恵器 無台坏 | 須恵器 無台坏 | 13.0 | 6.6 | 2.6 | 灰 | 灰 | D-b | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り | 口12/36 底13/36 | 口縁重ね焼き痕有り | VI ₂ | D-031 |
| 136 | 1094 | 7C1SB03 (P01) | 須恵器 無台坏 | 須恵器 無台坏 | (接) 6.6 | (1.0) | 灰白 | 灰白 | X-bか | | 還硬 | 回転ナデ | 回転ナデ、回転ヘラ切り | 底12/36 | 外面降灰、内面墨書「本」 | VI ₁ ~VI ₂ | 墨28 |
| 136 | 1095 | 7C1SB03 (P01) | 須恵器 瓶 | 須恵器 瓶 | - | - | - | 灰 | 灰 | D-b | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ | - | 外面降灰 | | D-051 |
| 136 | 1096 | 7C1SB03 (P02) 掘方 | 須恵器 無台坏 | 須恵器 無台坏 | 12.8 | 7.2 | 3.4 | 灰 | 灰 | X-bか | 還硬 | 回転ナデ | 回転ナデ、回転ヘラ切り | 口3/36 底15/36 | 外底面墨書 | VI ₂ | 墨05 |
| 136 | 1097 | 7C1SB03 (P02) | 須恵器 鉢鉢 | 須恵器 鉢鉢 | 22.0 | - | - | 灰白 | 灰 | | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口5/36 | 漆痕、重ね焼き痕有り | | D-033 |
| 136 | 1098 | 7C1SB03 (P03) | 土師器 甕 | 土師器 甕 | (27.0) | - | - | 浅黄橙 | 浅黄橙 | | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口5/36 | | | D-035 |
| 136 | 1099 | 7C1SB03 (P27) 北西隅, 同掘方 | 須恵器 瓶 | 須恵器 瓶 | - | - | - | 灰 | 灰 | D-b | 良 | 口クロナデ、カキメ | 口クロナデ | - | | | D-030 |
| 136 | 1101 | 7C1P05 | 須恵器 瓶 | 須恵器 瓶 | - | - | - | 灰 | 灰 | D-b | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ、カキメ | - | | | D-218 |
| 136 | 1102 | 7C1P19 | 須恵器 蓋 | 須恵器 蓋 | 12.4 | - | - | 灰 | 灰 | | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ、ケズリ | 口5/36 | 内面に墨痕か 外面重ね焼き痕 | IV~V | D-041 |
| 136 | 1103 | 7C1P41 | 土師器 有台坏 | 土師器 有台坏 | - | 8.0 | - | 黒 | 灰白 | b-3 | 良 | 摩耗 | ナデ | 底5/36 | 内黒 | | D-216 |
| 136 | 1104 | 7C1P42 | 土師器 甕 | 土師器 甕 | (23.0) | - | - | にぶい黄橙 | 浅黄橙 | b-4 | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口3/36 | | | D-217 |
| 136 | 1105 | 7C1P43 | 須恵器 無台坏 | 須恵器 無台坏 | 11.8 | 7.1 | 3.0 | 灰白 | 灰白 | E-b | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り | 口7/36 底17/36 | | VI ₂ | D-042 |
| 136 | 1106 | 7C1P43 | 須恵器 無台坏 | 須恵器 無台坏 | 12.2 | 6.7 | (2.9) | 青灰、灰白 | 青灰、灰白 | D-b | 還硬 | 回転ナデ | 回転ナデ、回転ヘラ切り | 完形 | 外底面墨書(黒線口)、内外口辺部 重ね焼き痕あり、内外面漆付着 | VI ₂ | 墨04 |
| 136 | 1107 | 7C1P52 | 須恵器 無台坏 | 須恵器 無台坏 | 13.1 | 8.0 | 3.4 | 灰白 | 灰白 | D-b | やや不良 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り | 口29/36 底36/36 | 外面口縁降灰 | VI ₁ | D-029 |
| 136 | 1108 | 7C1P52 | 土師器 甕 | 土師器 甕 | - | 7.0 | - | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | b-4 | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転糸切り | 底36/36 | | | D-043 |
| 136 | 1109 | 7C1P61 | 須恵器 無台坏 | 須恵器 無台坏 | 12.8 | 7.4 | 3 | 灰 | 灰 | X-b | 還硬 | 回転ナデ | 回転ナデ、回転ヘラ切り | 口11/36 底14/36 | 外底面墨書、内外口辺部重ね焼き痕、 接合痕あり、外面板目圧痕 | VI ₂ | 墨02 |
| 136 | 1110 | 7C1P69 | 須恵器 無台坏 | 須恵器 無台坏 | - | 10.0(推) | 92 | 青灰 | 青灰 | D-b | 還硬 | 回転ナデ | 回転ナデ、回転ヘラ切り | 底 小片 | | VI ₂ か | 墨03 |
| 136 | 1111 | 7C1P97 | 須恵器 有台坏 | 須恵器 有台坏 | 11.8 | 7.2 | 4.0 | 灰 | 灰 | D-b | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り | 口14/36 底17/36 | | V | D-026 |
| 136 | 1112 | 7C1P171 | 須恵器 坏身 | 須恵器 坏身 | 12.0 | - | 4.2 | 灰白 | 灰 | | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り | 口3/36 | 外面降灰 | I | D-018 |
| 136 | 1113 | 7C1SD03 | 土師器 高坏 | 土師器 高坏 | - | - | (7.8) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-3 S・M・L | 良 | ケズリ、ナデ | ミガキ?、磨耗 | - | | | C-03 |
| 136 | 1114 | 7C1SD06 | 土師器 甕口縁 | 土師器 甕口縁 | 15.6 | - | (5.0) | にぶい黄橙 | にぶい橙 | b-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ケズリ、磨耗 | ヨコナデ、磨耗 | 口3/36 | | | C-04 |
| 136 | 1115 | 7C1SD07 | 須恵器 無台坏 | 須恵器 無台坏 | 12.2 | 6.9 | 3.2 | 灰白 | 灰白 | D-b | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ、回転ヘラ切り | 口20/36 底20/36 | 外面片側降灰 | VI ₂ | D-025 |
| 136 | 1116 | 7C1SD22 | 須恵器 甕口縁 | 須恵器 甕口縁 | 10.0 | - | 6.4 | 黄灰 | 黄灰 | | 良 還軟 | 口クロナデ | 口クロナデ | 11/36 | | | D-013 |
| 136 | 1117 | 7C1SD28 | 須恵器 瓶 | 須恵器 瓶 | - | 13.2 | - | 灰 | 灰 | D-b | 良 | 口クロナデ、ケズリ | ナデ、ケズリ | 底15/36 | 内面降灰 | | D-220 |
| 136 | 1118 | 7C1SD33 | 須恵器 有台皿 | 須恵器 有台皿 | 16.5 | 10.8 | 3.2 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | D-a | やや不良 還軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、ナデ | 口5/36 底19/36 | 内外面とも磨耗 | VI | D-007 |
| 137 | 1119 | 7C1SD34 | 土師器 甕 | 土師器 甕 | (25.4) | - | - | にぶい黄橙 | 浅黄橙 | - | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ | 口2/36 | | | D-219 |

第71表 C・D・K区第1面出土土器観察表1

※ () は残存法量を示す。

| 補図番号 | 番号 | 出土遺構(報告) | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 時期 | 実測番号 |
|------|------|--------------------------|------|------|---------|---------|--------------------|-------|-------|--------------|------------|-------------|----------------------|------------------|------------------|-------------------|-------|
| 137 | 1120 | 7C1SD39 | 須恵器 | 蓋 | 13.7 | - | 3.1 | 灰 | 灰 | | 良 還硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、回転ヘラ切り | 14/36 | | VI ₂ | D-010 |
| 137 | 1121 | 7C1SD39 | 須恵器 | 坏 | 11.8 | 8.0 | 2.4 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | | やや不良 腰軟 | ロクロナデ | ロクロナデ、回転ヘラ切り | 底13/36 | | VI ₁ | D-009 |
| 137 | 1122 | 7C1SD39 7C1SD20 | 須恵器 | 無台坏 | 11.4 | - | - | 灰 | 灰 | D-b | 良 | ロクロナデ | 内面降灰、外面口縁降灰、 | 口8/36 | | VI | D-221 |
| 137 | 1123 | 7C1SD40 | 須恵器 | 坏 | 13 | - | (3.4) | 灰 | 灰 | D-bか | 還硬 | 回転ナデ | 回転ナデ | 口3/36 | | | 遺01 |
| 137 | 1124 | 7C1SD40 | 須恵器 | 壺 | - | 9.0 | (14.7) | 灰 | 灰 | D-a | 良 還硬 | ロクロナデ、ナデ | ロクロナデ、ナデ | 底36/36 | 外面一部薄く降灰 | | D-006 |
| 137 | 1125 | 7C1SD44 | 須恵器 | 蓋 | 12.1 | つまみ径22 | (2.3) | 灰 | 灰 | - | 良 還硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、ケズリ | 3/36 | 内面に黒痕? | IV ₂ か | D-008 |
| 137 | 1126 | 7C1SD46・53・54合流部 | 土師器 | 甕 | 19.1 | - | (5.3) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 S・M | 良 | 磨耗 | ヨコナデ、磨耗 | 口6/36 | | | C-05 |
| 137 | 1127 | 7C1SD46・53・54合流部 | 土師器 | 甕 | 23.0 | - | (7.0) | にぶい橙 | 灰黄褐 | a-4 S・M | 良 | ナデ、ケズリ、指頭圧痕 | ナデ、ハケ、縦凹線(9条) | 口2/36 | 外面煤付着 | 弥生・終末 期 | C-703 |
| 137 | 1128 | 7C1SD53 | 須恵器 | 坏 | 13.0 | - | 4.9 | 灰白 | 灰白 | - | 良 還軟 | ロクロナデ | ロクロナデ、ケズリ、ハケ | 口3/36 | ヘラ記号有り | I | D-011 |
| 137 | 1129 | 7C1SD53 表土 | 灰釉 | 有台坏 | 16.2 | 8.4 | 4.3 | 灰釉 | 灰白 | - | 良 | 灰釉つけがけか | ロクロナデ、ケズリ、回転 ヘラ切り | 口1/36 底13/36 | | | D-052 |
| 137 | 1130 | 7C1SD53 | 土師器 | 小型蓋坏 | 9.6 | 7.6 | 4.4 | 橙 | 橙 | b-3 S・M・L | 良 | 磨耗 | 磨耗 | 口2/36 底36/36 | | | C-02 |
| 137 | 1131 | 7C1SD53 | 土師器 | 台付鉢 | 12.6 | 5.4 | 9.0 | 橙、黒 | 橙、黒 | a-3 S・M・L | 良 | ナデ、磨耗 | 磨耗、ミガキ | 口3/36 底18/36 | 内外面赤彩 | | C-01 |
| 137 | 1132 | 7C1SD53 | 土師器 | 高坏 | - | (11.3) | 9.0 | 黒 | にぶい黄橙 | a-3 S・M・L | 良 | ナデ | 磨耗 | - | | | C-10 |
| 137 | 1133 | 7C1SD53 | 弥生土器 | 小片 | - | - | - | 灰黄褐 | 灰黄褐 | 細砂・粗砂 少 | 良 | ナデ | 沈線、縄文 | - | | | D-012 |
| 137 | 1134 | 7C1SD53・54合流部 7C1SD53 | 土師器 | 甕 | 16.2 | 2.2 | 口縁(7.0) 底径(3.4) | 褐灰 | 灰黄褐 | b-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ハケ、磨耗 | ヨコナデ、ハケ、磨耗 | 口3/36 底36/36 | 内外面磨耗 | 古墳・前 期 | C-07 |
| 137 | 1135 | 7C1SD53・54合流部 | 土師器 | 甕 | (33.4) | - | (8.6) | 灰黄 | 灰黄 | b-3 S・M | 良 | ヨコナデ、ケズリ | 縦凹線8条、ヨコナデ、ハ ケ | 5/36 | 内外面赤彩 | 弥生・終末 期 | C-06 |
| 137 | 1137 | 7C1SD54 | 土師器 | 小甕 | 14.2 | - | (7.3) | 橙 | 橙 | a-3 S・M・L | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ? | 6/36 | 内外面磨耗 | | C-08 |
| 137 | 1138 | 7C1SD54 7C1SD53 | 土師器 | 小型蓋坏 | (9.4) | - | (6.3) | にぶい橙 | にぶい橙 | b-3 S・M | 良 | ミガキ、ケズリ | ミガキ | 口1/36 | 内外面磨耗 | | C-09 |
| 137 | 1139 | 7C1SK04 | 須恵器 | 甕 | 23.6 | - | - | 灰 | 灰 | C-b | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ | 口5/36 | 内面降灰 | | D-045 |
| 137 | 1140 | 7C1SK04 | 土師器 | 土鉢 | 最大長5.2 | 最大幅2.6 | 孔径1.1 | - | - | - | - | - | - | - | 高さ2.3cm、重さ27.96g | | D-047 |
| 137 | 1141 | 7C1SK05 | 須恵器 | 有台坏 | - | 5.6 | - | 灰白 | 灰白 | D-b | やや甘い | ロクロナデ | ロクロナデ、回転ヘラ切り | 底36/36 | | VI ₁ | D-215 |
| 137 | 1142 | 7C1SK05 | 須恵器 | 坏身 | 10.8 | 5.8 | 3.75 | 灰 | 灰 | A-b | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ、ヘラ切り | 口6/36 底9/36 | 外面降灰 | I | D-024 |
| 137 | 1143 | 7C1SK06 | 須恵器 | 底部 | - | 10.2 | (13.5) | 灰 | 灰 | D-a | 良 還硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、ナデ | 底36/36 | 底部ヘラ記号 | | D-023 |
| 137 | 1144 | 水田面 | 須恵器 | 有台坏 | - | 6.0 | (3.5) | 黄灰 | 黄灰 | F-a | 良 還硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | 20/36 | ゆがみあり | VI | D-001 |
| 137 | 1145 | 水田面 | - | 丸瓦 | 最大長12.2 | 最大幅10.8 | 最大厚2.5 | 灰 | 灰 | - | - | - | - | - | | | D-002 |
| 137 | 1146 | 表土 | 須恵器 | 有台坏 | - | 6.4 | - | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、回転ヘラ切り | 底36/36 | | VI ₁ か | D-191 |
| 137 | 1147 | 表土 | 須恵器 | 有台坏 | - | 7.2 | - | 灰白 | 灰 | D-b | 還硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、回転ヘラ切り | 底9/36 | | VI ₂ | D-193 |
| 137 | 1148 | 表土 | 須恵器 | 有台坏 | - | 6.3 | - | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、回転ヘラ切り | 底22/36 | | VI ₁ か | D-198 |
| 137 | 1149 | 表土 | 須恵器 | 蓋 | 13.8 | つまみ径1.9 | 3.1 | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、 ケズリ | 6/36 | 内外面口縁降灰 | IVか | D-137 |
| 137 | 1150 | 表土 | 須恵器 | 無台坏 | 13.9 | 8.7 | 2.7 | 灰白 | 灰白 | D-b | 還硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、 回転ヘラ切りナデ | 口12/36 底12/36 | 外面口縁降灰 | VI ₂ | D-065 |
| 137 | 1151 | 表土 | 須恵器 | 無台坏 | 13.1 | 6.4 | 3.0 | 灰 | 灰 | D-b | 還硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、 回転ヘラ切り | 口7/36 底10/36 | 内外面口縁降灰 | VI ₁ | D-066 |

第72表 C・D・K区第1面出土土器観察表2

※ ()は残存法量を示す。

| 挿図番号 | 番号 | 出土遺構(報告) | 種類 | 器種 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 時期 | 変測番号 |
|------|------|----------|-----|-----|--------|--------|--------|------|-------|------|----|-------|------------|--------|-------------|----|-------|
| 139 | 1190 | 下面検出面 | 須恵器 | 蓋 | 11.6 | - | - | 灰 | 灰白 | - | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ、ケズリ | 口5/36 | ゆがみ有り、内面に墨痕 | VI | D-046 |
| 139 | 1191 | 下面検出面 | 須恵器 | 坏身 | 12.4 | - | (3.6) | 黄灰 | 灰 | D-a | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ、ケズリ | 4/36 | | I | D-352 |
| 139 | 1192 | 下面検出面 | 須恵器 | 坏身 | 11.3 | - | (2.2) | 灰 | 黄灰 | F-a | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ | 8/36 | | I | D-350 |
| 139 | 1193 | 下面検出面 | 須恵器 | 坏身 | - | - | - | 灰白 | 灰 | A-b | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ、板目瓦痕 | 底20/36 | | I | D-015 |
| 139 | 1194 | 下面検出面 | 土師器 | 有台坏 | - | - | - | 黒 | にぶい黄橙 | b-3 | 良 | 摩耗 | 摩耗 | - | 内黒 | | D-032 |

第74表 C・D・K区第1面出土土器観察表4

※ ()は残存法量を示す。

| 挿図番号 | 遺物番号 | グリッド | 出土遺構 | 種類 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 重量(g) | 備考 |
|------|------|---------------------------------------|--------------|------|--------------------------------|---------|---------|--------|-------|
| 137 | 1136 | L-28,M-28, M-29,M-30, L-30,L-29 | 7C1SD53 | 剥片 | 2.88 | 1.61 | 1.48 | 7.78 | 緑色凝灰岩 |
| 138 | 1171 | - | 表土 | 磨製石斧 | 4.63 | 4.86 | 2.11 | 88.81 | |
| 138 | 1172 | - | 表土 | 敲石 | 7.54 | 5.86 | 3.67 | 286.72 | |
| 138 | 1173 | - | 表土 | - | 19.54 | 10.53 | 5.19 | 1692 | |
| 138 | 1174 | - | 表土 | - | 4.85 | 4.08 | 2.75 | 6.01 | |
| 138 | 1186 | - | 検出面 | - | 7.4 | 4.1 | 2.5 | 113.19 | |
| 138 | 1187 | - | 検出面 | 剥片 | 3.39 | 3.91 | 1.63 | 19.05 | 緑色凝灰岩 |
| 138 | 1188 | - | 灰色土層 | 管玉 | 1.56 | 0.57 | - | 0.76 | |
| 136 | 1100 | M-27,M-28 | 7C1SB03(P04) | 銅錢 | 外輪径 内輪径 (外)0.8 (内)0.6 | 0.12 | 0.12 | 0.7 | 和同開珎 |

第75表 C・D・K区第1面出土石器・石製品・金属製品観察表

※ ()は残存法量を示す。

| 挿図番号 | 遺物番号 | グリッド | 出土遺構 | 種類 | 最大長(cm) | 最大幅(cm) | 最大厚(cm) | 備考 |
|------|------|---------------------------------------|--------------|----|---------|---------|---------|-------|
| 139 | 1195 | N-28 | 7C1P44(SB02) | 柱根 | 58.7 | 17 | 13.8 | 木取り |
| 139 | 1196 | N-28 | 7C1P60(SB02) | 柱根 | 24.8 | 13.2 | 5 | 芯持丸木 |
| 139 | 1197 | N-28 | 7C1P88(SB02) | 柱根 | 69.4 | 18.5 | 5 | 板目 |
| 139 | 1198 | N-27 | 7C1P27(SB03) | 柱根 | 40 | 22.7 | 14.6 | 板目 |
| 139 | 1199 | N-27 | 7C1P28(SB03) | 柱根 | 45.3 | 16.8 | 13.2 | 芯持丸木 |
| 139 | 1200 | N-27 | 7C1P29(SB03) | 柱根 | 37.5 | 19.7 | 12.3 | 芯持丸木 |
| 139 | 1201 | N-27 | 7C1P30(SB03) | 柱根 | 44.2 | 17.9 | 9.3 | 分割材 |
| 139 | 1202 | N-28 | 7C1P18(SB04) | 柱根 | 31.9 | 12.2 | 11.8 | 分割材 |
| 139 | 1203 | M-28 | 7C1P76(SB04) | 不明 | 36.3 | 10.5 | 10.2 | ミカン割材 |
| 139 | 1204 | N-28 | 7C1P25 | 柱根 | 31 | 11 | 8.8 | 分割材 |
| 139 | 1205 | N-28 | 7C1P51 | 柱根 | 37.5 | 6.8 | 5.1 | 芯持丸木 |
| 139 | 1206 | L-28,M-28, M-29,M-30, L-30,L-29 | 7C1SD53 | 不明 | 55.7 | 13.8 | 12.3 | ムクノキ |
| 139 | 1207 | L-28,M-28, M-29,M-30, L-30,L-29 | 7C1SD53 | 部材 | 135.3 | 15.8 | 8.3 | 分割材 |
| 139 | 1208 | M-30 | 7C1SD53 | 不明 | 137 | 29.7 | 2.8 | 板目 |
| 139 | 1209 | M-30 | 7D・K1SD99 | 杭? | 76.1 | 9.8 | 3.8 | 板目 |
| 139 | 1210 | M-30 | 7D・K1SD99 | 杭 | 74.7 | 11.1 | 4.6 | 板目 |
| 139 | 1211 | - | - | 柱根 | 64 | 16.6 | 7.1 | 板目 |

第76表 C・D・K区第1面出土木器・木製品観察表

第6章 F区(Ⅱ区)の遺構と遺物

第1節 調査の概要

F区は、加茂遺跡の東端にあたる調査区である。西側を第9次調査(平成15・2003年度)F区に接しており、南側丘陵裾を上がるとマメダン山地区(第6次・2001年度、巻頭写真参照)にあたる。調査時の調査区名は「Ⅱ区」が与えられていたが、第8次調査時にアルファベットで統一する見直しがあり、第9次調査で西側の調査区と一体のF区として調査されていた経緯を踏まえ、本書でもF区として報告する。調査記録や土器等の注記は「Ⅱ区」であることに注意されたい。

調査の結果、F区では弥生時代中期～古代で計4面の遺構面が確認され、本書ではF区第1面を報告する(F区西側1面及び2面以降は後刊の第9・10次調査報告書)。遺構では水田遺構、土坑5基、溝1条を検出した。水田遺構はグリッドPライン以北で調査区全域に渡り21枚を検出し、時期は田嶋編年古代Ⅵ期(9世紀末～10世紀前半、年代観は第4章第1節を参照)前後と推定する。水口等の水利関連遺構は確認できていない。以後の調査を通じ、水田域はグリッド32ライン(D・K調査区)まで拡がりを確認した。遺物は古代Ⅳ期(8世紀後半)～古代Ⅵ期を中心とする土師器・須恵器が出土し、下層確認のトレンチからは弥生時代～古墳時代の土器も出土している。本文中では遺構番号冒頭に付した「7F1」は省略した。

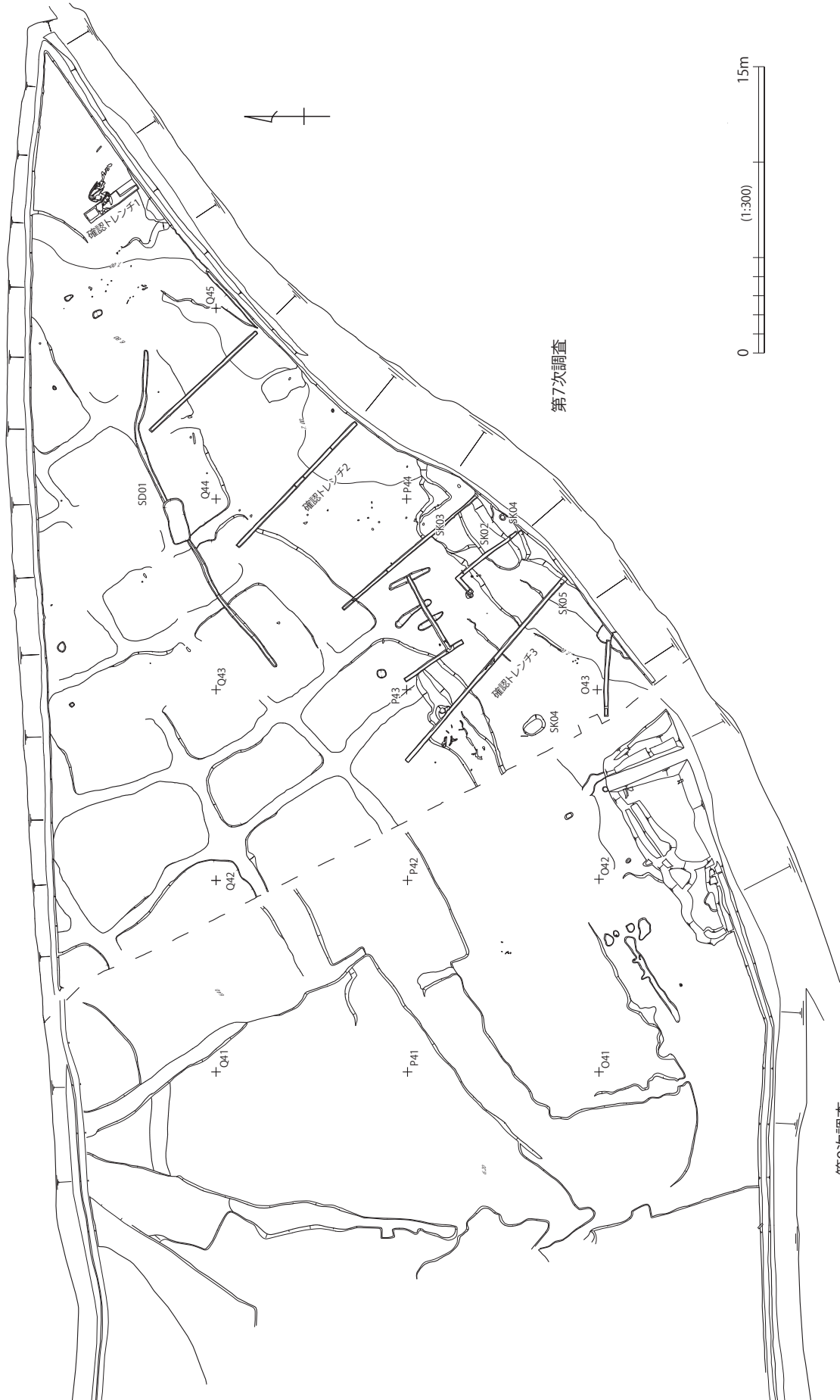
第2節 遺構と遺物

F区の基本的な層序は第149・150図に示した。確認トレンチ1では、南東側の低丘陵(第6次調査マメダン山)から延びる丘陵裾緩斜面地山層である淡茶灰色粘質土(第7～9層。この層自身も丘陵流出土ないし崩落土)を覆うように北側に向かって淡灰～青灰色砂系の洪水堆積層(第1～6層)が広がっており、水田遺構はこの堆積層上に形成される。これらの層には有機物層や洪水砂が互層状に見られることから、ある程度の沼～湿地状態を挟みながら堆積を繰り返していたようである。確認トレンチ2-1・3では、第2面以下(第9次調査)の堆積状況が確認できる。第1面基盤層となる黄灰色系シルトの下には、2～3層の灰色系シルト層(第4・25・30層等)があり、その下に木質系の有機物や古墳時代の須恵器等を含む茶褐色系粘質土(第19～21層等)、さらにその下に弥生時代後期の土器を含む層(第27・28層)が続く。

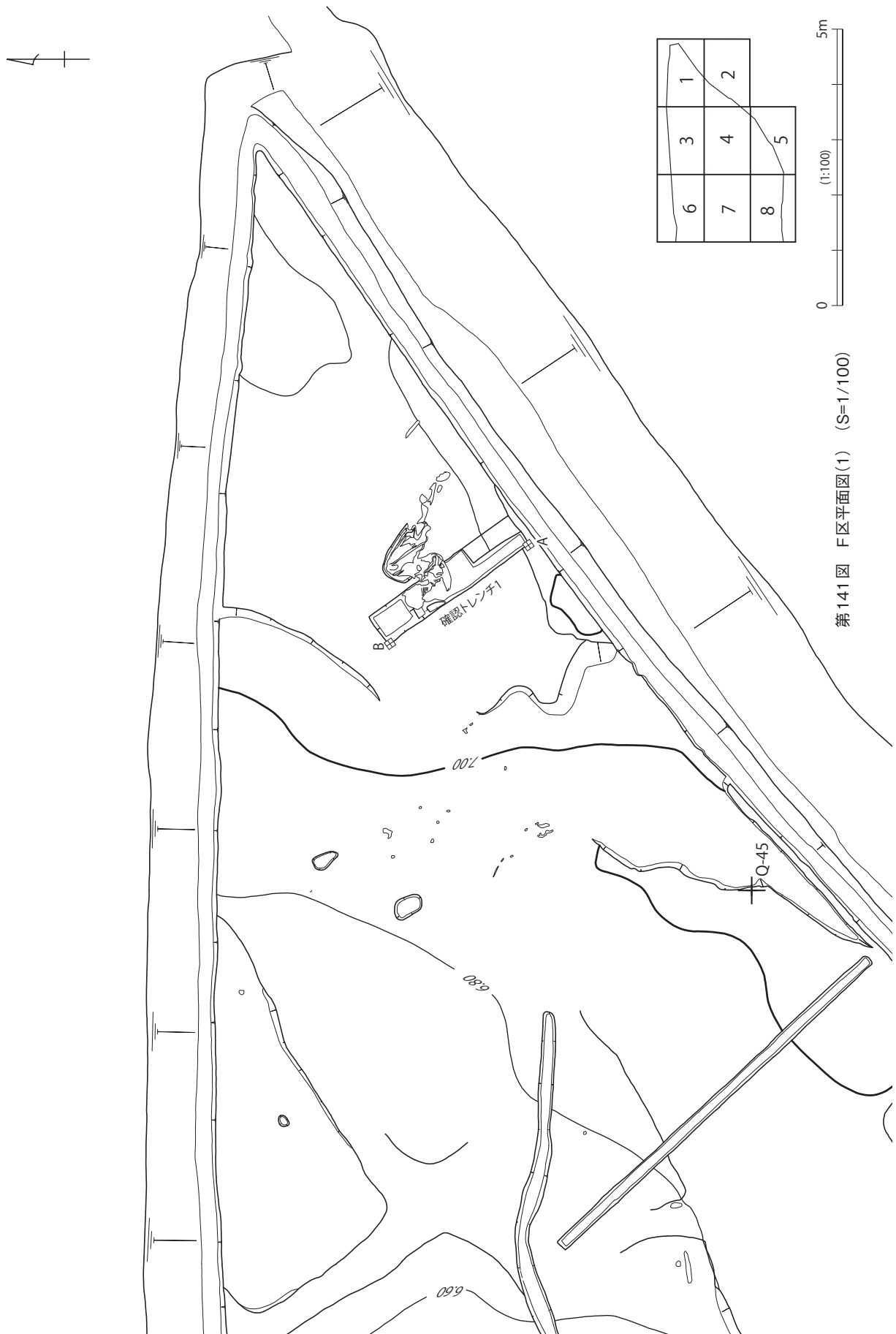
確認トレンチの遺物は第151図1212～1226を図示した。須恵器無台坏1212・1213は古代Ⅳ₂～Ⅴ₁期、内黒土師器無台埴1214・土師器無台埴1215はいずれも底部糸切り離しで、古代Ⅵ₂期以降の所産。土師器甕1216は内外面ともハケ調整、古墳時代前期の所産か。1219は甗と考えられる土師器で、器厚は厚く、砂・小礫を多く含む。甗の内部に差し込むのではなく、甗の口縁上に置かれたものであろう。1220は滑石製の紡錘車。木製品1221～1226は確認トレンチ3の中央部で確認された、板状木製品を敷き並べた集中箇所(調査時は「板敷状遺構」)の出土。樹種は全てスギで、何らかの部材の転用であろう。

水田遺構(遺構：第152図、遺物：第153図)

約21枚の水田区画を確認した。水田の番号は本報告で新規に付したもので、調査区名+調査面+



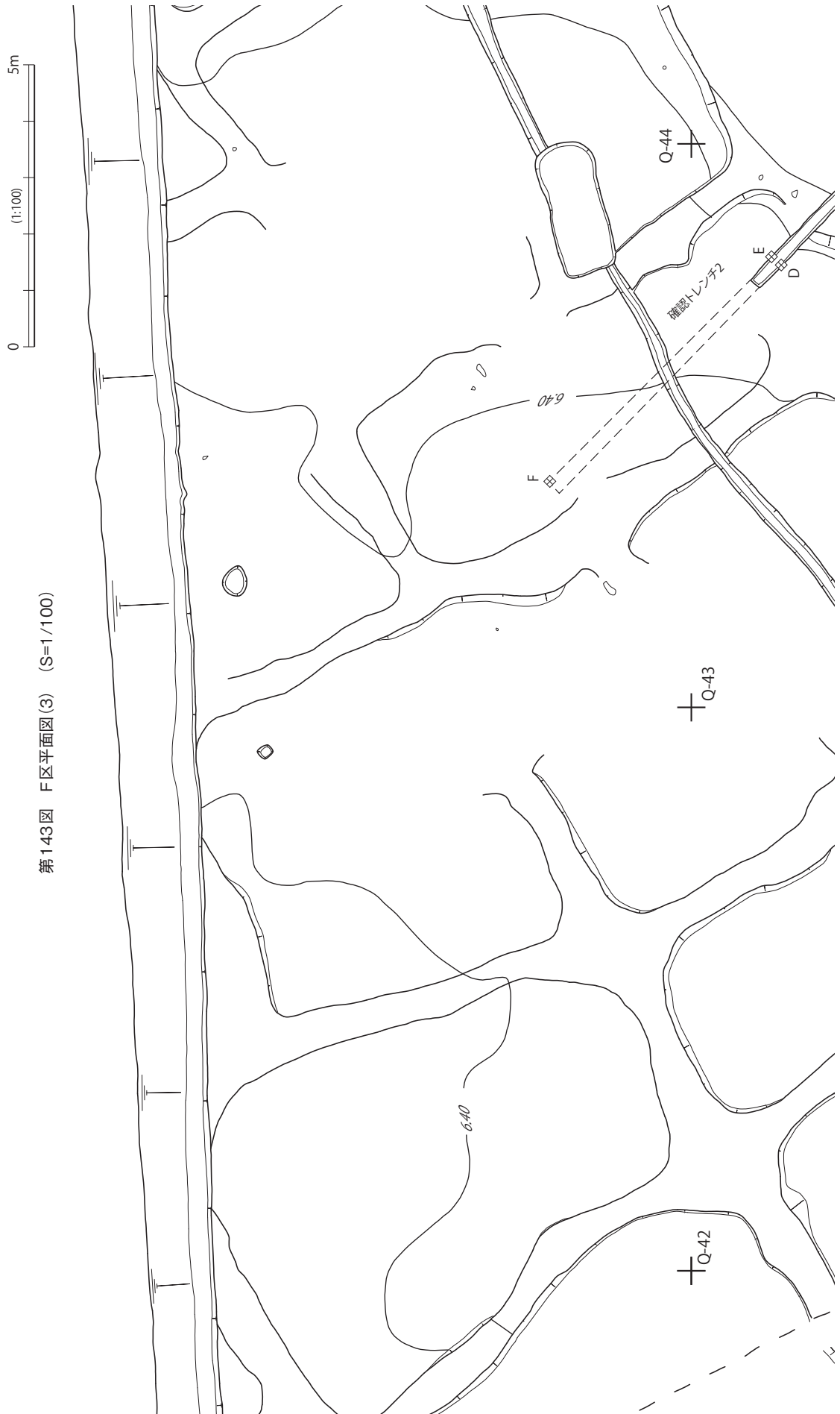
第140図 F区第1面主要遺構配置図(S=1/300)

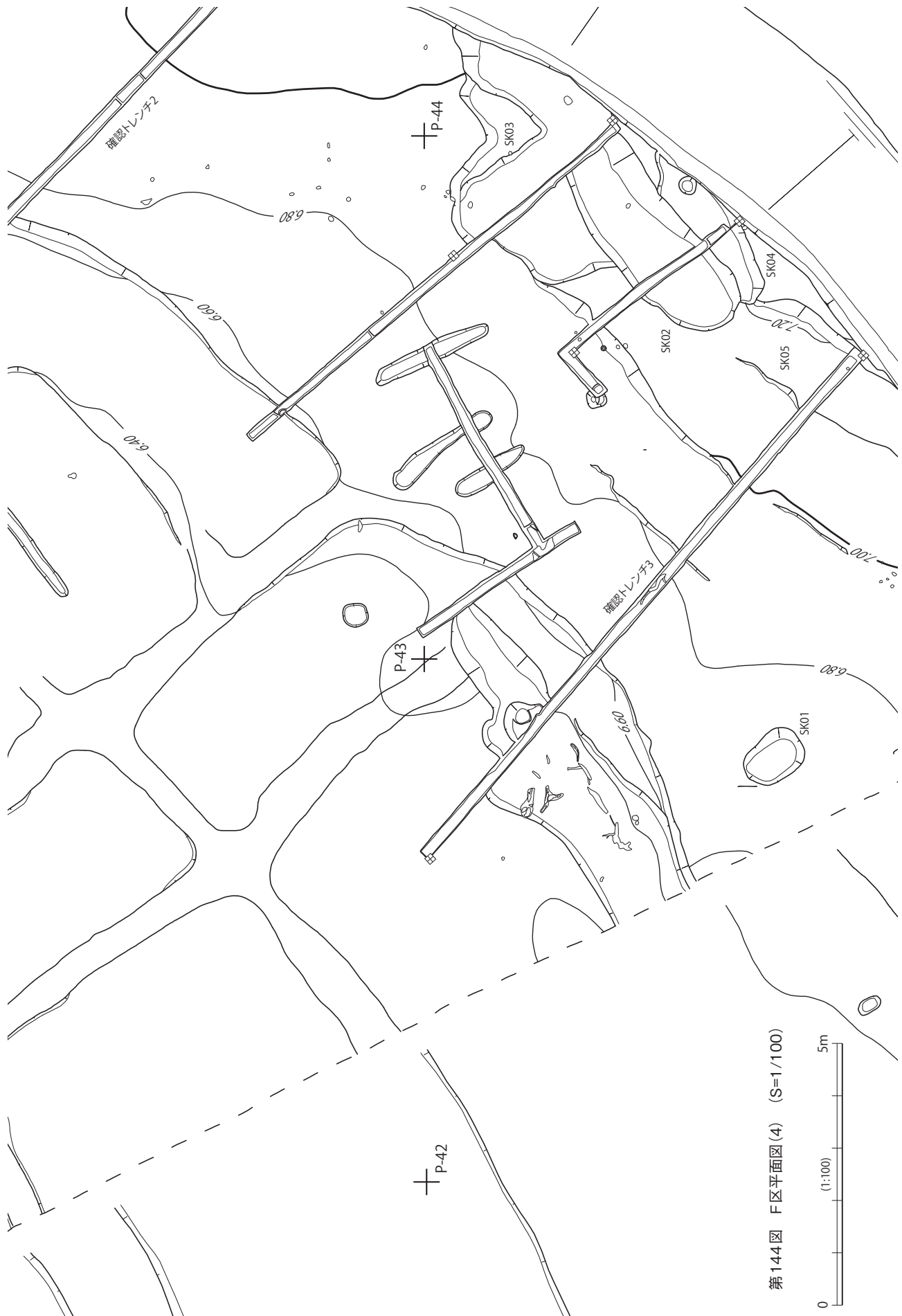


第141図 F区平面図(1) (S=1/100)



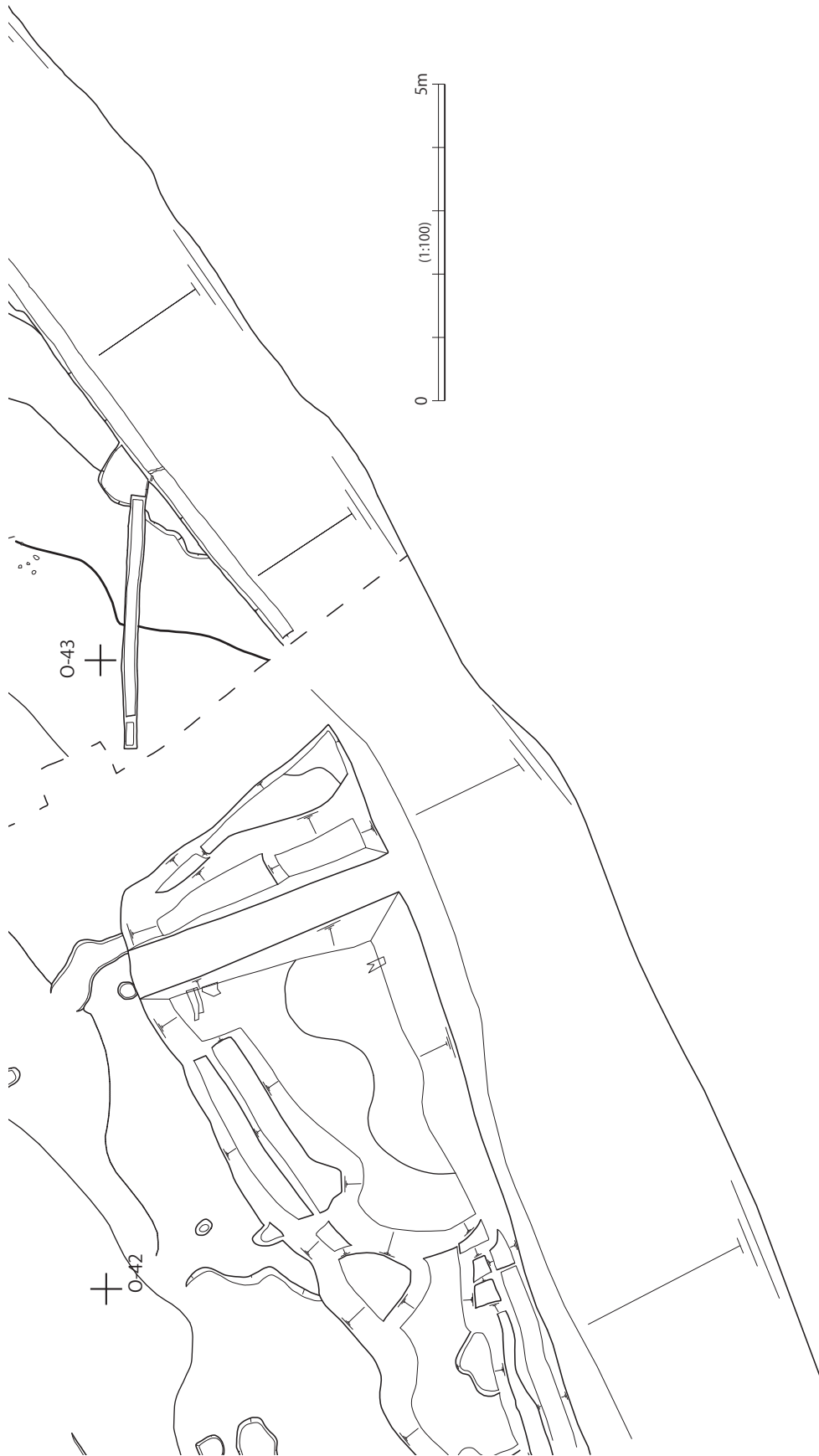
第142図 F区平面図(2) (S=1/100)





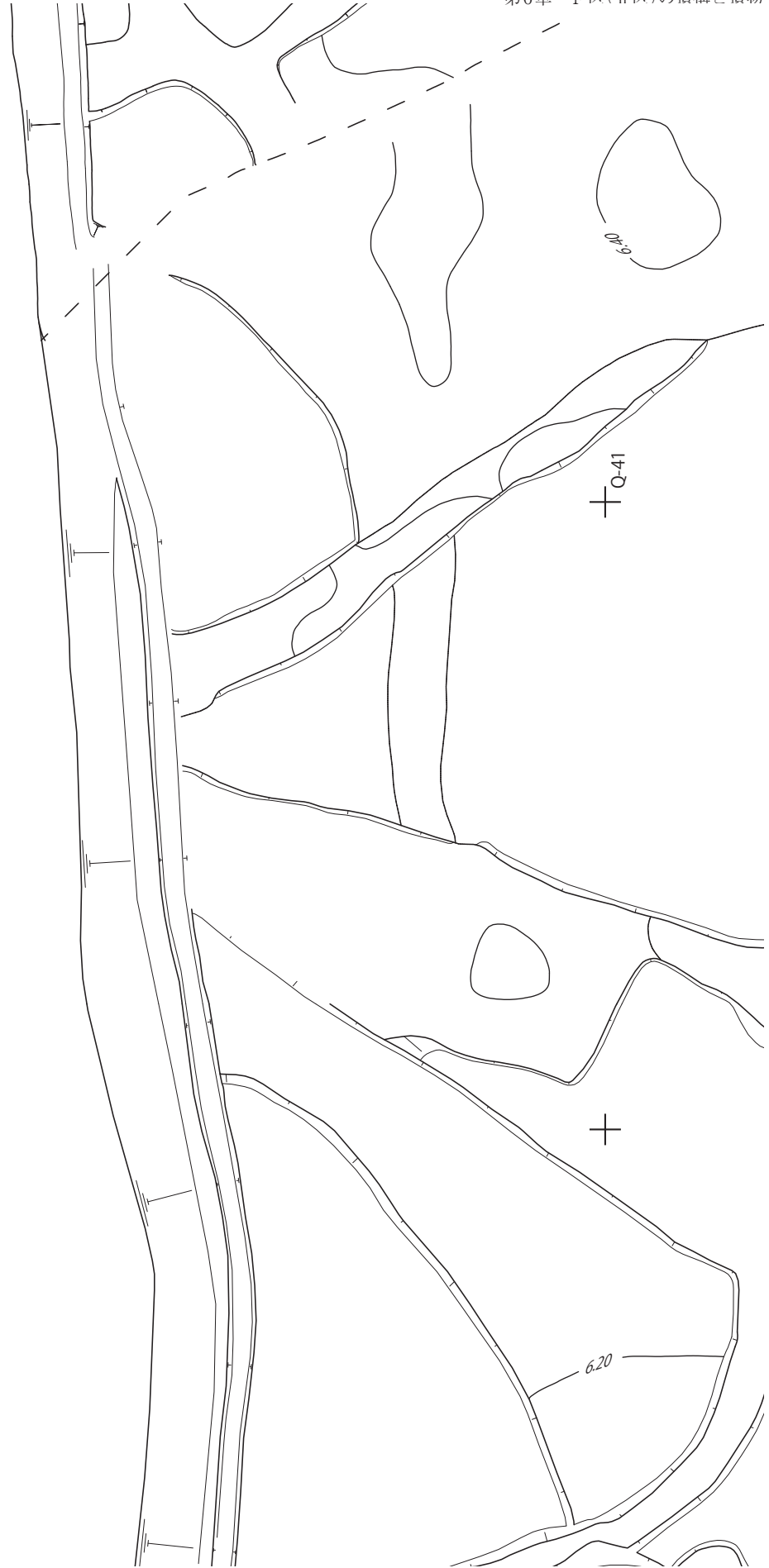
第144図 F区平面図(4) (S=1/100)

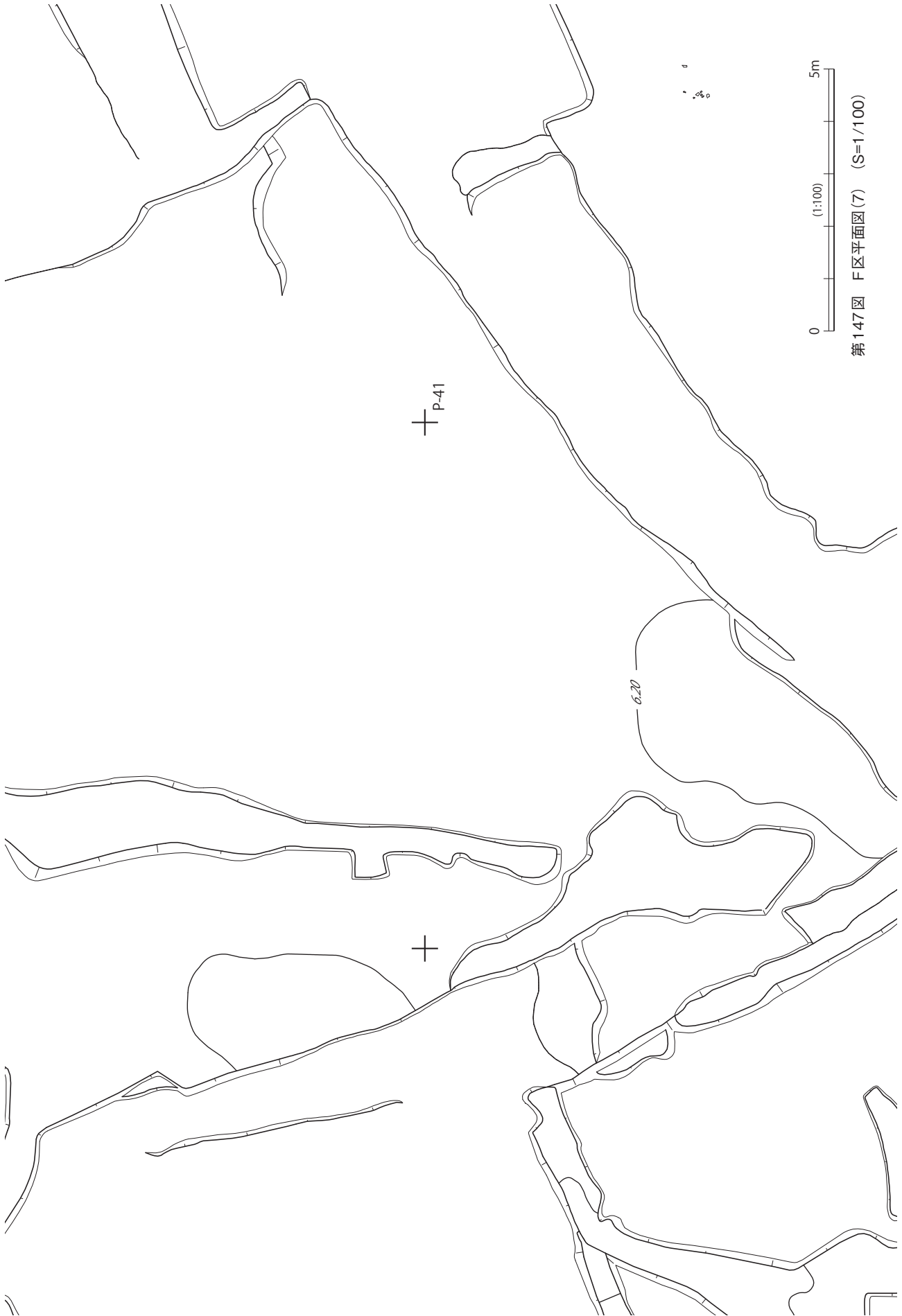




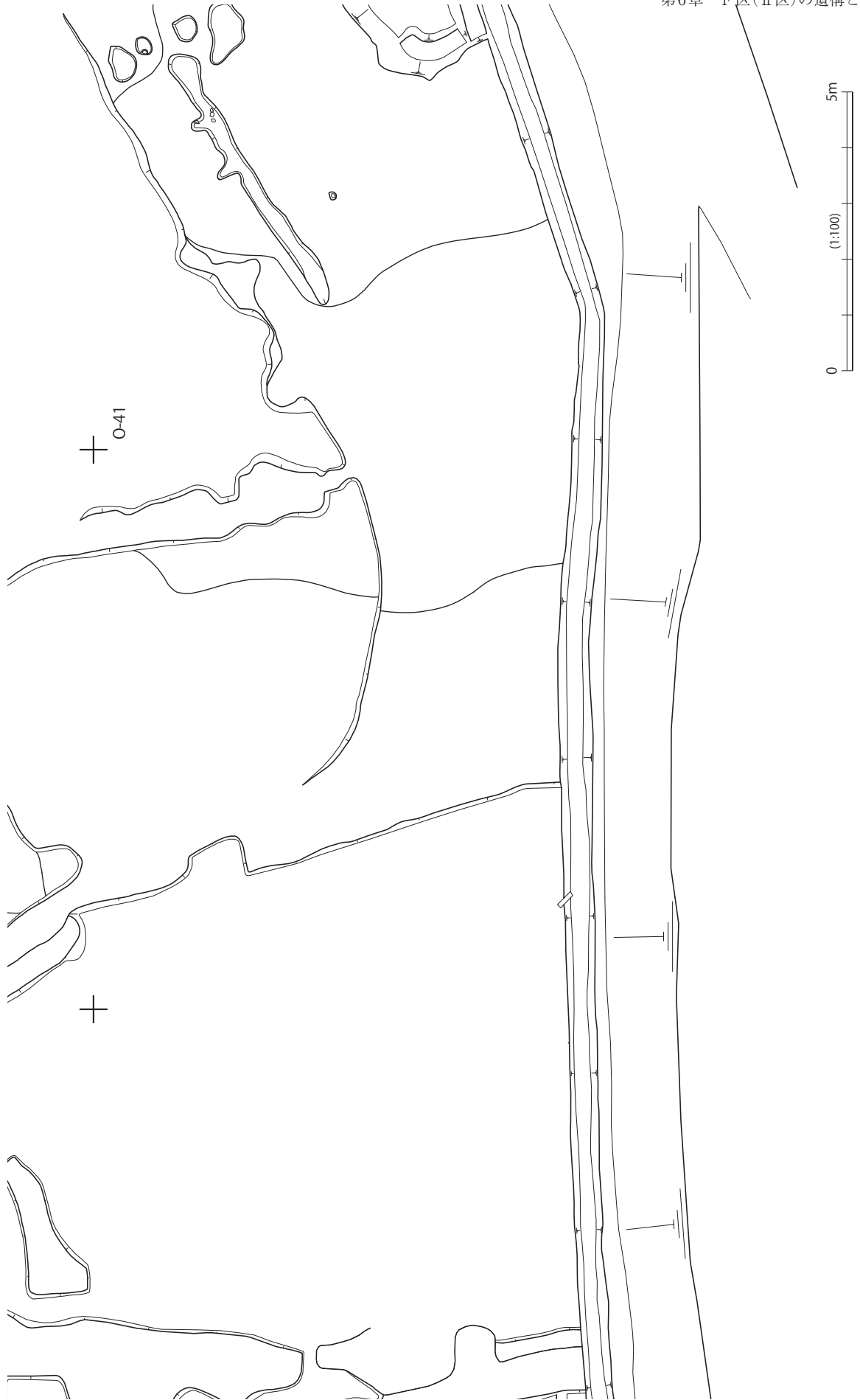
第145図 F区平面図(5) (S=1/100)

第146図 F区平面図(6) (S=1/100)





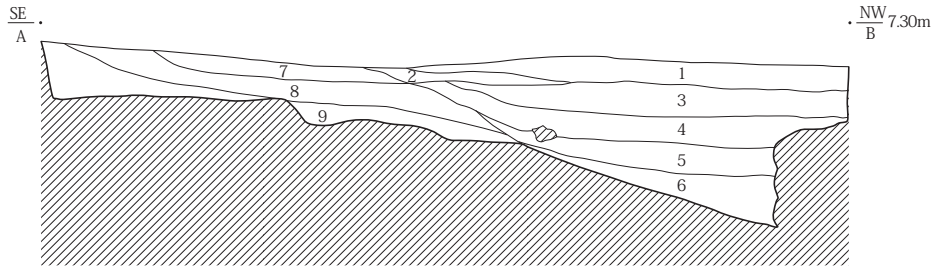
第147図 F区平面図(7) (S=1/100)



+ 041

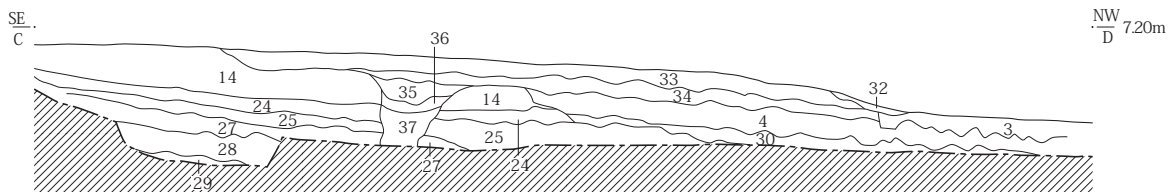
+

第148図 F区平面図(8) (S=1/100)



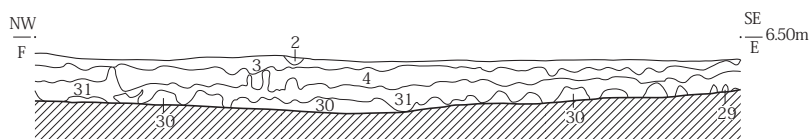
確認トレンチ1 (西壁)

1. 淡灰色砂 (小砂利含む。)
2. 淡黄灰色砂
3. 淡青灰色砂 (茶灰色粒土を互層状に含む。)
4. 淡青灰色砂 (北側は、有機物を互層状に含む。)
5. 淡青灰色砂 (淡灰色粘土含む。)
6. 茶灰色粘質土 (青灰色砂を互層状に含む。有機物層。)
7. 淡茶灰色粘質土 (砂、小砂利含む。)
8. 淡茶灰色粘質土 (茶灰色土混じる。)
9. 淡茶灰色粘質土 (茶灰色土がブロック状に混じる。)



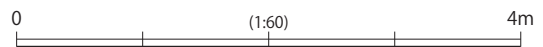
確認トレンチ2-1 (西壁)

3. 茶褐色粘質土 (有機物含む。ふかふかしている。)
4. 茶灰色～灰色粘質土
14. 暗黄灰色～淡黄灰色シルト
24. 淡茶灰色粘質土
25. 青灰色粘土
27. 青灰色砂 (茶灰色土含む。弥生後期? 土器含む。)
28. 茶褐色粘質土 (有機物層。)
29. 青灰色砂
30. 暗灰色粘土
32. 淡灰色砂
33. 淡茶灰色粘質土 (礫、砂含む。)
34. 淡茶灰色粘質土 (33に比べ砂を含む量少ない。)
35. 淡灰色粘質土
36. 淡灰色砂 (淡灰色粘質土混じる。)
37. 灰色粘土 (砂粒含む。)

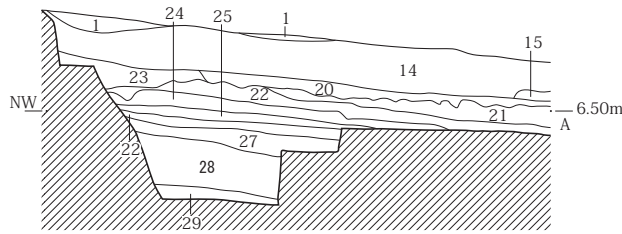


確認トレンチ2-2 (東壁)

2. 暗茶褐色～黒褐色粘質土
3. 茶褐色粘質土 (有機物含む。ふかふかしている。)
4. 茶灰色～灰色粘質土
29. 青灰色砂
30. 暗灰色粘土
31. 茶褐色～黒褐色粘質土 (砂含む。確認トレンチ3-20層に類似。)

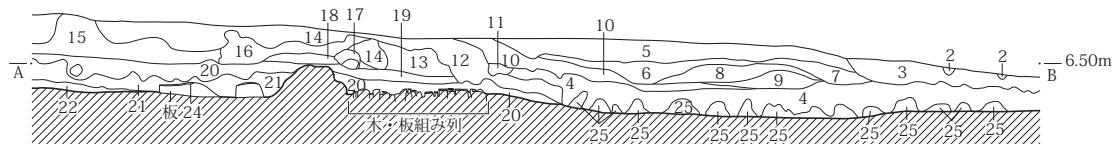


第149図 確認トレンチ1・2断面図 (S=1/60)



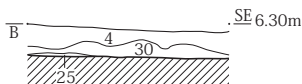
確認トレンチ 3-1 (東壁)

- 1. 灰色粘質土 (砂粒多く含む。)
- 14. 暗黄灰色～淡黄灰色シルト
- 15. 暗黄灰色砂
- 20. 暗茶褐色粘質土 (木質含む須恵器出土。)
- 21. 茶灰色粘質土
- 22. 灰色砂
- 23. 淡茶灰色砂
- 24. 淡茶灰色粘質土
- 25. 青灰色粘土
- 26. 淡灰灰色粘質土 (弥生後期? 土器含む。)
- 27. 青灰色砂 (茶灰色土含む。弥生後期? 土器含む。)
- 28. 茶褐色粘質土 (有機物層。)
- 29. 青灰色砂



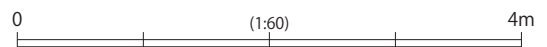
確認トレンチ 3-2 (東壁)

- 1. 灰色粘質土 (砂粒多く含む。)
- 2. 暗茶褐色～黒褐色粘質土
- 3. 茶褐色粘質土 (有機物含む。ふかふかしている。)
- 4. 茶灰色～灰色粘質土
- 5. 黄灰白色シルト
- 6. 黄灰白色シルト (淡茶灰色土が層状に混じる。)
- 7. 淡茶灰色粘質土 (黄灰色シルト。小砂利含む。)
- 8. 淡茶灰色粘質土 (黄灰色シルト。小砂利含む。茶褐色土含む。)
- 9. 淡茶灰色粘質土
- 10. 暗茶褐色～黒褐色粘質土
- 11. 黒褐色粘質土
- 12. 茶灰色粘質土 (砂粒含む。)
- 13. 茶灰色粘質土
- 14. 暗黄灰色～淡黄灰色シルト
- 15. 暗黄灰色砂
- 16. 淡茶灰色粘質土 (黄灰色シルト。黄灰色土混じる。)
- 17. 淡茶灰色粘質土
- 18. 淡茶灰色粘質土 (上端に黒褐色の溝層。)
- 19. 茶褐色粘質土 (木質含む須恵器出土。)
- 20. 暗茶褐色粘質土 (木質含む須恵器出土。)
- 21. 茶灰色粘質土
- 22. 灰色砂
- 24. 淡茶灰色粘質土
- 25. 青灰色粘土

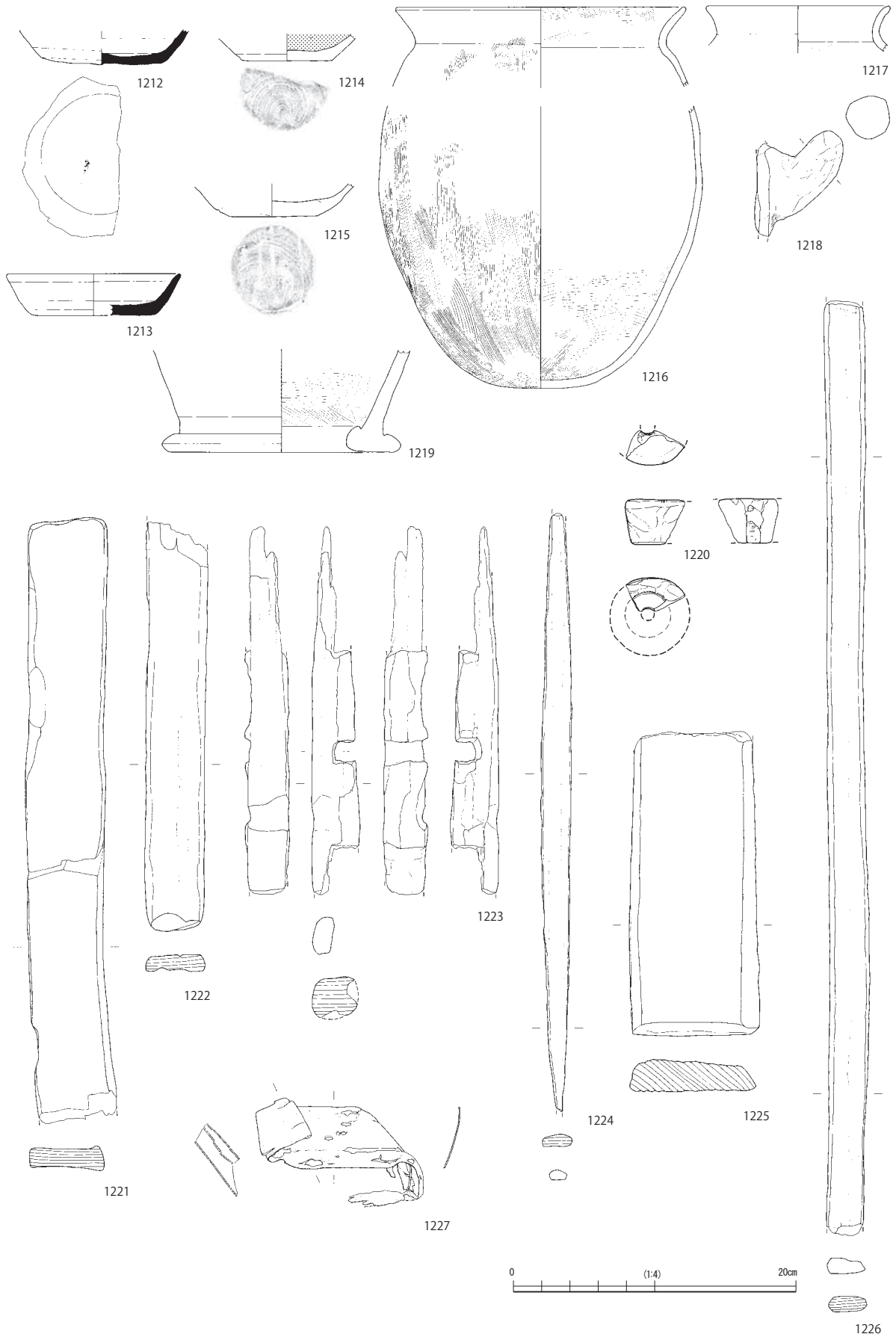


確認トレンチ 3-3 (東壁)

- 4. 茶灰色～灰色粘質土
- 25. 青灰色粘土
- 30. 暗灰色粘土



第150図 確認トレンチ 3 断面図(S=1/60)



第151図 F区第1面確認トレンチ出土遺物実測図(S=1/4)

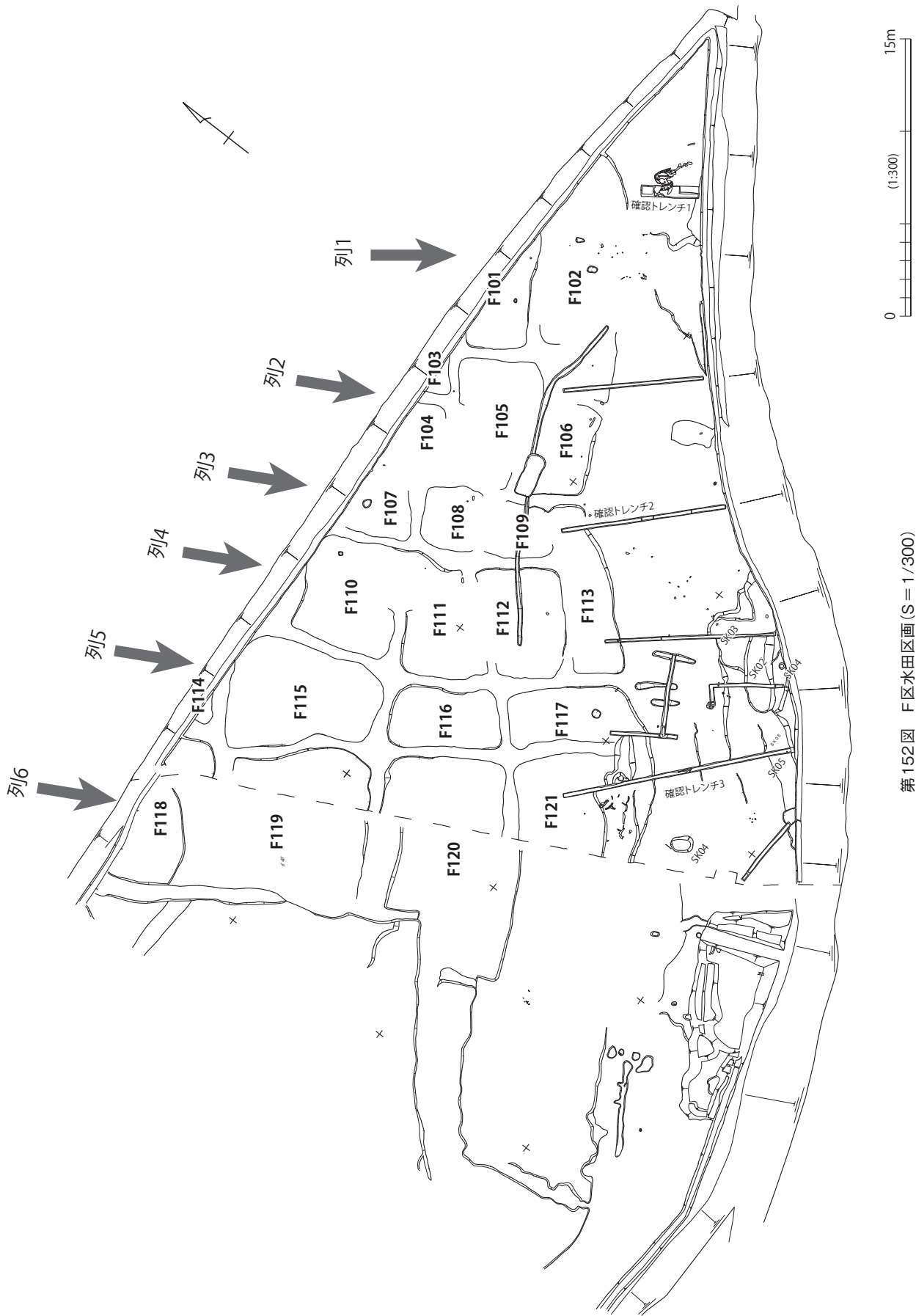
番号となっている(F101であればF区第1面水田1、となる)。畦畔等は確認できず、ほぼ平面の状態で検出されており、また水口のような水利施設も未確認であった。水田の方位軸をみると、約30度前後(31~39度)西傾して比較的揃い、切り合う様相も認められなかったことから同時期に営まれた水田と判断した。形状は短冊型・長方形型・正方形型の3種類が認められ、南北方向に揃う傾向を見せており、列1~列6までにグルーピングした。各水田の規模等の詳細は、第77表に示した。調査区内で用排水路は確認できない。層序は確認トレンチ2-2・トレンチ3で確認でき、土は有機物質を含むしまりのない茶褐色粘質土を基本とし、部分的に上層に黒褐色砂質土が残る水田もある。層厚は17~19cm前後を測る。

- 列1(F101・102) 東西方向に短冊形を呈し、長軸は8mを越える。軸はN39°-W。
- 列2(F103~106) 基本長方形を呈する。規模は不揃いで、軸はN35°-W。
- 列3(F107~109) 正方形~南北方向に長方形を呈する小型の水田。軸はN31°-W。
- 列4(F110~113) 東西に長方形。113は東西に短冊形。軸はN31°-W。
- 列5(F114~117) 南北に長方形、117は短冊状か。軸はN36°-W。
- 列6(F118~121) 大型の水田で形状は不揃い、軸はN35°-W。

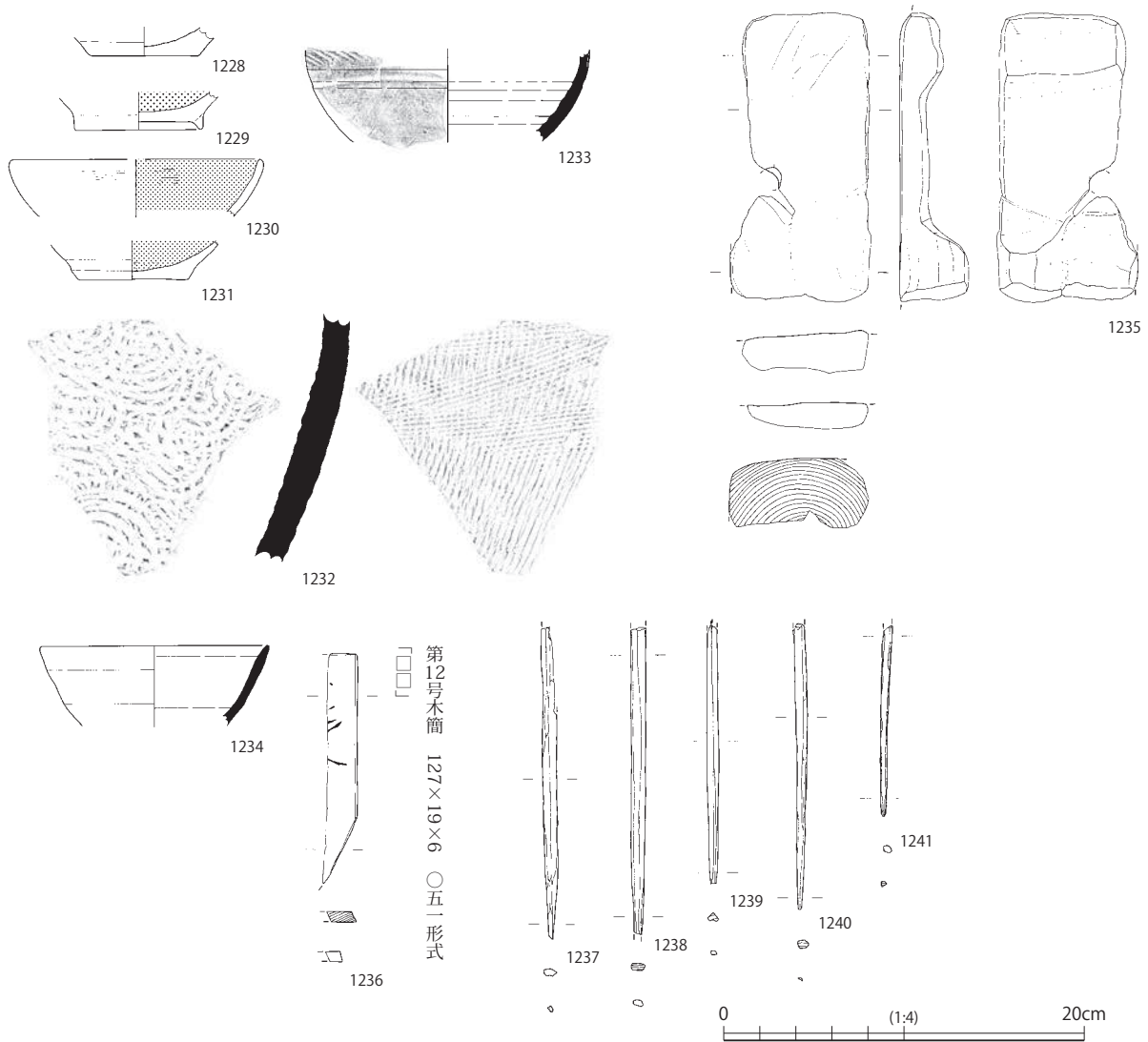
| 水田番号 | 平面形 | 規模(m) | | | 各水田面の標高(m) | | | 備考 |
|------|-----|--------|-------|-------|------------|------|------|----------|
| | | 面積 | 長軸 | 短軸 | 最高 | 最低 | 標高差 | |
| F101 | 短冊 | (18.8) | (5.8) | 3.3 | 6.63 | 6.59 | 0.04 | 調査区外に延びる |
| F102 | 短冊 | 34.5 | 8.4 | 4.1 | 6.77 | 6.73 | 0.04 | |
| F103 | — | — | — | — | 6.55 | — | — | 調査区外に延びる |
| F104 | — | — | — | (2.2) | 6.45 | — | — | 調査区外に延びる |
| F105 | 長方形 | 31.7 | 6.9 | 4.6 | 6.62 | 6.52 | 0.10 | |
| F106 | 長方形 | 14.7 | 4.8 | 3.0 | 6.77 | 6.57 | 0.20 | |
| F107 | 方形? | (8.5) | (3.2) | 2.7 | 6.41 | 6.36 | 0.05 | 調査区外に延びる |
| F108 | 方形 | 10.4 | 3.4 | 3.1 | 6.42 | 6.37 | 0.05 | |
| F109 | 方形 | 9.9 | 3.2 | 3.1 | 6.49 | 6.41 | 0.08 | |
| F110 | 方形 | 30.0 | 5.7 | 5.2 | 6.40 | 6.32 | 0.08 | |
| F111 | 長方形 | 28.0 | 5.9 | 4.7 | 6.34 | 6.26 | 0.08 | |
| F112 | 長方形 | 22.5 | 6.0 | 3.7 | 6.35 | 6.31 | 0.04 | |
| F113 | 短冊 | 24.6 | 9.2 | 2.7 | 6.54 | 6.41 | 0.13 | |
| F114 | — | — | — | — | 6.44 | — | — | 調査区外に延びる |
| F115 | 短冊? | 50.3 | 8.3 | 6.0 | 6.42 | 6.36 | 0.06 | |
| F116 | 短冊 | 19.4 | 6.0 | 3.2 | 6.36 | 6.26 | 0.10 | |
| F117 | 短冊 | 19.2 | 6.7 | 2.9 | 6.47 | 6.30 | 0.17 | |
| F118 | — | 32.8 | 10.5 | 3.1 | 6.32 | 6.31 | 0.01 | |
| F119 | 長方形 | 74.8 | 10.1 | 7.4 | 6.41 | 6.29 | 0.12 | |
| F120 | 長方形 | 87.7 | 13.6 | 6.4 | 6.26 | 6.25 | 0.01 | |
| F121 | — | (39.7) | 7.2 | (5.5) | 6.41 | 6.31 | 0.10 | |

第77表 F区第1面水田遺構規模等一覧

遺物は第153図1228~1233を図示した。現場の注記で、1228・1231がF121ないしF117からの出土であることが確認できる。土師器・内黒土師器16~19は古代Ⅵ期の所産で、無台塼1228は底部に糸切り離し痕跡を残すことからⅥ₂~Ⅵ₃期に位置づけられる。須恵器甕1233は5世紀後半の所産か。下駄1235はクリ材の一木作り。



第152図 F1区水田区画(S=1/300)



第153図 F区第1面水田・SK01出土遺物実測図(S=1/4)

SK01 (遺物：第153図)

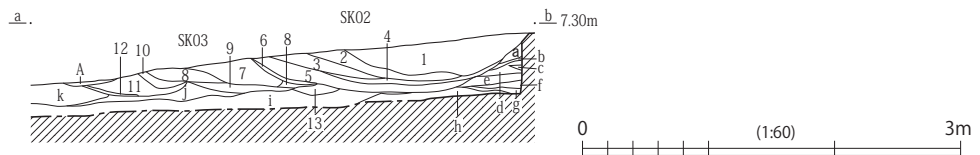
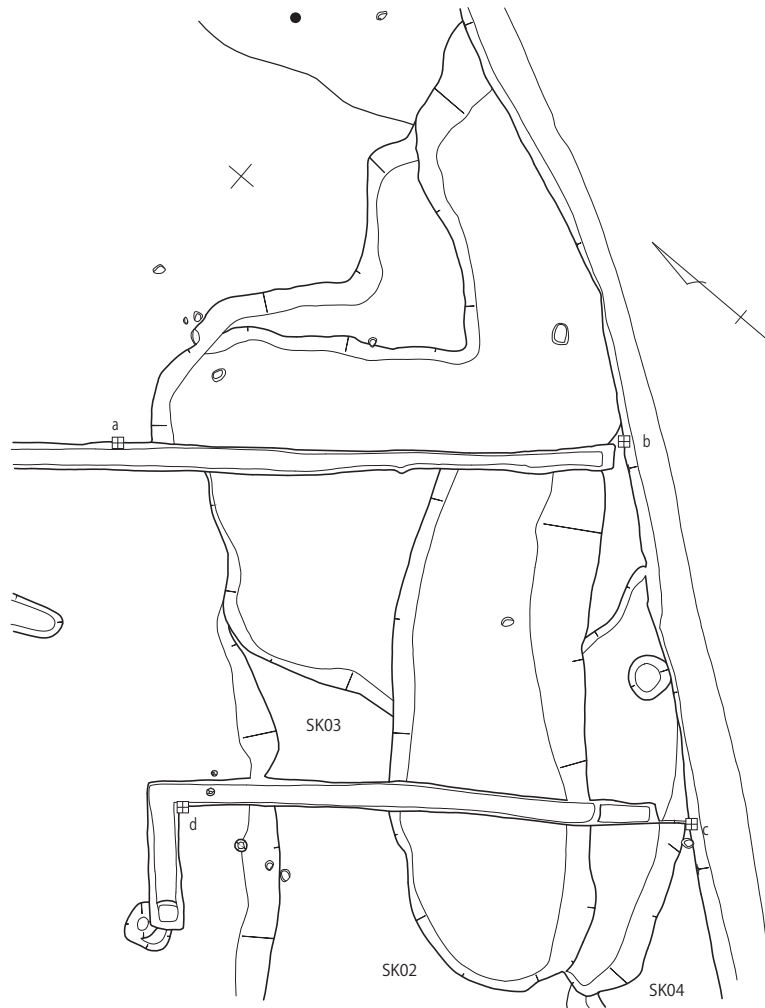
P-42区で検出した不整楕円形を呈する土坑で、長軸1.22m×短軸0.84m、深さ0.34mを測る。遺物は第153図1234～1241を図示した。須恵器坏1234は古代V期。板状木製品1236は第12号木筒。ヒノキ板目材で、方頭で下端を尖らせる。片面に墨痕が2文字確認できるが、左側を欠損し不詳。県内でヒノキ材を使用する木筒は大変珍しく、転用材かもしれない。26～30は箸状木製品。土坑の時期は須恵器からは9世紀代となるが、箸状木製品が出土することから中世に下る可能性もある。

SK02 (遺構：第154図、遺物：第156図)

P-43区で検出した溝状の不整楕円形な土坑で、前後の状況からSK05とあわせて溝状遺構と理解する方が良いだろう。幅約1.5m・深さ0.38mを測り、南西→北東方向へ流れる。SK03を切り込み、SK04に切り込まれる。覆土は茶褐色～茶灰色粘質土を基調とし、砂を多く含む。遺物はSK03で後述する。

SK03 (遺構：第154図、遺物：第156図)

P-43区で検出した不整形を呈する土坑で、SK02・04に切り込まれる。長軸3.58m・短軸2.76+m、深さ0.37mを測る。覆土は茶褐色～茶灰色粘質土を基調とし、砂を多く含む。遺物は同時に取り上げ



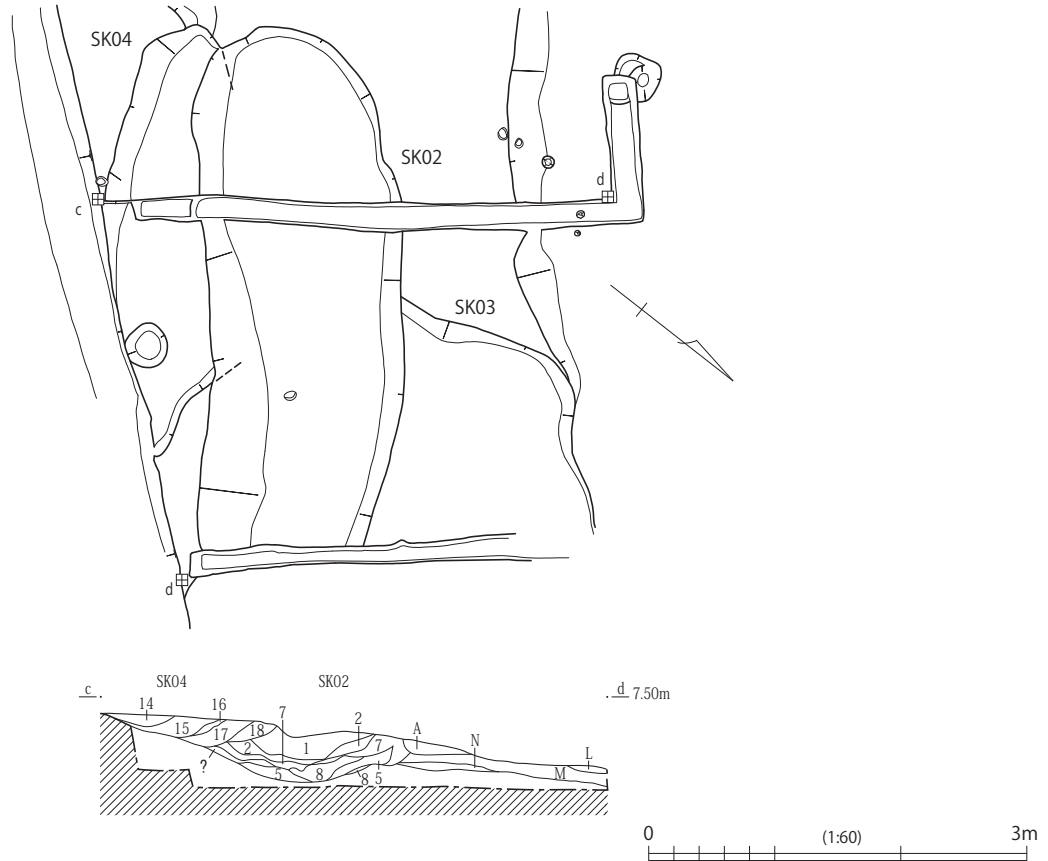
SK02

1. 暗茶褐色粘質土 (多量に砂含む。)
2. 淡茶灰色粘質土 (多量に砂含む。1層が層状に混じる。)
3. 淡茶灰色砂質土
4. 淡灰色粘質土 (多量に砂含む。)
5. 暗灰色～黒灰色粘質土 (多量に砂含む。炭化物多く含む。)
6. 淡灰色砂質土 (炭化物含む。)
7. 黄灰色粘質土 (砂多量に含む。)
8. 茶灰色粘質土 (有機物の溝層。)

SK03

7. 暗茶褐色粘質土 (多量に砂含む。)
8. 淡茶灰色砂質土
9. 灰色砂質土 (炭化物含む。)
10. 淡茶灰色粘質土 (多量に砂含む。茶褐色土が層状に混じる。)
11. 淡茶灰色粘質土 (多量に砂含む。)
12. 淡灰色砂 (灰色粘質土を互層状に含む。)
13. 茶褐色粘質土 (多量の砂含む。)
- a. 淡茶灰色粘質土 (砂多量に含む。)
- b. 灰色粘質土 (炭化物多く含む。)
- c. 黄褐色粗砂
- d. 淡灰色細砂
- e. 灰色砂質土 (炭化物含む。)
- f. 暗灰色粘質土
- g. 青灰色砂
- h. 青灰色小砂利
- i. 青灰色～灰色粘質土 (砂、炭化物含む。)
- j. 青灰色砂質土
- k. 青灰色～灰色粘質土
- A. 黒褐色粘質土 (暗黄褐色粘質土ブロック多く含む。)

第154図 F区 SK02・03平面・断面図(S=1/60)



- | | |
|---|--|
| <p>SK02</p> <p>1. 暗茶褐色粘質土 (砂多量に含む。)</p> <p>2. 淡茶灰色粘質土 (砂多量に含む。1層が層状に混じる。)</p> <p>5. 暗灰色～黒灰色粘質土 (砂多量に含む。炭化物多く含む。)</p> <p>7. 黄灰色粘質土 (砂多量に含む。)</p> <p>8. 茶灰色粘質土 (有機物の溝層。)</p> <p>L. 暗黄灰色砂</p> <p>M. 灰色砂質土</p> <p>N. 暗黄灰色砂質土 (灰色粘質土が互層状に混じる。)</p> <p>A. 暗灰色～黒灰色粘質土多量に砂含む (階段状の落ちの覆土あるいは水田か畑?)</p> | <p>SK04</p> <p>14. 暗茶褐色粘質土 (多量の砂含む。)</p> <p>15. 灰色粘質土 (多量の砂含む。)</p> <p>16. 暗黄灰色砂質土</p> <p>17. 灰色粘質土 (14、15、16層が混じる層。)</p> <p>18. 暗黄灰色砂質土</p> |
|---|--|

第155図 F区 SK02・04平面・断面図(S=1/60)

られたSK02の物を含め、第156図1242～1264を図示した。須恵器有台埴1242は断面三角形の矮小化した高台が巡り、Ⅵ₃期の様相を示す。須恵器無台埴1243もほぼ同時期の所産か。1244～1251は土師器埴皿類でⅥ₂～Ⅵ₃期。1251は糸切り底の無台皿。1252・1253は須恵器長胴瓶。1255～1262は弥生時代～古墳時代の土器で、下層の混じりと考える。1240・1241は土師器の甕で、外面ハケ・内面ハケとヨコナデ調整、古代Ⅰ₂～Ⅱ₁期の所産か。1256・1260～1262は弥生時代後期後葉の、法仏～月影式の高坏と壺蓋。1263・1264はSK03付近からの出土。以上からSK02は古代Ⅵ₂～Ⅵ₃期(10世紀前葉)以降の所産と考え、SK03はほぼ同時期か、下層の7世紀後半代の遺構となる可能性もある。

SK04(遺構：第155図、遺物：第156図)

P-43区で検出した溝状の不整楕円形な土坑で、長軸2.96+m・短軸0.69+m、深さ0.22mを測る。SK03を切り込み、覆土は地山質の黄灰色～灰色粘質土を基調とし、砂を多く含む。遺物は第158図1265～1267を図示した。土師器有台埴1265はⅥ期の所産である。

SD01(遺物：第156図)

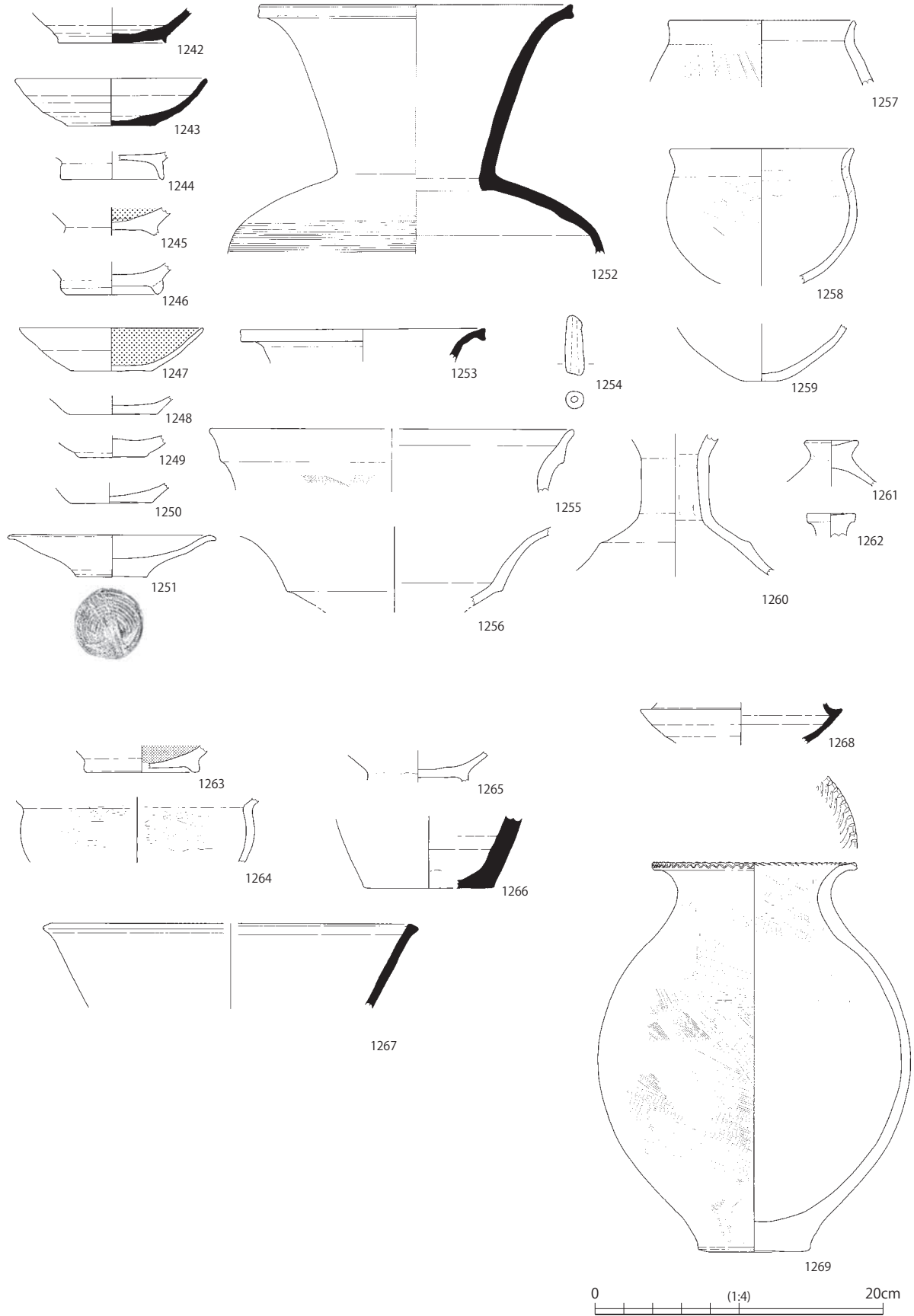
Q～R-43～44区で検出した溝で、調査時の所見では「淡黄灰色砂が根株状に並ぶ」とあることから

植栽痕の類であろう。遺物は坏H身1268を図示し、古代I₂～II₁期の所産か。

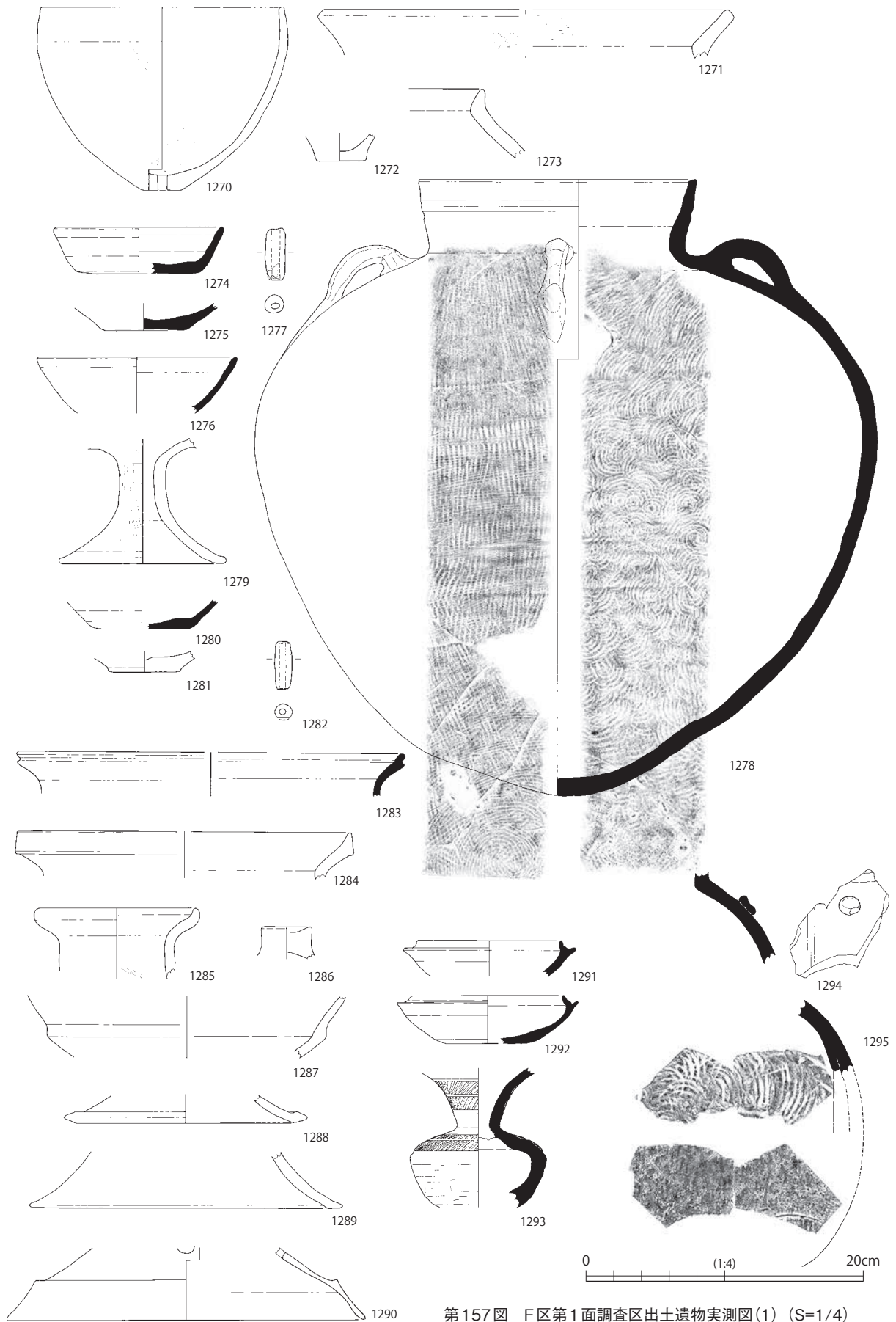
その他の遺構・調査区の遺物(遺物：第156～158図)

1269～1345は調査区内出土の遺物。1258～1266は下層確認トレンチないしそれに類する箇所からの出土。1269・1270は弥生時代中期の壺と有孔鉢で、1271～1273も弥生・古墳時代の土器であり、層名しか記していないがトレンチから出土したものか。1278は須恵器四耳壺で、第2面(茶褐色土)からの出土である。口縁に2条の沈線を巡らし、最大径が体部上半にあり降灰が著しく、肩部に環状の耳を4つ配置する。類例に乏しいが、2面の7世紀後半代とすれば古代II期の可能性が高く、胎土は不明だが北側の丘陵に位置する加茂窯のそれに類似する。1279～1283は他の確認トレンチ(断面図・写真なし)からの出土である。1283は須恵器大甕の口縁部で、古墳時代中期にさかのぼるか。1284～1345は遺構検出時・側溝掘削時の出土。1284～1290は弥生時代後期の壺・高坏類。1291・1292は須恵器坏H身、1293は甗、1294は提瓶、1295は横瓶で、I₂期の所産。胎土は不明だが、坏H身では金沢市観法寺窯や加茂窯に類似するものがある。須恵器蓋1296は無鈕タイプで、天井部に墨書するが不詳、内面は転用硯として用いられている、VI₂期。須恵器有台坏1297～1299はやや古く、IV₁～IV₂期の所産。1300は有台坏ではなく小型の壺類の可能性もある。須恵器無台坏1303は外底部に「里」を大ぶりな字で墨書する。VI₂期。須恵器無台坏1304は外底部に不明墨書、内面は転用硯として用いられている。VI期。須恵器坏1307は口縁部に油煙痕があり灯明として用いられたもの、V～VI期か。1308・1309は須恵器皿類でVI₂期。1310～1316は土師器埴類で、1310～1313は内黒土師器、VI₂～VI₃期。1318～1323は土師器甕類、1324～1326は土師器甗ないし埴の把手で古代の所産。1332はフイゴ羽口である、1333は磁器製の蓋で外面に灰釉、内面は無釉で印籠造り。甕等の保存容器か、骨壺の蓋となるか。1334・1335は鉄滓で形状的に椀形滓になるか。1336は擦り石で端面に摩耗痕を残す。1337・1338はヒノキ材を用いた、箱状の組み物容器か。1339は両面黒漆の漆器椀で樹種はトチノキ。1340～1345は曲物底板。

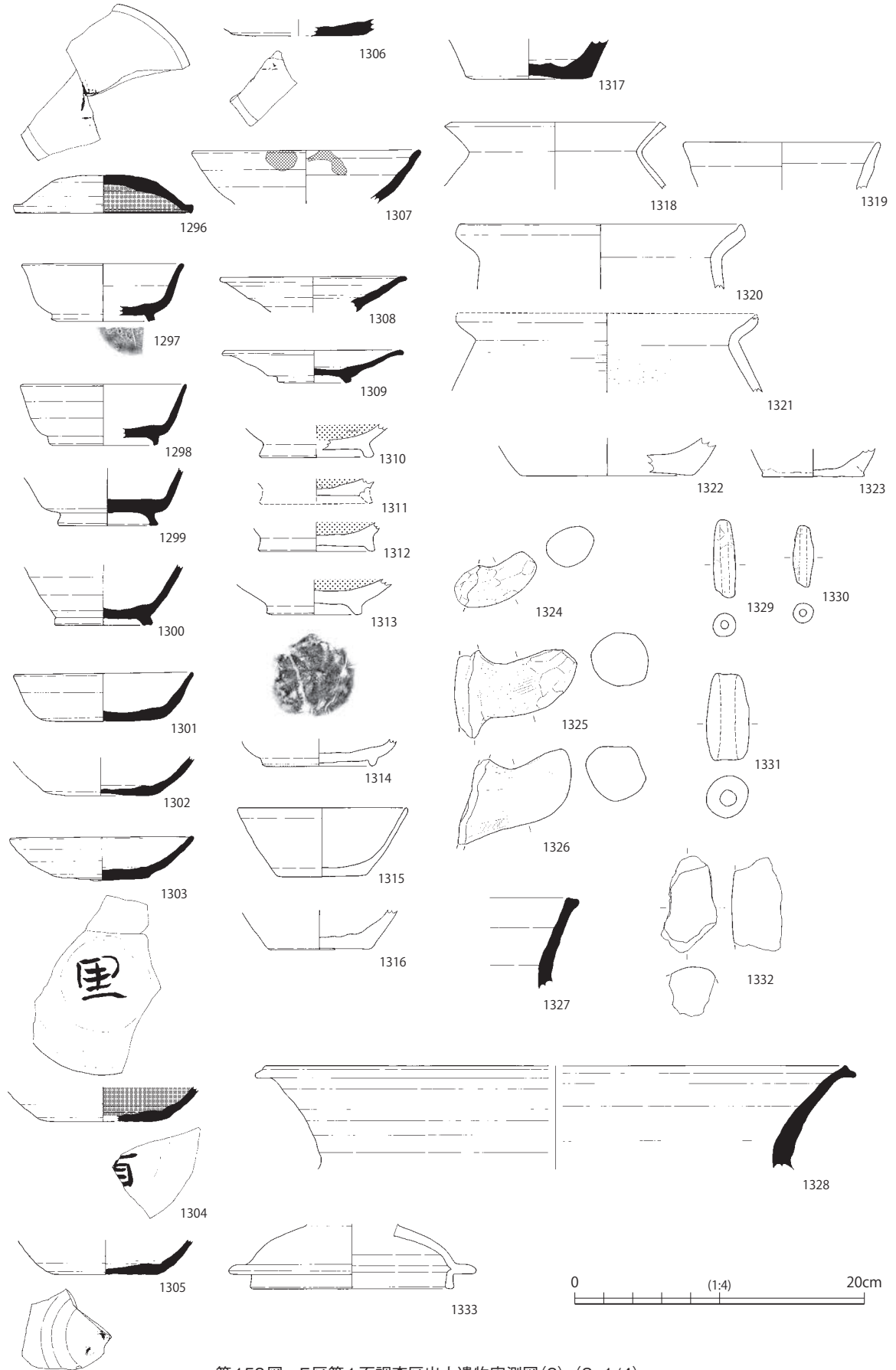
1346～1363は工事立会時の採取品で、ラベルに「工事立会 9区大溝」の記載があるが、埋蔵文化財センター・県文化財課両者とも記録が残らず詳細は不明。出土地点は、第1次調査区C区下7グリッドの大溝出土品と推定する。須恵器有台坏1347は外底面に「英□」とあり、当地の古代郷名である「英太」を記したか。IV₁期。「英太」墨書は加茂遺跡南大溝地区で約30点と多く出土し、時期分布も古代III期～VI期(8世紀初頭～10世紀)と幅広い。須恵器有台坏1348は器高の高い器形で、高台は緑釉土器に見られる有段状の高台を呈する。VI₁期。須恵器無台坏1352は外底面に「万」を墨書、IV₂期。土師器無台坏1340は薄手の作りで、須恵器の器形を模倣したものか。摩耗が著しく調整等不明。須恵器鉢1360は器形などからV期の所産か。



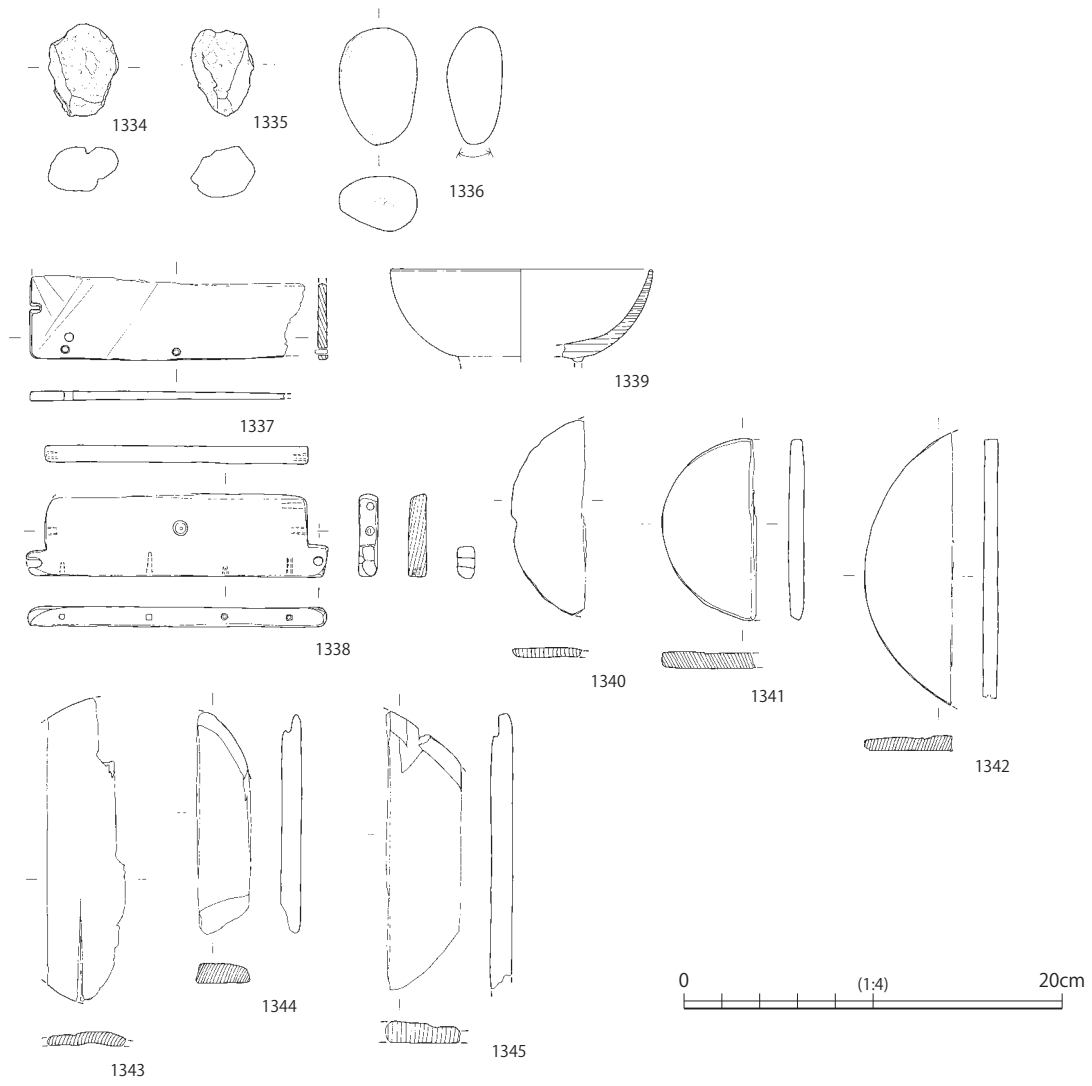
第156図 F区第1面 SK02・03・04、その他の遺構出土遺物実測図(S=1/4)



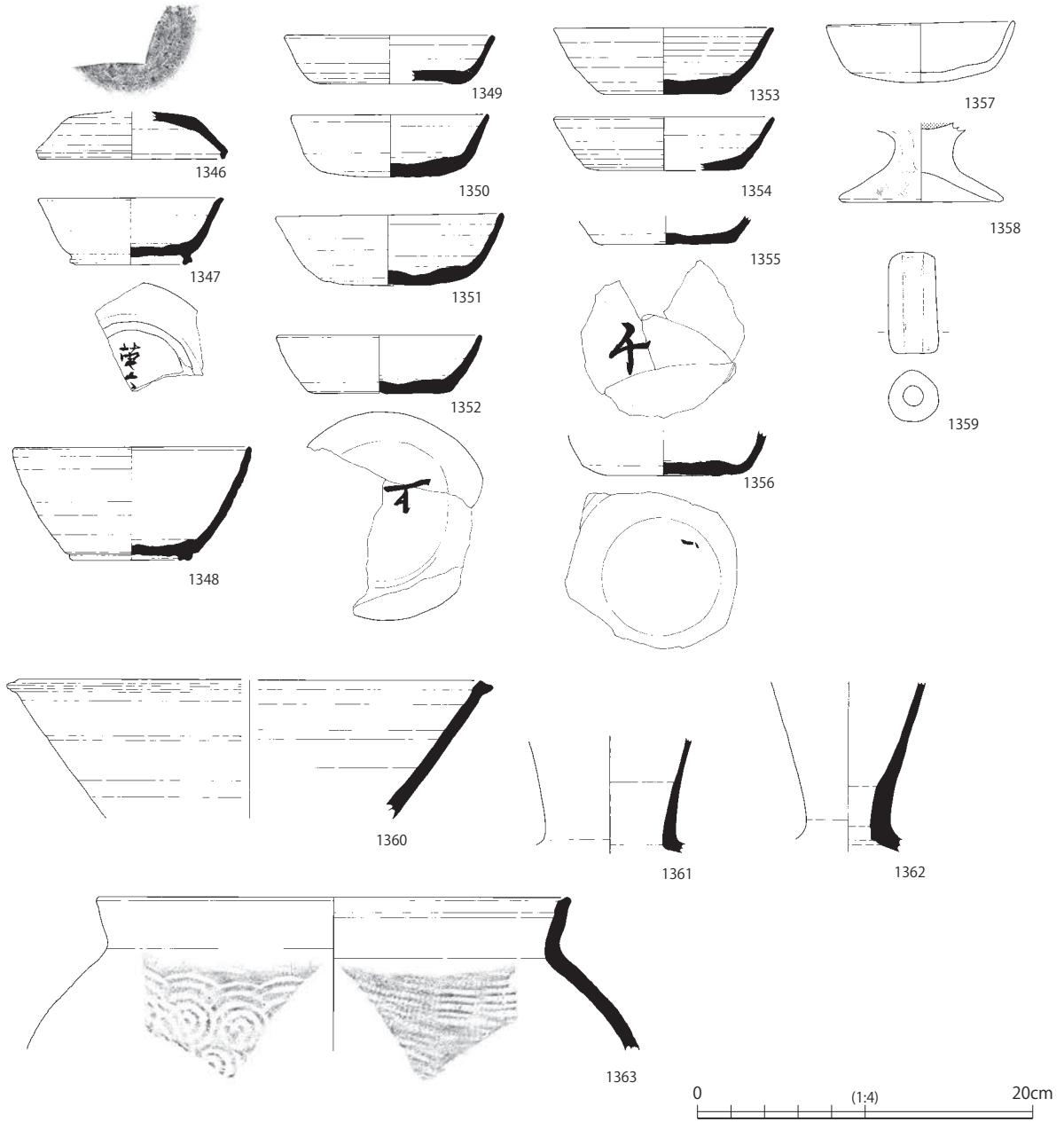
第157図 F区第1面調査区出土遺物実測図(1) (S=1/4)



第158図 F区第1面調査区出土遺物実測図(2) (S=1/4)



第159図 F区第1面調査区出土遺物実測図(3) (S=1/4)



第160図 工事立会(9区大溝) 出土遺物実測図(S=1/4)

| 種別 番号 | 遺物 番号 | グリッド | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土 分類 | 胎土 特徴 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 時期 | 実測 番号 |
|----------|----------|-------------------------|--|-------|------|------------|------------|-------------|-------|-------|----------|------------------------|----|-----------------|---------------------|-----------------|---------------------|-------------|----------|
| 151 | 1212 | - | 確認トレンチ2 中央～北 | 須恵器 | 無台碗 | - | 8.5 | (2.5) | 灰 | 灰 | Db-3 | 粗砂粒多・礫 | 還硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、ヘラ切り | 底19/36 | 外底面黒書不明、内外面一部平滑 | IV2 | D-22 |
| 1213 | - | - | 確認トレンチ2中央～北 | 須恵器 | 無台碗 | 12.2 | 8.7 | 2.9 | 灰 | 灰 | Db-3 | 細砂・粗砂・礫を含む | 還硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、ヘラ切り | 口2/36 | - | IV2 | D-267 |
| 1214 | - | - | 確認トレンチ3敷敷付近 | 内黒土師器 | 無台碗 | - | 6.4 | 1.6 | 黒 | 浅黄 | a-4 | 細砂・粗砂含む、海綿骨針多く含む | 良 | ナデ、ミガキ、磨耗 | ロクロナデ、糸切り | 底20/36 | 内黒 | V2～3 | D-268 |
| 1215 | - | - | 確認トレンチ2 敷敷より北側 | 土師器 | 無台碗 | - | 6.3 | 2.1 | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-3 | 細砂・粗砂・海綿骨針含む | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ、糸切り | 底36/36 | 接合痕あり | V2～3 | D-322 |
| 151 | 1216 | - | 確認トレンチ2中央 確認トレンチ2中央～北 | 土師器 | 壺 | 20.2 | 8.0 | 5.7 20.0 | 灰黄褐 | 灰黄褐 | a-3 | 細砂・粗砂・礫、海綿骨針含む | 良 | ナデ、ハケ | ナデ、ハケ | 口8/36 | 内面底部炭化物付着、外面スス付着 | 古墳 | D-321 |
| 151 | 1217 | - | 確認トレンチ 南側砂層以下 | 土師器 | 壺 | 12.6 | - | 2.8 | 灰黄褐 | にぶい橙 | a-3 | 細砂・粗砂・海綿骨針含む | 良 | ヨコナデ、ハケ | ヨコナデ、ナデ | 口4/36 | - | 古墳 | D-323 |
| 151 | 1218 | - | 確認トレンチ3敷敷付近 | 土師器 | 甗か | - | - | (7.5) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 | 細砂・粗砂・礫、海綿骨針・赤色炭並少量含む、 | 還硬 | ナデ | ハケ、ス、ケズリ | - | - | D-262 | |
| 151 | 1219 | - | 確認トレンチ2中央～北 確認トレンチ2中央～南砂層 敷出部・側溝 | 土師器 | 甗か | - | 17.0 | 7.2 | 橙 | にぶい橙 | b-3 | 細砂・粗砂・礫を含む | 良 | ハケ、ヨコナデ | ナデ、ヨコナデ | 底10/36 | 時期不詳、古墳後期? | D-261 | |
| 153 | 1228 | P-42・ 43 | 水田 | 土師器 | 無台碗 | - | 6.1 | 1.0 | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 | 細砂・粗砂・海綿骨針含む | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ、ナデ、ヘラ切り | 底13/36 | - | VI | D-271 |
| 153 | 1229 | P-42・ 43 | 水田 | 内黒土師器 | 有台碗 | - | 7.1 | 1.8 | 黒 | 浅黄橙 | a-4 | 細砂・粗砂・海綿骨針含む | 良 | ミガキ | ナデ | 底36/36 | 内黒、接合痕有り | VI | D-270 |
| 153 | 1230 | Q-44 | 水田 | 内黒土師器 | 碗 | 13.7 | - | 3.2 | 黒 | にぶい黄橙 | b-3 | 細砂・粗砂を含む | 良 | ミガキ | ミガキ、ハケ | 口10/36 | 内黒、黒斑あり | VI | D-273 |
| 153 | 1231 | P-42・ 43 | 水田 | 内黒土師器 | 無台碗 | - | 6.2 | 2.0 | 黒 | 灰黄 | b-3 | 細砂・粗砂・海綿骨針含む | 良 | ミガキ、ナデ | ロクロナデ、糸切り | 底36/36 | 内黒 | V2～3 | D-269 |
| 153 | 1232 | Q-44 | 水田 | 須恵器 | 甗 | - | - | 13.3 | 灰 | 灰 | Db-3 | 細砂・粗砂・礫を含む | 還硬 | タタキ | タタキ | - | - | D-272 | |
| 153 | 1233 | Q-43 | 水田 | 須恵器 | 甗 | - | - | 5.1 | 灰 | 灰 | Db-3 | 細砂・粗砂・礫を含む | 還硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、斜行別点 エキザミ | - | - | 5世紀中 ～後半 | D-275 |
| 153 | 1234 | P-43 | 7F1SK01覆土 | 須恵器 | 坏 | 12.6 | - | 4.4 | 黄灰 | 灰 | Db-1 | 細砂・粗砂僅かに含む | 還硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | 口11/36 | - | V | D-239 |
| 156 | 1242 | P-43 | 7F1SK02・03覆土 | 須恵器 | 有台碗 | - | 7.5 | 2.1 | 灰白 | 灰白 | Xb-1 | 細砂含む | 還硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、回転ヘラ 切り、ナデ | 底18/36 | 高松近辺の窯か、断面三角形の矮小な高台 | V3 | D-232 |
| 156 | 1243 | P-43 | 7F1SK02・03・04覆土 包含層 | 須恵器 | 無台碗 | 13.2 | 6.2 | 3.3 | 灰 | 灰 | Xb-1 | 細砂・粗砂僅かに含む | 還硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、回転ヘラ 切り | 口13/36 | 高松近辺の窯か | V2～3 | D-229 |
| 156 | 1244 | P-43 | 7F1SK02・03覆土 | 土師器 | 有台皿 | - | 7.2 | 1.5 | にぶい橙 | にぶい橙 | b-3 | 細砂・粗砂僅かに含む | 良 | ナデ、磨耗 | ナデ、磨耗 | 底17/36 | - | V2～3 | D-235 |
| 156 | 1245 | P-43 | 7F1SK02・03覆土 | 内黒土師器 | 有台碗 | - | - | 1.3 | 黒 | にぶい黄橙 | b-3 | 細砂・粗砂含む | 良 | 磨耗 | ロクロナデ | - | - | D-311 | |
| 156 | 1246 | P-43 | 7F1SK02・03覆土 | 土師器 | 有台碗 | - | 6.2 | 1.7 | 橙 | 橙 | b-3 | 細砂・粗砂多く含む、礫僅かに含む | 良 | ナデ | ロクロナデ、回転糸切り | 底2/36 | 接合痕あり | V2～3 | D-312 |
| 156 | 1247 | P-43 | 7F1SK02・03覆土 | 内黒土師器 | 無台碗 | 12.7 | 5.6 | 3.0 | 黒 | にぶい黄橙 | b-3 | 細砂含む | 良 | ヨコナデ、ミガキ、 内黒 | ヨコナデ、ナデ | 口15/36 | - | V2 | D-314 |
| 156 | 1248 | P-43 | 7F1SK02・03覆土 | 土師器 | 無台碗 | - | 6.3 | 1.1 | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-3 | 細砂・粗砂含む | 良 | ナデ | ナデ、回転糸切り | 底19/36 | - | V2～3 | D-234 |
| 156 | 1249 | P-43 | 7F1SK02・03覆土 | 土師器 | 無台皿 | - | 4.8 | 1.0 | 淡橙 | 淡橙 | b-3 | 細砂・粗砂含む | 良 | ナデ、磨耗 | ナデ、磨耗、回転糸切り | 底36/36 | - | V2～3 | D-236 |
| 156 | 1250 | P-43 | 7F1SK02・03覆土 | 土師器 | 無台皿 | - | 5.9 | 1.1 | にぶい橙 | 浅黄橙 | a-4 | 細砂・粗砂・海綿骨針含む | 良 | ナデ、磨耗 | ナデ、磨耗 | 底36/36 | - | VI | D-238 |
| 156 | 1251 | P-43 | 7F1SK02・03覆土 | 土師器 | 無台皿 | 13.4 | 5.1 | 2.9 | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 | 細砂・粗砂含む、礫僅かに含む | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ、回転糸切り | 口1/36 底36/36 | - | V2～3 | D-233 |
| 156 | 1252 | P-42・43 O-43 Q-44 | 7F1SK02・03覆土 検出部・側溝 脆茶灰色砂層入り層 | 須恵器 | 長胴埴か | 21.6 | - | (17.4) | 灰 | 灰 | Da-3 | 細砂・海綿骨針並、粗砂・礫少 | 還硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、カキメ | 口3/36 | 内面口縁部炭灰、外面肩部炭灰 | D-246 | |
| 156 | 1253 | P-43 | 7F1SK02・03覆土 | 須恵器 | 甗類 | 16.7 | - | 2.3 | 灰 | 灰 | Db-1 | 細砂・粗砂含む | 還硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | 口5/36 | 内面炭灰 | D-318 | |
| 156 | 1254 | P-43 | 7F1SK02・03覆土 | 土師器 | 土埴 | 最大長 4.1 | 最大幅 1.3 | 孔径 0.4 | - | 浅黄橙 | b-1 | 細砂含む | 良 | - | ナデ | - | 高さ1.3cm、重さ4.87g | D-310 | |

第78表 F区第1面土器観察表1

| 種別 番号 | 遺物 番号 | クリッド | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色调 | 外面色调 | 胎土 分類 | 胎土 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 時期 | 実測 番号 |
|----------|----------|-----------|--------------|-----------|-----|------------|------------|------------|-------|-------|----------|-------------------------|----|-----------------|--------------------|------------------|----------------------|-----------|----------|
| 156 | 1255 | P-43 | 7F1SK02.03覆土 | 弥生土器 | 壺 | 25.0 | - | 4.3 | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-4 | 細砂・粗砂粒多含 | 良 | ナデ | ヨコナデ、ハケ | □4/36 | 有段口縁、外面麻付着 | | C-588 |
| 156 | 1256 | P-43 | 7F1SK02.03覆土 | 弥生土器 | 高坏 | - | - | 5.0 | 黄橙 | 黄橙 | b-3 | 細砂・粗砂粒・礫含 | 良 | ナデ | ナデ | - | - | 月影 | C-589 |
| 156 | 1257 | P-43 | 7F1SK02.03覆土 | 土師器 | 小壺 | 12.7 | - | 4.5 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 | 粗砂・礫・海綿骨針含む | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | - | - | Ⅱ～Ⅱ | D-316 |
| 156 | 1258 | P-43 | 7F1SK02.03覆土 | 土師器 | 甕 | 12.5 | - | 9.3 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-3 | 細砂・粗砂・海綿骨針含む、 礫僅かに含む | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ハケ | □3/36 | 接合痕あり、内外面一部に黒 斑あり | Ⅱ～Ⅱ | D-315 |
| 156 | 1259 | P-43 | 7F1SK02.03覆土 | 土師器 | 鉢 | - | 2.2 | 3.7 | 灰 | 浅黄橙 | b-4 | 粗砂・礫多含む | 良 | ナデ、麻耗 | ナデ、麻耗 | 底36/36 | - | 不明 | D-237 |
| 156 | 1260 | P-43 | 7F1SK02.03覆土 | 土師器 | 高坏 | - | - | 9.1 | 橙 | 橙 | b-3 | 細砂・粗砂粒含 | 良 | ナデ、磨耗著しく調整不明瞭 | ナデ、磨耗著しく調整不明瞭 | - | - | 法弘 | C-586 |
| 156 | 1261 | P-43 | 7F1SK02.03覆土 | 弥生土器 | 蓋 | - | 2.8 | 3.8 | にぶい橙 | にぶい橙 | b-3 | 細砂・粗砂粒多含 | 良 | ナデ | ナデ | - | - | | C-587 |
| 156 | 1262 | P-43 | 7F1SK02.03覆土 | 弥生土器 | 鈕 | 3.1 | - | 1.6 | - | 橙 | b-3 | 細砂・粗砂含む、赤彩 | 良 | - | ナデ、ヨコナデ、ミガキ 赤彩 | つまみ 36/36 | - | 月影 | D-313 |
| 156 | 1263 | P-43 | 7F1SK03付近 | 内黒 土師器 | 有台皿 | - | 7.9 | 1.5 | 黒 | 浅黄橙 | b-4 | 細砂・粗砂・海綿骨針含む | 良 | ミガキ、内黒 | ナデ、ヨコナデ | 底3/36 | - | Ⅵ | D-317 |
| 156 | 1264 | P-43 | 7F1SK03付近 | 弥生土器 | 小型鉢 | - | - | 4.3 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 | 粗砂・礫含む | 良 | ヨコナデ、ミガキ、 赤彩 | ヨコナデ、ハケ後ナデ、 ナデ | - | 内外面赤彩 | 月影 | D-231 |
| 156 | 1265 | P-43 | 7F1SK04覆土 | 土師器 | 有台碗 | - | - | 1.7 | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-3 | 細砂・粗砂・礫含む | 良 | ナデ、麻耗 | ナデ、麻耗 | - | 接合痕有り | Ⅵ | D-228 |
| 156 | 1266 | P-43 | 7F1SK04覆土 | 須恵器 | 瓶類 | - | 9.0 | 4.8 | 灰 | 灰 | Db-3 | 細砂・粗砂含む | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ、ハラ切り | 底5/36 | - | | D-319 |
| 156 | 1267 | P-43 | 7F1SK02.04覆土 | 須恵器 | 鉢 | 24.8 | - | 5.9 | 浅黄橙 | 灰白 | Db-3 | 細砂・粗砂含む、礫僅かに 含む | 軟軟 | ヨコナデ | ヨコナデ | □3/36 | - | | D-230 |
| 156 | 1268 | - | 7F1SD01覆土 | 須恵器 | 环H身 | - | - | 2.9 | 灰 | 灰 | D7b-3 | 細砂・粗砂・礫・石英含む | 選硬 | ロクロナデ | ハラケズリ、ナデ、 ロクロナデ | 3/36 | 高松窯に似た胎土 | Ⅱ～Ⅱ | D-307 |
| 156 | 1269 | R-45 | 中河内溝ク土 | 弥生土器 | 壺 | 14.0 | 7.6 | 27.1 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | | 細砂・粗砂並置含、海綿骨 針少量含 | 良 | 縁彩文、ハケメ、ナ デ | ヨコナデ、ハケメ、 ナデ | □7/36 底22/36 | 外面一部に黒斑(復元35) | | A-41 |
| 157 | 1270 | Q-44 | 暗茶灰色砂礫混じり層 | 弥生土器 | 有孔鉢 | 17.6 | 2.1 | 13.2 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 | 細砂・粗砂粒・礫・海綿骨 針 | 良 | ケズリ後ナデ | ヨコナデ、ハケ後ナデ、 ナデ | 底36/36 | 内外面磨耗、外面黒斑、底部孔 あり | 月影 | C-598 |
| 157 | 1271 | Q-44 | 暗茶灰色砂礫混じり層 | 土師器 | 甕 | (29.0) | - | (35) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 | 細砂・粗砂粒並、赤色粒・ 海綿骨針少量 | 良 | ハケ | ハケ | □2/36 | 内外面磨耗 | 古銅後期 | C-599 |
| 157 | 1272 | Q-44 | 暗茶灰色砂礫混じり層 | 弥生土器 | 甕か | - | 3.7 | 1.8 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 | 細砂・粗砂粒・海綿骨針含 | 良 | ナデ | ナデ | 底完形 | 確認トレンチ2-1の新33 層? | | C-585 |
| 157 | 1273 | Q-44 | 暗茶灰色砂礫混じり層 | 土師器 | 甕 | - | - | 4.5 | にぶい黄橙 | 浅黄橙 | b-3 | 細砂・粗砂含む | 良 | ナデ | ナデ | - | - | | D-306 |
| 157 | 1274 | O~P-43 | 黒褐色土 検出面 | 須恵器 | 無台坏 | 12.0 | 9.0 | 3.3 | 灰黄 | 灰黄 | Db-3 | 細砂・海綿骨並置、粗砂・ 礫少 | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、ハラ切り | □14/36 底12/36 | 外面口縁磨灰、重ね焼き痕有 り | Ⅳ1新 | D-249 |
| 157 | 1275 | O-43 | 黒褐色土 | 須恵器 | 無台坏 | - | 6.1 | 1.9 | 灰 | 灰 | Db-3 | 細砂・粗砂・海綿骨 針 | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、ハラ切り | 底36/36 | - | V2~V1 | D-305 |
| 157 | 1276 | O-43 | 黒褐色土 | 須恵器 | 环 | 14.4 | - | (4.0) | 黄灰 | 黄灰 | Db-3 | 細砂・海綿骨並置、粗砂・ 礫少 | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | □5/36 | - | V2 | D-250 |
| 157 | 1277 | O-43 | 黒褐色土 | 土師器 | 土錘 | 最大長 3.7 | 最大幅 1.5 | 孔径 0.6 | にぶい橙 | にぶい橙 | a-4 | 細砂・海綿骨針・赤色粒並 、粗砂少 | 良 | - | - | - | 高さ1.3cm、重さ6.0g | | D-251 |
| 157 | 1278 | O~P-42-43 | 第②面茶褐色土中 | 須恵器 | 四耳壺 | 20.0 | - | 44.5 | 灰 | 灰 | Xb-3 | 細砂・粗砂含む | 選硬 | ロクロナデ、タタキ | ロクロナデ、タタキ | □14/36 底36/36 | 産地不詳、加高窯かも? | Ⅱ? | D-252 |
| 157 | 1279 | - | 立ち割り③ | 弥生土器 | 器台 | - | 12.1 | 8.3 | にぶい橙 | にぶい橙 | b-3 | 細砂・粗砂含む | 良 | ナデ、麻耗 | ヨコナデ、ナデ、ミガキ | 底6/36 | - | 月影 | D-274 |
| 157 | 1280 | - | 立ち割り⑥ | 須恵器 | 無台坏 | - | 7.1 | 2.0 | 灰 | 灰 | Db-3 | 細砂含む | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、ハラ切り | 底10/36 | - | Ⅵ | D-279 |
| 157 | 1281 | - | 立ち割り⑥ | 土師器 | 無台坏 | - | 5.2 | 1.0 | 浅黄 | 浅黄 | b-3 | 細砂含む、粗砂僅かに含む | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ、糸切り | 底36/36 | 内面に工具先器による痕跡あ り | Ⅲ3~Ⅶ | D-278 |
| 157 | 1282 | - | 立ち割り⑤ | 土師器 | 土錘 | 最大長 3.5 | 最大幅 1.3 | 孔径 0.4 | - | 灰 | a-3 | 細砂・粗砂・海綿骨針含む | 良 | - | ナデ | - | 高さ1.0cm、重さ3.77g | | D-276 |
| 157 | 1283 | - | 立ち割り⑤ | 須恵器 | 甕 | 27.7 | - | 3.1 | 灰黄褐 | 灰黄褐 | X-b | 細砂・粗砂を含む | 選硬 | ヨコナデ | ヨコナデ | □2/36 | - | 古銅中 後期 | D-277 |

第79表 F区第1面土器観察表2

| 種別 番号 | 遺物 番号 | クリッド | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土 分類 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 時期 | 実測 番号 |
|----------|----------|-----------------|------------------|-----------|-----|-------------|------------|------------|-------|-------|----------|----|----------------|------------------------|------------------|-------------------------------|------|----------|
| 157 | 1284 | - | 縁出面前溝 | 弥生土器 | 壺 | (24.0) | - | (3.4) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-3 | 良 | ヨコナデ | ヨコナデ | □3/36 | 後期後半 | | C-591 |
| 157 | 1285 | P-43 | 縁出面 | 弥生土器 | 壺 | 11.3 | - | 4.5 | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-3 | 良 | ヨコナデ・ハケ | ヨコナデ・ナデ・摩耗 | □9/36 | 受け口状口縁 | 法仏 | D-289 |
| 157 | 1286 | - | 縁出面前溝 | 弥生土器 | 壺 | つまみ径 3.7 | - | - | 淡黄 | 淡黄 | a-3 | 良 | ナデ | ナデ | - | 小型土器(深台)かも | | C-600 |
| 157 | 1287 | - | 縁出面前溝 | 弥生土器 | 高坏 | - | - | - | 橙 | 橙 | a-4 | 良 | ナデ | ナデ | - | 内外面磨耗 | | C-597 |
| 157 | 1288 | O-42, 43 | 包含層 | 弥生土器 | 高坏 | - | 17.6 | 2.0 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 | 良 | ヨコナデ・磨耗著しく調整不明 | ヨコナデ・ナデ後ミガキか、磨耗著しく調整不明 | 底3/36 | - | 月影 | C-590 |
| 157 | 1289 | P~R-42 ~44 | 縁出面 | 土師器 | 高坏 | - | 22.6 | 4.0 | にぶい赤褐 | にぶい赤褐 | a-3 | 良 | 磨耗著しく調整不明 | 磨耗著しく調整不明 | 底3/36 | - | | C-596 |
| 157 | 1290 | O-43 | 縁出面 | 弥生土器 | 高坏 | - | 25.8 | 5.2 | にぶい黄 | 浅黄橙 | a-3 | 良 | ナデか、磨耗著しく調整不明 | ナデか、磨耗著しく調整不明 | 底3/36 | 孔1ヶ所残存(個数不明) | | C-594 |
| 157 | 1291 | P~R-42 ~44 | 縁出面 | 須恵器 | 环H身 | 10.3 | - | 2.5 | 灰 | 灰 | 1-a | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | 8/36 | 観法寺産産? | | D-292 |
| 157 | 1292 | - | 縁出面・側溝 | 須恵器 | 环H身 | 13.2 | 6.2 | 3.4 | 灰 | 灰 | Db-3 | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ・ケズリ、 回転ヘラ切り | □8/36 底13/36 | 外面口縁磨灰 | I2 | D-244 |
| 157 | 1293 | - | 縁出面 | 須恵器 | 腿 | - | - | (10.0) | 灰 | 灰 | x b-4 | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ・ケズリ、 回転ヘラ切り | 網17/36 | 内外面所々に磨灰あり | I2 | D-296 |
| 157 | 1294 | P~R-42 ~44 | 縁出面 | 須恵器 | 提瓶 | - | - | (7.7) | 灰白 | 灰白 | x b-3 | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | - | ボタン状鈕、外面一部磨灰 | I2 | D-294 |
| 157 | 1295 | P-42・43 O-43 | 表土盛土・排水溝中 | 須恵器 | 横瓶 | - | - | - | 灰 | 灰 | Db-3 | 選軟 | 同心円状タタキ | 平行タタキ | - | 外面磨灰、重ね焼き痕あり | | D-285 |
| 158 | 1296 | - | 側溝 | 須恵器 | 环蓋 | 12.0 | - | 2.6 | 灰白 | 灰白 | Db-1 | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ・ヘラ切り | □8/36 | 天井部磨書「□」、内面全面に墨、軽く磨耗、転用痕 | V12 | 墨19 |
| 158 | 1297 | P~R-42 ~44 | 縁出面 | 須恵器 | 有台坏 | 10.9 | 7.1 | 4.9 | 灰 | 灰 | Db-3 | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ・ヘラ切り、 ヘラ記号 | □1/36 底8/36 | - | IV2新 | D-295 |
| 158 | 1298 | - | 縁出面・側溝 | 須恵器 | 有台坏 | 11.4 | 7.6 | 4.2 | 灰 | 灰 | Xb-3 | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ・ナデツケ、 回転ヘラ切り | □6/36 底12/36 | 外面磨灰 | IV2 | D-243 |
| 158 | 1299 | - | 縁出面・側溝 | 須恵器 | 有台坏 | - | 7.0 | - | 灰 | 灰 | Db-3 | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ・ナデツケ、 回転ヘラ切り | 底19/36 | 外面磨灰 | IV1 | D-241 |
| 158 | 1300 | - | 縁出面・側溝 | 須恵器 | 有台坏 | - | 6.8 | - | 灰 | 灰 | Db-3 | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ・ナデツケ、 回転ヘラ切り | 底36/36 | 外面底部磨灰、接合痕有り | 不明 | D-242 |
| 158 | 1301 | - | 縁出面・側溝 | 須恵器 | 無台坏 | 12.2 | 8.8 | 3.4 | 灰 | 灰 | Db-3 | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、回転ヘラ 切り | □27/36 底29/36 | 口縁内外面磨灰 | IV1 | D-245 |
| 158 | 1302 | P~R-42 ~44 | 縁出面 | 須恵器 | 無台坏 | - | 7.9 | (2.7) | 黄灰 | 黄灰 | Bb-1 | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ・ヘラ切り | □19/36 | 底部工具痕あり | | D-291 |
| 158 | 1303 | P~43 | タチウリ7 | 須恵器 | 無台坏 | 12.4 | 6.7 | 3.0 | 灰 | 灰 | Db-3 | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ・ヘラ切り | □6/36 底空形 | 外面磨書「里」 | V12 | 墨18 |
| 158 | 1304 | P~R-42 ~44 | 縁出面 | 須恵器 | 無台坏 | - | 6.8 | (2.4) | 灰 | 灰 | Db-3 | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ・ヘラ切り | 底7/36 | 外面磨書「□」、内面磨書あり、転用痕か、断面割れ口磨書あり | VI | 墨17 |
| 158 | 1305 | - | 側溝 | 須恵器 | 無台坏 | - | 7.4 | (2.4) | 灰白 | 灰白 | Db-3 | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ・ヘラ切り | 底6/36 | 外面磨書不明、内底面やや 平滑 | V12 | 墨20 |
| 158 | 1306 | - | 側溝 | 須恵器 | 無台坏 | - | (9.0) | (1.1) | 灰 | 灰 | Db-1 | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ・ヘラ切り | 底3/36 | 外面不明磨書、内面磨書平 滑で転用痕か | | 墨21 |
| 158 | 1307 | P~R-42 ~44 | 縁出面 | 須恵器 | 环 | 15.6 | - | 3.6 | 黄灰 | 黄灰 | Db-1 | 選軟 | ロクロナデ | ロクロナデ・ヘラ切り | □3/36 | 外面一部油煙あり | | D-293 |
| 158 | 1308 | P-43 | 縁出面 | 須恵器 | 無台皿 | 12.7 | - | 2.4 | 灰白 | 灰 | Db-1 | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | □12/36 | - | V12 | D-288 |
| 158 | 1309 | P~R-42 ~44 | 縁出面 表土盛土・排水溝中 | 須恵器 | 有台皿 | 12.2 | 5.0 | 2.2 | 灰 | 灰 | Db-3 | 良 | ロクロナデ | ロクロナデ・ヘラ切り のちロクロナデ | □2/36 底36/36 | - | V12 | D-287 |
| 158 | 1310 | R-45 | 縁出面 | 内黒 土師器 | 有台椀 | - | 7.8 | (2.2) | 黒 | にぶい橙 | a-3 | 良 | ミガキ、内黒 | ロクロナデ、糸切り | 8/36 | - | VI | D-298 |
| 158 | 1311 | - | 縁出面・側溝 | 内黒 土師器 | 有台椀 | - | - | - | 黒 | 褐灰 | a-4 | 良 | ミガキ | ロクロナデ、回転糸切 り | - | - | VI | D-303 |

第80表 F区第1面土器観察表3

| 種別 | 遺物番号 | グリッド | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 胎土 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 時期 | 実測番号 |
|-----|------|-----------------|-----------|-------|-------|--------------------------|------------------|------------|-------|-------|------|-------------------------|----|------------------------|-------------------------------------|------------------|-----------------------|----------|-------|
| 158 | 1312 | - | 検出面・側溝 | 内黒土師器 | 黒色土器 | - | 最大径8.4 最小径8.0 | - | 黒 | にぶい橙 | a-4 | 石英長石・海綿骨針・赤色粒・雲母 | 良 | ミカキ、摩耗 | 口クロナデ、ナデツツ、 回転糸切り | 底12/36 | 内黒 | VI | D-247 |
| 158 | 1313 | P~R-42 ~44 | 検出面 | 土師器 | 有台碗 | - | 7.8 | 1.2 | 橙 | 橙 | a-4 | 粗砂・礫少、海綿骨針・赤色粒 | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ | 7/36 | - | VI | D-297 |
| 158 | 1314 | - | 検出面・側溝 | 内黒土師器 | 有台碗 | - | 6.6 | (2.4) | 褐灰 | にぶい橙 | a-4 | 細砂・粗砂・海綿骨針・赤色粒少 | 良 | ミカキ、内黒、摩耗 | 摩耗 | 底7/36 | - | VI | D-299 |
| 158 | 1315 | P-42・43 O-43 | 表土盛土・排水溝中 | 土師器 | 無台碗 | 11.6 | 6.2 | 4.8 | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | b-3 | 細砂・粗砂含む、礫僅かに含む | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ、糸切り | 口4/36 底36/36 | - | VI2~3 | D-281 |
| 158 | 1316 | P~R-42 ~44 | 検出面 | 土師器 | 無台碗 | - | 7.2 | (2.6) | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | a-4 | 粗砂・礫少、細砂・海綿骨針・赤色粒 | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ、糸切り | 17/36 | - | VI2 | D-290 |
| 158 | 1317 | P-42・43 O-43 | 表土盛土・排水溝中 | 須恵器 | 瓶類 | - | 8.8 | 2.7 | 灰 | 灰 | Db-3 | 細砂・粗砂含む、礫僅かに含む | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ、へう切り | 底10/36 | 外面一部にスス付着 | | D-283 |
| 158 | 1318 | P~R-42 ~44 | 検出面 | 土師器 | 甕 | 14.4 | - | 4.3 | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-3 | 細砂・粗砂粒・礫含、 b-3、S、IM並 | 良 | ナデ、ナデか一部磨耗 著しく調整不明瞭 | ヨコナデ、ナデ | 口7/36 | 内外面磨耗 | | C-595 |
| 158 | 1319 | Q-44 | 表土盛土 | 弥生土器 | 壺 | 13.2 | - | 3.1 | 灰 | 灰 | a-3 | 細砂・粗砂・礫・海綿骨針含む | 良 | ヨコナデ、ナデ | ヨコナデ、ナデ | 口5/36 | 整形・調整粗雑、不詳 | | D-280 |
| 158 | 1320 | - | 検出面側溝 | 土師器 | 甕 | 19.4 | - | (4.5) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-4 | 細砂・粗砂粒多、礫・赤色粒・海綿骨針少含む | 良 | ヨコナデ、磨耗著しく 調整不明瞭 | ヨコナデ、磨耗著しく 調整不明瞭 | 口5/36 | - | | C-593 |
| 158 | 1321 | - | 検出面側溝 | 土師器 | 甕 | (20.6) | - | (5.4) | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-4 | 細砂・粗砂粒多、礫・赤色粒・海綿骨針少含む | 良 | ハケ、一部磨耗著しく 調整不明瞭 | ヨコナデ、カキ目 | - | 内外面やや磨耗 | | C-592 |
| 158 | 1322 | - | 検出面・側溝 | 土師器 | 底部 | - | 12.0 | (2.6) | にぶい黄橙 | 橙 | a-4 | 細砂・粗砂・海綿骨針・赤色粒少 | 良 | 摩耗 | 摩耗 | 底10/36 | - | | D-301 |
| 158 | 1323 | - | 溝・側溝(西) | 土師器 | 壺 | - | 7.1 | 1.9 | 灰黄褐 | 灰黄褐 | b-4 | 細砂・粗砂含む、礫僅かに含む | 良 | ナデ、磨耗 | ナデ、磨耗 | 底10/36 | 接合痕あり | | D-308 |
| 158 | 1324 | P42~44 O43 | 表土盛土・排水溝中 | 土師器 | 甕 | - | - | - | - | 浅黄橙 | b-3 | 細砂・粗砂含む | 良 | - | ナデ | - | - | | D-320 |
| 158 | 1325 | - | 検出面・側溝 | 土師器 | 甕か塀 | - | - | (6.1) | 黄灰 | にぶい橙 | a-4 | 細砂・粗砂・海綿骨針・赤色粒少 | 良 | ナデ | ハケス、ケズリ | - | - | | D-300 |
| 158 | 1326 | P-42・43 O-43 | 表土盛土・排水溝中 | 土師器 | 甕か | - | - | - | - | 橙 | b-3 | 細砂・粗砂・礫含む、 b-3、SM/L多 | 良 | - | ナデ、ハケ | - | 外面一部スス付着 | | D-286 |
| 158 | 1327 | P-42・43 O-43 | 表土盛土・排水溝中 | 須恵器 | 甕 | - | - | 5.7 | 灰 | 灰 | Db-3 | 細砂・粗砂・礫含む、石英 | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ | - | - | | D-284 |
| 158 | 1328 | - | 検出面・側溝 | 須恵器 | 甕 | (40.0) | - | (8.2) | 灰 | 灰 | Da-3 | 細砂・粗砂並、海綿骨針 | 良 | 口クロナデ | 口クロナデ | 1/36 | 外面磨灰著しい | | D-304 |
| 158 | 1329 | P-42・43 O-43 | 表土盛土・排水溝中 | 土師器 | 土鍾 | 最大長 5.4 最大幅 1.5 | 最大径 1.5 | 孔径 0.5 | - | 浅黄橙 | b-1 | 細砂含む | 良 | - | ナデ | - | 高さ1.65cm、重さ 11.05g | | D-282 |
| 158 | 1330 | - | 検出面・側溝 | 土師器 | 土鍾 | 最大長 4.3 | 最大幅 1.4 | 孔径 0.4 | - | 灰黄 | b-1 | 細砂含む | 良 | - | ハケ、ナデ | - | 高さ1.4cm、重さ6.08g | | D-309 |
| 158 | 1331 | - | 検出面・側溝 | 土師器 | 土鍾 | 最大長 6.1 | 最大幅 2.9 | 孔径 1.1 | - | - | a-3 | 石英長石・海綿骨針・赤色粒 | 良 | - | - | - | 高さ2.9cm、重さ32.6g | | D-248 |
| 158 | 1332 | - | 検出面・側溝 | - | フイコ羽口 | 最大長 6.6 | 最大幅 3.8 | 最大厚 3.5 | 浅黄橙 | 浅黄橙 | a-4 | - | 良 | - | - | - | - | | D-302 |
| 158 | 1333 | - | 検出面・側溝 | 磁器 | 蓋 | - | 14.1 | (4.5) | - | - | - | 素地：色調 灰白、気泡少、織 密 | 良 | 無軸 | 釉：滑みかかったオ リーブ、透明釉、貫入細 かい、薄く均一 | 17/36 | 繋ぎの蓋か、返りあり | 近世 以降 | D-240 |
| 160 | 1346 | - | 工事立会 9区大溝 | 須恵器 | 坏蓋 | 10.9 | - | (2.8) | 灰 | 灰 | Db-3 | 細砂・粗砂並、礫少量含む | 速硬 | 口クロナデ、へう切り | 口クロナデ、へうケズ リ | 口18/36 | 外面磨灰 | VI1新 | D-258 |
| 160 | 1347 | - | 工事立会 9区大溝 | 須恵器 | 有台坏 | 10.8 | 7.2 | 4.0 | 灰 | 灰 | Db-1 | 粗砂粒多、礫微、石ハセ、焼き 配れあり | 速硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、へう切り | 口3/36 底10/36 | 外底面墨書「英□太カ」 | IV1新 | 墨26 |
| 160 | 1348 | - | 工事立会 9区大溝 | 須恵器 | 有台坏 | 7.1 | 7.4 | 6.7 | 灰白 | 灰白 | Db-3 | 礫微、粗砂少、細砂並 | 速軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、へう切り | 口5/36 底36/36 | 有段高台 | VI1 | D-97 |
| 160 | 1349 | - | 工事立会 9区大溝 | 須恵器 | 無台坏 | 12.3 | 9.0 | 2.9 | 灰 | 灰 | Db-3 | 細砂・粗砂並量含む | 速硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、へう切り | 口4/36 底8/36 | - | V1 | D-260 |
| 160 | 1350 | - | 工事立会 9区大溝 | 須恵器 | 無台坏 | 11.6 | 8.6 | 3.7 | 灰白 | 灰白 | Db-3 | 細砂・粗砂・礫を含む | 速軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、へう切り、 ナデ | 口18/36 | - | IV1新 | D-256 |
| 160 | 1351 | - | 工事立会 9区大溝 | 須恵器 | 無台坏 | 13.4 | 8.7 | 4.3 | 灰白 | 灰白 | Db-3 | 細砂・粗砂・礫を含む | 速軟 | 口クロナデ | 口クロナデ、へう切り | 口27/36 | - | IV1古 | D-255 |
| 160 | 1352 | - | 工事立会 9区大溝 | 須恵器 | 無台坏 | 12.0 | 8.5 | 3.5 | 青灰 | 青灰 | Db-3 | 粗砂粒並、礫微、石ハセあり | 速硬 | 口クロナデ | 口クロナデ、へう切り | 口18/36 底18/36 | 外底面墨書「万」 | IV2 | 墨25 |

第81表 F区第1面土器観察表4

| 棟号 | 遺物番号 | グリップ | 出土遺構 | 種類 | 器種 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 内面色調 | 外面色調 | 胎土分類 | 胎土 | 焼成 | 内面調整 | 外面調整 | 遺存率 | 備考 | 時期 | 実測 番号 |
|-----|------|------|-----------|-----------|------|------------|------------|------------|------|------|-------|-----------------------------|----|-----------|-------------|------------------|----------------------|-------|----------|
| 160 | 1353 | - | 工事立会 9区大溝 | 須恵器 | 無台坏 | 13.0 | 8.0 | 4.0 | 灰 | 灰 | Db-3 | 細砂・粗砂・礫を含む | 選軟 | ロクロナデ | ロクロナデ、ヘラ切り | □5/36 | - | IV2 | D-257 |
| 160 | 1354 | - | 工事立会 9区大溝 | 須恵器 | 無台坏 | 13.0 | 9.4 | 3.2 | 灰白 | 灰白 | Db-1 | 細砂・粗砂少量含む、D-b | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、ヘラ切り | □7/36 底10/36 | 重ね焼き痕有り | V1 | D-259 |
| 160 | 1355 | - | 工事立会 9区大溝 | 須恵器 | 無台坏 | - | 8.6 | (1.7) | 灰 | 灰 | Db-1 | 細砂少・粗砂粒少 | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、ヘラ切り | 底30/36 | 外面黒書「千」、外面漆 目圧痕あり | IV2~V | 墨23 |
| 160 | 1356 | - | 工事立会 9区大溝 | 須恵器 | 無台坏 | - | 7.0 | (2.7) | 灰白 | 灰白 | Db-1 | 粗砂粒並、礫微、石ハセあり | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ、ヘラ切り | 底36/36 | 外面黒書「□」、外面漆 付着 | IV1? | 墨27 |
| 160 | 1357 | - | 工事立会 9区大溝 | 土師器 | 無台坏 | 11.1 | 8.2 | 3.6 | 浅黄橙 | 浅黄橙 | b-4 | 細砂・粗砂・赤色粒並少量 含む、b-4、S、M少 | 良 | 摩耗 | 摩耗 | □22/36 底23/36 | 須恵器形状の土師器 | V? | D-263 |
| 160 | 1358 | - | 工事立会 9区大溝 | 内黒 土師器 | 台付碗? | - | 9.4 | (4.7) | 浅黄 | 浅黄 | a-4 | 細砂・粗砂並、海綿骨針・ 赤色粒少 | 良 | 内黒、ミガキ、摩耗 | ナデ、ハケ、ナメ、摩耗 | 底26/36 | 内外面麻粒著しい | | D-355 |
| 160 | 1359 | - | 工事立会 9区大溝 | 土師器 | 土罐 | 最大長 6.0 | 最大幅 3.1 | 孔径 1.2 | - | 橙 | b-3 | 細砂・粗砂含む | 良 | - | ハケ、ナデ、摩耗 | - | 高さ3.05cm、重さ49.7g | | D-264 |
| 160 | 1360 | - | 工事立会 9区大溝 | 須恵器 | 鉢 | (27.4) | - | (8.3) | 灰白 | 灰白 | D7b-1 | 細砂・粗砂少量含む | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | □3/36 | - | V? | D-254 |
| 160 | 1361 | - | 工事立会 9区大溝 | 須恵器 | 瓶類 | - | - | 6.2 | 灰 | 灰 | Db-3 | 細砂・粗砂・礫を含む | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | - | 内面麻灰 | | D-266 |
| 160 | 1362 | - | 工事立会 9区大溝 | 須恵器 | 瓶類 | - | - | 9.4 | 灰 | 灰 | Db-3 | 細砂・粗砂多く含む | 選硬 | ロクロナデ | ロクロナデ | - | - | | D-265 |
| 160 | 1363 | - | 工事立会 9区大溝 | 須恵器 | 甕 | 27.9 | - | 9.1 | 灰白 | 灰白 | Db-3 | 細砂・粗砂・礫を含む | 選軟 | ロクロナデ | ロクロナデ、タタキ | □4/36 | - | | D-253 |

第82表 F区第1面土器観察表5

| 挿図番号 | 遺物番号 | グリッド | 出土遺構 | 種類 | 樹種 | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 備考 | 実測番号 |
|------|------|------|--------------|------|---------------|----------|----------|----------|------------------|------|
| 151 | 1221 | - | 確認トレンチ2 中央 | 不明 | スギ板目 | 12.2 | 5.7 | 1.6 | | 木-46 |
| 151 | 1222 | - | 確認トレンチ2 中央 | 不明 | スギ板目 | 28.8 | 4.4 | 1.25 | | 木-47 |
| 151 | 1223 | - | 確認トレンチ3 板敷南側 | 不明 | スギ削り出し | (27.0) | 3.3 | 3.1 | | 木-45 |
| 151 | 1224 | - | 確認トレンチ3 板敷南側 | 不明 | スギ板目 | (32.3) | 2.2 | 0.9 | | 木-44 |
| 151 | 1225 | - | 確認トレンチ3 板敷南側 | 不明 | スギ追趾目 | 21.4 | 9.0 | 2.5 | | 木-42 |
| 151 | 1226 | - | 確認トレンチ3 板敷南側 | 不明 | スギ板目 | (66.1) | 3.2 | 1.1 | | 木-43 |
| 151 | 1227 | - | 確認トレンチ 板敷南側 | 樺皮 | - | (11.8) | 4.4 | 0.05 | | 木-41 |
| 153 | 1236 | R-42 | 水田面 | 下駄 | クリ分割材 | (16.0) | 7.8 | 3.85 | 一部加工痕あり | 木-16 |
| 153 | 1237 | P-43 | 7F1SK01 覆土 | 不明 | ヒノキ板目 | 12.7 | 1.9 | 1.6 | 第12号木簡。「□□」051形式 | 木-6 |
| 153 | 1238 | P-43 | 7F1SK01 覆土 | 箸 | スギ分割棒状 | 17.1 | 0.8 | 0.5 | | 木-7 |
| 153 | 1239 | P-43 | 7F1SK01 覆土 | 箸 | スギ分割棒状 | 17.0 | 0.8 | 0.4 | | 木-8 |
| 153 | 1240 | P-43 | 7F1SK01 覆土 | 箸 | スギ分割棒状 | 14.6 | 0.7 | 0.5 | | 木-9 |
| 153 | 1241 | P-43 | 7F1SK01 覆土 | 箸 | スギ分割棒状 | 15.7 | 0.7 | 0.5 | | 木-10 |
| 153 | 1242 | P-43 | 7F1SK01 覆土 | (不明) | - | 10.6 | 0.5 | 0.5 | | 木-11 |
| 159 | 1337 | - | 表土削ぎ(黒褐色土) | 不明 | ヒノキ板目 | 4.35 | 14.5 | 0.55 | | 木-22 |
| 159 | 1338 | - | 溝、側溝(西) | 不明 | スギ板目 | 4.4 | 15.85 | 1.05 | | 木-31 |
| 159 | 1339 | - | 表土削ぎ(黒褐色土) | 漆器板 | トチノキ 機木地趾目 | 13.7 | (6.4) | (4.9) | 内外面漆 | 木-21 |
| 159 | 1340 | Q-44 | 暗茶灰色 砂礫混じり層 | (不明) | - | 10.2 | 3.7 | 0.5 | | 木-18 |
| 159 | 1341 | R-45 | 検出面 | 不明 | スギ趾目 | 9.6 | 5.0 | 0.9 | | 木-32 |
| 159 | 1342 | R-43 | 上層 検出面 | 不明 | スギ趾目 | 14.4 | 4.6 | 0.8 | 側面に釘穴か | 木-34 |
| 159 | 1343 | - | 検出面 溝、側溝 | 不明 | スギ趾目 | 15.9 | 4.1 | 0.7 | | 木-52 |
| 159 | 1344 | R-44 | 検出面 | (不明) | - | 11.7 | 2.8 | 1.0 | | 木-53 |
| 159 | 1345 | R-44 | 検出面 | 不明 | スギ趾目 | 14.7 | 3.9 | 1.1 | | 木-54 |

第83表 F区第1面木製品観察表

| 挿図番号 | 遺物番号 | グリッド | 出土遺構 | 種類 | 樹種 | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 備考 | 実測番号 |
|------|------|------------------|----------------|-----|-----|----------|----------|----------|-------|------|
| 151 | 1220 | - | 確認トレンチ2 中央～南砂層 | 石製品 | 紡錘車 | 2.1 | (2.8) | 1.66 | 8.5 | 石36 |
| 159 | 1334 | Q-43 | 黒褐色土 | 鉄製品 | 鉄滓 | 4.9 | 3.7 | 2.3 | 33.6 | 金属4 |
| 159 | 1335 | P-42・43、 O-43 | 表土 | 鉄製品 | 鉄滓 | 4.6 | 3.3 | 2.7 | 39.0 | 金属5 |
| 159 | 1336 | - | 検出面・側溝 | 石製品 | - | 6.2 | 4.2 | 3.0 | 108.0 | 石55 |

第84表 F区第1面石・金属製品観察表

第7章 総括

第1節 第7次調査区の変遷

加茂遺跡第7次調査では、弥生時代～古代の集落跡を検出した。調査範囲は遺跡南半部の北辺にあたるA区、その南側のC・D・K区、遺跡東端にあたるF区である。

遺跡南半部の北辺に位置し、主要地方道高松津幡線の東側にあたるA区では、第1～5面を調査している。古代の遺構面である第1面では、9世紀～10世紀前半の掘立柱建物・土坑・溝から成る集落域を確認している。掘立柱建物4棟は、後述のC・D・K区同様に、2～3棟程度の小規模なセットで配置されたものと推定され、大溝に沿った計画的配置がみられる第6次調査区までの構成とは異なる。また、次節で報告する漆紙文書1点が出土している。建物群が廃絶する10世紀以降は耕作地としての使用に転じ、加茂遺跡の年代の下限にあたる。一方、第2～4面は弥生時代後期～古墳時代前期の遺構面である。主な遺構としては、自然流路(7A2SD202)が調査区を蛇行しており、周囲の集落域から流れ込んだ多量の遺物が出土している。調査区全体としては、当該流路を主体とした集落縁辺部の様相を呈し、溝や土坑等を検出している。最下層となる第5面は弥生時代中期後半にあたり、平地建物を検出している。第5次・第6次調査の下層で検出した当該期の遺構群と連続した集落域だと考えられる。

A区の南側に位置するC・D・K区では、第1面を調査している(第2面は第8～10次で調査しており、後刊にて報告予定)。第1面の遺物の年代は9世紀～10世紀前半にあたる。A区と同様に、掘立柱建物6棟が調査区の西側にあたるC区に集中しており、古代集落域の東端と考える。それより南側は耕作に伴う畝(畝溝状遺構)、およびそれらを切り込みながら北東方向に横断する溝が占めており、第6次調査上層の調査成果と近似している。一方東側のD・K区では、水田面及び遺物が伴わない柱穴列が並ぶが、遺構の性格としては建物の柱穴というより耕作に伴う遺構と推定する。以上より、C・D・K区は9世紀～10世紀前半の加茂遺跡集落域の東端で、A区に連続する北西側の居住域・南西側の生産域・東側の水田域の順に使用されており、これらの調査成果は隣接する調査区に符合する。

加茂遺跡東端にあたるF区では、第1面を調査している。(西側及び第2面以降は第9・10次調査)。第1面は9世紀～10世紀前半にあたり、水田遺構・土坑・溝を検出した。遺跡全体からみれば、古代集落域東側の谷奥に位置しており、加茂遺跡の東限を確認した。

さて、第7次調査の中心となっている9世紀～10世紀の加茂遺跡南半部の性格について、県報告2009では「2期」とし、9世紀初頭～第3四半期における南大溝の埋め立て・付替を画期として、N-15～23°-Wを軸線方位とした建物群が展開した時期と位置付けている。この点において本調査成果は矛盾していないが、一方で大溝近辺にみられる規格性の強い建物群に比して、2～3棟の小規模な建物のセットが配されており、古代集落東限の様相を明らかにしている。

本調査から20年余りが経過している現在、加茂遺跡一帯の膨大な調査成果の整理を徐々に進めつつあり、県内の他の遺跡の動向についても新たな情報が累積している。加茂遺跡は調査区割や土層が比較的複雑なため、まず多量の調査成果を整理する点で非常に困難だと筆者自身は感じるが、国史跡及びその周辺を含めた一帯の調査が、当該地域の歴史を知る上でどれほど重要な位置にあるかは述べるまでもない。後続する成果報告に期待するとともに、遺跡一帯の調査成果を踏まえた歴史的空間を復元し、明瞭な形で地域に還元することを目指したい。

第2節 加茂遺跡出土漆紙文書

加茂遺跡では、これまで計2点の漆紙文書が出土している。漆紙文書とは、反故紙を漆容器の蓋紙として再利用したもので、付着した漆により廃棄後も土中で遺存した出土文字資料である。行政文書等として使用・保管されたのち、漆工房等に払い下げられて蓋紙として再利用・廃棄された遺物であり、元来の文書としての文字情報と、漆利用に関係する性格の両方を兼ね備える。

今回報告する加茂遺跡7次調査出土の漆紙文書は、A区第1面の土坑(7A1SK07)から出土している(第4章参照)。文字が記載された面を内側にして谷折りにした状態で出土しており、展開した状態で実測・赤外線カメラによる撮影を行った。裏面に文字はみえない。復元径は約20cmで漆紙文書としては中型にあたり、漆の運搬・保管に用いられた木製の曲物の蓋紙として使用されたものと推定される。釈読に際して、平川南氏(現・大学共同利用機関法人人間文化研究機構長)の指導を受けた。釈文には、人名と思われる「公□万呂」、稲等の石高を示す「石一斗」の記載がみえ、徴税に係る行政文書だと考えられる。さらに「天長九年」(832年)、「承和貳」(835年)と二つの年号が記されており、本史料の使用年代を推定できる。これらの年号を土器編年(第7表)の推定年代に照らせば、「天長九年」(832年)、「承和貳(年)」(835年)はV₂期に該当する。同遺構から出土した須恵器はVI₁期(9世紀後葉)・VI₂期(9世紀末～10世紀初頭)にあたり、文書の使用年代と土坑の廃棄年代との間には少なくとも数十年の時差がみとめられる。

さて、古代における加茂遺跡の性格については、県報告2018にて「郡雑人の(在地統治の)拠点」という見通しがなされている。三浦純夫が指摘した「田領が駐在する郡衙(郡役所)の出先機関」、出越茂和による「加賀郡田領文部氏の統治施設」といった具体像の想定に基づき整理したものである。本遺跡には官衙の様相をもつ南側のエリアと、私的な様相をもつ北側のエリアが存在し、機能分化に伴う二面性をもつ地方拠点であったとしている。漆紙文書が出土したA区は平安時代前期の集落地・耕作地であり、遺跡全体からみれば南半部の北辺に位置する。

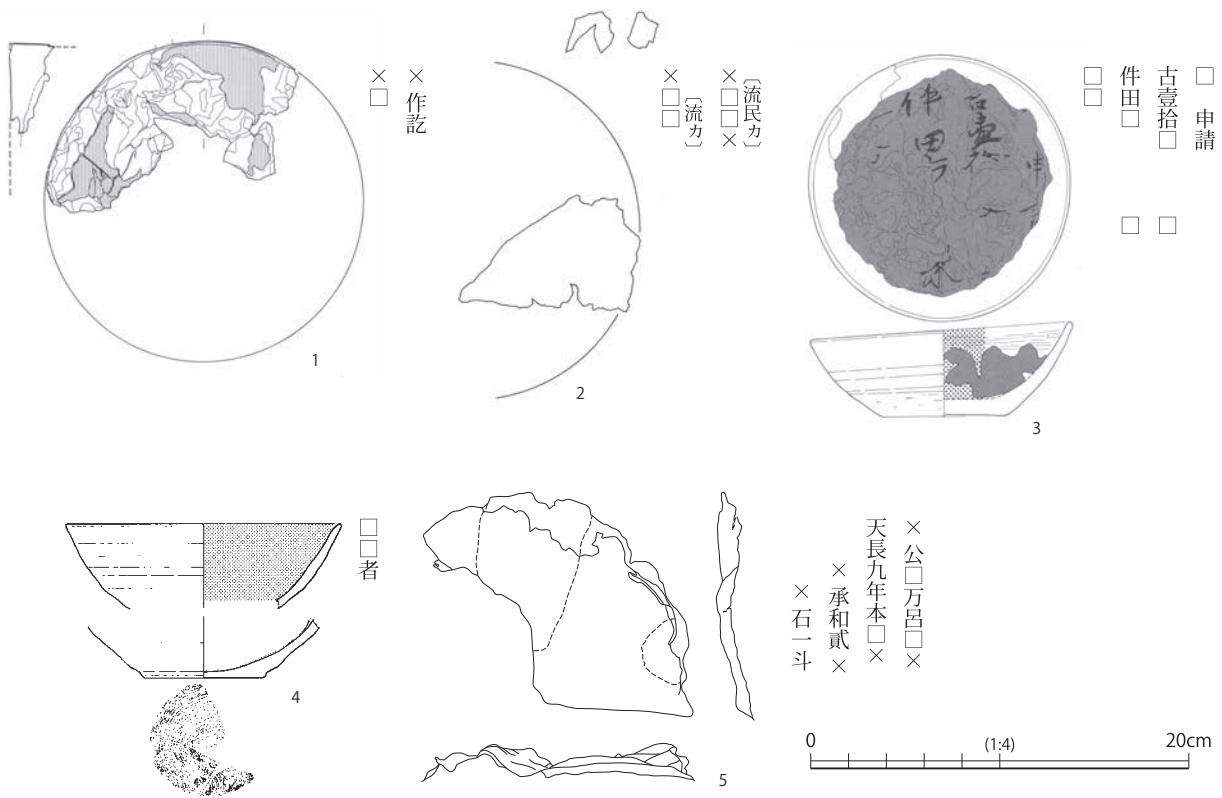
以上により本漆紙文書については、郡が管理していたと思われる9世紀中頃の徴税に係る行政文書が、郡雑人等により加茂遺跡にもたらされ、漆の保管容器の蓋紙として使用されたのち、10世紀初頭頃に官衙のエリア東隅の土坑に廃棄されたという一連の流れを想定する。漆の保管・使用の具体像、共伴遺物との時期差等、本遺物からのみでは語りえない課題が多々あるのは言うまでもないが、木簡・墨書土器、漆付着土器、そして当該期の遺物や遺構といった全体を俯瞰すれば、より明確な位置付けが可能となる。自身の力量不足を痛感しているが、自戒の念を込めて今後の課題とし、及ばずながら結びにかえたい。

〔引用・参考文献〕

- 石川県埋蔵文化財センター1993『石川県金沢市戸水C遺跡 平成2・3年度発掘調査報告書』
 石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター2009『津幡町 加茂遺跡Ⅰ』
 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター2018『津幡町 加茂遺跡・加茂窯跡群』
 石川県教育委員会・(公財)石川県埋蔵文化財センター2021『津幡町 加茂遺跡Ⅱ』
 金沢市・金沢市教育委員会2016『金沢市大友A遺跡』
 平川南・(財)石川県埋蔵文化財センター2001『発見! 古代のお触れ書き 石川県加茂遺跡出土加賀郡勝示札』
 平川南『漆紙文書の研究』1989 吉川弘文館
 古尾谷知浩2014『漆紙文書と漆工房』名古屋大学出版会



第161図 古代掘立柱建物分布図(S=1/2,000)



| 番号 | 遺跡名 | 出土遺構 | 容器 | 備考 | 報告番号 | 出典 |
|----|-------|-----------------|--------|------------|------------|----------|
| 1 | 戸水C遺跡 | S56-F2区包含層 | 曲物 | 曲物側板と底板に付着 | 第69図-第1号文書 | 県立埋文1993 |
| 2 | 戸水C遺跡 | S57-SD27 | 不明 | | 第69図-第2号文書 | 県立埋文1993 |
| 3 | 大友A遺跡 | E12-3区 (SD3002) | 内黒土師器塚 | 塚内面に付着 | 第115図-882 | 金沢市2016 |
| 4 | 加茂遺跡 | 94-SX43 | 内黒土師器塚 | 塚内面に付着 | 第208図-2699 | 財埋文2009 |
| 5 | 加茂遺跡 | 7A1SK07 | 木製容器か | | 第22図-25 | 本書 |

第162図 県内出土漆紙文書集成(S=1/4)



第163図 加茂遺跡古代遺構図 (S=1/2,000)



完掘状況(調査区西半部 南から)



完掘状況(調査区東半部 南西から)



遺構検出状況(調査区西半部 南から)



遺構検出状況(調査区北西部 北から)



遺構検出状況(調査区南西部 南から)



遺構検出状況(調査区中央部 南から)



遺構検出状況(調査区東半部 南から)



完掘状況(調査区北西部 南から)



完掘状況(調査区西半部 南から)



完掘状況(調査区南西部 南から)



完掘状況(調査区中央部 南から)



完掘状況(調査区東部 南西から)



SB112 (P107) 土層断面(東から)



SB113 (P116) 土層断面(東から)



SB114 (P141) 土層断面(南から)



SB114 (P153) 土層断面(南から)



SK07 土層断面(南から)



SK07 完掘状況(南から)



SK12~14 半裁状況(北西から)



SK12 土層断面(西から)



SK13 土層断面(西から)



SK10、SD91 土層断面(西から)



P105 土層断面(南から)



P110、P167土層断面(北から)



P111土層断面(東から)



P130土層断面(南から)



P133土層断面(南から)



P136土層断面(南から)



P139土層断面(北から)



P142土層断面(東から)



P142遺物出土状況(東から)



P150土層断面(南から)



P151土層断面(西から)



SD52遺物出土状況(西から)



SD66(西)土層断面(南から)



SD66(東)土層断面(西から)



SD69土層断面(東から)



P152、SD114土層断面(北から)



旧耕作土遺物出土状況(東から)











完掘状況(垂直)



SD202(中央)完掘状況(南から)



完掘状況(調査区東半部 南から)



完掘状況(調査区西半部 南から)



遺構検出状況(調査区南西部 南東から)



遺構検出状況(調査区南西部 南西から)



P201 土層断面(南から)



P202 土層断面(南から)



SD202 東アゼ土層断面(南東から)



SD202 西アゼ土層断面(西から)



SD202(中央) 完掘状況(東から)



SD201 完掘状況(東から)



SD202遺物出土状況(北東から)



SD202(上層)遺物出土状況(南から)



SD202(上層)遺物出土状況(西から)



SD202(上層)遺物出土状況(北から)



SD202(上層)遺物出土状況(北から)



SD202 (西側・下層)遺物出土状況(南から)



SD202 (中央・最下層)遺物出土状況(北西から)全体



SD202 (中央・最下層)遺物出土状況(北西から)



SD202 (中央・最下層)木製品出土状況(南西から)



SD202 (東側・最下層)遺物出土状況(北西から)



SD202 (西側・最下層)遺物出土状況(東から)



SD202 (西側・最下層)遺物出土状況(西から)



SD202 (西側・最下層)遺物出土状況(西から)



SD202 遺物出土状況(南から)



SD202 (中央・最下層) 遺物出土状況(北西から)



SD201 土層断面(西から)



SD201 土層断面(北から)



SD203、204 完掘状況(北東から)



SD203 土層断面(西から)



SD204 土層断面(西から)



SD205 土層断面(南西から)



























完掘状況(南から)



遺構検出状況(調査区北西部 南から)



遺構検出状況(調査区中央部 北東から)



遺構検出状況(調査区東半部 北西から)



遺構検出状況(調査区東部 東から)



土層断面 h (東から)



土層断面 g (東から)



土層断面 c (西から)



土層断面 d (南から)



SK302土層断面(東から)



SK302完掘状況(北東から)



SK303土層断面(西から)



SK303焼土面(西から)



SD308、SD309土層断面(西から)



SD308土層断面(西から)



SD308遺物出土状況(北から)



SD308遺物出土状況(上層② 西から)



SD308遺物出土状況(上層③～⑤ 北から)



SD308遺物出土状況(上層⑥ 北から)



SD308遺物出土状況(下層①② 北から)



SD202、トレンチ2土層断面(西から)



SD307土層断面(西から)



SD310土層断面(南から)



SD311遺物出土状況(北から)



SD312土層断面(北から)



SD315遺物出土状況(西から)



SD317遺物出土状況(南から)



SD320遺物出土状況(西から)



SD321完掘状況(西から)



第3面溝内遺物出土状況(P-25区 東から)



第3面検出面遺物出土状況(北から)



第3面焼土遺構遺物出土状況(北から)



第3面炭化物集中地点(西から)



第4面遺構検出状況(調査区北西部 北から)



第4面遺構検出状況(調査区北部 北東から)



第4面遺構検出状況(調査区東部 西から)



第4面完掘状況(調査区北西部 北から)











完掘状況 (調査区北部 北から)



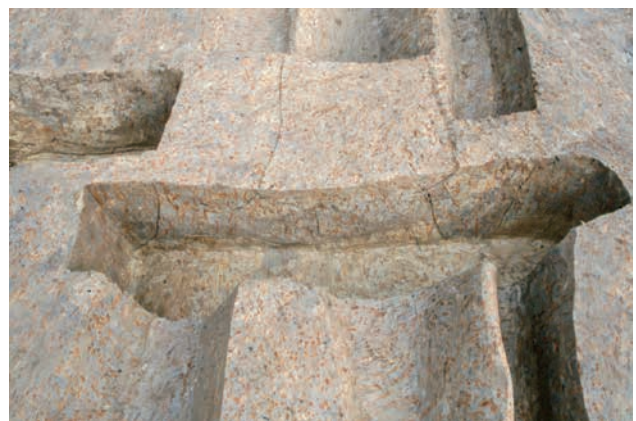
完掘状況 (調査区北部 北から)



完掘状況 (調査区北部 南西から)



SD403 (南から)



SD411・412・409土層断面(西から)



完掘状況(垂直)



完掘状況(北西から)



完掘状況(調査区南東部 垂直)



完掘状況(調査区南東部 東から)



完掘状況(調査区中央部 北西から)



完掘状況(北西部 東から)



遺構検出状況(調査区南東部 東から)



遺構検出状況(調査区東部 西から)



遺構検出状況(調査区中央部 北から)



遺構検出状況(調査区北部 南から)



遺構検出状況(調査区中央部 西から)



遺構検出状況(調査区南東部 東から)



遺構検出状況(O・P-27区 北から)



遺構検出状況(P-27・O-28区 北から)



平地建物 SI501 完掘状況(南西から)



平地建物 SI501 完掘状況(北西から)



平地建物 SI501a環 P716柱根出土状況(北から)



平地建物 SI501a環 P711柱根出土状況(北から)



平地建物 SI501a環 P709柱根出土状況(北から)



平地建物 SI501b環 SK522,SD505土層断面(西から)



平地建物 SI501c環 P717枕木出土状況(北から)



平地建物 SI501c環 P704枕木出土状況(北から)



平地建物 SI501c環 P715枕木出土状況(北から)



平地建物 SI501d環 P712枕木出土状況(北から)



平地建物 501d環 P659柱根出土状況(南から)



平地建物 SI501 外周溝 SD501 内焼土坑(南から)



P631 土層断面(北から)



SK502 土層断面(南東から)



SK506 土層断面(西から)



SK507・508 土層断面(東から)



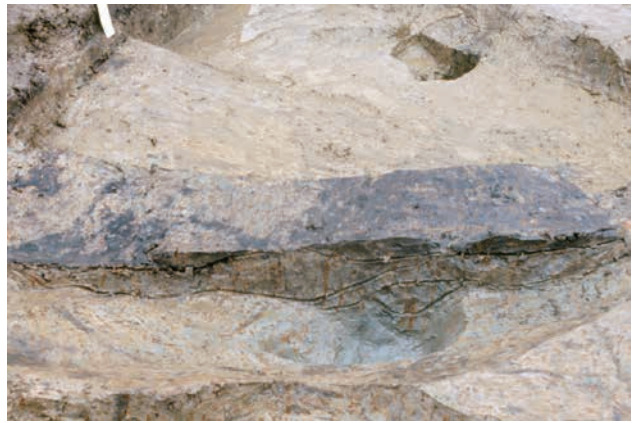
SK509・510 完掘状況(東から)



SK509・510 土層断面(東から)



SK511 土層断面(東から)



SK517 土層断面(西から)



SK520 土層断面(北から)



SD504 土層断面(南から)



SD508 土層断面(西から)



東西アゼ土層断面(北から)



西壁土層断面(北半部 東から)



西壁土層断面(南半部 東から)







C区第1面 遺構検出状況(北西から)



C区第1面 SB01・SB02・SB04・SB06(北から)



C区第1面 SB01・SB02・SB06(西から)



C区第1面 SB01・SB02・SB06(北から)



C区第1面 SB01・SB02・SB03・SB04(西から)



C区第1面 SB03(南から)



C区第1面 SB03(北から)



C区第1面 SK05遺物出土状況



C区第1面 SK02土層断面(西から)



C区第1面 SK06遺物出土状況(南から)



C区第1面 SK01土層断面(南から)



C区第1面 SK04土層断面(南から)



C区第1面 SK05遺物出土状況(南から)



C区第1面 P04・P33和銅開珎出土状況



C区第1面 P01完掘状況(西から)



C区第1面 P02・P31(SB03)土層断面(南西から)



C区第1面 P02完掘状況(東から)



C区第1面 P04完掘状況(西から)



C区第1面 P157土層断面(南から)



C区第1面 P16土層断面(南から)



C区第1面 P17土層断面(東から)



C区第1面 P18柱根出土状況(南から)



C区第1面 P21土層断面(南から)



C区第1面 P24土層断面(東から)



C区第1面 P25土層断面(南から)



C区第1面 P27 (SB03)土層断面(南から)



C区第1面 P28柱根出土状況(南から)



C区第1面 P29柱根出土状況(西から)



C区第1面 P30柱根出土状況(東から)



C区第1面 P31 遺物出土状況



C区第1面 P32・P01 (SB03) 土層断面(東から)



C区第1面 P33(SB03) 土層断面(南東から)



C区第1面 P35 土層断面(西から)



C区第1面 P39 土層断面(南から)



C区第1面 P42 土層断面(南東から)



C区第1面 P44 土層断面(北から)



C区第1面 P45 土層断面(北から)



C区第1面 P46・SD39土層断面(南から)



C区第1面 P50土層断面(南から)



C区第1面 P51柱根出土状況(西から)



C区第1面 P52遺物出土状況(南東から)



C区第1面 P54(左側)土層断面(北から)



C区第1面 P57(右側)土層断面(西から)



C区第1面 P59土層断面(南から)



C区第1面 P60土層断面(南から)



SK511 土層断面(東から)



SK517 土層断面(西から)



SK520 土層断面(北から)



SD504 土層断面(南から)



SD508 土層断面(西から)



東西アゼ土層断面(北から)



西壁土層断面(北半部 東から)



西壁土層断面(南半部 東から)



C区第1面 SD45遺物出土状況(北から)



C区第1面 SD46(西側)土層断面(西から)



C区第1面 SD54(東側)土層断面(西から)



C区第1面 SD54(西側)土層断面(西から)



C区第1面 SD53(東側)土層断面(西から)



C区第1面 SD53・SD54合流部土層断面(東から)



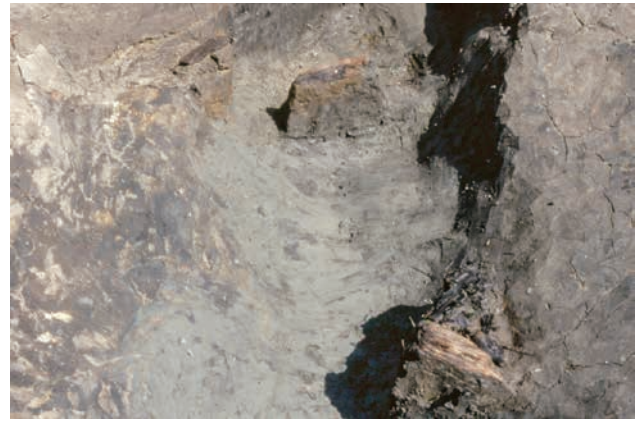
C区第1面 SD53(西側)土層断面(西から)



C区第1面 SD46・SD53・SD54合流部土層断面(西から)



C区第1面 SD53・SD54合流部遺物出土状況(南から)



C区第1面 SD54木材出土状況(南から)



C区第1面 SD48土層断面(南から)



C区第1面 SD41土層断面(南から)



C区第1面 検出面(M-29)遺物出土状況



C区第1面 検出面(N-28)遺物出土状況



C区第1面 下面検出(N-28) 遺物出土状況



C区第1面 馬歯? (出土状況(N-27 北から)



C区第1面 噴砂(M-27)土層断面(南西から)



C区第1面 噴砂(M-27)土層断面(北東から)



D・K区第1面 遺構検出状況(調査区西半 南から)



D・K区第1面 遺構検出状況(調査区東半 南から)



D・K区第1面 SD99遺物出土状況(東から)



D・K区1面 SD99土層断面(東から)



D区第1面 SD100土層断面(南から)



D・K区第1面 N-33瓦出土状況









水田遺構完掘状況(西から)



水田遺構完掘状況



確認トレンチ1断面(北東から)



確認トレンチ2断面(1)(南西から)



確認トレンチ2断面(2)(南西から)



確認トレンチ2断面(3)(南西から)



確認トレンチ3木製品出土状況(1)(北から)



確認トレンチ3木製品出土状況(2)(北から)



確認トレンチ3木製品出土状況(3)(北東から)



確認トレンチ3断面(北東から)



須恵器四耳壺等出土状況



SK01 断面(北東から)



SK02・04 断面(北東から)



SK02・03 断面(南西から)



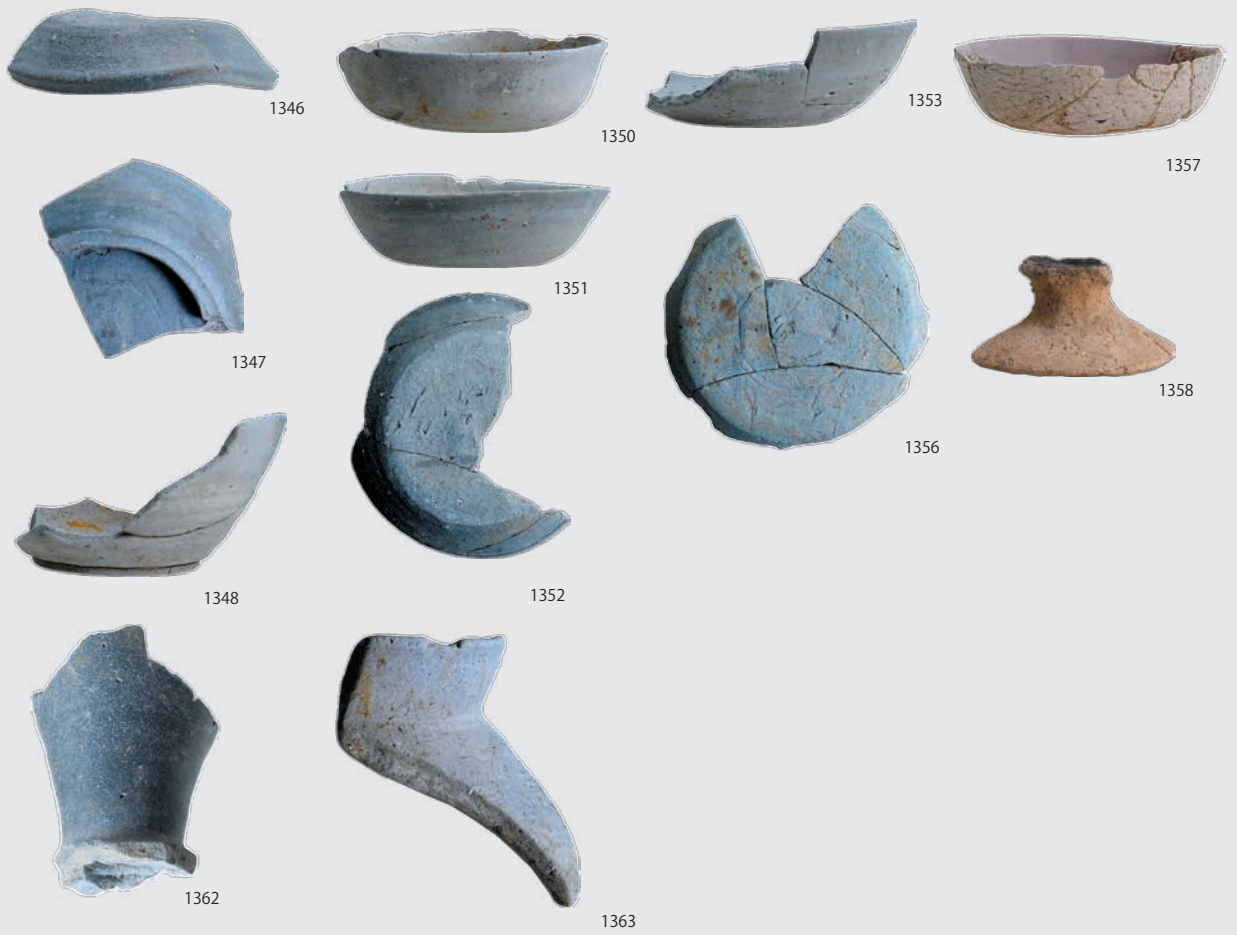
SK02~04 完掘状況(北西から)







出土遺物 F区(3)



出土遺物 工事立会

報告書抄録

| | | | | | | | | |
|---------------|---|-------|-------------------|---------------------|--------------------|---|--------|------------|
| ふりがな | つばたまち かもいせき IV | | | | | | | |
| 書名 | 津幡町 加茂遺跡IV | | | | | | | |
| 副書名 | 一般国道8号 津幡北バイパスに係る埋蔵文化財発掘調査報告書4 | | | | | | | |
| シリーズ名 | | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 4 | | | | | | | |
| 編著者名 | 川畑誠、和田龍介、山内花緒 | | | | | | | |
| 編集機関 | 公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1 TEL (076)229-4477 FAX (076)229-3731 | | | | | | | |
| 発行機関 | 石川県教育委員会、公益財団法人石川県埋蔵文化財センター | | | | | | | |
| 発行年月日 | 令和4年3月22日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 (新) | 東経 (新) | 発掘期間 | 発掘面積 | 発掘原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| かもいせき 加茂遺跡 | いしかわけん 石川県 つばたまち 津幡町 あごかも ふなはし 字加茂・舟橋 | 17361 | 1303000 | 36度 41分 10秒 | 136度 43分 37秒 | 20010515 ～ 20020124 | 8,000㎡ | 記録保存 調査 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 加茂遺跡 | 集落跡 | 弥生～古墳 | 平地建物、溝、土坑、自然流路 | 弥生土器、土師器、木製品、石製品 | | 弥生時代中期の建物跡を検出。弥生時代後期から古墳時代前期の自然流路から土器等が多数出土。 | | |
| | 集落跡 田畑 | 古代 | 掘立柱建物、溝、土坑、小穴、水田跡 | 土師器、須恵器、木製品、金属製品、漆紙 | | 9世紀～10世紀前半の遺構・遺物を確認。井戸からは漆紙文書1点が出土した。谷奥の調査区は水田が営まれており、古代加茂遺跡の東限を確認することができた。 | | |
| 要約 | <p>加茂遺跡発掘調査報告書の第4冊で、第7次調査（2001年）の成果を所収した。本次調査は加茂遺跡の東半部にあたり、調査範囲はA区第1～5面、C・D・F・K区第1面である。古代の遺構面では、第5次・6次調査に続く9世紀～10世紀前半の掘立柱建物・井戸・土坑・溝と、それらの遺構が廃絶した後に営まれた畠（畝溝群）、さらに谷奥に水田遺構を確認した。第6次調査I区まで遺跡を横断していた大溝と計画的に配置されている掘立柱建物は、第7次調査では確認できず、2～3棟程度の小規模な掘立柱建物で構成されるようなあり方を見せている。これらの遺構は、同時に加茂遺跡古代集落の東限となる。A区の井戸から出土した漆紙文書は、「天長」「承和」の年号とともに個人名や稲等の石高が読み取れることから徴税に係る行政文書であったと考え、本遺跡にそれらの業務に従事するような郡雑人が存在していたことを想定させる。集落の東側、加茂谷の奥に近いF・K区では水田遺構が確認できた。A区第2面～4面では弥生時代後期～古墳時代前期の遺構面を確認でき、調査区を蛇行する自然流路を主体に、溝や土坑などを検出した。第5面は弥生時代中期後半の遺構面で、平地建物を検出した。第5次・第6次下層で検出した該期遺構群に続くものと考えられる。</p> | | | | | | | |

津幡町 加茂遺跡Ⅳ

発行日 令和4(2022)年3月22日

発行者 石川県教育委員会
〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
電話 076-225-1842(文化財課)
(公財)石川県埋蔵文化財センター
〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
電話 076-229-4477
E-mail address daihyou@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 安達写真印刷株式会社